

綿貫堤西遺跡 綿貫堤遺跡 綿貫千葉西遺跡
岩鼻塚合遺跡 岩鼻延養寺遺跡 岩鼻天神遺跡
岩鼻赤城遺跡 岩鼻坂上北遺跡

(都)3.3.7前橋長瀬線外1路線社会資本整備総合交付金(活力基盤)事業に伴う
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

2024

群 馬 県 高 崎 土 木 事 務 所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

綿貫堤西遺跡 綿貫堤遺跡 綿貫千葉西遺跡
岩鼻塚合遺跡 岩鼻延養寺遺跡 岩鼻天神遺跡
岩鼻赤城遺跡 岩鼻坂上北遺跡

(都)3.3.7前橋長瀬線外1路線社会資本整備総合交付金(活力基盤)事業に伴う
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

2024

群 馬 県 高 崎 土 木 事 務 所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

県道前橋長湫線は、群馬県前橋市と埼玉県長湫町を結ぶ幹線道路です。この度の県道改良工事は、高崎市綿貫町地内の旧軽便鉄道跡地から烏川間を対象としたもので、県内七つの幹線交通網整備の一つとして、付近一帯の渋滞解消と地域経済の活性化を目指し計画されたものです。

本書に掲載した綿貫堤西・綿貫堤・綿貫千葉西・岩鼻塚合・岩鼻延養寺・岩鼻天神・岩鼻赤城・岩鼻坂上北遺跡の発掘調査は、令和元年度から令和3年度にかけて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施した遺跡です。発掘調査では、縄文時代の竪穴建物に加えて古墳時代前期から平安時代の竪穴建物、6世紀代の古墳周堀、中近世の溝、土坑などが発見されました。路線内には当初から周知の古墳があるとされていましたが、想定を超える数の古墳周堀が発見され、綿貫観音山古墳をはじめとする大型の前方後円墳を含む群集墳が広範囲に広がることが明らかとなりました。また、明治期の壬申絵図に描かれた用水堀に比定される溝の発見もあり、地域の歴史解明にとって貴重な成果となりました。

発掘調査の開始から報告書の刊行まで、群馬県高崎土木事務所、群馬県地域創生部文化財保護課、群馬県教育委員会、高崎市教育委員会、地元関係者の方々には、多大な御支援と御協力を賜りました。

本報告書の上梓に当たり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本書が地域歴史の解明に広く活用されることを念じて、序といたします。

令和6年2月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 向 田 忠 正

例 言

1. 本書は、平成30年度(都)前橋長瀬線外1路線社会資本整備総合交付金(活力基盤)及び令和2年度(都)前橋長瀬線社会資本整備(緊急対策/活力基盤)事業並びに令和3年度(都)3.3.7前橋長瀬線外1路線社会資本整備総合交付金(活力基盤)事業に伴い平成31(令和元)年度から令和3年度にかけて発掘調査された「綿貫堤西遺跡・綿貫堤遺跡・綿貫千葉西遺跡・岩鼻塚合遺跡・岩鼻延養寺遺跡・岩鼻天神遺跡・岩鼻赤城遺跡・岩鼻坂上北遺跡」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2. 遺跡の所在地は、下記の通りである。

綿貫堤西遺跡：群馬県高崎市綿貫町

平成31年度：404-1、405-1

令和2年度：381-1

綿貫堤遺跡：群馬県高崎市綿貫町

令和2年度：487

綿貫千葉西遺跡：群馬県高崎市綿貫町

令和2年度：871-5、871-6、873-1、874-1、875-1、877-1、887-1、893-1、894-1、895-1、895-2

令和3年度：865-7、877-2、899-1、901-3、901-4、902-1、902-2、903-2、903-3、904-2、905-1、905-3、905-5、905-6、無番地

岩鼻塚合遺跡：群馬県高崎市岩鼻町

令和3年度：22-4、23-1、23-2、23-3、23-4、23-5、28-2、29-9、29-10、29-11、無番地

岩鼻延養寺遺跡：群馬県高崎市岩鼻町

令和2年度：19-2、20-1

岩鼻天神遺跡：群馬県高崎市岩鼻町

平成31年度：219-3、219-4、219-5、219-14、219-15、232-1、232-4、232-5、233-1、219-2、219-6、219-7、219-13、220-1

令和2年度：229-1、229-3、230-3、231-1、231-3

岩鼻赤城遺跡：群馬県高崎市岩鼻町

令和3年度：233-5

岩鼻坂上北遺跡：群馬県高崎市岩鼻町

令和2年度：233-7、233-9、233-19、239-31

3. 事業主体 群馬県高崎土木事務所

4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5. 発掘調査の期間と体制は、次の通りである。

・調査期間 平成31年4月1日～令和元年5月31日

(履行期間：平成31年3月31日～令和元年7月31日)

発掘担当者 専門員 小原俊行 専門調査役 麻生敏隆

遺跡掘削請負工事 株式会社シン技術コンサル

地上測量 株式会社アコン測量設計

・調査期間 令和2年7月1日～令和2年10月31日

(履行期間：令和2年6月1日～令和2年12月31日)

発掘担当者 主任調査研究員 都木直人、平方篤行

遺跡掘削請負工事 株式会社シン技術コンサル

地上測量 株式会社アコン測量設計

・調査期間 令和3年6月1日～令和3年7月31日

(履行期間：令和3年5月1日～令和3年9月30日)

発掘担当者 主任調査研究員 唐沢友之 専門調査役 新井 仁

遺跡掘削請負工事 株式会社技研測量

地上測量 株式会社アコン測量設計

6. 整理事業の期間と体制は、次の通りである。

・整理期間 令和4年9月1日～令和5年3月31日

(履行期間 令和4年9月1日～令和5年3月31日)

整理担当 専門調査役 岩崎泰一

遺物保存処理 専門員 板垣泰之(主任) 専門調査役 関 邦一

・整理期間 令和5年4月1日～令和5年12月31日

(履行期間 令和5年4月1日～令和6年2月29日)

整理担当 専門調査役 岩崎泰一

遺物保存処理 専門員 板垣泰之(主任) 専門調査役 関 邦一

7. 本書作成の担当者は、次の通りである。

編 集 岩崎泰一 デジタル編集 主任調査研究員 齊田智彦

遺物写真撮影 主任調査研究員・資料統括 橋本 淳(縄文土器)

主任調査研究員・資料統括 田村 博(土師器・埴輪)、板垣泰之(金属器)

専門調査役 大西雅広(陶磁器)、岩崎泰一(土師器・石器・石製品)

執 筆 岩崎泰一・平方篤行(第3章2)、岩崎泰一・新井 仁(第5章3)、徳江秀夫(第11章1)、

神谷佳明(第11章2)、岩崎泰一(上記以外)

遺物観察表 岩崎泰一(石器・石製品)、橋本 淳(縄文土器)、神谷佳明(土師器)

大西雅広(陶磁器)、板垣泰之(金属器)

8. 出土石器類の石材同定は、飯島静男氏(群馬県地質研究会会員)に依頼した。

9. 発掘調査資料及び出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

10. 発掘調査及び報告書の作成に際し、下記の方々や機関にご協力、ご指導いただきました。記して感謝いたします。

群馬県地域創生部文化財保護課、群馬県教育委員会、高崎市教育委員会、石島和夫、徳江秀夫、南雲芳昭

凡 例

- 本文中の座標値は、すべて国家座標「世界測地系、平面直角座標Ⅹ系」を用いた。方位は座標北で示した。
- グリッドについては、国家座標により南東隅を起点としてグリッド呼称した。全体図および遺構図には、グリッドを+表示し、X軸の座標値を上段に、Y軸の座標値を下段に国家座標値の下3桁で表示した。
- 発掘調査では、遺跡毎に遺構番号を付けることになっているが、事業遺跡名と報告書遺跡名が異なるため、混乱を避けるため、現場で付した遺構名称の前に調査年度を書き加え、これを遺構名称として報告した。また、整理作業で途中遺構から外したものについては欠番とした。いずれも巻末に遺構新旧対照表を掲載したので参照していただきたい。なお、図面・写真の注記は変更が煩雑になるため、旧名称のままにしてあるが、出土遺物についてのみ注記の前に、調査年度のR1・R2・R3を書き足した。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
報告書遺跡名	事業遺跡名・区名称	事業遺跡名・区名称	事業遺跡名・区名称
綿貫堤西遺跡	綿貫41遺跡・13区	令和2年度1区	—
綿貫堤遺跡	—	令和2年度2区	—
綿貫千原西遺跡	—	令和2年度3区	綿貫41遺跡3区
岩鼻延徳寺遺跡	—	令和2年度4-1区	岩鼻47-3遺跡5区
岩鼻塚合遺跡	—	—	—
岩鼻天神遺跡	岩鼻47-1遺跡1～4区 岩鼻47-3遺跡1～3区	令和2年度4-2区 令和2年度4-3区 令和2年度4-4区	岩鼻47-3遺跡4区
岩鼻赤城遺跡	—	—	—
岩鼻坂上北遺跡	—	—	岩鼻47-3遺跡6区

- 遺構断面図に示した数値は、標高(単位:m)を表している。
- 遺構図・遺物図の縮尺は、下記の通り遺構種毎に縮尺を統一した。同一の遺物図中に異なる縮尺の図が加わる場合は、必要に応じて該当する遺物番号に続きカッコ内に縮尺を記した。

遺構図：竪穴建物1：60 カマド1：30 掘立柱建物1：60 溝平面1：80～1：120、溝断面1：40
土坑1：40 井戸1：60

遺物図：陶磁器類1：3 金属器1：1、1：2 縄文土器1：2 土師器・須恵器1：3、埴輪1：4、石器類1：1～1：6

- 遺物写真は、遺物図と概ね同一縮尺となるよう掲載した。
- 使用したトーンは、下記の内容を示している。これ以外に用いる場合は、挿入中に凡例を示した。

遺構図	灰面 	粘土 	焼土 	硬化面 	攪乱 
遺物図	釉 	濃い灰釉 	黒色 	赤彩 	白色 
	燻 	煤 	砂 	粘土 	付着物 

- 遺構の主軸方位・走行を記載する際は、座標北を基準として東に傾いた場合はN-○°-E、西に傾いた場合はN-○°-Wと記した。
- 本書で使用した地図は、以下の通りである。

第一軍管地方迅速測図「倉賀野」 明治18年測量 参謀本部陸軍部測量局
1:25,000地形図「高崎」 昭和7年8月30日発行 大日本帝國陸地測量部
1:25,000地形図「高崎」 昭和58年11月30日発行 国土地理院
1:25,000地形図「高崎」 平成14年5月1日発行 国土地理院
1:25,000 高崎市都市計画図 昭和54年測量

目次

序
例言
凡例

目次
挿図目次
表目次
写真目次

第1章 調査の経過と方法		
第1節 調査に至る経過	1	
第2節 発掘調査の経過	2	
第3節 発掘調査の方法	2	
第4節 整理の方法	4	
第2章 遺跡の概要		
第1節 地理的環境	5	
第2節 周辺遺跡	6	
第3節 基本土層	10	
第3章 綿貫堤西遺跡		
1. 概要	14	
2. 中・近世	14	
第4章 綿貫堤遺跡		
1. 概要	27	
2. 中・近世	27	
第5章 綿貫千葉西遺跡		
1. 概要	29	
2. 縄文時代	30	
3. 古墳～平安時代	35	
4. 中・近世	104	
第6章 岩鼻塚合遺跡		
1. 概要	117	
2. 中・近世	117	
第7章 岩鼻延養寺遺跡		
1. 概要	122	
2. 中・近世	122	
第8章 岩鼻天神遺跡		
1. 概要	129	
2. 古墳～平安時代	130	
3. 中・近世	152	
第9章 岩鼻赤城遺跡		
1. 概要	167	
2. 古墳時代	168	
3. 中・近世	171	
第10章 岩鼻坂上北遺跡		
1. 概要	177	
2. 中・近世	177	
遺物実測図・遺物観察表		
綿貫堤西遺跡	183	
綿貫千葉西遺跡	185	
岩鼻塚合遺跡	271	
岩鼻延養寺遺跡	271	
岩鼻天神遺跡	272	
岩鼻赤城遺跡	310	
岩鼻坂上北遺跡	325	
第11章 まとめ		
1. 岩鼻天神遺跡・岩鼻赤城遺跡調査古墳について	329	
2. 40号竪穴建物出土の縁輪陶器托について	336	
3. 鋤先痕について	339	
4. 近世綿貫村と岩鼻村について	341	
5. 版築様の斜め互層堆積について	347	
6. 滑石製白玉の原産地分析について	351	
7. 総括	361	
土坑計測一覧表	364	
柱穴計測一覧表	365	
新旧遺構一覧表	368	
第12章 自然科学分析		
1. 埴輪の胎土分析	370	
2. 滑石製石製模造品の原産地分析	383	

写真図版
報告書抄録

插图目次

第1图	道跡位置图	1	第64图	R2-3區33・35号型穴建物 2	73
第2图	調査区名称(左)と道跡名称(右)	3	第65图	R2-3區34号型穴建物 1	74
第3图	周辺道跡图	8	第66图	R2-3區34号型穴建物 2	75
第4图	基本土層图	12	第67图	R2-3區36号型穴建物	76
第5图	麻貫堤西道跡全体图	14	第68图	R2-3區37・41号型穴建物	77
第6图	跡先东洋細图	15	第69图	R2-3區38・52号型穴建物 1	78
第7图	R1-13区1号溝	16	第70图	R2-3區38・52号型穴建物 2	79
第8图	R1-13区2・3号溝	18	第71图	R2-3區39・40・51号型穴建物 1	80
第9图	R1-13区2・4~6号溝	19	第72图	R2-3區39・40・51号型穴建物 2	81
第10图	R1-13区7・8溝	20	第73图	R2-3區42・43号型穴建物	82
第11图	R1-13区1号井戸	21	第74图	R2-3區44・54・57号型穴建物	84
第12图	R1-13区1号地下式土坑	22	第75图	R2-3區45号型穴建物	85
第13图	R1-13区土坑 1	23	第76图	R2-3區47号型穴建物	85
第14图	R1-13区土坑 2	24	第77图	R2-3區48・49号型穴建物 1	86
第15图	R1-13区土坑 3	25	第78图	R2-3區48・49号型穴建物 2	87
第16图	R1-13区柱穴	26	第79图	R2-3區50号型穴建物	87
第17图	麻貫堤道跡全体图	27	第80图	R2-3區53号型穴建物	88
第18图	麻貫千重道跡全体图	29	第81图	R2-3區55号型穴建物	89
第19图	R3-5區8号型穴建物	31	第82图	R2-3區56号型穴建物	89
第20图	R2-3區25号型穴建物 1	32	第83图	R3-3區58号型穴建物	90
第21图	R2-3區25号型穴建物 2	33	第84图	R3-3區60・61号型穴建物	91
第22图	R2-3區44号土坑	33	第85图	R3-3區62号型穴建物	92
第23图	R2-3區52号土坑	34	第86图	R3-3區63号型穴建物 1	93
第24图	R2-3區59号土坑	34	第87图	R3-3區63号型穴建物 2	94
第25图	R2-3區1号型穴建物	35	第88图	R3-3區64号型穴建物 1	95
第26图	R2-3區2号型穴建物	36	第89图	R3-3區64号型穴建物 2	96
第27图	R2-3區3号型穴建物	37	第90图	R3-5區9号型穴建物 1	97
第28图	R2-3區4号型穴建物	38	第91图	R3-5區9号型穴建物 2、R3-5區10号型穴建物	98
第29图	R2-3區5号型穴建物	39	第92图	R3-5區11号型穴建物 1	99
第30图	R2-3區6号型穴建物 1	40	第93图	R3-5區11号型穴建物 2	100
第31图	R2-3區6号型穴建物 2	41	第94图	R3-5區12号型穴建物 1	101
第32图	R2-3區7号型穴建物	42	第95图	R3-5區13号型穴建物 1	102
第33图	R2-3區8号型穴建物	43	第96图	R3-5區13号型穴建物 2	103
第34图	R2-3區9号型穴建物 1	44	第97图	R2-3區1号溝	104
第35图	R2-3區9号型穴建物 2	45	第98图	R2-3區2号溝	105
第36图	R2-3區10号型穴建物 1	46	第99图	R2-3區3号溝	105
第37图	R2-3區10号型穴建物 2	47	第100图	R2-3區土坑 1	107
第38图	R2-3區11号型穴建物 1	47	第101图	R2-3區土坑 2	108
第39图	R2-3區11号型穴建物 2	48	第102图	R2-3區土坑 3	109
第40图	R2-3區12号型穴建物 1	49	第103图	R2-3區土坑 4	110
第41图	R2-3區12号型穴建物 2	50	第104图	R2-3區土坑 5	111
第42图	R2-3區13号型穴建物	51	第105图	R2-3區土坑 6	112
第43图	R2-3區14号型穴建物	52	第106图	1号柱穴例、R2-3區柱穴分布图 1	113
第44图	R2-3區15号型穴建物	53	第107图	R2-3區柱穴分布图 2	114
第45图	R2-3區16号型穴建物 1	54	第108图	R2-3區柱穴分布图 3	115
第46图	R2-3區16号型穴建物 2	55	第109图	R3-3區柱穴分布图 4(左)、R3-5區柱穴分布图	116
第47图	R2-3區17・21号型穴建物	56	第110图	岩鼻塚合道跡全体图	117
第48图	R2-3區18号型穴建物	57	第111图	R3-4區21~24号溝	118
第49图	R2-3區19号型穴建物 1	58	第112图	R3-4區25~28号溝	120
第50图	R2-3區19号型穴建物 2	59	第113图	R3-4區21号土坑	121
第51图	R2-3區20号型穴建物	60	第114图	岩鼻延養寺道跡全体图	122
第52图	R2-3區22号型穴建物	61	第115图	R2-4區1号型穴状遺構	123
第53图	R2-3區23号型穴建物	62	第116图	R2-4區11号溝	124
第54图	R2-3區24号型穴建物	63	第117图	R2-4區12号溝	124
第55图	R2-3區26号型穴建物	64	第118图	R2-4區13号溝	125
第56图	R2-3區27号型穴建物	65	第119图	R2-4區14号溝	125
第57图	R2-3區28号型穴建物	66	第120图	R2-4區15号溝	126
第58图	R2-3區29号型穴建物	67	第121图	R2-4區16号溝	126
第59图	R2-3區30号型穴建物 1	68	第122图	R2-4區9~11号土坑	127
第60图	R2-3區30号型穴建物 2	69	第123图	柱穴分布图	128
第61图	R2-3區31・46号型穴建物	70	第124图	岩鼻天神道跡全体图	129
第62图	R2-3區32号型穴建物	71	第125图	R2-4區1号型穴建物	130
第63图	R2-3區33・35号型穴建物 1	72	第126图	R1-47-1道跡1号型穴建物	130

第1278号	R1-47-1道群2号型穴建物	131	第192号	R2-3区2・3・4号型穴建物出土遺物	192
第1280号	R1-47-3道群1号型穴建物	132	第193号	R2-3区4・5・6・7号型穴建物出土遺物	193
第129号	R1-47-3道群2号型穴建物	133	第194号	R2-3区8・9号型穴建物出土遺物	194
第1300号	R1-47-3道群3号型穴建物	134	第195号	R2-3区9・10号型穴建物出土遺物	195
第131号	R1-47-3道群4号型穴建物	135	第196号	R2-3区10号型穴建物出土遺物2	196
第132号	R1-47-3道群5号型穴建物	136	第197号	R2-3区10号型穴建物出土遺物3	197
第133号	R1-47-3道群6号型穴建物	137	第198号	R2-3区11号型穴建物出土遺物	198
第134号	R1-47-3道群7号型穴建物1	138	第199号	R2-3区12号型穴建物出土遺物	199
第135号	R1-47-3道群7号型穴建物2	139	第200号	R2-3区13号型穴建物出土遺物	200
第136号	R1-47-3道群1号型穴状遺構	140	第201号	R2-3区14・15号型穴建物出土遺物	201
第137号	R2-4区9号溝	141	第202号	R2-3区15号型穴建物出土遺物2	202
第138号	R2-4区5・6号溝(古墳周堀2)	142	第203号	R2-3区16号型穴建物出土遺物	203
第139号	R2-4区1・4号溝(古墳周堀3)	143	第204号	R2-3区17・18号型穴建物出土遺物	204
第140号	R1-47-1道群5号溝(古墳周堀4)	144	第205号	R2-3区19号型穴建物出土遺物	205
第141号	R1-47-1道群4・6号溝(古墳周堀5)	145	第206号	R2-3区20号型穴建物出土遺物	206
第142号	R1-47-3道群1・3号溝(古墳周堀6)	146	第207号	R2-3区21・22・23号型穴建物出土遺物	207
第143号	R1-47-3道群2号溝(古墳周堀7)	147	第208号	R2-3区24号型穴建物出土遺物	208
第144号	R1-47-3道群5号溝(古墳周堀8)	148	第209号	R2-3区27号型穴建物出土遺物	209
第145号	R1-47-3道群14号溝(古墳周堀9)	149	第210号	R2-3区28・29号型穴建物出土遺物	210
第146号	R2-4区7号溝	150	第211号	R2-3区30号型穴建物出土遺物	211
第147号	R2-4区8号溝	150	第212号	R2-3区31・32号型穴建物出土遺物	212
第148号	R1-47-1道群2号溝	151	第213号	R2-3区32・33号型穴建物出土遺物	213
第149号	R1-47-3道群4号溝	151	第214号	R2-3区34・35・37号型穴建物出土遺物	214
第150号	R2-4区2号溝	152	第215号	R2-3区38・39・40号型穴建物出土遺物	215
第151号	R2-4区3号溝	152	第216号	R2-3区42・43号型穴建物出土遺物	216
第152号	R2-4区10号溝	152	第217号	R2-3区43号型穴建物出土遺物	217
第153号	R1-47-1道群1号溝	153	第218号	R2-3区44・46号型穴建物出土遺物	218
第154号	R1-47-1道群3号溝	153	第219号	R2-3区47・48号型穴建物出土遺物	219
第155号	R1-47-3道群7号溝	154	第220号	R2-3区49・50・51・52・53号型穴建物出土遺物	220
第156号	R1-47-3道群8号溝	154	第221号	R2-3区55・56・57号型穴建物出土遺物	221
第157号	R1-47-3道群9・10号溝	155	第222号	R2-3区58・60号型穴建物出土遺物	222
第158号	R1-47-3道群11号溝1	156	第223号	R2-3区60・61・62号型穴建物出土遺物	223
第159号	R1-47-3道群11号溝2	157	第224号	R2-3区63号型穴建物出土遺物	224
第160号	R1-47-3道群12・13号溝	158	第225号	R2-3区63・64号型穴建物出土遺物	225
第161号	R1-47-3道群1号井戸	159	第226号	R2-3区64・65号型穴建物出土遺物	226
第162号	R1-47-3道群2号井戸	160	第227号	R3-5区9号型穴建物出土遺物	227
第163号	R2-4区土坑	161	第228号	R3-5区10・11号型穴建物出土遺物	228
第164号	R1-47-1・R1-47-3道群土坑	162	第229号	R3-5区11号型穴建物出土遺物	229
第165号	R2-4区柱穴分布図1	163	第230号	R3-5区11・12号型穴建物出土遺物	230
第166号	R2-4区柱穴分布図2・R1-47-1道群柱穴分布図1	164	第231号	R3-5区13号型穴建物・R2-3区1号溝出土遺物	231
第167号	R1-47-1道群柱穴分布図2・R1-47-3道群柱穴分布図	165	第232号	R2-3区1・2・10・13・29・34・40・41・96・87号土坑出土遺物	232
第168号	R1-47-3道群1号落石込み	166	第233号	R3-5区23号土坑出土遺物	232
第169号	岩鼻赤城遺跡全体図1面(右)・岩鼻赤城遺跡全体図2面(右)	167	第234号	R2-3区17・78・94・95・129号柱穴出土遺物・道構外出土遺物1	233
第170号	R3-6区17号溝(古墳周堀10)1	168	第235号	R2-3区道構外出土遺物2	234
第171号	R3-6区17号溝(古墳周堀10)2	169	第236号	R2-3区道構外出土遺物3	235
第172号	R3-6区18号溝(古墳周堀10)	170	第237号	R2-3区道構外出土遺物4	236
第173号	R3-6区15・16・19号溝	171	第238号	R2-3区道構外出土遺物5	237
第174号	R3-6区20号溝	172	第239号	R2-4区22・23・25・27号溝出土遺物	271
第175号	R3-6区土坑1	174	第240号	R2-4区1号型穴状遺構出土遺物	271
第176号	R3-6区土坑2	175			
第177号	R3-6区柱穴分布図	176			
第178号	岩鼻取上北道群全体図	177	第241号	R1-47-3道群4・5・7号型穴建物出土遺物	273
第179号	R2-5区1・4号溝	178	第242号	R1-47-3道群1号型穴状遺構出土遺物1	274
第180号	R2-5区2号土坑	179	第243号	R1-47-3道群1号型穴状遺構出土遺物2	275
第181号	R2-5区5号土坑	179	第244号	R1-47-3道群1号型穴状遺構出土遺物3 a	276
第182号	R2-5区1・2号石垣	180	第245号	R1-47-3道群1号型穴状遺構出土遺物3 b	277
第183号	R2-5区1号柱穴	180	第246号	R2-4区9・5・6号溝出土遺物	278
第184号	R1-13区2・5・7号溝、R1-13区13・20号土坑、1号地下土坑 R1-13区道構外出土遺物	183	第247号	R2-4区6・1・4号溝出土遺物	279
第185号	R3-5区8号型穴建物出土遺物	185	第248号	R2-4区4号溝、R1-47-1道群5・4号溝出土遺物	280
第186号	R2-3区25号型穴建物出土遺物1	186	第249号	R1-47-3道群4号溝、R1-47-3道群2・5号溝出土遺物	281
第187号	R2-3区25号型穴建物出土遺物2	187	第250号	R1-47-3道群5号溝出土遺物2	282
第188号	R2-3区25号型穴建物出土遺物3	188	第251号	R1-47-3道群5・14号溝出土遺物	283
第189号	R2-3区25号型穴建物出土遺物4	189	第252号	R1-47-3道群14号溝出土遺物2	284
第190号	R2-3区25号型穴建物出土遺物5	189	第253号	R1-47-3道群14号溝出土遺物3	285
第191号	R2-3区44・52・59号土坑出土遺物6	191	第254号	R1-47-3道群4号溝出土遺物4、R2-4区8号溝出土遺物、 R1-47-1道群2号溝出土遺物	286

第255図	R2-4区2号溝、R1-47-1道跡3号溝出土遺物、	第273図	岩鼻天神・岩鼻赤城道跡(○)周辺の古墳分布
	R1-47-3道跡9・10・11号溝出土遺物	第274図	竊貫千葉西道跡出土の托
第256図	R1-47-3道跡11号溝出土遺物2、1号井戸出土遺物1	第275図	群馬県合出上の托
第257図	R1-47-3道跡1号井戸出土遺物2	第276図	消費地出土の托
第258図	R1-47-3道跡1号井戸出土遺物3、R1-47-1道跡1号土坑出土遺物、	第277図	生産地出土の托
	R2-4区道橋外出土遺物1	第278図	粕川左岸の低地部に広がる水田
第259図	R2-4区道橋外出土遺物2、	第279図	発掘調査区と県道を横断する市道1
	R2-4区道橋外(古墳周辺)出土遺物1	第280図	発掘調査区と県道を横断する市道2
第260図	R2-4区道橋外(古墳周辺)出土遺物2、	第281図	明治中期の旧竊貫村・岩鼻村街道
	R1-47-1道跡道橋外出土遺物	第282図	昭和初期の旧竊貫村・岩鼻村街道
第261図	R1-47-3道跡道橋外出土遺物	第283図	竊貫町・岩鼻町地図
第262図	R3-6区17号溝出土遺物1	第284図	検出された近世溝と塚合集落字遣、古径
第263図	R3-6区17号溝出土遺物2	第285図	壬申絵図に描かれた用水路と水田
第264図	R3-6区1号遺物集中出土遺物1	第286図	互層堆積が見られた地点
第265図	R3-6区1号遺物集中出土遺物2	第287図	利根川開港堤防断面図
第266図	R3-6区18号溝出土遺物、15号溝出土遺物1	第288図	壬申絵図に描かれた臺新田村の土手
第267図	R3-6区15号溝出土遺物2、19号溝出土遺物、	第289図	化学分析図1(竊貫千葉西・本郷托ノ木B道跡)
	20号溝出土遺物1	第290図	化学分析図2(竹沼・伝中塚塚・甘葉菜里道跡)
第268図	R3-6区20号溝出土遺物2、道橋外出土遺物1	第291図	化学分析図3(原産地、大奈良)
第269図	R3-6区道橋外出土遺物2	第292図	化学分析図4(原産地、秋畑・美の山・探石塚)
第270図	R2-5区1号溝、道橋外出土遺物1	第293図	化学分析図5(原産地、上信嵐山・四方温泉・長野静江)
第271図	R2-5区道橋外出土遺物2	第294図	化学分析図6(原産地、茨城長谷嵐山・長野内山(夕ノ))
第272図	岩鼻天神・赤城道跡の古墳周堀と竊貫葛籠の岩鼻村古墳分布	第295図	化学分析図7(上・甘葉菜里道跡、下・四万温泉)

表目次

第1表	縄文土器型式別出土量(竊貫千葉西道跡)	第3表	井野川流域道跡の型穴種類の変遷
第2表	道跡周辺工事年表		

文中写真目次

写真1	高崎泥流下の黒色土	写真9	As-B下水田耕上上面に残された跡先痕
写真2	井野川に洗い出された利根川の河床礫	写真10	県道脇に直線的に並んだ石列
写真3	観音山古墳遠景	写真11	東壁右端に確認された2号井戸
写真4	不動山古墳墳頂部に置かれた舟形石棺	写真12	岩鼻47-1道跡9号土坑上層断面
写真5	As-B下の黒色粘質土上面に広がる跡先痕(南から)1	写真13	岩鼻47-1道跡3号土坑全景
写真6	As-B下の黒色粘質土上面に広がる跡先痕(南から)2	写真14	古墳四塚10(17号溝)上層堆積
写真7	調査区北からみた跡先痕	写真15	古墳四塚10 遺物集中(石列)
写真8	As-B下水田耕上下に堆積したシルトと黒色土	写真16	竊貫院道跡(第712集) 6区7溝の斜め互層堆積

写真目次

PL.1	1 道跡周辺の現況(国土地理院航空写真を使用)	PL.5	1 R1-13区1号溝全景
	2 道跡遠景(南から)	2 R1-13区同上層堆積	
	3 道跡周辺の景観1(倉賀野方面を望む)	3 R1-13区2号溝全景	
	4 道跡周辺の景観2(藤岡方面を望む)	4 R1-13区2・5号溝全景	
	5 道跡周辺の景観3(手前:粕川、奥:竊貫千葉西道跡)	5 R1-13区4号溝全景	
PL.2	1 昭和30年代の道跡周辺1(国土地理院航空写真を使用)	6 R1-13区7号溝上層堆積	
	2 昭和30年代の道跡周辺2(国土地理院航空写真を使用)	7 R1-13区8号溝全景	
	<竊貫城西道跡>	8 R1-13区同上層堆積	
PL.3	1 竊貫城西道跡遠景(北から)	PL.6	1 R1-13区1号井戸全景
	2 R2-1区北側調査区全景(南から)	2 R1-13区1号地下式土坑全景(南から)	
	3 R2-1区跡先痕の確認状態(東から)	3 R1-13区1号地下式土坑全景(北から)	
	4 R2-1区北側調査区全景(北から)	4 R1-13区 同上層堆積	
	5 R2-1区跡先痕全景(東から)	5 R1-13区8号土坑全景	
PL.4	1 R2-1区跡先痕近景	6 R1-13区13号土坑全景	
	2 R2-1区基本土層(Na1地点)	7 R1-13区1号土坑全景	
	3 R1-13区南側調査区全景1(南から)	8 R1-13区3号土坑全景	
	4 R1-13区南側調査区全景2(8号溝以南)		
	5 R1-13区基本土層(Na2地点)		

<緑貫埋道跡>		3	R2-3区同掘り方全景
PL.7	1 R2-2区調査区全景(北から)	4	R2-3区同掘り方セクション
	2 R2-2区黒色粘質土上面の跡先痕1(南から)	5	R2-3区18号竪穴建物全景(北から)
	3 R2-2区黒色粘質土上面の跡先痕2(北から)	6	R2-3区同掘り方全景
	4 R2-2区浅間B軽石層以下の土層堆積	7	R2-3区遺物出土状態1
<緑貫千歳遺跡跡>		8	R2-3区同掘り方状態2
PL.8	1 R2-3区調査区全景(北から)	PL.17	1 R2-3区19号竪穴建物全景(西から)
	2 R2-3区北調査区全景(南から)	2	R2-3区同掘り方全景
	3 R2-3区南調査区全景1	3	R2-3区同掘り方状態
	4 R2-3区南調査区全景2	4	R2-3区同掘り方上層
	5 R2-3区基本土層(N6地点)	5	R2-3区20号竪穴建物全景(西から)
	6 R2-3区基本土層(N6地点)	6	R2-3区同上層堆積状態
PL.9	1 R2-3区25号竪穴建物全景	7	R2-3区同掘り方全景
	2 R2-3区同掘り方検出状況	8	R2-3区同掘り方セクション
	3 R2-3区同遺物出土状況1	PL.18	1 R2-3区21号竪穴建物全景(西から)
	4 R2-3区同遺物出土状況2	2	R2-3区同掘り方全景
	5 R2-3区同遺物出土状況3	3	R2-3区22号竪穴建物全景(西から)
	6 R2-3区同遺物出土状況4	4	R2-3区同掘り方全景
	7 R2-3区同遺物出土状況5	5	R2-3区23号竪穴建物掘り方全景(東から)
	8 R2-3区同調査状況	6	R2-3区同掘り方全景
PL.10	1 R2-3区8号竪穴建物全景	7	R2-3区24号竪穴建物全景(西から)
	2 R2-3区同掘り方検出状態	8	R2-3区同掘り方全景
	3 R2-3区同遺物出土状態	PL.19	1 R2-3区26号竪穴建物全景(西から)
	4 R2-3区同掘り方内1号土坑全景	2	R2-3区同掘り方全景(南から)
	5 R2-3区44号土坑全景・遺物出土状態	3	R2-3区27号竪穴建物全景(西から)
	6 R2-3区59号土坑全景・遺物出土状態	4	R2-3区同掘り方全景
	7 R2-3区52号土坑全景	5	R2-3区28号竪穴建物掘り方全景(西から)
	8 R2-3区同遺物出土状態	6	R2-3区同掘り方上層
PL.11	1 R2-3区1号竪穴建物全景(西から)	7	R2-3区29号竪穴建物全景(西から)
	2 R2-3区同掘り方全景	8	R2-3区同掘り方全景
	3 R2-3区2号竪穴建物全景(西から)	PL.20	1 R2-3区30号竪穴建物全景(西から)
	4 R2-3区同掘り方全景	2	R2-3区同掘り方全景
	5 R2-3区3号竪穴建物全景・遺物出土状況(西から)	3	R2-3区同掘り方上層
	6 R2-3区同遺物出土状況(北から)	4	R2-3区同掘り方上層
	7 R2-3区同掘り方全景	5	R2-3区同掘り方上層
	8 R2-3区同掘り方全景	6	R2-3区同掘り方上層
PL.12	1 R2-3区4号竪穴建物全景(西から)	7	R2-3区32号竪穴建物全景(西から)
	2 R2-3区同掘り方全景	8	R2-3区同掘り方上層
	3 R2-3区カマド全景・遺物出土状態	PL.21	1 R2-3区33号竪穴建物全景(西から)
	4 R2-3区カマド土層	2	R2-3区同上層堆積状態
	5 R2-3区5号竪穴建物全景	3	R2-3区34号竪穴建物全景(西から)
	6 R2-3区同上層堆積	4	R2-3区同掘り方全景
	7 R2-3区同遺物出土状態	5	R2-3区35号竪穴建物全景(西から)
	8 R2-3区同掘り方全景	6	R2-3区36号竪穴建物掘り方全景(東から)
PL.13	1 R2-3区8号竪穴建物全景	7	R2-3区37号竪穴建物全景(西から)
	2 R2-3区同掘り方検出状態	8	R2-3区同貯蔵穴遺物出土状態
	3 R2-3区9号竪穴建物全景	PL.22	1 R2-3区38・39号竪穴建物全景(東から)
	4 R2-3区同上層堆積状態	2	R2-3区同掘り方全景
	5 R2-3区同掘り方上層	3	R2-3区40号竪穴建物全景(西から)
	6 R2-3区同掘り方全景	4	R2-3区同遺物出土状態
	7 R2-3区10号竪穴建物全景	5	R2-3区41号竪穴建物全景(西から)
	8 R2-3区同掘り方全景	6	R2-3区42・43号竪穴建物全景(西から)
PL.14	1 R2-3区12号竪穴建物全景	7	R2-3区同上層堆積状態
	2 R2-3区同掘り方全景	8	R2-3区同遺物出土状態
	3 R2-3区同貯蔵穴上層堆積状態	PL.23	1 R2-3区44号竪穴建物全景(西から)
	4 R2-3区同遺物出土状態	2	R2-3区同遺物出土状態
	5 R2-3区13号竪穴建物全景・遺物の出土状態	3	R2-3区45号竪穴建物全景(カマド煙道、東から)
	6 R2-3区同上層堆積	4	R2-3区46号竪穴建物全景(西から)
	7 R2-3区同掘り方全景	5	R2-3区47号竪穴建物全景(西から)
	8 R2-3区同掘り方全景	6	R2-3区同掘り方上層
PL.15	1 R2-3区14号竪穴建物全景(東から)	7	R2-3区49号竪穴建物全景1(西から)
	2 R2-3区同掘り方全景	8	R2-3区同掘り方建物全景2(東から)
	3 R2-3区15号竪穴建物全景(西から)	PL.24	1 R2-3区50号竪穴建物全景(西から)
	4 R2-3区同上層堆積	2	R2-3区51号竪穴建物全景(西から)
	5 R2-3区16号竪穴建物全景(西から)	3	R2-3区53号竪穴建物全景(西から)
	6 R2-3区同掘り方全景	4	R2-3区54号竪穴建物全景(西から)
	7 R2-3区同掘り方上層	5	R2-3区55号竪穴建物全景(西から)
	8 R2-3区同貯蔵穴上層堆積状態	6	R2-3区同遺物出土状態
PL.16	1 R2-3区17号竪穴建物全景(西から)	7	R2-3区57号竪穴建物全景1(西から)
	2 R2-3区同上層堆積状態	8	R2-3区同掘り方建物全景2(北から)

PL.44	1 R2-4区7・8号溝全景(北から)	<納貫堤西道跡>
	2 R1-47-1道跡1号溝全景(南西から)	PL.53 R1-13区K・2・5号溝出土遺物
	3 R1-47-1道跡3号溝全景(西から)	R1-13区K・13・16・20号土坑出土遺物
	4 R1-47-3道跡8号溝全景	R1-13区道溝外出土遺物
	5 R1-47-3道跡9・10号溝全景(西から)	<納貫千葉西道跡>
	6 R1-47-3道跡12・13号溝全景(西から)	PL.54 R3-5区8号壑穴建物、R2-3区25号壑穴建物出土遺物
	7 R1-47-3道跡13号溝土層堆積	PL.55 R2-3区25号壑穴建物出土遺物2
PL.45	1 R1-47-3道跡11号溝全景(北から)	PL.56 R2-3区25号壑穴建物出土遺物3
	2 R1-47-3道跡11号溝全景(南から)	PL.57 R2-3区25号壑穴建物出土遺物4
	3 R1-47-3道跡同上層堆積	PL.58 R2-3区44・52・59号土坑出土遺物
	4 R1-47-3道跡同木杭の出土状態1	PL.59 R2-3区27・4号壑穴建物出土遺物
	5 R1-47-3道跡同木杭の出土状態2	PL.60 R2-3区4・6・8号壑穴建物出土遺物
	6 R1-47-3道跡同木杭の出土状態3	PL.61 R2-3区8・9号壑穴建物出土遺物
	7 R1-47-3道跡1号井戸全景(南から)	PL.62 R2-3区10・11号壑穴建物出土遺物
	8 R1-47-3道跡同上層堆積	PL.63 R2-3区11～13号壑穴建物出土遺物
PL.46	1 R2-4区1号土坑全景(東から)	PL.64 R2-3区13～15号壑穴建物出土遺物
	2 R2-4区同厚板出土状況	PL.65 R2-3区16～19号壑穴建物出土遺物
	3 R2-4区2号土坑全景(南から)	PL.66 R2-3区19～23号壑穴建物出土遺物
	4 R2-4区7号土坑全景(南から)	PL.67 R2-3区24・27号壑穴建物出土遺物
	5 R1-47-1道跡4号土坑全景(西から)	PL.68 R2-3区28・30号壑穴建物出土遺物
	6 R1-47-1道跡5号溝全景(西から)	PL.69 R2-3区32～34・38号壑穴建物出土遺物
	7 R1-47-3道跡1号土坑全景(西から)	PL.70 R2-3区40・43号壑穴建物出土遺物
	8 R1-47-3道跡11号落ち込み全景	PL.71 R2-3区43・44・47号壑穴建物出土遺物
<岩鼻赤城道跡>		PL.72 R2-3区47～49・51～53・55・56・58号壑穴建物出土遺物
PL.47	1 R3-6区道跡周辺の景観(岩鼻天神道跡方面)	PL.73 R2-3区60・62・63号壑穴建物出土遺物
	2 R3-6区調査区全景(南から)	PL.74 R2-3区63号壑穴建物出土遺物2
	3 R3-6区17号溝全景(東から)	PL.75 R2-3区64・65号壑穴建物、R3-5区9号壑穴建物出土遺物
	4 R3-6区同遺物出土状態1(東から)	PL.76 R3-5区9・10号壑穴建物出土遺物2
PL.48	1 R3-6区17号溝遺物出土状態2(東から)	PL.77 R3-5区11・12号壑穴建物出土遺物
	2 R3-6区同溝の調査状況	PL.78 R3-5区13号壑穴建物出土遺物
	3 R3-6区同遺物出土状態3(南から)	R2-3区1号溝、2・26・27・34・40・41号土坑出土遺物
	4 R3-6区同遺物出土状態4(東から)	PL.79 道溝外出土遺物1
	5 R3-6区18号溝全景(北から)	PL.80 道溝外出土遺物2
	6 R3-6区同遺物出土状態1	PL.81 道溝外出土遺物3
	7 R3-6区同遺物出土状態2	PL.82 道溝外出土遺物4
PL.49	1 R3-6区15号溝全景(東から)	<岩鼻塚合道跡>
	2 R3-6区同上層堆積	PL.82 R3-4区22・27号溝出土遺物
	3 R3-6区同遺物出土状態1(西から)	<岩鼻天神道跡>
	4 R3-6区同遺物出土状態2(西から)	PL.83 R2-4区1号壑穴建物、R1-47-3道跡2・3号壑穴建物出土遺物
	5 R3-6区16号溝全景(東から)	PL.84 R1-47-3道跡4・5・7号壑穴建物出土遺物
	6 R3-6区同上層堆積	PL.85 R1-47-3道跡1号壑穴状遺構、R2-4区9・5・6号溝出土遺物
	7 R3-6区19号溝全景(東から)	PL.86 R1-47-3道跡1号壑穴状遺構、R2-4区9・5・6号溝出土遺物
	8 R3-6区同上層堆積	PL.87 R2-4区6・1・4号溝出土遺物
PL.50	1 R3-6区10・11号土坑全景(北から)	PL.88 R2-4区4号溝、R1-47-1道跡4号溝、R1-47-3道跡2号溝出土遺物
	2 R3-6区12号土坑全景(東から)	PL.89 R1-47-3道跡5号溝出土遺物
	3 R3-6区15号土坑全景(東から)	PL.90 R1-47-3道跡5・14号溝出土遺物
	4 R3-6区16号土坑全景(西から)	PL.91 R1-47-3道跡14号溝出土遺物
	5 R3-6区17号土坑全景(東から)	PL.92 R2-4区8・2号溝出土遺物、R1-47-1道跡2・3号溝、R1-47-3道跡11号溝出土遺物
	6 R3-6区19号土坑全景(北から)	PL.93 R1-47-3道跡1号井戸出土遺物1
	7 R3-6区22号土坑全景(東から)	PL.94 R1-47-3道跡1号井戸、R1-47-1道跡1号土坑、R2-4区道溝外出土遺物
	8 R3-6区同上層堆積	PL.95 R2-4区道溝外(古墳周辺)、R1-47-1道跡道溝外出土遺物
<岩鼻坂北道跡>		PL.96 R1-47-1道跡道溝外、R1-47-3道跡道溝外出土遺物
PL.51	1 R2-5区南側調査区全景(北から)	<岩鼻赤城道跡>
	2 R2-5区4号溝全景(西から)	PL.97 R3-6区17号溝出土遺物
	3 R2-5区1号溝全景1(南から)	PL.98 R3-6区17号溝、R3-6区1号遺物集中出土遺物
	4 R2-5区同全景2	PL.99 R3-6区1号遺物集中、18・15号溝出土遺物
	5 R2-5区5号土坑全景(西から)	PL.100 R3-6区15・19・20号溝出土遺物
	6 R2-5区2号土坑全景(南から)	PL.101 R3-6区溝外出土遺物
	7 R2-5区北側調査区全景(南から)	<岩鼻坂北道跡>
	8 R2-5区1号石組全景(東から)	PL.102 R2-5区1号溝、R2-5区道溝外出土遺物1
PL.52	1 納貫堤西道跡西塚、斜め互層堆積1	PL.103 R2-5区道溝外出土遺物2
	2 納貫堤西道跡東塚、斜め互層堆積2	
	3 岩鼻天神道跡R1-47-1道跡1溝、斜め互層堆積3	
	4 岩鼻塚合道跡東塚(R3-4区21～28溝)、斜め互層堆積4	
	5 岩鼻天神道跡東塚(R1-47-1道跡1溝付近)、斜め互層堆積5	
	6 岩鼻塚合道跡(R3-4区25～27溝)、斜め互層堆積6	

第2節 発掘調査の経過

本遺跡発掘調査は、交通渋滞箇所の解消を目的とする道路改良事業に伴い実施されたものであり、以下を留意点として調査を進めた。主な留意点として、①大型車両や自転車通行に配慮する必要があること、②未買収地が散在、調査区が分断されていること、③重機の出入り口部や民家出入り口を確保する必要があること、④路肩の崩落防止や調査区の安全確保に努めることが事前に想定された事項である。以上の留意点を念頭に、現地では調査の安全を確保するため必要箇所に安全フェンスを設置、重機稼働時には車の往来に注意して作業を進めた。従来から、市街地の発掘調査では水道管その他の埋設物が残されていることが多く慎重に対応しているが、今回も複数の地点で埋設物が確認されているが、埋設物を破損するなど今回は問題にはならなかった。

事業団発掘現場では、安全対策について担当者は遺跡掘削業者と綿密に打ち合わせ、作業員には代理人を通じ重機稼働中の諸注意など調査中の安全確保を呼び掛けて実施している。また、事業団では安全確保に係るチェックリストを作成し、安全監視員を巡回させ、安全上の問題が指摘されれば、その都度問題点を解決することで、調査中の安全確保に努めている。

本遺跡の発掘調査は、令和元年度から令和3年度まで断続的に行われた。発掘調査は断続的で、やや効率性に欠けた。調査は「うって返し」によるものであり、半分を掘り半分に盛土するというもので効率的ではなかった。また、埋設物の有無についてはできるだけ情報を集めて遺漏ないように対応した。

各年度の発掘調査は事前に現地確認を行い、発掘調査の工程を策定したうえで現地に入る。現地では地元区長に挨拶、掘削業者他と打合わせる。これよりのちは掘削→遺構確認→遺構調査→遺構写真撮影→遺構測量と間断なく作業が続き、終わればすぐに掘削地点を埋戻した。

調査日誌抄

<平成31・令和元年度>

- 4月1日 現地確認
- 4月2日 発掘調査開始、現地打合わせ
- 4月3日 地元区長挨拶

- 4月11日 綿貫堤西、岩鼻天神遺跡47-3遺構確認開始
- 4月19日 綿貫堤西遺跡南側調査区的全景写真撮影
- 5月7日 岩鼻天神遺跡47-1の掘削開始
- 5月27日 岩鼻天神遺跡の埋戻し終了

<令和2年度>

- 4月2日 現地打合わせ
- 4月7日 綿貫堤遺跡の重機掘削開始
- 4月15日 綿貫千葉西遺跡の掘削、遺構確認作業開始
- 5月21日 綿貫堤、綿貫千葉西遺跡の全景写真
- 7月1日 綿貫堤西遺跡北側調査区の掘削開始
- 7月7日 綿貫堤西遺跡北側調査区的全景写真撮影
- 7月10日 岩鼻坂上北遺跡の掘削開始
- 8月17日 岩鼻天神遺跡47-1の掘削開始
- 9月8日 岩鼻天神遺跡の全景写真撮影
- 10月26日 機材撤収、埋戻し作業

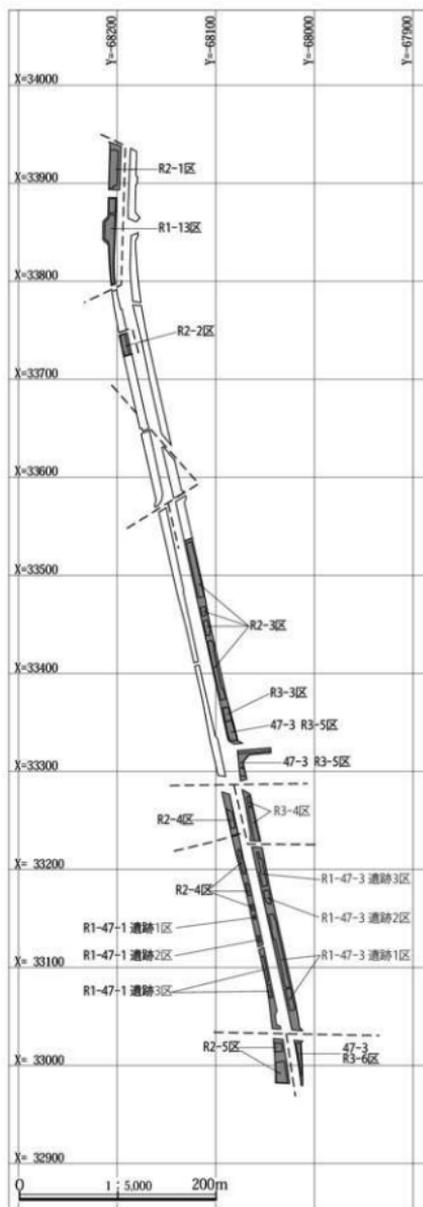
<令和3年度>

- 6月1日 綿貫千葉西遺跡南側調査地点重機掘削開始
- 6月2日 岩鼻塚合遺跡47-3の掘削開始
- 6月3日 岩鼻坂上北遺跡の掘削、遺構確認作業開始
- 6月7日 岩鼻赤城遺跡の掘削、遺構確認作業開始
- 6月14日 岩鼻赤城遺跡遺構調査開始
- 7月5日 綿貫千葉西遺跡南側調査区調査開始
- 7月19日 綿貫千葉西遺跡南側調査区全景写真撮影
- 7月26日 岩鼻赤城、岩鼻坂上北遺跡調査終了
- 7月27日 埋戻し作業終了

第3節 発掘調査の方法

県道前橋長湊線路工事に伴う調査の対象地は、南北1kmに及んだ。路線内には未買収地が複数箇所あり、発掘調査は虫食い状態で行わざるを得なかった。発掘調査は平成31・令和元年度～令和3年度におこなわれているが、発掘調査の際に付された遺跡名称と区名称の付け方に混乱があり、以下整理しておきたい。

当事業団では事業計画を見据え区名称を整然と付けるように、また、遺構番号は遺跡内で連続するようにしているが、本遺跡では各年度の調査毎に遺構番号の付し方はさまざまであることが判明した。また、発掘時の遺跡名は包蔵地遺跡名(マッピングくんま)が付されていたが、高崎市では、町名に小字名を付して報告書遺跡名(以



第2図 調査区名称(左)と遺跡名称(右、高崎市都市計画図昭和54年測量を使用)

下、遺跡名と略記)としていることから、遺跡毎に遺構番号を完結させることは、事実上できない状況であった。そこで、報告書遺跡名に即して遺構・遺物を報告することとしたが、遺物や図面類・遺構写真には包蔵地遺跡名(事業遺跡名)で注記されており、修正すると膨大な時間が掛かることから、旧名称は変えず、そのまま報告することとした。遺物など再検討の際は報告書の図版番号を指定すればよく、旧名称を注記した遺物そのものが見られる。なお、令和2年度の出土遺物のみ注記の先頭にR2の文字を追加して他の年度発掘の遺物と混乱しないようにした。

マッピングぐんまの「包蔵地遺跡名」には綿貫41遺跡・綿貫41H02遺跡、岩鼻47-1遺跡、岩鼻47-3遺跡・岩鼻47A03遺跡・岩鼻47H03がある。これに対して、報告書遺跡名は綿貫堤西遺跡・綿貫堤遺跡・綿貫千葉西遺跡、岩鼻延養寺遺跡・岩鼻天神遺跡・岩鼻塚合遺跡・岩鼻坂上北遺跡・岩鼻赤城遺跡となるが、包蔵地(事業名)遺跡名は町名単位で遺跡が括られ、報告書遺跡名は町名・小字で遺跡が括られるため1対1には収まらず、実的に理解が難しくわかりにくい。報告書遺跡名については前回同様県文化財保護課を通じ高崎市教育委員会文化財保護課に問い合わせ、報告書遺跡名を確認した。今後は調査時から報告書遺跡名が確定されることになり、少なくとも報告書作成時の混乱は避けられるようになるはずである。凡例に発掘時遺跡名(事業遺跡名)と区名称、報告書遺跡名を併記しておいたので、参照されたい。

今回報告遺跡の中で最も北にある綿貫堤西遺跡では低地からAs-Bを掘き込んだ動先痕が確認されている。他の地点の遺構確認面は暗褐色土上面だが、古代竪穴建物の重複が激しく、注意深く対応した。また、遺構密度に対して相対的に狭い調査地も難易度が上がる原因となり、調査に腐心した。遺構確認後は、土層観察用のベルトを残し遺構調査を進めた。個別の遺構調査は移植ゴテにておこない、遺構完掘後は個別遺構毎に写真を撮影した。遺構測量については業者委託して対応した。

遺構番号については、遺跡毎に遺構種別に遺構番号を付けるのが原則だが、年度毎に異なってしまった。グリッドについては国家座標系IX系(世界測地系)を用い測量図には必要に応じてXY座標の順に6桁を表示した。

第4節 整理の方法

整理事業の実施に際しては、文化財保護課の調整を経て、高崎土木事務所と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団とで令和4年9月1日に整理事業の委託契約が交わされ、次年度(令和5年度)12月までの予定で整理事業を開始した。

遺物整理は出土遺物を土器・石器・金属器類に分類し、それぞれ接合作業をおこない、遺構毎に掲載遺物を選び出した。また、掲載遺物については必要に応じ石膏を入れたのちに写真撮影、図化作業を実施した。

遺物実測は長焦点実測用写真や三次元測定機を使い、これを実測素図として等倍の手書き実測図を作成した。そして、手書き実測図作成後は、これを掲載サイズの1/2倍に縮小してトレース図を作成した。こうして得られたトレース図をスキャンし、報告書刊行に向けてデジタルデータ化した。竪穴建物などその他の遺構から出土した金属製品は当事業団で保存処理作業をおこない、サビ等で形状不明な金属器についてはX線写真により形状を確認し、手書き実測図を作成し、土器石器と同様に写真撮影、トレース作業をおこない、デジタルデータ化した。

遺構写真は発掘調査で撮影記録したもので、このなかから報告に必要な写真を選び、画像修正し報告書掲載用のデータとした。

これら遺構遺物のデジタルデータおよび本文文字原稿を編集、最終的な報告書印刷データとした。

第2章 遺跡の概要

第1節 地理的環境

本遺跡は、JR高崎駅から東へ約6.3kmにある。当地は高速道路へアクセスも良く、周辺域64.3haが産業団地として開発されることが決定、このほか本遺跡より約1km西の総合卸売市場周辺も工業団地が造成されようとしている。

本遺跡は、井野川右岸の微高地上に立地する。井野川は榛名山東南麓(箕郷町西明屋)に水源があり、下流域では前橋台地に接して流れ、高崎市岩鼻町付近で烏川に合流する。井野川下流域一帯は「井野川低地帯」と呼ばれているが、幅1kmを超える規模があり、当初から利根川によるもの(新井1962)とされていた。その後の研究でも低地帯が利根川によるとする見解に異論は見られない(早田1990、新井2003、竹本2008)。

10数年前、綿貫伊勢遺跡で高崎泥流層を掘り下げる機会があり、4mほど下でAs-YPが堆積するのを発見したことがある。泥流層の層厚は4m弱であり、泥流の最上層部はロームブロックが混じる乾いたローム土、下層部は良く淘汰された粘質土というのが当時の印象である。報告書(第567集)テフラ分析の記載には「上部43cmが黄灰褐色、最上部16cmが黄灰色を呈する灰色火山泥流堆積物(全体の層厚362cm、軽石の最大径34mm、石質岩片の最大径123mm)、垂円礫混じり黄褐色土(層厚32cm、礫の最大径34mm)」とある。遺構確認面下46cmから層厚362cmまでが高崎泥流ということになるが、高崎泥流と黄褐色土(上面が遺構確認面)の間の「垂円礫混じり黄褐色土32cm」



写真1 高崎泥流下の黒色土(国道354号バイパス綿貫伊勢遺跡)

ほどのように考えるべきだろうか。垂円礫混じりということであれば、河川堆積が思い浮かぶ。層厚から考えて1000年・2000年で通常堆積したとするのは難しく、礫混じりであることを踏まえれば、河川堆積と考えるべきだろうと思う。報告書テフラ分析(第567集 自然科学分析)では、別の可能性を考えて触れていないのかもしれないが、少なくとも堆積様式が異なるようには見えず、地下水等が影響しているものと思われる。

高崎市域の地形は、西から市街地を載せる高崎台地、井野川低地帯、前橋台地と続く。そして、高崎台地西側には烏川を介して丘陵地形(岩野谷丘陵)が広がり、北側には榛名山麓末端の火山麓扇状地が接している。

市域の地形発達については、①利根川砂礫層の堆積、②前橋泥流の堆積、③陣馬岩層なだれの発生(旧利根川の流路変更)、④高崎泥流堆積(高崎台地形成)、⑤榛名白川による扇状地形成と整理しておいた(第712集)が、古榛名白川が高崎市街地の北から南に現在の粕沢川筋を流れたこと、榛名白川扇状地の形成を挟んで井野川が一貫堀川筋を流れたとする考え方が示された(矢口2023)。同レポートの指摘に、古利根川流路の想定位置や古烏川流路の問題があるということであり、根拠となる河床礫が未発見であるなど、今後の課題を指摘している。

本遺跡周辺の地形についてその概要を述べるとすれば、地形区分としては井野川低地帯にあり、立地としては井野川の右岸微高地上にあるとしかいえない。全般的に周辺地形は広く平坦であり、集落と水田の比高差はなく、遠く岩鼻町の高台が見えるだけである。高台



写真2 井野川に洗い出された旧利根川の河床礫

は旧利根川が残した右岸段丘ということになるだろうが、この段丘が追えるのは国道354号バイパス南の進達神社付近までであり、これより西には北部環状線高岡町付近に痕跡が残されるだけである。354号バイパス関連の縄貫3遺跡(原北・牛道・伊勢)や産業団地遺跡は微高地全域に広がっており、集落は4世紀代から断続的に継続、生産域(水田)は西側低地部を想定する以外ない。これまで、この地域の低地部調査例は少なく、その詳細は不明だが、古い航空写真や地形図を検討し、遺跡と生産域を構造的に捉えるよう心がけたいものである。

陸軍作成の迅速測図(明治13~17年測図)「倉賀野駅」には、旧中山道や例幣使街道が図示されているが、観音山古墳(ほか大形墳の墳丘も描かれている。また、県道前橋長瀬線をトレースするように大類村から綿貫村の西を通り例幣使街道に続く古道が図から読み取れる。井野川も蛇行して流れ、自然河川としての姿を良く止めている。

現在、一貫堀川は下小高付近で長野県に連結しているが、迅速測図では下流域からは江木村付近まで蛇行する流路をたどることができる。綿貫村の西を流れる粕川も自然河川で、旧谷中村付近線崖下水を水源とする小河川と見られる(第4図を参照)。そのほか留意点として、用水系水路や農地の不規則区画にも注意しておきたい。高崎市東部の水田は基本的に条里型水田とされるものを引き継いでいるが、不規則区画となるものや、水路も斜め方向に流れるものがあり、旧地形復元も可能であろうと考えている。このようにして得られたデータに遺跡分布を重ね合わせることで、時代毎の遺跡分布傾向が明らかになるものと思われる。

前の報告でも触れたとおり、榛名白川扇状地末端低地部に榛名山麓から土砂供給されたのは確実であり、これで低地部が埋まり集落に大きなダメージを与えたものと思われる。旧地形復元を念頭に遺跡分布が語られるべきであるという(高崎市史)。まさにそのとおりであるが、それは農業発達史的にみた集落論の成果を元にしたものであり、今後とも集落や生産域の動向は語られるべきなのである。その一環として地形発達史的な理解を深める必要があるといえる。

第2節 周辺遺跡

本遺跡周辺では古墳時代前期3世紀代末から集落が形成されるようになり、古代まで断続的に集落が継続する。周辺遺跡には、本遺跡より1km内外の近至に綿貫観音山古墳(19)や不動山古墳(21)がある。このほか北には国道354号バイパス関連縄貫3遺跡(16~18)がある。同じく国道354号バイパス北には、県道前橋長瀬線関連の綿貫小林前遺跡(14)、さらには井野川を介して下滝天水遺跡(36)がある。下滝天水遺跡以外は、いずれも井野川右岸の微高地に立地する集落遺跡の調査である。現状で生産域(水田)の見込める県道(前橋長瀬線)西の低地部情報は限られているが、近年の高崎市では工業団地造成に伴う大規模調査(15・35・74)が広域に行われ、井野川流域のみならず、その後背低湿地でも調査が行われるようになり、農耕開始期集落や発達期集落など、農耕発達史に基づく集落変遷が明らかになりつつある。

旧石器時代 綿貫地区遺跡は井野川右岸の微高地に立地しているが、さかのぼれば古利根川の流路上に遺跡は立地するとも言える。古利根川は陣馬岩層雪崩以後に変流したとされ、旧石器遺跡があるとすれば、それ以後の旧石器遺跡ということになる。当該層に到達するには4m以上を掘削する必要があり、小規模遺跡の発掘では包含層に達するのが難しい状況にある。

国道354号バイパス関連調査では、4m下位で黒色土を挟みAs-YPが堆積するのが確認されている。古利根川の残した礫層は確認できていないが、井野川橋梁工事の折に、武尊山由来の黒色安山岩を多量に採集することができ、ここが旧利根川の流路であることを強く実感したのである。このことについては、県内石材資源(環境)の変遷として取り纏めたので参照していただきたい(津島ほか2010)。

本遺跡に近い台新田町の粕川右岸台地は前橋台地の古い段丘面に相当する。表土下に浅間系テフラ(As-YP・As-OkP1・As-BP)が堆積、今後こうした地区では旧石器時代遺物が発見されるかもしれない。厚さ4m近い泥流を剥せば、低地帯でも縄文時代草創期の遺跡でさえ発見できるかもしれない。これまでのところ、高崎台地内の旧石器遺跡は確認できていないが、今後はできるかぎり旧石器調査がおこなわれることを期待しておこう。

縄文時代 縄文期遺跡は市内71遺跡があり、烏川右岸の丘陵部や台地に大規模遺跡が残されている。高崎台地では、烏川左岸の台地縁辺部や井野川右岸台地縁辺に分布、台地内部の遺跡分布は薄い傾向がある。

市域の大規模遺跡には、八幡台地に若田原遺跡や剣崎長瀬西遺跡、岩野谷(観音山)丘陵に大平台遺跡があり、また、烏川左岸の高崎台地には下佐野遺跡や倉賀野万福寺遺跡などがある。井野川右岸には高崎情報団地Ⅱ遺跡(64、加曾利E式期)があり、情報量が多く充実している。同遺跡の縄文集落は中期加曾利E1～E3式期のもの、竪穴建物35棟・土坑130基がある。集落の全貌は明らかになっていないが、相当規模の中期環状集落が展開したものと見られる。同じく井野川右岸には万相寺遺跡(63)があり、中～後期の竪穴建物3棟が確認されているほか、井野川左岸の下流高井前遺跡(39)や八幡原A遺跡(29)には前期諸磯b式期の竪穴建物があり、井野川流域の縄文期集落が目立っている。これに対し、台地内には下中居条里Ⅲ遺跡で中期の竪穴建物が発見されているだけである。

一方、遺物のみが出土する遺跡も多い。榛名山東南麓の熊野堂遺跡や八幡台地の剣崎長瀬西遺跡では、草創期土器片や有茎尖頭器が出土しているが、烏川左岸の岩鼻坂上北遺跡で尖頭器が出土、玉村側の前橋台地にも有茎尖頭器が出土している。高崎台地では、地獄塚(高関村前遺跡、柴崎新堀遺跡ほか)や谷中堰(下中居条里遺跡)の流域に小規模遺跡が点在しているが、調査の空白域が多く詳細は分からない。市街地西部の縄文遺跡が希薄であるとする従前の見解が実態であるのか、それとも洪水堆積など様々な理由で実態が分からないだけであるのか、具体的に判断しなければならない。

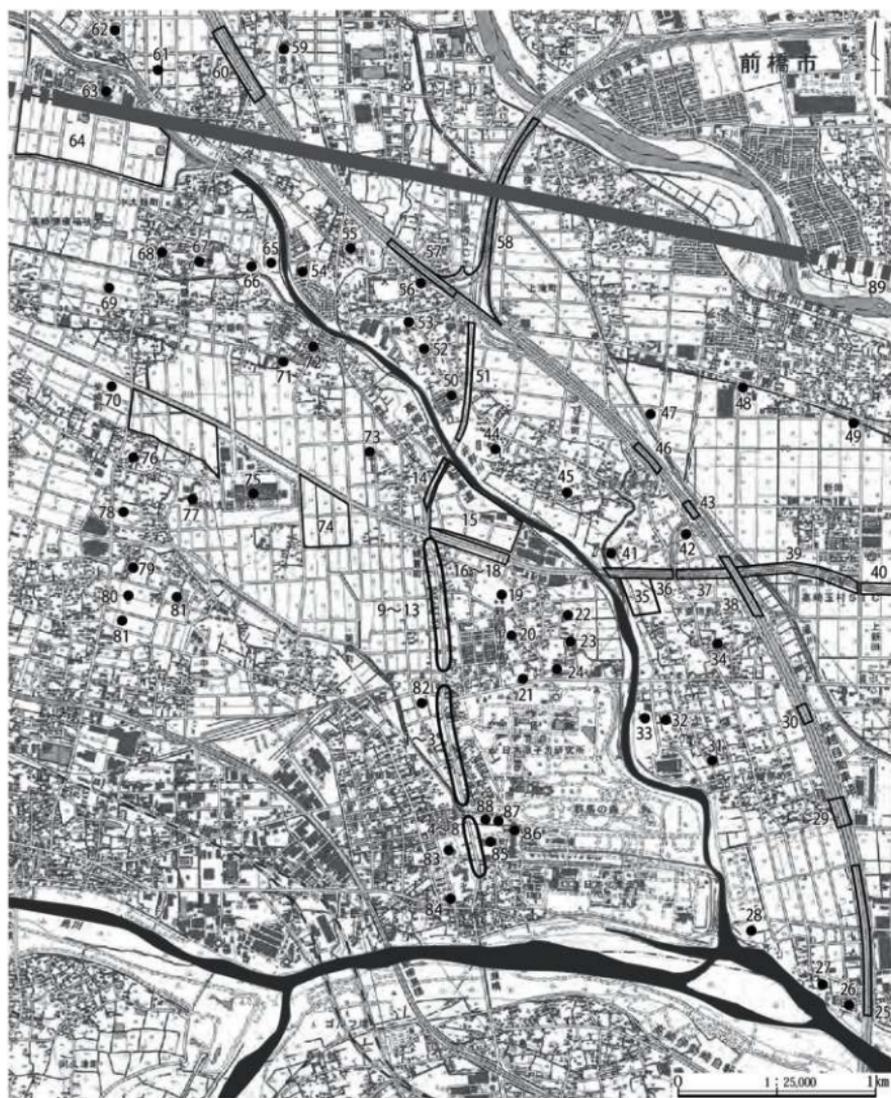
前回報告(第712集)では後期土器片数点と石鏃・石斧・石製品などを報告、遺構は発見されおらず遺物が少量出土する遺跡として報告した。本書では第712集に続く南側の地点を報告するものであるが、粕川に近い千葉西遺跡で竪穴建物3棟(前期後葉から前期末2、後期前葉1)が確認された。その他の遺構として土坑数基がある程度で、後・晩期遺跡が少ないという状況は変わらないが、後期竪穴の存在を注目しておきたい。後期前葉の土器片2121点という数字が後期遺跡としてどのように評価できるのかわからないが、台地内の後期遺跡としては充

実していることだけは確実である。高崎市史には、碓氷川の低地帯遺跡から多量の後晩期土器片類が採集されたという記載があるように、並榎地区や一貫堀川流域には厚い土砂で覆われた未知の遺跡が埋もれているかもしれない、今後も遺跡の動向を見守る必要がある。

弥生時代 高崎台地最古の弥生土器は剣崎長瀬西遺跡や高崎情報団地Ⅰ遺跡(63)などから前期土器片が出土しているが、いずれも断片的である。弥生農耕集落の本格的定着は中期後半段階からで、その大部分は「環濠集落」であるという。

市域発見の環濠集落は井野川流域や烏川左岸、それに市街地北部に集中する。部分調査が多く全貌が明らかでないが、高崎競馬場遺跡では北西側の居住域と南側祭祀の場が分離した状態で、高崎城遺跡では環濠内中央部に方形周溝墓が確認されている。集落規模が大きく、ヘクタール単位で広がっており、その全域を調査することは難しい状況にある。このほか環濠集落特有の断面V字状を呈する溝が井野川流域の浜尻A・B地点遺跡や、烏川左岸の上並榎南遺跡、上並榎屋敷前遺跡から発見されている。また、高関堰村遺跡や上並榎屋敷前遺跡、市遺跡のV字溝も環濠になるということである。今後調査の進展が期待されるところであるが、本格的農耕集落としては定着期というよりも、爆発的に増加しているように見える。後期集落は中期後半期の集落が立地した高崎台地内の遺跡が激減し、火山麓扇状地を流れる小河川の中流域などに集落が集中ようになる。熊野堂や新保遺跡群と呼ばれる遺跡群がそれで、古墳時代以後も集落が引き継がれる伝統集落である。

本遺跡周辺では井野川右岸に高崎情報団地Ⅰ遺跡(64)や万相寺遺跡(63)があり、左岸(前橋台地側)に元鳥名遺跡(61)や鈴ノ宮遺跡(62)があるのは、井野川流域の低地が生産域であったからであろう。高崎台地の環濠集落は台地の西側に偏り、後期集落へ継続することはない。また後期集落も井野川流域にはあるが、台地内には上大類北宅地遺跡など数遺跡に止まる。高崎東部地域は欠水地帯として知られ、このことが遺跡立地に影響しているものと思われる。近年、総合卸売市場周辺(下大類町)では広域に発掘調査が行われており、近々低地帯開発の実態が明らかになるであろうが、こうした傾向は今後とも変わらないように思う。



1～3 扇貝内・扇貝外・扇貝干葉西 4～8 岩鼻岩堂寺・岩鼻塚合・岩鼻天神・岩鼻赤城・岩鼻阪上北 9～13 扇貝跡原北・扇貝跡・扇貝跡前・扇貝三反割・扇貝反町 14 扇貝小林前
 15 扇貝遺跡群 16～18 バイハス扇貝原北・扇貝平道・扇貝伊勢 19 扇貝山古墳 20 岩賀寺遺古墳 21 不動山古墳 22 塚米塚敷 23 扇貝塚米前田 24 不動山南 25 下郷 26 天神塚田
 27 八幡原若宮 28 若宮八幡北古墳 29 八幡原A 30 八幡原B 31 八幡原跡 32 穴塚原敷 33 八幡原塚田 34 上滝山古墳 35 下滝遺跡群 36 下滝高井前 37 下滝山遺土築跡
 38 下滝山・滝川 39 上新山原山 40 上新山赤塚 41 下滝赤城 42 上滝山古墳 43 滝川B 44 下滝部 45 下滝原敷 46 滝川C 47 上滝社宮司敷 48 天神前 49 八反田
 50 御伊勢山古墳 51 下滝天水 52 扇山古墳 53 扇貝寺古墳 54 元島名下河原 55 元島名將軍塚古墳 56 上滝部 57 上滝 58 上滝原町北 59 元島名遺跡北 60 元島名B 61 元島名
 62 轟ノ沢 63 方相寺 64 猪熊津地Ⅰ・Ⅱ 65 中大願輪貝 66 扇貝原敷 67 中大願金井分 68 中大願金井 69 中大願足 70 樂崎村西 71 下大願・中道下 72 下大願置石
 73 扇山古墳 74 扇山鳴鳴辺B 75 下大願 76 樂崎野原古墳 77 樂崎野原 78 砂内 79 谷中村東A 80 谷中村東B 81 谷中村東C 82 扇貝塚内 83 岩鼻跡屋
 84 岩鼻北上遺跡1号墳 85 岩鼻村4号墳 86 岩鼻村9号墳 87 岩鼻村5号墳 88 岩鼻村8号墳 89 扇山道

第3図 周辺道路図(古墳時代以降)(国土地理院1/25,000地形図「高崎」「前橋」図幅を編集・加工)

古墳時代 市域には綿貫観音山古墳や八幡観音塚古墳、保渡田3古墳などの著名な古墳も多い。加えて豪族居館として知られる三ツ寺1遺跡、渡来系積石墓、馬具、半島系遺物が出土した剣崎長瀬西遺跡など東国古墳文化を語る上で欠かせない重要遺構、遺物が出土している。また、古墳時代を前後するころから、未開の前橋台地に開発の手が入り、大規模開発が行われた結果、生産域が著しく拡大、これに伴い集落が拡大したとされる。

井野川下流域には古墳時代前期集落が点在しており、中流側(中大類地区)左岸に鈴ノ宮遺跡が、対岸には高崎情報団地Ⅰ・Ⅱ遺跡があり、下流側右岸の綿貫地区にはバイパス3遺跡(16~18)や県道5遺跡(9~13)、綿貫遺跡群(15)がある。いずれも地域拠点集落といえるものであり、50棟を超える竪穴建物が検出されている。集落は断続的であり、竪穴は増減しているが、弥生期までさかのぼる集落(鈴ノ宮、高崎情報団地遺跡)や、古墳時代になりはじめて出現する集落(綿貫伊勢、綿貫小林前14、下滝高井前36、下滝天水51)がある。また、集落規模の大小があり、実態は複雑である。井野川下流域は前橋台地の崖線に流下する旧利根川が形成した低地帯(井野川低地帯)で、岩鼻から進達神社に続く台地が前橋台地の対岸となる。対岸には三角緑神帳鏡が出土したという柴崎蟹沢古墳(76)や谷中村東遺跡(79)の方形周溝墓があり、柴崎周辺には拠点集落の存在が確認されている。今後は、高崎台地内部の様相が問題となるだろうが、柴崎熊野前遺跡(77)や卸売市場周辺遺跡(74・75、高崎市教育委員会)の調査成果が重要になるだろう。

井野川下流域には古墳も多く、4世紀代の左岸側には元島名将軍塚古墳(55)、綜覧滝川村2号墳、右岸側には柴崎蟹沢古墳がある。これに続く5・6世紀代の右岸側には二子山古墳、不動山古墳、普賢寺東古墳、綿貫観音山古墳(第273図)がある。将軍塚古墳のみが前方後方墳、他は前方後円墳である。岩鼻二子山古墳が全長115mで綿貫古墳群最大の古墳、綿貫観音山古墳・不動山古墳が古墳が30~40mクラスで、大小がある。将軍塚古墳に近い高崎情報団地遺跡には古墳33基(帆立貝形古墳を含む)があり、古墳群を形成している。また、烏川左岸の倉賀野町には古墳162基からなる大応寺古墳群(前方後円墳4~6基を含む)・大道南古墳群が知られるほか、近接して岩鼻天神・岩鼻赤城遺跡(本報告)の古墳周堀や上毛古

墳綜覧所収の古墳、壬申絵図の円形区画が多数あり、古墳群を形成するものと見られる。



写真3 観音山古墳遠景(手前は綿貫伊勢遺跡)



写真4 不動山古墳墳頂部に置かれた舟形石棺

奈良・平安時代 国道354バイパスの綿貫伊勢遺跡では7世紀代竪穴建物73棟に対し8世紀代は竪穴建物33棟、下滝高井前遺跡では41棟から8棟となり、竪穴建物の数は半減傾向にある。一方、井野川右岸の古代集落は、北は綿貫小林前遺跡から南は県道綿貫原遺跡まで広がる大規模遺跡であり、工業団地造成工事に伴う発掘(高崎市調査)でも濃淡こそあれ、広く古代竪穴建物が確認されている。高崎情報団地遺跡でも同時期の集落が確認されているが、前代に比べ建物は減少傾向(2/3程度)にある。

平安時代の竪穴建物はAs-Bで埋もれた水田下でも確認されており(宿大類天田Ⅱ遺跡ほか)、居住域を潰して生産域としているが、集落全域を潰して生産域とした事例は確認できない。市域東を流れる用水群は自然河道を利用したもので、中大類金井遺跡(67)や下大類中道下遺跡(71)の集落は、そうした河道脇の微高地に立地したもの

と思われる。

市域水田遺跡は昭和48年の下小島遺跡発掘以来、平成10年度段階で300を超える調査実績があるという。市域水田調査は圃場整備によるものが圧倒的に多く、As-B下水田が条里制水田であることを念頭に、坪の交点を狙って調査地点が選ばれたということである。これにより調査は限定的だが、谷中遺跡群の発掘調査では大型水溜遺構や大型水路が確認され、給・排水の実態が明らかにされたという。また、南大類東沖遺跡ではAs-B水田下に洪水層があり、これに埋もれた水田が発見されている。旭町1遺跡や上大類野地田遺跡の水田もそれであるが、いずれも9世紀代の水田とされている。

その他の遺構では、高崎情報団地遺跡で古代道路跡(89)が確認されているほか、綿貫遺跡には古代寺院跡がある。高崎情報団地の道路跡は、玉村町砂町遺跡・同尾柄町遺跡の道路跡などと直線上にあり、古代官道「東山道」跡と想定されている。古代寺院跡は井野川右岸の綿貫遺跡群に含まれ、1983年の発掘調査で寺院の基壇跡が確認されている。古代寺院の実態は明らかではないというが、綿貫千葉西遺跡(本報告)から県内初出の緑釉陶器托が出土、背景として富豪層の存在と喫茶の風習が見込まれ、在野の僧により集落にもたらされたという(第11章まとめ「40号壑穴建物出土の緑釉陶器托について」を参照)。近年の発掘では高崎市榛名町本郷満行原遺跡で古代寺院が発見されている。ここでも在地富豪層の存在が想定されており、律令体制に係わる地方の動向が見て取れる。

中近世 中世城館址関連では、箕輪城(箕郷町)や寺尾城(寺尾町)など良く知られた城址も多い。箕輪城については史跡整備関連の発掘調査で城の構造が明らかにされ、また、家臣団の居館や農民層の集落の発掘も行われ、文献や発掘調査を通じ、その実態が明らかにされつつあり、中世社会の具体像を実感できるようになった。本遺跡が所在する綿貫地区は藤原系綿貫氏の本貫地と言われ、同地区には「堀米屋敷」(22)がある(高崎市史、資料編3中世1)。また、高崎市東部には古代末から武蔵国の武士団が勢力を広げ倉賀野城・大類城・元島名城などがあり、鎌倉幕府御家人安達氏が八幡原町に館(31)を構えたとされ、また井野川流域には若宮館・下流館(44)・八幡山館がある。城館跡発掘例も、寺ノ内館(浜川町、長野氏家

臣団)や大類城が発掘され、館の構造等も明らかにされている。綿貫地区には中世的地名「曲師」があり、綿貫氏や紅花の名が文献に残されており、今後は中世の要素の具体的把握が課題となる。

近世関連遺構としては、高崎城関連の発掘成果が注目されるところである。高崎城の発掘は現在まで10次に及んでおり、壕の構造解明などに成果を上げている。集落も屋敷まわりの溝や掘立柱建物から近世初期の屋敷跡が想定されているが、通常は屋敷面積が300~500㎡と広く、屋敷全域が調査されることが少なく、まだまだ不明な点が多い。

生産域については、As-A下水田や畑がバイパス関連の上新田新田西遺跡(39)や北関東自動車道の上海五反畑遺跡、同上滝榎町北遺跡(58)が発見されている。復旧法についても溝を掘りテフラを天地返りするパターンや、灰掻き山にするパターン、テフラをテフラ下層の畑耕土に突き込むパターンなどが知られている。天明の噴火で土地が荒廃したのは確かだが、綿貫堤西遺跡以下8遺跡の発掘調査ではそうした復旧痕は見られず、上記8遺跡に限れば、テフラの大部分が完全除去されたものと思われる。

第3節 基本土層

県道抜幅部分の報告(第712集)でも、指摘したとおり高崎市域遺跡の基本土層は表土下にAs-Aがあり、間層を挟んでAs-Bが堆積、以下にはC混じり黒色土、暗褐色土(縄文包含層)と続き、最下層が高崎泥流堆積物となる。榛名起源のテフラは低地に薄く、ブロック状に堆積する程度であり、台地上ではバミスとして確認されるだけである。

今回報告分は、「軽便鉄道跡地」南から県道前橋長瀬線信号「岩鼻町北」付近まで延べ950mである。この間8遺跡があり、それぞれ地形観が微妙に異なっていた。説明が煩雑になるため、ここでは粕川を境に北の綿貫地区と南の岩鼻地区に分け、基本土層を記載する(第4図)。

遺跡周辺の地形については前項「第1節 地理的環境」で触れたとおりであるが、微地形を含めてもう少し丁寧に状況を説明する必要がある。綿貫地区周辺地形は圃場整備が済み平坦だが、明治期の壬申絵図や迅速測図から浅い窪地があり、そこが水田化されていることが分かる。

粕川以北の綿貫地区遺跡が調査対象から外れるのは江戸時代から窪地であった地点や、明治期に行われた最初期の圃場整備事業によることが影響している。また、現道(市道)も拡幅や線形改良がなされているが、現道は江戸時代の古道を引き継いでいることが判明しており、遺跡を理解するうえで有力な情報源となる。詳細は後述することとして、ここではアウトラインのみ記載する。

本書で扱う最も北の調査地点が綿貫堤西遺跡であり、50mほど南に綿貫堤遺跡がある。続く遺跡は綿貫千葉西遺跡だが、堤-千葉西遺跡間は200mほど空白域がある。

堤西・堤遺跡の県道東地点や千葉西遺跡の県道西地点は調査対象から外れているが、明治初期の迅速測図には粕川に並行して水田があり、粕川流域の低地部や旧流路が水田利用されたものと思われる。江戸期から続く生産域が調査対象から外れたのはテフラが確認できないためであり、継続的な耕作で過去の水田が分からなくなってしまったためであろう。取り付け道路部分の試掘結果を見ても黒色土は粘土化していたようで、これにより軽便鉄道のルート上に延びた低地(粕川の旧流路)であることが分かる。

通常、As-AやAs-Bは鋤き込まれていることが多く、純層で堆積することは少ない。第712集では地点毎に土層堆積が記録されていたため、各地点の土層堆積を読み替えて記載しておいた。本書の基本土層は年度毎の記載であり、地点毎の土層対比は別に行う必要がある。

<綿貫堤西遺跡：No. 1>

北側調査区南端の基本土層で、1層は上層が碎石、下層はローム(泥流堆積物)と黒色土の斜め互層堆積。2層がAs-Aを含む暗褐色土(やや還元気味の旧耕作土)。3層は鉄サビしたAs-B混じり黒色土(淡)、4層はAs-B混じり黒色土(濃)で、部分的にAs-Bが残る。5層は、灰褐色粘質土(上層はAs-B下水田耕土相当)。下層はシルト質で、洪水堆積したもの。6層は灰褐色シルト層。高崎泥流層と注記されているが、鉄サビで黄色く見えるだけかもしれない。下層(7層)が黒色粘土化しており、最下層の白色粘土が高崎泥流層になる可能性がある。

<綿貫堤西遺跡：No. 2>

南側調査区1号井戸南の基本土層である。1層は耕作土で、下部は斑鉄層(鉄サビ)と見られる。2層はAs-AとAs-Bを含み、やや砂質である。黄褐色土と注記されてい

るが、鋤き込まれた状態でテフラを見分けることができるというなら、ある程度までテフラの詳細を記載しておく必要がある。3層は粘性の強い暗褐色土、4層は漸移層、5層は高崎泥流層。

<綿貫堤遺跡：No. 3>

表土から連続する基本土層が作成されていないため、旧石器トレンチの土層に、鋤先痕確認面の標高値および鋤先痕脇の土止め用コンパネを参考に現表土を想定してこの地点の基本土層図とした。あくまでも参考資料程度に考えていただきたい。調査地点は高崎原子力研究所前の水田(県道西)で、土層注は写真から復元した。

1層は耕作土。小礫を多く含み、最下層にはAs-B混土が薄く堆積した可能性が高い。2層はAs-B下の水田耕土。上面で鋤先痕が確認されている。破線は鋤先痕確認面のコンタから復元した。3～5層の現場注記は高崎泥流層と記載されていたが、最下層が黒色粘質土であることは確実であり、3・4層は鉄サビの付いた灰褐色シルトと見られる。粕川が近接して流れており、地形的には粕川の低地部になる。

<綿貫千葉西遺跡：No. 4>

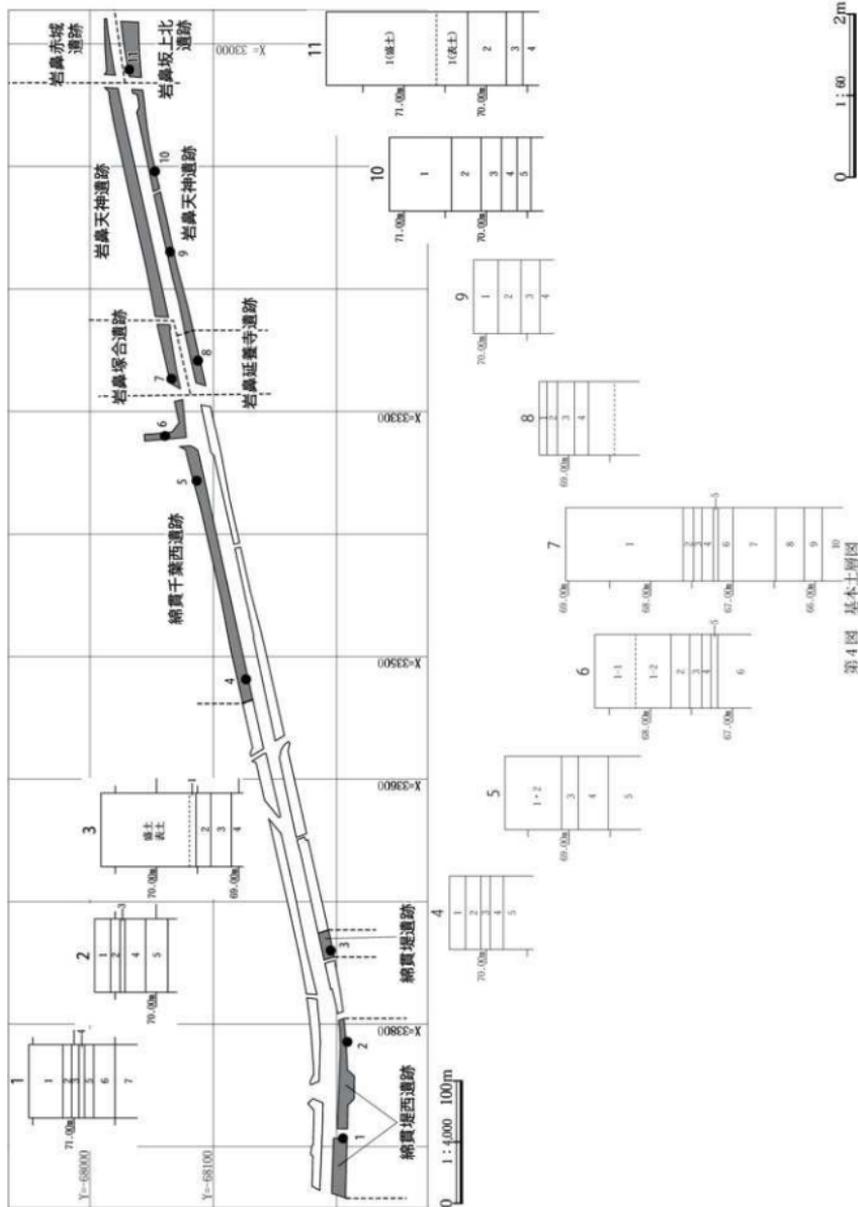
1層が現耕作土、2層は旧耕作土(As-Aを含む)とある。3・4層は黒褐色土と注記されているが、漸移的で明瞭な差はない。4層に遺物包含層とある。5層は高崎泥流層になる。

<綿貫千葉西遺跡：No. 5>

表土から続く基本土層が作成されていないため、堅穴建物断面図と旧石器調査の土層図を合成して、この地点の基本土層図とした。1層：表土層、2層：暗褐色土、3層以下が高崎泥流ということになる。2層と3層の境界は凹凸が激しく、恐らく縄文包含層になるものと見られる。

<綿貫千葉西遺跡：No. 6>

1層は上半が碎石で、下半が盛土になる。2層は泥流起源のローム塊を含む黒褐色土。3層は還元気味に脱色した暗褐色土。4層より下層は分層されておらず不明瞭である。4・5層は鉄サビが付き、斑鉄層が形成されていることから、3層が水田耕土になる可能性が高い。6層は褐色土、7層は鈍い黄褐色土とあり、高崎泥流に対応するものか。水田は確認されていないが、粕川の形成した低地部ということになる。



第4図 基本土層図

<岩鼻塚合遺跡：No.7>

1層は厚い盛土。2・3層は同質の土壌。4層はAs-Bが含まれ、いわゆるB混土とされるもの。斑鉄層により黄色く見えたもの。4層が斑鉄層なら、2・3層は水田土壌になる。5層はAs-Bの純層。6層は通常なら水田の耕土(黒色粘質土)。7層は黒褐色土とされているが、黄色味が強く鉄サビの影響がある。写真で見える限り細粒土壌で、シルト質に見える。これが斑鉄層になるなら6層は水田耕土になる可能性もある。8層以下は細砂礫を含み河川堆積物ということになる。

<岩鼻延養寺遺跡：No.8>

1層は碎石、2層はAs-A混じり灰褐色土、3層は暗褐色土(漸移層)、4層以下が高崎泥流層。

<岩鼻天神遺跡：No.9>

1層は碎石、2層は鈍い暗褐色土、3層は黒褐色土(斑状に2層を含む)、4層は黒褐色土(縄文包含層に相当)、5層は漸移層、6層以下は高崎泥流層。

<岩鼻天神遺跡：No.10>

1層は碎石、2層は灰褐色土(As-A・Bを含む)、3層は黒褐色土(As-B混土)、4層は暗褐色土(3層よりやや明るい、縄文包含層に相当)、5層は漸移層、6層以下は高崎泥流層。

<岩鼻坂上北遺跡：No.11>

1層は盛土(最上層は砂と砂礫の互層、以下旧耕作土、最下層はロームが多く混じる盛土)、2層は炭化物を含む暗褐色土、3層は黒褐色土、4層は高崎泥流相当。

基本土層の1～6が粕川以北のそれであり、同じく7～11が粕川以南の基本土層になる。粕川以北の3遺跡については県道東の綿貫千葉西遺跡は宅地となっており、県道レベルが表土になる。一方、県道西の綿貫堤西遺跡や綿貫堤遺跡の現況は水田であり、県道より段差がある。綿貫3遺跡間には途中200m近い空白域があり、各遺跡の基本土層を並べてみても、地形観は分かりにくいのであるが、台地部と低地部では大きく異なり、特にAs-B以下の堆積が特徴的である。As-B下の水田耕土と見られる黒色粘質土や灰白色シルト質土がそれであるが、鉄サビが付いて見わけにくいのが実態である。調査区が広く水位が下がる時期であるならば、シルト質土の下の調査も容易となり、平安期水田や溝の確認が期待されよう。一

方、台地部(綿貫千葉西遺跡)では遺構が激しく重複するほか、深く及んだ耕作等も影響して、As-B降下前後の黒色土は部分的に残存する程度で、地点間の土層対比が難しい状況にある。

粕川以南については、県道が下位段丘面と上位段丘面の変換点に当たり、南ほど厚く盛土されていた。岩鼻町信号付近は上位段丘頂部へ移行する地形変換点にあり、岩鼻坂下北遺跡—岩鼻町信号間も同様で緩い勾配になっており、未調査地になっているが、前橋長瀬線を整備するのに当たり相当量の盛土がなされている可能性が高い。

以上が令和元年度～令和3年度調査地点の基本土層になる。土層堆積の傾向は大きく変わることはないが、1～5が粕川左岸側調査遺跡の基本土層であり、6～11が右岸側調査地点のそれである。6・11間に粕川が流れ、右岸側は南に、左岸側は北に傾斜していることが分かる。基本土層1(綿貫堤西遺跡の北側調査地点)及び3(綿貫堤遺跡)の地点ではAs-Bが堆積、その下位には鋤痕があり、水田利用されていたが、1・2では水田が高く、同じ水田でも1地点の水田と、3地点の水田では地形的に異なり、前者は古い流路跡を利用した水田であり、後者は現粕川の形成した低地部を利用した水田とすることができる。一方、右岸側6～11は2mの標高差がある。勾配は0.83%ほどであり、それほど勾配があるとはいえないが、11地点は盛土だけで1mを超える。これより南の地点は調査対象地から外れているが、徐々に勾配を強め上段の段丘面に至る。

遺跡の基本土層とするには調査区を超えて呼称が統一されるのが理想だが、まったく同じ堆積状況というのはそうそうあるはずもない。基本土層とする以上は土層の同質性なり時代性が明らかにされるべきであるが、それには土層名称が誰でも分かる、理解できるものにする必要がある。いくら詳しく特徴を記載しても普遍化できるものでなければ、共通理解が深まることはない。土層注を共通言語化するには特徴的なテフラがあれば、土色帳による記載より、テフラを前面に押し出した記載が効果的である。本書では各地点共通の基本土層で土層堆積を記載しようとしたが、記載の統一性が確保できず、土層注については遺構毎に対応した。

第3章 綿貫堤西遺跡

1. 概要

本遺跡は、令和元年度調査の綿貫41遺跡13区および令和2年度調査1区に当たる。遺跡は軽便鉄道跡地の南にあり、市道H984号線まで南北150m弱を対象として発掘調査がおこなわれた。

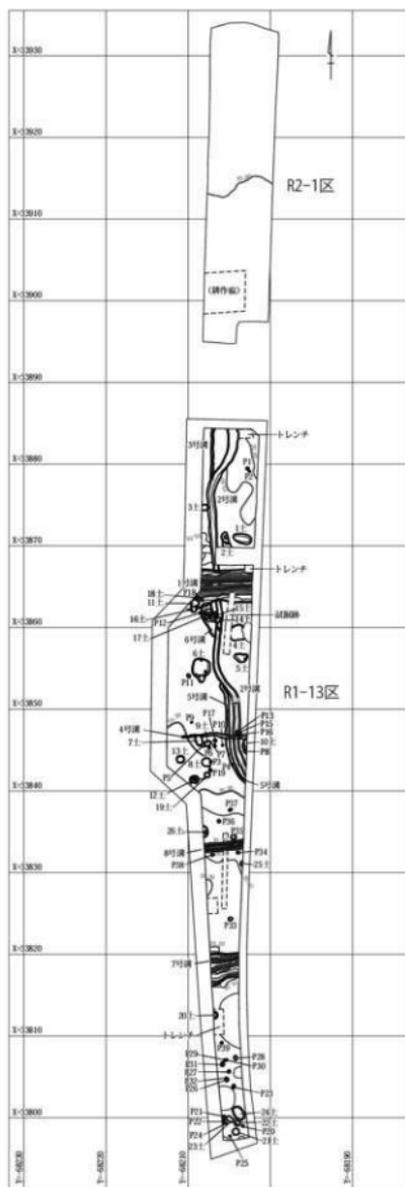
令和2年度調査の1区は軽便鉄道跡に接する調査区で、As-Bを動き込んだ鋤先痕が調査区の全域で確認されている。本遺跡の発掘調査では、水田耕作に伴う水路(溝)等は確認できていないが、軽便鉄道北には未調査地を挟んで綿貫反町遺跡があり、北西-南東軸の溝が多数確認されている。溝は複数本が重複、繰り返し掘り直されていたことが明らかである。溝は水路として機能、これにより畑地と水田下が分かれていたのであろう。これに続く南側調査地点(R1-13区)には、中世地下式土坑1基や小形土坑15基、溝7条等が確認されている。溝は南北軸のものや東西軸のものがあり、東西軸の溝3条の覆土は2条がAs-B混じりで中世溝、残り1条が近世溝になる可能性がある。これに対し南北軸の2号溝は途中クランクしているが、覆土は近世的であり、近世の区画溝か街道脇の溝か、いずれかになるであろう。

県道の東側は、試掘調査(延べ25m)により遺構なしとされたところである。壬申絵図や迅速測図を踏まえれば、県道東の北側地点は低地部に当たり、南側は江戸時代の堤集落に当たるものと思われる。遺跡認定されないのは最近まで水田が継続的に耕作されていたことや、攪乱等により遺構が認定できない状況が影響しているため、としておきたい。

2. 中・近世

a. 鋤先痕

北側調査区全域で、耕作痕が確認されている。耕作痕は314mほどに広がり、調査区北にも耕作痕が広がる可能性が高い。耕作痕としたものは、片側がU字状、片側が直線状を呈す。形状から鋤先痕とされるもので、As-B下の水田耕土上面で確認されたものである。鋤先痕は北側調査区全域に及んでいたが、特に残存状態が良好な調



第5図 綿貫堤西遺跡全体図(1:600)

査区の南側、30mの鋤先痕が精査されている。

これに似た鋤先痕は高崎や玉村地区ではよく見かけるものであるが、掘り込み面が確定できないことや、出土遺物が圧倒的に少なく、復旧時期については確定できていない。As-B混じり黒色土は、通常県内では「B混」と呼ばれ、埋蔵文化財担当者の間では共通言語化した用語である。「B混」の濃淡は土壌化の程度を反映するかもしれないが、どのようにして濃淡が生じたのか、その詳細は不明である。江戸時代の火山災害復旧法には「灰掻き穴」と「起返し」がある。「灰掻き穴」は静岡県御殿場市の富士山麓でも確認されており、地域や時代を超えた田畑復旧法といえそうであるが、As-B下水田では復旧坑(灰掻き穴)はほとんどみられず、鋤先痕として確認されることが多い。

鋤先痕がテフラ降下直後に残されたものか、時間を置いて残されたものか、判断するだけの根拠がないのは本遺跡も変わらないが、鋤先痕は深くAs-B下の水田耕土まで及ばず、むしろ水田耕土直上で意図的に鋤先を止めているようにも見える。

鋤先痕(第6図)

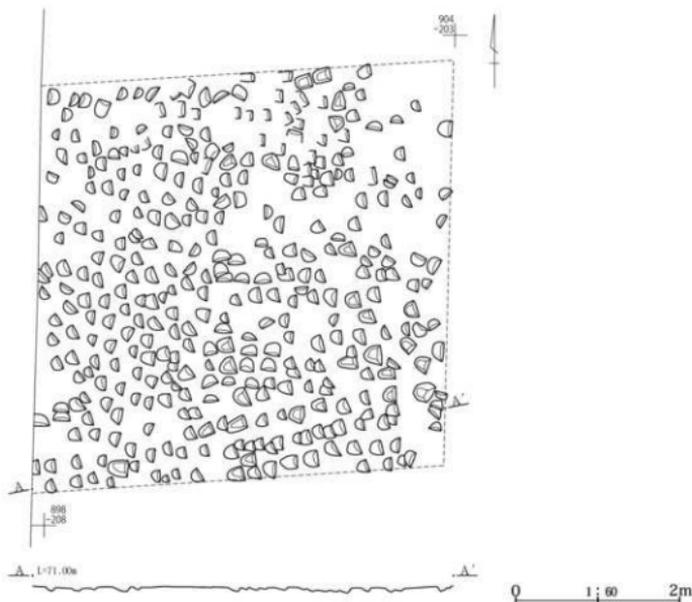
位置 X=33894~33934、Y=-68189~68208

規模 314㎡(南北40m、東西8m)

確認面 As-B直下の水田耕土上面が確認面になる。北側調査区中央の標高は70.90m、耕作痕の詳細調査地点の標高は70.85mほどであり、地形的にはほぼ平坦である。耕作痕の分布域は周辺にも広がるのが確実であり、50m北の台地縁辺(事業団報告書第712集、納貝反町遺跡12区)の溝までが水田になる可能性がある。

鋤先痕 平面形状は半月状を呈す。概ね、鋤先痕は東西方向に並び、重複することも少なく組織的系統的だが、北壁際には逆方向の鋤先痕もあり、詳細調査区中央(Y=-62205~62206ライン)には南北方向を向いたものもある。データ化された鋤先痕については平面図から判断するしかないが、手前直線部「当り面」(下芝天神遺跡、第231集272頁参照)が13~22cm、これに直交する直線部から先端部までが10~25cm程度になるようである。

所見 鋤先痕(第6図)は、概して中央付近より北壁側



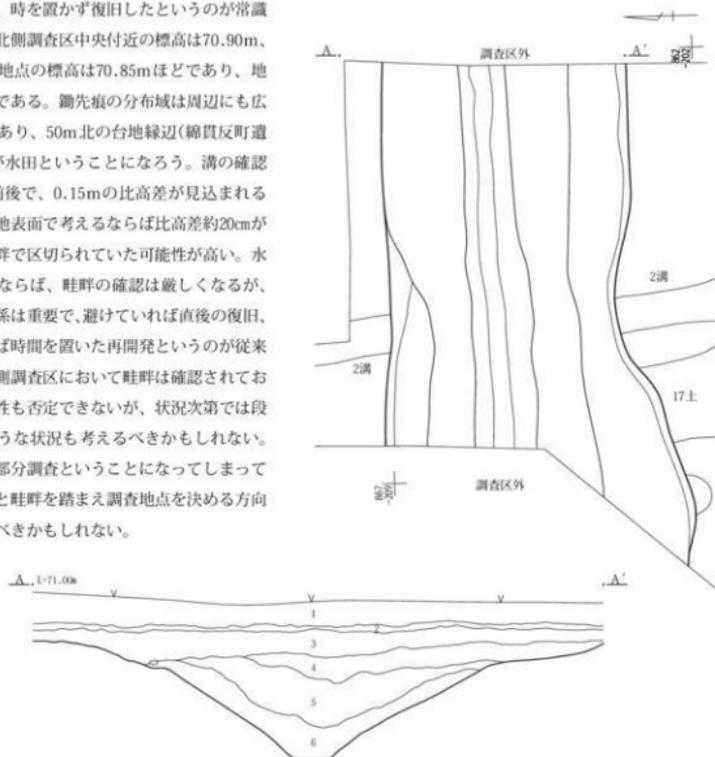
第6図 鋤先痕詳細図

が粗く手前側が密集しており、鋤先痕の間隔や方向も微妙に振れているが、基本的には耕作の累積とするより、一過性の作業と思われる。鋤先痕には方向の異なるものがあるが、それは隙間を埋めるものであり、耕作者の律義さ、丁寧さが垣間見える。

本遺跡北側調査区の鋤先痕は、耕作痕として報告することも考えてみたが、鋤先痕としたものが直後の復旧を示しているのか、それとも時間を置いた再開発であるのかは証明されていないという。畑作地帯であるがゆえに水田は貴重であり、時を置かず復旧したというのが常識的な解釈になる。北側調査区中央付近の標高は70.90m、鋤先痕の詳細調査地点の標高は70.85mほどであり、地形的にはほぼ平坦である。鋤先痕の分布域は周辺にも広がるのが確実であり、50m北の台地縁辺(綿貫反町遺跡12区)の溝までが水田ということになる。溝の確認は標高71.00m前後で、0.15mの比高差が見込まれることになるが、旧地表面で考えるならば比高差約20cmが見込まれ、途中畦畔で区切られていた可能性が高い。水田が休耕田であるならば、畦畔の確認は厳しくなるが、鋤先痕と畦畔の関係は重要で、避けていけば直後の復旧、無視しているならば時間を置いた再開発というのが従来の解釈である。北側調査区において畦畔は確認されておらず休耕田の可能性も否定できないが、状況次第では段階的復旧というような状況も考えるべきかもしれない。鋤先痕(耕作痕)は部分調査ということになってしまっているが、水田区画と畦畔を踏まえ調査地点を決める方向に調査法を改めるべきかもしれない。

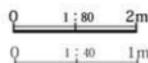
b. 溝

溝8条が確認されている。内訳は南北方向の溝4条、東西方向の溝4条である。溝の出土遺物は概して少なく、7号溝から常滑陶器片(第183図2)が出土しているのみである。溝に近世溝と中世溝があるのは確実で、As-B混土で埋まるという7・8号溝が中世溝、残る1～5号溝が近世溝となるとみたが、2・3号溝は意外に古く平安期になるかもしれない。



R1-13区1号溝

- 1 表土
- 2 明褐色土 しまりの強い土。As-Aと思われる。白色軽石を含む。
- 3 褐色土 As-Aと思われる白色軽石を多く含む。
- 4 褐色土 As-Aと思われる白色軽石、ロームを含む。しまりが強い。
- 5 褐色土黄褐色土 ロームを多量に含む。人為的に埋没させた土か。
- 6 褐色粘質土 褐鉄鉱を多く含む。自然埋没の土か。



第7図 R1-13区1号溝

<R1-13区1号溝>(第7図)

位置 X=33862~33867, Y=-68202~68210

形状 断面はV字状に大きく開く。溝底面の幅は40cm前後で、ほぼ平坦。砂や黒色土の薄層などが流れた痕跡はない。

規模 長さ(6.26m)・幅3.65~4.60m・深さ0.96m

長軸方位 N-87°-E

重複遺構 2・3号溝と重複する。新旧関係は明らかでない。

埋没状況 上層はAs-Aを含む黒色土、中位は礫混じりローム、下層は還元気味のシルトで埋まる。

所見 中層以上は人為的埋土の可能性ある。整地後は水田化され、表土下に斑鉄層が形成されている。As-B混土で埋まる状況にはないが、溝の形態や溝の検出位置からすれば中世溝の可能性も想定しておきたいところである。

<R1-13区2号溝>(第8・9図)

位置 X=33840~33884, Y=-68203~68207

形状 溝の走行は略南北方向。溝の南端側は若干弧状となり、走行が変わる。溝の走行は1号溝を介して弓状に折れ、1号溝を挟んで対称形となる。溝断面はU字状を呈す。溝は中央付近が深く、北端で深さ10cm、南端で深さ20cmほどである。溝底面は概ね平坦であり、水が流れたような痕跡は乏しい。

規模 長さ(43.8)m・幅0.7~1.5m・深さ0.1~0.3m

長軸方位 N-1°-E→N-35°-E→N-38°-W→N-20°-W

重複遺構 1・3・6号溝と重複する。

埋没状況 表土下に斑鉄層(1層、白色バミスを含む)が形成、2層の黒色土は水田耕土、最下層(4層)は灰白色に近いシルト。

所見 1層の白色バミスにはAs-Aの記載が残る。2層は北側調査区As-B下の水田耕土に相当する。4層は白色バミスが多量に含まれるとする記載があり、層的には極名起源の軽石という可能性も考える必要がある。また、最下層の白色シルトには平安期洪水層に由来する可能性を考えているが、隣接地の基本土層には伊勢崎砂層中のシルトを指摘する記載がある。いずれにしても溝の稲属時期は平安期とするのが妥当である。出土遺物に中近世遺物はなく、須恵器底部破片があるだけである。

<R1-13区3号溝>(第8図)

位置 X=33878~33884, Y=-68206~68207

形状 走行は略南北方向。溝幅の差は明らかであるが、2号溝の延長上であり、溝の走行は変わらず、2・3号溝は無関係とも言い難い。溝断面はU字状を呈する。

規模 長さ(4.18)m・幅0.33m・深さ0.12~0.18m

長軸方位 N-2°-E

重複遺構 2号溝と重複する。調査段階の所見は2号溝に切られるとあるが、切り合い関係は微妙。

埋没状況 基本的には粘質土だが、部分的には砂質で、大形の白色バミスが含まれるという。

所見 新旧関係については重複部分が部分的であり、どちらとも言い難い。

<R1-13区4号溝>(第9図)

位置 X=33846~33847, Y=-68202~68210

形状 溝の走行は略東西方向、1・8号溝の走行に近い。溝より南は地形が下がり気味で、溝に並行するよう小形ピットが並ぶ。溝は浅く、断面は皿状に近い。

規模 長さ(7.9)m・幅0.2~0.5m・深さ0.1m

長軸方位 N-90°-E

重複遺構 7・10号土坑を切る。

埋没状況 褐色土で埋まる。

所見 溝に接して柱穴や土坑がある。溝は浅く、敷地を小割する程度の溝。人為的に埋まる可能性あり。溝を境に南側が微妙に下がり気味だが、これが意味することは分からない。

<R1-13区5号溝>(第9図)

位置 X=33840~33853, Y=-68203~68206

形状 溝は浅く、その断面形状は皿状を呈す。2号溝に並行するように幅0.5m弱の間隔が空く。

規模 長さ(12.8)m・幅0.3~0.5m・深さ0.03~0.07m

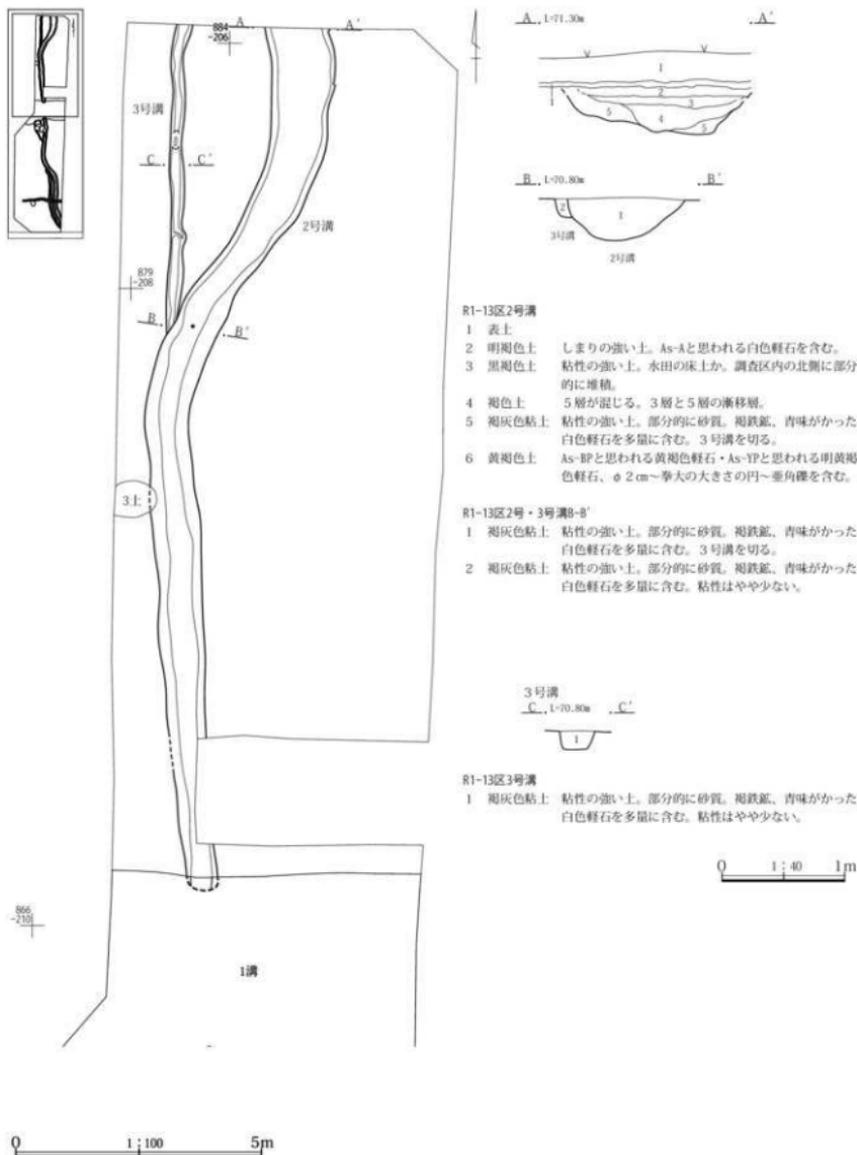
長軸方位 N-15°-W

重複遺構 なし

埋没状況 ローム粒を含む褐色土で埋まる。

所見 2・5号溝の走行は並行しており、2本の溝は無関係ということはないだろうが、出土遺物もなく具体的な検討は難しい。

R1-13区2・3号溝



R1-13区2号溝

- 1 表土
- 2 明褐色土 しまりの強い土。As-Aと思われる白色軽石を含む。粘性の強い土。水田の床土。調査区内の北側に部分的に堆積。
- 3 黒褐色土
- 4 褐色土 5層が混じる。3層と5層の漸移層。
- 5 褐色粘土 粘性の強い土。部分的に砂質。褐鉄鉱、青味がかった白色軽石を多量に含む。3号溝を切る。
- 6 黄褐色土 As-BPと思われる黄褐色軽石・As-YPと思われる明黄褐色軽石、φ 2cm～華大の大きさの円～亜角礫を含む。

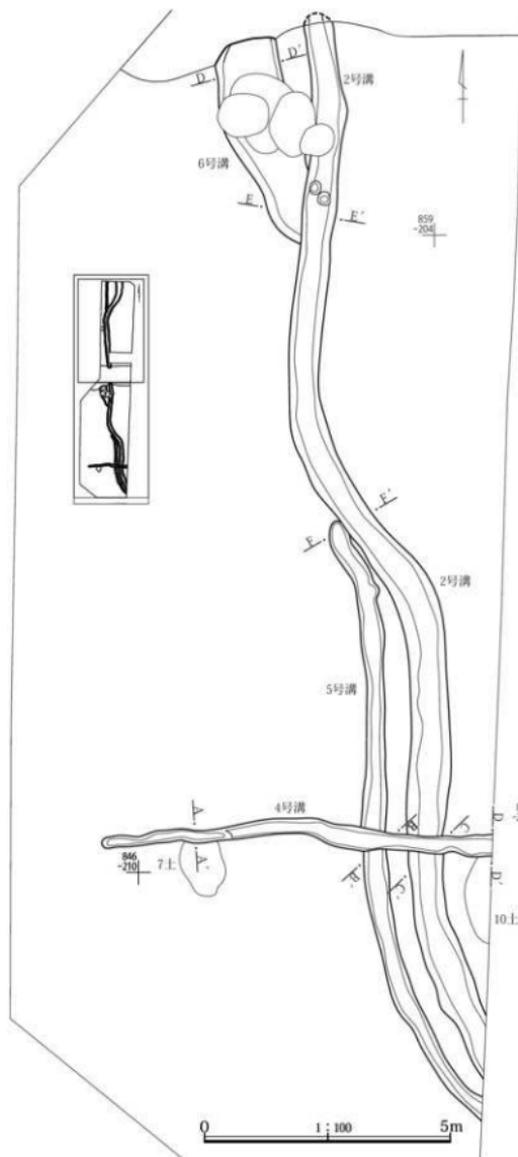
R1-13区2号・3号溝B-B'

- 1 褐色粘土 粘性の強い土。部分的に砂質。褐鉄鉱、青味がかった白色軽石を多量に含む。3号溝を切る。
- 2 褐色粘土 粘性の強い土。部分的に砂質。褐鉄鉱、青味がかった白色軽石を多量に含む。粘性はやや少ない。

R1-13区3号溝

- 1 褐色粘土 粘性の強い土。部分的に砂質。褐鉄鉱、青味がかった白色軽石を多量に含む。粘性はやや少ない。

第8図 R1-13区2・3号溝



6号溝

D, 1-70.70m

D'



2・6号溝

E, 1-70.70m

E'



R1-13区2・6号溝

- 1 褐色粘土 粘性の強い土。部分的に砂質。褐鉄鉱、青味がかった白色軽石を多量に含む。
- 2 黒褐色土 白色軽石、ローム粒を多量に含む。炭化物を少し含む。

2・5号溝

F, 1-70.60m

F'



R1-13区2・5号溝

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。5溝1層よりやや暗い色調を呈す。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を含む。

A, 1-70.60m

A'



R1-13区4号溝、7号土坑

- 1 褐色土 ロームを少し含む。
- 2 暗褐色土 ロームを多く含む。

B, 1-70.60m

B'

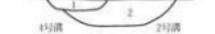


R1-13区5・4号溝

- 1 褐色土 ロームを少し含む。
- 2 灰黄褐色粘土 ロームを少し含む。

C, 1-70.60m

C'



R1-13区4号溝・2号溝

- 1 褐色土 ローム粒子を少し含む。
- 2 灰黄褐色土 ローム粒子を含む。

D, 1-70.90m

D'



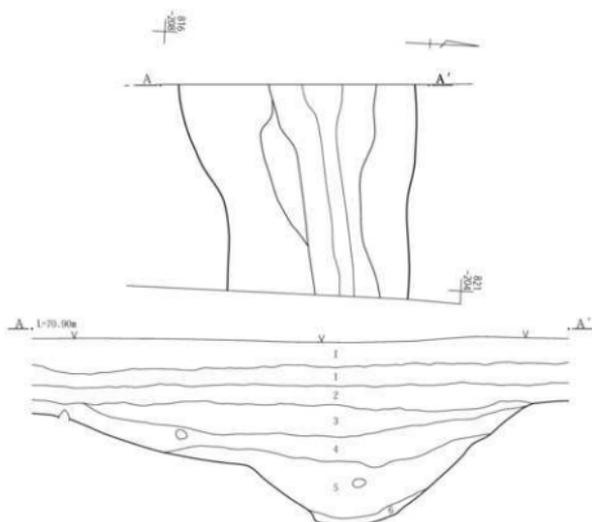
R1-13区4号溝

- 1 褐色土 ローム粒子を少し含む。

0 1:40 1m

第9図 R1-13区2・4~6号溝

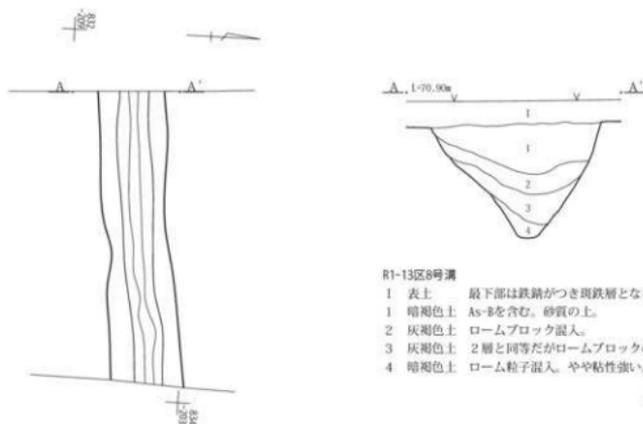
R1-13区7号溝



R1-13区7号溝

- 1 表土 最下部は珪鉄層となる。
- 1 黒褐色土 ロームブロック+小礫を多く含む。しまりには欠ける。人為的埋土か？
- 2 にぶい黄褐色土 As-Aを含む。全体的に鉄跡で赤味を帯びる。
- 3 黒褐色土 As-Bを含み砂質As-Aを含む。
- 4 暗褐色土 As-Bを多量に含む。砂質上半部は、赤味を帯び現状になる。
- 5 にぶい黄褐色土 As-Bを含む。鉄跡で赤味を帯びる粘性。
- 6 にぶい黄褐色粘質土 ローム粒子を含む。

R1-13区8号溝



R1-13区8号溝

- 1 表土 最下部は鉄跡がつき珪鉄層となる。
- 1 暗褐色土 As-Bを含む。砂質の上。
- 2 灰褐色土 ロームブロック混入。
- 3 灰褐色土 2層と同等だがロームブロックの混入量が多い。
- 4 暗褐色土 ローム粒子混入。やや粘性強い。

第10図 R1-13区7・8溝

<R1-13区6号溝>(第9図)

位置 X=33858~33863, Y=-68206~-68208

形状 断面形状は浅く、鍋底状を呈す。

規模 長さ(3.53)m・幅1.40m・深さ0.13~0.27m

長軸方位 N-15°-W

重複遺構 1・2号溝と重複する。

埋没状況 黒褐色粘質土で埋まる。

所見 溝と捉えているが、認定は難しい。土坑状のシミも重なり、詳細は明らかでない。

<R1-13区7号溝>(第10図)

位置 X=33816~33820, Y=-68203~-68207

形状 断面はV字状に大きく開く。溝底面の幅は25~63cm前後で、ほぼ平坦である。砂や黒色土の薄層などが流れた痕跡はない。

規模 長さ(3.47)m・幅2.9~3.6m・深さ0.89m

長軸方位 N-80°-E

重複遺構 なし

埋没状況 表土直下が斑鉄層となる。1・2層はAs-Aを含む黒色土、3・4層はAs-B混土、下層は粘質土が堆積する。水が流れた痕跡は見られない。全体として人為的に埋めたような状況はないように思う。

所見 溝の形状や規模は、1号溝に近い。溝から出土遺物は確認されていないが、中世溝になる可能性が高い。

<R1-13区8号溝>(第10図)

位置 X=33832~33834, Y=-68203~-68208

形状 断面はV字状に大きく開く。溝底面の幅は10~20cm前後になる。溝の底面は概ね平坦だが、東西両端で6cmのレベル差がある。

規模 長さ(4.77)m・幅0.92~1.18m・深さ0.6m

長軸方位 N-83°-E

重複遺構 なし

埋没状況 As-B混土で埋まる。中層(2層)以下は、ロームブロック混じりの褐色土で埋まる。人為的に埋めている可能性がある。

所見 As-B混土で埋まるあり方は、7号溝と同様。溝を埋める土層の堆積状況から、水路等の機能は想定されないことは明らかである。屋敷区画溝等が想定されよう。

c. 井戸

井戸は7号溝の南にあり、1基のみ単独分布した。井戸の周辺は攪乱が激しく、遺構の分布状況について断定的に説明することはできないが、7号溝の南には土坑やピット類が他の地点より密集傾向が窺える。

位置 X=33812, Y=-68206

形状 略円形状を呈する。

規模 径0.91m・深さ0.56m

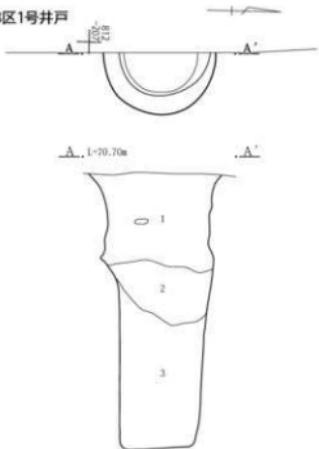
長軸方位 -

重複遺構 なし

埋没状況 井戸にはトレンチが重なり、通常より掘り下げて、平面確認されている。井戸の埋没土は記録されておらず詳細については不明だが、写真を見る限り、砂混じりシルトや礫混じりシルトが互層堆積、人為的埋土により埋め戻されたものと見られる。

所見 井戸の埋没時期が分かる遺物は、現状では確認できていない。素掘り円筒状の井戸であり、近世の枠内に収まるものと思われる。

R1-13区1号井戸



R1-13区1号井戸

- 1 暗黄色土 ロームブロックを含む。
- 2 相対色土 拳程度の円礫を多量に含む。
- 3 黒褐色土と円礫を多量に含む砂質土が互層堆積する。

* 1~3は人為的埋土

0 1:40 1m

第11図 R1-13区1号井戸

d. 地下式土坑

1基のみ確認されている。遺構は略南北方向を向き、南側に突出部(出入口部)がある。時期不明であり詳細は不明だが、関連がありそうな区画溝(1号溝)とは約7m離れている。

<R1-13区1号地下式土坑>(第12図、Pl. 6)

位置 X=33853~33856, Y=-68207~-68209

形状 略方形の本体に突出部が付く。

規模 径2.15m・深さ0.76m

長軸方位 N-0°

重複遺構 なし

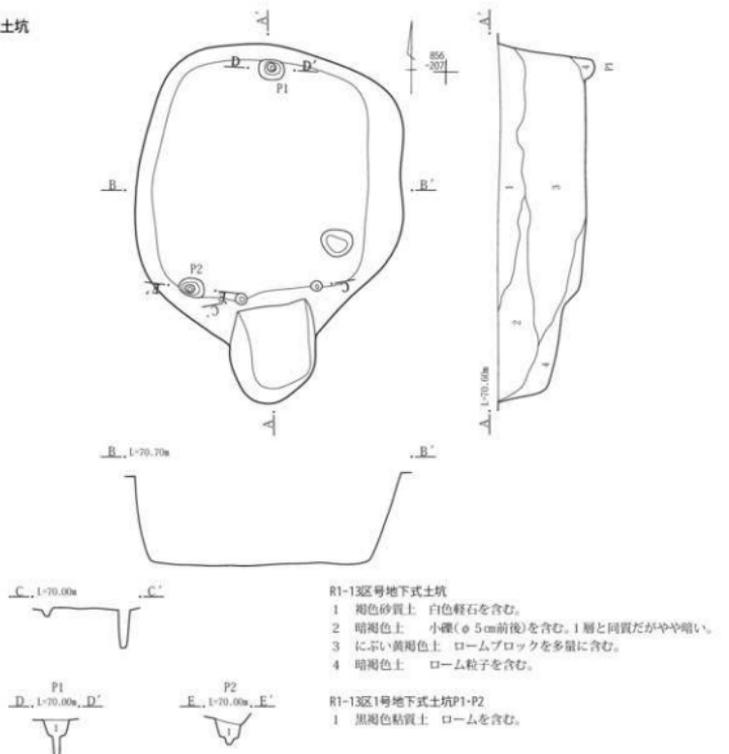
床面 奥壁際中央に柱穴1がある以外、北壁際に柱穴

はない。一方、出入口側には南西側コーナーに柱穴2があるのみであり、南東側コーナーには対応する柱穴は見当たらず、出入口部に小ピット2があるだけである。南東コーナーからやや離れて柱穴が確認されているが、深さ数cmと浅く柱穴とすべからず難しいところである。

埋没状況 壁際に黒色土の薄層が堆積しているが、大部分は奥壁側から人為的に埋め戻されたように見える。

所見 確認状態から考えて、掘り抜くタイプではなく、簡単な上屋を掛け、室としたものと思われる。出入口部の構造は不明だが、室と出入口部を仕切る屏が必要と思われる。小ピットはこれを示唆するものかもしれない。

R1-13区1号地下式土坑



R1-13区号地下式土坑

- 1 褐色砂質土 白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 小礫(φ 5cm前後)を含む。1層と同質だがやや暗い。
- 3 濃い黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子を含む。

R1-13区1号地下式土坑P1-P2

- 1 黒褐色粘質土 ロームを含む。

第12図 R1-13区1号地下式土坑

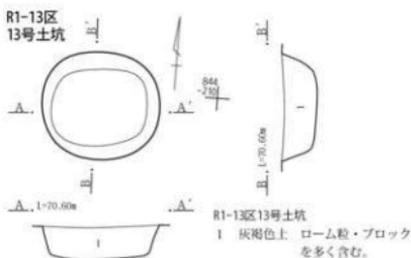
e. 土坑

土坑は14基が確認されている。いずれも南側調査区にあり、散在傾向が著しい。南側調査区北端の基本土層は薄く黒色粘質土が見られる。これが北側調査区の鋤先痕に続く黒色粘質土(As-B下の水田耕土)であり、南側調査区と北側調査区間の市道が古い江戸期の小径で、この小径より南が居住域になる。土坑には円形・楕円形・方形タイプがあり、南側調査区の両端および中央付近に分布が集中する傾向がある。調査段階で土坑としたものに井戸1・地下式土坑1が含まれていた。これについては土坑から除外、別項で解説した。

<円形タイプの土坑>(第13図)

円形タイプの土坑は、4基(8・12・13・21号土坑)がある。調査区の中央付近に集中、サイズ的には径1m前後を測る。形態的に桶埋設土坑の類が想定されるだろうが、木桶板の痕跡がなく、木桶を固定した粘土も観察できないことから桶埋設土坑の可能性は低い。陶磁器等の出土遺物は皆無であり、土坑の帰属時期は不明である。

<円形タイプの土坑>



<楕円形タイプの土坑>(第14図)

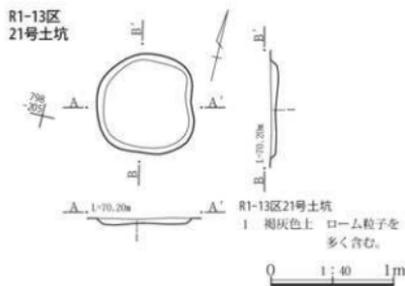
楕円形タイプの土坑は6基(1・3・7・10・23・24号土坑)がある。長軸0.96~2.24m・短軸0.51~1.17mと土坑サイズはバラついているが、長楕円形の1号土坑を除けば、長短比2:1を超えるものはない。各土坑とも出土遺物がなく、土坑の帰属時期は不明。24号土坑は覆土がローム土であり、鉄サビが付いてなんと珍しい。これに似た焼土様に鉄サビが付いたロームが納貝千葉西遺跡R3-5区8号竪穴建物の壁際にある(PL.10参照)。遺構とする明確な根拠はない。

<方形タイプの土坑>(第15図)

方形基調の土坑は2基(2・19号土坑)がある。調査区北と中央付近に各1基があり、分布に集中傾向は見られない。調査区北の2号土坑は、ロームの軟質部を掘り過ぎていた可能性があり、本来的には壁際の浅い土坑だけが遺構認定されるべきである。土坑の出土遺物はない。

<その他の土坑>(第15図)

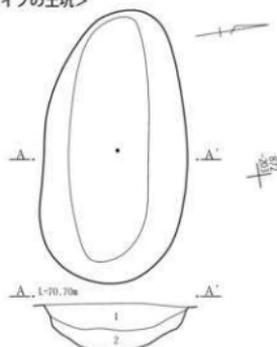
25号土坑は形状が確定できないため、27号土坑は若干やや深過ぎるためその他の土坑としてみた。本来的には円形土坑の範疇で理解すべきものかもしれない。



第13図 R1-13区土坑1

<楕円形タイプの土坑>

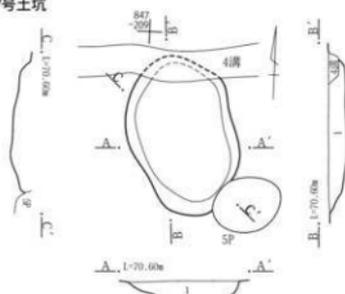
R1-13区
1号土坑



R1-13区1号土坑

- 1 暗褐色粘質土 ローム粒を少量含む。白色粘質土をブロック状に含む。鉄が沈着する。
- 2 褐色粘質土 ロームブロックを含む。

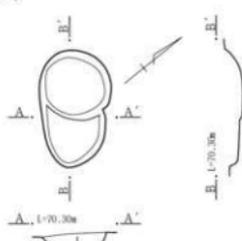
R1-13区
7号土坑



R1-13区7号土坑

- 1 暗褐色土 ロームを多く含む。

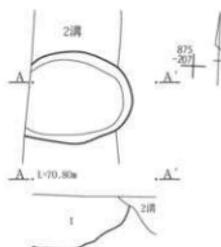
R1-13区
23号土坑



R1-13区23号土坑

- 1 灰黄褐色土 ロームを少し含む。

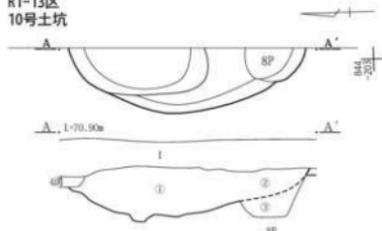
R1-13区
3号土坑



R1-13区3号土坑

- 1 暗褐色土 φ3~5mmの礫を多く含む。鉄跡する。

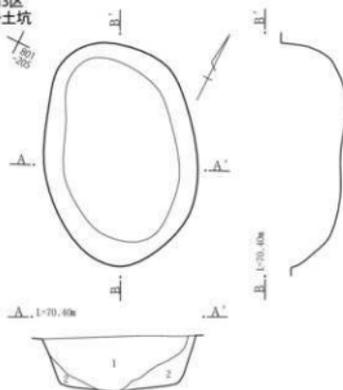
R1-13区
10号土坑



R1-13区10号土坑

- ① 褐色土 ローム粒子を少し含む。4号溝覆土。
- ② 暗褐色土 焼土粒、白色粒を多量に含む。
- ③ 黒褐色土 焼土粒を含む。
- ④ 暗褐色土 ローム粒子を含む。色調は暗い。8号柱穴。

R1-13区
24号土坑



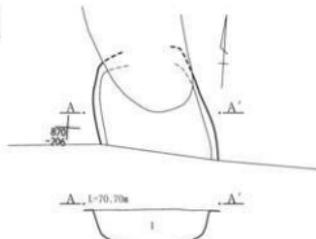
R1-13区24号土坑

- 1 明黄褐色土 ロームブロックによる埋土。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む。

第14図 R1-13区土坑2

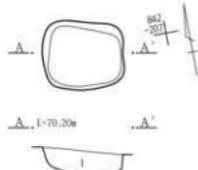
0 1:40 1m

<方形タイプの土坑>

R1-13区
2号土坑

R1-13区2号土坑

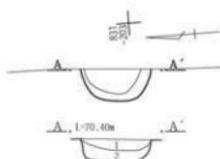
1 褐色土 焼土粒を少し含む。白色軽石を多く含む。

R1-13区
19号土坑

R1-13区19号土坑

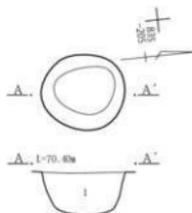
1 灰黄褐色土 ロームを含む。

<その他の土坑>

R1-13区
25号土坑

R1-13区25号土坑

1 灰黄褐色砂質土 鉄錆が明確に着く。
2 暗褐色土 ローム粒子を含む。

R1-13区
27号土坑

R1-13区27号土坑

1 黒褐色土 白色粒、褐鉄鉱を多量に含む。

0 1:40 1m

第15図 R1-13区土坑3

f. 柱穴

柱穴は19本が確認された。遺跡は江戸時代の堤集落の西側に当たり、令和2年度調査地点(R2-1区)が低地部に、令和元年度調査地点(R1-13区)が台地部になる。柱穴は令和元年度調査の台地部にあり、概ね3地点に分布した(第16図)。

<調査区北>

柱穴は2本のみ確認されただけである。柱穴は径20～30cm・深さ31～35cmを測る。柱穴は近接して確認されたものであるが、これ以外柱穴は確認されず、詳細は不明である。

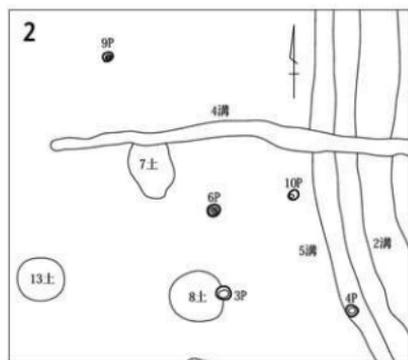
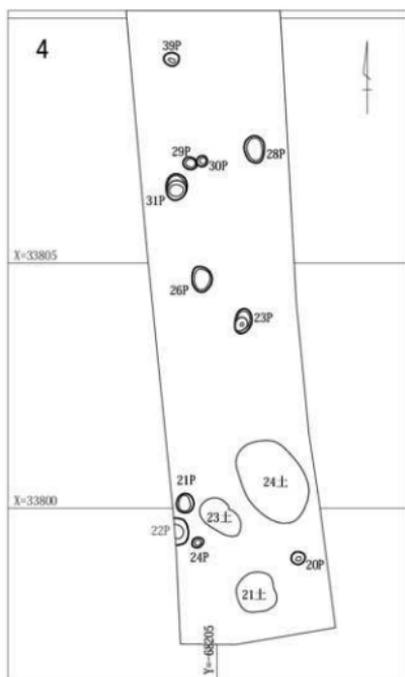
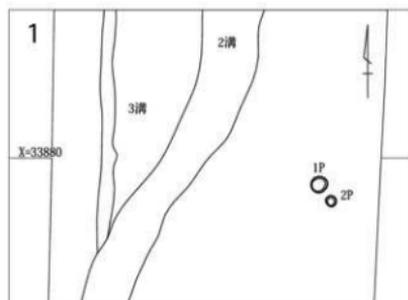
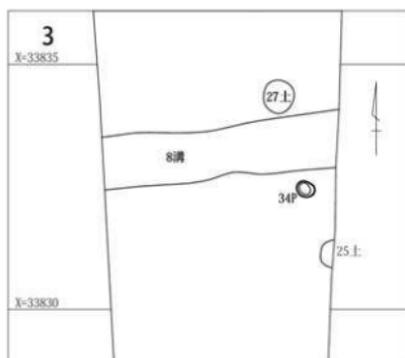
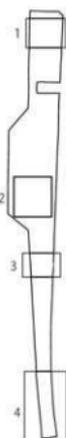
<調査区中央>

柱穴は6本が確認されている。柱穴は径22～43cm・深さ11～34cmほどで、径30cm以下の柱穴(P4・P6・P9)と、径40cm前後を測る柱穴(P3・P10)がある。各柱穴間は大きく開き、建物が組めるような状況にはない。

<調査区南>

柱穴は11本が確認されている。柱穴は径26～63cm・深さ30～66cmを測り、平均的サイズは径42.7cm・深さ46.4cmほどであるが、直径が60cm前後の大形例もあり、差が激しい。

調査区が狭く柱穴分布の全体像が明らかでないため、掘立柱建物を想定するには制約が多過ぎるというのが実態である。各柱穴間の距離はさまざまであり、建物が建つ状況にはない。



第16图 R1-13区柱穴

第4章 綿貫堤遺跡

1. 概要

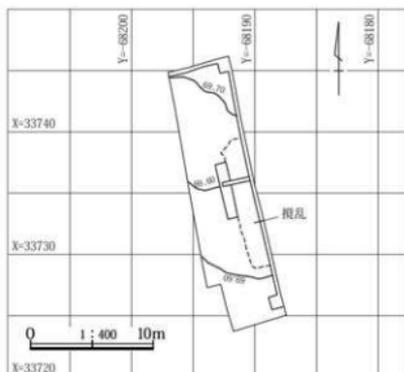
本遺跡は、令和2年度調査地点の2区に当たる。調査区は県道西にあり、発掘対象地は南北21.5mほどである。調査面積は109.65㎡と小規模で、本遺跡の北には50mを隔てて綿貫堤西遺跡、南には190mを隔てて綿貫千葉西遺跡がある。

確認したところ、試掘時データにはAs-Bの二次堆積とあり、水田址の可能性を考えて遺跡認定されたものと思われた。現場でも、水田調査をしていたが、調査が梅雨末期と重なり、詳細調査が難しく試掘成果は限られた。重機掘削したところ、約1m下位でAs-Bが確認できたということであり、綿貫堤西遺跡と同様の鋤先痕が確認できたということである。鋤先痕は部分的に残されているだけであったが、As-B下水田の黒色粘質土も全的に残されていた。全域が水田化されていたようであるが、畦畔が確認できないため、状況のみ写真撮影して調査を終えたという経過が辿れた。以上を踏まえたうえで、遺跡の概要について復元的に記してみよう。

2. 中・近世

a. 鋤先痕ほか

第1面の調査面は、As-B直下に相当する。土層堆積の記録が残されておらず詳細は不明だが、試掘の時点ではAs-Bが二次堆積とされていることや、写真(PL.7)で見える限り水田面には鋤先痕が無数に残されている。鋤先痕が残されたのがテフラ降下直後であるのか、相当期間を空けているのか、断定することはできないが、おそらく水田として復活したであろうことはほぼ確実である。鋤先痕を意識した写真は残されていないが、見る限りテフラが斜向して残り、状況的には綿貫堤西遺跡1区(第3章)同様の鋤先痕が展開したのであろう。調査区南のテフラが丁寧に除去されており、田面の精査が行われたように見える。田面の状況は写真でしか分からないが、全体的に鉄サビが著しく、テフラ降下前の水田耕土(黒色粘質土)が不透水層となり斑鉄層(鉄サビ)が形成されたもの



第17図 綿貫堤遺跡全体図



写真5 As-B下の黒色粘質土上面に広がる鋤先痕(南から)1



写真6 As-B下の黒色粘質土上面に広がる鋤先痕(南から)2

と思われる。調査区北の奥側が高く見え、また、コンタも奥側が10cmほど高く、畦畔が存在した可かもしれないが、調査区中央東には攪乱があり、また試掘トレンチがあり、重機が影響して水田面の凹凸が生じた可能性もあり、現状では断定できない。

水位が高く調査は難航したようであるが、下層文化層を確認すべくトレンチ調査を実施した結果、対象とする遺物(石器類)は出土せずこの調査を終えている。いま一度、土層堆積を検討してみよう(写真8)。

トレンチは、8mを空けて2×2mトレンチ2ヶ所がある。表土層から続く土層堆積はデータ化されていないが、表土からAs-B下はコンパネ1枚半程度(約1.3m)であることが写真7から判明する。そして、As-B直下には5cm前後の黒色粘質土の薄層があり、粘質土の下層にロームに似た粘質土が堆積する(写真8)。現場ではこの粘質土を2層に細分、上層を「黄褐色土10YR5/3」、下層を「灰黄褐色土10YR4/2」と記載、高崎泥流堆積物と考え注記したと思われる。このロームに似た粘質土は鉄サビが付いて黄色く見えるため、水分を多く含んだ粘質土と記載されたのであろうが、実態は還元気味のシルト質土というべききもので、洪水起源の堆積物だろう。実際に現場で土層観察できておらず断定できないが、小河川(粕川)に面していること、そして水田耕土(As-B)下のシルトと言え、通常市域では9世紀代洪水層を考えるのが妥当である。9世紀代洪水層は高崎市東部大類地区遺跡群で確認されているほか、市街地でも確認されており、本遺跡にも堆積する可能性は否定できない。洪水層下の水田は、条里制水田施工前後の様子を知る上で重要になる。今後、調査例が増えることを期待しておこう。

高崎市域では、高崎泥流堆積物の上層に直接水田耕土が堆積するというのは極めて不自然である。通常は開田型水田を想定する以外にないだろうが、遺跡が粕川に面した低地部にあることを踏まえれば、開田型水田である可能性は否定的にならざるを得ない。仮に高崎泥流層であるとすると、最下層の褐灰色土(10YR4/1)の正体が問題となるだろうが、これまで間層を挟んだ高崎泥流層があるとする見解は聞いたことがない。



写真7 調査区北からみた鋤先痕



写真8 As-B下水田耕土下に堆積したシルトと黒色土

第5章 綿貫千葉西遺跡

1. 概要

本遺跡は令和2年度調査地点の綿貫41遺跡3区及び令和3年度調査地点の岩鼻47-3遺跡5区に当たる。調査地は群馬県立博物館・美術館駐車場に接した県道東の南北200mほどになる。遺跡西側には旧利根川が形成した崖線が迫り、その崖線下を粕川が流れ浅い低地部を形成している。本遺跡は粕川の形成したこの低地部に近い、井野川右岸に広がる微高地上に立地する。

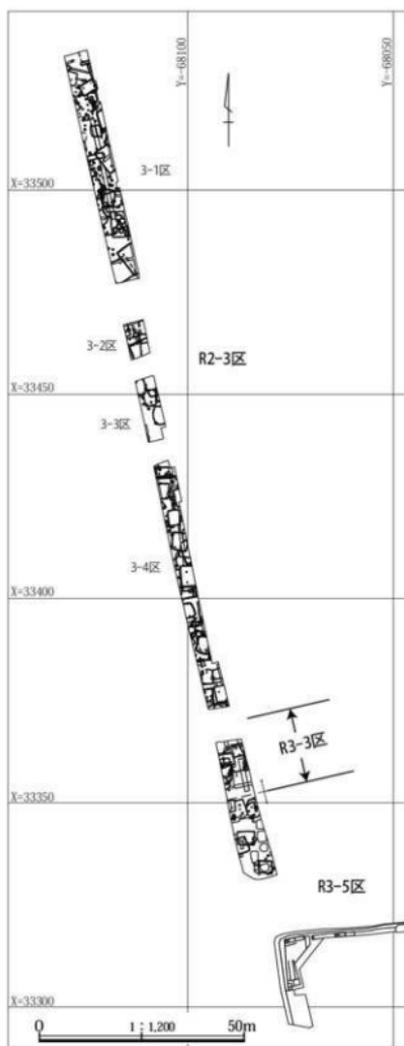
検出された遺構には竪穴建物77棟があるほか、溝3条、土坑67基、柱穴列1などがある。これらには縄文期竪穴3棟や土坑が含まれているが、あくまでも古墳時代以降の竪穴や土坑が主体である。平安期竪穴が圧倒的多数を占め、集落は6～10世紀代まで断続的に継続したものである。竪穴建物は重複が激しくその全貌が分かるものは限られているが、6世紀後半代と9世紀後半代にピークがある。以後の集落変遷は明らかでないが、鋤先痕の検出から想定される生産域の再開発状況からすれば集落が途切れるというようなことはなかったはずである。

竪穴建物の分布では、6世紀代の竪穴建物分布域に途中100m前後の空白域があり、分布域が明らかに南北に分かれる。7世紀代の竪穴建物は北側の建物が減る一方で、南側に建物分布が移り、台地内にも散漫に竪穴建物が分布するようになる。8世紀代も同様であり、9世紀代も増々この傾向が強まる。10世紀代は台地南側、台地縁辺の建物が減り、分布は台地内に明らかに移る。

溝は3条がある。幅40cm測る溝1条が略東西方向に走り、残り2条が幅広の浅い溝で東北東を向く。いずれも水路というより区画溝に近い。

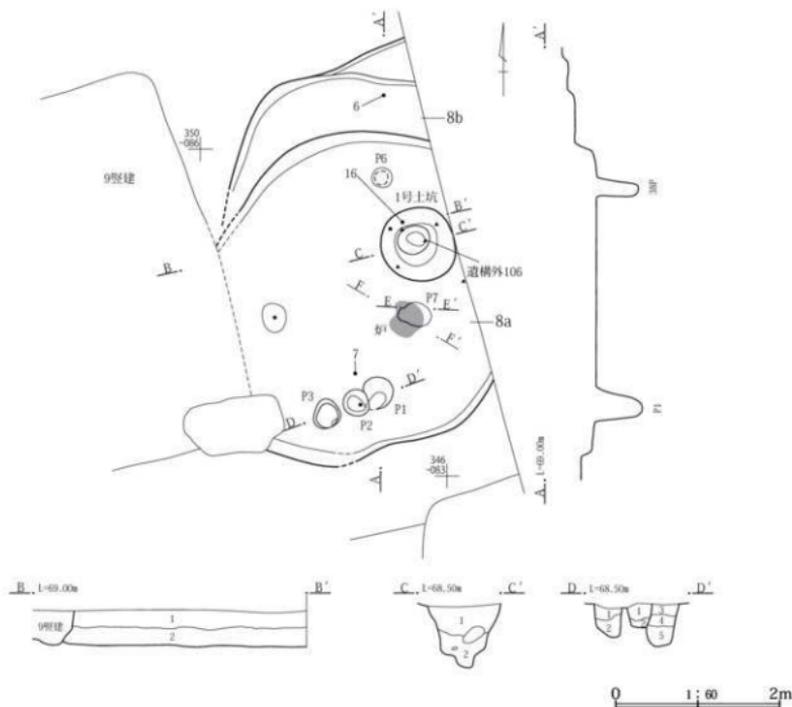
土坑は67基がある。大部分は中近世に帰属するものとみられるが、明らかなものは少ない。土坑は円形基調で深くタライ状を呈するものと、皿状を呈するものが多い。

ピット類は、計150本がある。3-1区とされる地点に最も多く確認されているが、ちょうどこの地点の北が旧例幣使街道であり、近世綿貫村堤西集落を外れた地点に当たる。PL. 2は1962年に撮影した航空写真だが、堤西集落が拡大、街道南まで伸びていたことが分かる。

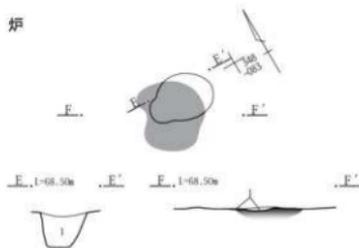


第18図 綿貫千葉西遺跡全体図

R3-5区8a・8b号竪穴建物



炉



R3-5区8号竪穴建物E-E'

1 にぶい黄褐色土 黄色粒子少量、炭化粒子微量混入。粘性・しまりやや強い。

8号竪穴建物F-F'

1 暗褐色土 焼土粒子が微量混入。粘性・しまりやや弱い。

0 1:30 1m

R3-5区8号竪穴建物B-B'

1 黒褐色土 白色粒子、黄色粒子が微量混入。粘性弱い。しまり強い。

2 黒褐色土 白色粒子、黄色粒子が少量混入。粘性・しまりやや強い。

3 暗褐色土 褐色地山ブロック(中〜小)多量混入。粘性・しまりやや強い。

8号竪穴建物C-C'

1 暗褐色土 白色粒子・黄色粒子・小礫少量混入。粘性やや弱。しまりやや強い。

2 にぶい黄褐色土 細砂中量混入。粘性やや強。しまりやや弱い。

R3-5区8号竪穴建物D-D'

1 暗褐色土 細砂が多量、黒褐色土が層状に混入。粘性弱い。しまりやや弱い。

2 暗褐色土 黒褐色土ブロック(一部層状)・粘土ブロックが少量混入。細砂が多量に混入。粘性・しまりやや弱い。

3 暗褐色土 黒褐色土ブロック(一部層状)・細砂が中量混入。粘性弱い。しまりやや弱い。

4 暗褐色土 細砂が中量混入。下部に黒褐色土が層状に混入。粘性弱い。しまりやや強い。

5 にぶい黄褐色土 黒褐色土ブロックを一部層状に混入。細砂が少量混入。粘性・しまり弱い。

6 暗褐色土 白色粒子が微量混入。粘性・しまりやや強い。

7 暗褐色土 黄褐色土ブロック(極小)が少量混入。粘性・しまりやや強い。

8 暗褐色土 黄褐色土ブロック(極小)が少量混入。粘性・しまりやや強い。

第19図 R3-5区8号竪穴建物

<R2-3区25号竪穴建物> (第20図, PL. 9)

位置 X = 33461 ~ 33465, Y = -68111 ~ -68115

形状 隅丸方形状か。

規模 長軸(3.25)m・短軸(1.96)m

面積 (9.10)㎡ 長軸方位 N-75°-E

重複関係 17・23号竪穴建物に切られる。

埋没土 ローム粒子を含む黒褐色土で自然堆積。

柱穴 確認されていない。

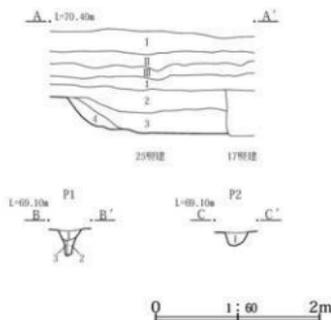
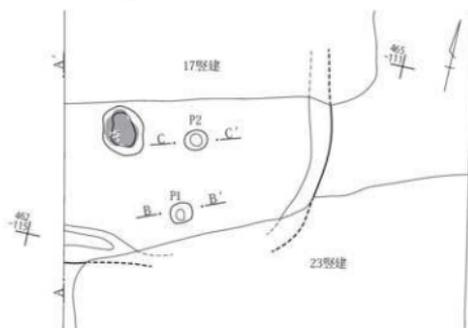
炉 長軸0.49m、短軸0.41mの範囲が焼土化、部分的に灰が残存した。

床面 比較的平坦である。西壁際には段があるほか、荒削り面(PL.9-8)の斜行する段の詳細は不明である。

出土状態 床面上に深鉢類(第186図1・2、第187図3)が多量に出土したほか脚杯石皿(27)や石製品(31)が出土した。石製品は概形がC字状を呈し、内面に研磨面を有するもので壁際にあり、開口部側に礫を直線的に並べるなど、配石礫として使われている。

所見 最終的精査で柱穴12本が確認され、隅丸方形様の竪穴建物が復元されているが、深さ20cm前後を測るピットが多い。主柱穴としては50cmを超えるピットが該当するかもしれないが、断定できない。西壁際がテラス状に高まり、これに接してC字状を呈する大型石製品があり、その開口部に礫が直線的に配されるなど、祭壇的要素が明瞭である。

R2-3区25号竪穴建物 使用面



R2-3区25号竪穴建物

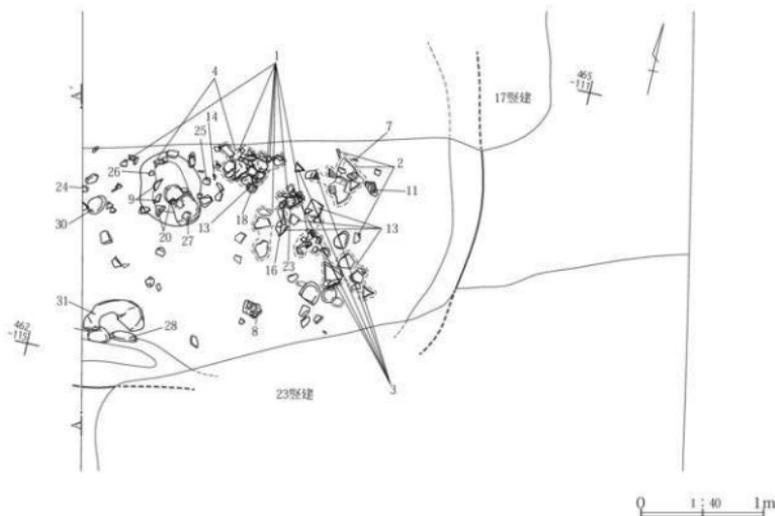
- I 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む、礫が少量混入する。堆積は緻密である。遺物を含む上層。
- II 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- III 黒褐色土 ローム粒をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 1 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 3 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。白色軽石が少量混入する。黒褐色土塊が少量混入する。堆積は緻密である。
- 4 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。

R2-3区25号竪穴建物P1-P2

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積はやや隙い。
- 2 黒褐色土 ローム粒、塊を少量含む。堆積はやや隙い。
- 3 黒褐色土 ローム粒塊を多量に含む。堆積はやや隙い。

第20図 R2-3区25号竪穴建物1

R2-3区25号竪穴建物 遺物平面図



第21図 R2-3区25号竪穴建物 2

b. 土坑

<R2-3区44号土坑> (第22図, PL.10)

位置 X=33373~33374, Y=-68090

規模 長軸(0.57)m、短軸(0.57)m、深さ0.26m

形状 略楕円形状を呈す。土坑底面は深鍋状に近い。

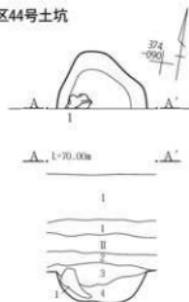
埋没土 ローム粒子やロームブロックを含んだ暗褐色土で埋まる。比較的短期に埋没か。

重複関係 なし

出土遺物 脚付石皿(第191図1)がある。土器片類の出土はない。

所見 土坑1/2が調査区外に延び、土坑の全体形状は明らかでない。整形石皿の完形品であり、意図的に埋め込まれた可能性も否定できないが、確証はない。

R2-3区44号土坑



R2-3区44号土坑

- | | | |
|-----|------|--|
| 1 | 黒褐色土 | ローム粒を少量含む。As-Aをやや多量に含む。旧耕作土 |
| 1 | 黒褐色土 | As-Bを多量に含む。 |
| III | 黒褐色土 | ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。 |
| 2 | 暗褐色土 | ローム粒・塊を少量含む、礫が少量混入する。堆積は緻密である。遺物を含む上層。 |
| 3 | 黒褐色土 | ローム粒をごく少量含む。堆積は緻密である。44上覆土 |
| 4 | 黒褐色土 | ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。44上覆土 |

0 1:40 1m

第22図 R2-3区44号土坑

<R2-3区52号土坑> (第23図, PL.10)

位置 X=33374, Y=-68091

規模 長軸0.90m、短軸0.60m、深さ0.24m

形状 楕円形状を呈す。土坑は浅く、皿状に近い。

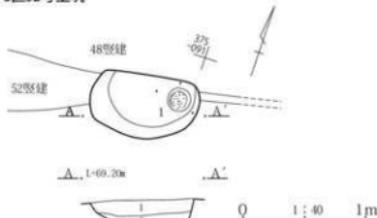
埋没土 ローム粒・焼土粒を含んだ暗褐色土で埋まる。

重複関係 古代竪穴建物に切られる。

出土遺物 径18cm前後の丸石を用い、表裏面を孔多数で平坦化した特徴的な多孔石(第191図1)があるほか、覆土中から土器片が出土している。

所見 多孔石は表裏面が平坦化しており、土坑底面に接した出土状態は意図的であることを示唆する。埋め土も均質で、人為的である。

R2-3区52号土坑



R2-3区52号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒をごく少量含む。堆積は緻密である。
2 黒褐色土 ローム粒・焼を少量含む。堆積は緻密である。

第23図 R2-3区52号土坑

<R2-3区59号土坑> (第24図, PL.10)

位置 X=30408, Y=-68099

規模 長軸(0.41)m、短軸(0.24)m、深さ0.06m

形状 楕円形状を呈す。土坑は浅く、皿状に近い。

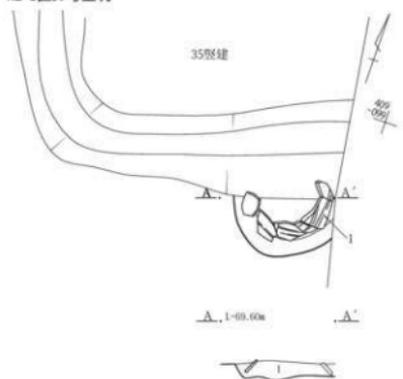
埋没土 土器を設置後、ローム主体の暗褐色土で埋める。土器内部は小礫の混じる暗褐色土で埋まり、土器本体の埋め土とは異なる。

重複関係 3区35号竪穴建物に切られる。

出土遺物 深鉢頸部から胴部上半にかけての大形破片(第191図1)。古代竪穴の調査中に壁面で確認されたもの。「ハ」字状に土器断面が見え、調査中は逆位の埋設土器として調査したものである。

所見 古代竪穴で遺構の1/2が壊されている。逆位の埋設土器として調査されていたが、出土状態と接合状態を比較したところ、土器片の上辺から左辺が土坑底面に接地するよう出土したことが分かり、土坑として捉えることとした。土器片は大形で、覆土中に同一個体の土器片はない。これとは別に小片2点が出土している。竪穴建物は堀之内1式期に帰属する。

R2-3区59号土坑



R2-3区59号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒をごく少量含む。堆積は緻密である。

第24図 R2-3区59号土坑

3. 古墳～平安時代

本遺跡には、古墳時代後期(6世紀後半代)の竪穴建物14棟、7世紀代の竪穴建物10棟、8世紀代の竪穴建物8棟、9世紀代の竪穴建物18棟、10世紀代の竪穴建物9棟がある。全体として竪穴建物は重複するものが多く、全様のわかるものは限られていた。遺跡南端は低地部に接しており、この地点の竪穴は低地部を意識したことは明らかである。本遺跡では、4世紀代の集落は確認されていないが、低地部を挟んだ対岸に6棟があり、当地域の開発が古墳時代前期にさかのぼることが分かる。

a. 竪穴建物

<R2-3区1号竪穴建物>(第25図, PL.11)

位置 X=33531~33534, Y=-68123~-68126

形状 略方形状か

規模 長軸(2.55)m・短軸(2.15)m

面積 4.82㎡ 長軸方位 N-8°-W

重複関係 3区1号土坑に切られる。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

柱穴 確認されていない。

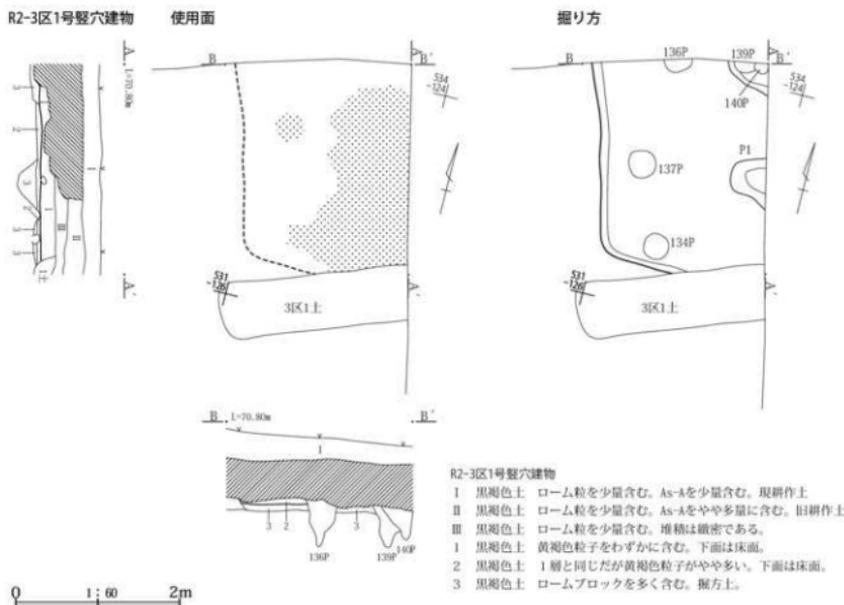
カマド 確認されていない。

床面 東壁土層断面では69.75m付近が床面とされており、平面図で示された貼床は床の痕跡が想定されたというだけであり、それ以上の意味はない。

掘り方 泥流中の礫が多く顔を出した時点で認定されているが、掘り方の覆土中には礫が含まれており、泥流中の礫と分別が難しく明確ではない。掘り方の調査中確認された柱穴類は貼床で覆われたものもあり、また、位置的にも壁に近過ぎるなど、竪穴に伴う柱穴類は少ない。

出土遺物 なし

所見 竪穴建物のプランは掘り方により推定したものである。竪穴の帰属時期は不明。



第25図 R2-3区1号竪穴建物

<R2-3区2号竪穴建物> (第26図、PL.11)

位置 X = 33525 ~ 33529, Y = 68126 ~ 68129

形状 略長方形を呈す。

規模 長軸3.20m・短軸(2.30)m

面積 7.55㎡ 長軸方位 N-15°-W

重複関係 なし

埋没土 橙色バミスを含む暗褐色土で埋没する。

柱穴 建物中央付近に柱穴1が確認されているが、建物に伴う柱穴か判断は難しい。

カマド 確認されていない。

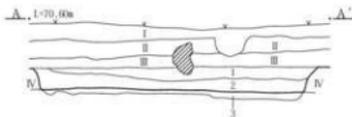
床面 建物中央付近から西に硬化面が広がる。

掘り方 比較的平坦だが、強いて言えば、建物中央部を掘り残し、壁際を掘り下げる傾向にある。

出土状態 須恵器碗(第192図1)が床面よりやや浮いた状態(+5cm)で出土している。

所見 遺構確認面は下がってしまっているが、カマドの痕跡程度は分かる状況にある。竪穴建物は路線西側に広がることや、硬化面の在り方もカマド前面の床が硬化すると考えれば、西カマドを否定するものではないように思う。出土遺物からみて、竪穴建物は10世紀後半に帰属するものと見られる。

R2-3区2号竪穴建物 使用面



R2-3区2号竪穴建物

- I 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Aを少量含む。現耕作土
- II 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Aをやや多量に含む。旧耕作土
- III 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- IV 黒褐色土 ローム粒を少量含む。礫が少量混入する。堆積は緻密である。遺物を含む土層。
- 1 黒褐色土 白色粒子を多く含む。
- 2 黒褐色土 褐色粒子を少量含む。
- 3 黒褐色土 2~10mm大の石を含む。緻密。上部は貼床。掘り層。

R2-3区2号竪穴建物P1

- I 黒褐色土 褐色粒子を少量含む。



第26図 R2-3区2号竪穴建物

<R2-3区3号竪穴建物> (第27図、PL.11)

位置 X = 33523 ~ 33527, Y = 68122 ~ 68126

形状 長方形を呈する。

規模 長軸3.90m・短軸2.75m

面積 7.48㎡ 長軸方位 N-33°-W

重複関係 3区13号竪穴建物と重複する。

埋没土 橙色バミスを含む暗褐色土で埋没する。

柱穴 掘り方の調査で、竪穴長軸上に柱穴2本があり、これが主柱穴となる。柱穴は深さ40cmほどである。

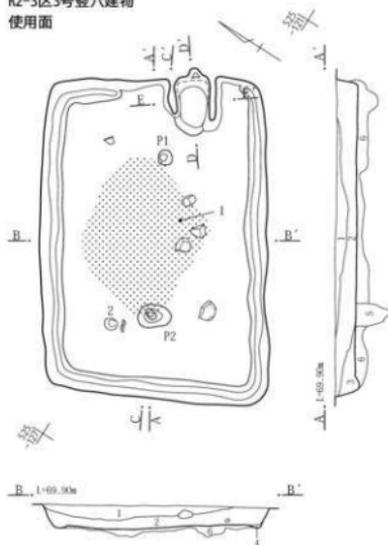
カマド 東壁中央やや南にある。両袖とも粘質土により、焚口は幅40cm前後、燃焼部は竪穴建物内にある。煙道は短い。灰層は明瞭ではない。

床面 ローム塊を含む褐色土で貼床、柱穴に挟まれた建物中央付近に硬化面が広がる。

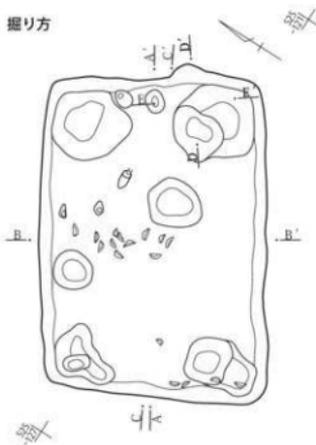
掘り方 竪穴建物の四隅を土坑状に掘り下げるタイプ。建物の中央付近に鋤先状の工具痕が残る。

出土状態 西壁から0.5mほど離れた床面上に須恵器蓋杯の身(第192図2)が出土したほか、カマド前面の床面上に10cmほど浮いた状態で河床礫が多数出土している。

所見 須恵器蓋杯の身は床直から出土、建物は6世紀後半に帰属するものと見られる。

R2-3区3号竪穴建物
使用面

掘り方

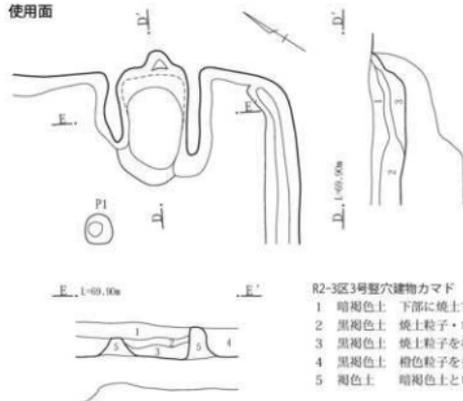


R2-3区3号竪穴建物

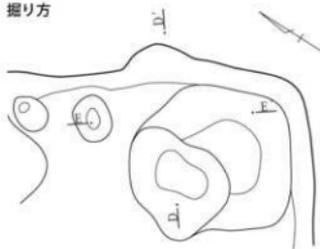
- 1 黒褐色土 褐色粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 褐色粒子を多量に含む。
- 3 黒褐色土 1層にほぼ同じ。
- 4 暗褐色土 ローム土を多量に含む。壁溝覆土。
- 5 暗褐色土 炭ブロック、褐色粒子を含む。
- 6 褐色土 ロームブロックを多量に含む。掘りフク上。

カマド

使用面



掘り方



R2-3区3号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 下部に焼土ブロックを含む。天井部崩落層?
- 2 黒褐色土 焼土粒子・ローム粒子を含む。
- 3 黒褐色土 焼土粒子をわずかに含む。
- 4 黒褐色土 褐色粒子を多量に含む。
- 5 褐色土 暗褐色土とロームブロックの混層。袖部。

0 1:30 1m

<R2-3区4号竪穴建物> (第28図、PL.12)

位置 X=33513~33515、Y=-68120~68123

形状 略方形状を呈す。

規模 長軸2.80m・短軸2.50m

面積 5.74㎡ 長軸方位 N-14°-W

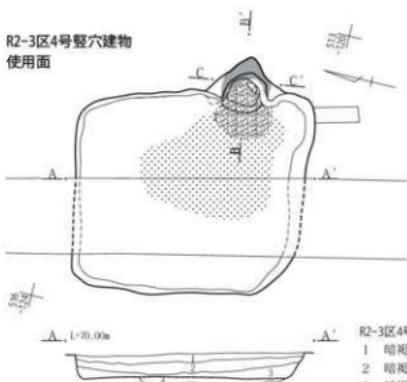
重複関係 なし。ほぼ同軸の3区5号竪穴建物が接する。

埋没土 橙色粒・ローム粒を含む暗褐色土で埋没。

柱穴 確認されていない。

カマド カマド袖は壊されて痕跡程度、焚口の幅は50cm弱。燃焼部は建物東壁ライン付近にある。

R2-3区4号竪穴建物
使用面

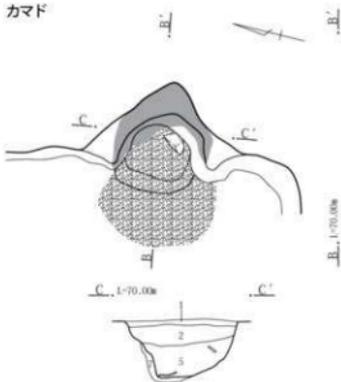


R2-3区4号竪穴建物

- 1 暗褐色土 褐色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 褐色粒子、黒色粒子を含む。
- 3 暗褐色土 褐色粒子、黒色粒子、ローム粒子を含む。
- 4 褐色土 ロームブロックを含む。上部は硬く締まっていて硬質床面である。それ以外は掘方土。

0 1; 60 2m

カマド



R2-3区4号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 褐色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 褐色粒子、黒色粒子を含む。
- 3 暗褐色土 褐色粒子、黒色粒子、ローム粒子を含む。
- 4 褐色土 炭土を多量に含む。
- 5 暗褐色土 炭土を少量含む。
- 6 褐色土 ローム土を多量に混じる。
- 7 褐色土 住居覆土上にカマドが作られたため、掘り方は不明。

0 1; 30 1m

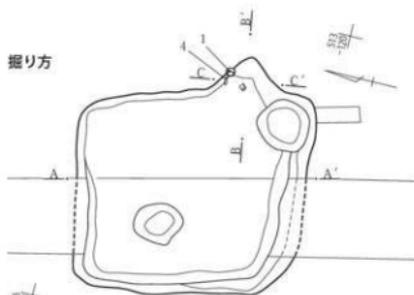
床面 カマド前面から建物中央付近に硬化面が広がる。

掘り方 全体を浅く掘り下げているが、建物中央より南側が下がり気味である。

出土状態 覆土中から灰釉陶器(3)、カマド周辺・崩落土から羽釜(第192~193図4・5・6・7・8)、須恵器椀(1・2)が出土している。

所見 羽釜(第192図7)は煙道部に逆位の状態で出土しており、カマド補強材として使われた可能性がある。竪穴建物は10世紀前半代に帰属する。

掘り方



第28図 R2-3区4号竪穴建物

<R2-3区5号竪穴建物> (第29図、PL.12)

位置 X=33514~33519, Y=-68119~68122

形状 略方形を呈す。

規模 長軸4.75m・短軸(1.50)m

面積 4.86㎡ 長軸方位 N-14°-W

重複関係 なし。

埋没土 床面直上にはロームブロックを多量に混入した黒色土が厚く堆積、これにより埋まる。

柱穴 確認されていない。

カマド 確認されていない。

床面 ローム土と黒色土の混土で構築されていた。壁際に周溝が廻る。

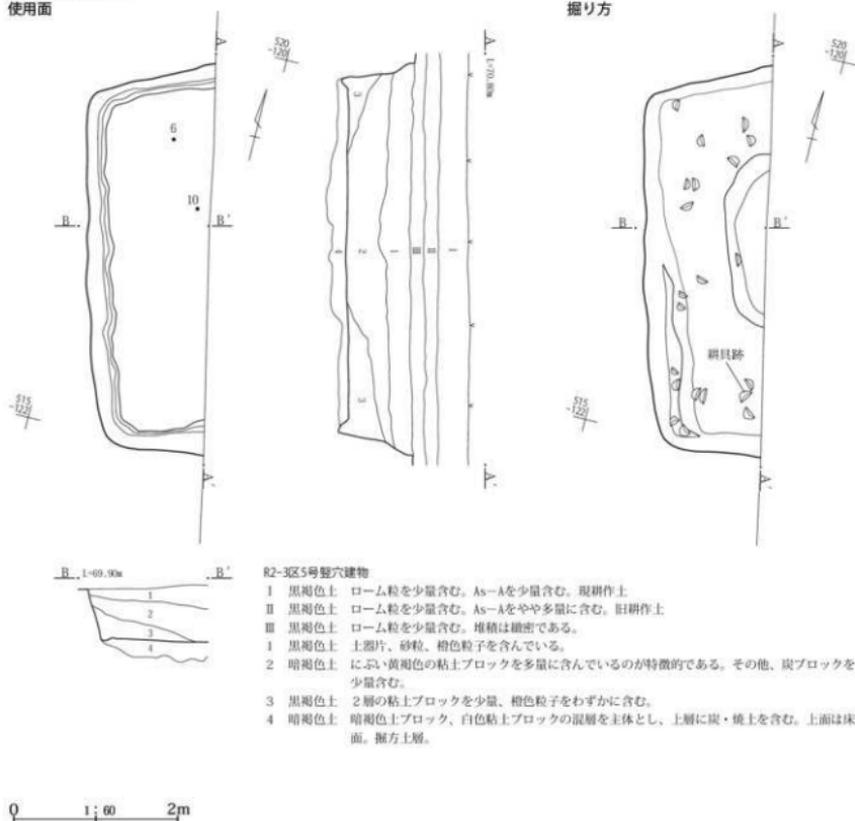
掘り方 建物中央に近い東側壁際を深く掘り下げる傾向があり、土坑状に浅く窪む。掘り方には部分的に鋤先状の工具痕が残る。

出土状態 土師器高杯(第193図6)、土師器杯(1~4)が、羽口(11)および鉄滓が覆土中から出土している。

所見 竪穴建物は7世紀代の杯(1~3)と8世紀前半の杯(4)がある。5は7世紀後半期の盤。竪穴建物は7世紀第4四半期から8世紀第1四半期に帰属する。床面(0.6m弱)まで深く掘り込んでいた。

R2-3区5号竪穴建物

使用面



第29図 R2-3区5号竪穴建物

<R2-3区6号竪穴建物> (第30・31図)

位置 X=33504~33511, Y=-68117~-68122

形状 略正方形を呈す。

規模 長軸6.40m・短軸(3.90)m

面積 17.40㎡ 長軸方位 N-33°-W

重複関係 3区7号竪穴建物、3区13号土坑に切られる。

埋没土 覆土にはローム粒子・橙色粒子・小礫を含んでいるということであり、比較的短期に埋もれたものと思われる。

R2-3区6号竪穴建物

使用面

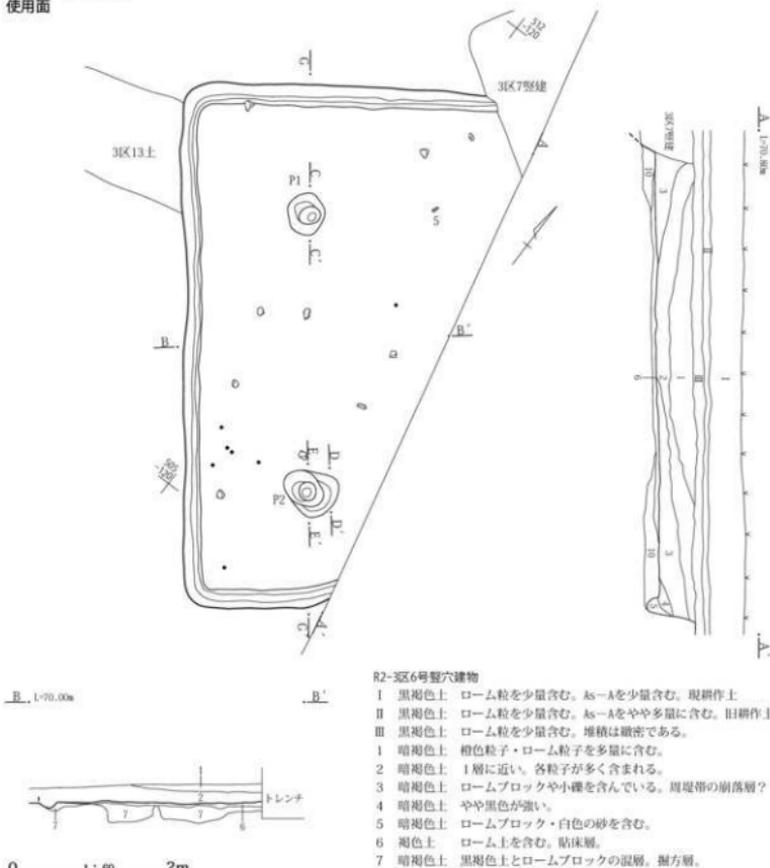
柱穴 北壁側に柱穴2本がある。柱穴1は0.42m、柱穴2は深さ0.73mを測る。

カマド 確認されていない。

床面 建物中央付近はローム主体の埋め土、南北の壁際は黒色土とロームにより貼床とする(東壁A-A')。

掘り方 北壁・西壁際、柱穴間(P1・P2)は掘り窪め、全体として台形状の掘り方になる。

出土状態 図示した土器類(第193図2~4)は小片が多く覆土中の出土である。第193図1の杯は略完形で掘り

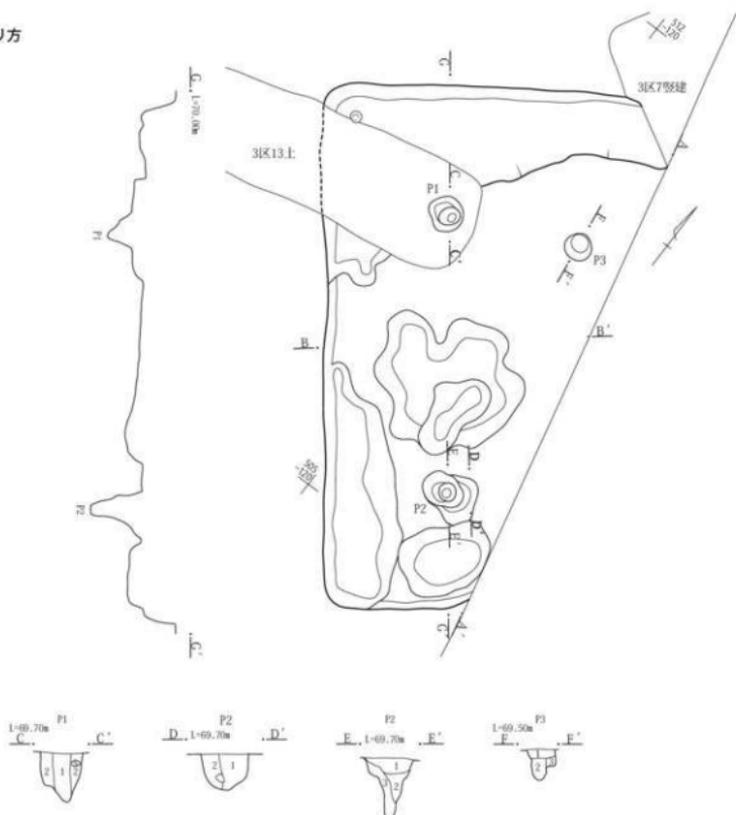


第30図 R2-3区6号竪穴建物1

方から出土した。このほか、西壁際の床面上に拳大の河床礫が廃棄状態で多数出土している。

所見 出土遺物は杯類に限られているが、これにより
竪穴は6世紀後半に帰属するものとした。

掘り方



R2-3区6号竪穴建物P1-P20-D'

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。柱痕。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。埋土。

R2-3区号竪穴建物P2E-E'

- 1 褐色土 ローム粒子を多量に含む。柱痕上層。
- 2 褐色土 ローム土を多く混じる。柱痕下層。
- 3 暗褐色土 暗褐色土である。埋土。

R2-3区6号竪穴建物P3

- 1 暗褐色土 小ロームブロックを含む。他層より黒色が強い。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、ローム土を混じる。柱痕。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。埋土。

0 1:60 2m

第31図 R2-3区6号竪穴建物2

<R2-3区7号竪穴建物> (第32図)

位置 X=33510~33513, Y=-68118~68120

形状 略形状を呈する。

規模 長軸(2.2)m・短軸(1.8)m

面積 1.04㎡ 長軸方位 N-33°-W

重複関係 3区6号竪穴建物を切る。

埋没土 白色パミス・橙色パミスを含む暗褐色土で埋まる。

柱穴 確認されていない。

カマド 確認されていない。

R2-3区7号竪穴建物

使用面

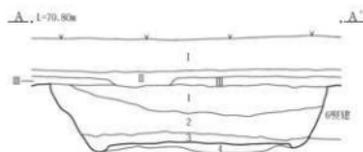


床面 建物コーナー部分のみ確認されただけで、詳細は不明。

掘り方 掘り方の覆土は0.1mほどで、やや厚い。後期の竪穴建物コーナー部は建物中央よりやや深く掘る傾向があり、このことを反映している可能性がある。

出土状態 出土遺物は少なく、覆土中から杯(第193図1)の小片が出土したのみである。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物とすることができよう。



R2-3区7号竪穴建物

- I 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Aを少量含む。現耕作上
- II 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Aをやや多量に含む。旧耕作上
- III 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- I 暗褐色土 2~3mm第の砂、白色粒子、橙色粒子を多く含む。
- 2 暗褐色土 1層と近似し、2cm大の橙色ブロック、5cm大の礫を含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 4 黒褐色土 ローム土を多く含む。上面は床面。他は掘方覆土。

0 1:60 2m

第32図 R2-3区7号竪穴建物

<R2-3区8号竪穴建物> (第33図, PL.13)

位置 X=33495~33499, Y=-68117~68120

形状 略形状を呈す。

規模 長軸3.85m・短軸2.80m

面積 8.17㎡ 長軸方位 N-96°-E

重複関係 3区9号竪穴建物を切る。3区22・25号土坑に切られる。

埋没土 床面まで0.3mほどで、壁際には同質の暗褐色土が三角堆積する。比較的短期に埋もれた可能性が高い。

柱穴 確認されていない。

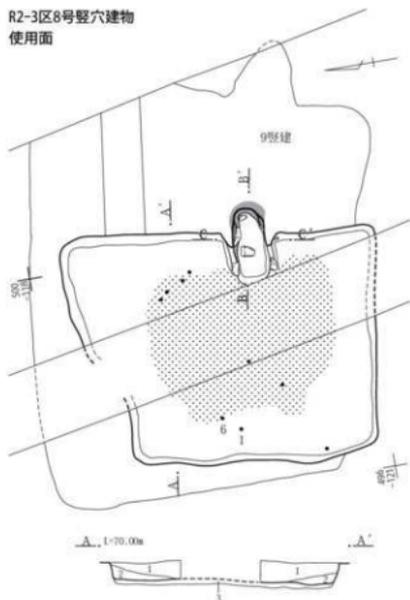
カマド カマド天井石および袖の芯材として河床礫を用いるほか、燃焼部内壁面に扁平礫を貼り付けていた。カマド焚口の幅は40cm弱で、燃焼部は東壁ライン付近にあり、中央付近に支脚が残されていた。

床面 建物中央付近床面を中心に比較的広域に硬化面が見られた。

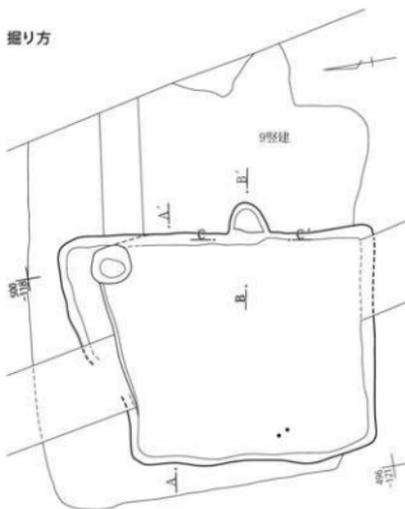
掘り方 建物の北東側コーナー付近が若干だが深く掘り込まれる傾向がある。

出土状態 黒色土器杯蓋(第194図1)が床直で、カマドから羽釜(4・5)が、灰釉陶器(3)は覆土中の出土である。このほか、敲石(6)や鉄鏝(7)がある。

所見 建物北東側コーナーが北西コーナーの位置より北に延びており、長方形プランを想定するのが調査時の所見だが、掘り方を見ても確認はない。カマドの位置からみて、北東側コーナーは北西コーナーと同位置に捉え、略形状の建物プランを想定しておきたい。建物の帰属時期は、10世紀中葉。

R2-3区8号竪穴建物
使用面

掘り方

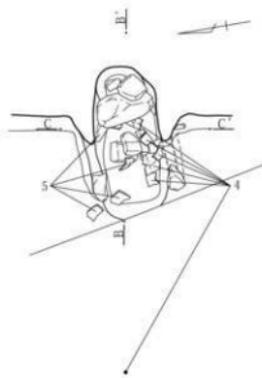


R2-3区8号竪穴建物

- 1 暗褐色土 5～10mm大の石、橙色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、橙色粒子を含む。
- 3 暗褐色土 焼土ブロック、ロームブロックを含む。掘方覆上。

カマド

使用面



R2-3区8号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒子、焼土を多量に含む。
- 2 暗褐色土 ローム土を多量混じる。
- 3 暗褐色土 焼土ブロックをわずかに含む。
- 4 暗褐色土 ローム土を多く混入し、焼土粒子を含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロックが多量に混入する。

0 1 : 30 1m

<R2-3区9号竪穴建物> (第34・35図、Pl. 13)

位置 X = 33495 ~ 33500, Y = 68115 ~ 68120

形状 長方形を呈す。

規模 長軸(5.40)m・短軸3.95m

面積 (16.29)㎡ 長軸方位 N-113°-E

重複関係 3区9号竪穴建物に切られている。このほか南壁に3区22・25号土坑、西壁に3区10号土坑、3区78Pが重複する。

埋没土 下層にはローム粒子を含む暗褐色土、上層にはやや明るく小礫を多量に含む暗褐色土が堆積する。比較的短期に埋没した可能性がある。

柱穴 確認されていない。

カマド 東壁中央よりやや南にある。焚口は建物の東壁ラインよりやや内側にあり、焚口幅は50cmほど。燃焼部は建物の外、煙道は調査区外に延びる。焚口に近い燃焼部に天井石が崩れ落ちていたほか、

床面 大部分が3区8号竪穴建物に重複しており、床面の詳細は不明。建物南東コーナーに貯蔵穴、北・西壁際に浅い周溝が廻る。

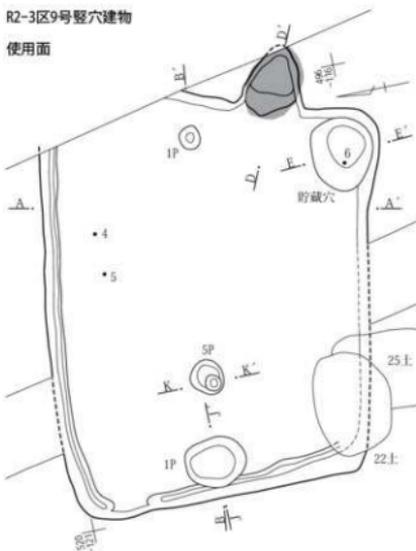
掘り方 掘り方の調査段階で柱穴1~カマド右袖前面が浅く土坑状に落ち込んでいた。このほか掘り方には柱穴5本が確認されているが、建物長軸上に並ぶ1Pと5Pが柱穴として妥当な位置にある。

出土状態 土師器杯(第194図1)、須恵器杯碗類(3・7)はカマド内、須恵器碗(6)が貯蔵穴から出土した。このほか、カマド側壁に甌破片(13)が埋め込まれた状態で出土した。

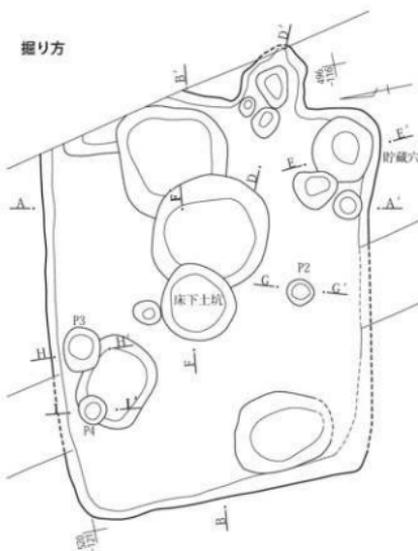
所見 出土遺物からみて、竪穴は10世紀第1四半期に帰属するものと見られる。9号竪穴柱穴の羽釜片が8号竪穴建物の羽釜と接合関係にあり、9号竪穴建物柱穴とされたものは上から掘り込まれている可能性が高い。

R2-3区9号竪穴建物

使用面



掘り方

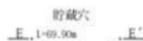


第34図 R2-3区9号竪穴建物1



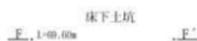
R2-3区9号竪穴建物

- 1 暗褐色土 ローム粒子を多量に含み、棕色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを含む。掘方覆上。
- 4 褐色土 暗褐色土とロームブロックとの混層。床下土坑覆上。



R2-3区9号竪穴建物貯蔵穴

- 1 暗褐色土 棕色粒子、焼土ブロックを少量含む。



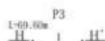
R2-3区9号竪穴建物床下土坑

- 4 褐色土 暗褐色土とロームブロックとの混層。床下土坑覆上。
- 5 暗褐色土 4層に近似し、色調が暗い。



R2-3区9号竪穴建物P2

- 1 暗褐色土 ローム粒子、棕色粒子、小炭ブロックを含む。
- 2 にぶい黄褐色土 小ロームブロックを含む。柱痕。
- 3 暗褐色土 ローム粒子をわずかに含む。埋土。



R2-3区9号竪穴建物P3

- 1 黒褐色土 ローム粒子、2～3mm大の石を含む。
- 2 暗褐色土 ローム土を混じる。



R2-3区9号竪穴建物P4

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 小ロームブロックを多く含む。



R2-3区9号竪穴建物P1

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。単一層。

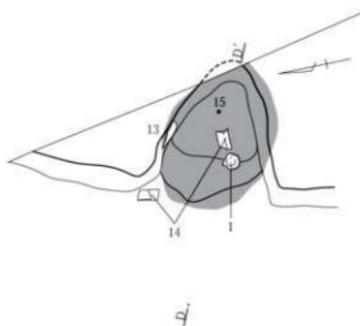


R2-3区9号竪穴建物P5

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 2 褐色土 ローム土を多量に混じる。



カマド



R2-3区9号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒子を多量に含み、棕色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 がちがちの焼土ブロックを多量に含む。天井部崩落層。
- 4 暗褐色土 小焼土ブロックをやや多く含む。カマド掘方覆上。
- 5 暗褐色土 小ロームブロックを含む。住居掘方覆上。



<R2-3区10号竪穴建物> (第36・37図、PL.13)

位置 X = 33488 ~ 33494, Y = -68113 ~ -68118

形状 略方形を呈す。

規模 長軸6.25m・短軸(4.30)m

面積 24.40㎡ 長軸方位 N-2°-W

重複関係 3区15号土坑に切られる。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋もれる。

柱穴 床面では確認されていない。掘り方には柱穴11本(深さ23~56cm、平均36cm)が示されているが、建物対角線上に位置するようなものはない。

カマド 確認されていない。

床面 浅く掘り込んでるように図示されているが、土層断面(A-A')には貼床と見られる薄層があり、床面としては下げ過ぎているように思う。

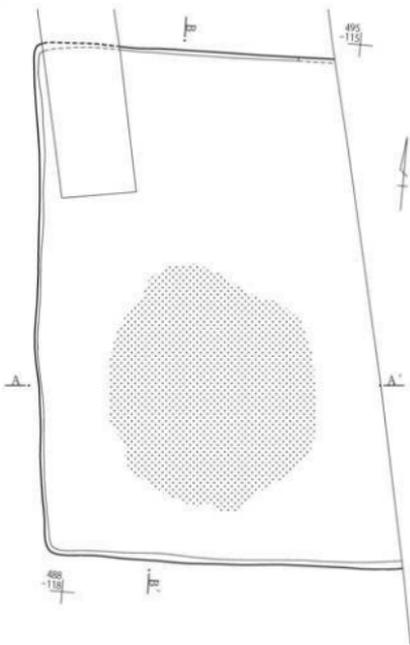
掘り方 浅く壁際を掘り下げる傾向と、内部を皿状に掘り窪める傾向が見られる。

出土状態 土師器杯(第195図1)、須恵器椀(8・16・17・24)・土師器甕(28・33)が床下土坑から、須恵器杯(5)、須恵器椀(9~11・19・20)が掘り方から出土した。土師器甕(26・27・30・31)は覆土中の出土、その他の杯椀類は覆土中から出土している。

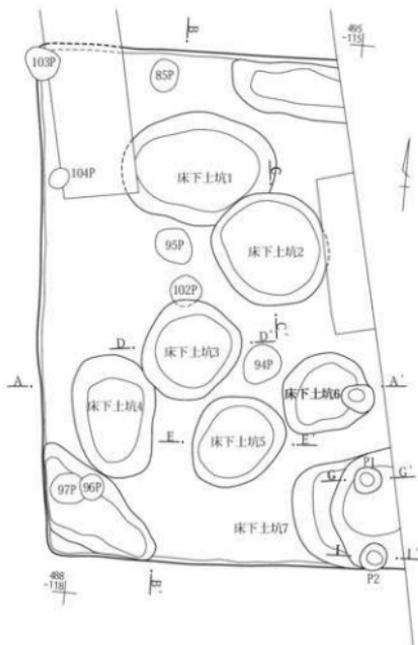
所見 竪穴建物は9世紀末から10世紀初頭。床下土坑等の杯椀類は残存状態が悪く、覆土中の杯椀類を参考に時期決定した。

R2-3区10号竪穴建物

使用面



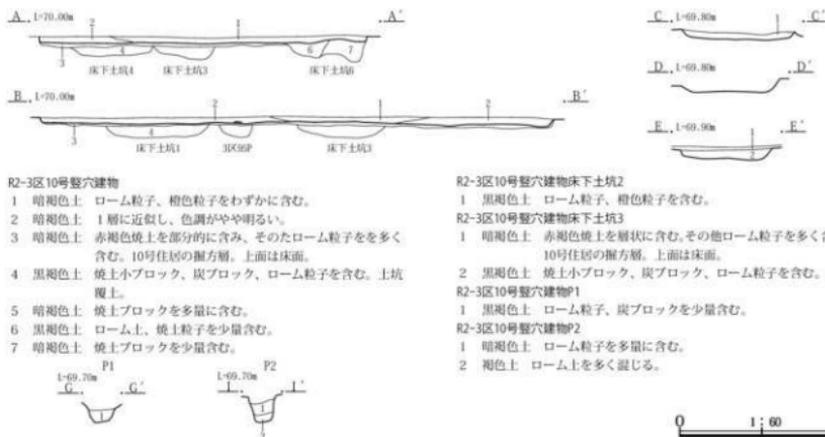
掘り方



0 1:60 2m

第36図 R2-3区10号竪穴建物1

3. 古墳～平安時代



R2-3区10号竪穴建物

- 1 暗褐色土 ローム粒子、褐色粒子をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 1層に近似し、色調がやや明るい。
- 3 暗褐色土 赤褐色焼土を部分的に含む。そのたローム粒子を多く含む。10号住居の掘方層。上面は床面。
- 4 黒褐色土 焼土小ブロック、炭ブロック、ローム粒子を含む。土坑覆土。
- 5 暗褐色土 焼土ブロックを多量に含む。
- 6 黒褐色土 ローム土、焼土粒子を少量含む。
- 7 暗褐色土 焼土ブロックを少量含む。

R2-3区10号竪穴建物床土坑2

- 1 黒褐色土 ローム粒子、褐色粒子を含む。
- R2-3区10号竪穴建物床土坑3
- 1 暗褐色土 赤褐色焼土を層状に含む。その他ローム粒子を多く含む。10号住居の掘方層。上面は床面。
 - 2 黒褐色土 焼土小ブロック、炭ブロック、ローム粒子を含む。
- R2-3区10号竪穴建物P1
- 1 黒褐色土 ローム粒子、炭ブロックを少量含む。
- R2-3区10号竪穴建物P2
- 1 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。
 - 2 褐色土 ローム土を多く混じる。

第37図 R2-3区10号竪穴建物2

<R2-3区11号竪穴建物> (第38・39図)

位置 X=33479~33487, Y=-68111~-68117

形状 略方形形状を呈す。

規模 長軸1.14m・短軸4.50m

面積 18.32㎡ 長軸方位 N-37°-W

重複関係 3区12号竪穴建物に切られる。

埋没土 ほぼ同質の暗褐色土で埋没している。確認は得られていないが、流入土というより人為的埋土に近い。

柱穴 2本が確認されている。柱穴は2本とも深さ1m(P1深さ1.15m、P2深さ1.04m)を超える。

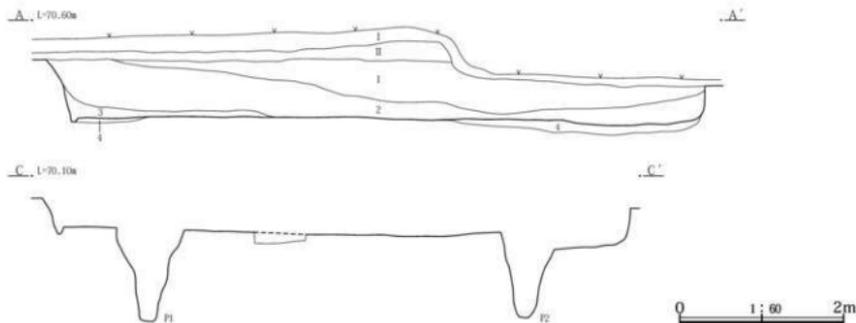
カマド 確認されていない。

床面 竪穴中央から南が硬化していたとされている。壁際を除いて硬化していたということであろうが、北壁側に硬化面が及ばないのは出入口施設等の建物構造が影響しているものとみられる。

掘り方 床面中央を掘り残し、壁際を掘り下げるタイプ。床面中央より南を広く掘り下げる傾向がある。

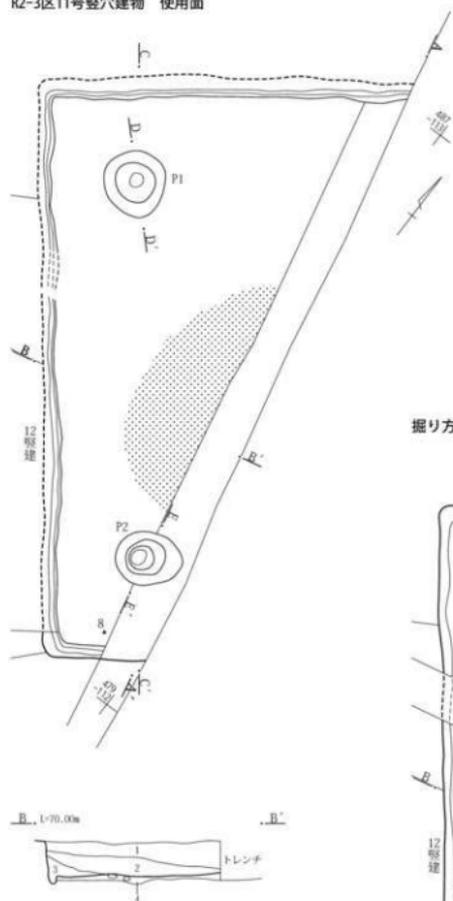
出土状態 土師器杯(第198図1)は覆土中の、土師器杯(2~4)は堀からの出土。紡輪1(8)が建物コーナー付近で出土しているほか、剣形の石製模造品(9)、羽口(10)が出土している。

所見 床直の遺物は確認されていないが、掘り方の杯類を参照して6世紀前半の竪穴建物とした。



第38図 R2-3区11号竪穴建物1

R2-3区11号竪穴建物 使用面

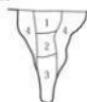


R2-3区11号竪穴建物

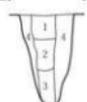
- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。現耕作上。
- II 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Bを多量に含む。旧耕作上。
- 1 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。
- 3 暗褐色土 1層に近似し、色調が他層より暗い。
- 4 褐色土 暗褐色土とロームブロックとの混層。掘方覆上。

0 1; 60 2m

D, L=69.60m D'



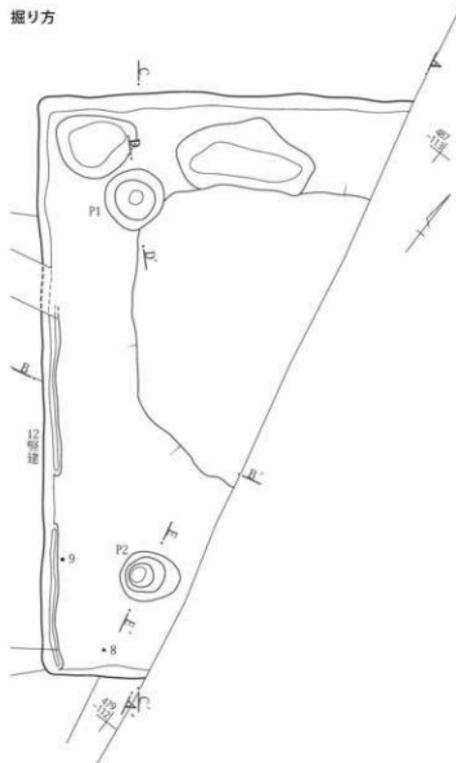
E, L=69.56m E'



R2-3区11号竪穴建物P1・P2

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。柱痕上層。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。柱痕中層。
- 3 褐色土 柱痕下層。
- 4 暗褐色土 ロームブロック層と黒褐色土層が相互にサンドイッチ状に堆積する。埋上。

掘り方



第39図 R2-3区11号竪穴建物2

<R2-3区12号竪穴建物> (第40・41図, PL.14)

位置 X = 33477~33484, Y = -68112~-68118

形状 略方形を呈する。

規模 長軸5.40m・短軸(5.30)m

面積 (24.08)m² 長軸方位 N-31°-W

重複関係 3区11号竪穴建物を切る。

埋没土 埋土にはロームブロックが多量に含まれ、比較的短期に埋没した可能性が高い。西壁床面付近で灰が確認されているが、土層注に灰と記されたそれは塊状を呈しており、白色粘土を誤認したのかも。

柱穴 床面調査後に床面を掘り下げたところ、柱穴4が確認されている。4本とも柱穴は0.7m前後を測る。

カマド 確認されていない。重複状況から、西カマドになる可能性が高い。

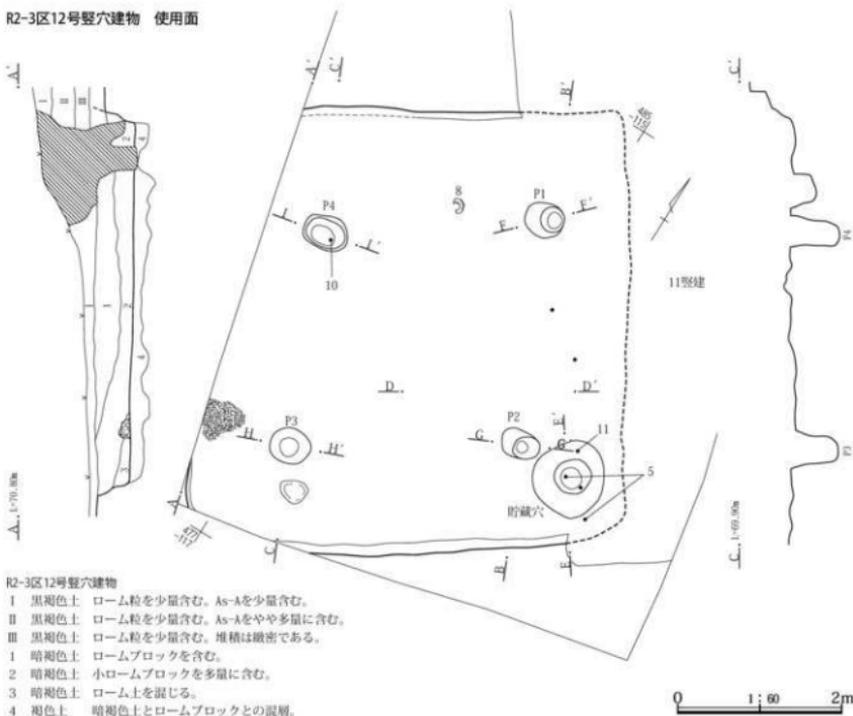
床面 床面の硬化範囲等は図化されておらず不明。写真を見る限り、もう少し床面が下がる可能性があるように思う。

掘り方 壁際を深く、床面中央付近を砲台状に掘り残すタイプ。規則的に図化されているが、それほど規則的でないというのが実態に近い。掘り方の南西側コーナーに白色粘土が確認されている。

出土状態 土師器杯第199図1・2は床下土坑から、3・5が貯蔵穴から出土した。その他には北東側柱穴1付近で甕(8)が出土したほか、掘り方から土鍾1(10)がある。甕5・6は同一個体の可能性が大。

所見 床下土坑の1・2は口縁部が直立し、やや古い様相。これに対し貯蔵穴から出土した3は横微杯であり、やや時期は下る。6世紀中頃の竪穴建物。

R2-3区12号竪穴建物 使用面

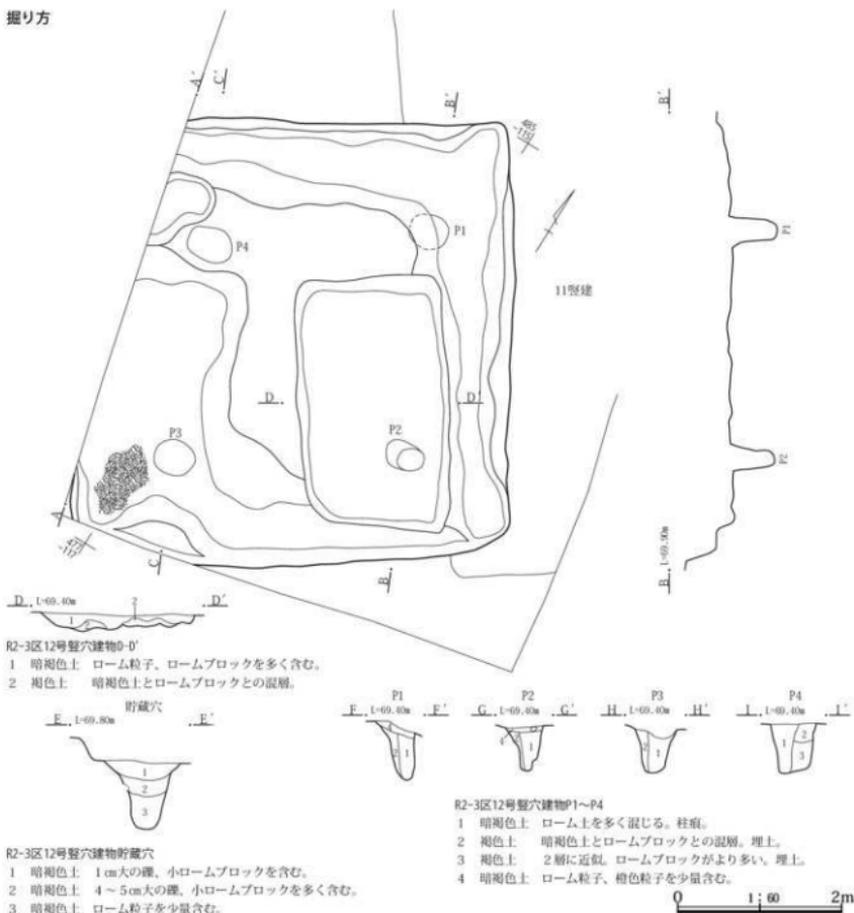


R2-3区12号竪穴建物

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Aを少量含む。
- II 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Aをやや多量に含む。
- III 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 1 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 小ロームブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 ローム土を混じる。
- 4 褐色土 暗褐色土とロームブロックとの混層。

第40図 R2-3区12号竪穴建物I

掘り方



第41図 R2-3区12号竪穴建物2

<R2-3区13号竪穴建物> (第42図、PL.14)

位置 X=33520~33523, Y=-68122~-68124

形状 略方形を呈す。

規模 長軸3.46m・短軸(2.20)m

面積 3.72㎡ 長軸方位 N-15°-W

重複関係 3区3号土坑に切られる。3区3号竪穴建物に接する。

埋没土 小礫を多く含み、比較的短期に埋もれた可能性

が高い。

柱穴 確認されていない。

カマド 南西コーナーに近い南壁にある。焚口の幅は50cm弱を測る。燃焼部は南壁ライン付近にあり、浅く窪む。煙道は1.0mほどで、長く延びる。カマド前面に灰層が広がる。

床面 黒色土とロームブロックの混土で貼床。

掘り方 建物長軸ライン上に浅く掘り込んだ円形土坑が

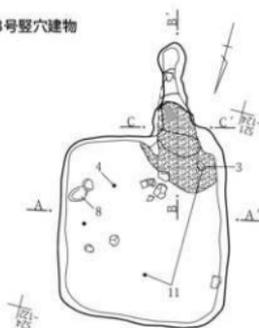
連結して並ぶ。底面には鋤先状の工具痕が残る。

出土状態 カマド正面左袖前の土師器杯と北壁の近い床面の破片と接合(第200図3)、左袖前の土師器はカマド構造材として使用されたものが。

所見 カマド前の土師器杯3は床直、その他は覆土中

の出土。石製品(8)には大きな凹部と敲打痕、廃棄状態で出土した。出土遺物には鉄滓・羽口が含まれ、付近には製鉄関連遺構を想定しておきたい。3は7世紀中葉に近く、覆土中から出土した土師器杯(1・2)や高坏(4)も共伴して甌鹵はない。

R2-3区13号竪穴建物
使用面



掘り方

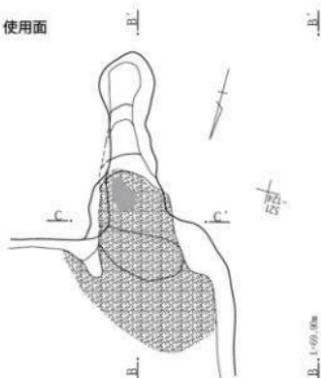


R2-3区13号竪穴建物

- 1 暗褐色土 1～5mm大のローム粒子を多量に含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。周壁部の崩落層か？
- 3 黒褐色土 黒褐色の灰を多く含む。焼土ブロックも含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック層で炭ブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。貼床層。
- 6 褐色土 暗褐色土とロームブロックとの混層。掘り方層。

0 1:60 2m

カマド 使用面



R2-3区13号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 大型ロームブロックを含む。天井部崩落層？
- 2 黒褐色土 炭・焼土ブロックを含む。
- 3 黒色土 黒色灰層である。焼土は含まれていない。
- 4 褐色土 ロームブロックと焼土ブロックの混土層。
- 5 暗褐色土 暗褐色でやがグレーをなす灰を主体とする。
- 6 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 7 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。貼床層覆土。
- 8 褐色土 暗褐色土とロームブロックとの混層。掘り方覆土。

0 1:30 1m

第42図 R2-3区13号竪穴建物

<R2-3区14号竪穴建物> (第43図, PL.15)

位置 X=33491~33495, Y=-68119~-68121

形状 東辺は直線的だが南辺と北辺は歪み、企画的に欠ける。

規模 長軸3.63m・短軸1.75m

面積 4.18㎡ 長軸方位 N-28°-W

重複関係 3区82Pに切られる。

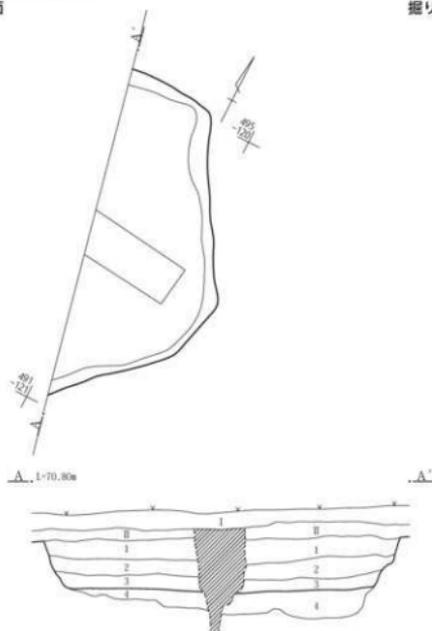
埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

柱穴 確認されていない。

カマド 確認されていない。

R2-3区14号竪穴建物

使用面



R2-3区14号竪穴建物

- I 黒褐色土：ローム粒を少量含む。As-Aを少量含む。現耕作土
- II 黒褐色土：ローム粒を少量含む。As-Aをやや多量に含む。旧耕作土
- 1 暗褐色土：5~10mm大の石、ローム粒子、棕色粒子を含む。
- 2 暗褐色土：1層に近似。色調がやや暗い。
- 3 黒褐色土：ローム粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土：ロームブロックを多量に含む。

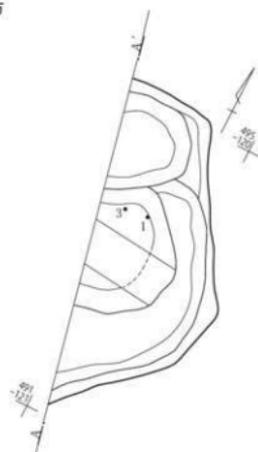
床面 南壁側床面はロームを多量に含んだ黒色土で貼床され容易に確認されたのに対し、北側は黒色土ベースで床面は不明瞭。

掘り方 建物北側の掘り方は深く0.4m程度を土坑状に掘り下げるほか、これに続く部分も0.3mほど浅く方形状に掘り下げる。

出土状態 覆土中から杯、土師器甕が出土したほか、掘り方から土師器杯(第201図1)、土師器甕(3)、覆土中から土師器杯(2)が出土している。

所見 土師器杯は大きく外反し、土師器甕も長胴化が著しい。6世紀後半の竪穴建物。

掘り方



0 1:60 2m

第43図 R2-3区14号竪穴建物

＜R2-3区15号竪穴建物＞(第44図、PL.15)

位置 X=33402～33408、Y=-68098～-68101

形状 略方形を呈す。

規模 長軸5.25m・短軸(3.60)m

面積 13.99㎡ 長軸方位 N-4°-W

重複関係 3区50号土坑に切られる。

埋没土 暗褐色土で比較的短期に埋没したものか。最上層にはロームブロックを含む褐色土が厚く堆積、人為的埋土の可能性あり。

柱穴 西壁側の柱穴2本(P1深さ0.39m、P2深さ0.35m)がある。

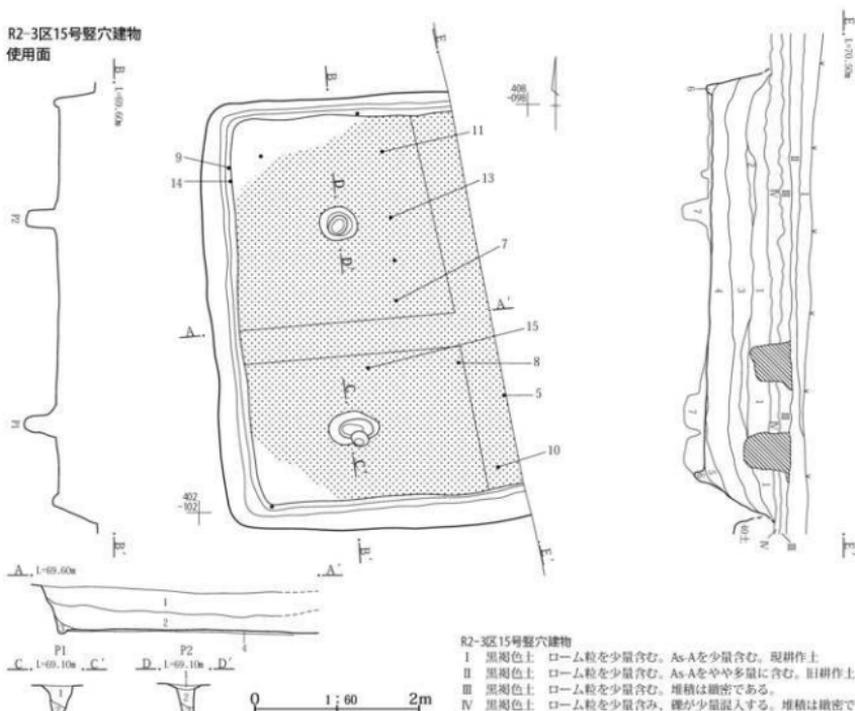
カマド 確認されていない。

床面 コーナー部分を除いて、硬化面が全面に広がる。調査区外の東壁を除いて、壁際に周溝(幅0.1～0.15m)が廻る。

掘り方 掘り方は浅く、壁際を掘り下げる等の傾向は、特に指摘できない。

出土状態 壁際の2点(第201図9・14)以外、床面直上の出土が多い。土器類は散漫に出土しており、特に集中性は指摘できない。

所見 竪穴建物の帰属時期は9世紀第3四半期。

R2-3区15号竪穴建物
使用面

R2-3区15号竪穴建物P1

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積はやや脆い。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。堆積はやや脆い。

R2-3区15号竪穴建物P2

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積はやや脆い。
- 3 黒褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。堆積はやや脆い。

R2-3区15号竪穴建物

- I 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Aを少量含む。泥研作土
- II 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Aをやや多量に含む。II研作土
- III 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- IV 黒褐色土 ローム粒を少量含む。塊が少量混入する。堆積は緻密である。遺物を含む土層。
- 1 暗褐色土 ローム粒混入。
- 2 暗褐色土 ローム粒・ブロック多く含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒・小礫を含む。1層よりやや暗い。
- 4 暗褐色土 3層と同層だが色調はやや明るい。
- 5 黒褐色土 ローム粒が混じる。埋没初期の三角埋土。
- 6 暗褐色土 ローム粒・ブロックを含む。
- 7 黒褐色土 黒色土とローム1の混土層(掘り方)。

第44図 R2-3区15号竪穴建物

<R2-3区16号竪穴建物> (第45・46図, PL.15)

位置 X=33449~33454, Y=68109~68112

形状 略方形を呈す。

規模 長軸(3.75)m・短軸(3.20)m

面積 7.18㎡ 長軸方位 N-3°-W

重複関係 19・22号竪穴建物を切る。

埋没土 小礫を含む暗褐色土で、比較的短期に埋没したものと思われる。

柱穴 確認されていない。

カマド 南東コーナーに近い東壁にある。壁際に大型礫2があり、カマド袖石になる可能性が高い。カマド前面は浅く窪み灰層が残り、焚口は50cm内外である。燃焼部

内壁には角礫や土器片が埋め込まれ、焚口から約30cm内側には支脚があり、棒状礫が直立した状態で出土した。煙道は80cmほどで、長く延びる。

床面 建物中央より東の床面は比較的平坦であったが、西壁際の床面は下がり気味で、床面が軟質であったかもしれない。南東コーナー付近に貯蔵穴1がある。

掘り方 掘り方として明確な傾向は指摘できない。

出土状態 第203図1・6・10・11・12が床直で出土、2が貯蔵穴、覆土中から須恵器杯類(3~5・7)が出土したほか、鉄製紡輪(13)と鉄製の棒軸(14)が出土した。

所見 床面から出土した須恵器椀(5~7)は10世紀中葉、須恵器杯(1~4)は11世紀前半、これが竪穴建物の存続期間ならやや長過ぎる。

R2-3区16号竪穴建物

使用面

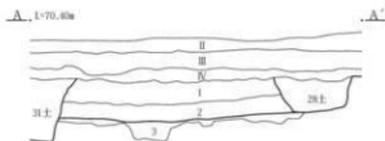


R2-3区16号竪穴建物

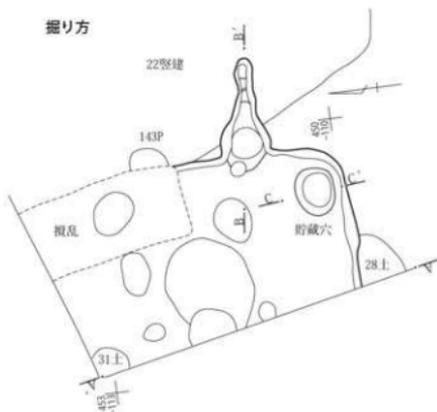
- II 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Aをやや多量に含む。旧耕作土
- III 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- IV 黒褐色土 ローム粒を少量含む。礫が少量混入する。堆積は緻密である。遺物を含む土層。
- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む他、小礫を混入する。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒・炭化物粒が少量混入する。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。上面が硬化する。堆積は緻密である。掘方覆土。

R2-3区16号竪穴建物貯蔵穴

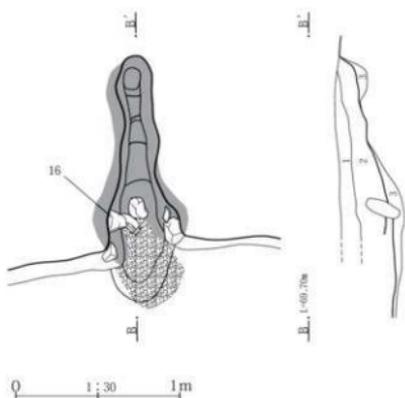
- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。焼土粒が少量混入する。堆積は緻密で無い。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は無い。



掘り方



第45図 R2-3区16号竪穴建物1

カマド
使用面

第46図 R2-3区16号竪穴建物2

R2-3区16号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒が少量混入する。堆積はやや脆い。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒・炭化物粒が少量混入する。堆積はやや脆い。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積はやや緻密である。

*竪穴建物覆土上にカマドが構築されており、掘方がどこまでかは不明であるため、掘方セクションの写真記録は行なわなかった。

<R2-3区17号竪穴建物>(第47図、PL.16)

位置 X=33463～33468、Y=-68110～-68115

形状 略方形形状を呈す。

規模 長軸(3.90)m・短軸(3.70)m

面積 (12.93)m² 長軸方位 N-14°-W

重複関係 21・24号竪穴建物、29号土坑に切られる。

埋没土 21号竪穴と同質の黒褐色土で埋まる。

柱穴 建物南東コーナー付近に深さ0.5m弱の柱穴がある。床面で確認されておらず、コーナーに寄り過ぎていますが、これが建物柱穴になる可能性がある。

カマド 確認されていない。

床面 ローム土を含む黒褐色土で貼床。硬化範囲が図画されておらず詳細は不明。

掘り方 全体的に粗く掘り下げる程度で、特に壁際を掘り下げるような傾向は見られない。

出土状態 掘り方から土師器杯(第204図1)が出土したほか、覆土中から土師器杯(2)、土師器甕(3)が出土した。

所見 2は覆土中の遺物だが1と同形態の杯であり、6世紀前半の竪穴建物と見た。

<R2-3区21号竪穴建物>(第47図、PL.18)

位置 X=33464～33467、Y=-68113～-68115

形状 略方形か

規模 長軸(3.57)m・短軸(1.15)m

面積 2.58m² 長軸方位 N-17°-W

重複関係 17号竪穴建物を切る。

埋没土 ローム粒子を多量に含む黒褐色土で短期に埋没したものと思われる。

柱穴 確認されていない。

カマド 焚口は50cm前後を測る。燃烧部は東壁ライン上にある。燃烧部奥壁はよく焼けているが、使用面の灰層は明瞭ではなく、少量の炭化物が散る程度である。

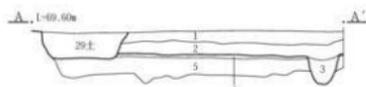
床面 貼床の状態について記載されていないが、土層写真を見る限りローム土の混入量が多く、比較的容易に認定できたものと思われる。

掘り方 全体的に10cm内外を掘り下げており、特定の場所を深く掘り下げるような傾向はない。西壁断面の柱穴は位置的に竪穴に伴う。

出土状態 須恵器高环脚部(第207図1)が覆土中から、土師器甕(2)が掘り方から出土した。

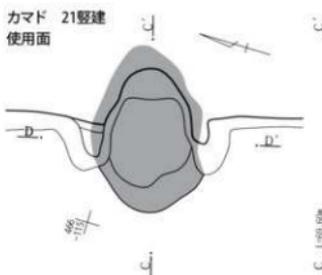
所見 竪穴建物の帰属時期は、長嗣化した土師器甕の出土を踏まえ7世紀前半と見た。

R2-3区17・21号竪穴建物
使用面

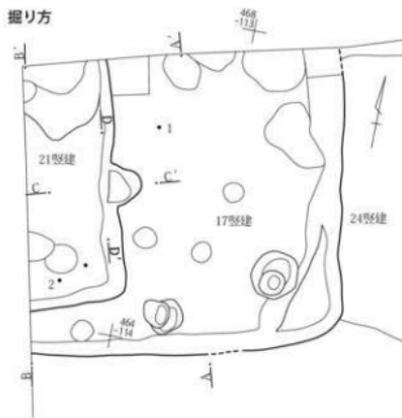


0 1:60 2m

カマド 21号竪建
使用面



掘り方



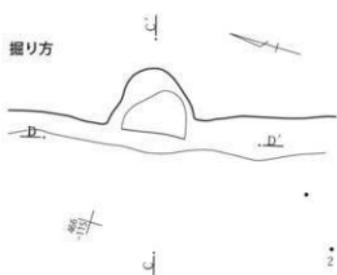
R2-3区17・21号竪穴建物A-A'

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊・白色軽石が少量混入する。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。色調は1層よりやや暗い。
- 3 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。
- 4 黒褐色土 ローム土と黒色土の混層。粘床。かたく締る。
- 5 黒褐色土 ローム土と黒色土の混土層。掘り方埋め土。

R2-3区17・21号竪穴建物B-B'

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊を含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊を1層より多くやや暗い色調を呈す。
- 3 黒褐色土 ローム粒・塊を多く含む。堆積は緻密である。
- 4 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 5 黒褐色土 ローム粒・礫が少量混入する。
- 6 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまりは弱い。

掘り方



R2-3区21号竪穴建物カマド

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。境上が少量混入する。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム粒をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 3 黒褐色土 ローム粒。塊をやや多量に含む。境上が多量に混入する。堆積はやや脆い。

0 1:30 1m

第47図 R2-3区17・21号竪穴建物

<R2-3区18号竪穴建物>(第48図, PL.16)

位置 X=33459~33462, Y=-68109~-68111

形状 略方形か

規模 長軸(3.00)m・短軸(2.25)m

面積 5.63㎡ 長軸方位 N-10°-W

重複関係 23号竪穴建物を切る。

埋没土 ローム粒・塊を含む黒褐色土で埋没する。

柱穴 確認されていない。

カマド 確認されていない。

床面 ローム土と黒色土により貼床、著しい硬化面は見られない。

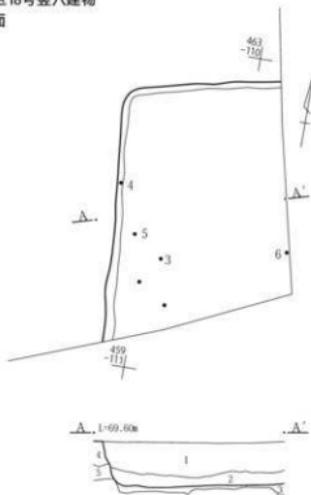
掘り方 全体的に粗く掘り下げる程度。強いて言えば、壁際が下がり気味。

出土状態 西壁際に杯類(第204図4・5)が床面から10cmほど浮いた状態で出土、掘り方から土師器杯1・2が出土した。

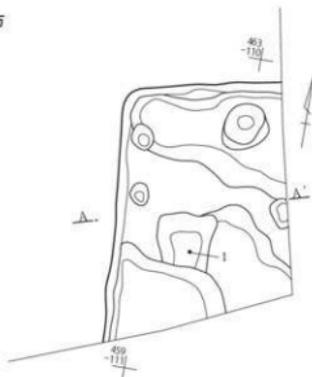
所見 掘り方から出土した土師器2により7世紀前半の竪穴建物と見た。

R2-3区18号竪穴建物

使用面



掘り方



0 1:60 2m

R2-3区18号竪穴建物

- 1 黒褐色土: ローム粒・塊を少量含む。白色軽石が少量混入する。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土: ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 黒褐色土: ローム粒を多量に含む。礫が少量混入する。堆積は緻密である。
- 4 黒褐色土: ローム粒・塊やや多量に含む。上面が硬化している。掘方覆土。堆積は緻密である。
- 5 黒褐色土: ローム粒・塊を多量に含む。堆積はやや脆い。掘方覆土。

第48図 R2-3区18号竪穴建物

<R2-3区19号竪穴建物> (第49・50図、PL.17)

位置 X=33447~33451, Y=-68106~-68110

形状 長方形を呈す。

規模 長軸3.91m・短軸3.10m

面積 10.17㎡ 長軸方位 N-10°-W

重複関係 16・22号竪穴建物に重複する。

埋没土 床面直上には炭化物、上層はローム塊を多量に含んだ黒褐色土が堆積する。

柱穴 確認されていない。

カマド 建物南東コーナーに近い東壁にある。カマド袖は竪穴内に痕跡程度に張り出す。焚口の幅は50cm弱で、燃焼部は建物の外になる。燃焼部は方形に近く、灰層は明瞭である。灰層下に土師器杯(第205図2)、須恵器杯(3)、甕破片、甕胴部破片が列状に埋め置かれた状態で出土した。煙道は長く、大きく延びる。

床面 ローム塊を含む黒褐色土で貼床され、明瞭な状態で確認されている。

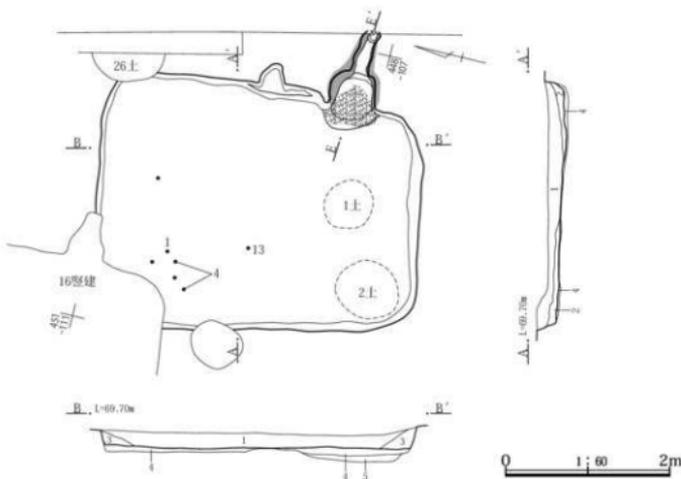
掘り方 カマド前が大きく窪む傾向にあるほか、カマド対辺の建物コーナー付近が土坑状に窪む。

出土状態 黒色土器椀や須恵器杯椀類(第204図1・4)が建物北西コーナー付近から出土したほか、カマド内に杯・甕・甕が出土した。

所見 カマド内の土器・土器片5点はカマド灰層下の発見で、杯(2・3)のプリント痕も明瞭に残されていたということである。出土状態から見れば意識的に据え置かれたものであり、カマド構築時の祭祀行為としておきたい。カマド北側1mの小さな突出部については、現状で焼土等に関する情報は残されていないが、この時期のカマド燃焼部は建物ラインより外にあり、カマド煙道とするのは難しい。またカマド主軸ライン上に径0.6~0.8mの土坑2基が確認されているが、いずれも土坑上面が硬化していたということであり、ここでは床下土坑と捉え報告することとした。

出土土器類からみて、10世紀前半段階の竪穴建物と見られる。

R2-3区19号竪穴建物
使用面

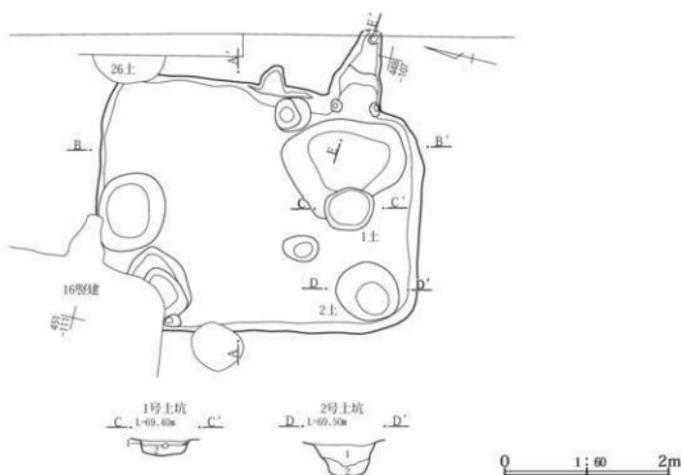


R2-3区19号竪穴建物

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒・炭化物粒が少量混入する。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。上面が硬化する。
- 5 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒が少量混入する。堆積はやや緩い。

第49図 R2-3区19号竪穴建物1

掘り方

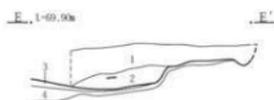
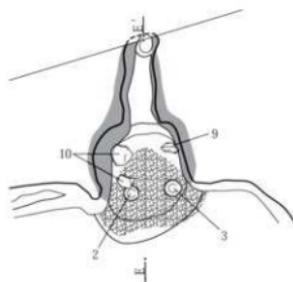


R2-3区19号竪穴建物1土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。上面が硬化する。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒が少量混入する。堆積はやや脆い。

R2-3区19号竪穴建物2土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。上面が硬化する。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒が少量混入する。堆積はやや脆い。

カマド
使用面

R2-3区19号竪穴建物カマド

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒が少量混入する。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒、黒色炭化物粒を少量含む。
- 3 黒褐色土 黒色灰・焼土粒を多量に含む。堆積は脆い。
- 4 暗褐色土 堆積物粒・塊を多量に含む。礫が混入する。

第50図 R2-3区19号竪穴建物2

<R2-3区20号竪穴建物> (第51図, PL.17)

位置 X=33442~33447, Y=-68105~-68108

形状 北壁のみ直線的、南・西壁は張り出し気味。

規模 長軸4.66m・短軸(2.43)m

面積 8.99㎡ 長軸方位 N-12°-W

重複関係 30号土坑と重複する。

埋没土 ローム粒・塊を含む黒褐色土で埋没する。

柱穴 確認されていない。

カマド 確認されていない。

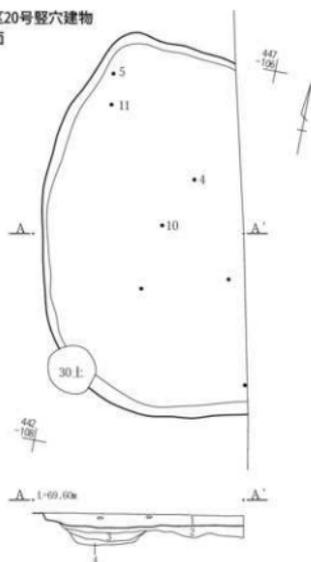
床面 覆土と同質の黒褐色土で貼床されており、床面としてはやや軟質か。

掘り方 北壁に直交するよう土坑状に掘り下げる。土坑は列状に並び、2列が見える。

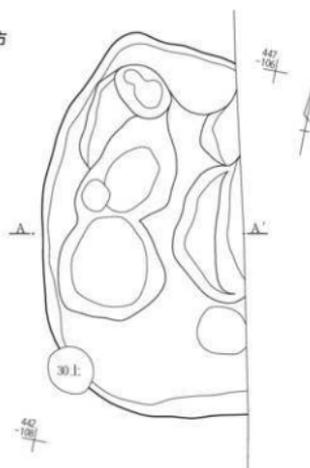
出土状態 須恵器羽釜1・須恵器椀1・灰軸皿1(第206図1~10)が出土した。羽釜以外、床面から10cmほど浮いた状態で出土している。このほか鉄滓(11)がある。

所見 床直の遺物は羽釜(10)のみ。掘り方の1・2・6から、10世紀後半の竪穴建物とした。西壁が膨張気味であるのに対し床下土坑は直線的に並び、本来は方形を基調とする規格的プランが想定されよう。

R2-3区20号竪穴建物
使用面



掘り方



R2-3区20号竪穴建物

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒が少量混入する。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒、黒色炭化物粒を少量含む。
- 3 黒褐色土 黒色灰・焼土粒を多量に含む。堆積はやや粗い。
- 4 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。礫が混入する。



第51図 R2-3区20号竪穴建物

<R2-3区22号竪穴建物> (第52図, PL.18)

位置 X = 33449 ~ 33454, Y = -68107 ~ -68111

形状 略方形状か。

規模 長軸(4.96)m・短軸(2.63)m

面積 10.90㎡ 長軸方位 N-20°-W

重複関係 16・19号竪穴建物に切られる。

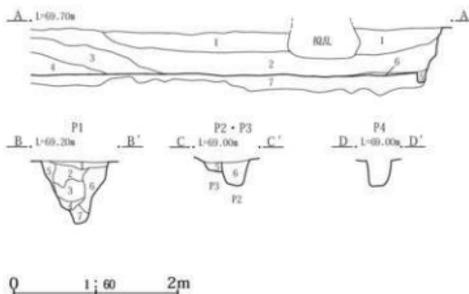
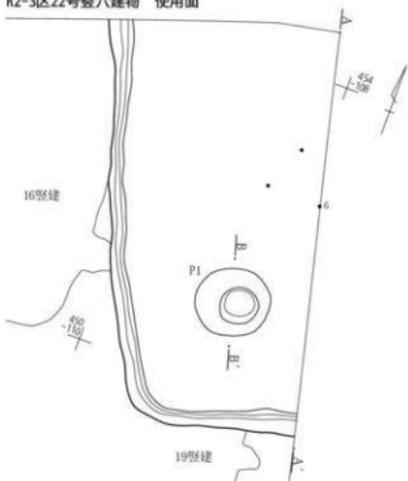
埋没土 埋没当初はローム塊を多量に含む黒褐色土で埋没、人為的に埋め土された可能性が高い。

柱穴 南西側に柱穴が確認されている。径0.9m・深さ0.73mほど。柱痕は不明瞭。

カマド 確認されていない。

床面 床面付近はローム土の混入量が多く、明瞭に貼

R2-3区22号竪穴建物 使用面



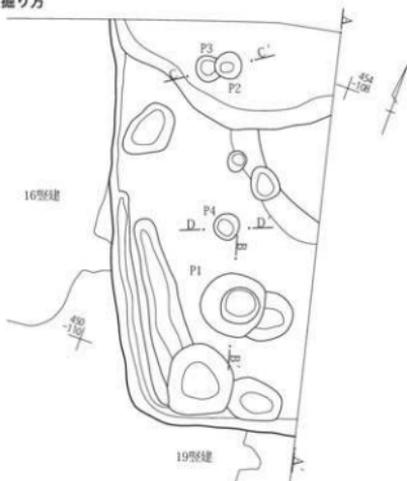
床が確認されたものと思われる。

掘り方 典型的ではないだろうが、床面中央が浅く、壁際を深く掘り込むタイプと見られる。掘り方には支柱穴に近接してもう一本別の柱穴が確認されている。建物を建て替えている可能性がある。

出土状態 覆土中から土師器杯(第207図1~5)が出土したのみである。床直の遺物は見られない。

所見 模倣杯は大小があり、いずれも口縁部が大きく外反するもので、6世紀後半が想定可能。竪穴建物は大形で、柱穴1はコーナーに近過ぎるようであるが、柱穴サイズは大形建物に相応しい。

掘り方



R2-3区22号竪穴建物

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。白色軽石、黒褐色土塊が少量混入する。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 4 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。礫が少量混入する。
- 5 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積はやや脆い。
- 6 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 7 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。

掘り直し

R2-3区22号竪穴建物P1・P2・P3

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。5~10cm径の礫が少量混入する。堆積は脆い。
- 3 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は脆い。
- 4 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は脆い。
- 5 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 6 黄褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 7 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は脆い。

第52図 R2-3区22号竪穴建物

<R2-3区23号竪穴建物> (第53図、PL.18)

位置 X=33458~33463, Y=-68109~-68114

形状 略方形状を呈する。

規模 長軸(4.85)m・短軸(3.70)m

面積 14.32㎡ 長軸方位 N-22°-W

重複関係 18号竪穴建物に切られる。

埋没土 ローム塊や褐色土が塊状に堆積、人為的埋土の可能性が高い。

柱穴 掘り方の調査で、北壁側の柱穴2本が確認されている。柱穴はP1が0.72m、P2が0.88mを測る。建物コーナー対角線上にP1・P2に近接して柱穴2本があり、建て替えの可能性も考えておきたい。

カマド 北壁中央付近にある。焚口の幅は0.3mほど。燃焼部は建物内にあり、奥壁側が赤化する。燃焼部は浅く窪み炭化物が散り、内壁が弱く焼ける程度である。煙道は短く立ち上がる。

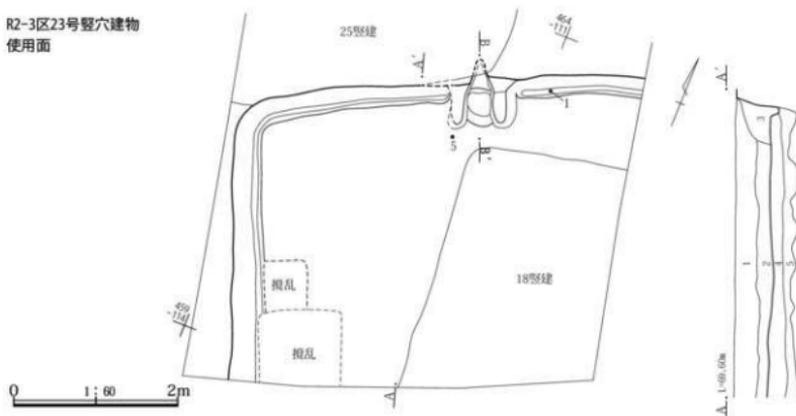
床面 ロームと黒色土による通常貼床か。

掘り方 全体的に0.2~0.3mを粗く掘り下げているが、特に柱穴周辺を深く掘り下げように見える。

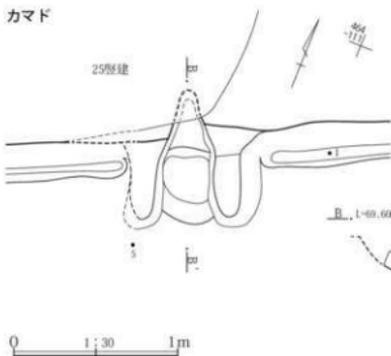
出土状態 土師器杯(第207図1)が北壁周溝付近に、同じく土師器甕の底部破片(5)が掘り方から出土した。3・7~9が覆土中、2・6は掘り方の出土である。

所見 建物サイズ及び出土遺物から、7世紀前半の竪穴と捉えておきたい。8・9は混入の可能性が高い。

R2-3区23号竪穴建物
使用面



カマド



R2-3区23号竪穴建物

- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む。白色軽石が少量混入する。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 黒褐色土 ローム粒を少量含む。境土が多量に混入する。堆積はやや脆い。
- 4 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 5 黄褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。(漸移層)

*23号は、床が黒褐色土上につくられている。そのため、あるべき工具痕や細かな凹凸は見えなかった。3区で検出された、竪穴建物とはやや様相が異なる。4層の黒褐色土は、旧地表面とも考えられるが、遺構としては検出できなかったが、縄文時代の遺構の覆土の可能性もある。

R2-3区23号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む。境土が少量混入する。堆積は緻密である。

*燃焼面はあるが、炭化物層などない。北・東2方向にカマドがあるか、作り変えた痕跡とも考えられる。掘方は、住居履上上であり、おうことができなかった。また、床面を検出する際に、カマドとして認識された、セクションとして図化できたところは限られた。

第53図 R2-3区23号竪穴建物

<R2-3区24号竪穴建物>(第54図、PL.18)

位置 X=33464～33468、Y=-68110～-68111

形状 略方形か。

規模 長軸3.40m・短軸(1.50)m

面積 4.29㎡ 長軸方位 N-7°-W

重複関係 17号竪穴建物を切る。

埋没土 ローム土を多量に含む黒褐色土で埋没。比較的短期の埋没か。

柱穴 建物北西隅に柱穴様のピットが確認されているが、対応する位置にピットがなく、断定は難しい。

カマド 確認されていない。

床面 写真を見る限り、貼床の状態は比較的良好で、容易に確認できたはずである。

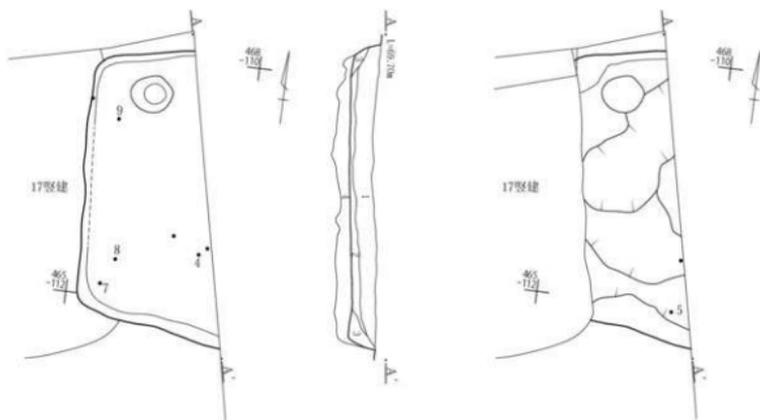
掘り方 建物中央を浅く、壁際を深く掘り込むタイプか。

出土状態 杯碗類(第208図2～4、7・8)が5～10cmほど浮いた状態で出土した。このほか貼床下から土師器杯(1)、須恵器杯(5)が出土した。壘は2点とも覆土中の出土である。

所見 7世紀前半期の土師器模倣杯(1～3)と9世紀後半期の須恵器杯碗類(4～8)と土師器壘(4～10)が混在した。1～3を混入と捉え、9世紀後半期の竪穴建物と考えておきたい。

R2-3区24号竪穴建物

使用面



R2-3区24号竪穴建物

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。黒褐色土塊が少量混入する。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 黒褐色土 ローム粒をやや多量に含む。堆積は緻密である。
- 4 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。掘方覆土。

0 1:60 2m

第54図 R2-3区24号竪穴建物

<R2-3区26号竪穴建物> (第55図, PL.19)

位置 X=33432~33433, Y=-68104~-68108

形状 略方形か

規模 長軸(2.70)m・短軸(1.75)m

面積 3.23㎡ 長軸方位 N-5°-W

重複関係 22号土坑に切られる。

埋没土 西壁際にはロームブロックを多量に含む黒色土が三角堆積する。覆土中には大粒のローム粒が多量混入、比較的短期に埋没したと思われる。

柱穴 確認されていない。

カマド 確認されていない。

床面 ロームブロックが混じる黒色土で床を貼る。南壁際には幅10cm程度の周溝が廻る。

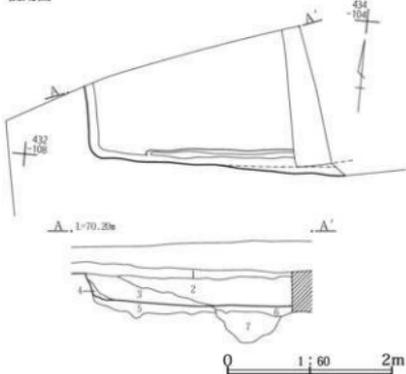
掘り方 全体的に浅く掘り下げるタイプで、壁際には多少意識して掘り下げるように見える。

出土状態 覆土中から土器片類が少量出土だけである。

所見 北壁際の土坑は、本来的には地山の変質部分と見られる。出土遺物が小片で時期判定は難しい。

R2-3区26号竪穴建物

使用面



R2-3区26号竪穴建物

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒・炭化物粒が混入する。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 4 暗褐色土 ローム粒塊をやや多量に含む。堆積は緻密である。
- 5 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 6 暗褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。堆積は緻密である。
- 7 暗褐色土 ローム、基本土層5~6層が混在する。堆積は緻密である。

第55図 R2-3区26号竪穴建物

<R2-3区27号竪穴建物> (第56図, PL.19)

位置 X=33424~33428, Y=-68104~-68107

形状 略方形か

規模 長軸(2.85)m・短軸3.70m

面積 (8.19)㎡ 長軸方位 N-1°-E

重複関係 28号竪穴建物を切る。

埋没土 壁際の黒色土が三角堆積したのち、比較的均質なローム粒子を含む黒褐色土で埋没する。埋没は比較的短期の出来事か。

柱穴 確認されていない。

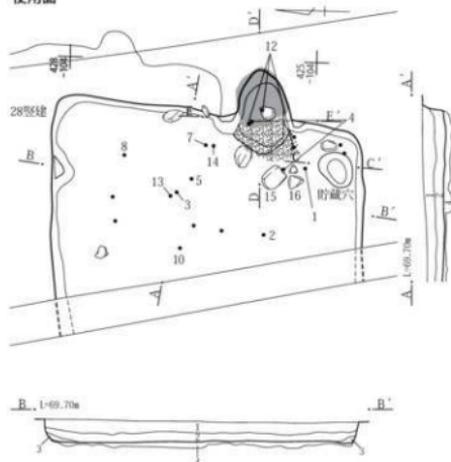
カマド 東壁中央よりやや南にあり、焚口の幅は60cm弱。焚口は竪穴東壁ライン上にあり、それより奥が燃焼部になる。燃焼部手前側に灰層が、奥に焼土が残されていた。燃焼部奥壁は強く赤化している。煙道は短く立ち上がるタイプで、カマド周辺の床面には大型礫があり、カマド天井石や袖石の類と見られる。

床面 ローム混じり黒色土で貼床され、カマドに近い南東コーナーに貯蔵穴がある。カマド周辺から建物中央は固く締まる。

掘り方 全体的に掘り方は浅く、特に顕著な傾向は指摘できないが、強いて言えばカマドの両サイドや壁際が下がり気味に見える。

出土状態 カマド付近の出土量が多い。カマド内や床面直上の出土遺物が主体だが、土鍾は10cmほど浮いた状態で出土している。第209図1・2・5・7が床直、4・6・11・12がカマド内の出土である。このほか鉄滓(13)・礫磁石(14)が出土した。

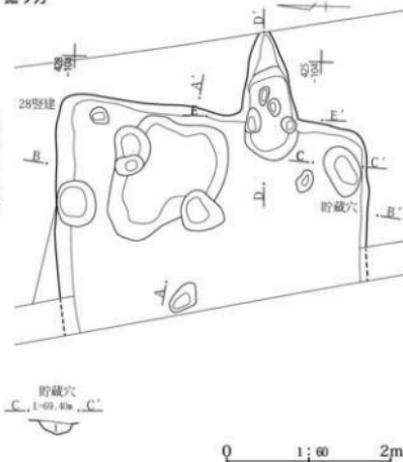
所見 カマド周辺には大型礫が集中しているが、これはカマド芯材になる。出土状態から出土遺物の大部分は廃棄されたものだろう。竪穴建物は10世紀第1四半期に比定されよう。

R2-3区27号竪穴建物
使用面

R2-3区27号竪穴建物

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒が少量混入する。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。堆積は緻密である。
- 4 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。

掘り方

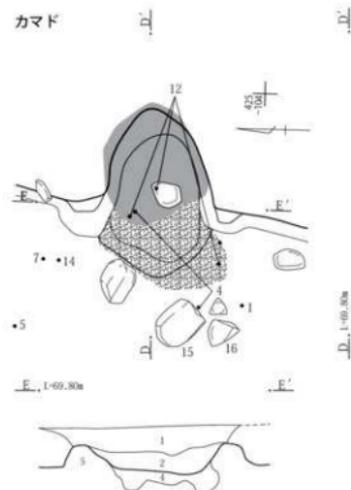


R2-3区27号竪穴建物貯蔵穴

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒・炭化物粒が少量混入する。堆積は脆い。

0 1:60 2m

カマド



R2-3区27号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊、白色軽石を少量含む。このほか焼土が少量混入する。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒・炭化物粒が少量混入する。堆積は緻密である。
- 3 赤褐色土 ローム上層のソフトロームが焼土となったもの。構造構築材。
- 4 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積はやや脆い。
- 5 黄褐色土 ローム上層のソフトローム 掘り残して袖としている。

0 1:30 1m

第56図 R2-3区27号竪穴建物

<R2-3区28号竪穴建物> (第57図, PL.19)

位置 X=33426~33429, Y=-68103~-68107

形状 略方形か。

規模 長軸(3.60)m・短軸3.35m

面積 (10.28)m² 長軸方位 N-2°-W

重複関係 27号竪穴建物に切られる。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で自然埋没する。

柱穴 確認できていない。

カマド 東壁中央よりやや南にある。残存状況が悪く、焚口の幅は不明。カマド左袖側の東壁は右袖側に比べ若干だが張り出し、激しく壊されている。右袖部手前には小穴があり、第210図7として図示した長甕が埋め込まれていた可能性がある。東壁はカマド北壁側が張り出し

変則的である。燃焼部は東壁内部にあり、焚口幅は40cmほどである。

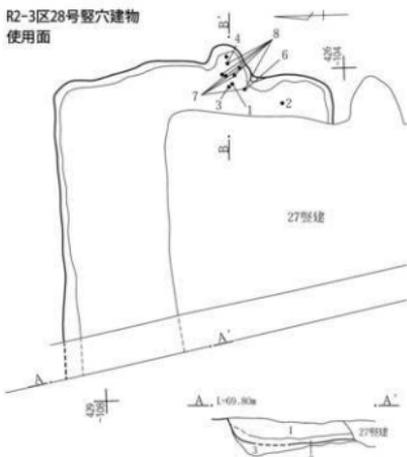
床面 黒色土とローム混土で貼床されており、床面の認定は比較的容易。

掘り方 全体的に浅く掘り下げる。特に記載すべきことはないが、南北の壁際には土坑状に落ち込んでいる。主柱穴は現状で確認できていないが、これが上屋構造に関係するかもしれない。

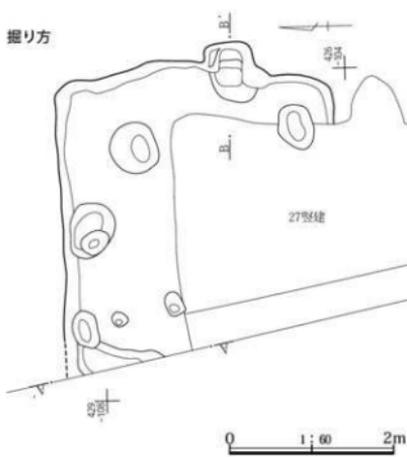
出土状態 カマド内から土師器杯(第210図1)・甕(5~8)、須恵器蓋(2)が出土している。

所見 竪穴建物は8世紀第2~3四半期に構築されたものと思われる。

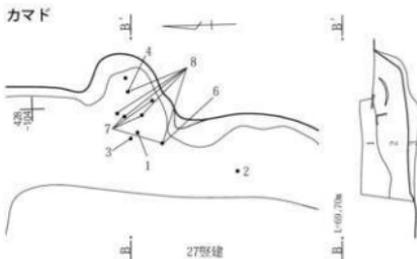
R2-3区28号竪穴建物
使用面



掘り方



カマド



R2-3区28号竪穴建物

1 暗褐色土・ローム粒・塊を少量含む、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。

2 暗褐色土・ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。

3 暗褐色土・ローム粒・塊を多量に含む。堆積はやや脆い。

R2-3区28号竪穴建物カマド

1 暗褐色土・ローム粒・塊を少量含む。焼土粒が少量混入する。堆積は緻密である。

2 暗褐色土・焼土粒を多量に含む。堆積はやや脆い。

3 暗褐色土・ローム粒・塊を多量に含む。堆積はやや脆い。

第57図 R2-3区28号竪穴建物

<R2-3区29号竪穴建物> (第58図, PL.19)

位置 X=33422~34263, Y=-68101~-68104

形状 略方形を呈する。

規模 29a:長軸(1.50)m・短軸(2.90)m

29b:長軸(2.80)m・短軸(2.90)m

面積 3.13㎡ 長軸方位 N-12°-W

重複関係 竪穴建物2棟が重複する。

埋没土 ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。

柱穴 確認できていない。

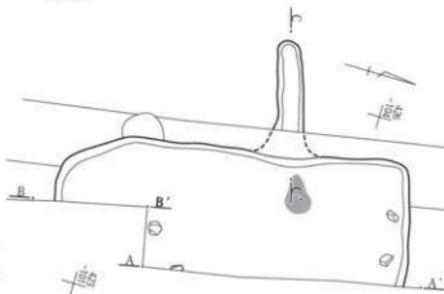
カマド 煙道部のみ西壁側に残されていた。カマド袖や燃焼部は確認できていないが、西壁際床面に焼土範囲があり、燃焼部が建物内部にあることが分かる。

床面 黒色土とロームの混土で貼床されていた。貼床にはロームの含有量に差があり、下層竪穴建物のプランを反映した可能性が高い。

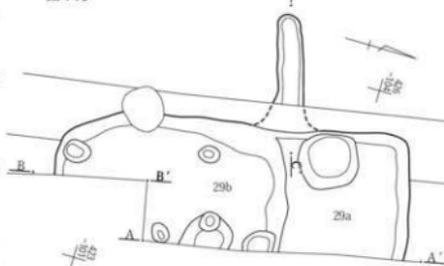
掘り方 29a号とした竪穴建物の掘り方は極浅く、壁際に粗い工具痕が残る程度、29b号とした竪穴建物は深く掘り下げており掘り方は明瞭である。

出土状態 竪穴建物の覆土中から土師器杯の小片5点が出土したのみである。

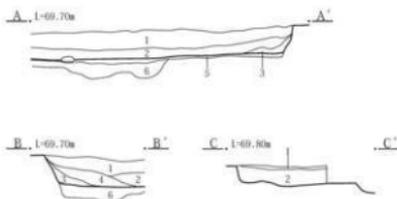
所見 竪穴建物が完掘されているということならば、掘り方の差は明らかであり、建物2棟の重複と見たい。建物の新旧について西壁際の焼土が29a号竪穴建物に取まる点を踏まえれば29b号竪穴建物が新しくなる。竪穴の新旧関係確認は東壁セクションの写真が鮮明とはいえず判断できないが、床面のレベル差はないように見える。建物の新旧はカマドの残存状況を重視すべきかもしれない。出土遺物は小片だが、いずれも7世紀後半期に比定。

R2-3区29号竪穴建物
使用面

掘り方



0 1; 60 2m



R2-3区29号竪穴建物

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊、白色軽石を少量含む。焼土が少量混入する。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒・炭化物粒が少量混入する。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。2~5cm径の礫が混入する。堆積は緻密である。
- 4 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 5 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。上面が硬化する。掘り覆上。
- 6 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。掘り覆上。方形の床下土坑の可能性もあるが、29aに切られる。竪穴建物の可能性が高い。

R2-3区29号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土、黒色灰が少量混入する。堆積は脆い。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊をごく少量含む。堆積は緻密である。

<R2-3区30号竪穴建物> (第59・60図、PL.20)

位置 X=33417~33420, Y=-68101~68104

形状 略長方形を呈する。

規模 長軸3.85m・短軸2.92m

面積 8.83㎡ 長軸方位 N-4°-W

重複関係 31号竪穴建物と重複する。

埋没土 ローム粒・ローム塊を含む黒褐色土で埋没する。

柱穴 確認されていない。

カマド 東壁中央-南東コーナーの中間付近にある。焚口は40cmほど、東壁ライン上にある。燃燒部は幅47cm、奥行き57cmほどであり、燃燒部中央の支脚に棒状礫を用いる。カマド右袖奥には須恵器椀(第211図9)左袖奥には須恵器杯(3)があり、カマド壁面に埋め込まれたものが割がれ落ちたものとみられる。調査区東壁に焼土が残

り、これが煙道となるものと思われる。

床面 ローム土は混じる程度で、貼床は黒色土ベースになる。床面の硬化範囲は特に記載されていない。東壁を除いて浅い周溝が廻る。カマド前面には灰層が広がる。

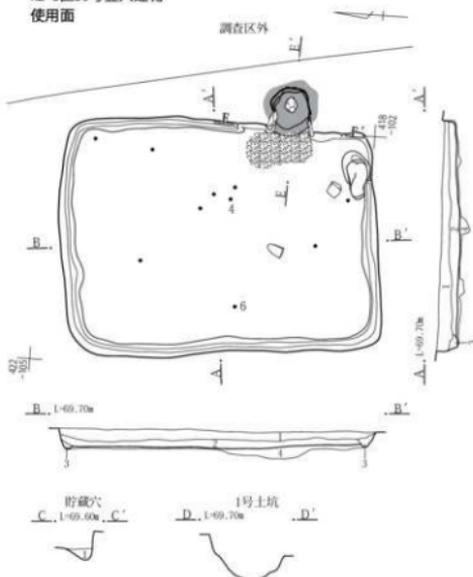
掘り方 カマド延長上の竪穴建物中央付近が浅く窪んでいるほか、北東・南西コーナー付近が土坑状に大きく窪む。貯蔵穴か。

出土状態 床面から須恵器杯(第211図4)と須恵器椀(6)が、カマドから3・7~9・15が、1・10・16が堀から出土した。

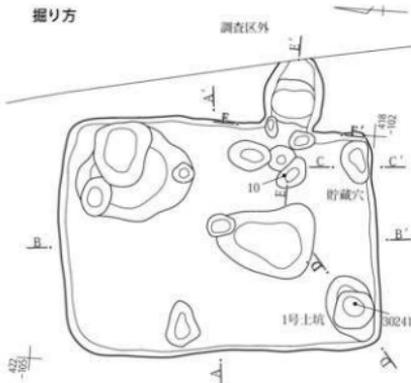
所見 出土遺物には須恵器杯・椀、覆土中に灰釉陶器椀の破片類があり、10世紀後半に帰属する竪穴建物と捉えた。

R2-3区30号竪穴建物

使用面



掘り方



R2-3区30号竪穴建物

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒・炭化物粒が少量混入する。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。上面が硬化する。堆積はやや脆い。
- 4 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。

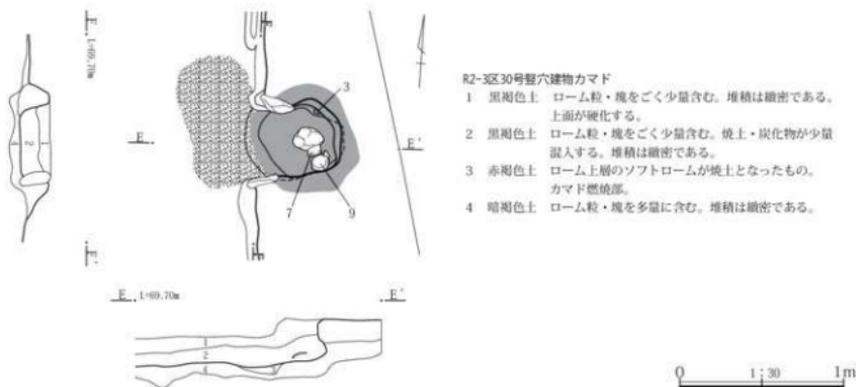
R2-3区30号竪穴建物貯蔵穴

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊をごく少量含む。炭化物が多量に混入する。堆積は脆い。

0 1:60 2m

第59図 R2-3区30号竪穴建物1

カマド



第60図 R2-3区30号竪穴建物2

<R2-3区31号竪穴建物>(第61図、PL.20)

位置 X=33415~33420、Y=-68100~68101

形状 略方形か

規模 長軸(4.35)m・短軸(1.00)m

面積 3.33㎡ 長軸方位 N-1°-E

重複関係 30・40・46号竪穴建物と重複する。

埋没土 ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。

柱穴 確認されていない。

カマド 確認されていない。

床面 黒色土とローム混土で貼床されており、床面の確認は比較的容易である。

掘り方 全体的に浅く荒ぼりする程度か。

出土状態 土師器甕(第212図3)・須恵器椀(2)が床直から、須恵器椀(1)・須恵器高坏(5)・土師器甕(4)が覆土中から出土している。

所見 出土遺物から9世紀第4四半期に帰属する竪穴建物と見られる。

<R2-3区46号竪穴建物>(第00図、PL.00)

位置 X=33414~33416、Y=-68100~68101

形状 略方形か。

規模 長軸(2.60)m・短軸(0.78)m

面積 1.75㎡ 長軸方位 N-7°-W

重複関係 31・33・34・35号竪穴建物と重複する。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

柱穴 確認されていない。

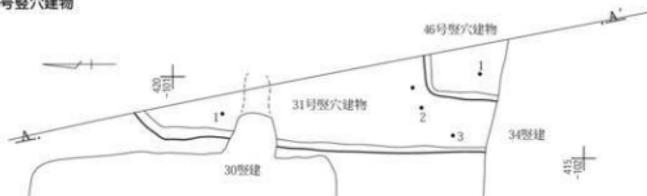
カマド 確認されていない。

床面 荒ぼり後、床面を整える程度に貼床したものと見られる。床面は明瞭ではない。

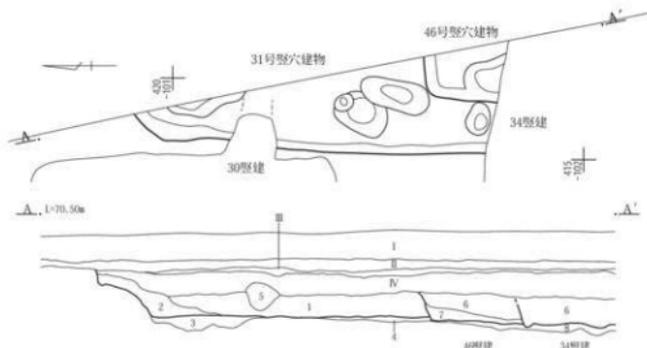
出土状態 床面下5cmで須恵器椀(第218図1)の小片が出土している。

所見 34号竪穴建物の掘り方を調査中、その存在が明らかになったものであるが、新旧関係は不明。1点のみ出土した須恵器椀は9世紀後半期に比定。

R2-3区31・46号竪穴建物
使用面



掘り方



R2-3区31・46号竪穴建物

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積はやや脆い。
- 4 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 5 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。炭化物が混入する堆積は緻密である。
- 6 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 7 黒褐色土 ローム粒・塊をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 8 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。

0 1:60 2m

第61図 R2-3区31・46号竪穴建物

<R2-3区32号竪穴建物>(第62図, PL.20)

位置 X=33409~33412, Y=-68102~-68104

形状 略方形か。

規模 長軸(2.83)m・短軸(1.75)m

面積 3.58㎡ 長軸方位 N-4°-W

重複関係 34号竪穴建物と重複する。

埋没土 ローム粒子・小礫を含む暗褐色土で比較的短期に埋没したものとみられる。

柱穴 確認されていない。

カマド 東壁中央よりやや南に寄る。焚口は50cmほどであり、右袖のみ袖石が残る。燃焼部は東壁ライン上にあ

り、燃焼部内壁は明瞭に赤化していた。燃焼部外端部には糞が逆位に置かれていた。糞は煙道の一部と見られ、燃焼部から短く立ち上がるタイプの煙道である。カマド焚口に相当する箇所が浅く窪み、袖石が抜かれたことが判明する。竪穴内には同サイズの河床礫数点が出土しており、これもカマド袖石に係わるものといえよう。

床面 床面は4cm程度の高低差があり、下げ過ぎた部分もあるように思われる。カマド前面の床面だが、特に硬化範囲が図示されているわけではない。貯蔵穴が南東コーナー付近に確認されているが、その他の施設は確認できていない。

掘り方 掘り方は全体的に浅く、5～10cmほどが粗掘りされただけである。強いて言えば、北壁側が深く掘り下がる傾向が指摘される程度である。

出土状態 1・10・14がカマドから、3が貯蔵穴から、床直で6・13が出土した。4・9は掘り方、2・11・12

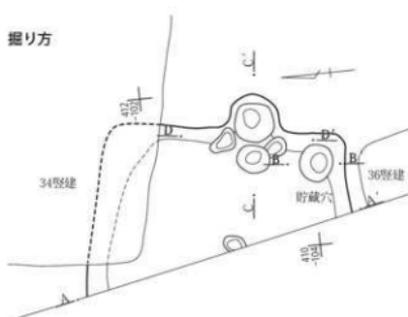
は3～10cm浮いた状態で、5・7・8は覆土中出土である(第212図1～9、第213図10～16)。

所見 14の土師器甕は煙道に逆位の状態で出土、煙出し機能を果たしたと思われる。竪穴建物は9世紀第4四半期の所産。

R2-3区32号竪穴建物
使用面

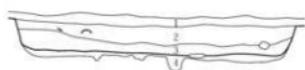


掘り方



A, L=70.00m

A'

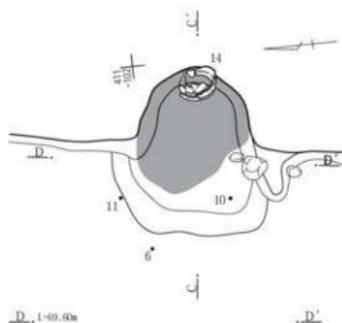


貯蔵穴

B, L=69.30m, B'

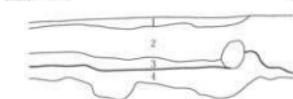


カマド



D, L=60.00m

D'



0 1:30 1m

R2-3区32号竪穴建物

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。堆積は緻密である。
- 4 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積はやや脆い。

R2-3区32号竪穴建物貯蔵穴

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。炭化物粒を少量含む。堆積はやや脆い。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊をごく少量含む。焼土粒を少量含む。堆積はやや脆い。

0 1:60 2m



R2-3区32号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。炭化物粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊をごく少量含む。焼土粒を少量含む。堆積はやや脆い。
- 4 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。焼土粒を少量含む。堆積は緻密である。

第62図 R2-3区32号竪穴建物

<R2-3区33号竪穴建物> (第63・64図、PL.21)

位置 X=33409~33414, Y=-68109~68101

形状 略方形か

規模 長軸4.66m・短軸(1.73)m

面積 6.36㎡ 長軸方位 N-12°-W

重複関係 34・35・46号竪穴建物と重複する。

埋没土 ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。南壁側にローム主体の埋め土がある。

柱穴 未確認 カマド 不明

床面 黒色土とローム混土で貼床されていた。

掘り方 不明

出土状態 須恵器椀(第213図2)・須恵器羽釜(5)が床直で、土師器杯(1)・灰軸陶器椀(3)・須恵器椀(4)が覆土中から出土した。

所見 33・35号竪穴建物が切り合う。この切り合い関係は東壁で確認されたものであるが、北壁は34号竪穴建物と重複しており、土層が微妙で確認できていない。西壁も確認されておらず竪穴建物の形状は不明だが、南壁を信じるならば、西壁は35号竪穴建物の西壁を共有するのではなく、内側に曲がるのであろう。出土物には10世紀前半期のももあるようであるが、これを混入と捉え、竪穴建物は9世紀後半の所産。

<R2-3区35号竪穴建物> (第63・64図、PL.21)

位置 X=33408~33410, Y=-68109~68100

形状 略方形か

規模 長軸(5.90)m・短軸(1.50)m

面積 (1.43)㎡ 長軸方位 N-12°-W

重複関係 33・34号竪穴建物と重複する。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

柱穴 確認されていない。

カマド 確認されていない。

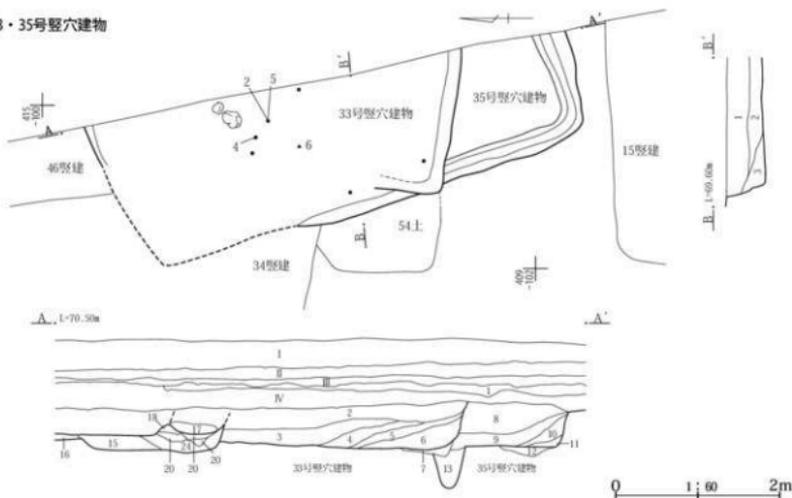
床面 黒色土とローム混土で貼床されていた。

掘り方 壁際を深く掘り窪めるタイプ。

出土状態 掘り方から土師器杯の破片(第214図)1点が出土したのみである。

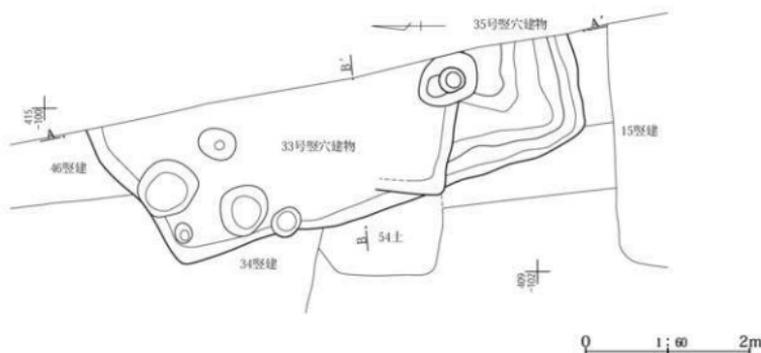
所見 出土遺物が1点だけに限られているが、これにより竪穴建物は6世紀代後半に帰属するものとした。

R2-3区33・35号竪穴建物
使用面



第63図 R2-3区33・35号竪穴建物 1

掘り方



R2-3区33-35号竪穴建物A-A'

- I 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Aを少量含む。現耕作土
- II 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Aをやや多量に含む。旧耕作土
- III 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- IV 黒褐色土 ローム粒を少量含む。礫が少量混入する。堆積は緻密である。遺物を含む上層。
- 1 黒褐色土 As-Bを多量に含む。ローム粒を少量含む。堆積は脆い。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 黒褐色土 ローム塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 4 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は強硬である。
- 5 黒褐色土 ローム塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 6 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 7 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 8 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 9 黒褐色土 ローム粒・塊をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 10 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積はやや脆い。
- 11 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積はやや脆い。
- 12 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積はやや脆い。

- 13 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積はやや脆い。
- 14 黒褐色土 ローム粒・塊をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 15 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 16 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 17 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土が多量に混入する。堆積は緻密である。
- 18 暗褐色土 ローム塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 19 黒褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。堆積は緻密である。
- 20 暗褐色土 ローム粒・塊をごく多量に含む。堆積は緻密である。
- 21 暗褐色土 ローム粒・塊をごく多量に含む。堆積は緻密である。
- 22 暗褐色土 ローム粒・塊をごく多量に含む。堆積は緻密である。
- R2-3区33-35号竪穴建物B-B'
- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。白色軽石を少量含む。2~10cm径の礫が混入する。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。炭化物粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積はやや脆い。

第64図 R2-3区33・35号竪穴建物2

<R2-3区34号竪穴建物>(第65・66図、PL.21)

位置 X=33411~33416, Y=-68099~68103

形状 略方形を呈する。

規模 長軸4.37m・短軸3.70m

面積 (14.29)m² 長軸方位 N-6°-E

重複関係 31・33・46号竪穴建物と重複する。

埋没土 ローム粒子が混じる暗褐色土で埋まる。

柱穴 確認されていない。

カマド 東壁際でカマド燃焼部付近まで確認されている。カマド煙道は調査区外へ延びる。カマド焚口は50cm弱で、カマド手前には灰層が広がっていた。

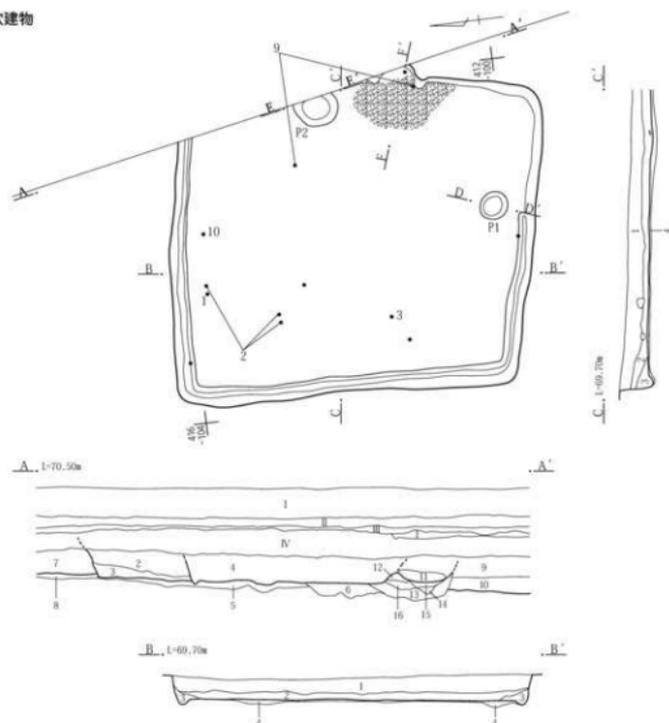
床面 黒色土とローム混土で貼床されていた。全体的に床面は明瞭で、容易に確認されたものと思われる。

掘り方 全体的に浅く掘り窪めるタイプか。

出土状態 カマド内から須恵器羽釜片(第214図9)、床直で土師器杯(1)と須恵器杯蓋(2)が出土、覆土中から須恵器皿・杯・碗が出土した。

所見 重複建物4棟の内、最も早く調査された竪穴で、出土遺物には9世紀前半期と10世紀代期のものがあり、建物の帰属時期は10世紀代ということになる。掘り方の段階(PL.21)で、カマド付近には黒色土の方形プラン(35号竪穴建物の北西側コーナー)が見える。

R2-3区34号竪穴建物
使用面



R2-3区34号竪穴建物A-A'

- I 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Aを少量含む。旧耕作土
- II 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Aをやや多量に含む。旧耕作土
- III 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- IV 黒褐色土 ローム粒を少量含む。礫が少量混入する。堆積は緻密である。遺物を含む土層。

- 1 黒褐色土 As-Bを多量に含む。ローム粒を少量含む。堆積は脆い。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 黒褐色土 ローム粒・塊をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 4 黒褐色土 ローム粒・塊をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 5 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 6 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 7 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 8 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 9 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 10 黒褐色土 ローム塊を少量含む。堆積は緻密である。

- 11 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土が多量に混入する。堆積は緻密である。
- 12 暗褐色土 ローム塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 13 黒褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。堆積は緻密である。
- 14 暗褐色土 ローム粒・塊をごく多量に含む。堆積は緻密である。
- 15 暗褐色土 ローム粒・塊をごく多量に含む。堆積は緻密である。
- 16 暗褐色土 ローム粒・塊をごく多量に含む。堆積は緻密である。

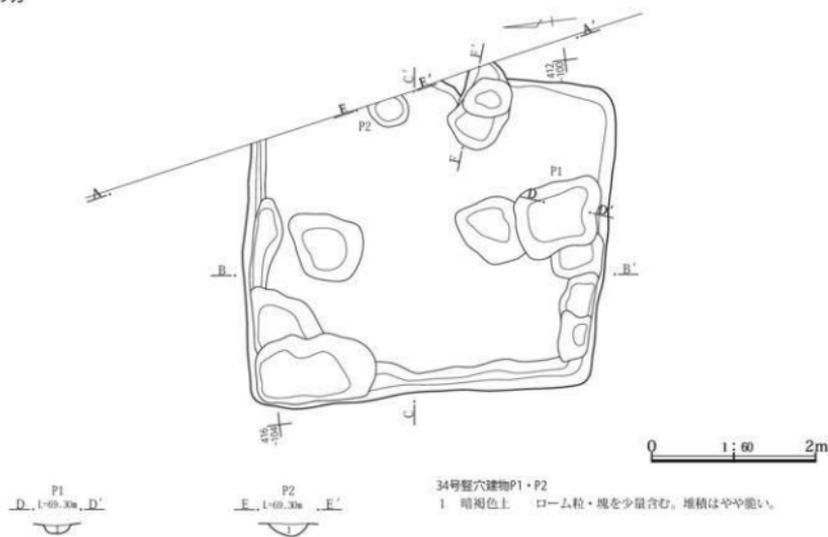
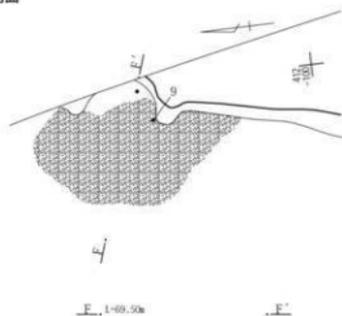
R2-3区34号竪穴建物B-B'・C-C'

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒が少量混入する。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。堆積はやや脆い。
- 4 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。

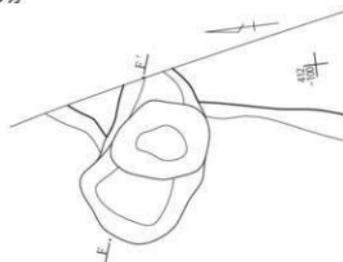
0 1:60 2m

第65図 R2-3区34号竪穴建物I

掘り方

カマド
使用面

掘り方



R2-3区34号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒が少量混入する。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒が少量混入する。炭化物が多量に混入する。堆積は脆い。
- 3 カマド灰層 灰層が薄く堆積する。カマド使用面。
- 4 暗褐色土 ローム粒塊を多量に含む。堆積は緻密である。

0 1:30 1m

第66図 R2-3区34号竪穴建物2

<R2-3区36号竪穴建物>(第67図、PL.21)

位置 X=33407~33409、Y=-68102~-68103

形状 略方形か

規模 長軸(1.07)m・短軸(0.75)m

面積 0.96㎡ 長軸方位 N-12°-W

重複関係 なし

埋没土 壁際に黒色土の三角埋土がある。全体としてはローム粒子を含む暗褐色土で比較的短期に埋もれたものと思われる。

柱穴 確認されていない。

カマド 確認されていない。

床面 荒ぼりして床面を整える程度か。明確な貼床は認定されていない。

出土状態 なし

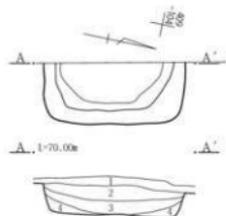
所見 現場では竪穴建物として認定されているが、床面も明瞭ではなく、遺構サイズも竪穴建物としては小形である。土坑か竪穴状遺構とするのが妥当。時期不明。

R2-3区36号竪穴建物

使用面



掘り方



R2-3区36号竪穴建物

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含み、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。礫が少量混入する。堆積は緻密である。
- 4 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積はやや脆い。

0 1:60 2m

第67図 R2-3区36号竪穴建物

<R2-3区37号竪穴建物>(第68図、PL.21)

位置 X=33391~33394、Y=-68097~-68099

形状 略方形か

規模 長軸3.04m・短軸(1.90)m

面積 4.15㎡ 長軸方位 N-2°-W

重複関係 41・52号竪穴建物と重複する。

埋没土 やや明るい褐色土を斑状に含んだ暗褐色土で埋まる。

柱穴 未確認

カマド 東壁中央よりやや南にある。カマド袖・焚口・燃焼部とも不明瞭である。

床面 黒色土とローム混土で貼床されていた。北東側コーナーに近い床面に炭化物が広がっていた。

出土状態 出土遺物6点(第214図)を掲載しているが、すべて覆土中の出土である。

所見 南側の建物プランが変形して歪んでいるのも影響しているかもしれないが、カマド燃焼部が不明瞭で、完全に掘り切れずにいる可能性がある。出土遺物から、竪穴建物は11世紀前半に帰属する。

<R2-3区41号竪穴建物>(第68図、PL.22)

位置 X=33388~33391、Y=-68097~-68099

形状 略方形条を呈する。

規模 長軸(2.40)m・短軸(0.82)m

面積 0.78㎡ 長軸方位 N-33°-W

重複関係 37号竪穴建物と重複する。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

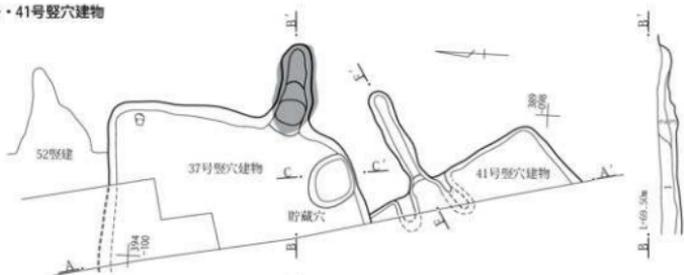
柱穴 確認されていない。

カマド 東壁中央付近にあり、焚口は40cmほどである。燃焼部は竪穴内にあり、煙道は長く、1.15mを測る。袖はローム土と黒色土を混ぜ作られる。

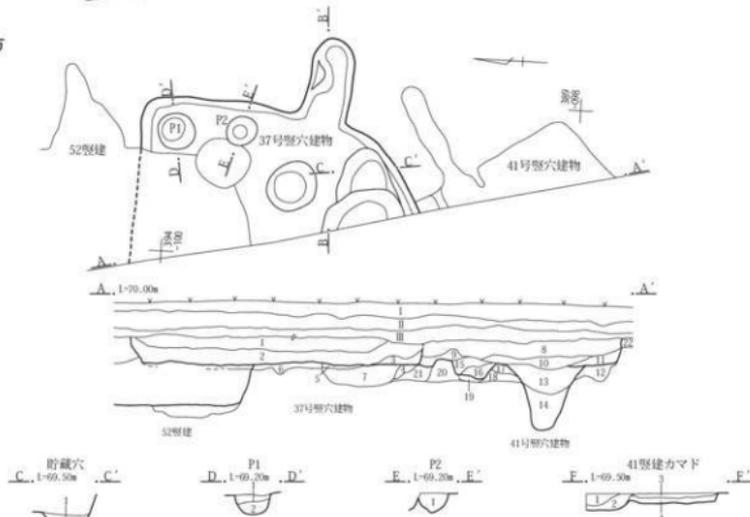
床面 黒色土とローム土で貼床されていた。

出土状態 なし

所見 出土遺物がなく、竪穴建物の帰属時期は不明。

R2-3区37号・41号竪穴建物
使用面

掘り方



R2-3区37・41号竪穴建物

- 1 黒褐色土 ローム粒をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊をごく少量含む。堆積はやや脆い。
- 3 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 4 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 5 黒褐色土 ローム粒・塊をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 6 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 7 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 8 黒褐色土 ローム粒・塊、礫を少量含む。堆積は緻密である。
- 9 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 10 黒褐色土 ローム粒をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 11 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 12 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積はやや脆い。
- 13 黒褐色土 ローム塊を少量含む。堆積はやや脆い。
- 14 黒褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。堆積はやや脆い。
- 15 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。
- 16 黒褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。焼土粒が多量に混入する。堆積はやや脆い。
- 17 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積はやや脆い。
- 18 黒褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。堆積はやや脆い。
- 19 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。
- 20 黒褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。堆積は緻密である。
- 21 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。

R2-3区37号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土が少量混入する。堆積は緻密である。

R2-3区37号竪穴建物貯蔵穴

- 1 暗褐色土 ローム粒をごく少量含む。堆積はやや脆い。

R2-3区37号竪穴建物P1

- 1 暗褐色土 ローム粒をごく少量含む。堆積はやや脆い。
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む。ローム上が多量に混入する。堆積はやや脆い。

R2-3区37号竪穴建物P2

- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む。ローム上が多量に混入する。堆積はやや脆い。

R2-3区41号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒が少量混入する。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒を少量含む。焼土粒が少量混入する。堆積は緻密である。
- 4 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土粒が少量混入する。堆積は下層に黒色灰が混入する。堆積は緻密である。

第68図 R2-3区37・41号竪穴建物

0 1:60 2m

<R2-3区38号竪穴建物> (第69・70図、PL.22)

位置 X=33395~33398、Y=-68098~68101

形状 略方形を呈す。

規模 長軸3.65m・短軸(2.45)m

面積 6.65㎡ 長軸方位 N-15°-W

重複関係 39・52号竪穴建物と重複する。

埋没土 ローム粒子、小礫を含む黒褐色土で埋没する。

柱穴 確認されていない。

カマド 確認されていない。

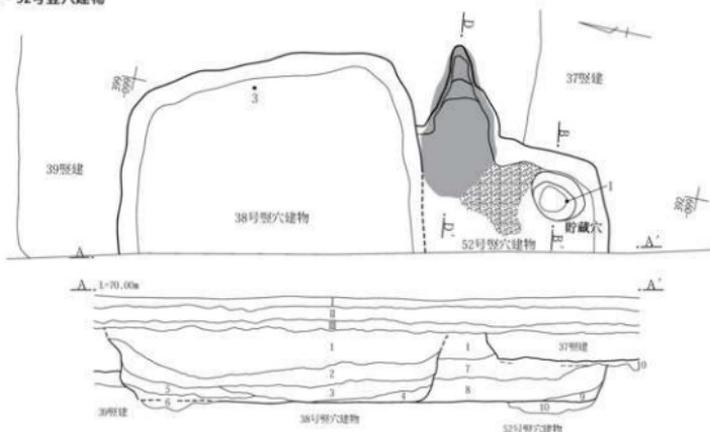
床面 南北壁際を除き、床面には小礫が目立つ傾向がある。

掘り方 南壁際を意図的に掘り窪める傾向が指摘される程度。これ以外は極浅く、貼床は床面を整える程度に止まる。

出土状態 須恵器椀(第215図3)床直で、土師器杯(1・2)・土師器甕(4)が覆土中から出土したほか、土鍾(5)が掘り方から出土した。

所見 出土遺物からみて竪穴建物は9世紀第2四半期に帰属するものと思われる

R2-3区38号・52号竪穴建物
使用面



R2-3区38・52号竪穴建物

- 1 黒褐色土 ローム粒をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 黒褐色土 ローム粒をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 4 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 5 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。

<R2-3区52号竪穴建物> (第69・70図)

位置 X=33392~33395、Y=-68097~68100

形状 略方形か

規模 長軸(2.25)m・短軸(1.40)m

面積 1.88㎡ 長軸方位 N-12°-W

重複関係 37~39号竪穴建物と重複する。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

柱穴 柱穴(P1・P2)2本が確認されている。柱穴1(径30cm・深さ50cm弱)は東南側コーナー貯蔵穴に接し、柱穴2(37×28cm・深さP1底面-4cm)は38号竪穴建物調査中の確認である。

カマド 東壁中央付近にある。焚口は不明瞭だが、掘り方には袖石の痕跡があり、これから焚口は50cm前後が想定可能である。燃焼部には広く灰層が広がり、燃焼部奥壁は良く赤化している。燃焼部は長軸1mほどになるが、実際の燃焼部は想定するより小さいというのが最近の考え方である。

床面 黒色土とローム土の混土で貼床。竪穴南東コーナーに貯蔵穴がある。当初、貯蔵穴は略楕円形状(長軸

- 6 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 7 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 8 黒褐色土 ローム粒・塊をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 9 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 10 黒褐色土 ローム粒をごく少量含む。堆積は緻密である。

0 1:60 2m

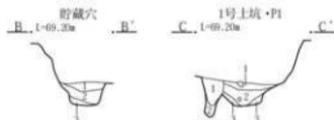
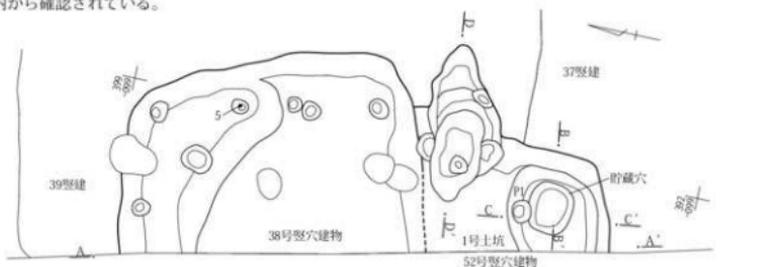
第69図 R2-3区38・52号竪穴建物1

70cm・短軸55cm・深さ30cm)を呈し、覆土には灰と炭化物、焼土を挟み暗褐色土が堆積していたが、最終的には長軸1mを超える大きな土坑となり、柱穴1(径30cm・深さ50cm弱)があり、これから3mほど離れて柱穴2が38号竪穴建物内から確認されている。

出土状態 遺物は4点がある。第220図1が貯蔵穴から、2～4がカマド内から出土した。

所見 竪穴建物の構築時期は9世紀第2四半期になる。

掘り方



R2-3区52号竪穴建物の貯蔵穴

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。炭化物が少量混入する。堆積はやや脆い。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊、焼土塊を少量含む。黒ずんだ灰が多量に混入する。堆積はやや脆い。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積はやや脆い。

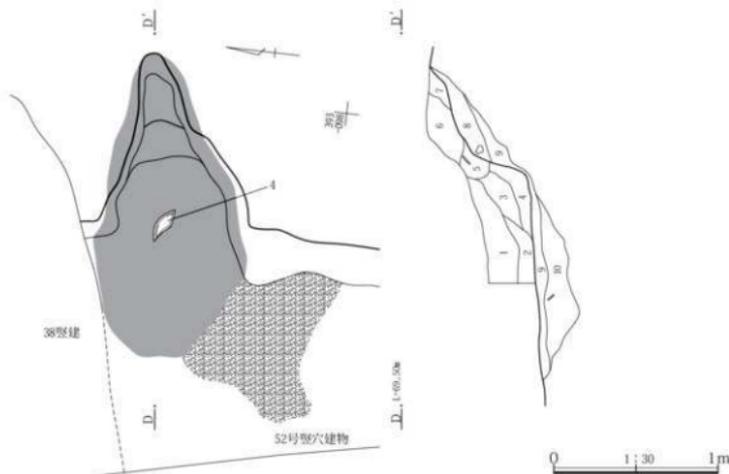
R2-3区52号竪穴建物1号土坑・P1

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。炭化物・礫が混入する。堆積はやや脆い。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。礫が混入する。堆積はやや脆い。

R2-3区52号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒、焼土粒をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積はやや脆い。
- 3 暗褐色土 ローム粒、焼土塊が少量混入する。白色灰が多量に混入する。堆積はやや脆い。
- 4 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積はやや脆い。
- 5 暗褐色土 焼土塊を多量に含む。堆積はやや脆い。
- 6 暗褐色土 ローム粒・塊、焼土塊を少量含む。堆積はやや脆い。
- 7 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 8 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土塊が混入する。堆積は緻密である。掘り覆上。
- 9 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積はやや脆い。掘り覆上。
- 10 暗褐色土 ローム塊を少量含む。堆積は緻密である。掘り覆上。

カマド



第70図 R2-3区38・52号竪穴建物2

<R2-3区39号竪穴建物> (第71・72図, PL.22)

位置 X=33394~33400, Y=-68096~68101

形状 略方形状を呈す。

規模 長軸6.25m・短軸(3.95)m

面積 (22.70)㎡ 長軸方位 N-12°-W

重複関係 38・51・52号竪穴建物と重複する。

埋没土 壁際にローム主体の崩落土が堆積。覆土は38号竪穴建物に比べ暗い。ローム粒子などの混入も少なく、流入土である。

柱穴 南東側柱穴と北東側柱穴の2本がある。P1のみ38号竪穴の南壁に掛かり、深さ81cmを測る。残る2本は竪穴内にあり、深さ50cm(P2・P3)程である。残る柱穴P1の残存状況から深さ0.8~0.9m前後になるものとみられる。

カマド 確認されていない。

床面 北西コーナー側の床面が黒色土ベースの貼床で、やや軟弱。小礫の頭が見える床面は比較的しっかりしている。南北の壁際に深さ5~8cmの周溝が廻る。

掘り方 建物中央から南壁間の掘り方が深く図示されているが、写真データがなく詳細は不明。掘り方には深さ40cm程度の柱穴2が図示されているが、本竪穴に伴う柱穴とは思わない。北側の柱穴が方形状を呈すること、2本の柱穴間が3.6mほどになる。柱穴の出土遺物がなく、覆土記載もなく、帰属時期の判断は難しい。

出土状態 灰軸陶器壺(第215図4)破片1が床面から6cmほど浮いた状態で出土した。このほか、土師器杯(1・2)と須恵器椀(3)が覆土中から出土した。

所見 竪穴建物の帰属時期は10世紀前半。同時期の遺物が51号竪穴建物から出土しているが、本竪穴建物の遺物が混入したものであろう。

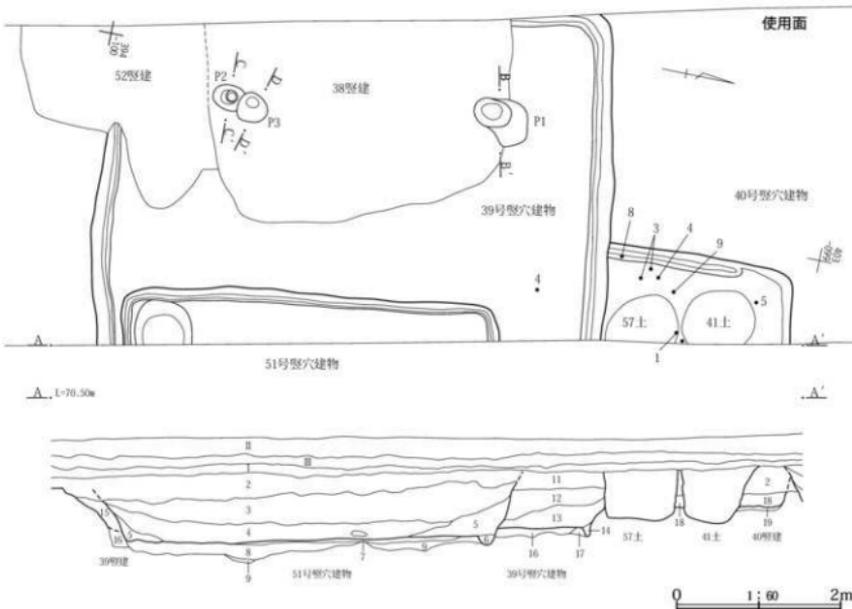
<R2-3区40号竪穴建物> (第71・72図, PL.22)

位置 X=33400~33402, Y=-68097~68098

形状 略方形状

規模 長軸(2.26)m・短軸(1.17)m

R2-3区39号・40号・51号竪穴建物



第71図 R2-3区39・40・51号竪穴建物1

面積 1.91㎡ 長軸方位 N-4°-W

重複関係 39号竪穴建物、41・57号土坑と重複する。

埋没土 ローム粒子、小礫を含む暗褐色土で埋没する。

柱穴・カマド 確認されていない。

床面 通常、床面は黒色土にロームを混ぜて造られるのであろうが、床面としたものはロームが露出した状態にあり、貼床を下げ過ぎている可能性も否定できない。

写真を見る限り、貼床が東壁断面で確認できないのも41・57号土坑以外にも遺構が重複するからかもしれない。

掘り方 全体的に、浅く掘り下げる。床下土坑2基が確認されている。

出土状態 土師器杯(第215図1)、甕(8)、須恵器甕(9)が床直から出土、残る遺物も床面から5cm内外の出土。

所見 出土遺物は、9世紀代4四半期から10世紀第1四半期にかけてのもの。39号竪穴建物も同時期の建物

だが、本竪穴建物の床面は明らかに切られており、近接時期の建物ということになる。

<R2-3区51号竪穴建物>(第71・72図, PL.24)

位置 X=33394~33399, Y=-68096~68097

形状 略方形か

規模 長軸4.60m・短軸(0.72)m

面積 1.95㎡ 長軸方位 N-10°-W

重複関係 39号竪穴建物と重複する。

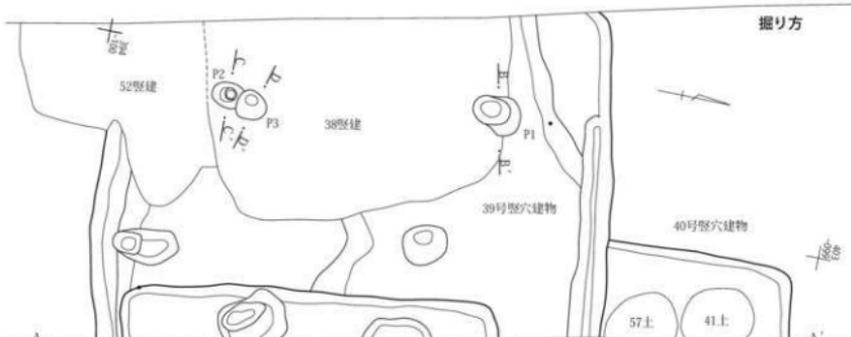
埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

柱穴・カマド 確認されていない。

床面 ローム土と黒色土の混土で貼床されている。

出土状態 覆土中から土師器杯(第220図1)と須恵器杯(2)が出土している。

所見 建物西辺のみ確認されただけで、詳細は不明。



0 1:60 2m

R2-3区39・40・51号竪穴建物

- II 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Aをやや多量に含む。旧耕作土
 III 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
 1 黒褐色土 As-Bを多量に含む。ローム粒を少量含む。堆積は脆い。
 2 黒褐色土 ローム粒を少量含む。礫が少量混入する。堆積は緻密である。
 3 暗褐色土 ローム・ブロック粒・塊。少量含む。礫が混入する。
 4 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
 5 暗褐色土 ローム粒・塊をごく少量含む。堆積は緻密である。
 6 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は強密である。
 7 黒褐色土 ローム粒・塊を少量に含む。堆積は強密である。
 8 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
 9 黒褐色土 ローム粒・塊。礫を少量含む。堆積はやや脆い。
 11 黒褐色土 ローム粒を少量含む。礫が少量混入する。
 12 暗褐色土 ローム粒・塊。礫を少量含む。堆積は緻密である。
 13 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
 14 黒褐色土 ローム粒・塊。礫を少量含む。堆積はやや脆い。
 16 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
 17 ローム・ブロック
 18 暗褐色土 ローム粒をごく少量含む。堆積は緻密である。
 19 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。

P1 B, 1-69.10m, B' C, 1-68.10m, C' D, 1-68.10m, D'



R2-3区39号竪穴建物P1

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
 2 暗褐色土 ローム粒・塊をごく多量に含む。堆積は緻密である。
 3 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
 4 暗褐色土 ローム粒・塊をごく少量含む。堆積はやや脆い。
 5 暗褐色土 ローム塊を多量に含む。堆積は緻密である。

R2-3区39号竪穴建物P2

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。白色軽石を少量含む。
 2 暗褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。堆積は緻密である。
 3 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積はやや脆い。

R2-3区39号竪穴建物P3

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊が多量に含まれる。堆積は脆い。
 2 暗褐色土 ロームの細砂粒に粒・塊を多量に含む。堆積は脆い。

第72図 R2-3区39・40・51号竪穴建物2

<R2-3区42号竪穴建物> (第73図, PL.22)

位置 X=33387~33391, Y=-68094~-68097

形状 略方形か

規模 長軸(3.63)m・短軸(2.30)m

面積 7.24㎡ 長軸方位 N-15°-W

重複関係 43号竪穴建物を切る。

埋没土 43号竪穴建物覆土と同質の暗褐色土(ローム粒子・小礫を含む)で埋まる。

柱穴 確認できていない。

カマド 確認できていない。

床面 ほとんど認識できない。断面でロームブロックが連続するのを手掛かりに推定するのが限界。

掘り方 東壁際のセクションに竪穴建物床面下にロームブロックを多量に含む層があり、これが掘り方の存在を主張するように見える。

出土状態 覆土中から土師器杯(第216図6)、須恵器杯・椀(2・3)の破片が数点出土したのに止まる。土器片は小片で、実測図を提示できるような状態にない。

所見 建物北辺のプランが42・43号竪穴で異なり、壁際のセクションで床面と思しきローム主体の埋め土を床面と考え、このことを前提に断面で床面認定をしたものが。小ブロック(ローム)が直線状に並んでいるが、床面としては苦しいかもしれない。覆土は類似しており、部分で重複関係を判断するのは難しい状況。竪穴建物の構築は8世紀第4四半期が想定されよう。

<R2-3区43号竪穴建物> (第73図, PL.22)

位置 X=33386~33390, Y=-68094~-68098

形状 略方形を呈する。

規模 長軸4.35m・短軸(3.00)m

面積 10.75㎡ 長軸方位 N-9°-E

重複関係 42号竪穴建物に切られる。

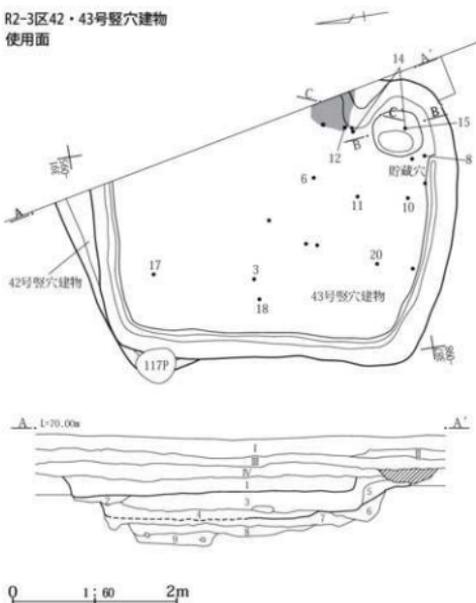
埋没土 ローム粒子に小礫が混じる暗褐色土で埋没する。

柱穴 確認されていない。

カマド カマドに近い南壁が脚張気味であり、カマド右袖のみ確認されただけであるが、焼土を挟んで破線表現

R2-3区42・43号竪穴建物

使用面



R2-3区42・43号竪穴建物

- I 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Aを少量含む。現耕作土
- II 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Aをやや多量に含む。旧耕作土
- III 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- IV 黒褐色土 ローム粒を少量含む。礫が少量混入する。堆積は緻密である。遺物を含む土層。
- 1 暗褐色土 ローム粒、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。(42号建)
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。上層が硬化する。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊。5~30cm程度の礫を少量含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。炭化物を少量含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。堆積は緻密である。
- 6 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 7 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 8 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 9 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- R2-3区43号竪穴建物貯蔵穴
- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。焼土・白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は脆い。
- R2-3区43号竪穴建物カマド
- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。焼土を少量含む。堆積は脆い。
- 2 暗褐色土 ローム粒少量含む。黒色灰が少量混入する。堆積は脆い。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積はやや脆い。

第73図 R2-3区42・43号竪穴建物

があり、これが左袖になるのかもしれない。破線が左袖であるならば、焚口幅は40cm弱・燃焼部は60cm×50cm程度になる。

床面 ロームブロックを多量に含んだ黒色土で貼床。特に、硬化範囲は図化されていないが、貼床はしっかりとしたものであった。床面とカマド、周溝の関係が整合的に捉えることができないが、床を再構築している可能性が高い。竪穴建物の南東コーナーで貯蔵穴が、東壁側を除く壁際では周溝が確認されている。

掘り方 時間の関係があり、トレンチ調査のみで、掘り方の図は残されていない。トレンチ部分では浅く粗掘りするだけであるが、竪穴建物北壁側は深く掘り下げ土坑状を呈していた。

出土状態 床面より数cm浮いただけのものもあるが、大半は20～30cm浮いた状態で出土した(第216図1～20)。

所見 建物北側の土坑状の凹地はローム土で埋まり、上面は床面認定する必要がある。また、壁面に食い込んだ扁平礫直下には灰層様の薄層があり、この延長上にもロームブロックが水平に並び、床面の可能性も否定できないように思う。床面に新田を認めた場合、カマド使用面と床面の関係は、現状で整合性に欠けるように思われる。竪穴建物は8世紀第1四半期が想定されよう。

<R2-3区44号竪穴建物>(第74図、PL.23)

位置 X=33378～33385、Y=-68091～-68097

形状 略方形状を呈す。

規模 長軸(6.10)m・短軸(5.05)m

面積 27.73㎡ **長軸方位** N-10°-W

重複関係 47・53・55・56・57号竪穴建物と重複する。

埋没土 ローム粒子・ブロックを多く含む暗褐色土で埋まる。

柱穴 確認されていない。

カマド 未確認。

床面 黒色土とローム土で貼床されていた。

出土状態 土師器杯(第218図2)・須恵器蓋(3・7)が床直で、土師器杯(1)・須恵器椀(11)が床面から5cmほど浮いて出土している。その他の遺物は覆土中の出土。

所見 1辺6m近い大型竪穴建物で、出土遺物から8世紀第1四半期の建物になる。

<R2-3区54号竪穴建物>(第74図、PL.24)

位置 X=33385～33386、Y=-68094

形状 不明(カマド煙道のみ確認)

規模 長軸一・短軸一 **長軸方位** N-7°-W

重複関係 44号竪穴建物と重複する。

出土状態 煙道から削り甕の胴部破片3点が出土した。

所見 煙道から出土した削り甕は図化されていないが、8世紀代の削り甕、潰れた状態で出土している。44号竪穴建物のカマドとするには竪穴床面のレベル差があり過ぎるため、別の竪穴と考えた。

<R2-3区57号竪穴建物>(第74図、PL.24)

位置 X=33377～33379、Y=-68091～-68096

形状 略方形状

規模 長軸(5.18)m・短軸(1.25)m

面積 5.16㎡ **長軸方位** N-10°-W

重複関係 44・47～48・53・55・56号竪穴建物と重複。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

柱穴 確認されていない。

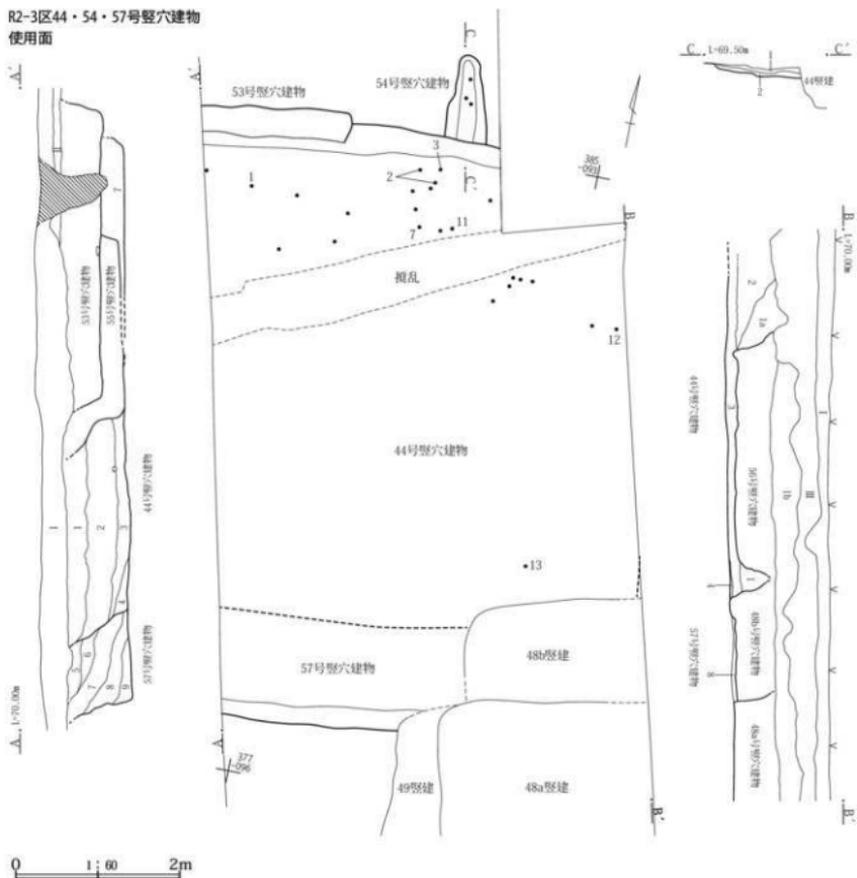
カマド 未確認。

床面 ローム土と黒色土の混土で貼床されていた。

出土状態 覆土中から土師器杯(第221図1)、須恵器蓋(2)、須恵器杯(3)、須恵器椀(4)、土師器甕(5・6)が出土している。

所見 竪穴建物の帰属時期は8世紀前半。この竪穴と44号竪穴は同時期だが、44号により切られることが明らかである。44号竪穴は8世紀第1四半期と判定されており、極めて短期に建て直されたものと見られる。

R2-3区44・54・57号竪穴建物
使用面



R2-3区44-57号竪穴建物A-A'

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Aを少量含む。現耕作土
- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 黒褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。堆積は緻密である。
- 4 黒褐色土 ローム塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 5 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 6 黒褐色土 ローム粒を含む。堆積は緻密である。
- 7 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 8 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 9 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。

R2-3区44号竪穴建物B-B'

- 1a 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 1b 暗褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。堆積は緻密である。
- 3 黒褐色土 ローム塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 4 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。

R2-3区54号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土塊・炭化物が少量混入する。堆積はやや脆い。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。礫が混入する。堆積はやや脆い。

第74図 R2-3区44・54・57号竪穴建物

<R2-3区45号竪穴建物> (第75図, PL. 23)

位置 X = 33418 ~ 33419, Y = -68104 ~ -68105

形状 不明

規模 長軸・短軸

面積 (不明)㎡ 長軸方位 N-8°-E

重複関係 なし

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋没後、天井部が崩落したもの。

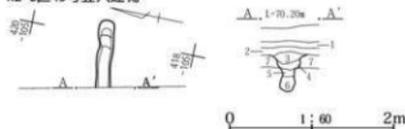
カマド 煙道部のみ確認した。煙道は現況で長さ0.82m・幅0.18m・深さ0.3mを測る。

柱穴 不明 床面 不明

掘り方 不明 出土状態 不明

所見 写真で見る限り、壁際から0.5mほど煙道壁面が赤化しており、火力と排煙効果の程が窺える。建物の構築時期は不明。

R2-3区45号竪穴建物



R2-3区45号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 白色軽石が少量混入する。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 4 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。焼土を少量含む。堆積はやや細かい。
- 5 暗褐色土 ローム粒少量含む。焼土塊が多量に混入する。堆積は細かい。
- 6 暗褐色土 ローム粒を少量含む。焼土塊・黒色灰が混入する。
- 7 暗褐色土 ローム塊を多量に含む。堆積は緻密である。カマドの地

第75図 R2-3区45号竪穴建物

<R2-3区47号竪穴建物> (第76図, PL. 23)

位置 X = 33379 ~ 33382, Y = -68094 ~ -68096

形状 略方形を呈す。

規模 長軸(3.60)m・短軸2.70m

面積 (7.88)㎡ 長軸方位 N-4°-E

重複関係 44・53~57号竪穴建物と重複する。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋もれる。竪穴間の覆土は差がなく、いずれも調査過程で判明したものである。

柱穴 確認されていない。

カマド 東壁中央付近にある。燃焼部は東壁ライン上にあり、60×50cmほどになる。燃焼部には灰層が明瞭に残る。焚口は竪穴内にあり、本来は40cm前後になるものと思われる。

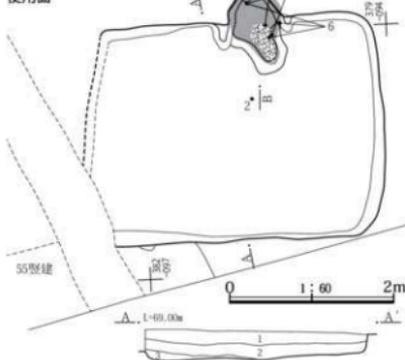
床面 ローム土と黒色土の混土で貼床されている。床面は明瞭で、比較的しっかりしたものである。

出土状態 10点を図示した。このうち第219図1・4~6がカマド内の出土、3は須恵器で、43号竪穴建物と接合関係が確認されている。そのほかは覆土中から出土したものである。

所見 調査中カマドが確認されたことによりその存在が明らかになったものである。出土遺物から建物の構築時期は7世紀後半と考える。

R2-3区47号竪穴建物

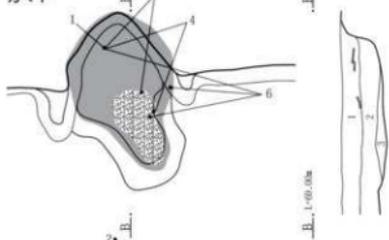
使用面



R2-3区47号竪穴建物

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊をごく少量ごく含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。堆積は緻密である。

カマド



R2-3区47号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。黒色灰が少量混入する。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒を少量含む。焼土粒が少量混入する。堆積は細かい。

第76図 R2-3区47号竪穴建物

<R2-3区48号竪穴建物> (第77・78図)

位置 X=33374~33378, Y=-68090~-68093

形状 略方形を呈す。

規模 48a号:長軸4.00m・短軸(2.60)m
48b号:長軸(2.20)m・短軸(1.27)m

面積 9.53㎡ 長軸方位 N-12°-W

重複関係 49・57号竪穴建物と重複する。

埋没土 ローム粒子・ブロック、小礫を含む黒褐色土で埋没する。

柱穴 柱穴1(深さ10cm)がある。柱穴としてはやや浅すぎること、また、位置的にも対角線上から外れることから、柱穴としての可能性は低い。

カマド 確認できていない。

床面 黒色土にローム土を混ぜて貼床したもの。床面は概して北壁側が高く、南西側とは3~5cmの高低差がある。

掘り方 未確認

出土状態 土師器甕(第219図4)が床直、敲石が覆土中から出土している。その他に、覆土中から須恵器杯・椀の小片(5点)がある。

所見 面的に掘り下げ、平面で竪穴が重複するのが確認されたので、床面のレベル差がほとんどなく、断面で確認するのも難しい。竪穴は9世紀第3四半期に帰層か。

<R2-3区49号竪穴建物> (第77・78図, PL.23)

位置 X=33373~33378, Y=-68090~-68094

形状 略方形を呈す。

規模 長軸4.35m・短軸(3.50)m

面積 1.98㎡ 長軸方位 N-8°-W

重複関係 48号竪穴建物に切られる。

埋没土 不明。48号竪穴に近い黒褐色土で埋もれたものと思われる。

柱穴 確認できていない。

カマド 確認できていない。

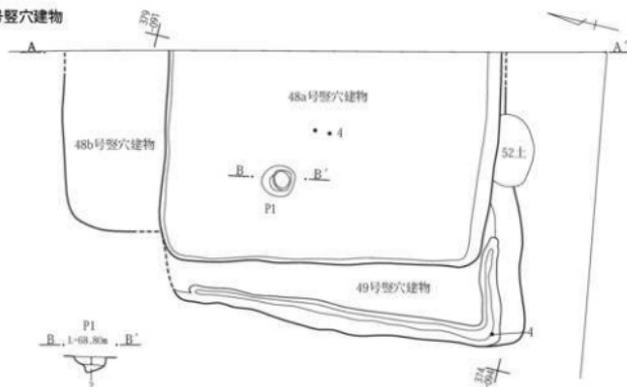
床面 黒色土とローム土の混土で貼床されていた。西壁・南壁に浅い周溝が廻る。床面の硬化範囲については所見が付されていない。

掘り方 不明

出土状態 覆土中から台付鉢(第220図4)が出土した。このほか、土師器杯、須恵器杯の小片数点が覆土中に出土している。

所見 建物の西辺のみ確認しただけであるが、やや歪んでいるというのが現況である。建物の重複が極わずかであり、建物プランの検討を難しくしている。竪穴建物は出土遺物から7世紀代に帰属するものとみられる。

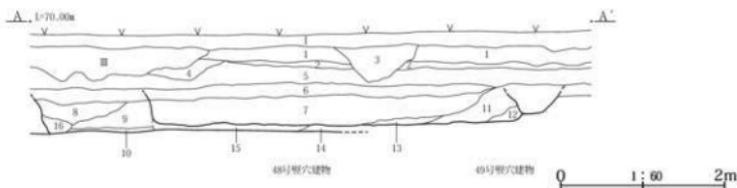
R2-3区48・49号竪穴建物
使用面



R2-3区48号竪穴建物P1

- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む。焼土粒が少量混入する。上層が硬化する。堆積は低い。
- 2 暗褐色土 ローム粒をごく少量含む。焼土粒が少量混入する。堆積はやや低い。

第77図 R2-3区48・49号竪穴建物 1



R2-3区48・49号竪穴建物

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 As-Bを多量に含み、ローム粒を少量含む。堆積は脆い。
- 3 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Aを少量含む。堆積はやや脆い。
- 4 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 5 暗褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 6 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。近世遺物を含む。堆積は緻密である。
- 7 黒褐色土 ローム粒を少量含む。褐色粒子を少量含む。堆積は緻密である。
- 8 黒褐色土 ローム塊、埴土を少量含む。堆積は緻密である。
- 9 黒褐色土 ローム粒をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 10 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 11 黒褐色土 ローム粒を少量含む。褐色粒子を少量含む。堆積は緻密である。
- 12 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 13 黒褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。堆積は緻密である。
- 14 黒褐色土 ローム塊を少量含む。堆積はやや緻密である。
- 15 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 16 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。

第78図 R2-3区48・49号竪穴建物 2

<R2-3区50号竪穴建物>(第79図, PL. 24)

位置 X = 33373 ~ 33374, Y = -68091 ~ -68093

形状 略方形か

規模 長軸(1.85)m・短軸(1.30)m

面積 1.41㎡ 長軸方位 N-27°-E

重複関係 なし

埋没土 ロームブロックを多量に含んだ暗褐色土で埋没する。人為的な埋め土。

柱穴 確認されていない。

カマド 確認されていない。

床面 黒色土とローム土の混土で貼床。ローム土を多量に含み床面は容易に判断可能。

掘り方 浅く荒ぼりする程度、床下土坑2が確認されている。

出土状態 覆土中から土師器杯の小片(第220図1)1点が出土した。

所見 建物北西コーナーのみ確認されただけであり、竪穴プラン等は不明である。出土遺物から7世紀後半が想定されているが、建物軸方位は6世紀代に近い。

R2-3区50号竪穴建物
使用面

R2-3区50号竪穴建物

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。

0 1:60 2m

第79図 R2-3区50号竪穴建物

<R2-3区53号竪穴建物> (第80図、Pl. 24)

位置 X=33381~33385, Y=-68095~-68097

形状 略方形か

規模 長軸(3.68)m・短軸(1.81)m

面積 5.8㎡ 長軸方位 N-12°-W

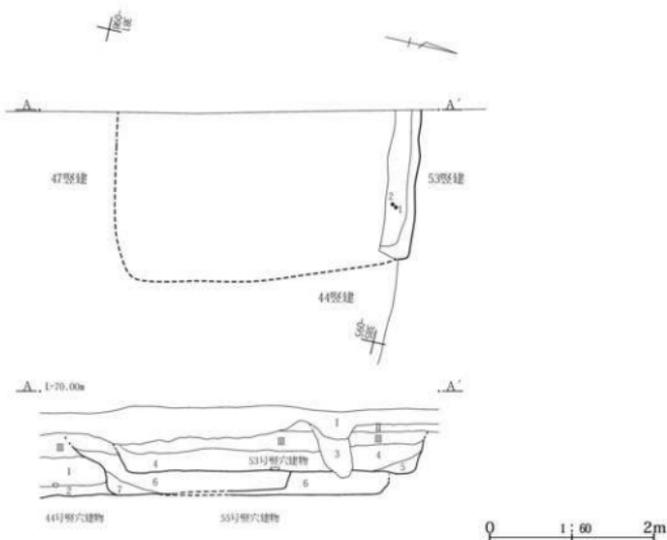
重複関係 54・55号竪穴建物と重複する。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

出土状態 北壁際の覆土中から、須恵器杯・椀(第220図1・2)が出土した。

所見 北壁のみ確認されただけである。44号竪穴建物に大きく切られ、柱穴・床面等は不明である。竪穴建物は9世紀第4四半期と見られる。

R2-3区53号竪穴建物
使用面



R2-3区53号竪穴建物

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊をやや多量に含む。堆積は緻密である。
- 3 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積はやや脆い。
- 4 黒褐色土 ローム粒、塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 5 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積はやや脆い。
- 6 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 7 黒褐色土 ローム塊を少量含む。堆積はやや脆い。

第80図 R2-3区53号竪穴建物

<R2-3区55号竪穴建物> (第81図, PL. 24)

位置 X = 33381~33384, Y = -68096~-68097

形状 略方形か

規模 長軸3.70m・短軸(0.97)m

面積 (4.43)㎡ 長軸方位 N-14°-W

重複関係 44・47・53号竪穴建物と重複する。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

柱穴 確認されていない。

カマド 東壁中央よりやや南壁側にある。重複する竪穴建物の調査中、カマドの存在が判明したことで明らかになったものであるが、上層には埋設物があり完掘できていないため、詳細は不明。壁際に灰層があり、燃焼部が残されているが、焚口や煙道など不明な点が多い。灰層付近にはカマド構築材が出土したようであるが、これがカマド天井石に使われたものか、情報がよく分からない。

床面 ローム土と黒色土の混土で貼床されていた。

出土状態 カマド付近から土師器杯(第221図1~4)や、須恵器碗(5)が出土している。

所見 出土遺物から9世紀第4四半期に帰属する竪穴建物になる。

<R2-3区56号竪穴建物> (第82図)

位置 X = 33380~33383, Y = -68091~-68093

形状 略長方形か

規模 長軸2.37m・短軸(2.15)m

面積 (5.16)㎡ 長軸方位 N-18°-W

重複関係 44・47号竪穴建物と重複する。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

柱穴 確認されていない。

カマド 確認されていない。

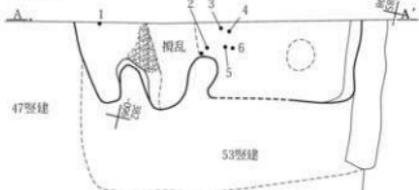
床面 ローム土と黒色土の混土で貼床されていた。

出土状態 遺物は全点覆土中の出土、第221図1は床面から10cmほど浮いて、2は13cmほど浮いて出土した。

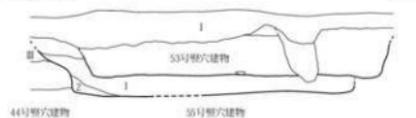
所見 出土遺物には8世紀代前半期のもの(1・3)と、9世紀代前半期のもの(2)が混在している。竪穴建物の構築時期は9世紀代とするのが妥当だろう。

R2-3区55号竪穴建物

使用面



A, 1=10.00m



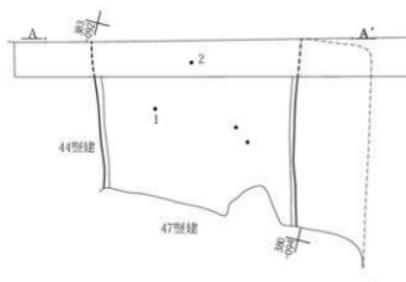
R2-3区55号竪穴建物

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム塊を少量含む。堆積はやや脆い。

第81図 R2-3区55号竪穴建物

R2-3区56号竪穴建物

使用面



A, 1=10.00m



R2-3区56号竪穴建物

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊。礫を少量含む。近世遺物を含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 4 黒褐色土 ローム粒・塊。礫を少量含む。堆積はやや脆い。

0 1:60 2m

第82図 R2-3区56号竪穴建物

<R3-3区58号竪穴建物>(第83図、PL.25)

位置 X=33353~33356、Y=-68089~-68091

形状 略方形か。

規模 長軸(3.40)m・短軸(1.50)m

面積 2.36㎡ 長軸方位 N-30°-W

重複関係 60号竪穴建物に切られる。

埋没土 ローム粒子・ブロック、灰白色粘土を多量に含んだ暗褐色土で埋まる。人為的埋土。

柱穴 確認されていない。

カマド 東壁中央よりやや南壁側にある。カマド煙道は長く伸びるタイプ。焚口は50cm前後で、カマド燃焼部は東壁内側にある。

床面 黒色土とローム土の混土で貼床する。平面図には床面1と2があり、床面は2枚があるとされるが、床面が2枚なら掘り方はないことになる。

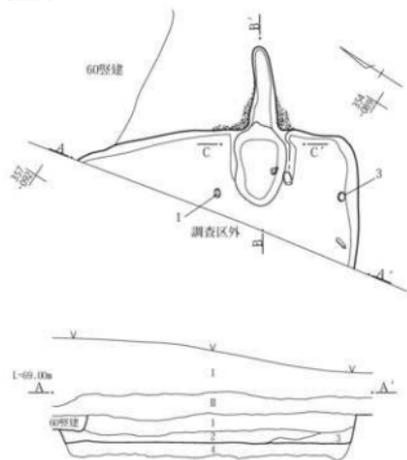
床面1と2はレベル差が15~20cmほどある。床面1にカマド以外の施設は確認されていないが、床面2には南東孔一ナー付近に貯蔵穴、壁際に周溝が図化されている。床面2はほぼフラットであり、掘り方とするのは難しいかもしれない。

出土状態 土師器杯4点(第222図1~4)、須恵器蓋杯の身(5)、土師器盤(6)が出土した。1は床直、2・3はレベリング及び注記に掘り方とある。4・5は覆土中とする注記だけで、出土状態の詳細は分からない。

所見 貼床2枚があるとすると所見どおりならば、1が上層床面上、2・3が下層床面上で出土したことになるが上述した通り詳細は不明。出土遺物は基本的に7世紀後半が想定されよう。床面が2面あるなら、竪穴建物の「建て替え」と理解しておくが、出土遺物に明確な差は認め難い。

R3-3区58号竪穴建物

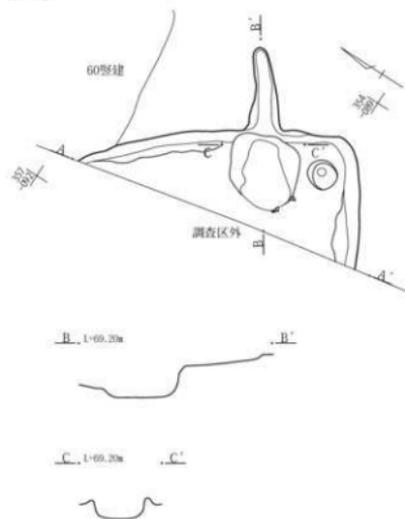
使用面



R3-3区58号竪穴建物

- 1 暗褐色土 黄色粒子・白色粒子・地山ブロック(極小)が微量混じる。粘性やや強い、しまり強い。
- 2 黒褐色土 黄色粒子・白色粒子が微量混じる。粘性やや強い。
- 3 黒褐色土 褐色土ブロック(中~小)中量混 粘性やや強、しまり強い。
- 4 暗褐色土 褐色土・黒褐色土ブロック(中~小)中量混入。

掘り方



0 1:60 2m

第83図 R3-3区58号竪穴建物

<R3-3区60号竪穴建物> (第84図, PL.25)

位置 X=33356~33359, Y=-68089~68092

形状 略方形を呈する。

規模 長軸3.85m・短軸(2.48)m

面積 5.92㎡ 長軸方位 N-7°-W

重複関係 58・61号竪穴建物と重複する。

埋没土 ローム粒子・小礫を含んだ暗褐色土で埋まる。自然堆積を示すレンズ状の堆積は見られない。

柱穴 確認されていない。

カマド 不明。東壁中央付近のカマド位置に土坑がある。土坑がカマドを壊している可能性を考え、土層注を見直してみたが、焼土記載がなく積層的にはなれない。

床面 貼床は固く踏み締まり、広範に硬化面が広がりそうである。東壁際が狭くテラス状の平坦面があり、竪穴が重複するかのようであるが確証はない。これに接し長軸0.75m・短軸0.55mの貯蔵穴が認定されている。

掘り方 全体的に浅く10cm内外を掘り下げる。

出土状態 第222図1・2・7・8の4点が床直から、須恵器提瓶(10)が南東コーナー付近から出土している。このほか、覆土中から砥石(14)、鉄製品(15)がある。

所見 竪穴建物の構築時期は出土物から6世紀後半としてあるが、土師器杯(2)や須恵器杯蓋(6・7)は7世紀代と見られ、遺物が混在している可能性がある。

<R3-3区61号竪穴建物> (第84図)

位置 X=33359~33360, Y=-68089~68092

形状 略方形を呈する。

規模 長軸(2.40)m・短軸(1.57)m

面積 3.64㎡ 長軸方位 N-10°-W

重複関係 60・62号竪穴建物と重複する。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

柱穴 確認されていない。

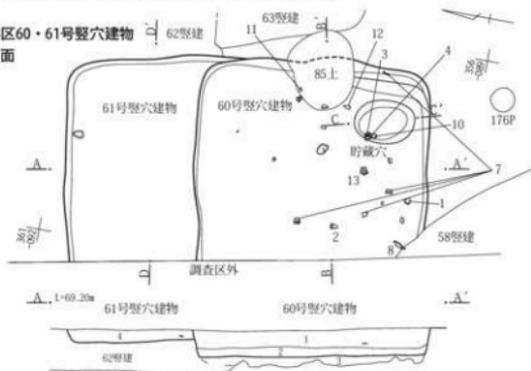
カマド 確認されていない。

床面 黒色土とロームの混土で貼床されている。

掘り方 貼床であるのは確実だが、平面的検出は難しく断面観察によりこれを目安に床面が認定されている。

出土状態 覆土中から土師器杯や甕、須恵器碗の小片4点が出土している。

所見 第223図1・3は9世紀後半、2は7世紀代の土師器杯、5は4世紀の台付甕の口縁部破片であり、遺物が混在している。遺物からは9世紀後半期の竪穴と捉えておきたいが、切り合い関係は62→61→60号の順に新しくなり、60号竪穴建物が7世紀代であるならば、61号竪穴建物が9世紀代ということはない。62号竪穴建物に切られる63・64号竪穴建物が6世紀代であるというならば、7世紀代の竪穴と考えるのが妥当だろう。

R3-3区60・61号竪穴建物
使用面

R3-3区60・61号竪穴建物

- 1 暗褐色土 黄色粒子が微量、小礫が少量混じる。粘性やや強い。しまり強い。
- 2 暗褐色土 黄色粒子、黄色・褐色軽石が少量混じる。粘性やや弱い。しまり強い。
- 3 暗褐色土 褐色土・灰黄褐色土ブロック(中～小)多量混 粘性弱、しまり強い。貼床
- 4 暗褐色土 黄色粒子がごく微量混じる。粘性・しまりやや強い。

R3-3区60号竪穴建物貯蔵穴

- 1 暗褐色土 黄色・褐色土ブロック(小)、黄色粒子、粘土粒子が多量に混じる。粘性やや強い。しまり強い。

0 1:60 2m

第84図 R3-3区60・61号竪穴建物

<R3-3区62号竪穴建物> (第85図, PL. 25)

位置 X = 33358 ~ 33362, Y = -68088 ~ -68092

形状 長方形を呈する。

規模 長軸(3.45)m・短軸3.33m

面積 9.71㎡ 長軸方位 N-16°-W

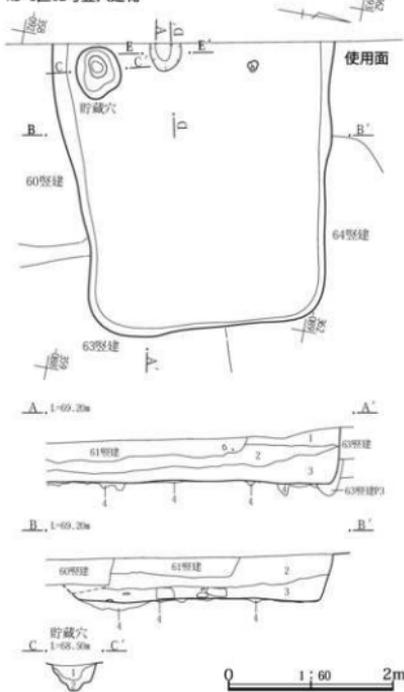
重複関係 61・63・64号竪穴建物と重複する。

埋没土 竪穴が10cmほど埋もれたのち、ローム主体の暗褐色土で完全埋没する。埋め土には多量にローム土が含まれるほか、多量の廃棄礫やカマド粘土が含まれる。

柱穴 確認されていない。

カマド 西側の壁際に焼土がある。カマド本体は調査区外にあり、カマド灰の挿出部ということになる。

R3-3区62号竪穴建物



R3-3区62号竪穴建物

- 1 暗褐色土 黄色粒子が少量混じる。粘性やや強い。しまり強い。
- 2 暗褐色土 黄色粒子・地山ブロック(中～小)が中量混じる。
- 3 暗褐色土 黄色粒子・地山ブロック(中～小)が少量混じる。
- 4 暗褐色土 褐色土・灰黄褐色土ブロック(極小)中量混入。

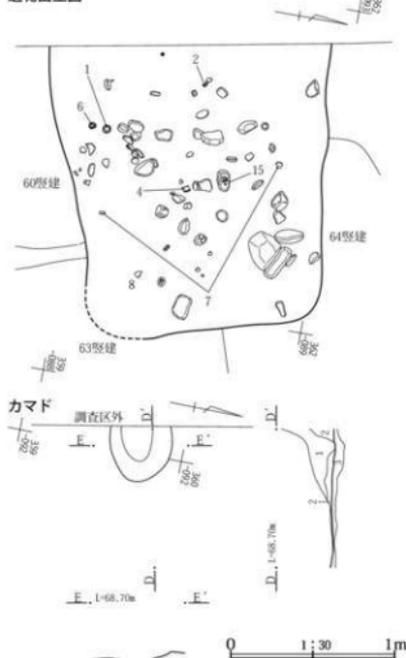
床面 写真を見る限り、ローム主体の埋め土で全面的に固く踏み締めて、貼床としているように見える。南西側に径60cm・深さ30cmを測る貯蔵穴がある。

掘り方 西壁際が浅く窪む程度である。

出土状態 土師器杯・甕、須恵器杯・甕類の小片が出土したほか、河床礫が多量に廃棄状態で出土している。礫は床面全面に出土しているが、レベル的には北東側の礫が高く、北東側から廃棄されたものとみられる。

所見 竪穴廃棄とカマド破壊は同時であるというのが通常の捉え方だが、ここでは時間差があるように見える。土器片類は床面から浮いたものが主体だが、第223図1・2の土師器杯等から、竪穴建物は7世紀代に帰属。

遺物出土図



R3-3区62号竪穴建物貯蔵穴

- 1 暗褐色土 灰褐色土ブロック(小)、黄色粒子が少量混じる。
- 2 暗褐色土 灰褐色土ブロック(大～小)が多量混じる。

R3-3区62号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 焼土粒子・黄色粒子が少量混じる。粘性・しまりやや強い。
- 2 暗褐色土 焼土ブロック(小)が中量混じる。粘性やや強い。
- 3 暗褐色土 褐色鮮石・粘土ブロック(小)中量混入。粘性弱、しまり強い。

第85図 R3-3区62号竪穴建物

<R3-3区63号竪穴建物> (第86・87図、PL.25)

位置 X=33357~33361, Y=-68085~68089

形状 略方形状を呈する。

規模 長軸3.67m・短軸3.62m

面積 10.8㎡ 長軸方位 N-12°-W

重複関係 62・64号竪穴建物を切る。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋没する。

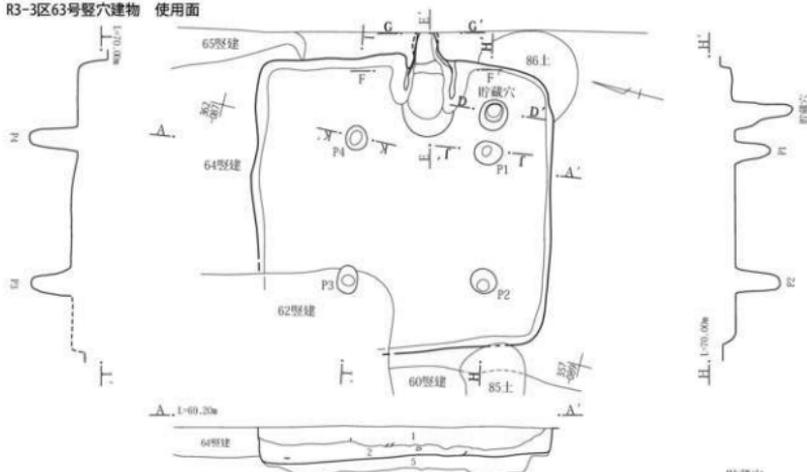
柱穴 主柱穴4本がある。各柱穴とも直径は40cm前後、

深さ50cm内外を測る。主柱穴4本は規格的で、竪穴建物のコーナー対角線上に位置する。

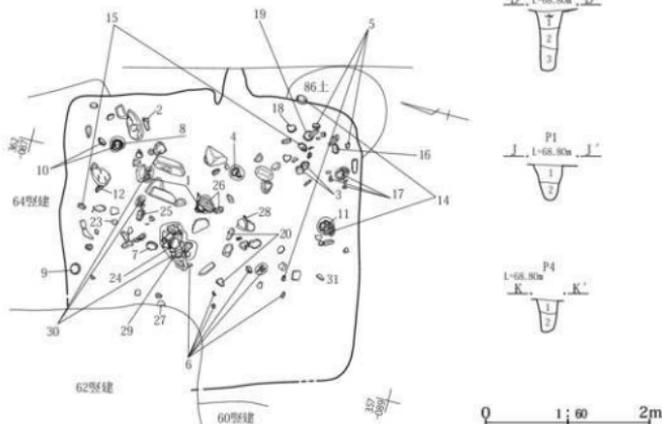
カマド 東壁中央よりやや南にある。焚口の幅は50cm程度で、通常サイズになる。燃焼部は長さ70cmほどで、建物内にある。煙道部は内壁が良く焼けており、火力の程度が窺える。煙道は調査区外にあるため詳細は不明だが、煙道が長いタイプのカマドに見える。

床面 黒色土とローム土で貼床されている。ローム土

R3-3区63号竪穴建物 使用面



遺物出土図



第86図 R3-3区63号竪穴建物1

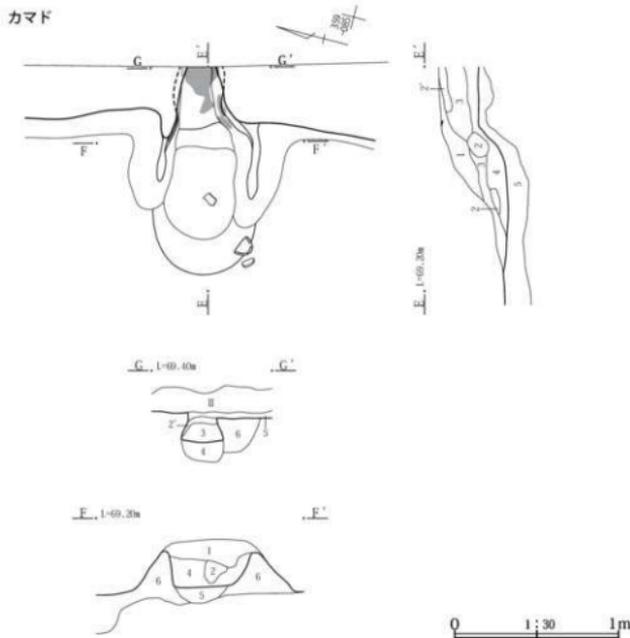
の比率が高く、貼床はしっかりしたものとなっていた。壁際に廻る周溝はない。カマド右に径40cm・深さ73cmを測る柱穴がある。調査では貯蔵穴とされたものであるが、形状は柱穴のそれである。

掘り方 基本的には、壁際を掘り残し建物中央付近を掘り窪めるタイプ。北壁側に比べ、南壁側はテラス状に掘り残す傾向が指摘されよう。

出土状態 カマド側に土師器や河床礫が多量に出土して

いる。礫類は建物北東側で高く、建物中央付近では床面に接して出土するように見える。土師器類も北壁側で床面より浮き、建物中央や貯蔵穴付近では床直に近い状態にある。

所見 第224図6・8・10・12・15・23の土師器杯が床直から出土した。残る出土遺物は10~20cm浮いた状態で出土したものが多量。出土遺物は概ね廃棄状態で出土、竪穴建物の構築時期は6世紀中ごろと見られる。



R3-3区63号竪穴建物

- 1 黒褐色土 黄色粒子が微量混じる。粘性やや強い。しまり強い。
- 2 黒褐色土 黄色粒子・黄褐色軽石が少量混じる。粘性弱い。しまり強い。
- 3 暗褐色土 褐色土ブロック(小)多量混 粘性やや弱。しまり強い。P2
- 4 暗褐色土 褐色土ブロック(極小)微量混 粘性・しまりやや強い。P2
- 5 暗褐色土 褐色地山ブロックが多量混じる。粘性やや強い。

R3-3区63号竪穴建物貯蔵穴

- 1 暗褐色土 黄色粒子、黄色軽石が少量混じる。粘性・しまりやや強い。
- 2 暗褐色土 黄色粒子が微量混じる。粘性やや強い。しまりやや弱い。
- 3 黒褐色土 灰褐色地山ブロック(極小)が中量混じる。

R3-3区63号竪穴建物ピット

- 1 暗褐色土 褐色土ブロック(小)多量混 粘性やや弱。しまり強い。
- 2 暗褐色土 褐色土ブロック(極小)微量混 粘性・しまりやや強い。

R3-3区63号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 焼土粒子・粘土粒子が微量混じる。粘性・しまりやや強い。
- 2 暗赤褐色土 焼土層。暗褐色土ブロック(小)が少量混じる。
- 3 暗褐色土 焼土粒子・粘土粒子が少量混じる。粘性やや強い。
- 4 暗褐色土 焼土ブロック(小)、焼土粒子・粘土粒子が少量混じる。
- 5 暗褐色土 焼土粒子・粘土粒子・灰・炭化粒子が少量混じる。
- 6 にぶい黄褐色土 粘土ブロック(小・極小)・褐色軽石が中量混じる。
- 7 にぶい黄褐色土 焼土粒子が微量混じる。粘性・しまりやや強い。

第87図 R3-3区63号竪穴建物2

<R3-3区64号竪穴建物> (第88図、PL.26)

位置 X = 33361～33364, Y = -68086～-68091

形状 略方形を呈する。

規模 長軸4.40m・短軸3.50m

面積 13.99㎡ 長軸方位 N-61°-W

重複関係 62・63号竪穴に切られ、65号竪穴を切る。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋没する。

柱穴 柱穴2本(P1・P2)が確認されている。柱穴径はP1が25cm、P2が30cmを測る。深さ7～10cmと浅く、柱穴として認定が妥当か、疑問が残る。

カマド 確認されていない。

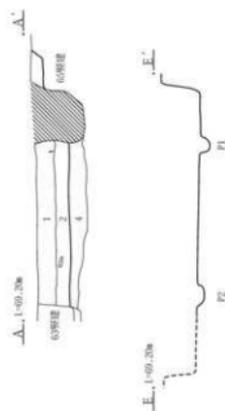
床面 ロームブロックを含む黒色土で貼床。

掘り方 データ未確認。壁際の乾き具合が遅く、壁際を掘り下げるタイプか。

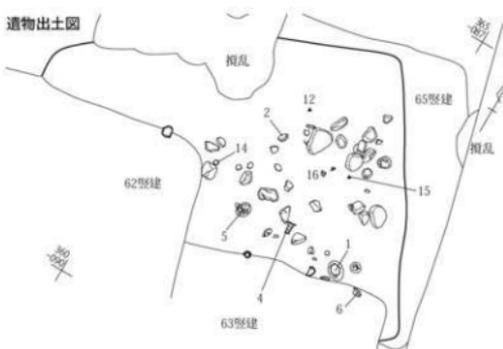
出土状態 東壁側から建物中央に土器片類や河床礫が多量に出土、多分に廃棄されたものである可能性が高い。

所見 出土遺物には、確実な共存する土器はなさそうであるが、床面に近い遺物からすると6世紀後半の竪穴建物とするのが妥当か。

R3-3区64号竪穴建物 使用面



遺物出土図



R3-3区64号竪穴建物

- 1 黒褐色土 黄色粒子・黄色軽石、砂礫が微量混じる。粘性やや弱い、しまりやや強い。
- 2 暗褐色土 黄色粒子・黄色軽石が中量、砂礫が少量混じる。粘性やや弱い、しまりやや強い。
- 3 黒褐色土 黄色粒子、黄色軽石が少量混じる。粘性弱い、しまり強い。
- 4 暗褐色土 黄色粒子・褐色ブロックが少量混じる。粘性やや強い、しまり強い。貼床。

第88図 R3-3区64号竪穴建物1

<R3-3区65号竪穴建物> (第89図、Pl. 26)

位置 X = 33361 ~ 33364, Y = -68085 ~ -68089

形状 略長方形状か。

規模 長軸3.54m・短軸(2.40)m

面積 2.12㎡ 長軸方位 N-15°-W

重複関係 64号竪穴建物に切られる。

埋没土 ローム粒子・炭化物を含む暗褐色土で埋没する。

柱穴 確認されていない。

カマド 東壁中央よりやや南にある。

R3-3区65号竪穴建物 使用面



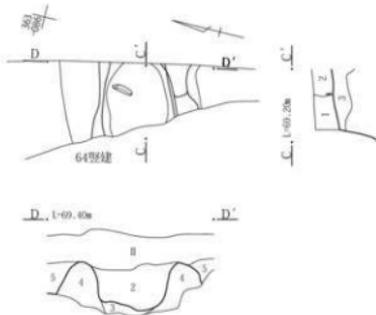
床面 黒色土とローム土で貼床されていた。竪穴建物北側壁際は貼床が明瞭ではなく、やや下がりが気味の床面になっている。

掘り方 特に図化されていないが、全体的に浅く掘り穿めるタイプか。

出土状態 カマド左袖に近い床面に土師器甕・小形甕(第226図1・2)、カマド燃焼部から土師器甕破片がある。

所見 床面から出土した土師器甕から、6世紀後半の竪穴建物と捉えた。

カマド



R3-3区65号竪穴建物

- 1 暗褐色土 黄色粒子・褐色軽石が少量混じる。粘性弱い。しまり強い。
- 2 褐色土 暗褐色土ブロック(中～少)が中量混じる。
- 3 暗褐色土 黄色粒子・褐色軽石が微量混じる。粘性・しまりやや弱い。
- 4 黒褐色土 粘土ブロック(極小)・炭化物が中量混じる。

R3-3区65号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 焼土粒子・黄色粒子が少量混じる。粘性やや強い。
- 2 暗褐色土 粘土ブロック(小)が中量、焼土粒子が微量混じる。
- 3 暗褐色土 ロームブロック(中)が少量、焼土粒子が微量混じる。
- 4 暗褐色土 粘土ブロック(小)・焼土粒子中量混 粘性やや強い。
- 5 暗褐色土 黄色粒子・焼土粒子微量混 粘性やや弱、しまりやや強い。

第89図 R3-3区64号竪穴建物2

<R3-5区9号竪穴建物> (第90・91図、PL.26)

位置 X = 33345 ~ 33350、

Y = -68085 ~ -68090

形状 略方形状を呈する。

規模 長軸4.60m・短軸(4.20)m

面積 18.48㎡

長軸方位 N-16°-W

重複関係 10号竪穴建物に切られる。

埋没土 ローム粒子を多量に含む暗褐色土で埋没する。

柱穴 主柱穴4本(P1~P4)がある。各柱穴は径40cm弱・深さ32~52cmを測る。

カマド 確認されていない。

床面 黒色土にローム土を混ぜ貼床されている。西壁側が比較的軟質で、床面認定が難しい。

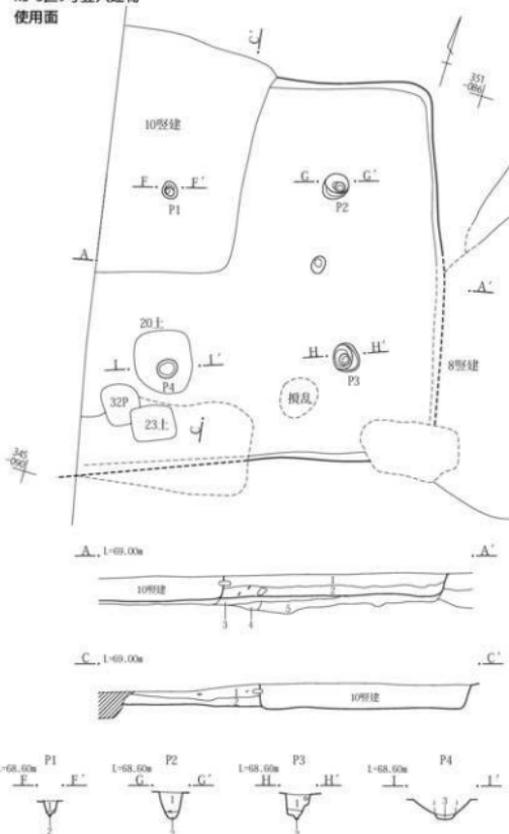
掘り方 断面のみ確認されている。全体的に浅く掘り下げる。

出土状態 建物中央付近に土器類や河床礫が多量に廃棄状態で出土した。床上数cmほど浮いただけのものもあるが、大部分は10~20cm浮いた状態にある。器種別には杯類9点・鉢2点・甕5点・須恵器高環1点・瓦片1点からなる。

所見 第227図6・8・14・15・17が床直の土器で、6世紀前半期の杯や甕類である。床直とされたものを含め、遺物は廃棄状態で出土しており、同時性の確率は高い。

R3-5区9号竪穴建物

使用面



R3-5区9号竪穴建物

- 1 暗褐色土 白色・黄色粒子が微量混じる。粘性やや弱い。しまりやや強い。
- 2 暗褐色土 白色粒子・黄色粒子・黄色軽石が少量混じる。粘性やや弱い。
- 3 暗褐色土 灰黄褐色・褐色土ブロック(小)多量混 粘性やや弱。しまり強い。
- 4 暗褐色土 灰黄褐色土ブロック(極小)少量混 粘性・しまりやや強い。
- 5 暗褐色土 灰黄褐色・褐色土ブロック(大~小)極多量混 粘性やや強。

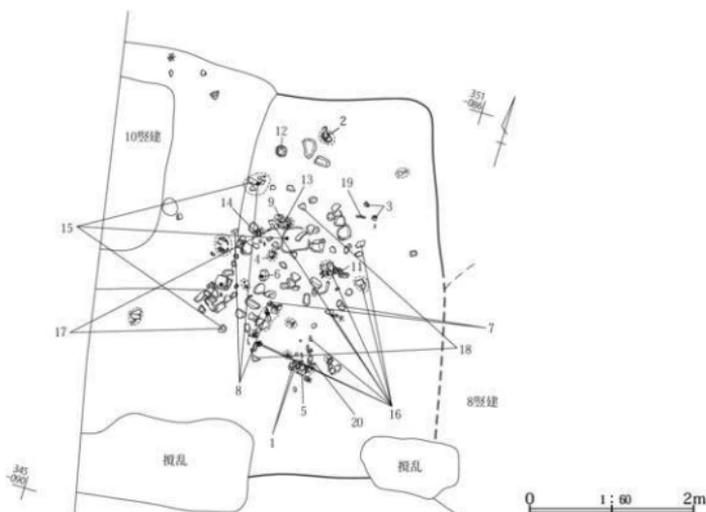
R3-5区9号竪穴建物P1~4

- 1 暗褐色土 褐色地山ブロック(小)が中量混じる。粘性やや弱い。
- 2 暗褐色土 砂粒が微量混じる。粘性・しまりやや強い。
- 3 暗褐色土 灰褐色土ブロック(小)が中量混じる。粘性・しまりやや強い。

0 1:60 2m

第90図 R3-5区9号竪穴建物1

遺物出土図



<R3-5区10号竪穴建物> (第91図)

位置 X = 33347 ~ 33350, Y = -68088 ~ -68090

形状 略方形を呈する。

規模 長軸2.73m・短軸1.66m

面積 4.44㎡ 長軸方位 N-13°-W

重複関係 9号竪穴建物と重複する。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

柱穴 確認されていない。

カマド 確認されていない。

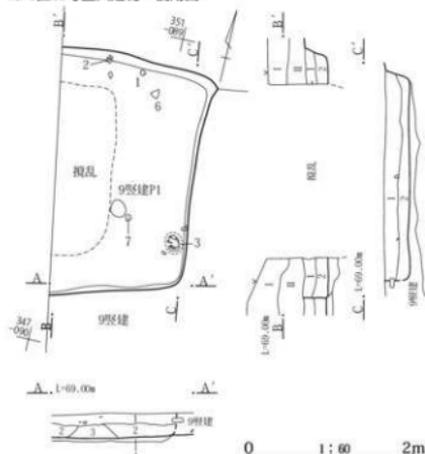
床面 黒色土とローム土の混土を貼床する。

掘り方 掘り方は全体的に浅い。特定場所を深く掘り下げるなどする傾向は指摘できない。

出土状態 床直のものは概して少なく、5~20cm浮いた状態で出土している。第228図3の鉢は逆位の状態で壁際に発見されたもので、やや特異な出土状況が窺える。

所見 第228図6の須恵器高坏は床面の出土で、評価が難しいようであるが、床面から5cm浮いて出土した2の土師器杯を代表させ、8世紀前半期に帰層する竪穴建物と見た。

R3-5区10号竪穴建物 使用面



R3-5区10号竪穴建物

- 1 暗褐色土 白色粒子・褐色粒子、白色・黄色・褐色軽石が少量混入。
- 2 黒褐色土 黄色粒子、黄色・褐色軽石が微量に混じる。
- 3 暗褐色土 黄色粒子、ロームブロック(小)が中量混入。
- 4 暗褐色土 灰黄褐・褐色土ブロック(小)多量混入。

第91図 R3-5区9号竪穴建物2、R3-5区10号竪穴建物

<R3-5区11号竪穴建物> (第92図, PL. 26)

位置 X = 33339 ~ 33343, Y = -68083 ~ -68087

形状 長方形を呈する。

規模 長軸4.25m・短軸3.40m

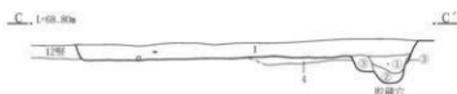
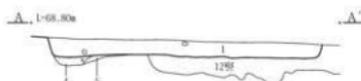
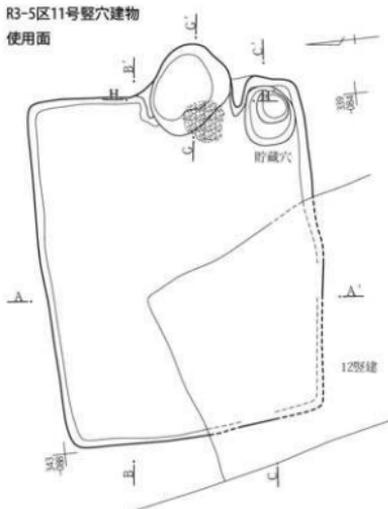
面積 12.39㎡ 長軸方位 N-9°-E

重複関係 12号竪穴建物を切る。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋没する。

R3-5区11号竪穴建物

使用面

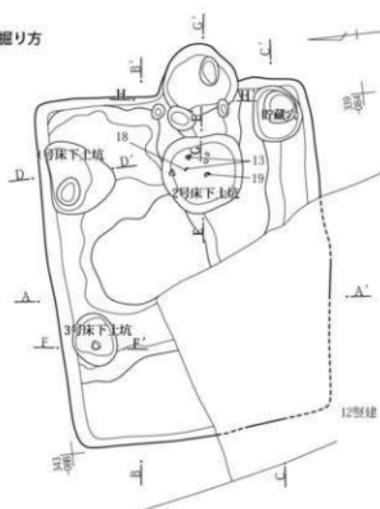


柱穴 確認されていない。

カマド 東壁中央付近にある。左袖のみ確認されただけである。焚口は不明だが、通常なら50cm前後ということになろう。燃焼部は建物東壁ライン上にある。壁面の赤化は見られない。灰層が右袖付近に集中、カマド袖を作り直している可能性が高い。

床面 床面の状態は比較的良好で、黒色土とローム土

掘り方



R3-5区11号竪穴建物

- 1 暗褐色土 黄色軽石・黄色軽石が微量混じる。粘性・しまりやや強い。
- 2 暗褐色土 焼土粒子が微量混じる。粘性やや強い。しまりやや弱い。
- 3 暗褐色土 褐色地山ブロック(中)が多量混じる。粘性やや強い。しまり強い。
- 4 暗褐色土 褐色軽石・灰褐色ブロック(小)が少量混じる。粘性やや弱い。しまり強い。
- 5 暗褐色土 褐色土・灰黄褐色土ブロック(中～小)が多量混じる。粘性やや弱い。しまり極強い。
- 6 暗褐色土 褐色土ブロック(小)が少量。砂粒が多量混じる。粘性弱い。しまりやや強い。

R3-5区11号竪穴建物貯蔵穴

- ① 暗褐色土 黄色粒子・灰褐色地山ブロック(小)が少量混じる。粘性やや弱い。しまりやや強い。
- ② 暗褐色土 褐色軽石・灰褐色地山ブロックが多量混じる。粘性・しまりやや強い。
- ③ 暗褐色土 灰褐色地山ブロック(小)・黄色粒子が中量混じる。粘性・しまりやや強い。

0 1:60 2m

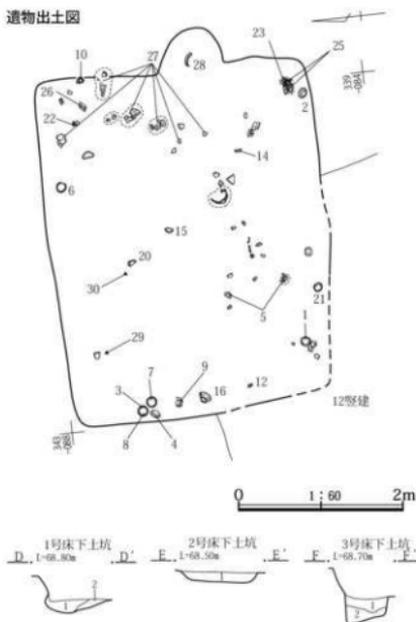
第92図 R3-5区11号竪穴建物1

で貼床されている。

掘り方 床下土坑として3基がデータ化されている。形状は楕円～方形基調で深さ10～30cm前後とバラつく。床面で見える3号は深さ30cmほどであり、床下土坑から外して捉えておきたい。

出土状態 土師器杯・甕類、須恵器椀が多量に出土、60点弱がある。位置的にはカマド周辺が主体だが、カマド

遺物出土図



R3-5区11号竪穴建物床下土坑1

- 1 暗褐色土 灰褐色土ブロック(極小)が中量混じる。
- 2 暗褐色土 砂粒少量混じる。キメ粗い。粘性やや弱い。しまり弱い。

11号竪穴建物 床下土坑2

- 1 暗褐色土 灰褐色土ブロック(小)が多量に混じる。

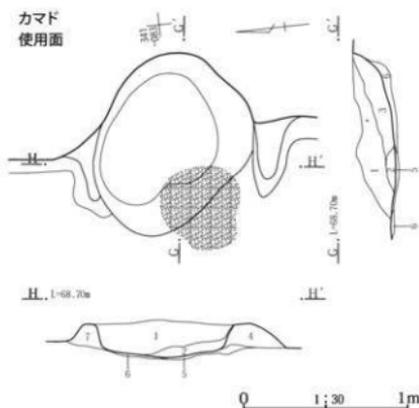
11号竪穴建物床下土坑3

- 1 灰黄褐色土 褐色土ブロック(中～小)が少量混じる。砂粒多量混じる。
- 2 灰黄褐色土 細砂が極多量混じる。粘性・しまりやや弱い。

対辺の壁際に杯・椀類(第228図3、第229図7・8・16)が床直で出土している。

所見 第228図3・4、第229図7～9・15・16、第230図25・26・27が床直の遺物。土師器甕は典型的な「コ」字甕。出土遺物から、9世紀第3四半期の竪穴建物と見られる。

カマド
使用面



R3-5区11号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土 黄色粒子・粘土粒子が少量混じる。粘性・しまりやや強い。
- 2 黒褐色土 焼土粒子・炭化粒子、灰が少量混じる。
- 3 暗褐色土 焼土ブロック(小)、焼土粒子が少量混じる。
- 4 暗褐色土 黄色粒子中量混 粘性やや弱、しまり強い。
- 5 黒褐色土 灰が多量、焼土粒子が微量混じる。粘性・しまりやや弱い。
- 6 暗褐色土 灰褐色土ブロック(極小)が少量混じる。
- 7 にぶい黄褐色土 粘土?ブロック(極小)が少量混じる。

第93図 R3-5区11号竪穴建物2

<R3-5区12号竪穴建物>(第94図、PL.26)

位置 X=33337~33341, Y=-68084~-68088

形状 略方形を呈する。

規模 長軸3.83m・短軸(2.60)m

面積 9.36㎡ 長軸方位 N-20°-W

重複関係 11号竪穴建物に切られる。

埋没土 ロームブロックが混じる暗褐色土で埋没する。

柱穴 確認されていない。

カマド 確認されていない。

床面 黒色土とローム土の混土で貼床されている。床面は若干軟弱に見える。

掘り方 全体的に掘り方は浅い。荒ぼりしたのち、簡便

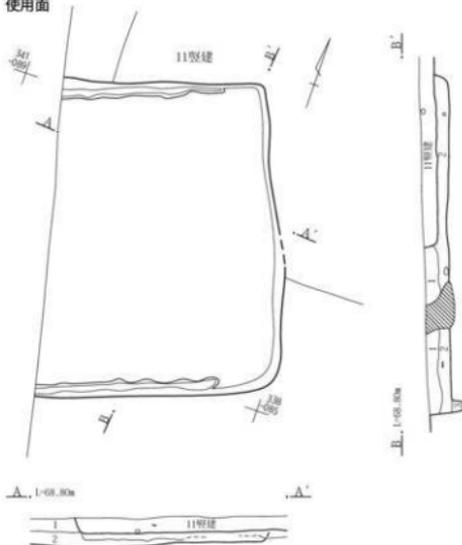
に貼床した程度か。

出土状態 第230図2~4が床直の土師器杯、須恵器杯(5)は床面から10cm浮いて出土した。南東コーナー付近に棒状礫17点が集中出土したほか、竪穴建物の中央付近から土師器杯、須恵器碗の類、礫砥石(7)、鉄滓(9)が床面から浮いて廃棄状態で出土している。

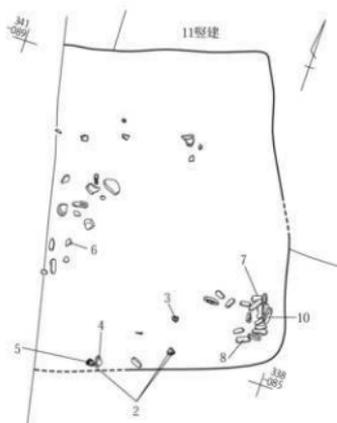
所見 出土遺物から、竪穴建物は5世紀末から6世紀初頭に帰属する可能性が高い。こもあみ石の平均サイズは長さ15.3cm、幅6.1cm、重さ616.4g。石材8種があり、粗粒輝石安山岩が7点と半数を占めた。砂岩・変質安山岩は大形礫、チャート・デイサイトは小形礫が多い。敲打痕が1点のみあるほかは使用痕はない。

R3-5区12号竪穴建物

使用面



掘り方



R3-5区12号竪穴建物

- 1 暗褐色土 白色粒子・黄色粒子が少量混じる。粘性やや弱い、しまり強い。
- 2 暗褐色土 白色粒子・黄色軽石が少量混じる。粘性・しまりやや強い。
- 3 暗褐色土 黄色粒子・褐色軽石が少量混じる。粘性・しまりやや強い。壙溝埋土
- 4 黒褐色土 白色粒子・粘土ブロック(小)微量混 粘性・しまりやや強い。
- 5 暗褐色土 灰黄褐・褐色土ブロック(中-小)多量混 粘性やや弱、しまり強 貼床

第94図 R3-5区12号竪穴建物

<R3-5区13号竪穴建物> (第95・96図, PL. 27)

位置 X=33332~33335, Y=-68078~-68083

形状 略方形を呈する。

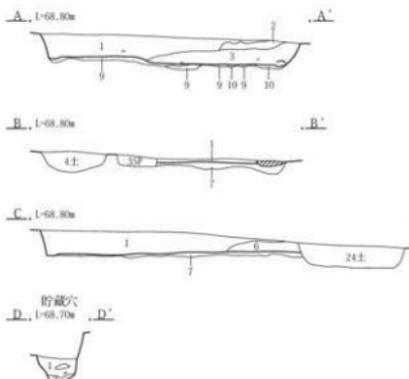
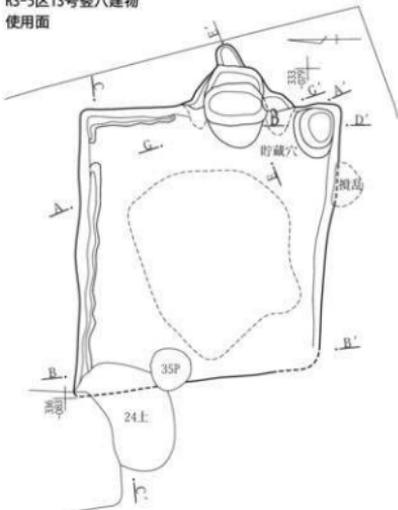
規模 長軸(3.47m)・短軸3.15m

面積 8.50㎡ 長軸方位 N-2°-W

重複関係 24号土坑と重複する。

埋没土 ローム粒・ロームブロックを含む暗褐色土で埋没する。やや砂質。

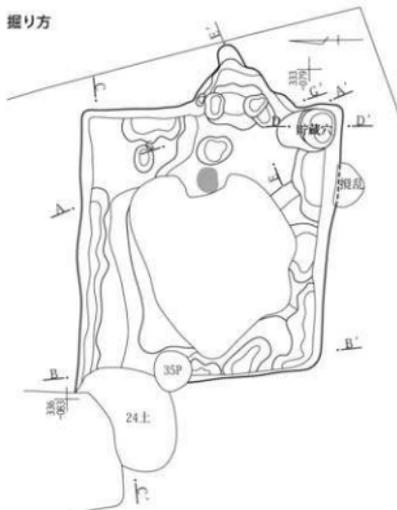
R3-5区13号竪穴建物
使用面



柱穴 確認されていない。

カマド 東壁(竪穴短辺側)中央付近にある。カマド焚口や燃焼部側壁にはカマド構築材の痕跡が残されていた。カマドにはブロック状に整形したロームや、柱状に整形した凝灰岩片があり、これらによりカマドは構築されたものと思われる。カマド掘り方に残る痕跡から想定した焚口部の幅は40cm前後と見られ、また、燃焼部は長軸50cmになる。煙道は短く、急斜度に立ち上がる。

掘り方



R3-5区13号竪穴建物

- 1 黒褐色土 砂質。しまり有。粘り強い。黄褐色土粒子φ3mm~1cmを1%含む。灰白色粒子φ1mm1%含む。
- 2 灰黄褐色土 砂質。φ1mm粘りなし。しまり弱い。φ5mm程の炭化物を含む。黄褐色土粒子φ3mm~1cm含む。
- 3 暗褐色土 砂質φ1mm以下。粘り・しまり有。灰白色土φ1mmを1%含む。黄褐色土1cm~数cmのブロックを5%ほど含む。
- 6 明黄褐色土 シルトブロックと砂の混土。ねばり・しまり極めて強い。
- 7 に近い黄褐色土 しまり極めて強い。粘り無し。砂質。極小粒。
- 8 黒褐色土 黒褐色土を基本とする。砂質。極小粒。しまり・粘り強い。灰白色粒φ1mm~。炭化物・焼土粒を5%ほど含む。
- 9 灰黄褐色土 砂質。極小粒。しまり強い。粘り無し。
- 10 明褐色土 砂質。極小粒。しまり極めて強い。ねばり無し。焼土。

R3-5区13号竪穴建物貯蔵穴

- 1 極暗褐色土 極暗褐色土を基本とする。砂質。極小粒。しまり・粘り強い。炭化物・遺物を含む。焼土ブロック少量含む。
- 2 浅黄褐色土 砂質。小粒φ1mm~数mm。しまり・粘り強いを基本とし。極暗褐色土砂質を5%ほど含む。

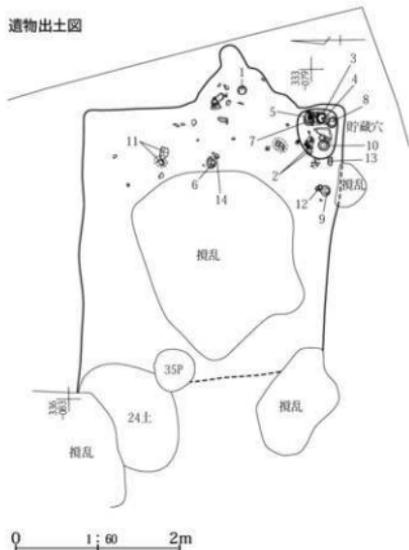
0 1:60 2m

第95図 R3-5区13号竪穴建物1

床 面 床面中央が攪乱され、床面の残存状況は悪い。当時水位が高く、床面の状況は確認できていないというのが実態に近い。壁周溝が廻り、カマド右のコーナーに貯蔵穴がある。

掘り方 建物中央付近が大きく攪乱されたほか、西壁も土坑・攪乱が重なり、掘り方の詳細は不明。残存部分の掘り方データがあり、南北の壁際やカマド対辺を深く掘り下げる傾向が見られる。

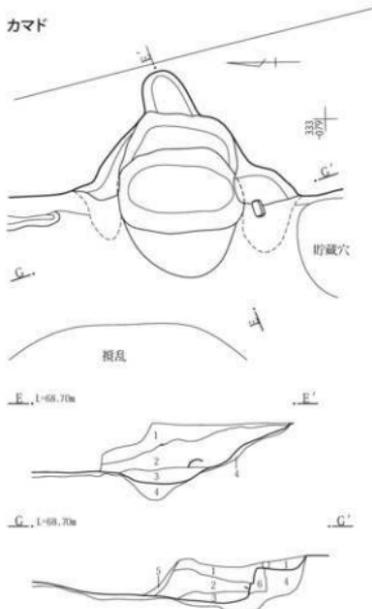
遺物出土図



出土状態 カマド内から土師器杯(第231図1)、カマド周辺域から土師器甕(14)・須恵器皿(6)、貯蔵穴内から土師器杯(2～4)・須恵器皿(5)・杯(8・10)、貯蔵穴周辺域から土師器甕(13)・高坏(12)・須恵器杯(9)が出土している。

所見 床直に近い土師器甕(第231図13・14)から、9世紀第3四半期の整穴建物と見られる。土師器杯2・4は混入の可能性あり。

カマド



R3-5区13号整穴建物 カマド

- 1 黒褐色土 しまり強い。粘り強い。砂質、極小粒。黄褐色土小粒 ϕ 1mmを2%。灰黄褐色土小粒 ϕ 1mmを2%。炭化物、焼土ブロックを少量含む。
- 2 暗オリーブ褐色土 砂質、小粒 ϕ 1mm。しまり・粘りなし。炭化物、焼土を少量含む。
- 3 オリーブ褐色土 砂質、小粒 ϕ 1mm。しまり・粘りなし。炭化物含む。
- 4 暗褐色土 砂質、極小粒。しまり強い。粘り強い。
- 5 暗褐色土 暗褐色土を主体に、極小粒。しまり・粘り強い。暗褐色土と明黄褐色土上のブロックを含む。
- 6 明黄褐色土 シルト質土。しまり・粘り強い。ロームブロックと4の混入。カマドの袖を形成する。

4. 中・近世

溝・土坑・柱穴がある。概して、遺構に伴う遺物は少なく各遺構の時期決定が難しい状況にあるため、遺構毎に形態分類してその概要を記しておこう。遺物から時期判定することができるのは、千葉西遺跡では1号土坑のみにとどまる。中世中国陶器3点が竪穴建物(15・35・44号)の覆土中から、近世国産陶器や近世施釉陶磁器10数点が竪穴建物(9・10・16・32号)の覆土から出土しただけである。

a. 溝

溝は3条がある。いずれも略東西方向を向いており、地境等区画溝になるものと見られる。

<R2-3区1号溝>(第97図、PL.27)

位置 X=33429~33430、Y=-68102~-68107

形状 溝の断面形状は略U字状を呈する。

規模 長軸(5.05)m・短軸(0.24~0.40)m、深さ0.19~0.26m

長軸方位 N-89°-E

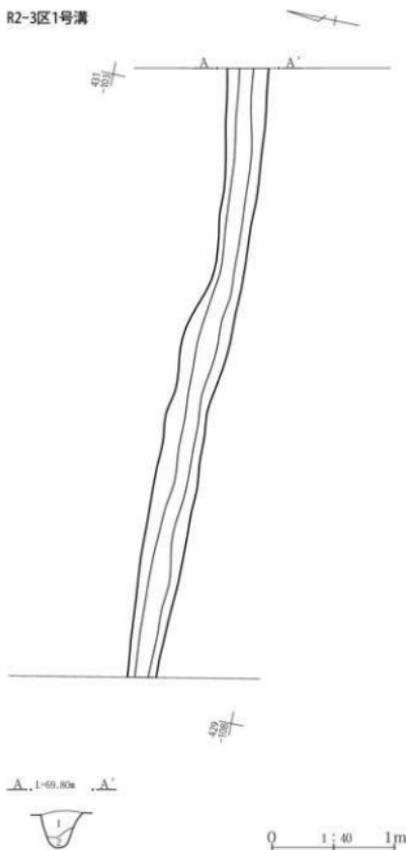
重複関係 なし

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で自然埋没。

出土遺物 土師器杯(第231図1)、須恵器杯・椀(2~4)が覆土中から出土している。

所見 土層注には、ローム粒子を含む暗褐色土とあるだけである。A混土やB混土には触れておらず、土層注から時期判定することは難しい。出土遺物は9世紀後半から10世紀代のものであるが、これが遺構の共伴遺物であるならば、溝は古代の溝となる。仮に古代の溝ということになれば、集落と関連づけることが必要だが、溝が果たした役割は不明と言わざるを得ない。

R2-3区1号溝



R2-3区1号溝

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。

<R2-3区2号溝> (第98図、PL.27)

位置 X=33401~33402、Y=-68098~-68102

形状 溝の断面形状は箱型か台形状を呈す。

規模 長軸(3.35)m・短軸1.27m・深さ0.05~0.15m

長軸方位 N-86°-E

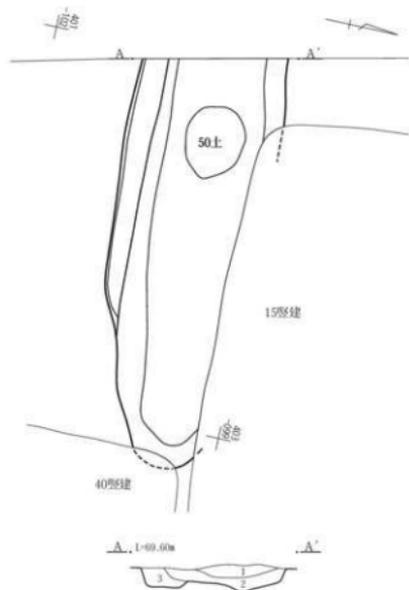
重複関係 15・40号竪穴建物、50号土坑と重複する。

埋没土 褐色土主体の暗褐色土で埋まる。

出土遺物 なし

所見 完掘状態から分かるように溝は幅30~40cmの溝が数本重複したように見える。断面から少なくとも溝2条が重複している。通水溝というより、区画溝や耕作溝が想定されよう。

R2-3区2号溝



R2-3区2号溝

- 1 暗褐色土 ローム粒をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム塊を少量含む。堆積は緻密である。

第98図 R2-3区 2号溝

<R2-3区3号溝> (第99図)

位置 X=33373~33377、Y=-68093~-68095

形状 溝は浅く、皿状に近い断面形状を呈する。

規模 長軸(1.60)m・短軸0.10~0.20m・

深さ0.02~0.25m

長軸方位 N-78°-E

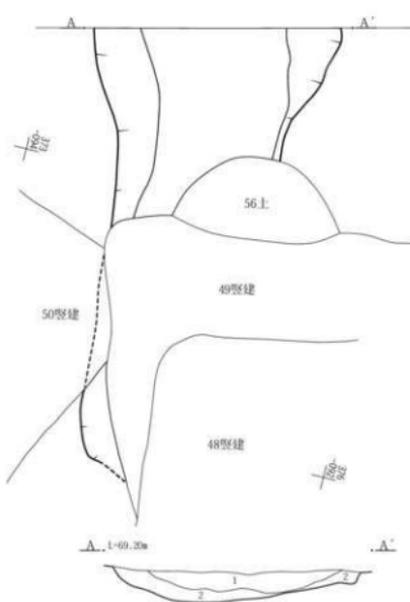
重複関係 48~50号竪穴建物、56号土坑と重複する。

埋没土 ローム粒子を含む、やや粘性の強い暗褐色土で埋まる。

出土遺物 なし

所見 遺構覆土から溝に伴う遺物は出土しておらず、また、覆土にも時代性を示唆する情報はない。溝として認定が妥当か疑問が残る。

R2-3区3号溝



R2-3区3号溝

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。

0 1:40 1m

第99図 R2-3区 3号溝

b. 土坑

計67基がある。形態的には円形・楕円形・方形・長方形・溝状を呈するものがあり、多様である。円形土坑10・楕円形土坑26・方形土坑1・長方形土坑5・溝状土坑4が形態別に見た土坑であり、円形～楕円形基調の土坑が主体を占めている。各形態の土坑は調査区全域に広がり、溝状の土坑(イモ穴)4基が調査区北に集中する以外、特に分布上の傾向を指摘することはできない。土坑は竪穴建物等に切られるものや調査区外に広がるものがあるが、これについては土坑形態分類から外したものも多い。土坑の出土遺物は皆無に近く、1号土坑から1点(第232図1)が出土しているだけである。

円形土坑(略円形土坑を含む)は、10基がある。径0.6～0.9m・深さ0.25mが平均的サイズになる。土坑底面には桶底部痕に近い痕跡にも思える痕跡が残されているものもあるが確証はない。円形基調の土坑は浅く皿状を呈するものも見られる。

楕円形土坑は26基があり、長軸0.94m・短軸0.75m・深さ0.23mが平均サイズである。楕円形土坑にも浅く、土坑断面形状が皿状を呈するものがある。長幅比が2:1前後を示す典型的な楕円形土坑(24・29・32号土坑)がある一方、平均サイズが示す通り土坑サイズは漸移的であり、円形土坑と楕円形土坑の区分は相対的主観的な感が強い。土坑底面は平坦なものもあるが、やや安定性に欠けるものが多い。

方形土坑は、1基のみ確認されている。長軸0.74m・

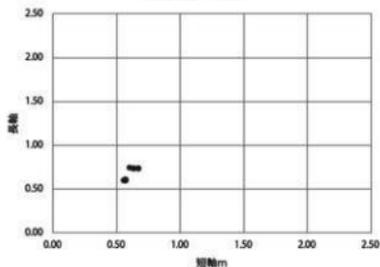
短軸0.65m・深さ0.26mが計測サイズになる。竪穴建物と重複関係にあり、付近に同種土坑は確認できない。

長方形土坑は5基があり、長軸1.02m・短軸0.51m・深さ0.28mが計測サイズになる。うち、R3、23号土坑は小形(長軸0.52m・短軸0.42m)で、やや異質である。33号竪穴建物と重複する54号土坑は北壁が乱れており、略長方形土坑というべきものであるが、軸方位が座標北を向いており、注意しておきたい。

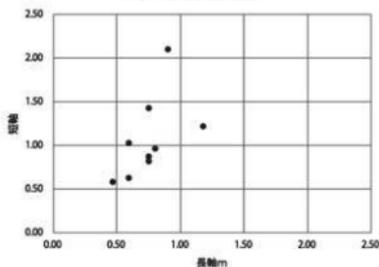
溝状土坑は4基があり、長軸3.97m・短軸0.86m・深さ0.23mが平均サイズとなる。溝状土坑の分布は調査区北に偏り、「コ」字状に配されているが、13号土坑のみ幅広く形態的には分別されるべきかもしれないが、形態的には「イモ穴」とされるものに近い。

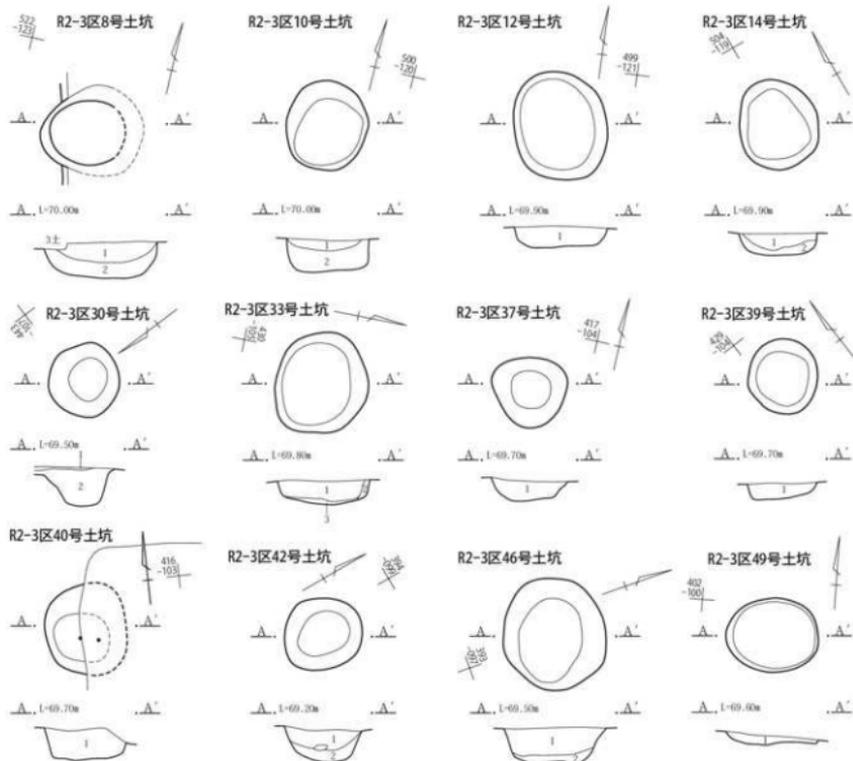
このほか、注目しておきたい土坑がある。7号土坑としたものがそれであるが、焼土と骨片が出土している。土坑は、当初外反気味に立ち上がる楕円形土坑として調査され、覆土中から骨片が確認されている。この段階で土坑底面に焼土が確認されており、有段気味の壁面が掘り出されているが、土坑のプラン全体が把握されていたのか、この点については分からない。最終的に土坑底面は柱穴状(径0.62m・深さ0.38m)になるとされた。この柱穴底面には厚く焼土が堆積したほか、柱穴壁面には焼土が形成されていた。土坑の平面プランは乱れているが、完掘状態から見る限り楕円形土坑と焼土を伴う有段土坑の重複とすることができるのではないだろうか。骨片：馬の歯※本分。

円形土坑長幅比



楕円形土坑長幅比





R2-3区8号土坑

- 1 暗褐色土 白色粒子・ローム粒子を多く含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

R2-3区10号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。

R2-3区12号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子・橙色粒子を含む。

R2-3区14号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子・橙色粒子を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 ローム土を混じる。

R2-3区30号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む、白色軽石を少量含む。焼土粒・塊が少量混入する。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒が少量混入する。焼土粒が少量混入する。堆積は緻密である。

R2-3区33号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム上層のローム土が多量に混入する。堆積は緻密である。

R2-3区37号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。

R2-3区39号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。

R2-3区40号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。

R2-3区42号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。礫が混入する。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。

R2-3区46号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。

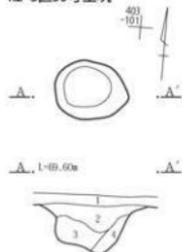
R2-3区49号土坑

- 1 暗褐色土 ローム塊を少量含む。堆積は緻密である。

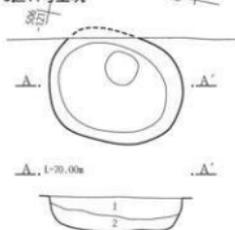
0 1:40 1m

第100図 R2-3区土坑1

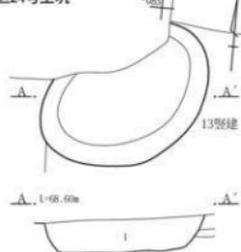
R2-3区50号土坑



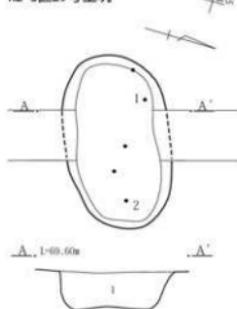
R2-3区11号土坑



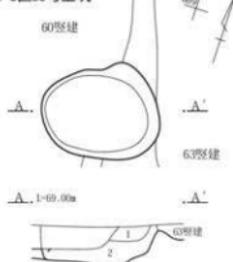
R3-5区24号土坑



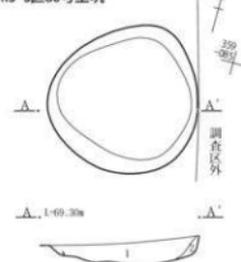
R2-3区29号土坑



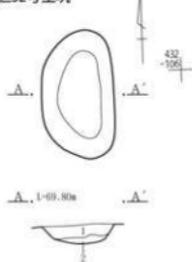
R3-3区85号土坑



R3-3区86号土坑



R2-3区32号土坑



R2-3区50号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含み、白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。礫が混入する。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。礫が混入する。
- 4 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。

R2-3区11号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子を多量に含み、2~3mm大の砂を含む。
- 2 暗褐色土 2~5mm大の橙色ブロックを含む。

R2-3区24号土坑

- 1 黒褐色土 極小粒。砂質。粘りあり。しまり強い。明黄褐色の粒子数mmを1%、にぶい黄褐色の粒子φ1mmを5%含む。また、ロームブロックφ数cmを主に底部付近に1%含む。

R2-3区29号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含み、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。

R2-3区85号土坑

- 1 暗褐色土 黄色粒子・白色粒子が微量混じる。粘性・しまりやや強い。
- 2 黒褐色土 黄色粒子・白色粒子・地山ブロック(極小)が微量混じる。粘性・しまりやや強い。

R2-3区86号土坑

- 1 黒褐色土 黄色粒子・ローム粒子を少量混じる。粘性やや弱い。しまりやや強い。
- 2 暗褐色土 黄色粒子・ロームブロック(極小)が中量混じる。粘性・しまりやや強い。

R2-3区32号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含み、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。

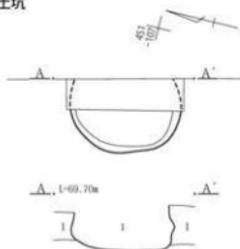


第101図 R2-3区土坑2

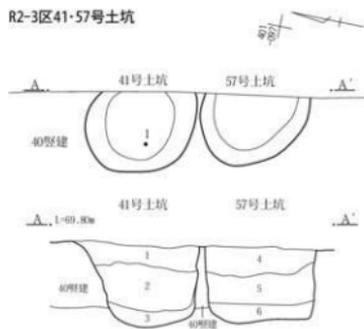


第102図 R2-3区土坑3

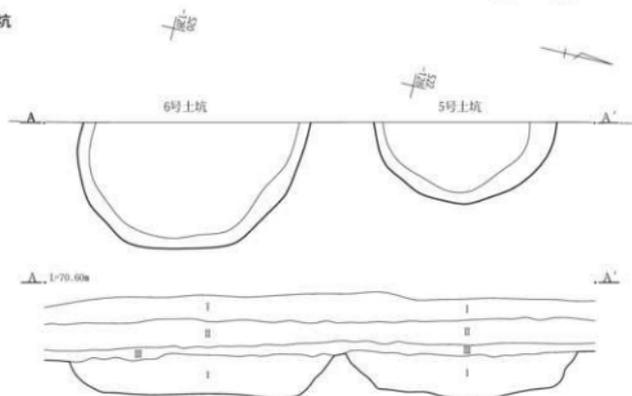
R2-3区26号土坑



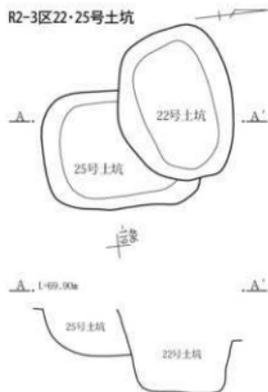
R2-3区41・57号土坑



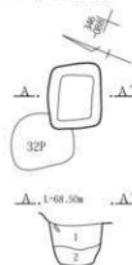
R2-3区5・6号土坑



R2-3区22・25号土坑



R2-3区23号土坑



R2-3区26号土坑

1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-Bが多量に混入する。

R2-3区41・57号土坑

1 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。黒褐色土塊を少量含む。

2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。

3 暗褐色土 ローム塊を少量含む。

4 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。礫が少量混入する。

5 暗褐色土 ローム粒・塊をごく少量含む。

6 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。

R2-3区5・6号土坑

1 黒褐色土 黒褐色土を主体とし、1〜3大の小石を含み、ローム分を少量含む。

R2-3区23号土坑

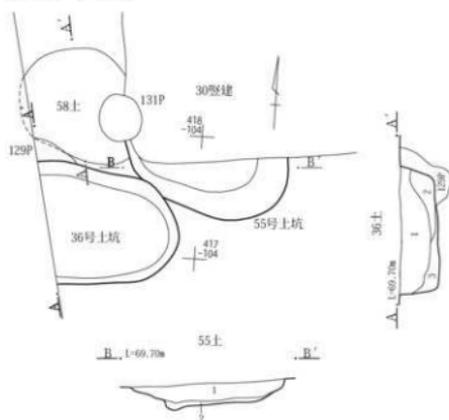
1 黒褐色土 黄色軽石が少量混じる。粘性・しまりやや強い。

2 黒褐色土 灰褐色ブロック(小)が少量混じる。粘性・しまりやや強い。

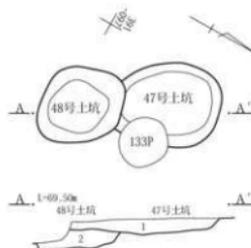
0 1:40 1m

第103図 R2-3区土坑4

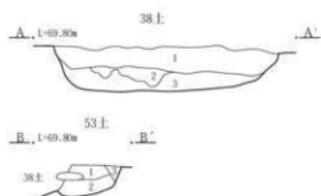
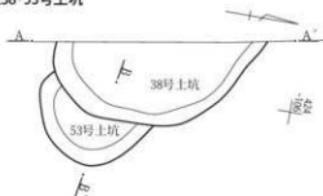
R2-3区41・57号土坑



R2-3区47・48号土坑



R2-3区38・53号土坑



R2-3区54号土坑



R2-3区36・55号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含み、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 黒褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 4 暗褐色土 ローム塊を少量含む。堆積は緻密である。

R2-3区47・48号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含み、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。47号土坑
- 2 暗褐色土 ローム塊を少量含む。堆積は緻密である。48号土坑

R2-3区38号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含み、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 黄褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。

R2-3区53号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含み、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。塊上が混入する。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。堆積は緻密である。

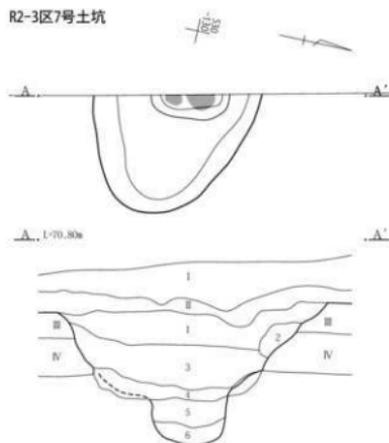
R2-3区54号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含み、白色軽石を少量含む。礫が混入する。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。

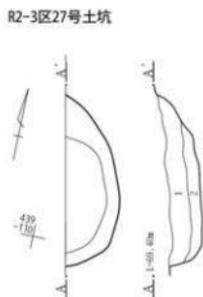


第104図 R2-3区土坑5

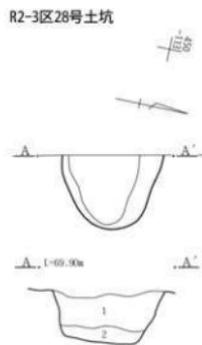
R2-3区7号土坑



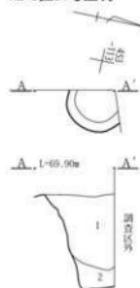
R2-3区27号土坑



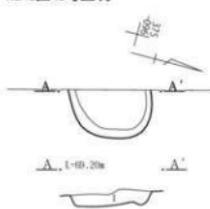
R2-3区28号土坑



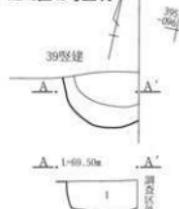
R2-3区31号土坑



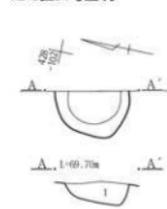
R2-3区43号土坑



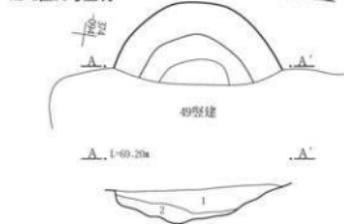
R2-3区45号土坑



R2-3区51号土坑



R2-3区56号土坑



R2-3区7号土坑

- 1 黒褐色土 1cm大の小石を少量含む、褐色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 5層とはほぼ同じで、より明るい色調をなす。
- 3 黒褐色土 5層とはほぼ同じで、より黒色が強い。
- 4 暗褐色土 1cm大の焼土ブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土 焼土分を多く含む。
- 6 褐色土 暗褐色土と焼土ブロック及び炭ブロックの混層。

R2-3区27号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む、2~5cm径の礫が混入する。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。

R2-3区28号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 黒褐色土 ローム粒を少量含む、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。

R2-3区31号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。

R2-3区43号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。礫が混入する。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。

R2-3区45号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒をごく少量含む。堆積は緻密である。

R2-3区51号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む、白色軽石を少量含む。堆積は緻密である。

R2-3区56号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。



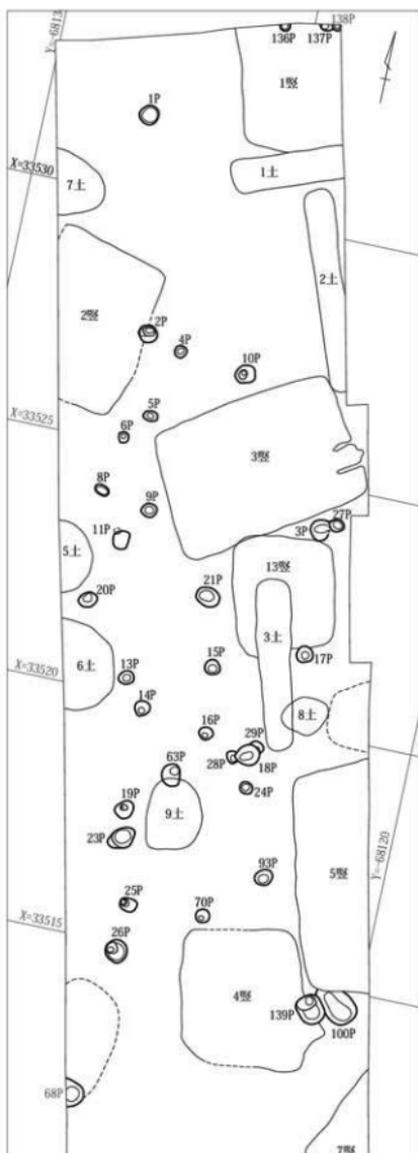
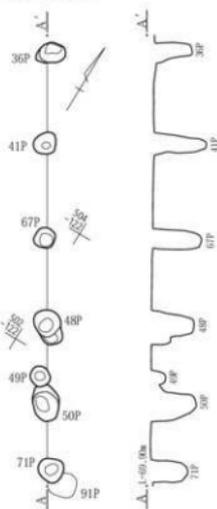
第105図 R2-3区土坑6

c. 柱穴類

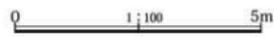
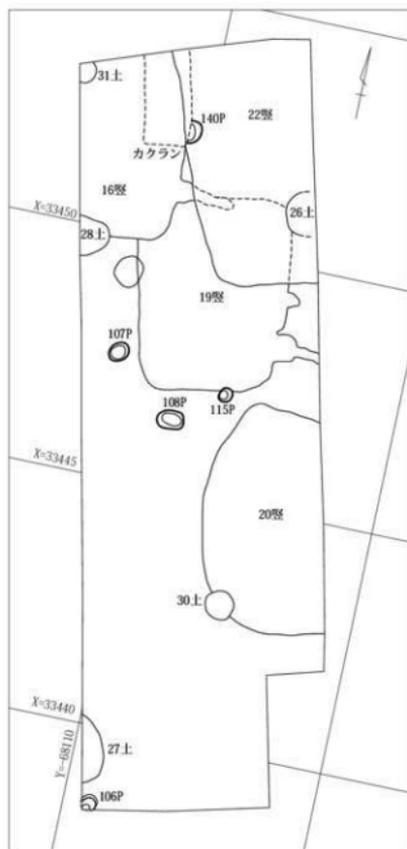
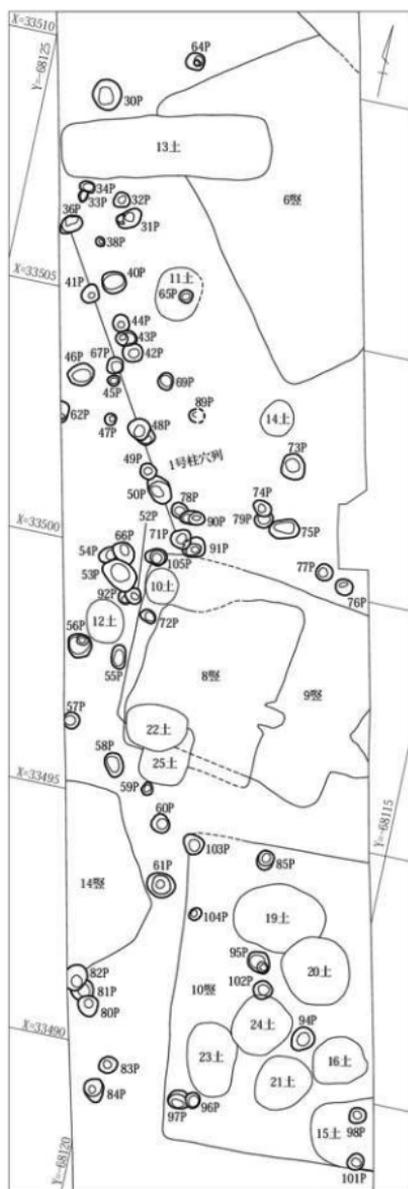
柱穴として150本が認定されているが、柱穴として妥当でないものや、竪穴建物の柱穴となるものが混在しており、これを除外した128本が柱穴となる。竪穴建物が密集分布するため柱穴分布の全体像は明らかでないが、どちらかといえば、調査区北に柱穴が集中するように見える。現場では柱穴列1を認定しているが、調査区が狭く全体像が分かりにくいこともあり、掘立柱建物等は確認されていない。柱穴には根っ子を掘り下げってしまったものもあるが、径0.3m・深さ0.38mが平均的なサイズになる。遺跡は、粕川に面した台地縁辺に当たる。近世の千葉集落には近接しているが、やや西に外れた地点になる。明治初期の当地の土地利用は、畑である可能性が高い。恐らくこの土地の利用形態は近世前半期より以前ということになるものと思われる。

1号柱穴列は、柱穴6本(P36・P41・P67・P48・P50・P71)からなる。柱穴P36-P41間1.6m、P41-P67間1.6m、P67-P48間1.4m、P48-P50間1.2m、P50-P71間1.1mを測る。各柱穴は深さ0.6~0.8m前後で、各柱穴が直線的に並んでいるのは明らかであるが、柱穴間の距離が安定せず認定が妥当か、問題が残る。

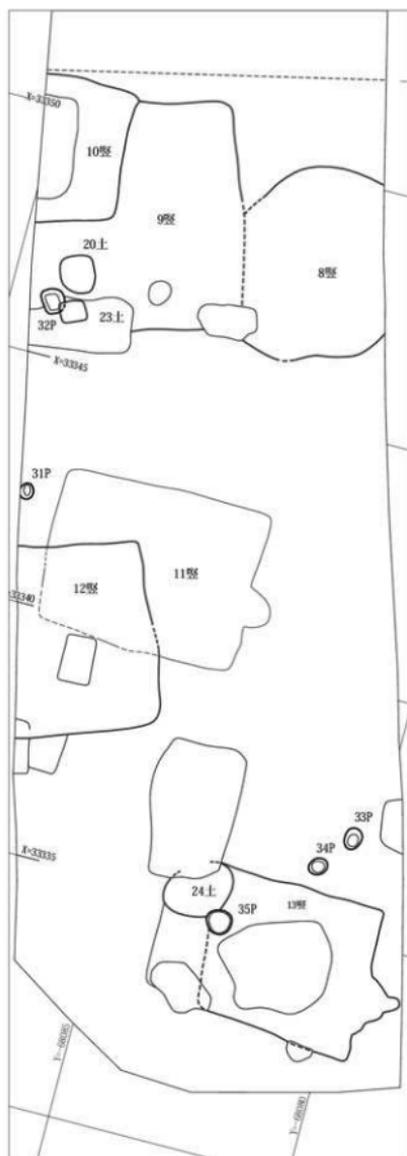
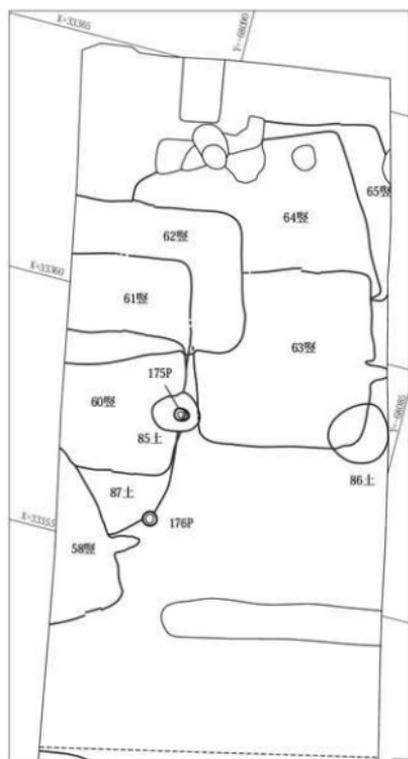
R3-3区1号柱穴列



第106図 1号柱穴列・R2-3区柱穴分布図1



第107図 R2-3区柱穴分布図2



第109図 R3-3区柱穴分布図4(左)・R3-5区柱穴分布図

第6章 岩鼻塚合遺跡

1. 概要

本遺跡は、令和3年度調査地点の4区に当たる。調査区は県道東にあり、発掘対象地は南北47.3mほどである。

調査区には途中排水管が横断しており、これにより南北に分断されている。調査面積は、200㎡弱である。本遺跡北には粕川を挟んで綿貫千葉西遺跡があり、南には岩鼻天神遺跡(県道東分)があり、県道西には岩鼻延鏡寺遺跡及び県道西分の岩鼻天神遺跡がある。

遺構として、溝7条が確認されている。溝の走行は略北西—南東方向と東西方向のものがあり、いずれも台地縁辺で確認されている。溝以外の遺構は不明瞭であるが、溝北の低地部には水田が展開したと思われる。

2. 中・近世

a. 溝

溝は、計7本(21～28号溝)が確認されている。概して溝の出土遺物は少なく、22号溝から肥前磁器片(第238図2)が出土したのみである。溝は略東西南方向を向く近世溝と南東方向に向く溝がある。絵図には粕川から溝を引き、水田化した地点があり、これに南東方向に流れる溝が該当する可能性がある。

<R3-4区21号溝>(第110図)

位置 X=33250～33251、Y=-68061～-68065

形状 溝は浅く、皿状の断面形状となる。

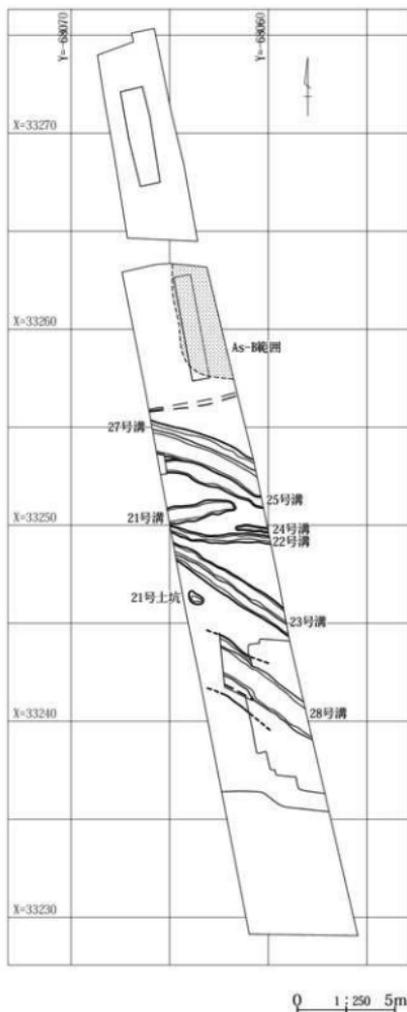
規模 長さ(3.38)m・幅0.73～0.82m・深さ0.01～0.02m

長軸方位 N-80°-E

重複遺構 なし

埋没状況 青灰色シルト質土で埋まる。ごく浅い溝で、還元気味の鉄サビしたシルト質土が上層を厚く覆う。

所見 幅40cmほどで、溝の走行はX=33256ライン北の水田区画に近い。溝と捉えているが、溝は浅く幅が広く、全体として溝の形状は定型的とは言えず、畦脇の耕作痕として捉えるべきかもしれない。



第110図 岩鼻塚合遺跡全体図

<R3-4区22号溝>(第111図)

位置 X=33249、Y=-68059～-68064

形状 溝は浅く、皿状の断面形状を呈す。

規模 長さ(0.51)m・幅0.38～0.42m・深さ0.05～0.12m

長軸方位 N-86°-E

重複遺構 なし

埋没状況 21号溝覆土に似た、青灰色シルトで埋没する。ごく浅い溝で、これまた21号溝と同様、上層は還元気味の鉄サビしたシルト質土で厚く覆われていた。

出土遺物 覆土中から染付皿(第238図2)の底部破片1/4が出土している。

所見 溝は略東西を向いており、水田様区画(水田及び水田に付随した浅い水路)と並行関係にあり、もう一枚上の水田に伴う溝になる可能性が高い。22号溝と24号溝は同軸の溝になる。肥前磁器は19世紀の磁器片であり、混入物の可能性も否定できない。

<R3-4区23号溝>(第111図)

位置 X=33244～33249、Y=-68058～-68064

形状 溝は浅く、皿状を呈す。

規模 長さ(0.66)m・幅0.8～1.1m・深さ0.2～0.3m

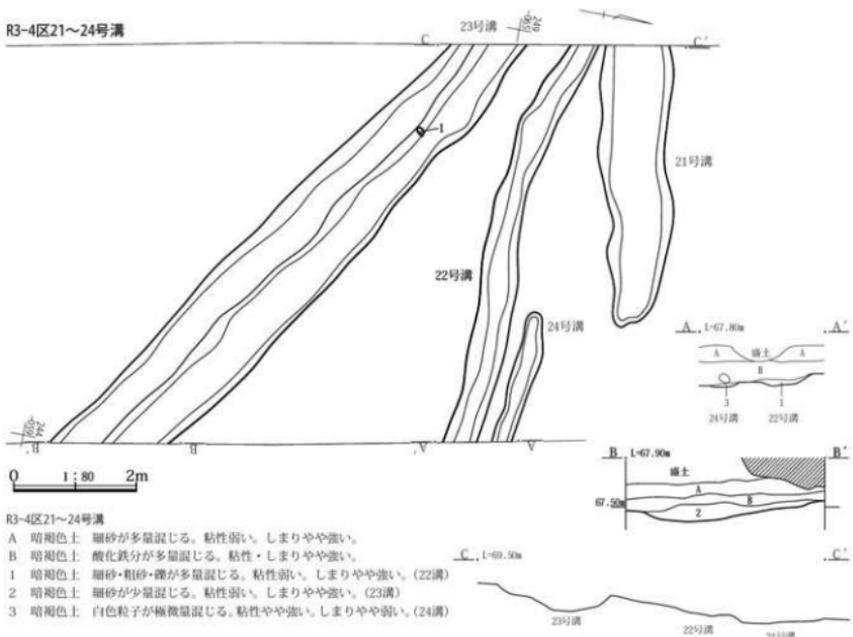
長軸方位 N-58°-E

重複遺構 なし

埋没状況 溝の最下層には還元気味の青灰色シルト質土が堆積する。上層は鉄サビの付いたシルト質土で覆われているが、鉄サビが明らかに途切れる部分があり、溝を掘り直している可能性が高い。

所見 土層断面と対辺には溝2条が並行するように見える。25・27号溝と同軸の溝になる。溝は台地縁辺に並行するよう確認されている。

R3-4区21～24号溝



第111図 R3-4区21～24号溝

<R3-4区24号溝>(第111図)

位置 X=33249~33250、Y=-68059~-68061

形状 溝は浅く、皿状の断面形状を呈す。

規模 長さ(1.63)m・幅0.25~0.3m・深さ0.03~0.06m

長軸方位 N-85°-E

重複遺構 なし

埋没状況 22号溝同様、青灰色シルトで埋没する。ごく浅い溝で、上層は還元気味の鉄サビしたシルト質土で厚く覆われていた。

所見 溝は南側(台地側)が明瞭に立ち上がり、北側は明瞭とはいえない。溝は東壁側のみ確認され、中央より西側のプランは不明瞭になる。

<R3-4区25号溝>(第112図)

位置 X=33250~33253、Y=-68060~-68065

形状 溝は鍋底状の断面形状となる。溝底面は比較的平坦になる。

規模 長さ(5.90)m・幅0.35~0.85m・深さ0.08~0.12m

長軸方位 N-65°-E

重複遺構 26・27号溝を切る。

埋没状況 西壁(PL.31)を見る限り、水田耕土及び下層斑鉄層を切り25号溝が掘られることが明らかである。黄灰色シルトや灰白色シルトなど、特徴的シルトがあり、繰り返し掘り直されていることが分かる。

所見 同じ地点に重複する3条の溝では、最も新しく掘られた溝になる。最下層には小礫があり、水路として使用されたものであるが、黄灰色シルトや灰白色シルトは斑鉄層に覆われており、水田耕土や斑鉄層を前後して溝が切られたことが分かる。

<R3-4区26号溝>(第112図)

位置 X=33252~33255、Y=-68060~-68065

形状 溝は浅く、皿状の断面形状を呈す。

規模 長さ(5.65)m・幅0.36~0.56m・深さ0.21~0.24m

長軸方位 N-68°-E

重複遺構 27号溝に切られる。

埋没状況 やや明るいシルト質土で埋まる。

所見 溝は27号溝と同軸であり、台地縁道を流れる水路として機能したと思われる。

<R3-4区27号溝>(第112図)

位置 X=33251~33254、Y=-68060~-68065

形状 溝は典型的な鍋底状を呈す。

規模 長さ(5.85)m・幅0.97~1.2m・深さ0.26~0.32m

長軸方位 N-65°-E

重複遺構 26号溝を切り、25号溝に切られる。

埋没状況 溝は灰褐色シルト質土で埋もれていたが、西壁には途中鉄サビした黒色粘質土が切れる部分があり、溝に新旧があり掘り直されていることが分かる。

所見 26・27号溝は明らかに水田耕土下の斑鉄層に覆われている。出土遺物がなく時期決定できないが、これが江戸期に下る可能性を考えておきたい。

<R3-4区28号溝>(第112図)

位置 X=33239~33244、Y=-68057~-68062

形状 溝は幅広く、皿状の断面形状を呈す。

規模 長さ(5.65)m・幅(1.40~1.90)m・深さ0.33~0.44m

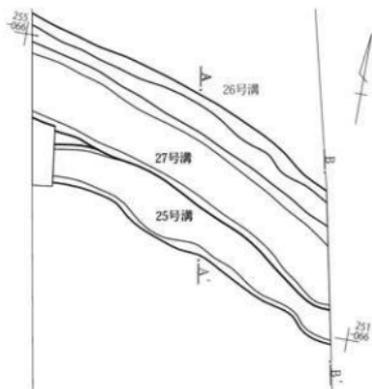
長軸方位 N-52°-E

重複遺構 中央付近に段差があり、溝が重複する可能性が高い。

埋没状況 溝中央付近に段差があり、新旧2条の溝が切り合う可能性がある。写真には黄褐色ロームで埋まる溝があり、これが西壁側に続いているが、この溝を含む南側の溝が新しく、北側の溝が切られたものと思われる。北側の溝の最下層には、小礫を含む灰褐色シルトが堆積する。

所見 28号溝には、少なくとも溝2条の切り合い関係がある。溝の周辺は攪乱とされているが、25~27号溝北の水田様区画に似た方形に近い黒く変色した土壌があり、こども水田様区画として考えるべきか判断が難しい。

R3-4区25~27号溝

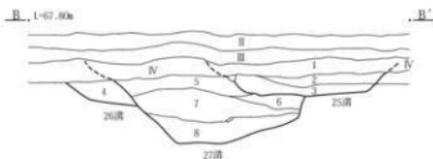
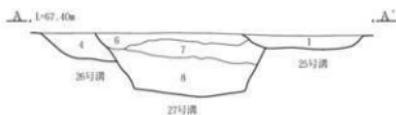


R3-4区25~27号溝

- II 青灰褐色土
- III 灰褐色土
- IV As-混土

R3-4区25号溝

- 1 灰褐色土 シルト質、鉄跡が付いて赤味を帯びる。(25溝)
- 2 暗褐色土 シルト質でローム粒子を混入。(25溝)
- 3 灰褐色土 シルト質、小礫を含む。(25溝)



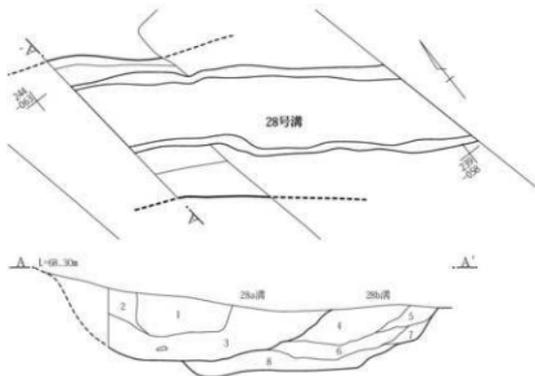
R3-4区26号溝

- 4 暗褐色土 シルト質で小礫を含む。(26溝)

R3-4区27号溝

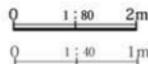
- 5 暗褐色土 シルト型で小礫を含む。鉄分で赤味を帯びる。(27溝)
- 6 灰褐色土 シルト型、小礫を含む。(27溝)
- 7 灰褐色土 ロームブロック、小礫を多量混入。(27溝)
- 8 灰褐色土 ローム粒子、小礫を含む。(27溝)

R3-4区28号溝



R3-4区28号溝

- 1 褐色土 ロームブロック主体の混土層。(28a溝)
- 2 暗褐色土 鉄さびがつく。(28a溝)
- 3 暗褐色土 シルト質。(28a溝)
- 4 灰褐色土 シルト質、小礫を含む。(28b溝)
- 5 暗褐色土 シルト質でロームブロックを含む。(28b溝)
- 6 灰褐色土 シルト質。1層より明るい。(28b溝)
- 7 暗褐色土 ロームブロックを含む。(28b溝)
- 8 暗褐色土 シルト質で小礫を含む。黒色土と灰褐色シルトの薄層が挟まる。(28b溝)



第112図 R3-4区25~28号溝

b. その他の遺構

土坑1基が確認されている。このほか、現場では取り上げていないが、水田様区画と目されるところがあり、水田耕土上面の斑鉄層に鋤先痕が残されるところがあり、以下その概要について簡単に触れておこう。

<R3-4区21号土坑> (第113図)

位置 X=33245~33246, Y=-68063~-68064

形状 平面形は略楕円形状を呈す。断面はU字状に近い。北壁は開き気味に立ち上がる。

規模 長さ0.80m・幅0.48m・深さ0.31m

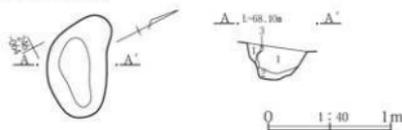
長軸方位 N-50°-E

重複遺構 なし

埋没状況 ローム粒子を含む灰褐色土で埋もれる。途中灰褐色シルトが窠位に延びる。灰褐色シルトは平面でも見られる。可能性としては噴砂が想定されるであろうが、この土坑以外これに似た堆積は記録されていない。

所見 単独分布しており、出土遺物もなく、土坑の詳細は不明。

R3-4区21号土坑



R3-4区21号土坑

- 1 に薄い黄褐色土 白色粒子・褐色粒子が少量混入する砂質土。粘性弱い。しまりやや強い。
- 2 暗褐色土 褐色粒子が微量混入する。粘性やや弱い。しまりやや強い。
- 3 に薄い黄褐色土 粘質地上。噴砂状の上。

第113図 R3-4区21号土坑

<北側調査区の基本土層> (第4図)

北側調査区の基本土層は、調査区中央西壁の土層堆積が図化されている。1層が1.4m前後あり、厚い。下層には瓦が廃棄状態にあり、人為的な埋め土になる。以下の堆積は北側調査区同様で、Hr-FA及びAs-Cも攪拌状態にある。

<南側調査区の基本土層> (第4図)

南側調査区の基本土層は、27号溝以北の約6.5m分の土層堆積が図化されている。上から砕石50cmがあり耕作土、盛土が75cmほどある。2~4層は白色バミスを含む灰褐色土で、各層は斑鉄層により分層され、水田耕土になるものと見られる。土層注記には、5層にAs-Bの一次堆積層と記されているが、基本的に5層はAs-Bの攪拌土層(B混)と捉えるべき土層である。

<水田様区画、鋤先痕>

写真を見る限り、25~27号溝北に水田土層が方形に残る区画がある。水田土層にはAs-Aが鋤き込まれ、近世の水田ということになる。調査区内には水田土層に似た耕作土があり、地境になる可能性がある。22・24号溝がそれであるが、溝としては浅く、用水路とするより21号溝ととも畑畦脇の耕作痕と考えるべきかもしれない。同様に、23・28号溝間にも耕作土が方形に残り、地境になる可能性がある。

同じ調査区の北西端には黒色粘質土がある。As-B下の水田耕土と同質であり、これがAs-B降下期の低地部ということになる。この低地には鋤先痕(写真9)が残されているが、As-Bの純層を反転したというより、かなり鋤き込まれたB混土というべきものである。



写真9 As-B下水田耕土上面に残された鋤先痕

第7章 岩鼻延養寺遺跡

1. 概要

本遺跡は、令和2年度調査地点の4区に当たる。遺跡の立地を問われれば粕川右岸にあるということになるが、丈量図には複雑な地境が描かれており、粕川が二股に分かれている。現況からは想像できないが、壬申絵図には粕川があり、これから分かれる水路が描かれていることや、耕地図に示された小径が先の複雑な地境に相当することが明らかで、絵図や耕地図を念頭に検出された溝を評価する必要がある。調査区は県道西にあり、県道東に岩鼻塚合遺跡がある。調査対象地は南北20mほど、調査面積は90㎡弱である。

検出された遺構は竪穴状遺構1、溝6、土坑3、柱穴20基がある。竪穴状遺構は略北北西を向いており、同軸の土坑数基がある。溝には幅1m前後の溝(略北北西-南南東に走る)があるほか、幅25~50cm弱の溝(略東西に走る)がある。そのほか、柱穴多数が確認されているが、調査区が狭く、掘立柱建物跡は確認できていない。出土遺物は近現代の陶器片4点、ガラス1点が出土しているが、いずれも表土中の出土である。

2. 中・近世

a. 竪穴状建物

竪穴状遺構1基が確認されている。平面形態は短冊状に近く、長狭である。同軸の遺構に9・11号土坑がある。

<R2-4区1号竪穴状遺構>

位置 X=33247~33251、Y=-68083~-68086

形状 遺構の平面形は短冊状に近い。

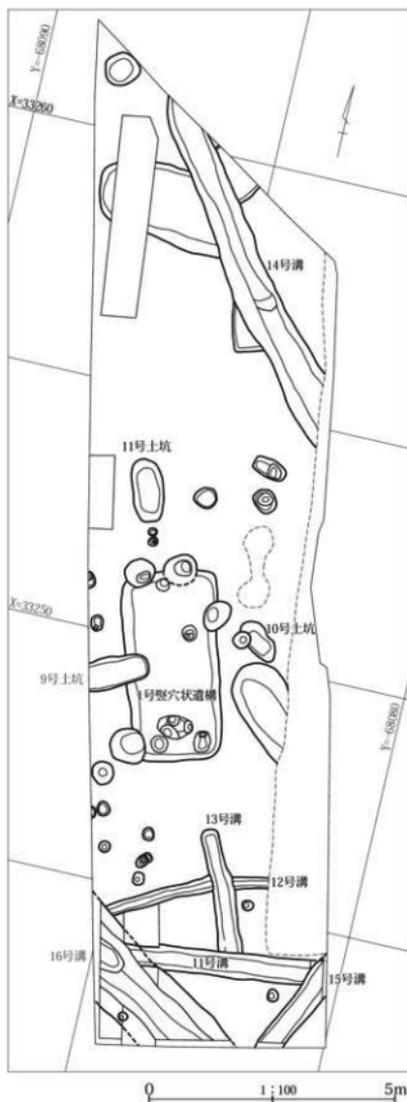
規模 長軸3.85m・短軸1.85~1.95m・深さ0.27~0.33m

長軸方位 N-15°-W

重複遺構 9号土坑、45号柱穴と切り合う。

床面 床面は比較的平坦、北壁際は南壁際より、6cm下がる。柱穴は南北壁際にある。北壁際P1：深さ0.6m、南壁際P3：深さ0.41~0.46m、南壁際P4：深さ0.50mを測る。

埋没状況 ローム粒子を含む黒褐色土で埋まる。



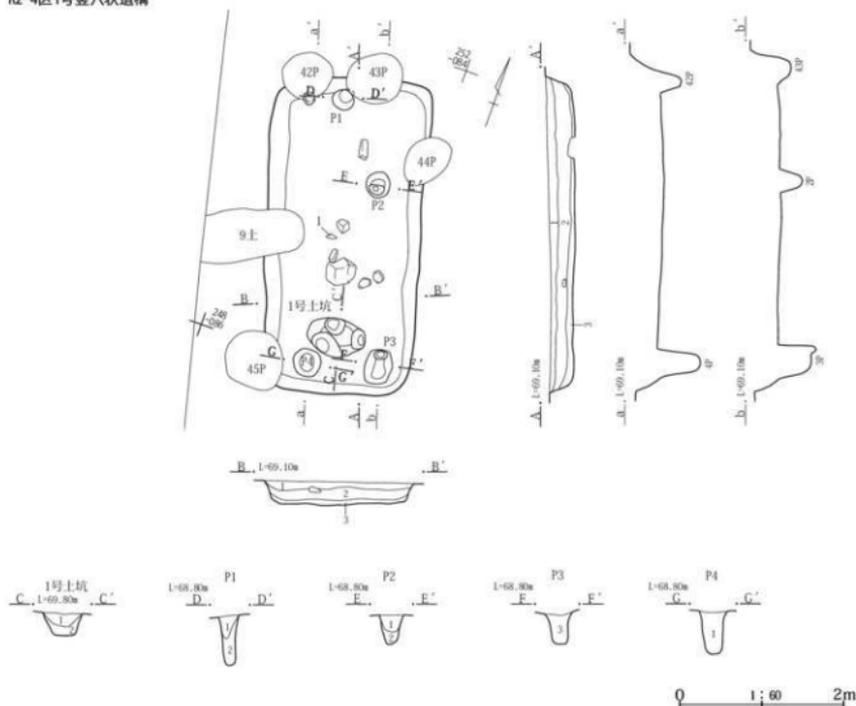
第114図 岩鼻延養寺遺跡全体図

出土遺物 中世の常滑陶器片(第239図1)が床面から+11.0cm浮いた状態で出土した。その他、大形礫が床面中央付近から出土している。

所見 柱穴は北壁際に1本が、南壁際に2本がある。南壁際のP3-P4間は芯々で0.9mを測り、上屋を切妻と

するならば、南側が出入口部になるだろう。一方、北壁で切り合うP42・P43の芯々間は半間ほど、P43-P3は芯々で3.6m、P42-P4は芯々で3.43mを測る。位置的に見て竪穴状遺構の柱穴になる可能性はないだろうか。

R2-4区1号竪穴状遺構



R2-4区1号竪穴状遺構

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色粒、橙色粒少量含む。固く締まる。
- 2 黒褐色土 ローム粒、橙色粒少量含む。均質土。締まりが強い。
- 3 黒褐色土 高崎泥流堆積物を含む。締まりがあり、やや粘質である。

R2-4区1号竪穴状遺構土坑1

- 1 黒褐色土 ローム粒、橙色粒少量含む。均質土。締まりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒中量含む。粘質土。

R2-4区1号竪穴状遺構P1~P4

- 1 黒褐色土 ローム粒、橙色粒少量含む。均質土。締まりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒中量含む。粘質土。
- 3 黒褐色土 ローム粒中量。斑状に含む。締まりあり。

第115図 R2-4区1号竪穴状遺構

b. 溝

溝6条がある。このうち、北北西-南南東に走る溝2条(14・16号溝)は幅1mを超え、用水路として機能したものと考えていい溝である。残る溝4条には竪穴状遺構と同軸の溝(13号溝)、16号溝に直交する溝(15号溝)があり、略東西方向の溝(11・12号溝)がある。14・16号溝は県道東の岩鼻塚合遺跡の溝に続く可能性も考えてみたが、現状では県道を跨いで続く溝は確認できていない。

<R2-4区11号溝>(第116図)

位置 X=33243~33244, Y=-68080~-68084

形状 溝断面は逆台形状を呈す。溝底面は比較的平坦で、弱く東に傾斜する。

規模 長さ(3.28)m・幅0.49m・深さ0.31m

長軸方位 N-84°-E

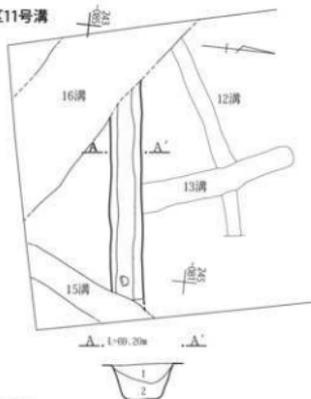
重複遺構 13・15・16号溝と切り合う。

埋没状況 暗褐色土で埋まる。流水を示す砂やシルトの堆積は見られない

出土遺物 なし

所見 当初15号溝に先行するものとして調査されているが、最終的には新旧関係が逆転したようである。新旧関係については図化されてない。16号溝も新旧が逆転、11号溝が切られることが判明した。

R2-4区11号溝



R2-4区11号溝

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色粒少量含む。締りあり。
- 2 黒褐色土 白色粒少量含む。ローム粒塊状に中量含む。締りあり。

第116図 R2-4区11号溝

<R2-4区12号溝>(第117図)

位置 X=33244~33245, Y=-68081~-68084

形状 断面U字状を呈す。溝底面は比較的平坦だが、±6cm程度の凹凸がある。

規模 長さ(3.27)m・幅0.22~0.28m・深さ0.08~0.23m

長軸方位 N-63°-E

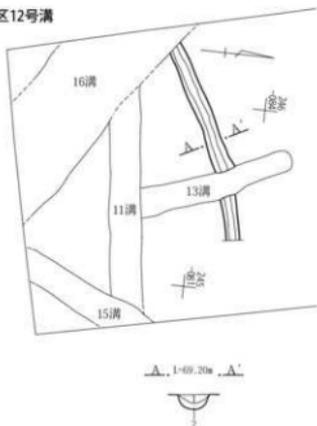
重複遺構 13・16号溝と重複、新旧関係は不明。

埋没状況 白色バミスが混じる暗褐色土で埋まる。下層は鉄サビが付く。流痕は見られない。

出土遺物 なし

所見 鉄サビが付く点では水路の可能性が示唆されるだろうが、断定は難しい。明治期初期の土地利用は畑として記載されている。

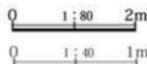
R2-4区12号溝



R2-4区12号溝

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色粒少量含む。固く締まる。
- 2 黒褐色土 ロームブロック塊状に含む。締まりあり。

第117図 R2-4区12号溝



<R2-4区13号溝> (第118図)

位置 X=33244~33246, Y=-68082~-68083

形状 溝断面は逆台形状を呈し、鍋底状に近い。溝の底面は比較的平坦である。

規模 長さ(2.60)m・幅0.35~0.45m・深さ0.17~0.20m

長軸方位 N-23°-W

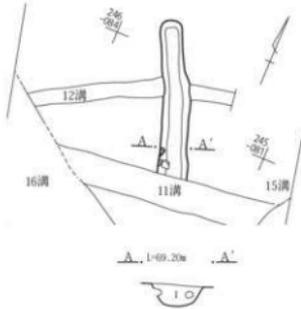
重複遺構 11・12号溝と切り合う。

埋没状況 上層に白色バミスを含み、下層が鉄サビする点で4-12号溝と同様の堆積状況にある。

出土遺物 溝の埋没途中、河床礫が埋まる。

所見 溝の最下層が鉄サビする点で水路の可能性を検討してみたが、積極的にそれと判断する根拠はないようである。

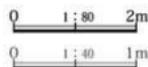
R2-4区13号溝



R2-4区13号溝

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色粒少量含む。ロームブロック中量含む。礫りあり。

第118図 R2-4区13号溝



<R2-4区14号溝> (第119図)

位置 X=33254~33260, Y=-68082~-68087

形状 溝断面はU字状を呈す。溝底面は中央付近が窪んでいるが、調査区両端のレベル差は少ない。

規模 長さ(7.50)m・幅0.64~0.96m・深さ0.27~0.42m

長軸方位 N-25°-E

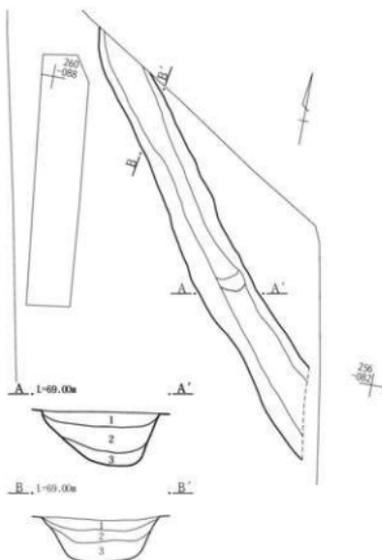
重複遺構 なし

埋没状況 白色バミスの混じる暗褐色土が上層を覆い、以下粘性に富む茶褐色土が上層を埋める。最下層は白色粘土化したローム土、灰褐色土で埋まる。灰褐色土は粘性に富み、人為的にも見える。堆積事情の詳細は不明。

出土遺物 なし

所見 溝の走行は北北東~南南東に向き、壬申絵図に描かれた用水路になる可能性も否定できないが、詳細は不明である。

R2-4区14号溝



R2-4区14号溝

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色粒、橙色粒少量含む。固く締まる。
2 黒褐色土 ローム粒、橙色粒少量含む。均質土。締まりあり。
3 黒褐色土 ローム粒少量含む。にぶい黄褐色土中量含む。粘質土。

第119図 R2-4区14号溝

<R2-4区15号溝> (第120図)

位置 X=33242~33244, Y=-68080~-68081

形状 溝断面は銅底状を呈し、溝底面は平坦である。

規模 長さ(1.97)m・幅0.48m・深さ0.23m

長軸方位 N-25°-E

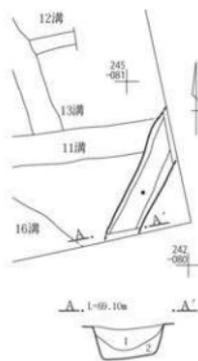
重複遺構 11号溝と重複する。

埋没状況 下層はロームブロックを含む暗褐色土、上層は白色バミスを含む暗褐色土で埋まる。自然堆積。

出土遺物 覆土中から土師器杯の底部片が出土しているが、溝に伴う可能性は低い。

所見 土層断面委流痕を示す砂やシルト、ラミナ堆積は見られない。溝の幅が東壁際で広がっているが、掘り過ぎている可能性が高い。

R2-4区15号溝



R2-4区15号溝

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色粒、橙色粒少量含む均質土。粘質。締めあり
- 2 黒褐色土 ロームブロック中量斑状を含む。締めあり。

第120図 R2-4区15号溝

<R2-4区16号溝> (第121図)

位置 X=33241~33244, Y=-68081~-68085

形状 溝断面はU字状を呈し、途中から大きく開く。溝底面は土坑状に窪み凹凸がある。

規模 長さ(2.75)m・幅1.38m・深さ0.33~0.35m

長軸方位 N-58°-E

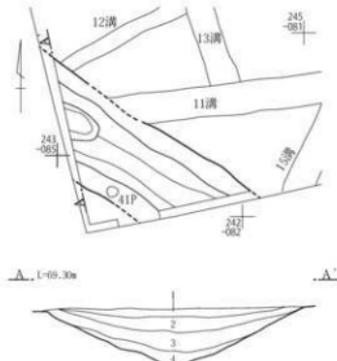
重複遺構 11・12号溝と重複する。

埋没状況 上層は白色バミスを含む暗褐色土で、以下はローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

出土遺物 なし

所見 溝底面に凹凸があり、溝の走行もサイズも用水路になる可能性が否定できない。これに続く県道東の溝は岩鼻天神遺跡R1-47-3-11号溝とするのが妥当だが、微妙に外れるようにも見える。

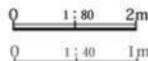
R2-4区16号溝



R2-4区16号溝

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色粒、橙色粒少量含む。固く締まっている。
- 2 黒褐色土 ローム粒、白色粒、橙色粒微量含む。均質土。締めりがやや弱い。
- 3 黒褐色土 ローム粒、橙色粒少量含む。均質土。締めりあり。
- 4 黒褐色土 ローム粒中量含む。やや粘質である。

第121図 R2-4区16号溝



c. 土坑

土坑3基が確認されている。平面形は略長方形形状を呈しているが、人為的に埋まる土坑2基には竪穴状遺構と同軸の土坑と、溝に直交する土坑がある。

<R2-4区9号土坑>(第122図)

位置 X=33248~33249, Y=-68085~-68086

形状 長方形形状を呈する。土坑底面は平坦、土坑断面は箱状を呈す。

規模 長軸(1.23)m・短軸0.63m・深さ0.74m

長軸方位 N-66°-E

重複遺構 1号竪穴状遺構を切る。

埋没状況 ローム粒子・ブロックを多量に含む暗褐色土で埋まる。人的埋土。

出土遺物 なし

所見 形態的にはイモ穴に類似しているが、最下層に有機質土の堆積が見られず、詳細は不明。同軸の遺構は確認できていないが、これに直交する13号溝があり、注意しておきたい。

<R2-4区10号土坑>(第122図)

位置 X=33250, Y=-68082~-68083

形状 略長方形形状を呈する。断面は箱状に近い。

規模 長軸(0.94)m・短軸0.40m・深さ0.66m

長軸方位 N-56°-W

重複遺構 34号柱穴に重複する。

埋没状況 比較的等質な暗褐色土で埋まる。埋まり方に人為的要素は見られない。

出土遺物 なし

所見 土坑の帰属時期は不明。同軸の遺構には16号溝がある。

<R2-4区11号土坑>(第122図)

位置 X=33252~33253, Y=-68085~-68086

形状 略長方形形状を呈する。土坑断面は皿状に近く、浅い。

規模 長軸1.30m・短軸0.62m・深さ0.19m

長軸方位 N-20°-W

重複遺構 なし

埋没状況 ロームブロックを多量に含む暗褐色土で埋まる。

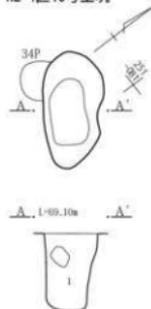
出土遺物 なし

所見 土坑の帰属時期については不明。同軸の遺構には1号竪穴状遺構がある。

R2-4区9号土坑



R2-4区10号土坑



R2-4区11号土坑



R2-4区9号土坑

1 黒褐色土。ローム粒莖状に含む。炭化物少量混入。締りあり。

R2-4区10号土坑

1 黒褐色土。ローム粒、橙色ブロック、白色粒少量含む。締りあり。

R2-4区11号土坑

1 黒褐色土。橙色ブロックφ5~8cm多量に混入する。きわめて固く締まる。白色粒、ローム粒少量含む。

0 1:40 1m

第122図 R2-4区9~11号土坑

d. 柱穴

柱穴20本が認定されている。このほか、遺構番号の付されない同サイズのものがあるが、深さ10cm前後と浅く、設定は難しい。

分布状況 柱穴の平均サイズは径30cm・深さ20cm前後だが、径60cm・深さ30～60cmを測る柱穴が6本あり、いずれも1号竪穴状遺構に重複あるいは近接位置にある。

所見 明治期初期の壬申絵図には当地が生産域(畑)であることが示されており、建物等があるとすれば集落の再編以前の建物ということになる。柱穴には大型のものがあり、建物柱穴となることを念頭に検討してみたが、調査区が狭く、建物が組める状況にはない。

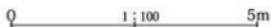
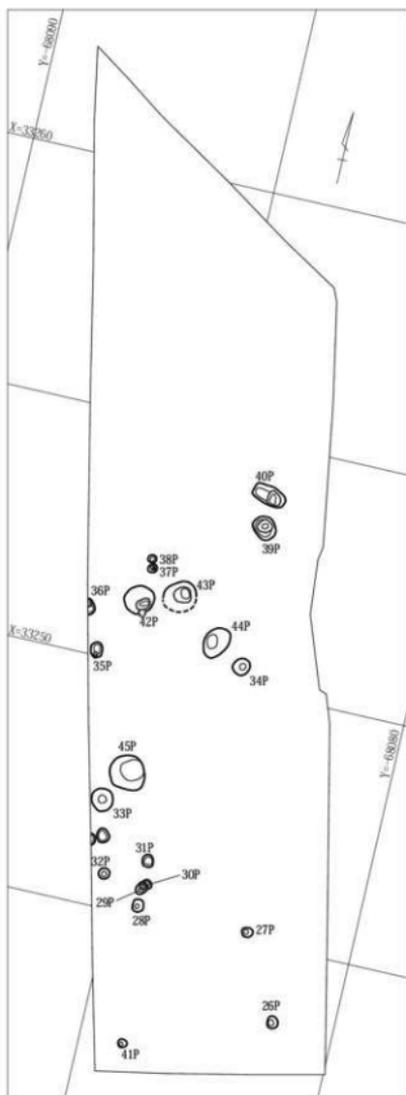
e. その他

調査区東壁際に地山が直線的に切れる部分(写真10)があり、地境となるものと思われる。地境には河床礫が直線的に並んでいるが、県道拡幅前のそれになる可能性がある。

本遺跡では上層遺構の調査終了後、旧石器調査としてその有無を確認している。対象としたのは高崎泥流層と呼ばれる堆積物であり、0.5～0.7mほど掘り下げている。当該層はAs-YP降下後堆積したものであり、その上層が調査されたことになる。石器類の出土はなく、すくなくとも縄文時代草創期包含層についてはないということが見通せた。



写真10 県道脇に直線的に並んだ石列(↓)



第123図 柱穴分布図

第8章 岩鼻天神遺跡

1. 概要

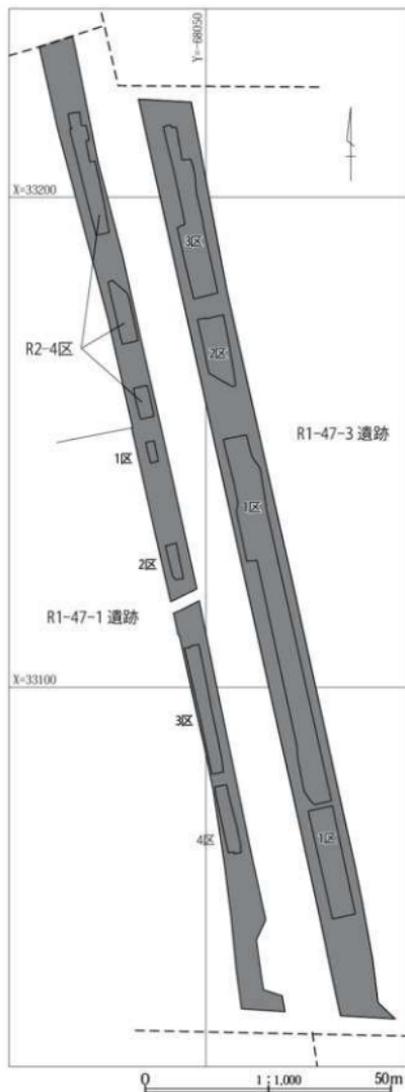
本遺跡は、令和元年度調査地点(岩鼻47-1遺跡1～4区、47-3遺跡1～3区)及び令和2年度調査地点の4区(R2、4-2～4-4区)に当たる。調査地は県道の両側にあり、調査対象地は南北190m弱である。本遺跡北には、岩鼻延養寺遺跡が県道西に、岩鼻塚合遺跡が県道東にある。

また、本遺跡南には旧岩鼻火薬製造所に続く動力用水路(烏川から取水)を挟んで、県道西側に岩鼻板上北遺跡があり、県道東側に岩鼻赤城遺跡がある。検出された遺構は竪穴建物9、竪穴状遺構1、古墳周堀7があるほか、中近世の溝、土坑、柱穴がある。

竪穴建物1棟は不明だが、古墳時代前期の竪穴が8棟を占める。前期建物の分布域は粕川よりやや離れているように見える。この前期集落は重複することはないが、周辺域にも広がることは確実である。水田可耕地が狭い分、畑作でカバーしたものと見られる。現状で、5・6世紀代の竪穴建物は確認されていないことから、4世紀代の居住域に変わり、6世紀代は墓域へ変化したものと思われる。調査区内には平安期竪穴1棟があり再び居住域となるようであるが、集落に継続性はなく、粕川左岸の集落動向とは異なるようである。

中世関連の遺構には竪穴状遺構以外、明確な遺構は確認されていないが、同軸の土坑や溝がある。確実な中世前半期遺物があるわけではないが、文献には紅花栽培の記録もあり、再開発が広域に及んだということだろう。

近世関連の遺構としては遺跡北端(令和2年度調査地点4区、令和元年度調査岩鼻47-3遺跡3区)、遺跡南端(令和元年度調査岩鼻47-1遺跡4区)が目ざされよう。県道東(岩鼻47-3遺跡3区)の11号溝は壬申絵図に示された粕川から引水した用水路の可能性があり、県道西(岩鼻47-1遺跡4区)の土坑や柱穴は壬申絵図で屋敷とされたところである。



第124図 岩鼻天神遺跡全体図

2. 古墳～平安時代

古墳時代前期の竪穴建物7棟、平安時代の竪穴建物2棟がある。集落を支えた水田適地は粕川の両岸に広がる低地部に限られただろうが、4世紀代集落は想定以上に広がるように見える。これに対して平安期の竪穴は2棟だけであり、集落は散在的となる。遺跡は集落から墓域、墓域から集落へ変遷しているが、それぞれには空白期間がある。

a. 竪穴建物

<R2-4区1号竪穴建物>(第125図、PL.37)

位置 X=33179～33182、Y=-68065～-68066

形状 略方形か

規模 長軸(1.18)m・短軸(0.75)m

面積 (1.12)m² 長軸方位 N-15°-W

重複関係 4溝に切られる。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

柱穴 確認されていない。

炉 確認されていない。

床面 ロームブロックを含む黒色土で床面を整える。

掘り方 掘り方の調査は部分的で、掘り方の傾向を記載するのは難しい。



R2-4区1号竪穴建物

- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 3 暗褐色土 ローム塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 4 黒褐色土 ローム粒を多量に含む。やや粘性がある。

第125図 R2-4区1号竪穴建物

出土状態 台付費(第240図1)が床面から浮いた状態で出土した。

所見 当地では、古墳時代前期(4世紀代)竪穴建物は浅く掘り込んだものが多い。竪穴建物は深く掘り込んでおり、そうした意味では不安だが出土遺物は台付費のみであり、これにより建物の帰属時期を決定した。

<R1-47-1遺跡1号竪穴建物>(第126図、PL.37)

位置 X=33148～33149、Y=-68060～-68061

形状 不明。竪穴建物東壁のみ確認。

規模 長軸(1.17)m・短軸(0.76)m

面積 (0.47)m² 長軸方位 N-15°-W

重複関係 なし

埋没土 焼土粒子・ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

柱穴 確認されていない。

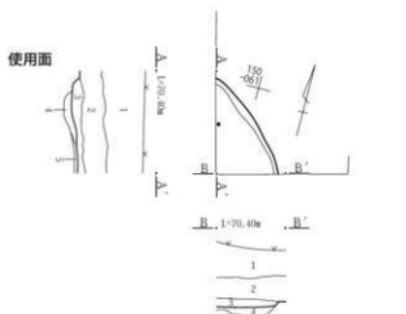
炉 確認されていない。

床面 黒色土にローム土を混ぜて貼床する。

掘り方 掘り方は部分的確認に止まるため、全体傾向は不明だが、壁際が深い傾向が指摘されるかもしれない。

出土状態 出土遺物なし

所見 掘り方のみ確認したのに止まり、床面その他の状態は明らかでない。建物の軸方向を踏まえ、古墳時代前期建物と認定した。



R1-47-1遺跡1号竪穴建物

- 1 埋土
- 2 黒褐色土 焼土粒(φ3mm)、白色軽石(φ1～3mm)を多く含む。
- 3 黒褐色土 焼土粒とR-PPの白色軽石を少し含む。
- 4 黒褐色土 焼土粒を僅かに含む。掘り方上。
- 5 褐色土 ロームをブロック状に含む。

0 1:60 2m

第126図 R1-47-1遺跡1号竪穴建物

<R1-47-1遺跡2号竪穴建物> (第127図, PL. 38)

位置 X = 33103 ~ 33108, Y = -68049 ~ -68052

形状 略方形を呈する。

規模 長軸3.90m・短軸(1.66)m

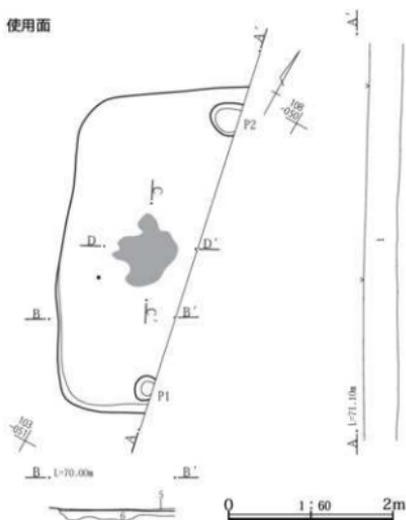
面積 (5.97)㎡ 長軸方位 N-29°-W

重複関係 13土坑、P47と重複する。

埋没土 暗褐色土(ローム粒子・白色バミスを含む)で埋まる。

柱穴 4世紀代竪穴に特徴的な竪穴コーナー対角線上の柱穴は確認できない。

使用面



R1-47-1遺跡2号竪穴建物

- 1 埋土
- 2 灰黄褐色砂質土 As-Bを多量に含む。As-Aを含む。
- 3 黒褐色砂質土 As-Bを多量に含む。
- 4 黒褐色土 白色軽石、焼土粒を多量に含む。やや砂質の上。
- 5 暗褐色土 焼土粒を多く含む。2号の覆土が一部残存していると考えられるが、削平が著しい。
- 6 にいっ黄褐色土 焼土粒、ローム粒を含む。掘方上。
- 7 暗褐色土 底部にローム粒を多く含む。
- 9 暗褐色土 ローム粒を非常に多く含む。

R1-47-1遺跡2号竪穴建物 炉

- 1 黒褐色土 焼土ブロックを非常に多く含む。灰が含まれる。炉の底部というより、より上位に使用面があったか?
- 2 にいっ黄褐色土 焼土粒、ローム粒を含む。

炉 西壁から1mほど内側に焼土範囲が広がる。枕石は出土していないが、位置的に炉の可能性が高い。

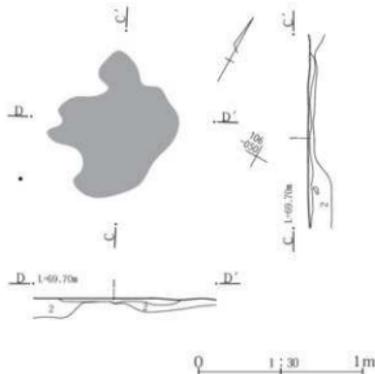
床面 ロームが混じる黒色土で貼床されていた。

掘り方 竪穴の1/3強を確認したのに止まり、掘り方の全体傾向は不明。全体的に浅く掘り下げる傾向にある。

出土状態 出土遺物なし

所見 竪穴の確認状況、軸方位、炉の在り方、掘り方の状況から、古墳時代前期に帰属するものと捉えた。

炉



第127図 R1-47-1遺跡2号竪穴建物

<R1-47-3遺跡1号竪穴建物> (第128図、PL.38)

位置 X=33084~33090, Y=-68028~-68030

形状 略方形か

規模 長軸5.51m・短軸(1.88)m

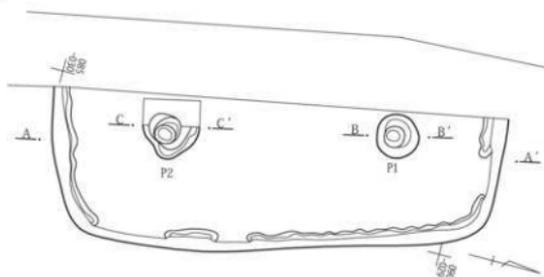
面積 7.72㎡ 長軸方位 N-15°-W

重複関係 重複なし

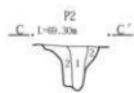
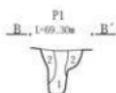
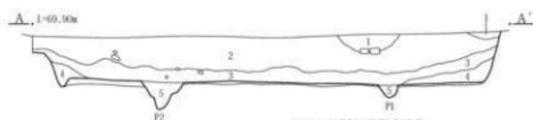
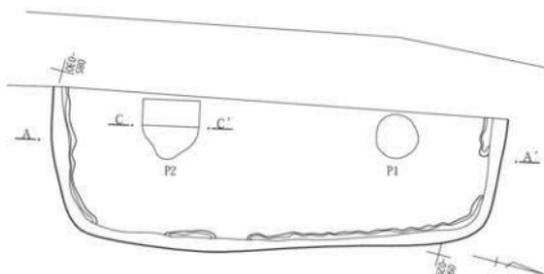
埋没土 壁際には黒色土が三角堆積するなど下層は自然堆積、上層はロームブロックが混じり人為的埋土の可能性が高い。

柱穴 柱穴2本を確認している。柱穴は竪穴のコーナー対角線上にある。

使用面



掘り方



炉 確認されていない。

床面 硬化面が明瞭で、床面は良好な状態にある。壁周溝が廻る。

掘り方 全体的に浅く掘り下げているが、北壁側を掘り下げる傾向がある。

出土状態 台付甕(第240図1)が出土したのみである。

所見 竪穴建物は盛土で厚く覆われ、西側柱穴より西が確認されただけで、炉や貯蔵穴は確認されていない。柱穴から出土したS字甕が唯一の遺物で、これにより建物の構築時期と考えた。

R1-47-3遺跡1号竪穴建物

- 1 擾乱土 客土の混在
- 2 黒色土 褐色土粒僅含。褐色粒僅含。白色軽石少含。写溝埋没土。
- 3 暗褐色土 黄褐色粒僅含。褐色土少含。
- 4 暗褐色土 黄褐色粒少含。壁の崩れ。
- 5 褐色土 黄褐色粒多含。褐色土少含。

R1-47-3遺跡1号竪穴建物P1・P2

- 1 暗褐色土 黄褐色粒僅含。(柱の取跡)
- 2 暗褐色土 褐色粘質土ブロック少含。

第128図 R1-47-3遺跡1号竪穴建物

<R1-47-3遺跡3号竪穴建物> (第130図)

位置 X=33080~33082, Y=-68025~68028

形状 略方形か

規模 長軸(2.43)m・短軸(2.09)m

面積 4.46㎡ 長軸方位 N-21°-W

重複関係 古墳周堀(3号溝)に切られる。

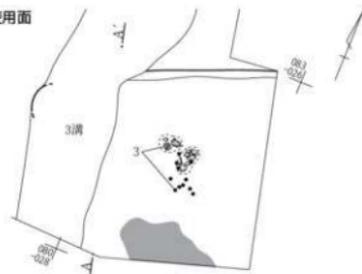
埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

柱穴 床面下の調査で柱穴1を確認した。

炉 P1に近接して焼土範囲が見られた。

床面 ロームが混じる黒色土で貼床されていた。

使用面



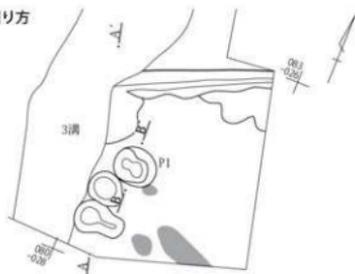
0 1:60 2m

掘り方 竪穴の1/4弱の確認に止まり、古墳周堀にも切られ、掘り方の詳細は不明。現状で、竪穴中央付近を高く掘り残し、周辺を掘り窪めるタイプと思われる。

出土状態 建物中央非金から出土した台付甕(第240図3・4)は床直、その他3点は覆土中の出土である。

所見 調査区境の壁面は外反気味で、竪穴建物のそれではない。古墳周堀外縁に微妙な変換点があり、また、掘り方は柱穴1の外側が窪む傾向があり、これを竪穴建物の北西側コーナーと考えた。竪穴建物の所属時期は4世紀代か。

掘り方



R1-47-3遺跡3号竪穴建物

- 1 暗褐色土 黄褐色粒僅含。橙色土少含。やや粘性。
- 2 暗褐色土 黄褐色粒少含。橙色土少含。
- 3 褐色土 黄褐色粒多含。橙色土少含。
- 4 暗褐色土 橙色土少含。粘性土粒少含。

R1-47-3遺跡3号竪穴建物柱穴

- 1 黒褐色土 黄褐色粒僅含。(柱の直跡)
- 2 暗褐色土 黄褐色粒少含。

第130図 R1-47-3遺跡3号竪穴建物

<R1-47-3遺跡4号竪穴建物> (第131図, PL.39)

位置 X=33110~33113, Y=-68033~68035

形状 略長方形か

規模 長軸3.73m・短軸(0.97)m

面積 (2.59)㎡ 長軸方位 N-15°-W

重複関係 4号溝・古墳周堀(5号溝)を切る。

埋没土 埋没初期は暗褐色土が流入、これを黒褐色土が覆う。

柱穴 確認されていない。

カマド 調査区西でカマド焚口のみ確認した。カマド焚口の幅は40cm弱、河床礫を縦位に用い、袖石とする。カマド燃焼部は長軸50cm前後。

床面 古墳周堀の調査中確認されたため、竪穴建物の

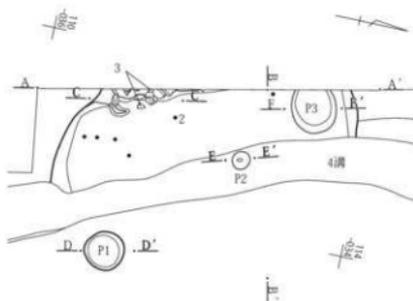
貼床等は不明である。古墳周堀から外れた床面は確認が容易であり、著しく硬化していた。周堀に重複する部分はローム土で貼床されていたが、ほどなくして床面が沈んだように思われる。

掘り方 全体的に浅く掘り窪めた程度で、特に特定場所を掘り下げるなどした傾向は指摘できない。

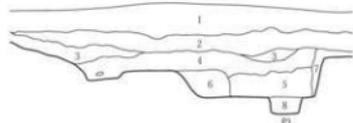
出土状態 羽釜や甕類(第241図3)はカマド覆土と床直の土器片が接合したものであり、カマド構築材として埋め込まれたものが。

所見 周堀の調査中に確認されたものであり、周堀が建物床面より深く、建物サイズは不明。竪穴の所属時期は平安後期10世紀代。

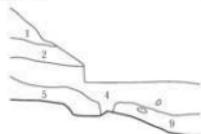
使用面



A, l=70.30m

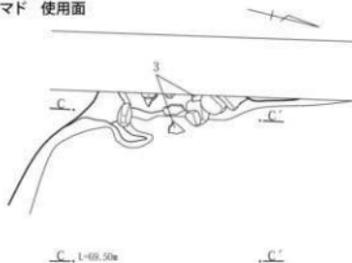


B, l=70.30m



0 1:60 2m

カマド 使用面

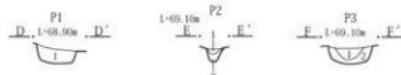
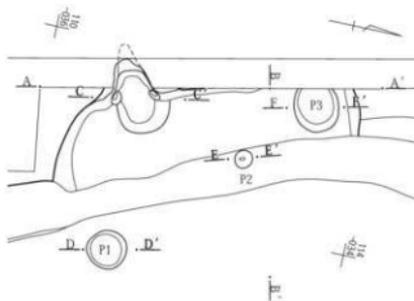


C, l=68.50m



0 1:30 1m

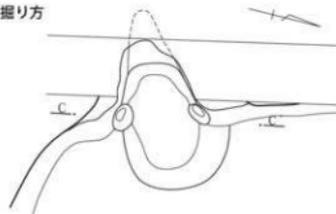
掘り方



R1-47-3遺跡4号竪穴建物

- 1 黒色土 橙色土粒僅含。褐色粒僅含。軽石僅含。
- 2 黒褐色土 橙色土粒僅含。褐色粒僅含。
- 3 暗褐色土 黄褐色粒僅含。橙色土少含。
- 4 暗褐色土 黄褐色粒少含。橙色土少含。
- 5 褐色土 橙色土多含。
- 6 褐色土 橙色土少含。
- 7 褐色土 橙色土少含。壁の崩れ。
- 8 褐色土 橙色土少含。
- 9 褐色土 橙色土僅含。(掘方埋没)

掘り方



R1-47-3遺跡4号竪穴建物カマド

- 1 灰白色粘土 橙色土僅含。
- 2 暗褐色土 焼土含。橙色土少含。
- 3 褐色土 焼土粒多含。下面是固く締まっている。
- 4 暗褐色土 橙色土僅含。焼土細粒僅含。

第131図 R1-47-3遺跡4号竪穴建物

<R1-47-3遺跡6号竪穴建物> (第133図, PL. 39)

位置 X=33170~33172, Y=-68048~-68050

形状 略方形か

規模 長軸(1.73)m・短軸2.50m

面積 3.73㎡ 長軸方位 N-7°-W

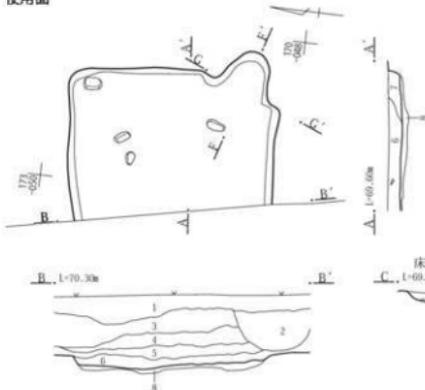
重複関係 5号土坑に切られる。

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。自然堆積。

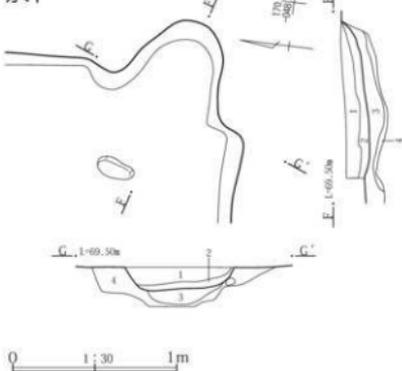
柱穴 確認されていない。

カマド 南東コーナー付近にある。焚口の残存状況は悪く、袖も不明瞭。焚口の幅は40~50cm程度。燃焼部は東

使用面



カマド



壁ライン上にあり、壁面は赤化している。使用面に残る灰層はわずかばかりが見られるだけで痕跡程度。

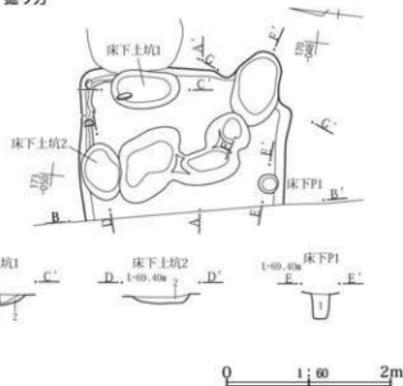
床面 ロームが混じる黒色土で貼床されていた。

掘り方 全体的に浅く掘り込む程度だが、床下土坑2基が認定されている。カマド対角線上を深く掘り下げる点も特徴的である。

出土状態 番号付き取上げ遺物はない。覆土中の土器片類もなく、土器から時期判定は難しい。

所見 カマドが隅カマドになることを踏まえれば、10世紀代の竪穴建物と考えるのが妥当であろう。

掘り方



R1-47-3遺跡6号竪穴建物

- 1 客土
- 2 掘乱土
- 3 掘乱土 砂礫少含。
- 4 黒色土 褐色土粒僅含。褐色粒僅含。白色軽石少含。
- 5 暗褐色土 黄褐色粒少含。褐色土少含。(埋没土)
- 6 暗褐色土 黄褐色粒少含。褐色土少含。やや砂質。(埋没土)
- 7 暗褐色土 黄褐色粒少含。褐色土少含。壁の崩れ。(埋没土)
- 8 褐色土 黄褐色粒多含。褐色土少含。(掘り方埋没土)

R1-47-3遺跡6号竪穴建物床下土坑

- 1 黒褐色土 褐色土粒少含。粘質土僅含。
- 2 褐色土 黄褐色粒多含。褐色土少含。

R1-47-3区6号竪穴建物カマド

- 1 灰白色粘土 褐色土僅含。(カマドの天井・構築材)
- 2 暗褐色土 焼土少含。褐色土少含。
- 3 褐色土 焼土粒多含。下面は固く締まっている。
- 4 暗褐色土 褐色土僅含。焼土細粒僅含。

第133図 R1-47-3遺跡6号竪穴建物

<R1-47-3遺跡7号竪穴建物> (第134図)

位置 X=33166~33171, Y=-68044~-68047

形状 略方形か

規模 長軸5.50m・短軸(2.21)m

面積 6.79㎡ 長軸方位 N-26°-W

重複関係 12号溝に切られる。

埋没土 ロームブロックを多量に含む暗褐色土で人為的

に埋まる。

柱穴 竪穴建物の北東側柱穴1本が確認されている。

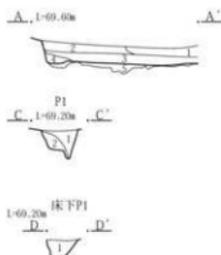
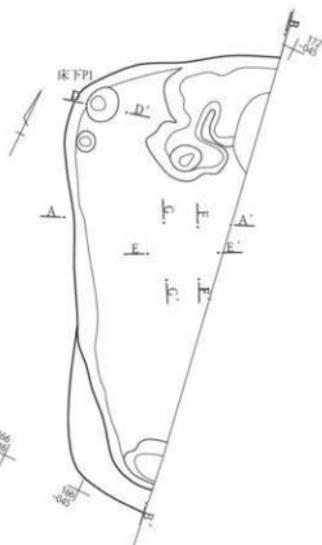
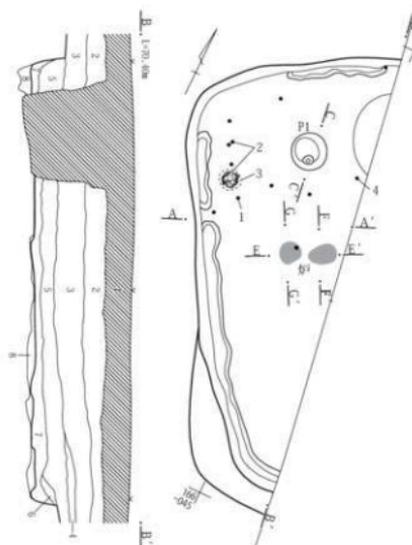
柱穴は径48cm・深さ37cmほどで、やや浅く感じる。

炉 西壁側柱穴間にある。焼土範囲2ヶ所があり、いずれも径40cm弱で、小規模な炉になる。炉が同時に機能したのか、時間差があるのか不明である。

床面 現状を見る限り、炉付近の床面は固く締まって

使用面

掘り方



- R1-47-3遺跡7号竪穴建物
- 1 客土 撥乱層(上・砂利・土の山層)
 - 2 灰褐色土 As-A段上。暗褐色土粒僅含。
 - 3 黒褐色土 黄褐色土粒少含。褐色土少含。
 - 4 暗褐色土 黄褐色土粒少含。褐色土少含。やや砂質。(埋没土)
 - 5 黒褐色土 褐色土少含。(埋没土)
 - 6 黒褐色土 褐色土僅含。(埋没土)
 - 7 暗褐色土 黄褐色土粒多含。褐色土少含。(掘り方埋没土)
- R1-47-3遺跡7号竪穴建物P1
- 1 黒褐色土 ローム土粒多含。
 - 2 褐色土 ロームブロック多含。
- R1-47-3遺跡7号竪穴建物床下P1
- 1 黒褐色土 褐色土粒僅含。

0 1:60 2m

第134図 R1-47-3遺跡7号竪穴建物1

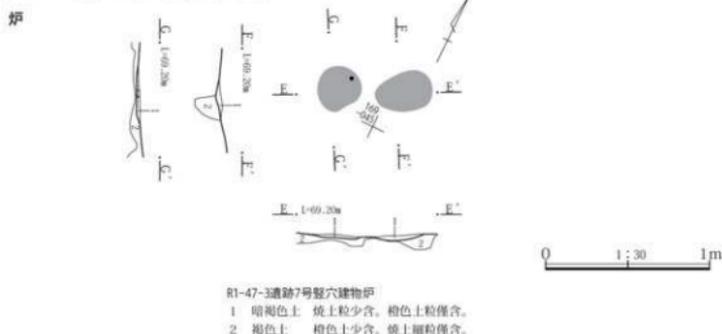
いるように見える。北西側コーナー部を除いて幅10～20cmを測る浅い周溝が廻る。

掘り方 部分的で断定はできないだろうが、南北の壁際深く掘り窪めているように見える。

出土状態 台付甕、小型甕が出土している。壁際に出土した台付甕(第241図3)は床面から6cmほど浮いた状態で出土しているが、20cmほど浮いたものもあり、おそら

く廃棄状態で出土したものと思われる。

所見 竪穴建物の1/8程度が確認されただけであるが、竪穴建物の軸方位や掘り方は周辺建物と同様である。壁際の掘り方が溝状にならないのは、⁴の位置が影響しているようである。竪穴建物は4世紀代に帰属。



第135図 R1-47-3遺跡7号竪穴建物2

b. 竪穴状遺構

竪穴状遺構は1棟が確認されているだけである。古墳周堀と見られる2・5号溝に挟まれるように確認されている。現場では遺構サイズや隅丸方形状を呈する掘り上がりから、竪穴状遺構と捉えたものであるが、古墳周堀の可能性も否定できない。

<R1-47-3遺跡1号竪穴状遺構>

位置 X=33102～33107、Y=-68030～-68031

形状 略隅丸方形状か。

規模 長軸5.31m・短軸(1.17)m・深さ1.03m

長軸方位 不明

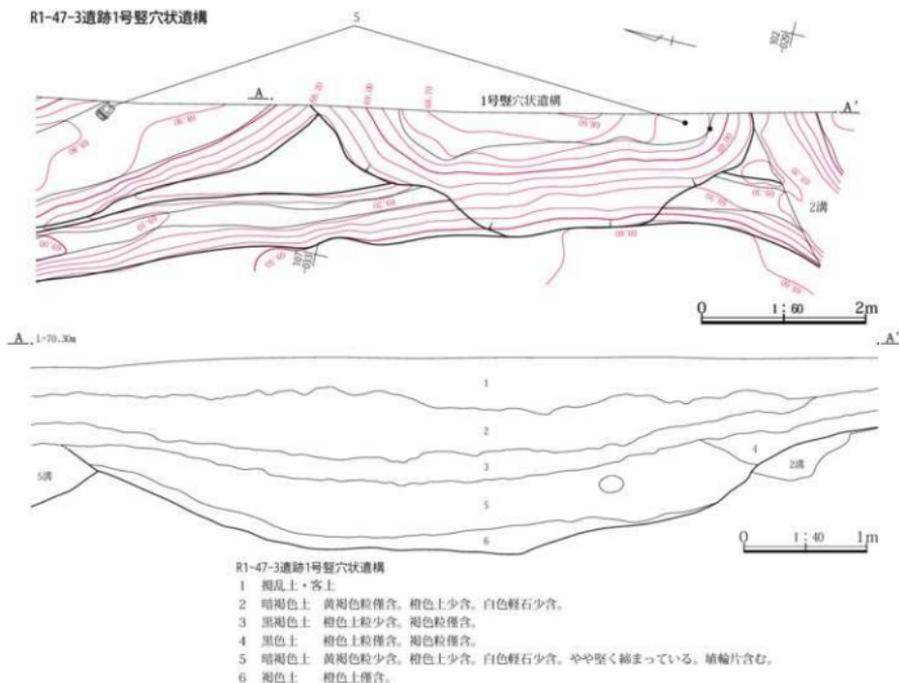
重複遺構 2・4号溝と切り合う。

埋没状況 遺構底面より30～50cm浮いた状態で埴輪片が少量出土しているが、これを覆い黒色土がレンズ状に堆積する。黒色土中にはAs-Bが堆積する可能性が否定できないが、現場の土層注には軽石類の記載はない。

出土遺物 形象埴輪や円筒埴輪の破片(第242～244図3～21)が覆土中から出土している。形象埴輪には人物・馬形埴輪等がある。このほか、台付甕(4世紀代)が出土した。

所見 土層図は南北6.30mが作図されているが、黒色土の堆積状態や掘り残された地山の状況から、南北方向に1.3～1.5mほど広がる可能性が高い。遺構名称は竪穴状遺構とされているが、床面は確認されておらず、掘り方や出土遺物の主体が埴輪片であることを踏まえれば、古墳周堀の可能性も考えておく必要があるだろう。

R1-47-3遺跡1号竪穴状遺構



第136図 R1-47-3遺跡1号竪穴状遺構

c. 古墳周堀

県道前橋長瀬線を挟んで、古墳周堀が確認されている。県道西が岩鼻47-1遺跡、県道東が岩鼻47-3遺跡に当たり、令和元年度調査の47-1遺跡1～4区で古墳周堀2、47-3遺跡1～3区で古墳周堀4が確認されたほか、令和2年度調査(R2岩鼻47-1遺跡4区)でも古墳周堀2が確認されている。遺跡は広域に及び古墳敷基が周知の遺跡として含まれている。岩鼻47-3遺跡にも周知の遺跡として岩鼻村4号墳(47A03遺跡)があり、これが今回街路整備に当たり調査に取り込まれたのである。調査地が狭小で、古墳周堀が部分的に確認されただけであったが、弧状を呈す溝や埴輪片が相当量出土することから、古墳周堀と判断した次第である。発掘調査では岩鼻村4号墳は岩鼻47A03遺跡として県道東が指定されていたが、高崎市道

跡分布地図では県道西の地点が指定されており、多少の混乱があるかもしれない。

岩鼻天神道跡は南北190m強があり、幅は5～10mと狭く、トレンチ的な色彩が濃い。10m規模の古墳なら、石室調査の期待も抱かせるだろうが、交通量の多い場所でもあり、厚く盛土されるなど、調査は想定以上に制約されたものとなった。古墳周堀は調査区内に収まるものもあれば、そうでないものもあるというのが現状であり、石室等は確認されていない。なお、遺構表記については例えば1号墳周堀と表記することも考えたが、混乱を避けるため、本文中では現場の遺構名称を並記して、報告することとした。なお、県道東47-3遺跡南端の「落ち込み」については完掘できておらず断言できないが、溝の形状から古墳周堀の可能性も否定できないように思う。

古墳周堀1<R2-4区9号溝> (第137図)

位置 X = 33207 ~ 33220, Y = -68072 ~ -68077

形状 周堀の西側部分。周堀は直線的で、古墳主軸はわずかに西に傾く。断面はU字状を呈し、溝底面は土坑状に窪む。

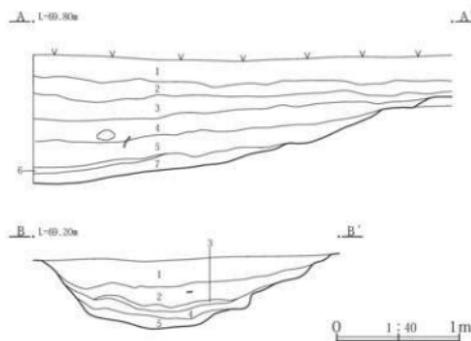
規模 幅(1.68~2.26)m・深さ0.38~0.54m

重複遺構 7・8・10号溝を切る。

埋没状況 溝下層に赤褐色土?の薄層、これより上位に埴輪片が出土する。溝上層にはAs-Bを含む黒色土が堆積する。

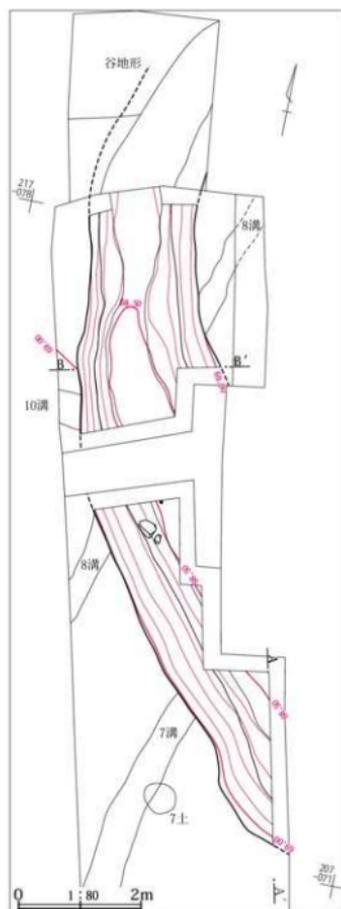
出土遺物 円筒埴輪片(第246図)6点が出土。

所見 電柱や埋設物があり、溝の構造が明らかしたのは埋設物から北側に限られる。周堀の最大幅はセクション図作成付近(2.80m程度を想定)にあり、周堀内側プランは直線的になる傾向が指摘されよう。墳丘に関する情報は得られていないが、墳丘は直径15m程度になるものと思われる。溝覆土中のIII-FAは確認されていない。



古墳周堀1(R2-4区9号溝)A-A'

- 1 表土
- 2 黒褐色土 ローム粒、赤褐色粒、白色粒を含む。締まりが強い。
- 3 暗褐色土 ローム粒、赤褐色粒、白色粒を含む。As-Bを少量含む。強く締まる。均質上である。
- 4 黒褐色土 ローム粒、白色粒、赤褐色粒を含む。As-Bを含む層である。均質上。締まりがある。
- 5 黒褐色土 ローム粒、赤褐色粒、白色粒を含む均質上。きめが細かく締まりがある。
- 6 黒褐色土 赤褐色粒を帯状に含む均質上。きめが細かく締まりがある。
- 7 黒褐色土 ローム粒、赤褐色粒、白色粒を含む。きめ細かく締まりがある。やや粘質。



古墳周堀1(R2-4区9号溝)B-B'

- 1 黒褐色土 ローム粒、赤褐色粒、白色粒を含む。As-Bを含む層で強く締まっている。
- 2 黒褐色土 ローム粒、赤褐色粒、白色粒を含む。均質上。締まりがある。
- 3 黒褐色土 赤褐色粒を帯状に含む。きめが細かくやや粘質である。
- 4 黒褐色土 ローム粒、赤褐色土、白色粒少量含む。きめが細かくやや粘質である。
- 5 黒褐色土 ローム粒が混入する。やや粘質である。

古墳周堀2<R2-4区5・6号溝>(第138図)

位置 X=33184~33186, Y=-68068~-68069(5号溝)

X=33108~33203, Y=-68070~-68073(6号溝)

形状 5号溝が古墳南側周堀に、6号溝が北側周堀に当たる。5・6号溝は溝幅も近く、溝の底面が比較的平坦で、開き気味に立ち上がる点も同様である。

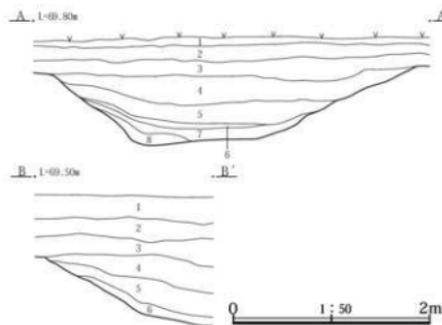
規模 幅(1.32)m、深さ0.64m(5号溝)

幅2.52m・深さ0.58~0.74m(6号溝)

埋没状況 上層にAs-Bを含む黒色土が堆積し、その下層にローム粒子を含む黒褐色土が堆積する点は、他の古墳周堀と同様である。

出土遺物 5号溝から円筒埴輪1点が、6号溝から円筒埴輪13点、形象埴輪5点が覆土中から出土した(第246・247図)。

所見 墳丘の主体部は県道西にあり、直径16m前後の墳丘を想定している。5号溝は周堀の北東側、46号溝は周堀の南東側に当たる。

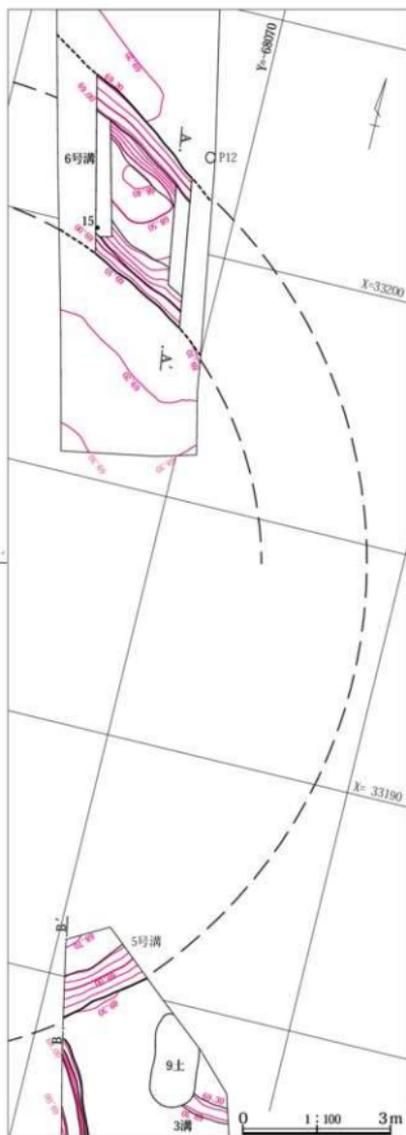


古墳周堀2<R2-4区5-6号溝>A-A'

- 1 表土
- 2 黒褐色土 ローム粒、赤褐色粒、白色粒を含む。締まりが強い。
- 3 暗褐色土 ローム粒、赤褐色粒、白色粒を含む。As-Bを少量含む。堅く締まる。均質上である。
- 4 黒褐色土 ローム粒、赤褐色粒、白色粒、As-Bを含む層である。均質上。かたく締まる。
- 5 黒褐色土 ローム粒、赤褐色粒、白色粒を含む。均質上。きめ細かく締まりがある。
- 6 黒褐色土 赤褐色粒を帯状に含む。均質上。きめ細かく締まりがある。
- 7 黒褐色土 ローム粒、赤褐色土、白色粒少量含む。きめが細かくやや粘質である。
- 8 黒褐色土 ローム粒が混入する。やや粘質である。

古墳周堀2<R2-4区5-6号溝>B-B'

- 1 表土
- 2 暗褐色土 赤褐色粒、白色粒を少量含む。締まりあり。
- 3 黒褐色土 As-Bを含む。締まりなし。
- 4 黒褐色土 赤褐色粒、白色粒を少量含む。締まり強い。粘質上。
- 5 黒褐色土 赤褐色粒、ローム粒を少量含む。均質上。
- 6 黒褐色土 赤褐色粒、ローム粒を多量含む。均質上。



第138図 R2-4区5・6号溝(古墳周堀2)

古墳周堀3<R2-4区1・4号溝>(第139図)

位置 X=33159～33161, Y=-68061～-68063(1溝)

X=33175～33180, Y=-68064～-68068(4溝)

形状 1号溝が南側周堀に、4号溝が北側周堀に相当するものと見られる。4号溝の底面は平坦で鍋底状を呈す。周堀の墳丘側立ち上がりは緩く開き気味で、外縁の立ち上がりは急。1号溝は完掘できておらず溝幅は不明。

規模 幅(2.75)m、深さ0.73m(1号溝)

幅3.50～3.70m・深さ0.55～0.69m(4号溝)

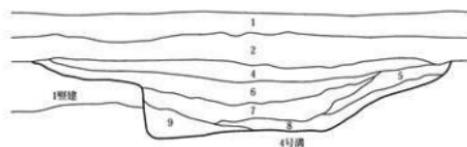
重複遺構 1号竪穴建物を切り、2号溝に切られる。

埋没状況 溝の上層にAs-Bを含む黒色土が堆積、その下層が埴輪片の出土するロームの混じる黒褐色土である点は、他の古墳周堀と同様である。

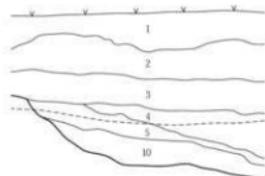
出土遺物 1号溝から円筒埴輪片3点(第247図)が、4号溝から円筒埴輪18点、形象埴輪3点(第248図)が出土している。

所見 溝の概形に合わせ墳丘を想定したところ、直径15m前後の墳丘が想定されたものである。

A. 1:70.00m



B. 1:70.00m



0 1:50 2m

古墳周堀3<R2-4区1・4号溝>

1 表土

2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。2～10cm径の礫が少量混入する。堆積は緻密である。

3 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。

4 黒褐色土 ローム粒・塊をごく少量含む。As-Bが多量に混入する。堆積はやや緩い。

5 暗褐色土 ローム粒をごく少量含む。堆積は緻密である。

6 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。

7 暗褐色土 ローム粒をごく少量含む。堆積が混入する。堆積は緻密である。

8 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。堆積は緻密である。

9 暗褐色土 ローム塊を少量含む。堆積は緻密である。

10 暗褐色土 ローム上層のローム土が多量に混入する。堆積は緻密である。

第139図 R2-4区1・4号溝(古墳周堀3)



0 1:100 3m

古墳周堀4<R1-47-1遺跡5号溝>(第140図)

位置 X=33096~33103, Y=-68050~-68052

形状 周堀東側の外縁のみが確認されている。墳丘側内縁は確認できていないが、壁際には弱く立ち上げる様子が見て取れる。周堀底面は比較的平坦だが、南東側が10cmほど窪んでいた。

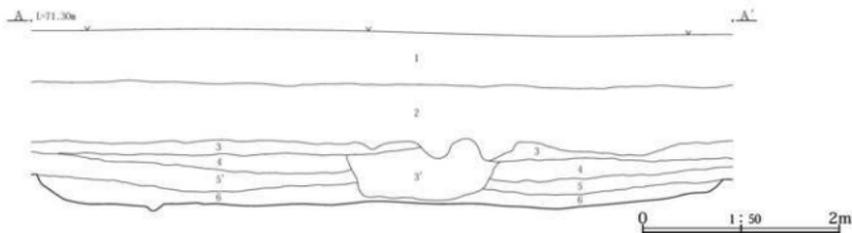
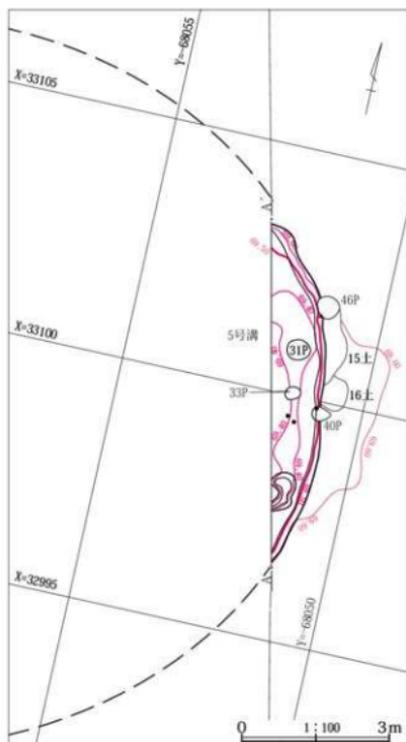
規模 幅(1.00~1.20)m・深さ0.17~0.24m

重複遺構 15・16号土坑、P31・33と切り合う。

埋没状況 周堀上層をAs-B混土が埋める点はこの周堀と同様である。

出土遺物 台付甕(第246図2)は柱穴(P40)覆土から出土したもので、明らかな混入遺物。土層注には覆土中から埴輪片が多量に出土したとあるが、未掲載遺物を含め再確認したところ、刷毛目は不明瞭だが、埴輪類に特徴的な赤褐色鉱物が入る小片数点を確認めた。

所見 出土遺物は台付甕が目立ち、明らかに混入遺物である。埴輪類は小片が数点のみ出土しただけであるが、弧状を呈する形態的特徴を踏まえ古墳周堀と判断した。墳丘サイズは直径10m程度になるものと思われる。



古墳周堀4(R1-47-1遺跡5号溝)

- 1 埋土
- 2 灰黄褐色土 砂質土。As-Bを多量に含む。As-Aを含む。
- 3 黒褐色土 砂質土。As-Bを多量に含む。
- 3' 黒褐色~暗褐色土 埴輪片、土器片を多く含む。土坑状の立ち上がり認められる。
- 4 暗褐色土 As-Bを少し含む。焼土粒を少し含む。
- 5 黒褐色土 As-Bを少し含む。焼土粒を少し含む。
- 5' 黒褐色土 As-Bを少し含む。焼土粒を多く含む。
- 6 暗褐色土 As-Bを僅かに含む。ローム粒を少し含む。

第140図 R1-47-1遺跡5号溝(古墳周堀4)

古墳周堀5<R1-47-1遺跡4・6号溝>(第141図)

位置 X=33074~33077, Y=-68043~-68047(4溝)

X=33086~33087, Y=-68046~-68048(6溝)

形状 4号溝が古墳の南西側周堀に、6号溝が古墳の北側周堀に当たる。周堀中央付近に高まりがあり、両端が土坑状に窪む。

規模 幅1.60m・深さ0.53~0.60m(4号溝)

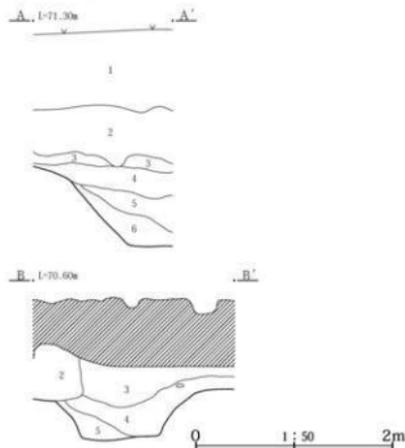
幅(1.02m)・深さ0.45~0.72m(6号溝)

重複遺構 なし

埋没状況 溝の上層にAs-Bを含む黒色土が堆積、その下層が黒褐色土、最下層がロームブロックを含む黒褐色土である点は、他の古墳周堀と同様である。

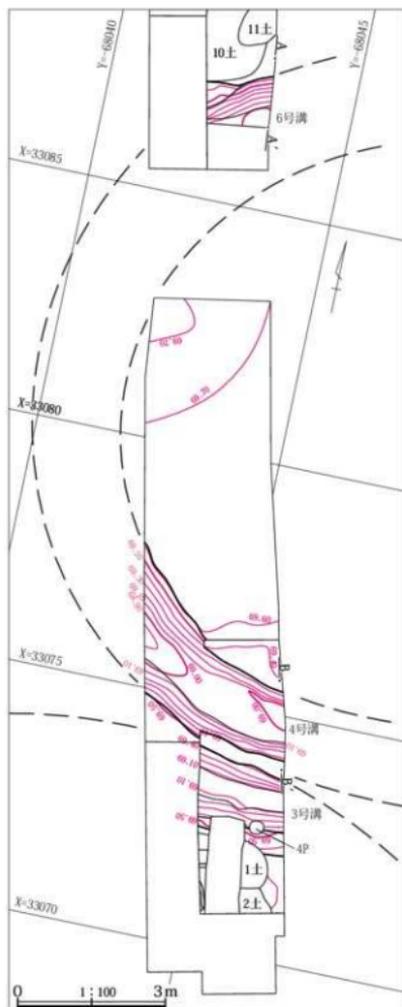
出土遺物 4号溝覆土中から円筒埴輪数点(第249図)が出土したのみである。

所見 6号溝は北側半分が確認されたのみで、溝幅は不明。残存状況から判断して、墳丘径は12m前後になるものと思われる。4号溝に接して3号溝があり、埴輪片(第255図)が出土している。古墳周堀になる可能性も否定できない。



古墳周堀5<R1-47-1遺跡4・6号溝>A-A'

- 1 埋土
- 2 灰黄褐色土 砂質土。As-Bを多量に含む。As-Aを含む。
- 3 黒褐色土 砂質土。As-Bを多量に含む。
- 4 黒褐色土 白色軽石、焼土粒を多量に含む。やや砂質の上。
- 5 黒褐色土 焼土粒を少し含む。径5cmの円礫を含む。やや砂質の上。
- 6 黒褐色土 ローム粒を多量に含む。やや砂質の上。



古墳周堀5<R1-47-1遺跡4・6号溝>B-B'

- 1 掘乱
- 2 黒褐色土 As-B混土。黄褐色粒少含。橙色土少含。
- 3 黒褐色土 橙色土少含。粘性強い。
- 4 褐色土 橙色土少含。やや粘性。締まっている。
- 5 灰白色粘土 橙色土少含。埴の崩れ。
- 6 暗褐色土 小石・粘土混じり。鉄分付着。堅く締まっている。

第141図 R1-47-1遺跡4・6号溝(古墳周堀5)

古墳周堀6<R1-47-3遺跡1・3号溝>(第142図)

位置 X=33071~33073, Y=-68024~-68026(1溝)

X=33080~33086, Y=-68027~-68028(3溝)

形状 1号溝が南西側周堀に、3号溝が古墳西側周堀に相当するものと見られる。1号溝の底面は平坦で鍋底状を呈す。3号溝の底面は若干凹凸がある程度で、途中から外反気味に立ち上がる。

規模 幅1.30m・深さ0.20m(1溝)

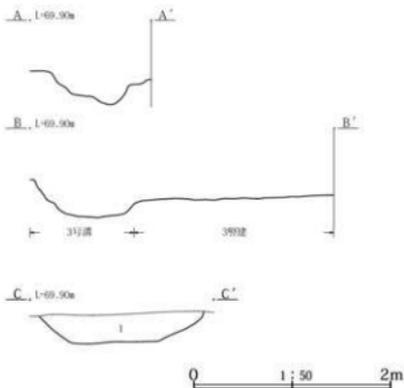
幅1.02~1.36m・深さ0.30~0.46m(3溝)

重複遺構 3号竪穴建物を切る。

埋没状況 ローム粒子やロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。3号溝には墳丘側から埋没する状況が見える。

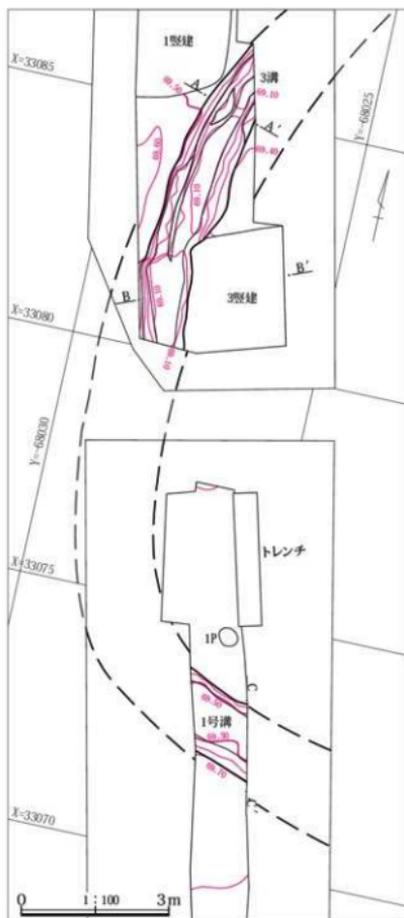
出土遺物 なし

所見 埴輪片など遺物が確認されていないが、弧状を呈す溝の形態的な特徴や位置関係から古墳周堀と見た。周堀は3号溝に比べ1号溝が直線的で、古墳前庭部に接続するものと見られる。墳丘は17m前後が想定されよう。



古墳周堀6<R1-47-3遺跡1・3号溝>8-8'

1 黒褐色土 橙色土僅含。



第142図 R1-47-3遺跡1・3号溝(古墳周堀6)

古墳周堀7<R1-47-3遺跡2号溝> (第143図)

位置 X=33093~33102, Y=-68028~-68032

形状 古墳周堀の西側が確認されている。周堀は断面U字状を呈しているが、土坑状に窪んだ部分がある。

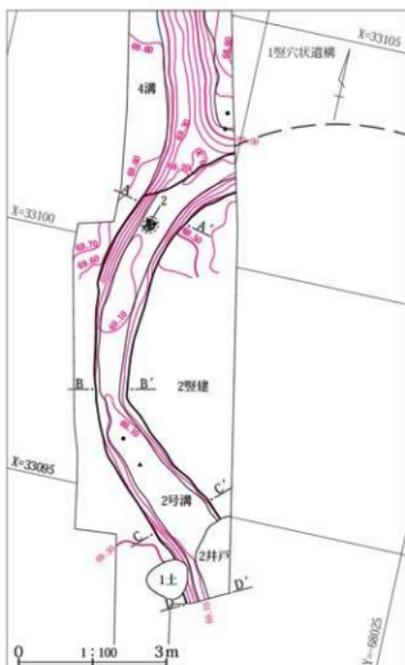
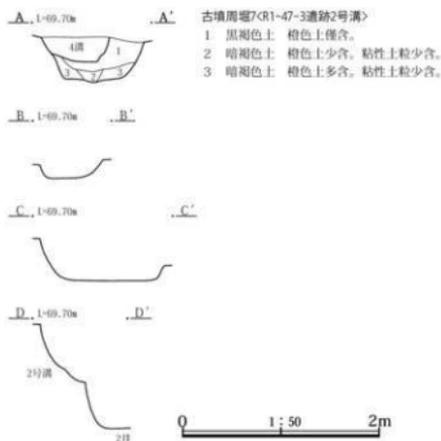
規模 幅0.77~1.21m・深さ0.38~0.46m

重複遺構 2号竪穴建物および4号溝が重複する。

埋没状況 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

出土遺物 覆土中から出土したとされる埴輪2点(第248図)がある。

所見 古墳周堀は4号溝に切られるとあり、これが正しければ埴輪(第249図2)の最終的な出土位置は4号溝になる。ただ、4号溝の出土遺物がなく時期不明だが、極端に新しくならないように思う。墳丘規模は他の古墳周堀よりやや小型で8m規模になるものと見られる。



第143図 R1-47-3遺跡2号溝(古墳周堀7)

古墳周堀8<R1-47-3遺跡5号溝>(第144図)

位置 X=33107~33118, Y=-68031~68034

形状 古墳周堀の西側が確認されている。周堀の断面形状はU字状で、部分的に土坑状に窪んでいる。周堀は開き気味に立ち上がる。

規模 幅(1.61~2.02)m・深さ0.51~0.79m

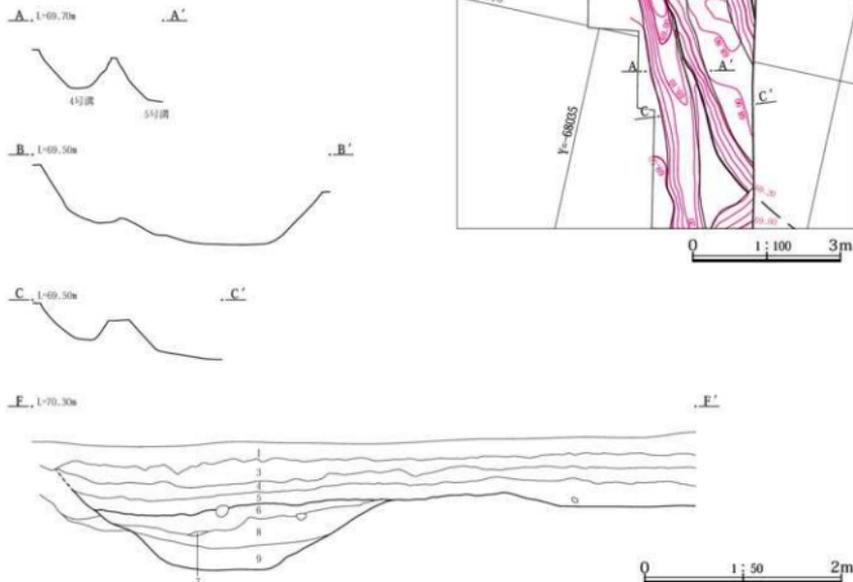
重複遺構 4号溝に重複する。

埋没状況 掘乱が深く及んで、As-B混じり黒色土が墳丘や周堀の上層を覆う状況は確認できない。

出土遺物 埴輪片の出土量が多く、34点(第249~251図)を図化した。大形の埴輪片(第249図2・21)が覆土上層から出土している。

所見 墳丘規模は直径14m前後が想定されよう。

周堀内縁は若干直線的である。



古墳周堀8(R1-47-3遺跡5号溝)

- 1 黒褐色土 橙色土僅含。
- 2 暗褐色土 橙色土少含。
- 3 暗褐色土 橙色土少含。やや粘性。
- 4 明褐色土 橙色土少含。粘性。やや締まっている。
- 5 明褐色土 橙色土少含。橙色土多含。壁の崩れ。

- 6 灰褐色土 As-A混上。暗褐色土粒僅含。
- 7 暗褐色土 橙色土少含。
- 8 黒褐色土 As-B混上。黄褐色粒少含。橙色土少含。
- 9 褐色土 橙色土少含。やや粘性。やや締まっている。

第144図 R1-47-3遺跡5号溝(古墳周堀8)

古墳周堀9<R1-47-3遺跡14号溝>(第145図)

位置 X=33142~33154, Y=-68040~68045

形状 確認されたのは古墳周堀の南東側で、墳丘中心部は県道中央付近と見られる。周堀の底面は±10cm程度の凹凸が見られるほかはほぼ平坦で、開き気味に立ち上がる。

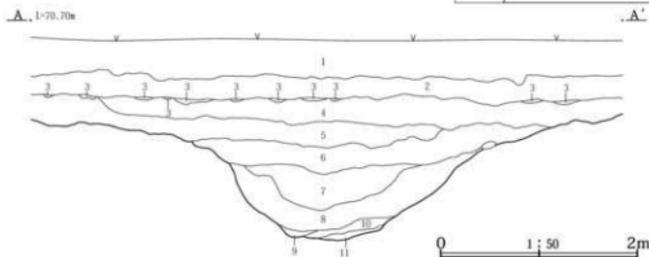
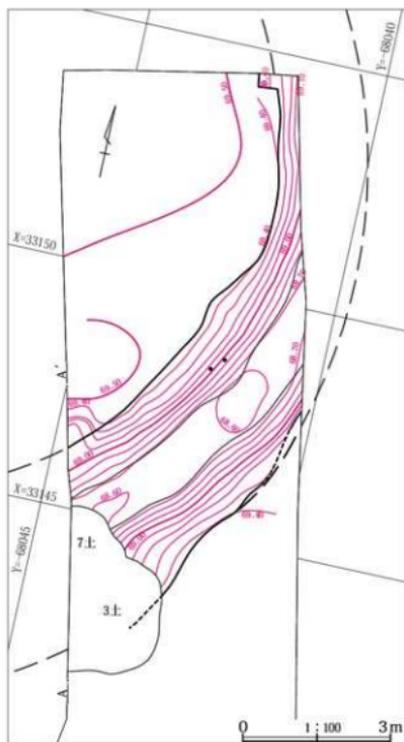
規模 幅3.07m・深さ0.78~0.99m

重複遺構 7号土坑に重複する。

埋没状況 溝の覆土上層をAs-B混じり黒色土が覆い、下層にローム混じり暗褐色土が堆積する

出土遺物 埴輪片の出土量が多く、47点(第251~254図)を図化した。大形の埴輪片が墳丘から流れ込んだ状態で出土した。

所見 墳丘は直径16m程度と見られる。墳丘主体部は県道中央付近にあり、周堀は県道西まで広がるだろうが、調査区が狭く確認できていない。



古墳周堀9<R1-47-3遺跡14号溝>

- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1 客土 | 6 黒褐色土 橙色土僅含。 |
| 2 灰褐色土 As-A混上。暗褐色土粒僅含。 | 7 褐色土 橙色土多含。 |
| 3 灰白色土 As-A純層。卵の隙間の堆積か。 | 8 暗褐色土 橙色土少含。やや堅く締まっている。 |
| 4 黒褐色土 黄褐色粒少含。橙色土少含。埴輪片含む。 | 9 褐色土 橙色土僅含。粘性。 |
| 5 暗褐色土 黄褐色粒少含。橙色土少含。やや砂質。 | 10 暗褐色土 黄褐色粒少含。褐色土少含。 |
| | 11 黒褐色土 黄褐色粒少含。褐色土少含。 |

第145図 R1-47-3遺跡14号溝(古墳周堀9)

d. その他

令和元年度調査の岩鼻47-1遺跡2区の調査面は2面あり、As-B混土直下の粘性に富んだ暗褐色土上面で溝1条が確認されている。埴輪片や高台付の椀が出土していることから溝として捉えたのだろうが、形状が企画的でなく、遺構とすべきなのか判断が難しい。

R1-47-3遺跡4号溝も、古墳周堀7(2号溝)より新しいことは確実だが、出土遺物は埴輪片のみであり、覆土もA混土やB混土ではないようであり、中近世遺構として位置づけることは難しい。ここでは、消極的理由により古墳～平安遺構として捉えておこう。

<R2-4区7号溝>(第146図)

位置 X=33204~33209, Y=-68070~-68073

形状 断面U字状を呈する。溝は略北北東-南南西に向く。

規模 長さ(5.17)m・幅0.48~0.53m・深さ0.26m

長軸方位 N-15°-E

重複遺構 9号溝を切る。

埋没状況 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

出土遺物 なし

所見 溝の流痕は確認できない。8号溝は並走しているが、詳細は不明。

<R2-4区8号溝>(第147図)

位置 X=33210~33217, Y=-68074~-68076

形状 断面U字状を呈する。溝は略北北東-南南西に向く。

規模 長さ(7.24m)・幅0.32~0.40m・深さ0.21m

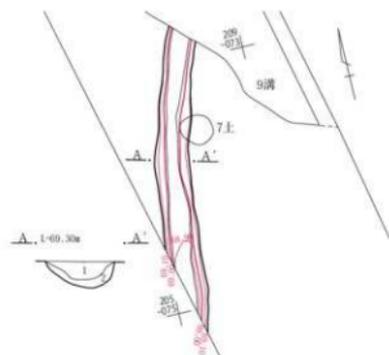
長軸方位 N-12°-E

重複遺構 9号溝を切る。

埋没状況 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

出土遺物 高環(第254図)や埴輪片が出土している。付近には黒パイが埋設され、埴輪片は混入した可能性が高い。高環は出土位置が低く、少なくとも溝の覆土はAs-A混土やAs-B混土ではない。

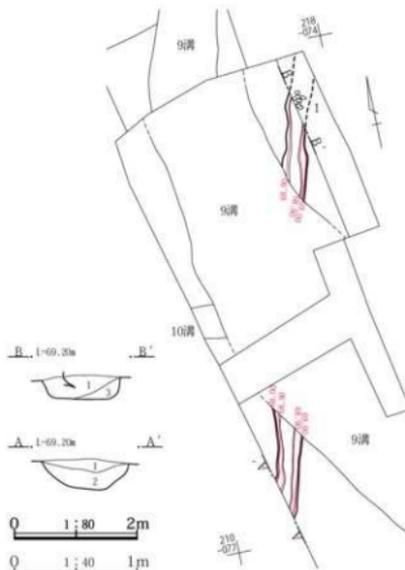
所見 調査所見には古代の溝5条があるとされている。土師器や須恵器が出土していることやAs-B混下の粘質土が遺構覆土になることがその理由だが、溝の性格が不明であり、結論づけられない。



R2-4区7号溝

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色粒、赤褐色粒少量含む。均質土。堅く締まる。
- 2 黒褐色土 ロームブロック中量含む。やや粘質。締まりあり。

第146図 R2-4区7号溝



R2-4区8号溝

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色粒、赤褐色粒少量含む。粘質土。
- 2 黒褐色土 ロームブロック中量を含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック多量を含む。締まりあり。

第147図 R2-4区8号溝

<R1-47-1遺跡2号溝> (第148図)

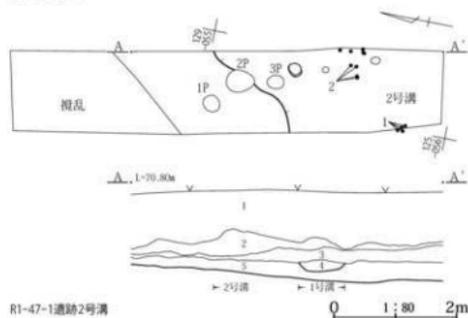
位置 X=33125~33128, Y=-68054~-68056

形状 溝のプランが不明瞭で、企画性に欠ける。

重複遺構 なし

出土遺物 埴輪片や碗が出土している。

所見 溝として記録されているが、溝として充分な要素は備えていない。溝とするより地山とするのが妥当ではないか。



R1-47-1遺跡2号溝

- 1 埋土
- 2 暗褐色土 As-B, 白色軽石を含む。
- 3 黒色土 As-Bを多量に含む。
- 4 黒色土 As-Bを多量に含む。5層をブロック状に含む。(1号溝覆土)
- 5 黒褐色土 埴輪片、焼土粒を多く含む。(2号溝覆土)

第148図 R1-47-1遺跡2号溝

<R1-岩鼻47-3遺跡4号溝> (第149図)

位置 X=33097~33180, Y=-68031~-68035

形状 断面U字状を呈する。底面には多少の凹凸があり、壁面は開き気味に立ち上がる。

規模 長さ・幅0.64~0.72m・深さ0.34~0.50m

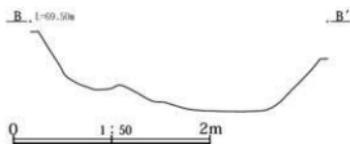
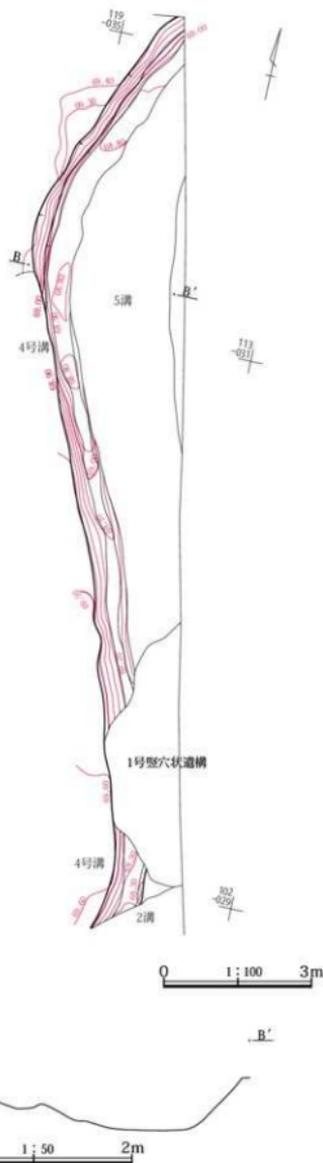
長軸方位 N-20°-W

重複遺構 47-3遺跡2・5号溝、1号壑穴状遺構に重複する。

埋没状況 ローム混じりの暗褐色土で埋まる。

出土遺物 なし。

所見 4号溝と古墳周堀の重複は2号溝で確認した記録に限られ、古墳周堀5号溝や1号壑穴状遺構の切り合い関係はデータが残されておらず不明である。覆土中に埴輪片が出土することやAs-A・As-B混土など後出的要素が見られないことから、時期的にもそれほど隔たるようには思われない。なぜ溝が掘られたのか明らかではないが、溝は古墳周堀を意識、規定されているように見える。



第149図 R1-47-3遺跡4号溝

3. 中・近世

中・近世遺構として溝12条が確認されたほか、土坑14基や柱穴115基が確認されている。溝12条は遺跡北側に多く、南側に少ない傾向がある。また、溝は県道の両側で確認されているが、未調査地があるなどするためか、県道を跨ぐ溝がない。土坑や柱穴の類は遺跡南端(県道西、47-1遺跡4区)に密集している。

a. 溝

中近世と見られる溝は令和2年度調査地点及び令和元年度調査地点(岩鼻47-3遺跡X=33125より北)など、遺跡の北側に集中した。溝10条は幅50~70cm程度だが、幅2m近い溝があり、木杭も確認されていることもあり、水路認定しておいた。地籍図や耕地図、壬申絵図で見る限り、粕川から引水した用水堀と考えている。

<R2-4区2号溝>(第150図)

位置 X=33178~33183, Y=-68067~-68069

形状 溝は深く明瞭で、断面U字状を呈す。

規模 長さ(4.05)m・幅0.50~0.60m・深さ0.42~0.45m

長軸方位 N-15°-E 重複遺構 4号溝と重複する。

埋没状況 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。いわゆるB混(As-B混じり黒色土)が切られるのかどうか記載がなく、詳細は不明。

出土遺物 なし

所見 遺物や土層情報から土坑を位置づけることは難しい。同軸の溝が、R1.47-3遺跡(12号溝)にあり、県道を挟んで溝が並行、位置づける際の参考になる。

<R2-4区3号溝>(第151図)

位置 X=33182~33183, Y=-68065~-68066

形状 溝は浅く、皿状を呈す。

規模 長さ(0.87)m・幅0.30~0.35m・深さ0.07m

長軸方位 N-82°-E

重複遺構 6号土坑と重複する。

埋没状況 ローム粒を含む暗褐色土で埋まる。

出土遺物 なし

所見 溝の確認が部分的で、遺構として捉えることが妥当か、疑問が残る。

<R2-4区10号溝>(第152図)

位置 X=33213~33214, Y=-68076

形状 溝は浅く、皿状を呈す。

規模 長さ(1.45)m・幅0.72m・深さ0.13m

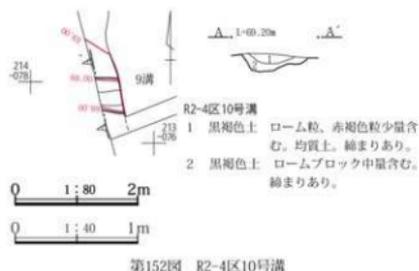
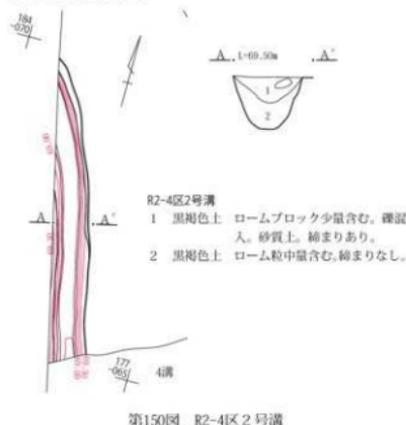
長軸方位 N-85°-W

重複遺構 R2.締貫41遺跡9号溝と重複する。

埋没状況 やや暗い暗褐色土で埋まる。

出土遺物 なし

所見 掘り方が明瞭でなく、シミ等を誤認した可能性も考えておきたい。



<R1-47-1遺跡1号溝> (第153図)

位置 X=33126~33127, Y=-68055~-68056

形状 溝の断面形状は浅く、皿状を呈す。

規模 長さ(1.45)m・幅0.72m・深さ0.13m

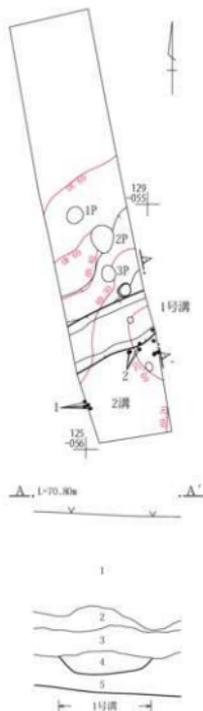
長軸方位 N-60°-E

重複遺構 なし

埋没状況 As-B混土で埋まる。

出土遺物 なし

所見 溝の埋土に流痕等は見られず、溝の性格は不明。



R1-47-1遺跡1号溝

- 1 埋土
- 2 暗褐色土 暗褐色土As-B、白色軽石を含む。
- 3 黒色土 As-Bを多量に含む。
- 4 黒色土 As-Bを多量に含む。5層をブロック状に含む。(1号溝覆土)
- 5 黒褐色土 埴輪片、焼土粒を多く含む。(2号溝覆土)

0 1:80 2m

0 1:40 1m

第153図 R1-47-1遺跡1号溝

<R1-47-1遺跡3号溝> (第154図)

位置 X=33072~33074, Y=-68043~-68045

形状 溝の断面形状はU字状を対し、側壁は外反気味に立ち上がる。

規模 長さ(1.77)m・幅1.06~1.60m・深さ0.34~0.49m

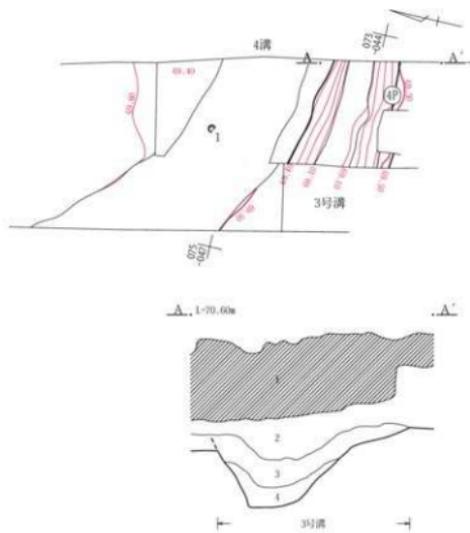
長軸方位 N-80°-W

重複遺構 なし

埋没状況 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

出土遺物 埴輪片数点が出土している。

所見 4号溝に並走するよう確認されており、埴輪片(第255図1~4)も出土していることから、古墳周囲の可能性を検討してみたが、これに対応する周堀がなく、単独の溝として捉えることにした。



R1-47-1遺跡3号溝

- 1 擾乱
- 2 暗褐色土 褐色土少含、粘性強い。
- 3 褐色土 褐色土少含、やや粘性。締まっている。
- 4 暗褐色土 小石・粘土混じり。鉄分付着。堅く締まっている。

0 1:80 2m

0 1:40 1m

第154図 R1-47-1遺跡3号溝

<R1-47-3遺跡7号溝> (第155図)

位置 X=33123~33124, Y=-68035~-68037

形状 溝底面は比較的平坦で、鍋底状を呈す。側壁は途中から開き気味。溝底面は東側が5cmほど低い。土層図を見る限り、流水を示す記載はない。

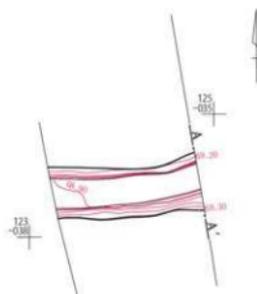
規模 長さ(2.36)m・幅0.79~0.96m・深さ0.34~0.43m

長軸方位 N-83°-E 重複遺構 なし

埋没状況 ローム粒子を含む暗褐色土で埋もれる。

出土遺物 なし

所見 流水の痕跡もなく、詳細は不明。区画溝の類か。



・A・, 1-69.30m

・A'・



R1-47-3遺跡7号溝

- 1 暗褐色土 橙色土少含。
- 2 暗褐色土 橙色土ブロック少含。
- 3 暗褐色土 橙色土少含。
- 4 暗褐色土 橙色土少含。やや粘性。
- 5 褐色土 橙色土少含。

第155図 R1-47-3遺跡7号溝

<R1-47-3遺跡8号溝> (第156図)

位置 X=33135~33138, Y=-68037~-68042

形状 溝の断面形状はU字状を呈し、蛇行するように見える。側壁は大きく開く。

規模 長さ(4.60)m・幅0.64~0.97m・深さ0.27~0.35m

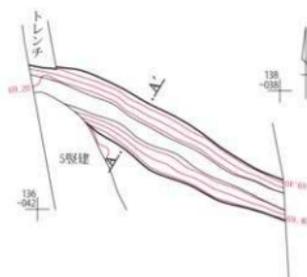
長軸方位 N-64°-W

重複遺構 なし

埋没状況 ローム粒子を含む暗褐色土で埋もれる。

出土遺物 なし

所見 溝底面は概ね平坦だが、若干の凹凸がある。流痕は確認できないが、溝底面が蛇行する点が気になる。



・A・, 1-69.60m

・A'・



R1-47-3遺跡8号溝

- 1 暗褐色土 橙色土僅含。
- 2 暗褐色土 橙色土ブロック僅含。

第156図 R1-47-3遺跡8号溝

0 1:80 2m

0 1:40 1m

<R1-47-3遺跡9号溝> (第157図)

位置 X=33129~33132, Y=-68037~-68040

形状 溝の断面形状はU字状を呈し、蛇行するように見える。側壁は途中から開き気味になる。

規模 長さ(3.77)m・幅1.14m・深さ0.44~0.52m

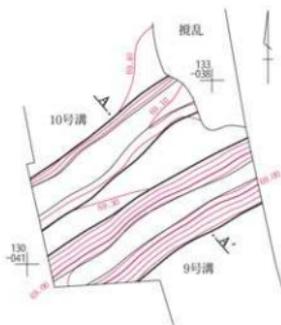
長軸方位 N-59°-E

重複遺構 なし

埋没状況 ローム粒子を含む暗褐色土で埋もれる。

出土遺物 なし

所見 8号溝同様、溝底面は蛇行するように見える。これも流痕は確認できないが、同サイズの溝が並走しており、短期的通水も考えるべきかもしれない。



第157図 R1-47-3遺跡9・10号溝

<R1-47-3遺跡11号溝> (第158図)

位置 X=33198~33217, Y=-68050~-68058

形状

規模 長さ(13.30)m・幅1.67~2.26m・深さ0.33~1.02m

長軸方位 N-30°-W

重複遺構 P2と切り合う。

埋没状況 途中ロームブロックを含む薄層を挟んで礫混じり黒色土が堆積する。溝の上層には二次堆積したAs-Aがレンズ状に堆積した。土層注にはAs-Bとされているが、単純に誤認したものであろう。

出土遺物 瀬戸・美濃陶器片2点(第256図7・8)が覆

<R1-47-3遺跡10号溝> (第157図)

位置 X=33130~33133, Y=-68038~-68040

形状 溝底面は比較的平坦だが、側壁は途中から開き気味である。

規模 長さ(3.10)・幅0.82m・深さ0.21~0.32m

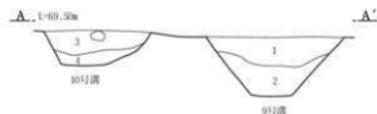
長軸方位 N-53°-E

重複遺構 なし

埋没状況 ローム粒子を含む暗褐色土で埋もれる。溝の上層にはAs-Aが二次堆積している。

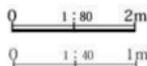
出土遺物 なし

所見 出土遺物がなく、遺構の時期判定は難しい。図化されておらず詳細は不明だが、写真にはAs-Aが上層に見えているのではないかと思う。指桶とおりならば、溝の時期判定に有利な情報になる。



R1-47-3遺跡9・10号溝

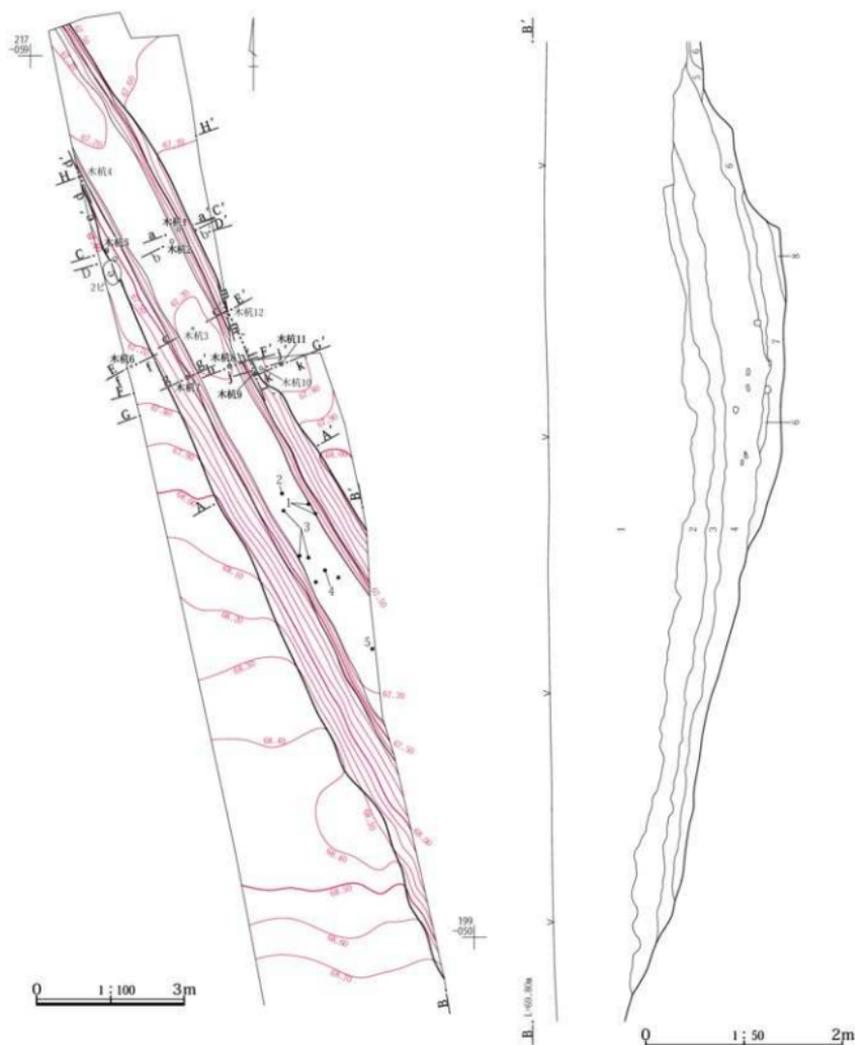
- 1 暗褐色土 橙色土僅含。
- 2 暗褐色土 橙色土少含。
- 3 暗褐色土 橙色土僅含。
- 4 暗褐色土 橙色土少含。やや粘性。



土中に出土している。このほか、溝の中間付近には木杭が撃ち込まれた状態で10本程度が確認されている。また、木杭が溝の底面まで達せず、覆土中で止まる例もある。

所見 位置的に見て、溝は壬申絵図に描かれた用水路に当たる可能性がある。木杭が撃ち込まれていた通り、通水していたのであろうが、砂やラミナ堆積したシルトが確認されたわけではなく、木杭が途中で止まるものがあるのであれば、ロームブロックを含む黒色土の薄層が通水の根拠として改めて認識する必要があるということかもしれない。

第8章 岩鼻天神遺跡

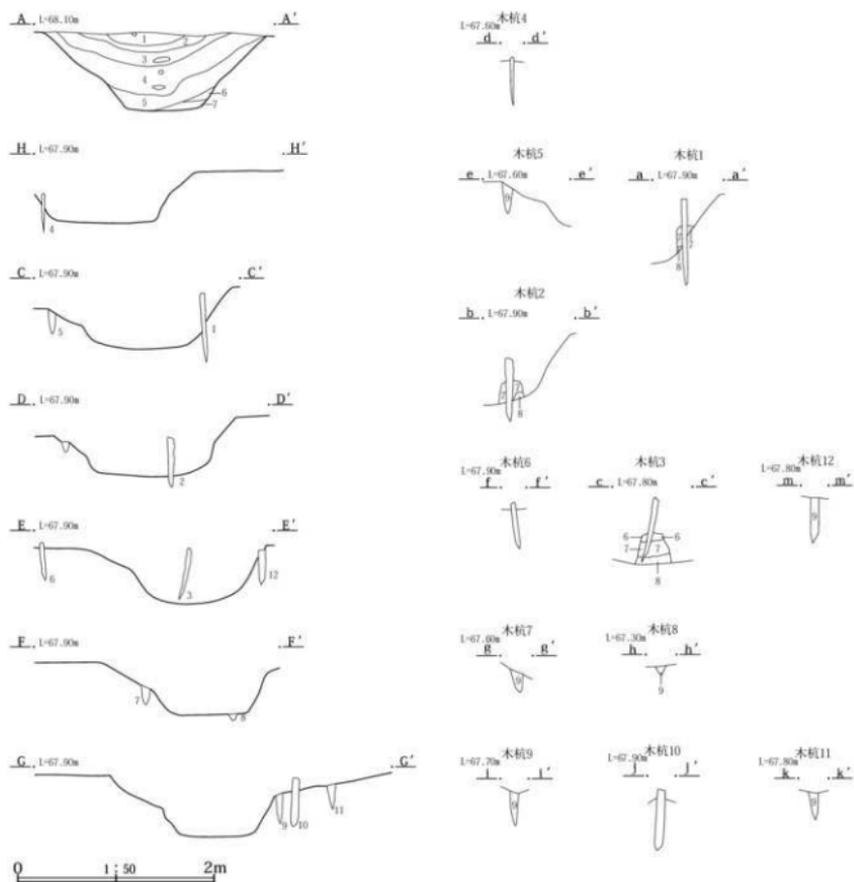


R1-47-3遺跡11号溝

- 1 客土
- 2 灰褐色土 As-A混上。暗褐色土粒僅含。
- 3 黒褐色土 As-A混上。黄褐色粒少含。橙色土少含。
- 4 As-A層 流れ込みなどの再堆積。
- 5 黒褐色土 橙色土少含。粘性強い。

- 6 黒褐色土 橙色土僅含。
- 7 褐色土 橙色土少含。やや粘性。締まっている。
- 8 暗褐色土 橙色土多含。堅く締まっている。
- 9 黒褐色土 やや粘質(木杭の腐食)。

第158図 R1-47-3遺跡11号溝1



第159图 R1-47-3遺跡11号溝2

<R1-47-3遺跡12号溝> (第160図)

位置 X=33165~33178, Y=-68046~-68049

形状 溝断面は浅く、皿状を呈する。

規模 長さ(13.25m)・幅0.28~0.50m・深さ0.10~0.22m

長軸方位 N-15°-W

重複遺構 13号溝と切り合う。

埋没状況 やや砂質の暗黄褐色土で埋まる。

出土遺物 なし

所見 溝の底面は、概ね平坦である。出土遺物もなく詳細は不明。畑など耕作関連の遺構か。

<R1-47-3遺跡13号溝> (第160図)

位置 X=33173~33175, Y=-68045~-68050

形状 幅の割に掘削深度があり、溝の断面形状は溝の上端側が開き気味で、略漏斗状を呈す。溝は弱く弧状を呈し、12号溝と直交する。

規模 長さ(5.20)m・幅0.40~0.55m・深さ0.20~0.30m

長軸方位 N-70°-E

重複遺構 12号溝と切り合う。

埋没状況 下層は暗褐色土、上層は黒色土で埋まる通常堆積。

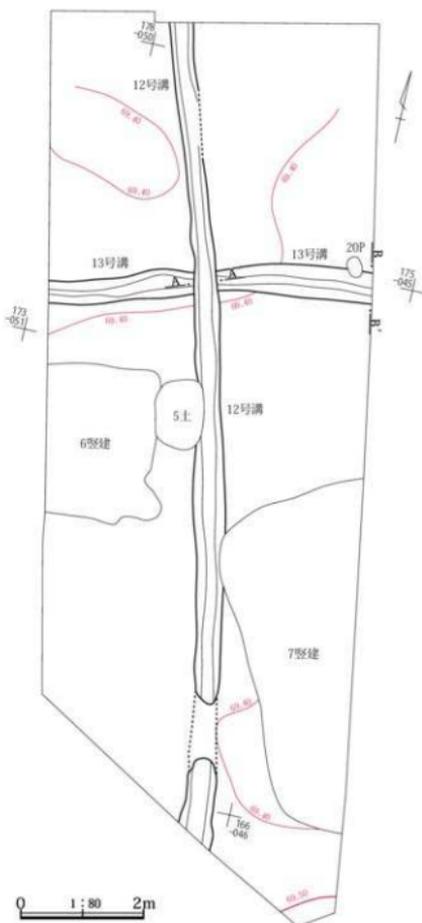
出土遺物 なし

所見 溝底面は凹凸があり、通水用の溝にはならないように思う。溝の詳細は不明。



R1-47-3遺跡12・13号溝

- 1 にぶい黄褐色土 やや粘質
- 2 黒褐色土 やや粘性。
- 3 黒褐色土 やや砂質。橙色土粒僅含。



第160図 R1-47-3遺跡12・13号溝

b. 井戸

井戸2基が確認されている。いずれも県道東の調査区(岩鼻47-3遺跡)から検出されたものであるが、1基は完掘できておらず、規模等は不明である。

<R1-47-3遺跡1号井戸>(第161図)

位置 X=33066~33068, Y=-68023~-68025

形状 略楕円形状を呈す。上面から1.5mを境に井戸の下部は筒状、これより上は漏斗状に大きく開く。井戸の下方2m前後にアグリがある。

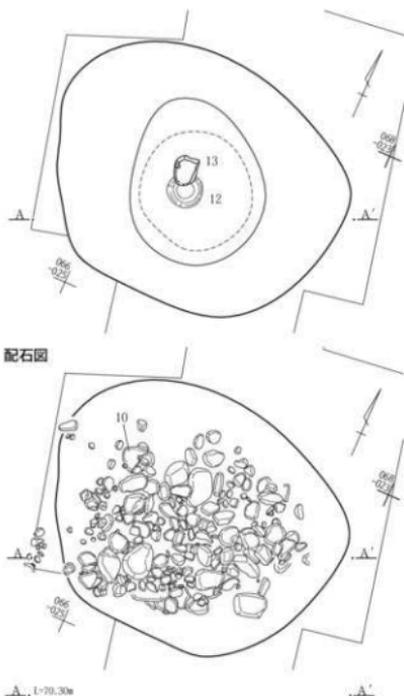
規模 長軸2.51m・短軸2.04m・深さ(2.06)m

重複遺構 なし

埋没状況 覆土下層から石鉢が河床礫と共に出土、上層にも多量の河床礫があり、人為的に埋め戻されたのは確実である。

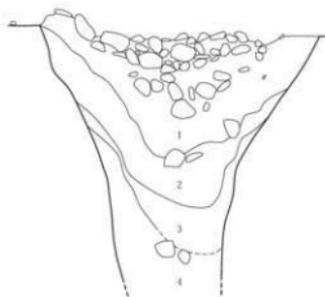
出土遺物 石鉢(第258図12)が覆土下層から出土した。(第256~258図)

所見 断面図には2mまで記載がある。重機で井戸底面を確認したようであるが、記載がなく、井戸の深度は不明。



R1-47-3遺跡1号井戸

- 1 暗褐色土 橙色土粒僅含、褐色粘僅含、砂礫少含。
- 2 暗褐色土 黄褐色粘僅含、橙色土少含、礫多含。
- 3 明褐色土 黄褐色粘少含、橙色土少含、壁の崩れの流れ込み。
- 4 褐色土 橙色土少含、やや砂質。



第161図 R1-47-3遺跡1号井戸

＜R1-47-3遺跡2号井戸＞(第162図)

位置 X = 33093 ~ 33095, Y = -68028 ~ -68029

形状 略楕円形か

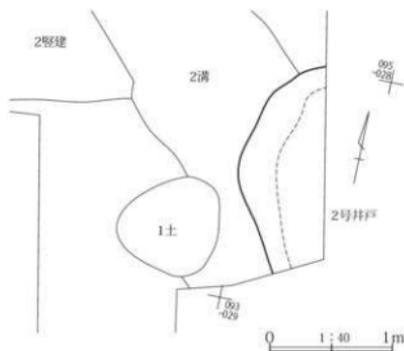
規模 長軸(1.58)m・短軸(0.72)m・深さ(0.90)m

重複遺構 R1-47-3遺跡2号溝に切られる。

埋没状況 ローム混じりの暗褐色土で埋もれる。

出土遺物 なし

所見 大部分が調査区外に延びるため、井戸の形状等詳細は不明。東壁断面の写真では詳細は分からないが、井戸の立ち上がりが分かり難い。井戸であるとすれば、井戸上部部を部分的に明らかにしたのにすぎない。周囲の深い部分とするにはプランが大きく乱れ現実的ではない。



第162図 R1-47-3遺跡2号井戸

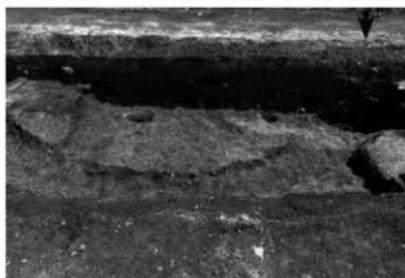


写真11 東壁右端に確認された2号井戸(手前は古墳周堀2号溝)

c. 土坑

中近世と見られる土坑は遺跡全域に及び、令和2年度調査地点で5基、令和元年度調査地点の岩鼻47-1遺跡で6基が、令和元年度調査地点の岩鼻47-3遺跡に土坑3基が確認されている。その分布状況は散漫であり、特に土坑が集中分布するような傾向は見られない。以下各地点毎に土坑の形態的特徴について記載しておく。

令和2年度の調査地点は、綿貫41遺跡4区として発掘調査された地点である。調査地点は出入口の関係で大きく3ヶ所に分かれており、土坑3基(R2-4区1~3号土坑)が南側調査区にある。土坑の形態は長方形タイプの土坑1基(1号土坑)、円形タイプの土坑2基(2・3号土坑)、楕円形タイプの土坑2基(5・7号土坑)が内訳になる。長方形タイプの土坑はしっかり掘り込んでおり、形態的にはイモ穴とされるものに近い。土坑底面から厚板材が出土しているが、詳細は不明である。円形タイプの土坑は直径60cm前後で、同形の浅い土坑2基の重複である。新旧関係は確認できていない。楕円形タイプの土坑は長軸が0.5~1.0mと小型である。

令和元年度調査地点(岩鼻47-1遺跡)でも市道や出入口の関係で調査区は4ヶ所に分かれ、土坑9基が確認されている。調査区外に掛かるものが多く土坑の形状は不明だが、円形タイプから長方形タイプまで土坑の形状はさまざまである。円形タイプには1・7・9号土坑が、楕円形・長方形タイプには20号土坑、4・5・19号土坑がある。円形タイプの土坑(1・9号)は断面がタイ状を呈するもので直径が1m前後であるのに対し、7号土坑は深さ0.2m弱と浅い。1号土坑にはロームが充填されていたが現状でロームの由来について説明は難しい(写真12)。楕円形・長方形タイプの土坑は浅く似たタイプの土坑だが、19号土坑のみ長軸が2m前後と、形態的にはイモ穴に近い。このほか、この地点では土坑とされたものがあるが、いずれも凹凸が激しく、ロームブロック主体の埋め土であり、土坑として認定が妥当とは思えず、土坑から外した。3・6・15号土坑は樹木由来の痕跡(写真13)の可能性が、8・10・11・17・18号土坑も凹凸が激しく、属性的には粘土探掘坑に近い。

令和元年度調査地点(岩鼻47-3遺跡)も出入口や埋没物により、調査区が3ヶ所に分断されている。土坑とされたもの7基は明瞭ではなく、土坑から除外すべきのもの

ある。まず、土坑であることが明らかなものに、1・5号土坑がある。1号土坑は古墳周堀(2号溝)と重複関係にあり、形状は明らかではないが、楕円形タイプの土坑になるものと思われる。同様に、5号土坑も形状は楕円タイプだが、12号溝と6号竪穴と切り合い全体形状は明

らかでない。このほか2・3・5~9号土坑が土坑認定されているが、掘り方が明瞭でなく、いずれも樹木関連の痕跡になる可能性が高い。

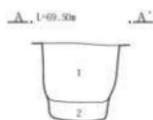
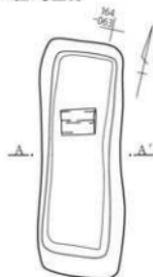


写真12 R1-47-1道跡9号土坑 土層断面



写真13 R1-47-1道跡3号土坑全景

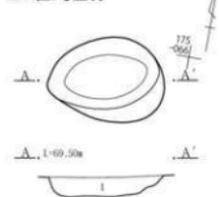
R2-4区1号土坑



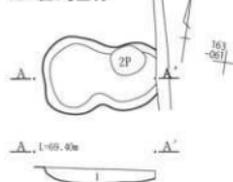
R2-4区2号土坑



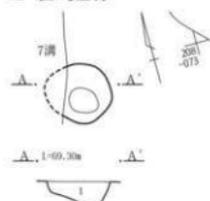
R2-4区5号土坑



R2-4区3号土坑

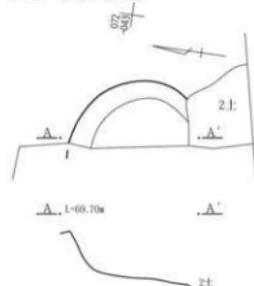


R2-4区7号土坑

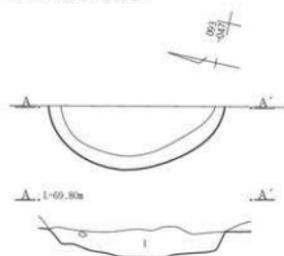


第163図 R2-4区土坑

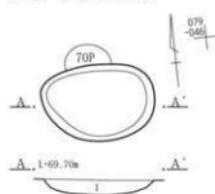
R1-47-1遺跡1号土坑



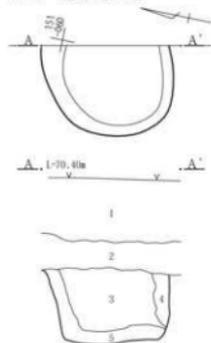
R1-47-1遺跡7号土坑



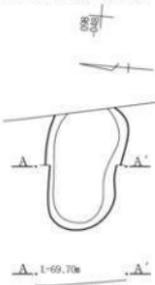
R1-47-1遺跡20号土坑



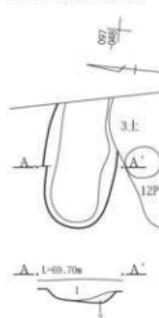
R1-47-1遺跡9号土坑



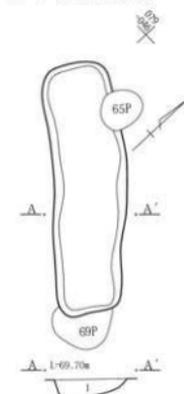
R1-47-1遺跡4号土坑



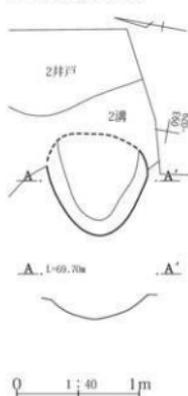
R1-47-1遺跡5号土坑



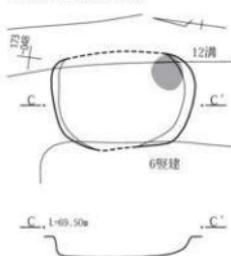
R1-47-1遺跡19号土坑



R1-47-3遺跡1号土坑



R1-47-3遺跡5号土坑



R2-4区1号土坑

- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土

R2-4区3号土坑

- 1 黒褐色土

R2-4区5号土坑

- 1 黒褐色土

R2-4区7号土坑

- 1 黒褐色土

R1-47-1遺跡7号土坑

- 1 に近い黄褐色土

R1-47-1遺跡20号土坑

- 1 黒褐色土

R1-47-1遺跡9号土坑

- 1 埋土
- 2 黒褐色土
- 3 明黄褐色土
- 4 黒褐色土
- 5 に近い黄褐色土

R1-47-1遺跡4号土坑

- 1 暗褐色土

R1-47-1遺跡5号土坑

- 1 暗褐色土
- 2 褐色土 褐色土

R1-47-1遺跡19号土坑

- 1 暗褐色土

ロームブロック中量含む。
ロームブロック中量含む。木片あり。水分含む。
下層より鉄分凝集がみられる。(サンプル)

ローム粒中量含む。締まりなし。

ローム粒、赤褐色粒少量含む。均質土。締まりあり。

ローム粒、白色粒、赤褐色粒少量含む。堅く締まる。

ロームブロックを含む。

ローム粒を多く含む。炭化物を僅かに含む。

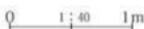
黄土粒(φ 3mm)、白色軽石(φ 1~3mm)を多く含む。
黄褐色粒を多量に含む。締まりが非常に強い。
3層をブロック状に含む。
ローム粒を多量に含む。

白色粒、黄土粒を含む。炭化物を僅かに含む。

白色粒、黄土粒を含む。炭化物を僅かに含む。

炭化物を僅かに含む。

ローム粒を非常に多く含む。



第164図 R1-47-1・R1-47-3遺跡土坑

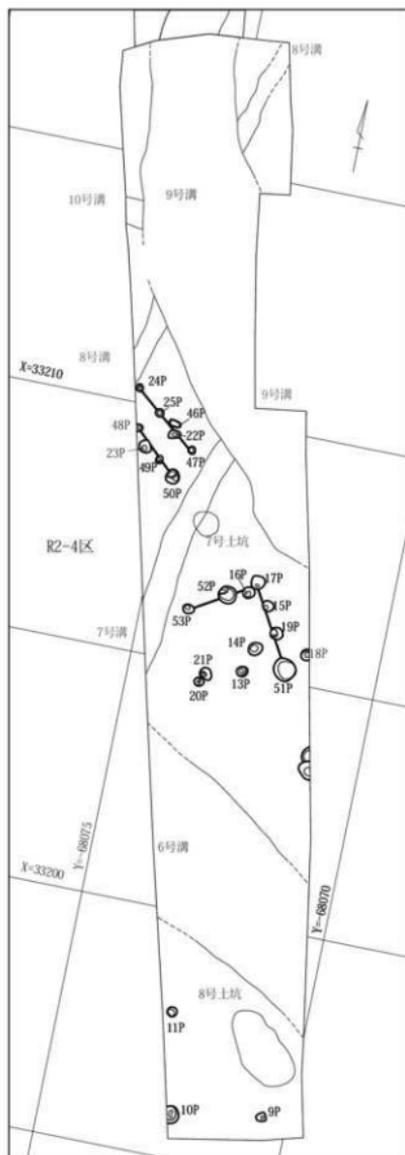
d. 柱穴

岩鼻47-1遺跡に95本が、岩鼻47-3遺跡に20本がある。県道西の岩鼻47-1遺跡では柱穴95本が確認されているが、R2-4区(令和2年度調査)9号溝と6号溝の間や、R1-3区(令和元年度調査)の2ヶ所に集中分布することが明らかである。柱穴の分布域には古墳周堀や土坑、その他があり、確認から漏れた柱穴も多数が見込まれ、建物認定には制約が多い。こうしたなか、R2-4区の柱穴分布はシンプルであり、座標北から西へ51°振れた方向に柱穴列が並んで見える。現場では柱穴のすべてに番号が付されているわけではなく、整理段階で柱穴番号を付した(P46~P53)。柱穴分布がシンプルで、柱穴本数も少なく、孤立柱建物跡の抽出が期待されたのであるが、検討した結果、柱穴の直線性は明らかであったが、柱間等に規則性がなく、建物は認定していない。

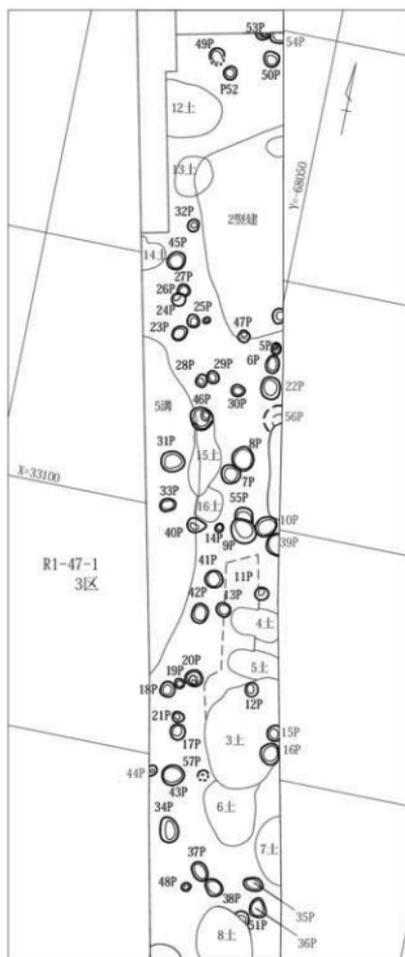
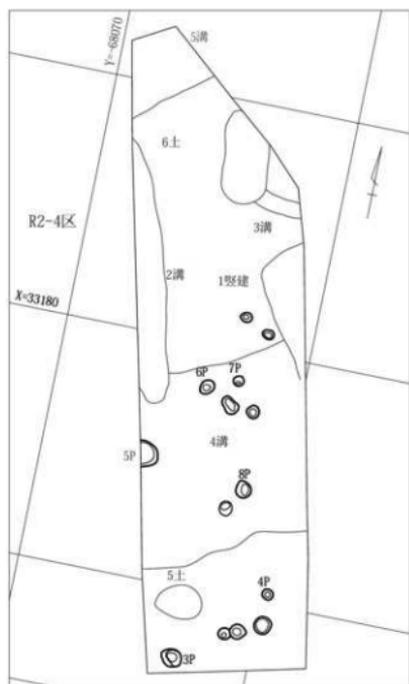
令和元年度調査の県道西、岩鼻47-1遺跡では柱穴多数が確認されているが、竪穴建物や古墳周堀が重なり、柱穴を見逃している可能性が高く、現状で孤立柱建物は認定できない。柱穴としたものにはシミ木の根があり、30%程度が柱穴から外れるのではないかと考えている。シミとしたものは大部分が90cmより浅く、直径は平均より大きく40cmを超えるものが多い。なお、木の根としたものは根が柱穴に入り込んだものもあるようで、両者を分離するのは難しい。

R2-4区(令和2年度調査)9号溝南の柱穴列は、P24-P25-P22-P47やP48-P49-P50だが、柱穴間が40~60cmと短く、建物としての柱穴認定は難しい。P23-P25は直径40cmほどであるが、柱穴間は90cmほどで、このサイズの柱穴に注目しておきたい。同様に、P17-P15-P19-P51も列状に並んでいるが、柱穴間は50~80cmほどである。これにP52とP53が直交しているが、柱穴間はP17-P52間が65cm、P52-P53間が85cm、深さ6~10cmと浅く、建物の柱とするのは難しいように思う。

調査区が狭く、どれだけ遺跡の全様が明らかにされたのか不安だが、柱穴が県道西の調査区(岩鼻47-1遺跡)に集中するのは間違いない。柱穴にはAs-Aが混じるものがなく、柱穴群は天明噴火より以前にさかのぼる可能性があり、付近には集落再編前の集落(屋敷跡)というものを考えてみていいのではないだろうか。

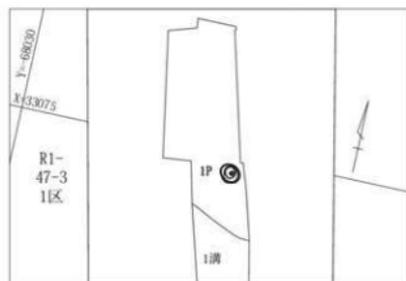
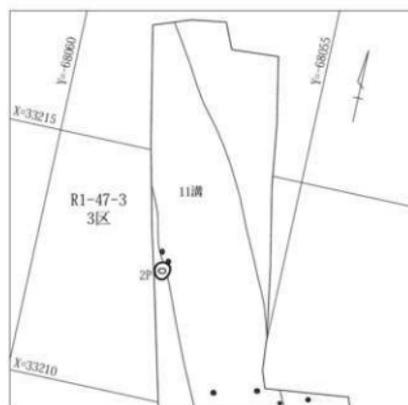
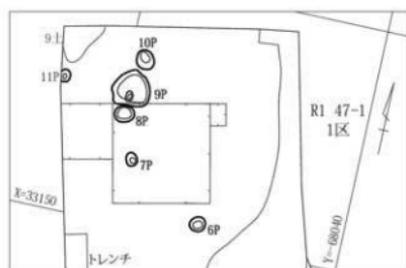
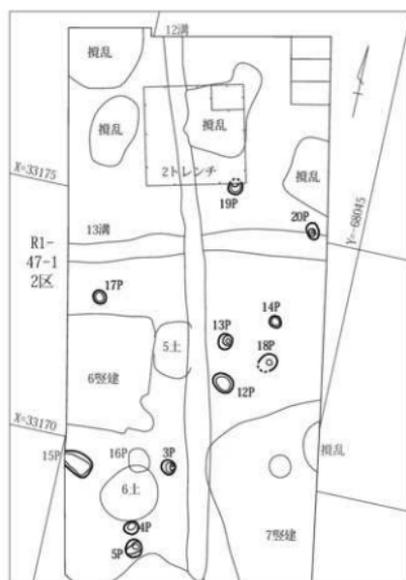
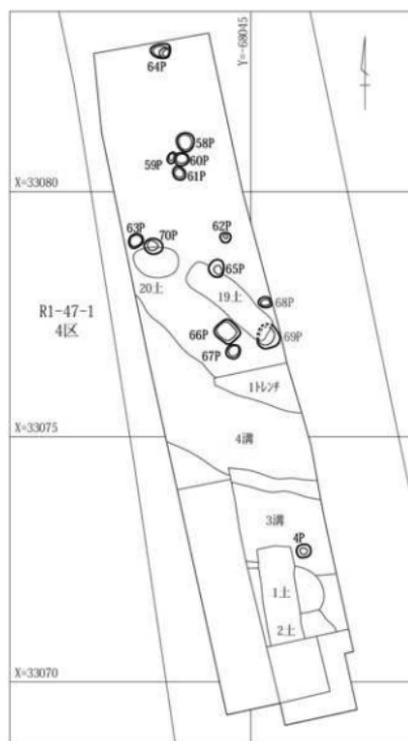


第165図 R2-4区柱穴分布図1



0 1:100 5m

第166图 R2-4区柱穴分布图2・R1-47-1道跡柱穴分布图1



0 1:100 5m

第167図 R1-47-1遺跡柱穴分布図2・R1-47-3遺跡柱穴分布図

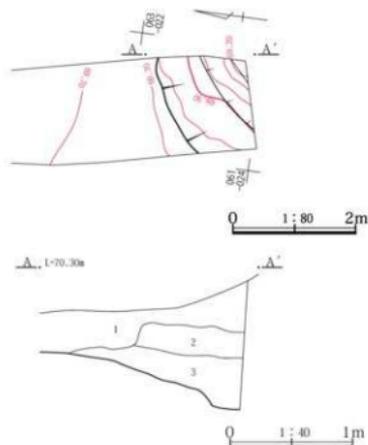
e. その他の遺構

県道東の調査地点(令和元年度調査岩鼻47-3遺跡1区)最南端で「落ち込み」が確認されている。壁面が大きく開いており、確認面から50cm弱までが確認されただけである。現状で、遺構底面は確認されていないが、遺構覆土は黒色土を挟んで暗褐色土が厚く堆積しており、形状から判断して古墳周堀に類するものとする。

また、同じく1区北の西壁断面でAs-Aの凝集層が畝状に確認されており、畑の畝だろうとされている。As-Aの純度に差があり、降下後も継続的に耕作されたのであろうが、詳細は不明である。

各調査区では上層の遺構調査終了後、旧石器調査と称して50cm弱を調査している。上層は土壌化しており縄文期遺物の包含層になっているが、下層は高崎泥流とされるものである。県道東1区北のトレンチで粗粒輝石安山岩製の剥片が出土しているが、上層の土壌化した部分から出土したようである。

1区1号落ち込み



R1-47-3遺跡1号落ち込み

- 1 暗褐色土 黄褐色粒を僅かに含む。橙色土少し含む。
- 2 黒色土 褐色粒子を僅かに含む。橙色土粒僅かに含む。やや粘性。
- 3 暗褐色土 黄褐色を僅かに含む。橙色土少し含む。

第168図 R1-47-3遺跡1号落ち込み

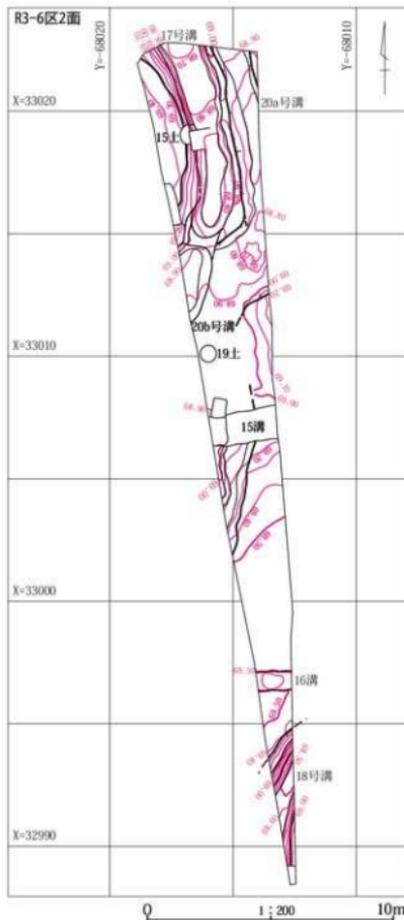
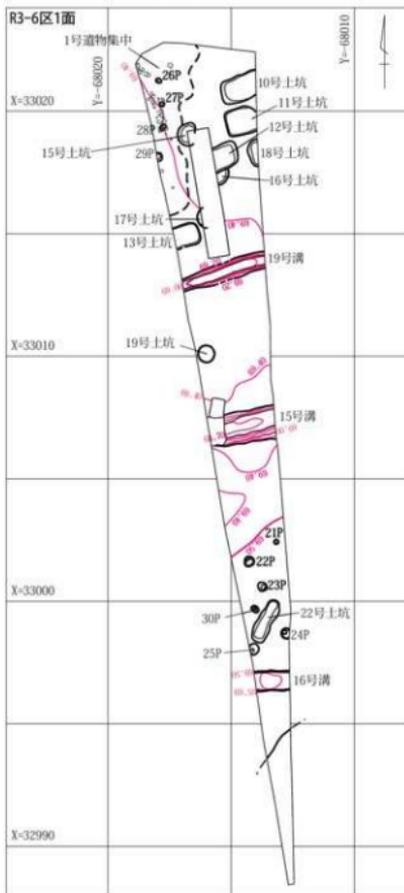
第9章 岩鼻赤城遺跡

1. 概要

本遺跡は、令和3年度調査地点の岩鼻47-3遺跡6区に当たる。調査区は県道東にあり、発掘対象地は南北35mほどである。調査区は最も幅広い地点で5mほどであり、調査面積は90㎡と狭小である。本遺跡の北には市道を挟

んで岩鼻天神遺跡が、また、西には県道を挟んで岩鼻坂上北遺跡がある。

遺構として溝6条、土坑10基、ピット多数が確認されている。溝6条には古墳周堀も含まれ、各時代の遺構が混在する。ここでは古墳周堀と中近世溝に分け、遺構図を掲載した。



第169図 岩鼻赤城遺跡全体図1面(左)・岩鼻赤城遺跡全体図2面(右)

2. 古墳時代

a. 古墳周堀

古墳周堀2条が、確認されている。17・18号溝としたものがそれであるが、いずれも部分的確認に止まるため、古墳墳丘サイズは不明である。このほか、溝3条が確認されているが、20号溝としたものが古墳周堀(17号溝)と絡んでいた。この古墳周堀の内側には埴輪集中部が確認されているが、偏平礫が列状に並び、間を埋めるように埴輪類が出土した。古墳に伴う円筒埴輪類になるというところであるが、ここでは出土状態としては分けて図化掲載した。



写真14 古墳周堀10(17号溝)土層堆積

古墳周堀10<R3-6区17号溝>(第170図)

位置 X=33014~33022、Y=-68014~-68018

形状 現状の溝幅は2.4~2.7m程度。溝断面は周堀北が鍋底状、南側は皿状を呈す。溝幅3m前後が想定可能。

規模 幅2.4~2.7m・深さ0.44~0.65m

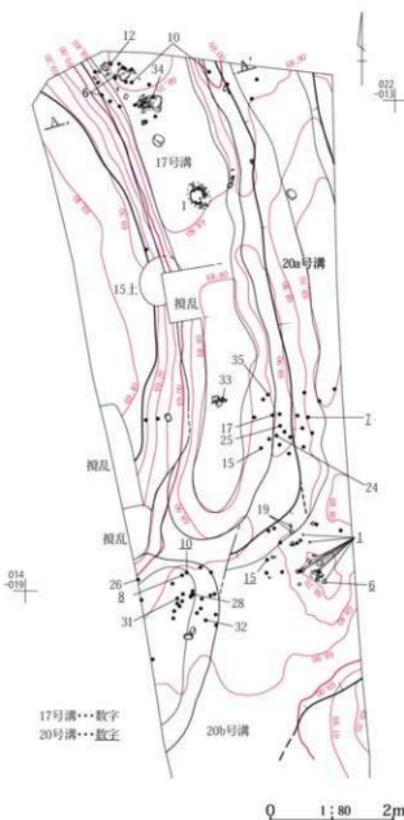
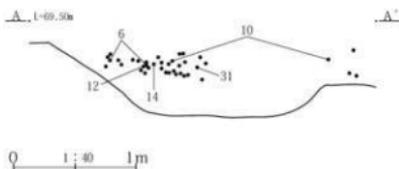
長軸方位 N-16°-W→N-13°-E

重複遺構 20号溝に切られる。

埋没状況 小礫を含む暗褐色土で埋没、上層に比べ下層は明るい。墳丘側から埋没傾向。

出土遺物 覆土中から円筒埴輪19点(第262・263図1~19)、形象埴輪6点(第263図20~32)を図化した。

所見 溝の内側は弧状を呈し、直径10m内外の墳丘が想定可能。溝から出土した埴輪類は、遺物投影図を検討した結果、北側断面付近では墳丘側から流れ込んだ状態で出土したものと捉えた。これとは別に、溝の内側(墳丘端部のテラス、平坦面と呼ばれる部分)には埴輪類が出土している。可能性としてテラス(平坦面)に埋め込まれた列石とすることもできるが、礫は埋め込まれたとは言いきれず、少なくとも原位置にあるとするのは難しい。



第170図 R3-6区17号溝(古墳周堀10) 1

ようである。発掘調査では、これを遺物集中部として取り上げているが、埴輪類は列状に並んだ扁平礫の前後の隙間を埋めるように出土した。河床礫や埴輪類を取り上げた跡はローム面が浅く窪んだように見えることから溝が掘り込まれた可能性も否定できないが、これを確認するデータがなく、断定できない。

溝の南東部は土坑状に窪んでおり、馬鈴を含む埴輪が確認されている。発掘調査では明示されていないが、位置的に17号溝ともども古墳周囲と捉えた。

<遺物集中>

古墳周堀と見た17号溝の西にあり、河床礫や埴輪片が列状に出土した。発掘調査ではこれを便宜的に遺物集中と捉え図化している。

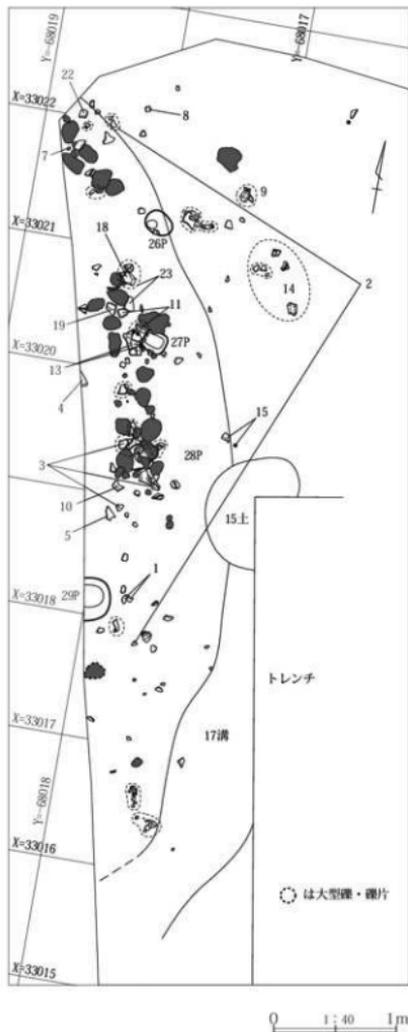
確認状況 調査区西壁のセクション図には地表面下0.7mが攪乱とあり、これを重機掘削したのち掘り下げ遺物集中地点が検出されている。

分布状況 調査区西壁際に南北5m、東西1.6mの範囲に河床礫と埴輪片が集中分布した。河床礫は**点*が出土しているが、分布域は空白域を挟んで2ヶ所があり、特に南側分布域の礫は2列に並んでおり、埴輪片が隙間を埋めるように見える。埴輪片は礫分布東側にも分布しているが、これを古墳出土遺物として捉えるべきか、これとは分離して遺物集中の遺物として捉えるべきか、判断が難しい(第264・265図)。

所見 扁平な河床礫が列状に並び、人為的であることは確実である。河床礫や埴輪類を取り上げた跡のローム面が浅く窪んでおり、北壁にU字状の溝が掘り込まれた断面が残されている可能性も想定してみたが、溝の底面



写真15 古墳周堀10 遺物集中(石列)



第171図 R3-6E17号溝(古墳周堀10) 2

に並べたとするには分布が乱れ過ぎており、また、投げ込んだとするには分布が整い過ぎている。軒下の雨垂れ石の可能性も考えてみたが、根拠は乏しい。集中部遺物が古墳関連遺物として捉えるべきか、溝状に上から掘り込んだものか、このことを意識した土層に記載がなく、詳細は不明である。

古墳周堀11<R3-6区18号溝>(第172図)

位置 X=32989~32994, Y=-68012~-68013

形状 狭小部にあり、古墳周堀の部分的確認に止まる。

現状で、周堀が深さ0.95mほどになることが分かるだけ

で、どのように周堀が廻り、どの程度の周堀になるのか判断できない。

規模 幅・深さ0.95m

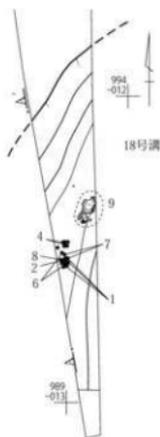
長軸方位 N-40°-W

重複遺構 なし

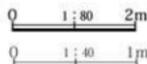
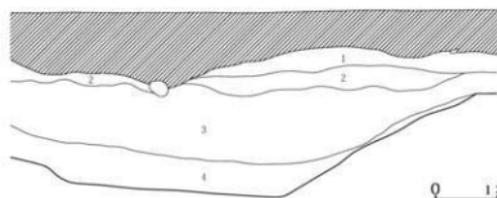
埋没状況 下層はローム主体、上層は埴輪片を含んだ暗褐色土で埋まる。

出土遺物 覆土中から出土した土師器甕1(第266図9)、円筒埴輪片8(1~8)を図化した。

所見 古墳周堀の外形を部分的に確認したのみで、全体形状は不明。溝外形は弧状を呈していることから、埴輪は円墳が想定されよう。



△, 1:70, 70m



R3-6区18号溝

- 1 黒色土 極小粒砂質。しまり強い。粘りなし。にぶい黄褐色の砂粒を5%程含む。遺物(ハニワ片等)を含む。
- 2 黒褐色土 As-B混土 極小粒砂質。しまりあり。粘りなし。As-Bを含むが50%以下である。
- 3 極暗褐色土~暗褐色土 極小粒砂質。粘り・しまりともに強い。褐色土の小粒を5%ほど含む。遺物(ハニワ片等)を含む。
- 4 黄褐色土と極暗褐色土の混合土 対比は約8:2。極小粒砂質。粘り・しまりとも強い。下部に地山層上のブロックが混ざる。

第172図 R3-6区18号溝(古墳周堀10)

3. 中・近世

中・近世遺構として溝4条、土坑10基がある。溝には東西方向に走る溝3条(15・16・19号溝)と、古墳周囲に重複する南北軸の溝1条(20号溝)がある。土坑は長方形タイプと円形タイプがあり、調査区北に集中分布した。

a. 溝

<R3-6区15号溝>(第173図)

位置 X=33006~33008, Y=-68013~-68015

形状 溝底面は平坦で、側壁は大きくハ字状に開く。

規模 幅1.26~1.38m・深さ0.33~0.46m

長軸方位 N-74°-E

重複遺構 20号溝に切られる。

埋没状況 溝は比較的均質な褐色土で埋まり、短期に埋没した可能性が高い。溝の上層には偏平礫が廃棄状態で出土した。

出土遺物 覆土中から埴輪片(第266・267図1~11)が出土したほか、石製品類に板碑片(11)や礫砥石(16)、敲石(9)がある。

所見 時期決定可能な遺物は、板碑片があるだけであり、

<R3-6区16号溝>(第173図)

位置 X=32996~32997, Y=-68012~-68014

形状 溝の断面は箱状を呈し、壁は開き気味に立ち上がる。

規模 長さ3.50m・幅0.80m・深さ0.27~0.36m

長軸方位 N-87°-E 重複遺構 なし

埋没状況 ローム粒子・ブロックを多量に含む暗褐色土で埋まる。人為的埋土の可能性が大。

出土遺物 なし

所見 この溝の延長上に岩岸坂上北遺跡4号溝が確認されているが、溝断面形状が大きく異なる。

<R3-6区19号溝>(第173図)

位置 X=33012~33014, Y=-68013~-68016

形状 溝断面は箱状に近い。溝底面は比較的平坦。

規模 幅0.48~0.79m・深さ0.19~0.35m

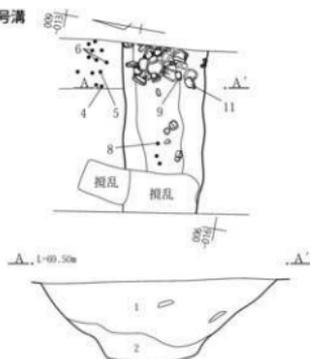
長軸方位 N-72°-E

重複遺構 17・20号溝に切られる。

埋没状況 As-B混土で埋没する。

出土遺物 覆土中から円筒埴輪類3点(第267図1~3)が混入出土した。

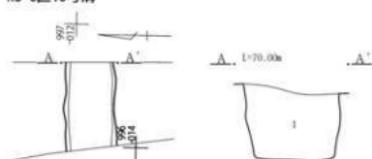
R3-6区15号溝



R3-6区15号溝

- 1 暗褐色土 黄色粒子・細砂・粗砂少量混 粘性・しまりやや強い。
- 2 黒褐色土 黄色粒子・細砂・粗砂少量混 粘性やや強、しまり強い。

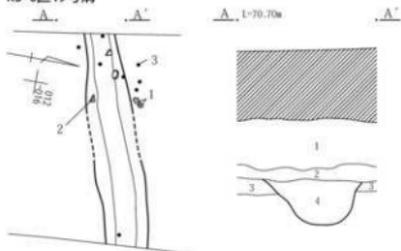
R3-6区16号溝



R3-6区16号溝

- 1 暗褐色土と褐色土 暗褐色土と褐色土の9:1の混土。しまり・粘りともに強い。

R3-6区19号溝



R3-6区19号溝

- 1 黒色土 極小粘砂質。しまり強い。粘りなし。にぶい黄褐色の砂粒を5%程度含む。遺物(ハニワ片等)を含む。
- 2 黒褐色土 極小粘砂質。しまりあり。粘りなし。As-Bを含むが50%以下である。
- 3 黒褐色土 極小粘砂質。しまりなし。粘りなし。As-Bを50%以上含む。
- 4 黒褐色土 砂質。しまりあり。粘りなし。As-Bを含むが50%以下である。(19号溝埋土)

0 1:80 2m

0 1:40 1m

第173図 R3-6区15・16・19号溝

所見 溝底面は両端で若干高低差を有しているが、砂層など流痕を示す痕跡は見られない。

る。中世溝の可能性も否定できないが、明らかでない。

<R3-6区20号溝>(第174図)

位置 X=33014~33022, Y=-68013~-68015(20a溝)

X=33001~33015, Y=-68012~-68016(20b溝)

形状 溝断面は浅く、皿状に近い。

規模 幅1.35m・深さ0.13~0.20m

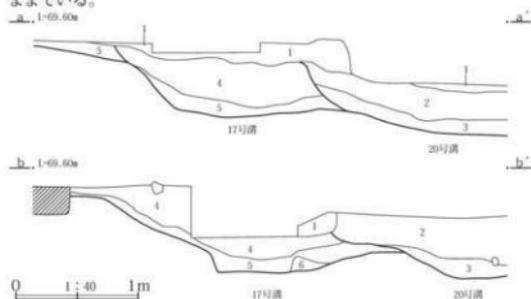
長軸方位 N-17°-W→N-4°-E

重複遺構 17号溝を切る。

埋没状況 17・20号溝の新旧関係を認定しているが、覆土は類似している。相違点を上げるならば20号溝の覆土上層がAs-B混土で埋まることくらい。

出土遺物 覆土中から円筒埴輪片(第267・267図1~17)が出土している。

所見 17号溝に部分的に重なり、途中クランクして南に延び調査区外へ続いているが、溝のプランは明確ではない。クランク部分では縮状の高まりがあり、遺構の重複を暗示するようであるが、遺構の重複を認定できないままである。



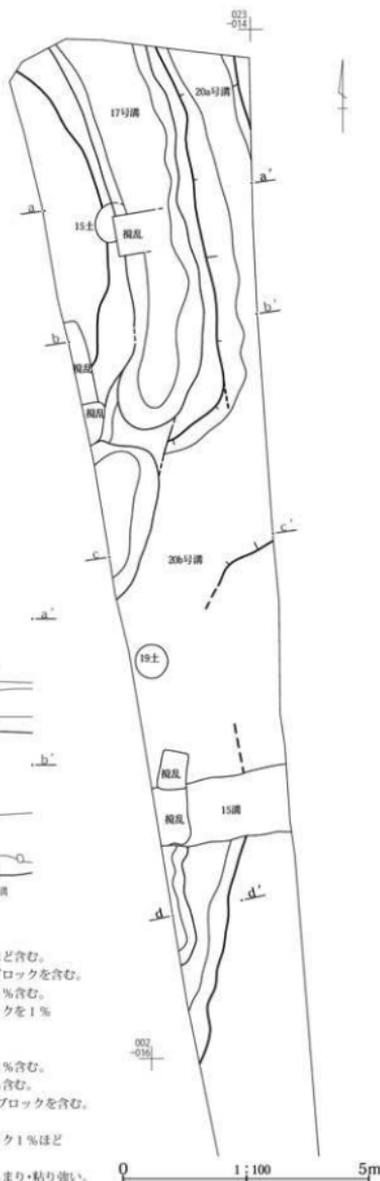
R3-6区20号溝a

- 1 黒褐色土 砂質。極小粒しまり・粘りなし。As-Bを含む。
- 2 にぶい黄褐色土 砂質。極小粒しまり・粘り強い。明褐色土のブロックを1%ほど含む。
- 3 黒褐色土 砂質。極小粒しまり・粘り強い。底部に明黄褐色のシルト質ブロックを含む。
- 4 にぶい黄褐色土 砂質。極小粒しまり・粘り強い。明黄褐色のブロック混土を5%含む。
- 5 オリーブ褐色土 シルトと砂の混土。しまり・粘り強い。明褐色の数mmのブロックを1%ほど含む。底部付近にロームブロックを含む。

R3-6区20号溝b

- 1 暗褐色土 16号上坊内土。遺物含む。しまり・粘り強い。明褐色小粒を3%含む。
- 2 にぶい黄褐色土 砂質。極小粒しまり・粘性強い。明褐色土砂質ブロックを1%含む。
- 3 黒褐色土 砂質。極小粒。しまり・粘性強い。底部に明褐色土のシルト質ブロックを含む。
- 4 にぶい黄褐色土 砂質。極小粒。明褐色土砂質をブロック状に2%含む。
- 5 オリーブ褐色土 砂質土を入れた混合土。しまり・粘り強い。明褐色土のブロック1%ほど含む。底部付近に明記褐色土のシルトブロックを含む。
- 6 明黄褐色土 シルトブロックを90%と、オリーブ褐色土の混合土ブロック。しまり・粘り強い。

第174図 R3-6区20号溝



b. 土坑

<R3-6区10号土坑>(第175図)

位置 X=33020~33021, Y=-68014~-68015

形状 長方形タイプ、断面は鍋底状に近い。

規模 長軸(1.47)m・短軸1.06m・深さ0.24m

長軸方位 N-70°-E

重複遺構 なし

埋没状況 最下層に黒褐色土(やや砂質)の薄層が堆積、全体としては砂質の暗褐色土で埋まる。

所見 土坑が長方形を呈すること、最下層に黒色土の薄層が堆積することから「イモ穴」の類と考える。

<R3-6区11号土坑>(第175図)

位置 X=33018~33020, Y=-68013~-68015

形状 長方形タイプ、断面は鍋底状に近い。

規模 長軸(1.27)m・短軸1.10m・深さ0.34m

長軸方位 N-76°-E

重複遺構 なし

埋没状況 10号土坑と同質の黄褐色土で埋まる。最下層に黒色土の薄層は見られない。

所見 方形プランとして土坑は掘かされているが、10号土坑に近接、同形の土坑が周辺域に広がることから、長方形プランと考えておきたい。

<R3-6区12号土坑>(第175図)

位置 X=33017~33018, Y=-68014~-68015

形状 長方形タイプ、断面は鍋底状に近い。

規模 長軸(1.02)m・短軸1.00m・深さ0.33m

長軸方位 N-75°-E

重複遺構 16号土坑を切る。

埋没状況 分層されているが、ほぼ同質の暗褐色土(砂質)で埋まる。

所見 砂質土壌はA混土(As-A)によるものと思われるが、詳細は不明。

<R3-6区13号土坑>(第176図)

位置 X=33014~33015, Y=-68016~-68017

形状 長方形タイプ、断面は鍋底状に近い。

規模 長軸(1.05)m・短軸0.90m・深さ0.35m

長軸方位 N-75°-E

重複遺構 なし

埋没状況 ローム粒子の混じる暗褐色土で埋没する。

所見 壁際のセクションでB混土(As-B)の攪拌土壌を掘り込んでいることが分かる。

<R3-6区15号土坑>(第176図)

位置 X=33018~33019, Y=-68016~-68017

形状 略円形プラン、断面は鍋底状に近い。

規模 長軸0.90m・短軸(0.72)m・深さ0.36m

長軸方位 -

重複遺構 なし

埋没状況 B混土で埋まる。

所見 試掘トレンチで土坑の1/2を欠いている。測量図は楕円形状を想定しているが、どちらとも言い難い。土坑が円形土坑なら、径90cmになる。

<R3-6区16号土坑>(第175図)

位置 X=33016~33017, Y=-68015

形状 略円形プラン、断面は鍋底状に近い。

規模 長軸(0.70)m・短軸(0.51)m・深さ0.27m

長軸方位 -

重複遺構 12号土坑に切られる。

埋没状況 B混土で埋まる。

所見 土坑が円形プランであるとすると、推定径は90cmほどになる。

<R3-6区17号土坑>(第176図)

位置 X=33015, Y=-68016

形状 略円形プラン、断面は鍋底状に近い。

規模 長軸(0.70)m・短軸0.18m・深さ0.29m

長軸方位 -

重複遺構 なし

埋没状況 注記が残されておらず詳細は不明だが、写真で見える限り、砂質土壌(B混土)に見える。

所見 推定径は90cm前後か。植込土坑に特徴的なロームの埋め土、タガの痕跡は見られない。

<R3-6区18号土坑> (第176図)

位置 X=33017~33018, Y=-68013~-68014

形状 部分的確認であり土坑形状の詳細は不明だが、位置的に長方形土坑になる可能性が高い。

規模 長軸(1.10)m・短軸(0.42)m・深さ0.18m

長軸方位 N-8°E

重複遺構 なし

埋没状況 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。東壁でB混土を掘り込んでいることが分かる。

所見 部分的確認であり土坑底面も不安定だが、土坑サイズや覆土で見ると限り円形土坑になる可能性は低い。

<R3-6区19号土坑> (第176図)

位置 X=33009~33010, Y=-68015~-68016

形状 略円形プラン、断面は銅底状に近い。

規模 長軸0.70m・短軸0.65m・深さ0.24m

長軸方位 —

重複遺構 なし

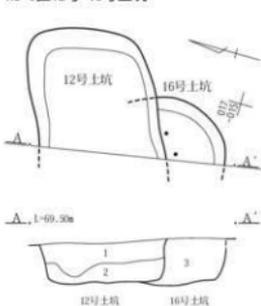
埋没状況 B混土で埋まる。

所見 確認面より10cm浮いて河床礫3点が出土したとする図が残されているが、出土位置は土坑外に及び、土坑と礫が伴出関係にあるのか、明らかではない。

R3-6区22号土坑



R3-6区12号・16号土坑



<R3-6区22号土坑> (第175図)

位置 X=32998~33000, Y=-68013~-68014

形状 溝状を呈する。

規模 長軸1.85m・短軸0.64m・深さ0.25m

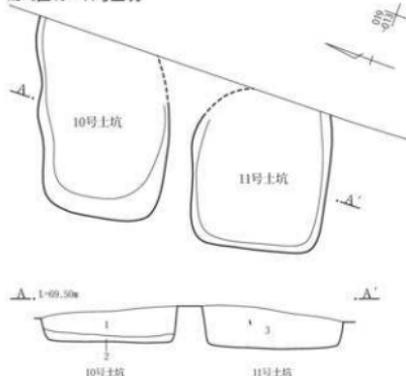
長軸方位 N-25°E

重複遺構 なし

埋没状況 ローム土を主体とする人為的な埋め土。

所見 近接する16号溝の覆土と同質だが、伴出遺物がなく、時期判定は難しい。

R3-6区10・11号土坑



R3-6区10・11号土坑

- 1 暗褐色土 細砂・粗砂を中量、黄色粒子を微量含む。粘性弱い。しまりやや弱い。
- 2 黒褐色土 細砂・粗砂多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
- 3 暗褐色土 黄色粒子を少量、細砂・粗砂が中量混じる。粘性やや弱い。しまり強い。

R3-6区22号土坑

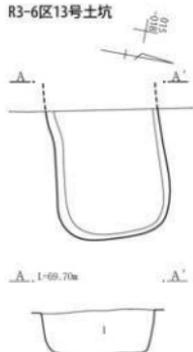
- 1 黒褐色土 極小粒の砂質土。しまり強い。粘りなし。にぶい褐色の砂質粒子を2%ほど含む。壁際にロームブロック粒を認める。

R3-6区12・16号土坑

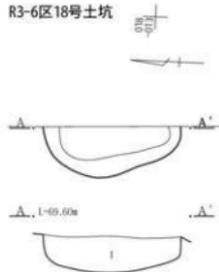
- 1 暗褐色土 黄色粒子・細砂・粗砂を少量含む。粘性弱い。しまり強い。
- 2 黒褐色土 黄色粒子を微量、細砂・粗砂が中量混じる。粘性弱い。しまりやや強い。
- 3 黒褐色土 細砂(As-B?)主体。暗褐色ブロックが少量混じる。粘性弱い。しまりやや弱い。

第175図 R3-6区土坑I

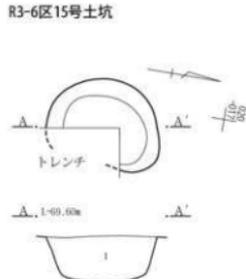
R3-6区13号土坑



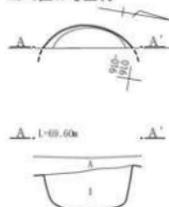
R3-6区18号土坑



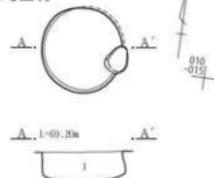
R3-6区15号土坑



R3-6区17号土坑



R3-6区19号土坑



0 1:40 1m

R3-6区13号土坑

1 暗褐色土 黄色粒子・砂粘が少量混じる。粘性、しまりやや強い。

R3-6区18号土坑

1 暗褐色土 細小粒の砂質土。φ1~10mmの褐色土砂質ブロックを5%ほど含む。しまりあり。粘りなし。円筒埴輪片を含む。As-B混土。

R3-6区15号土坑

1 黒褐色土 As-B混土。粒子の径1mm以下の砂質土。しまりなし。粘りなし。遺物を含まない。

R3-6区17号土坑

1 黒褐色土 細砂(As-B?)主体。小礫が少量混じる。粘性弱い。しまりやや強い。

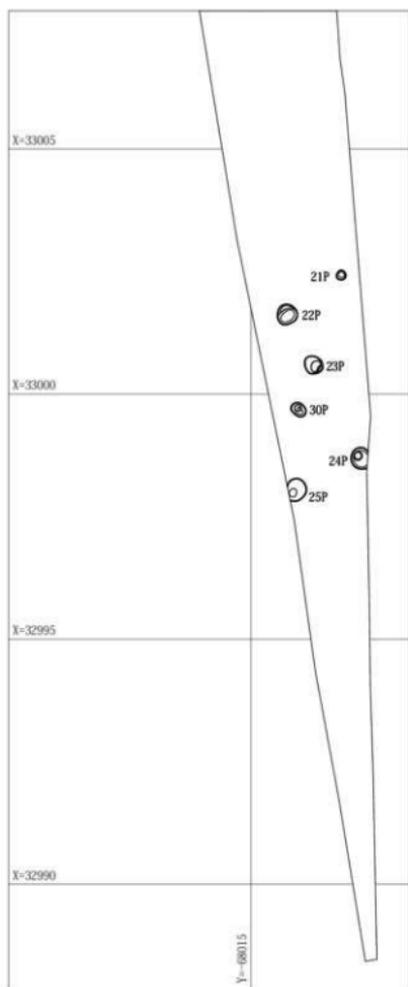
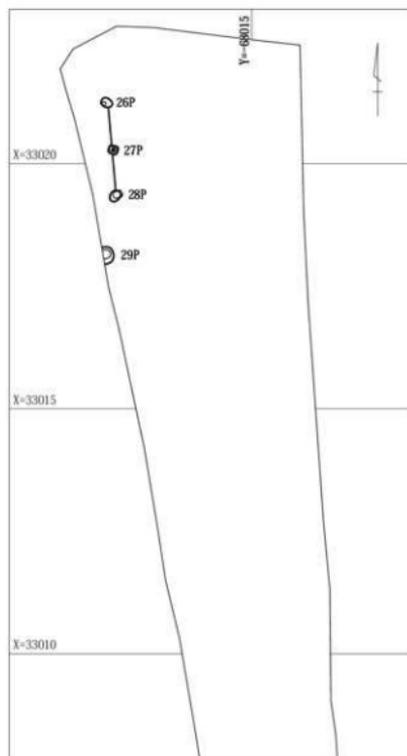
R3-6区19号土坑

1 黒褐色土 砂質。上中にφ1mm以下の褐色土ブロックを1%以下含む。粘りなし。しまりあり。As-B混土。

第176図 R3-6区土坑2

c. 柱穴

柱穴10本があり、調査区北に4本、調査区南に6本が確認されている。柱穴サイズは直径0.2~0.45m、深さ0.1~0.3m程度だが、深さ0.7mの柱穴もあり、多様である。特に建物が建つ状況にはないが、調査区北の柱穴3本(柱穴26~28)は直線的に1m間隔で並び、後述する遺物集中とも重なる。列状に並んだ柱穴は26・28が楕円タイプ、27が方形タイプの柱穴になる。柱穴27は埴輪片が覆土中にあり、遺物集中より新しい可能性がある。柱穴28は河床礫に重なり、少なくとも遺物集中より新しくなる可能性は低い。26~28は径0.2~0.25m、深さ0.1~0.3mを測る。



第177図 R3-6区柱穴分布図

第10章 岩鼻坂上北遺跡

1. 概要

本遺跡は、令和2年度調査地点の5区に当たる。調査区は県道西にあり、県道を挟んで岩鼻赤城遺跡がある。発掘対象地は南北43m弱である。調査区は南北2ヶ所があり、調査面積は287㎡(北側調査区59㎡弱、南側調査区220㎡弱)である。

検出遺構には溝2条、土坑3基があるほか、石垣1基がある。南北溝(1号)の走行は、岩鼻代官所の東側敷地のクランクする小径と並行する可能性が高く、その関連遺構として捉えておきたい。土坑についてはその形態的特徴から「イモ穴」用のそれであり、畑の区画なりを示唆するものと思われる。東西方向の溝についても区画溝になるだろうが、詳細は明らかでない。

2. 中・近世

a. 溝

溝2条がある。南北方向の溝には溝が重複するという見解が残されているが、土坑が連結したものである。東西方向の溝については県道を挟んだ岩鼻赤城遺跡の溝を踏まえて理解すべきであるが、現状でこれに繋がりそうな溝はないようである。

<R2-5区1号溝>(第179図)

位置 X=32988~33000、Y=-68033~-68035

形状 断面U字状を呈す。溝底面は土坑を連ねたような掘り方となる。

規模 幅0.86~1.00m・深さ0.59m

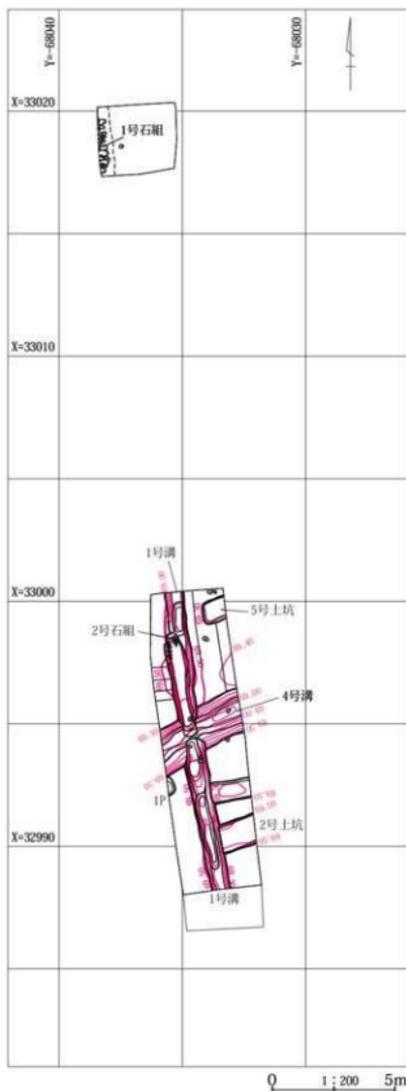
長軸方位 N-12°-W

重複遺構 4号溝、2号土坑が重複する。

埋没状況 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

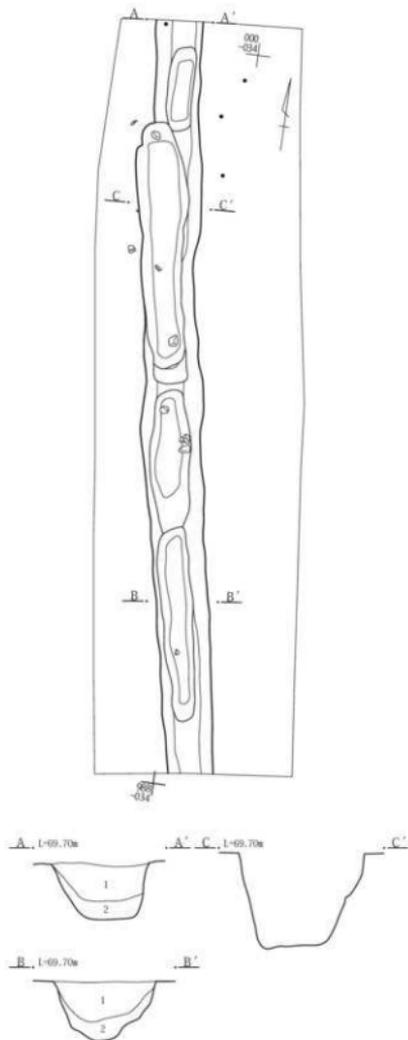
出土遺物 埴輪片6、鉄絵皿1(第270図8)、ほかが出土した。このほか、1号溝上面に河床礫の小口部を横位(東西)に向けた状態で出土しているが、連続性に欠け、評価が難しい。

所見 4号溝北には、土坑状の掘り方がある。これを前後関係と捉え別に溝番号を付しているが、南側にも同様な土坑状の掘り方があり、特に前後関係として捉える必要はない。



第178図 岩鼻坂上北遺跡全体図

R2-5区1号溝



R2-5区1号溝

- 1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。均質上。締まりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒中量現状に含む。締まりあり。

<R2-5区4号溝>(第179図)

位置 X=32992~32996、Y=-68032~-68035

形状 1号溝と同様、溝断面はU字状を呈しているが、1号溝よりやや開き気味に見える。

規模 幅(3.52)m・深さ0.44m

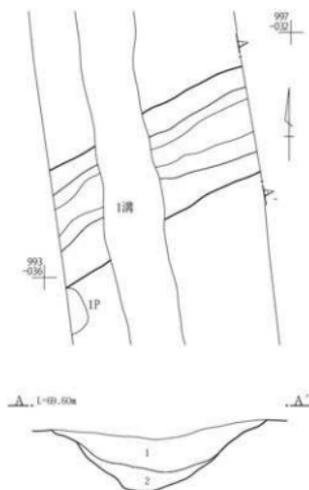
長軸方位 N-65°-E

重複遺構 1号溝が重複する。

埋没状況 ローム粒子を含む暗褐色土で埋まる。

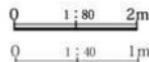
出土遺物 なし

所見 1号溝と4号溝の前後関係は明らかではないが、1号溝の調査が先行する。セオリー通り調査しているとすれば、これが新旧関係となる。溝の走行は土坑の軸方向に近く、関連性が窺われる。



R2-5区4号溝

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。均質上。締まりあり。
- 2 黒褐色土 ロームブロック中量含む。締まりあり。



第179図 R2-5区1・4号溝

b. 土坑

土坑3基が確認されている。いずれも長方形を呈し、「イモ穴」とされることが多い。1号溝は土坑状の掘り方が連続するような構造があり、これを土坑として調査したのもあるが、これについては欠番とした。

<R2-5区2号土坑>(第180図)

位置 X=33020~33021, Y=-68014~-68015

形状 長方形を呈す。断面は箱状に近い。

規模 長軸(1.44)m・短軸1.20m・深さ0.18m

長軸方位 N-70°-E

重複遺構 1号溝に重複する。

埋没状況 ローム粒子、ブロックが混じる暗褐色土で埋まる。

所見 当初は溝として調査されたものであるが、底面が平坦であり、土坑と判断した。形態的特徴は「イモ穴」に近い。



R2-5区2号土坑

1 黒褐色土 ロームブロック中量、赤褐色粒少量含む。締まりあり。

0 1:40 1m

第180図 R2-5区2号土坑

<R2-5区5号土坑>(第181図)

位置 X=33020~33021, Y=-68014~-68015

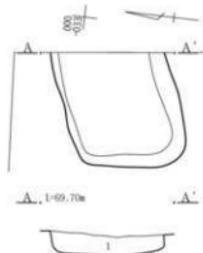
形状 長方形を呈す。断面は箱状に近い。

規模 長軸(0.96)m・短軸0.92m・深さ0.16m

長軸方位 N-70°-E 重複遺構 なし

埋没状況 ローム粒子、ブロックが混じる暗褐色土で埋まる。

所見 当初は溝として調査されたものであるが、底面が平坦で、2号土坑と同様、土坑と判断した。形態的特徴は「イモ穴」に近い。



R2-5区5号土坑

1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。締まりあり。

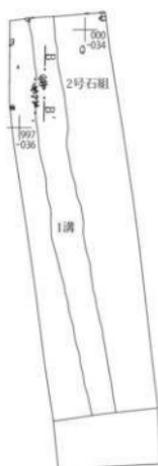
第181図 R2-5区5号土坑

c. 石垣

北側調査区にある。石垣は略南北軸を指しており、1号溝とも軸方位が近い。

確認状況 北側調査区の西壁際にあり、南北2.35mが確認されている。壁際にあり、平面確認しただけであるが、手前側にロームで固定した大形の河床礫、奥側に拳大の河床礫がある。大形の河床礫は長さ40cmほどで、小口部を東西方向に置き隙間なく並べている。壁際には小形礫が多く見られた。

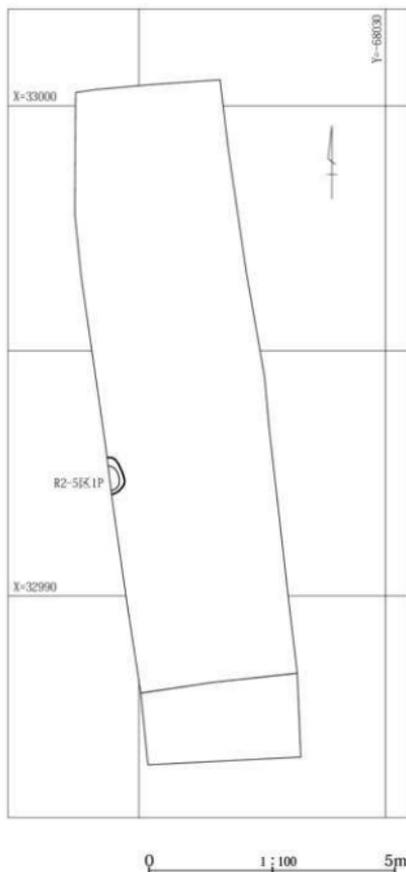
所見 大形の河床礫を「小口積み」した石垣で、小形礫は裏込め石になる。手前にロームがあり、根石部分に当たるものと思われる。石垣はクランクする陣屋東の小径の延長上にあり、段造成された畑の地境になるものと思われる。平面確認し止まり石垣の全貌が不明であり、出土遺物もなく石垣の構築時期も不明だが、地境になるようであれば、石垣の構築時期は近世後半期遺構となるだろう。



第182図 R2-5区1・2号石堀

d. その他の遺構

4号溝南にR2-5区1号柱穴がある。形状は方形か長方形形状を呈するものだろうが、遺構は調査区外へ延び、全体形状は不明である。現場ではピットとして取り上げているが、形態的にはピットというより土坑に近い。4号溝を切りピットが掘り込まれている。出土遺物はない。



第183図 R2-5区1号柱穴

遺物 図 版 遺物 觀察表

綿貫堤西遺跡	183
綿貫千葉西遺跡	185
岩鼻塚合遺跡	271
岩鼻延養寺遺跡	271
岩鼻天神遺跡	272
岩鼻赤城遺跡	310
岩鼻坂上北遺跡	325

土師器・須恵器等観察表凡例

<種類> 文化庁文化財部記念物課監修2010年「発掘調査のてびき」に準じて土師器、須恵器、黒色土器、釉輪陶器(奈良三彩、灰輪陶器、緑輪陶器)、土製品等に種別している。

<器種> 文化庁文化財部記念物課監修2010年「発掘調査のてびき」に準じて器種名称を使用した。なお、杯と椀の区分は器高/口径比が大きいものを椀とした。盃と甕との区分は頸部/胴部最大径比によって区分。例外として胴部最大径より頸部径の大きい形態を広く盃と呼称した。

<残存率> 観る全体の比率で「定形」、「」表示している。なお、1/4以下については「口縁部片」、「底部片」等の部位片で表示している。

<計測値> 計測箇所は以下のように省略した。口：口径、底：底径、高：器高、台：高台径、頸：頸部径、孔：瓶・甕・有孔鉢などの底部に設けられた孔径等である。この他の略称は備考等に示した。単位はcmである。

<備考> 灰輪陶器は益投古楽跡郡と東濃古楽跡郡とを、緑輪陶器は東海産、畿内産、近江産の区分、可能な限り年代または窯式期を記載した。

埴輪観察表凡例

<計測値> 口径・底径は、1/3以上のものは復元値を()で表記した。④の高さは現状数値で< >で表記する。

<胎土> 砂砂礫粒混入の割合により、A極めが多い(10%)、Bやや多い(5%)、C普通(2~3%)、D少量(1%以下)に分類した。胎土中に含まれるチャートや片岩等の特徴的な岩片については分かる範囲で記載した。

<焼成> A良好、B普通、C不良に3区分したうえで、焼き上りの状態により、1硬質、2普通、3軟質に区分した。

<色調> にぶい黄褐色(10YR7/4)、浅黄褐色(7.5YR8/4、10YR8/4)、褐色(7.5YR6/6、7/6)、明褐色(7.5YR5/6)、明赤褐色(5YR5/6、5/8)、赤褐色(5YR4/6、4/8)に6区分した。

<突部> 断面形状により台形・M字形・三角形に区分したうえで、1(後の上端が突出するもの)、2(上下両端の縁が対称となるもの)、3(下端の縁が突出するもの)に区分した。断面形状(台形・M字形・三角形)はそれぞれ・M・3と略記した。

<透孔> 円形か半円形に区分、判別できないものは形態不明とした。

<ハケメ> 表裏面にハケメがある場合は、裏面のハケメ数を記入した。ハケメ数は2cmの間のハケメの数を数える。

<口縁部> 口唇が直線状のものをA、口唇がM字状のものをBとして区分したうえで、口縁部の屈曲の度合いにより1(屈曲の弱いもの)、2(中程度のもの)、3(屈曲の強いもの)に区分した。

<備考> 刻線について、その形状・長さ・幅などを記した。

鉄器観察表凡例

古銭の計測は、ミットヨ製デジタルノギスを使用、小数点3位以下を四捨五入して小数点2位までを記載した。重さは電子ばかりで計測、小数点2位を四捨五入して小数点1位までを記載した。

陶磁器観察表凡例

陶磁器類の年代は下記を参考とした。

・肥前陶磁：『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会10周年記念 九州近世陶磁学会2000

・瀬戸美濃陶磁：『愛知県史別編 窯業 2 中世・近世 瀬戸系』平成19年

・常滑陶器：『愛知県史 別編 窯業 3 中世・近世 常滑系』平成24年

・在地系内耳瀬・皿：秋本太郎「上野と周辺地域との関係―在土器の分布論から探る―」・在地系片口鉢：星野守弘「軟質陶器」『新編高崎市史 資料編 3 中世1』高崎市 1996

『海なき国々とモノとヒトの動き』内陸遺跡研究会2005

縄文土器観察表凡例

<胎土> 土器の夾雑物について、5mm以上を細砂とした。砂粒については2mm以上は粗砂粒、2mm以下は細砂粒とした。胎土中の鉱物粒については石英、輝石を基準として記載。片岩等が含まれた場合も明記した。

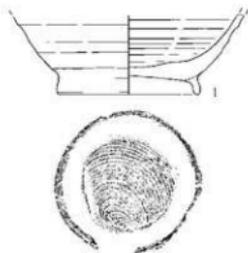
<焼成> 土器断面が均質に焼けているものを焼成良好として、均質でないものをふつうとして記載した。

<計測値> 土器は口径・底径・高さを基準に残存部位を計測した。1/2以下の推定値はカッコで数値を括弧した。

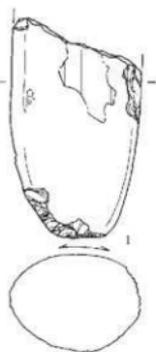
石造物・石製品観察表凡例

石器重量は電子ばかりで計測、小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを記載した。また、碑重量が1kgを超える大形品についてはg単位で記載、遺物の欠損している場合は計測値をカッコで括弧した。石臼の欠損品については直径等が復元できる場合は()で括弧、復元した数値を記した。

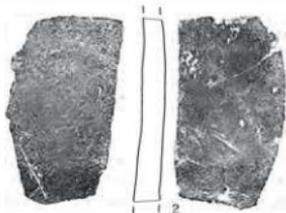
R1-13区2号溝



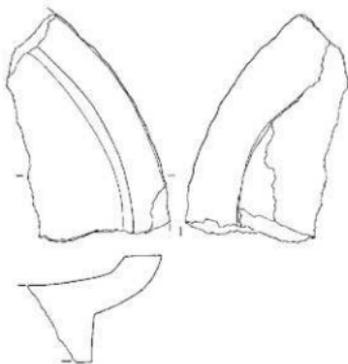
R1-13区5号溝



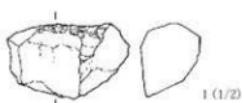
R1-13区7号溝



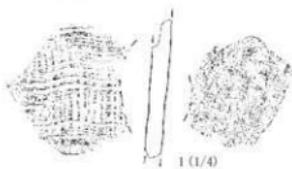
R1-13区1号地下式土坑



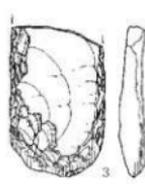
R1-13区13号土坑



R1-13区20号土坑



R1-13区遺構外



0 1:3 10m

第184图 R1-13区2・5・7号溝、R1-13区13・20号土坑、1号地下式土坑、R1-13区遺構外出土遺物

綿貫堤西遺跡 遺物観察表

R1-13区1号溝

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第184区 PL.53	1	礫石器 礫石	フク土 完形	長 幅	17.7 9.3	厚 重 5.3 1342.9	粗粒輝石安山岩// 小口部両端を敲打、破損する。掌サイズの礫石としては 大形の部類。	扁平礫/写真 のみ

R1-13区2号溝

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第184区 PL.53	1	須恵器 鉢	+24.2 底部～体部	底台 幅	8.5 8.4	厚 重 /	細砂粒・粗砂粒/還元 輪/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付。	
第184区 PL.53	2	石製品 礫石?	フク土 完形	長 幅	13.8 9.5	厚 重 4.1 1042.3	粗粒輝石安山岩//	掌サイズの河床礫を用いる。表面側面部の中央付近に光 沢面が広がる。	扁平礫
PL.53	3	石製品 礫石?	フク土 完形	長 幅	6.3 4.8	厚 重 3.8 156.7	粗粒輝石安山岩//	側縁に敲打痕が残る。指先でつまむ程度の小型礫。	棒状礫/写真 のみ

R1-13区5号溝

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第184区 PL.53	1	石製品 石棒?	フク土 不明	長 幅	(13.4) 8.0	厚 重 6.9 898.8	雲母石英片岩//	下端側小口部および右辺に敲打痕が広がるほか、体部側 面が部分的に摩耗する。礫石としては大形で、器種認定 は礫形状や石材を踏えたもの。

R1-13区7号溝

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第184区 -	1	須恵器 鉢	フク土 口縁部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元輪/灰	ロクロ整形、回転は右回り。口唇部は平坦面を作る。	
第184区 -	2	常滑陶器 壺か甕	フク土 体部	口 底		高	/灰/	外面の器表赤褐色、内面の器表灰褐色。内外面撫で。	中世

R1-13区1号地下式土坑

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第184区 PL.53	1	石製品 茶臼	フク土 破片	径 高	(52.4) -	重 7.0 531	粗粒輝石安山岩//	茶臼(下臼)の受け破片。内面は丁寧に磨き研ぎされ平滑、 空気が抜けた孔は層かな気泡が抜けたようで、均質な良 質石材Ⅱ部類に入る。	
PL.53	2	石造物 板碑片	フク土 破片	長 幅	(11.1) (7.3)	厚 重 2.2 229.4	緑色片岩//	逆台形状に整形した板碑即辺の小破片。裏面側は新鮮な 割面。これに比べ表面側は若干摩耗しているように見え る。	写真のみ

R1-13区13号土坑

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第184区 PL.53	1	石製品 火打石	フク土 完形	長 幅	3.1 5.0	厚 重 2.3 47.8	石英//	厚板状剥片を用いたもの。表面側の上端稜線に敲打痕が あるほか、裏面側上端部稜線を除く各縁辺に深い敲打痕 がある。

R1-13区16号土坑

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
PL.53	1	礫石器 礫石	フク土 完形	長 幅	10.1 6.0	厚 重 4.4 416.4	粗粒輝石安山岩//	掌サイズの小型礫。小口部両端に敲打痕がある。	楕円形/写真 のみ

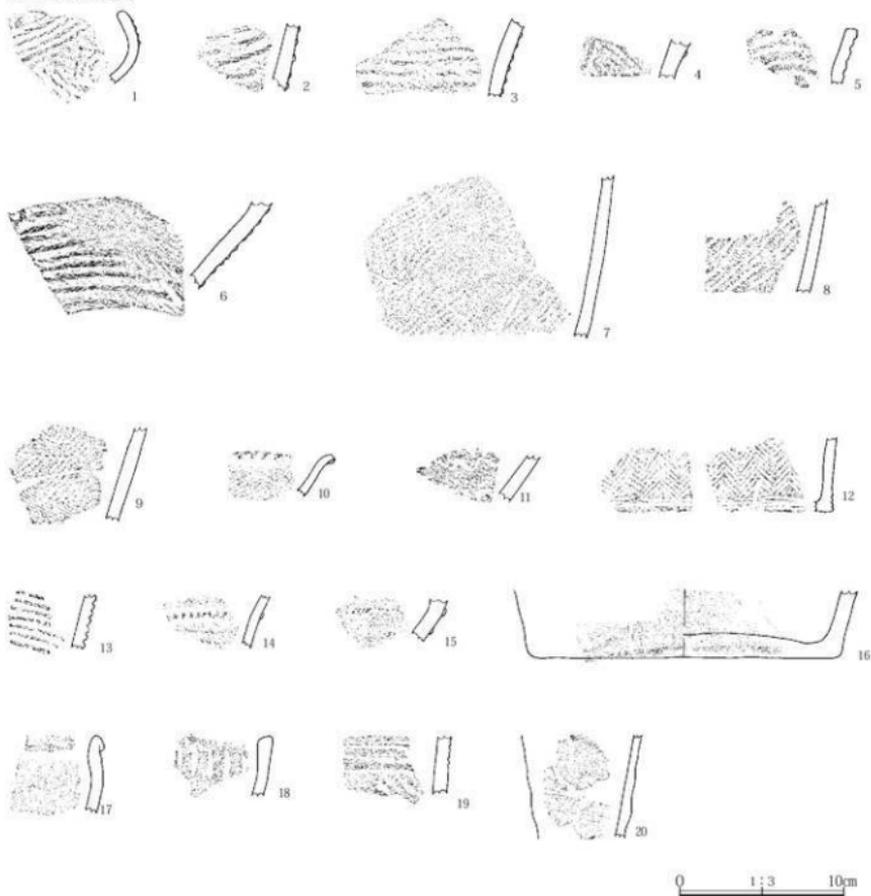
R1-13区20号土坑

種別 PL.No.	No.	出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 変形 分類 ①第1 項目 ②第2	通孔 形状	ハケム ①外側 ②内側	特徴	備考
第184区 PL.53	1	内筒輪軸 フク土	①胴部片②- ③-④(10.8)	①B 細粗砂粒・小礫・ チャート細粗砂粒 ②赤褐色③B2	- -	円	①4 ②-	外面タテハケのちヨコハケ、内面ナデ。	胎分1

R1-13区遺構外

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第184区 PL.53	1	剥片石器 打製石斧	フク土 完形	長 幅	10.5 6.9	厚 重 2.0 122.4	黒色頁岩/分銅形/	完成状態。風化が激しく、対部摩耗は不明瞭である。対 部は右辺側が大きく変形。偏刃様を呈す。	
第184区 PL.53	2	剥片石器 打製石斧	+31.1 1/2	長 幅	(9.1) 5.8	厚 重 1.6 92.8	ホルンフェルス/ 短筒形/	完成状態。対部は弧状を呈し、表裏面とも摩耗が著しい。 両側縁の加工はシャープで、対部再生に至る直前で器体 中央付近で破損したものか。	
第184区 -	3	須恵器 甕	フク土 口縁部片				細砂粒/還元輪/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。口唇部は折り返して口唇部 下の凸帯を作る。	
第184区 PL.53	4	礫石器 礫石?	フク土 完形	長 幅	6.0 4.0	厚 重 1.3 52.7	変玄武岩//	上端側小口部および左辺側縁に敲打・割面痕が点在す る。	扁平楕円礫

R3-5区8号竪穴建物

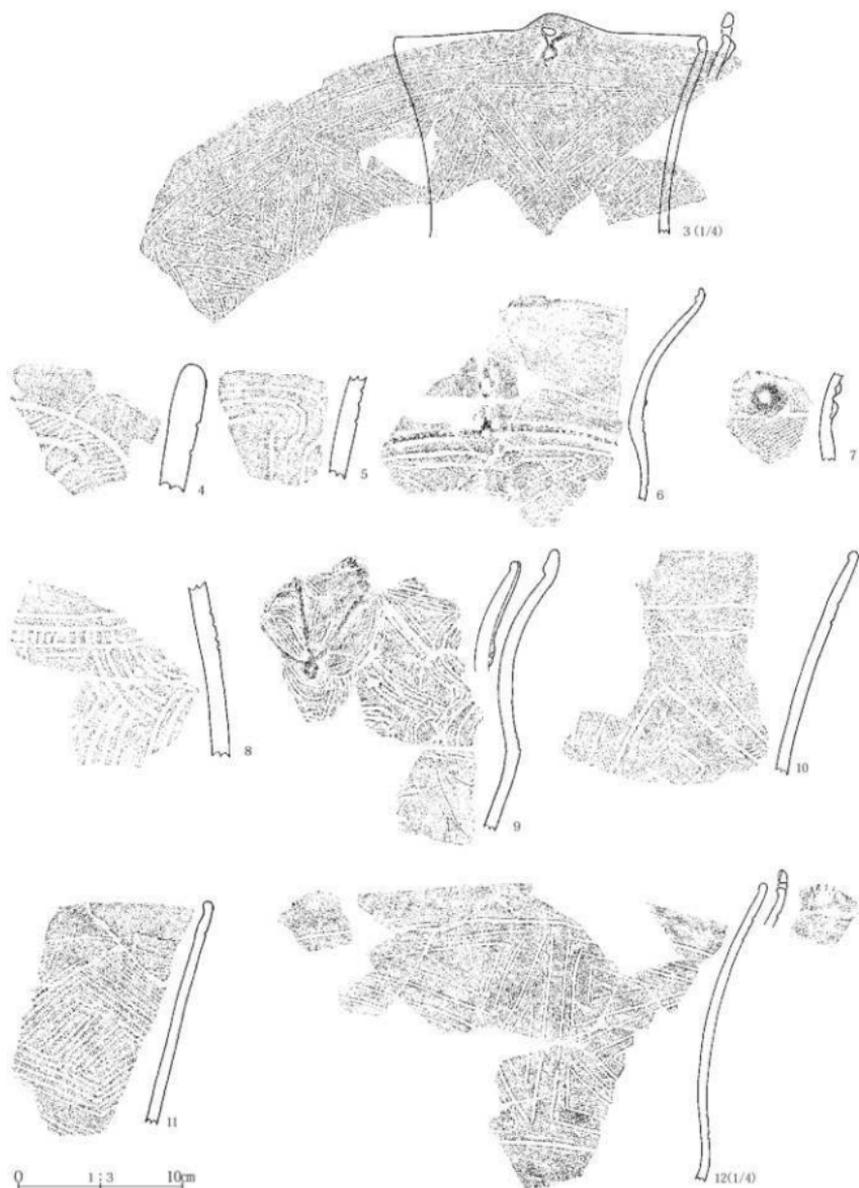


第185図 R3-5区8号竪穴建物出土遺物

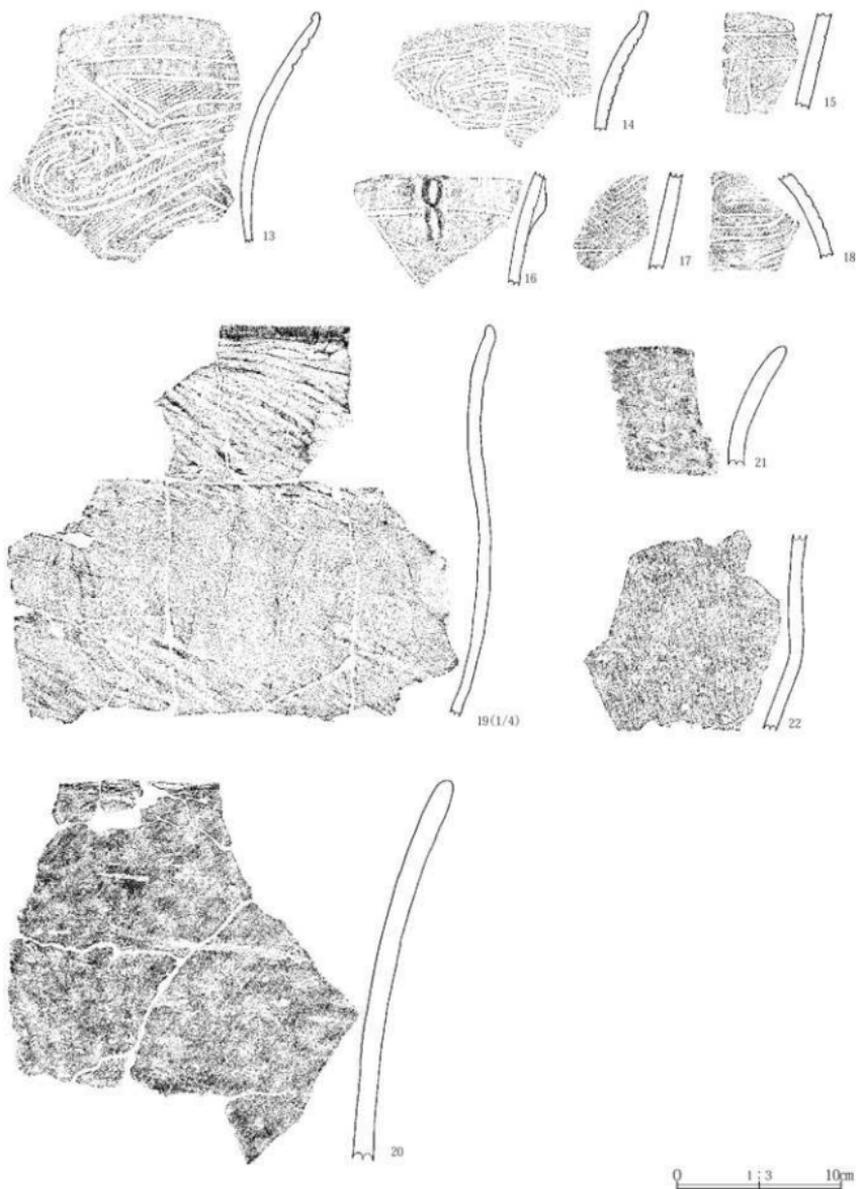


第186図 R2-3区25号竪穴建物出土遺物 1

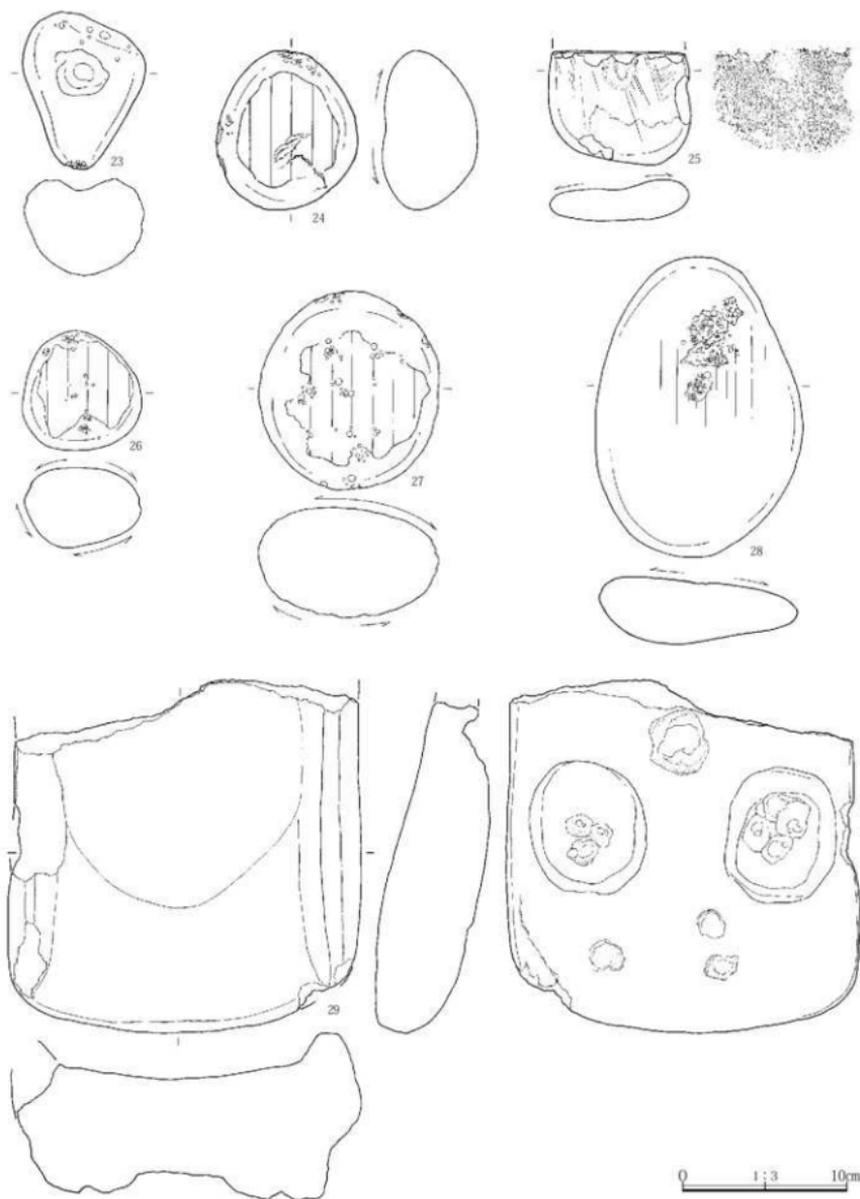
0 1:4 10m



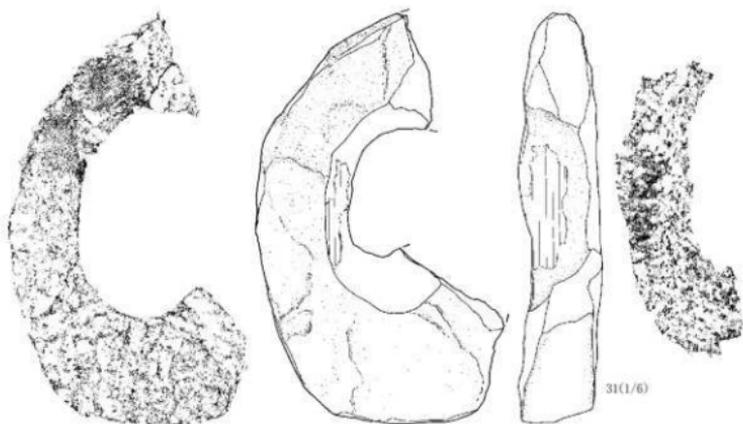
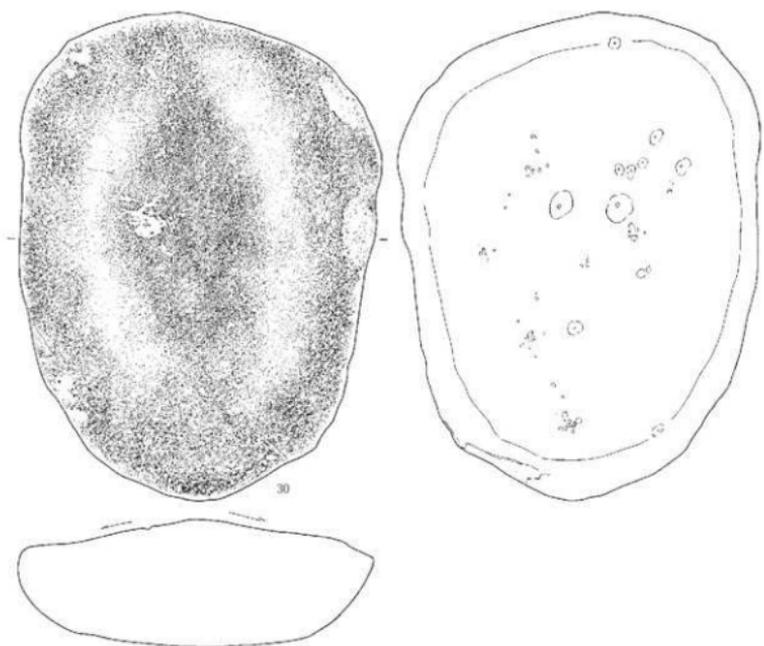
第187图 R2-3区25号壁穴建物出土遺物2



第188图 R2-3区25号竖穴建物出土遺物3

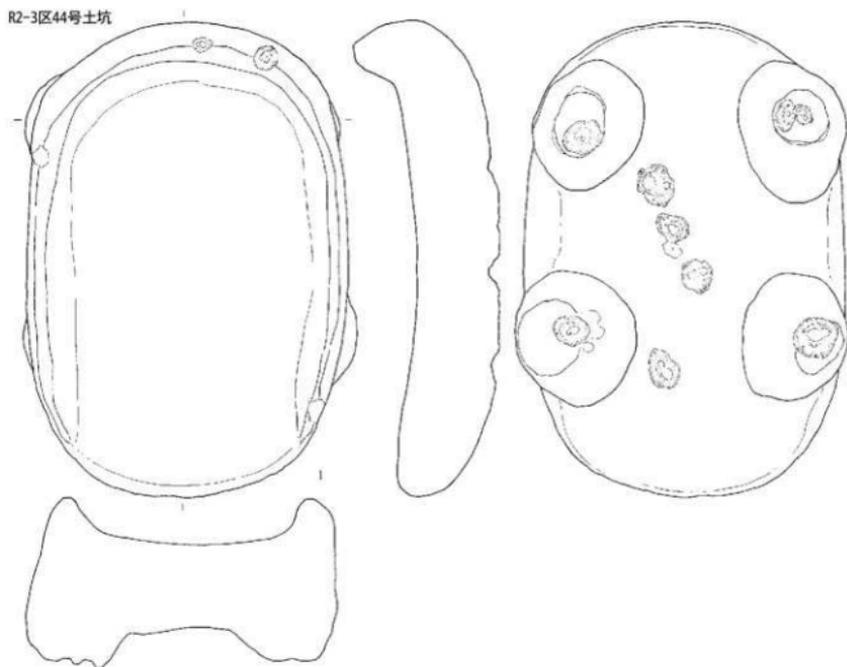


第189図 R2-3区25号竪穴建物出土遺物 4

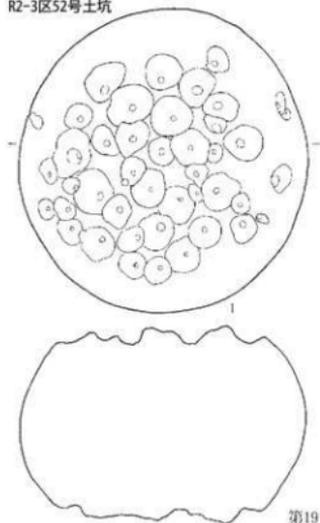


0 1:3 10cm

R2-3区44号土坑



R2-3区52号土坑



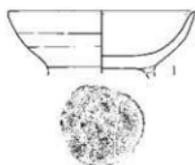
R2-3区59号土坑



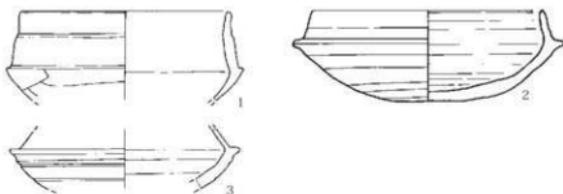
0 1:3 10cm

第191图 R2-3区44·52·59号土坑出土遗物6

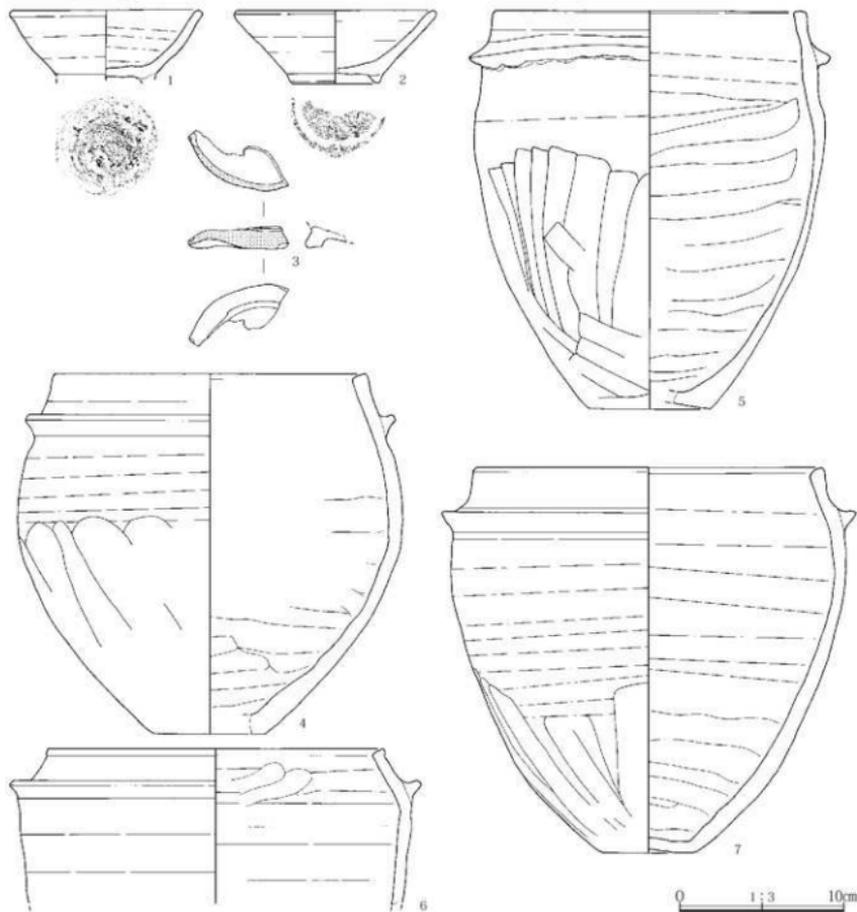
R2-3区2号竪穴建物



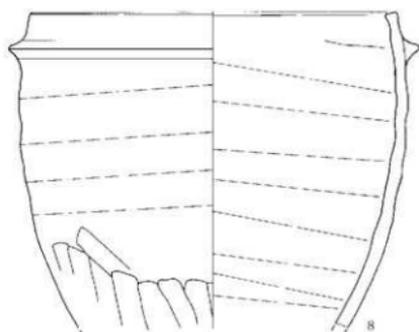
R2-3区3号竪穴建物



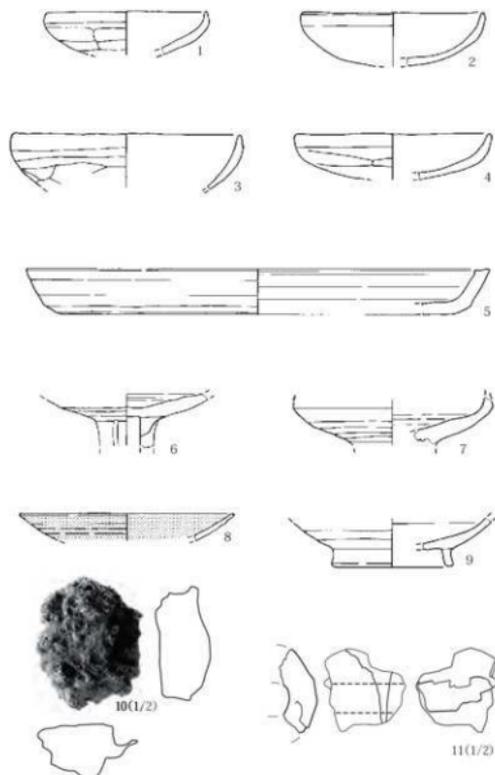
R2-3区4号竪穴建物



第192図 R2-3区2・3・4号竪穴建物出土遺物

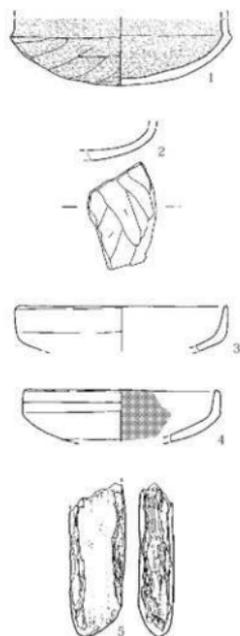


R2-3区5号竪穴建物



0 1:3 10m

R2-3区6号竪穴建物



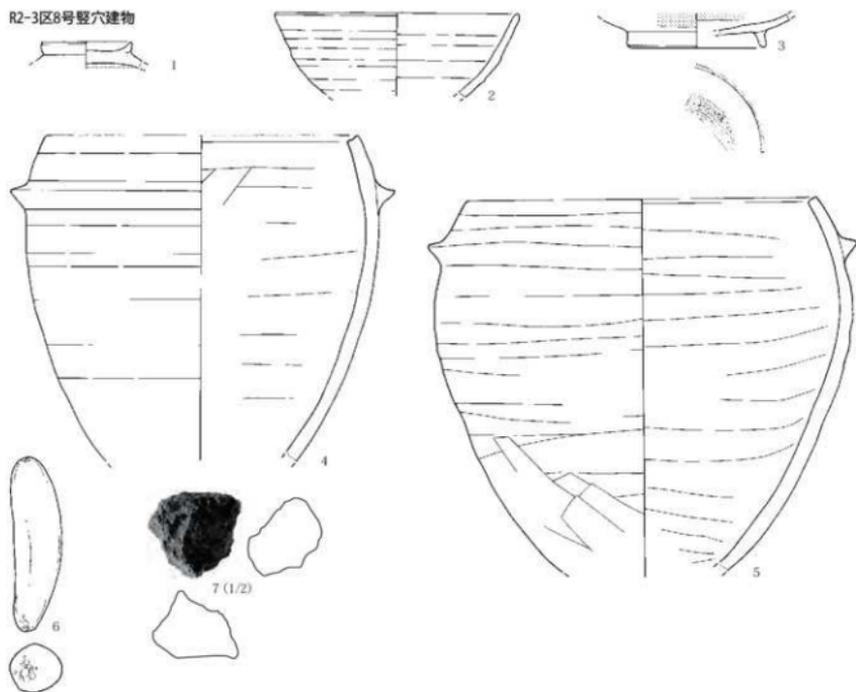
R2-3区7号竪穴建物



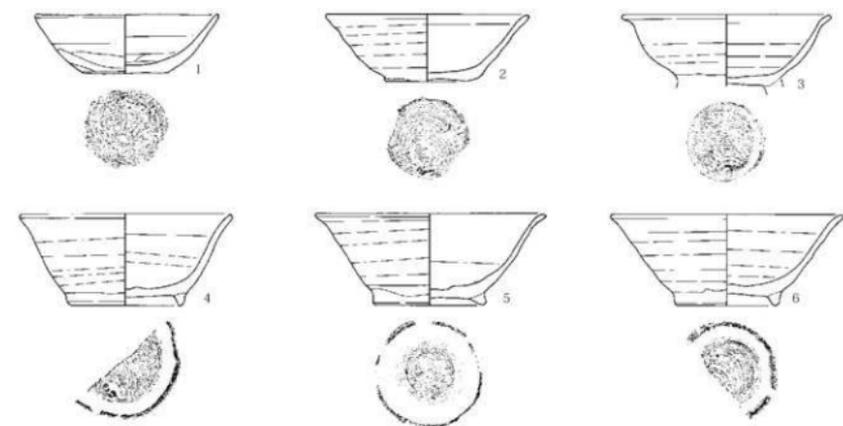
第193図 R2-3区4・5・6・7号竪穴建物出土遺物

綿貫千葉西道跡

R2-3区8号竪穴建物

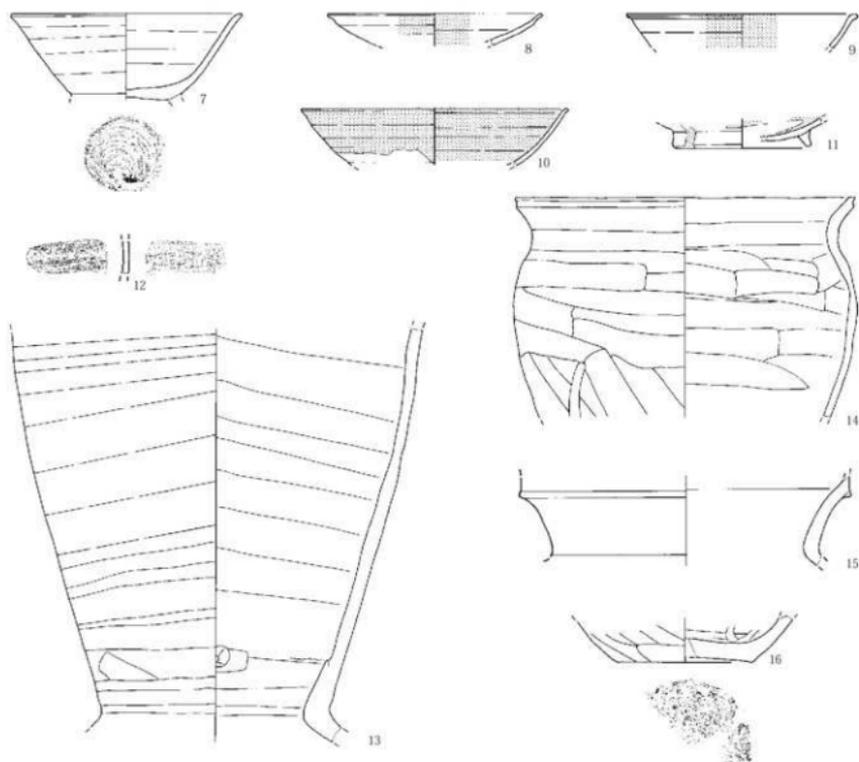


R2-3区9号竪穴建物

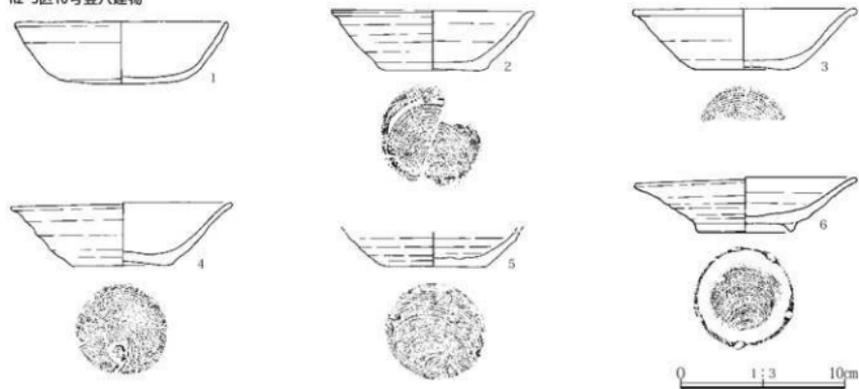


0 1:3 10m

第194图 R2-3区8・9号竪穴建物出土遺物

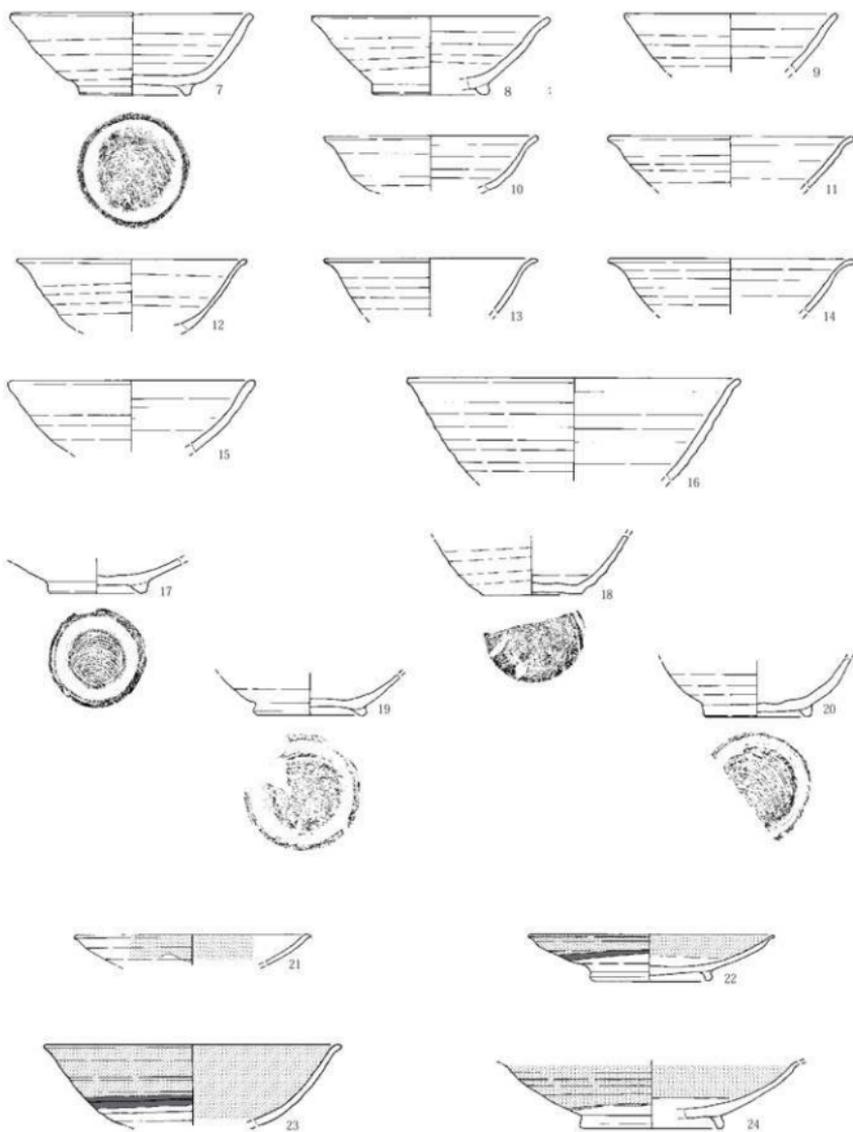


R2-3区10号竪穴建物

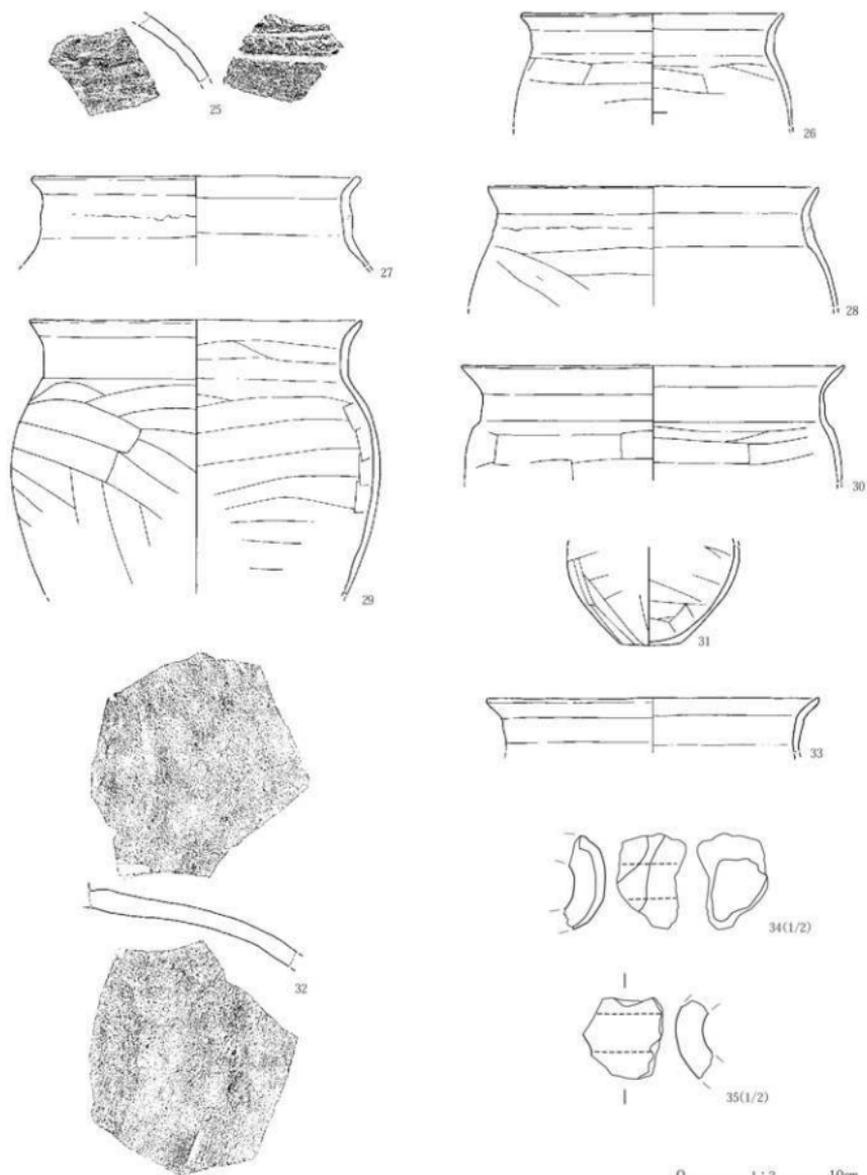


第195図 R2-3区9・10号竪穴建物出土遺物

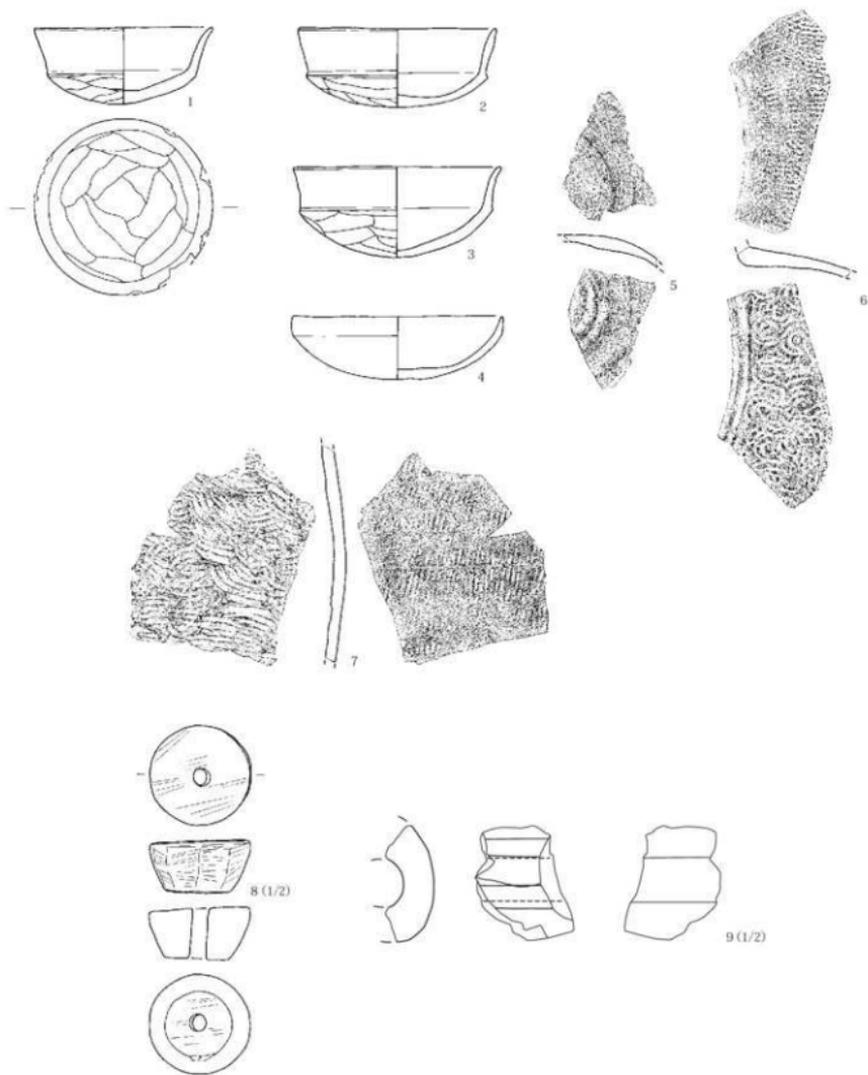
綿貫千葉西道跡



第196图 R2-3区10号竖穴建物出土遺物2



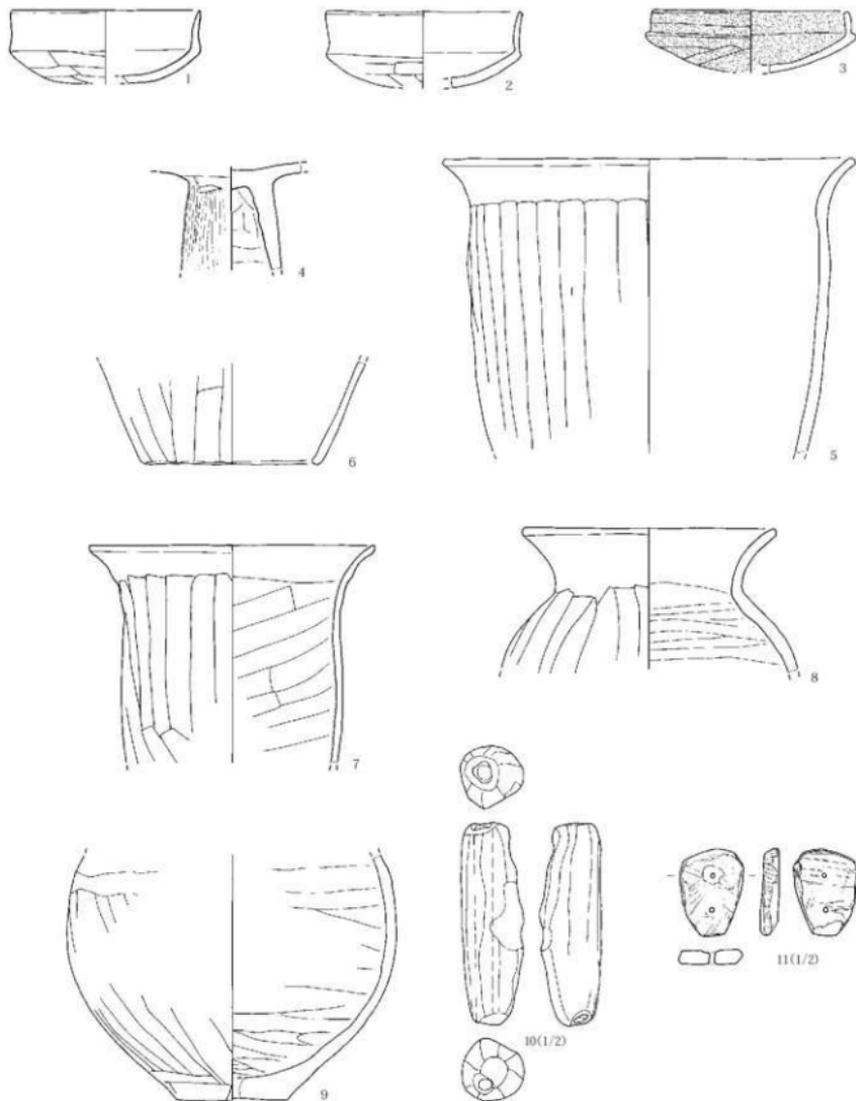
第197图 R2-3区10号竖穴建物出土遺物3



0 1:3 10cm

第198図 R2-3区11号竪穴建物出土遺物

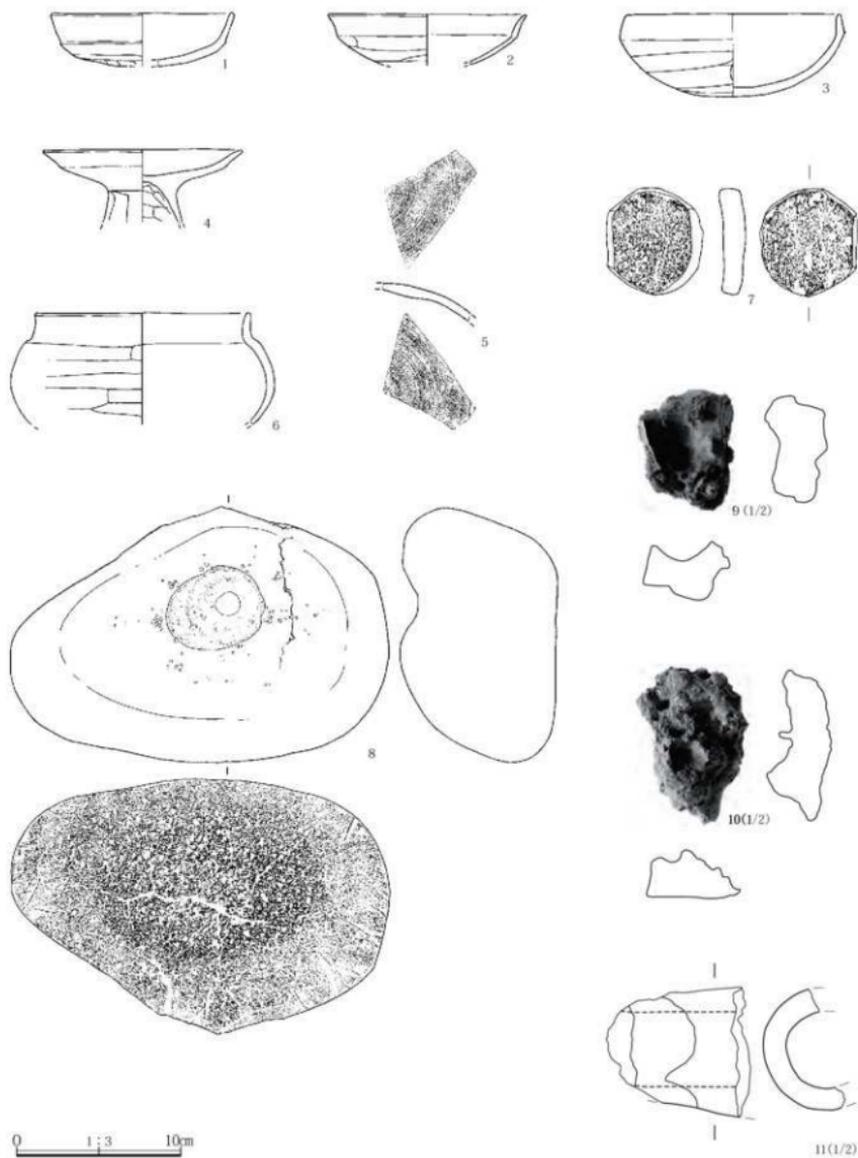
R2-3区12号竪穴建物



0 1:3 10cm

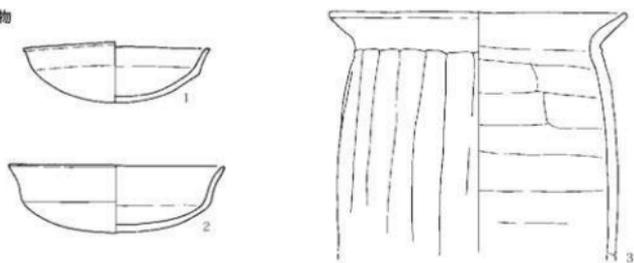
第199図 R2-3区12号竪穴建物出土遺物

R2-3区13号竪穴建物

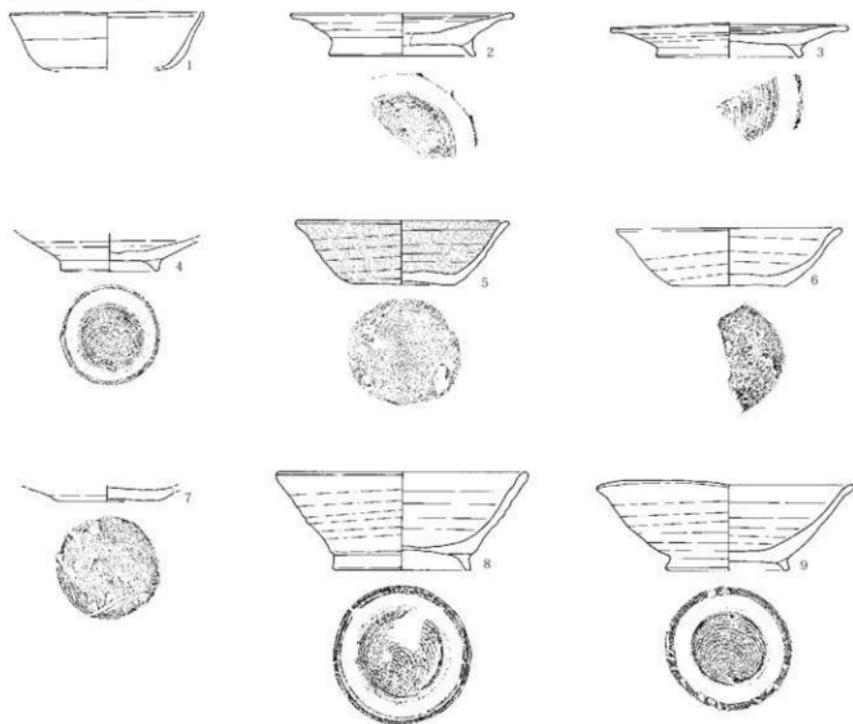


第200図 R2-3区13号竪穴建物出土物

R2-3区14号竪穴建物

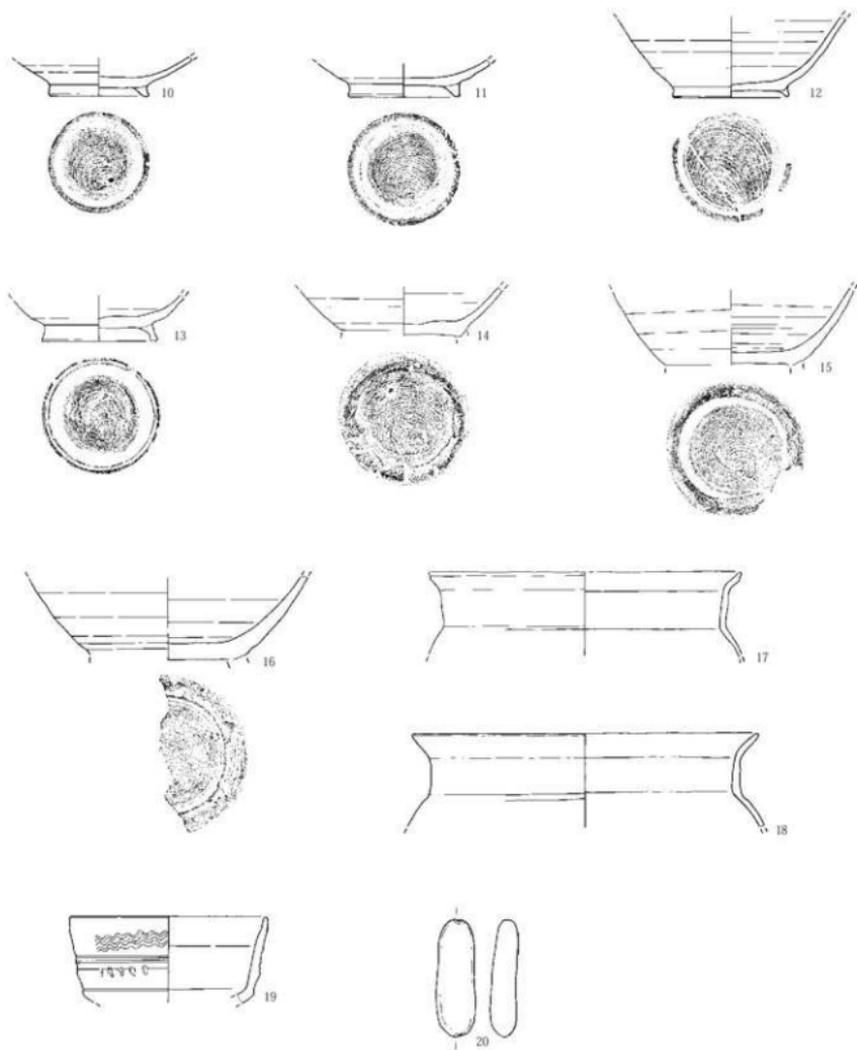


R2-3区15号竪穴建物



0 1:3 10m

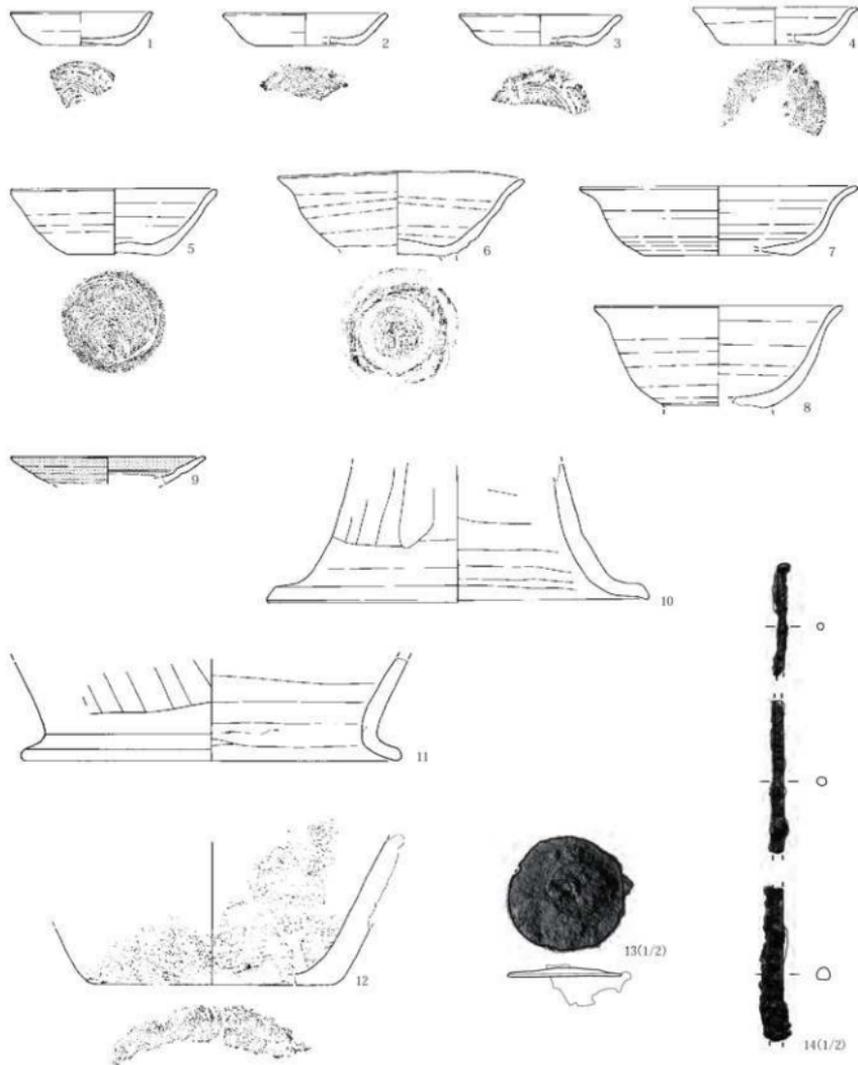
第201图 R2-3区14・15号竪穴建物出土遺物



0 1:3 10m

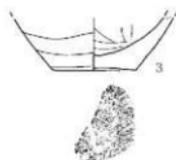
第202図 R2-3区15号竪穴建物出土遺物2

R2-3区16号竪穴建物

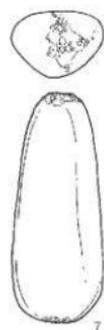
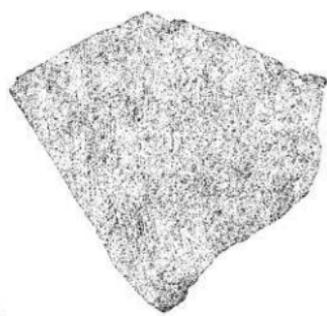
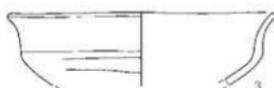


第203図 R2-3区16号竪穴建物出土遺物

R2-3区17号竪穴建物



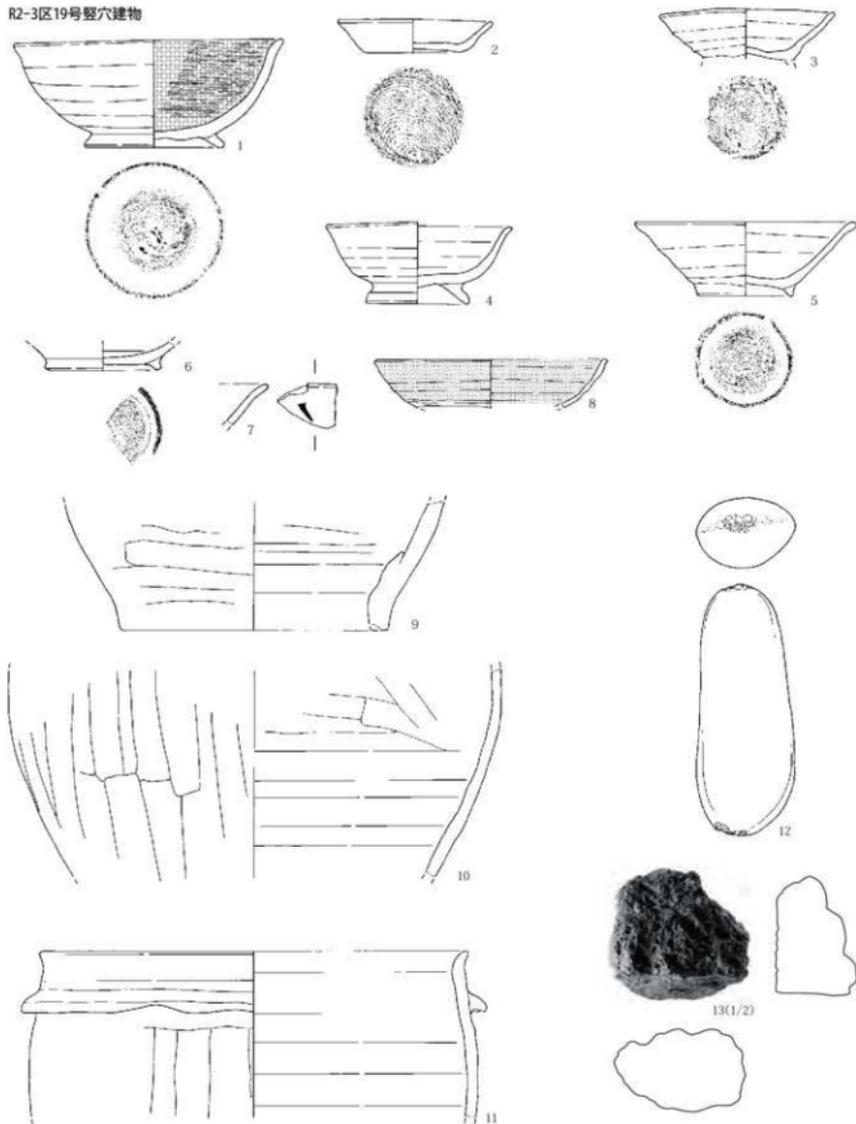
R2-3区18号竪穴建物



第204图 R2-3区17・18号竪穴建物出土遺物

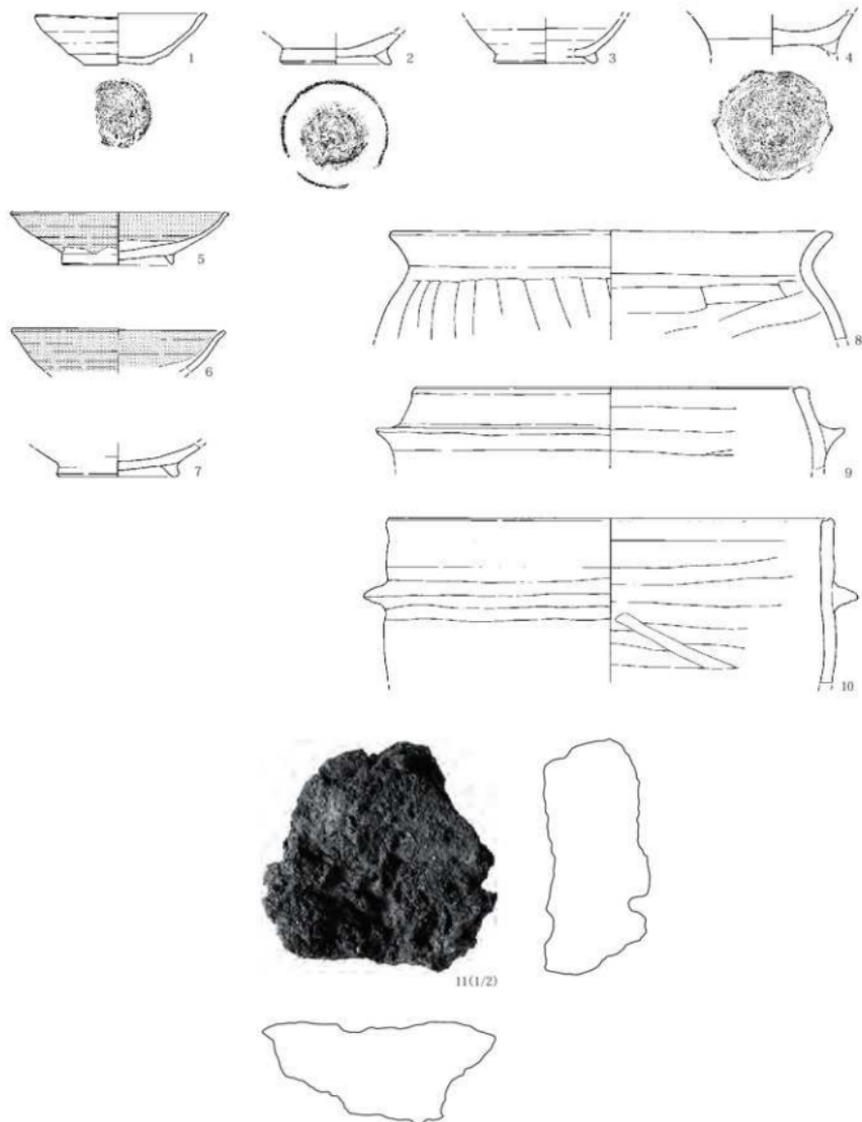
R2-3区19号竪穴建物

綿貝千葉西遺跡



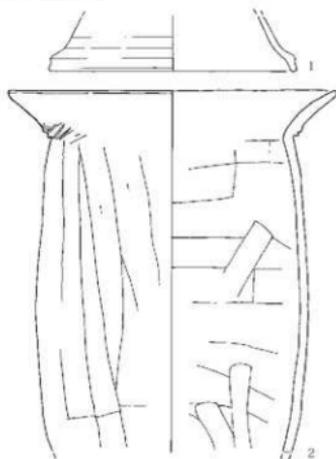
第205图 R2-3区19号竪穴建物出土遺物

R2-3区20号竪穴建物

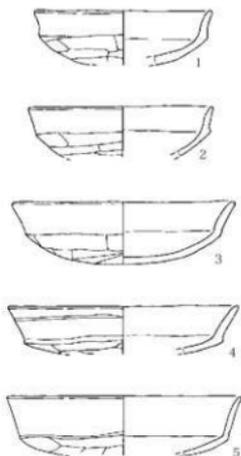


第206図 R2-3区20号竪穴建物出土遺物

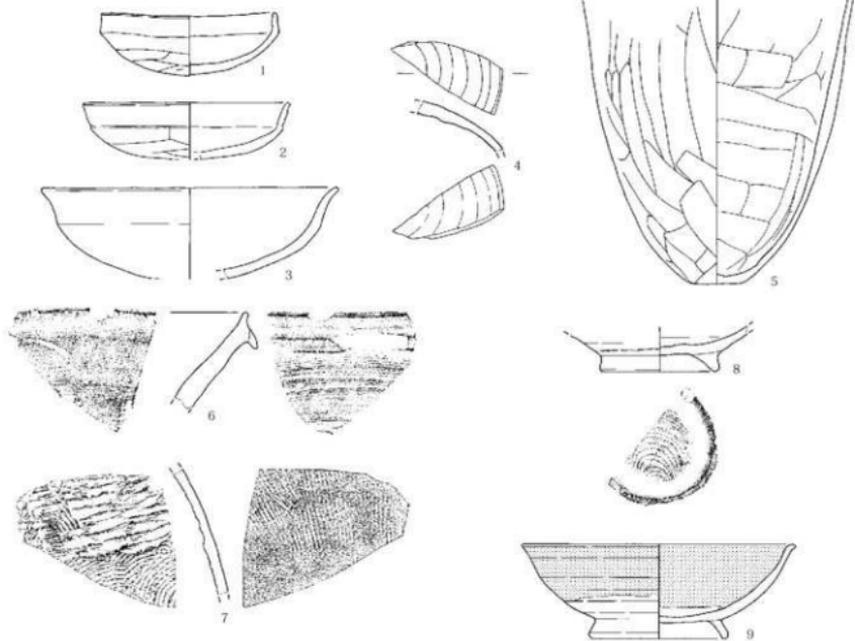
R2-3区21号竪穴建物



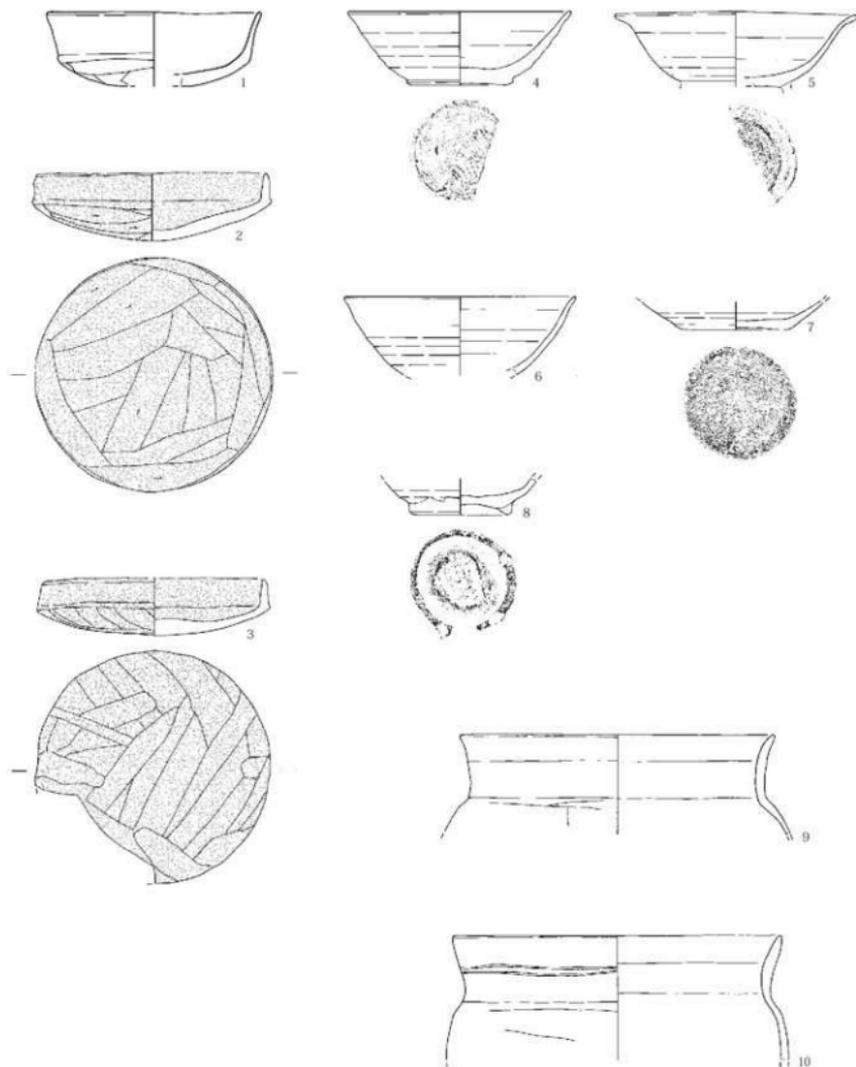
R2-3区22号竪穴建物



R2-3区23号竪穴建物

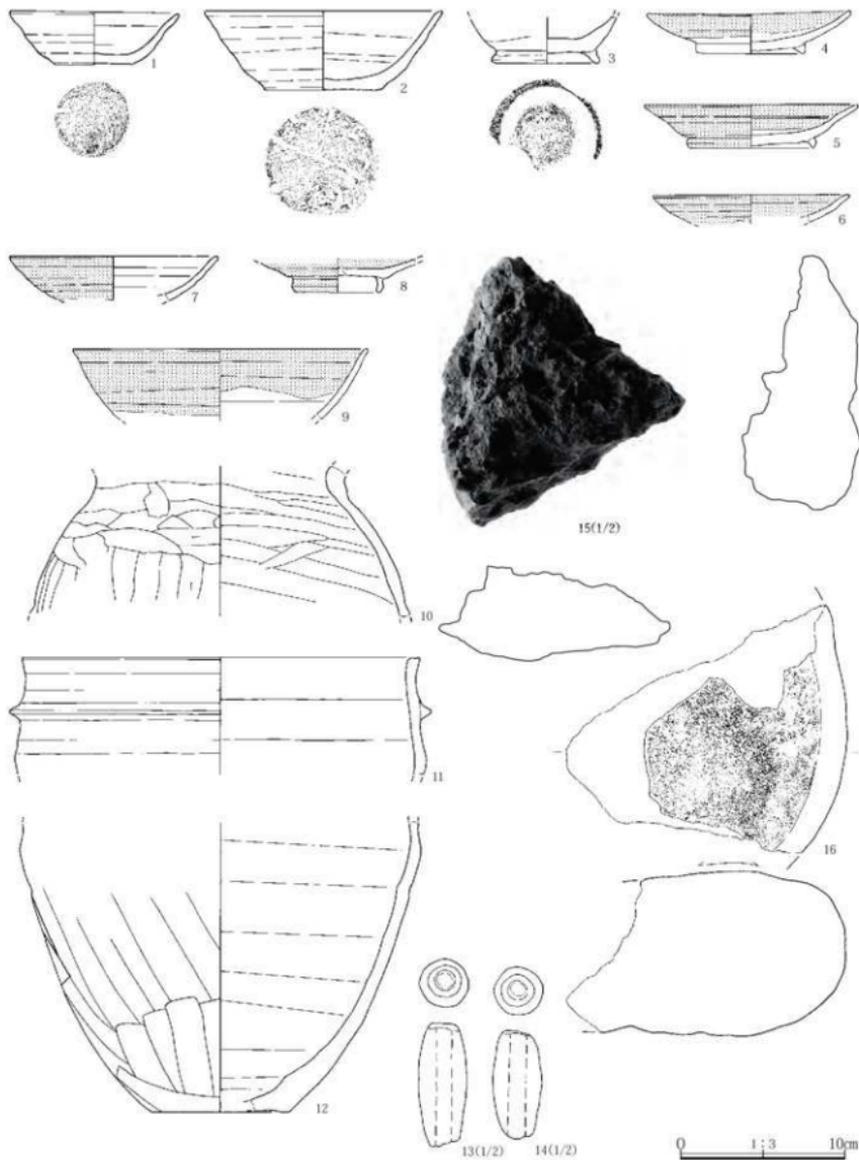


第207图 R2-3区21・22・23号竪穴建物出土遺物



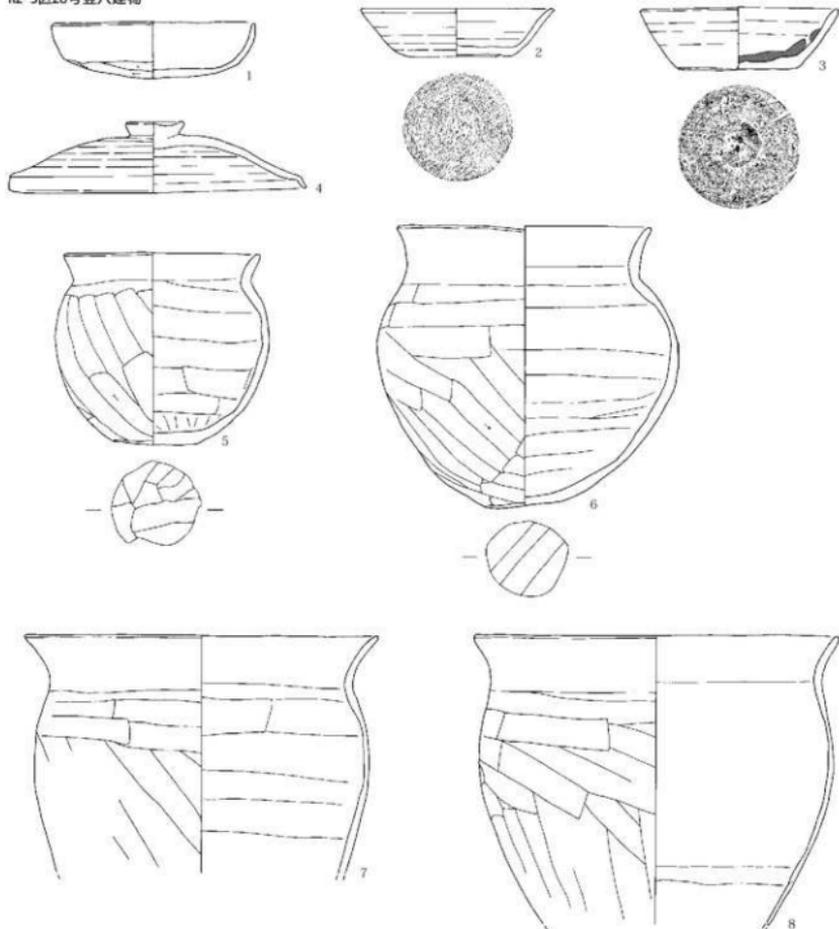
第208図 R2-3区24号竪穴建物出土遺物

R2-3区27号竪穴建物

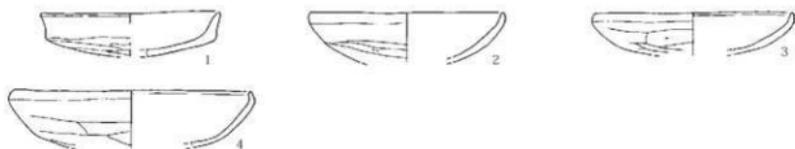


第209图 R2-3区27号竪穴建物出土遺物

R2-3区28号竪穴建物



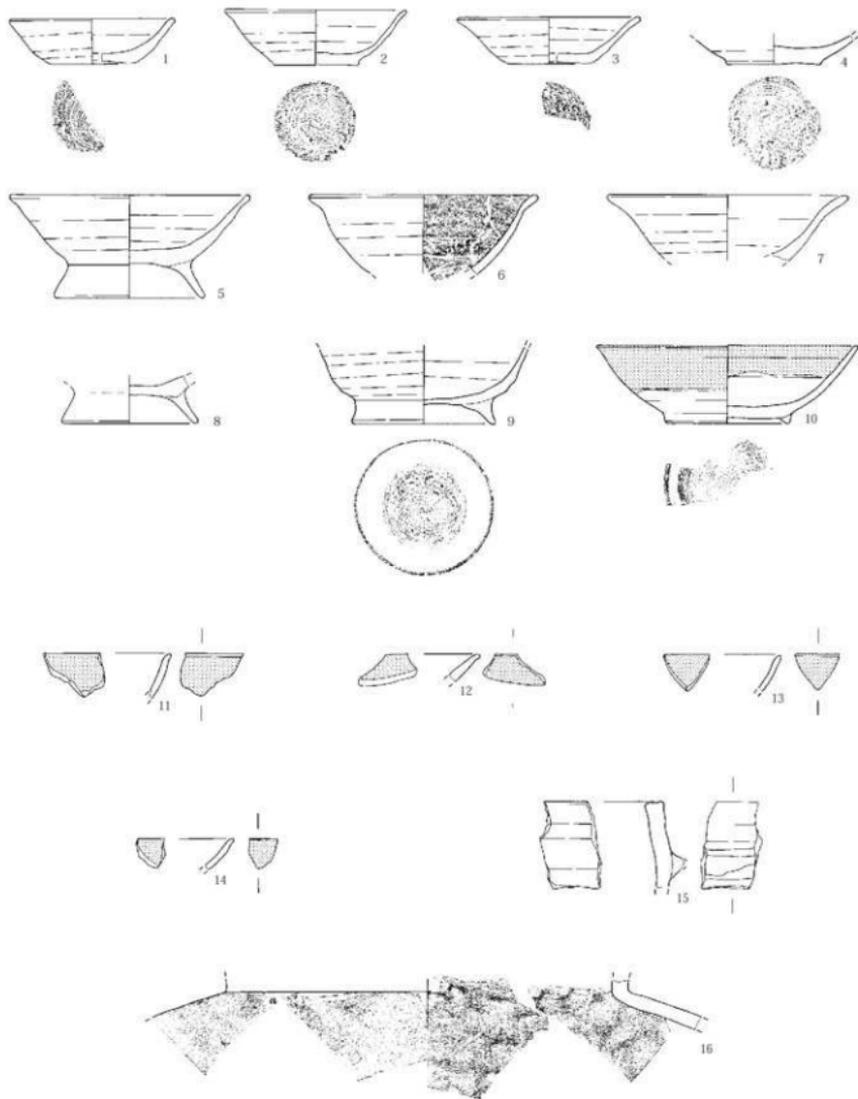
R2-3区29号竪穴建物



0 1:3 10cm

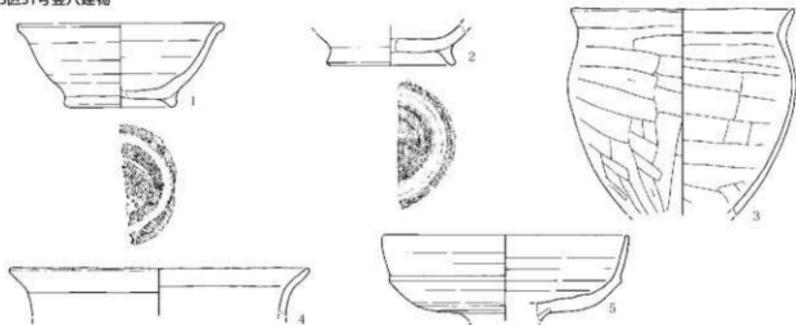
第210図 R2-3区28・29号竪穴建物出土遺物

R2-3区30号竪穴建物

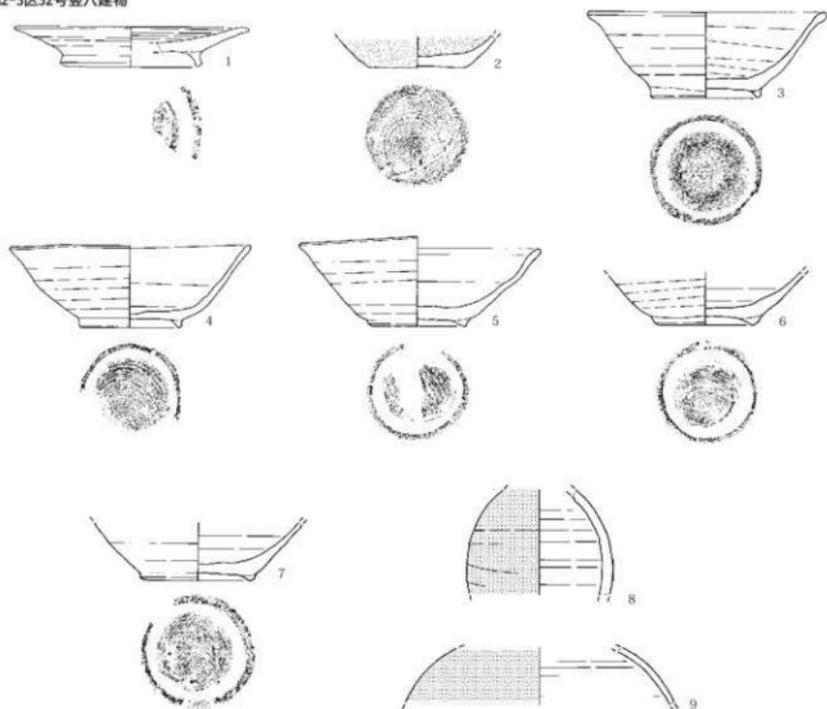


第211图 R2-3区30号竪穴建物出土物

R2-3区31号竪穴建物

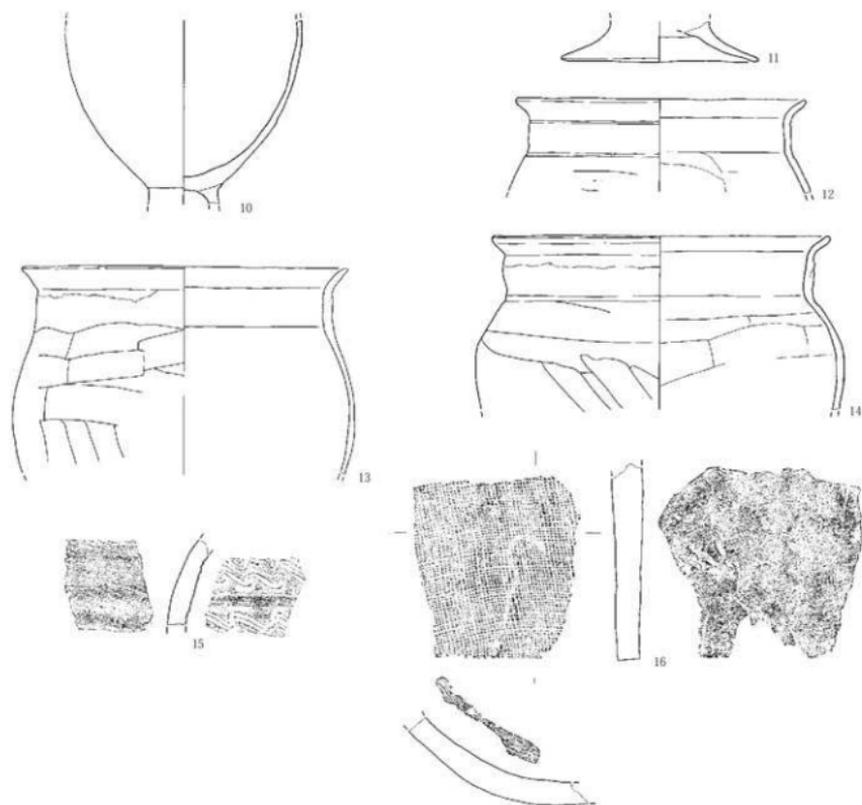


R2-3区32号竪穴建物

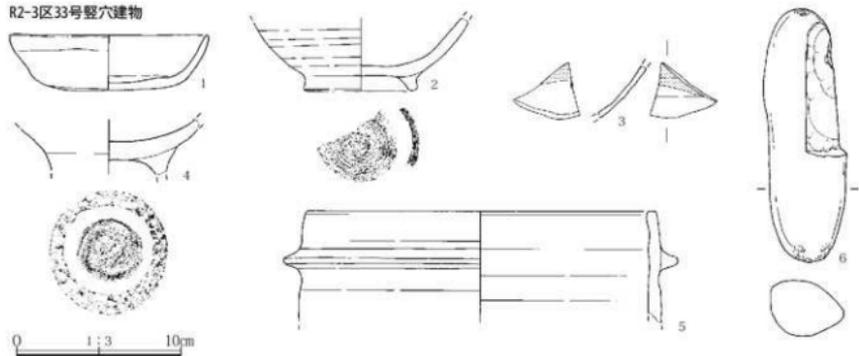


0 1:3 10m

第212图 R2-3区31・32号竪穴建物出土遺物

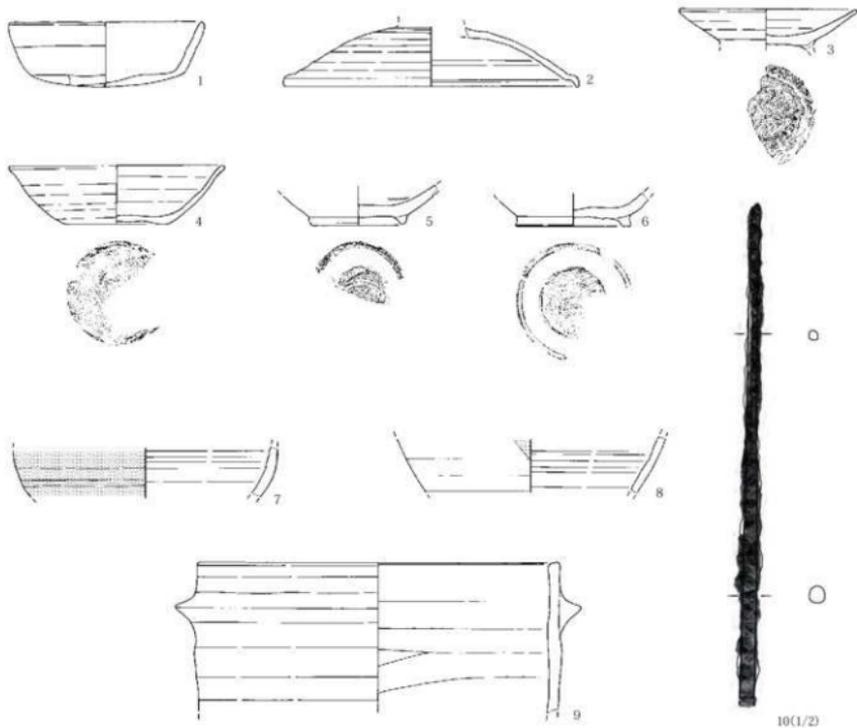


R2-3区33号竪穴建物



第213图 R2-3区32・33号竪穴建物出土遺物

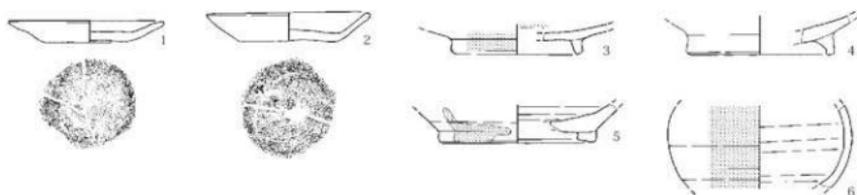
R2-3区34号竪穴建物



R2-3区35号竪穴建物



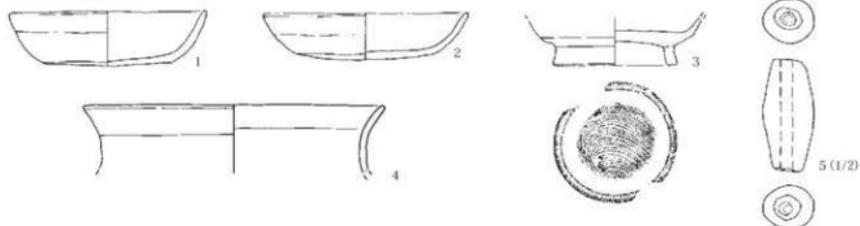
R2-3区37号竪穴建物



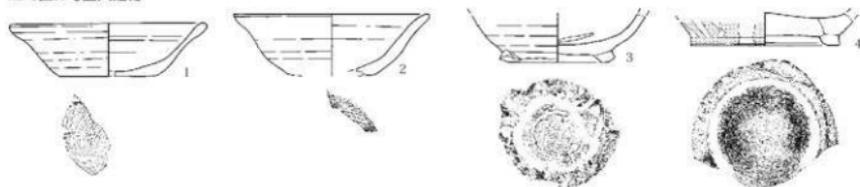
0 1:3 10cm

第214图 R2-3区34・35・37号竪穴建物出土遺物

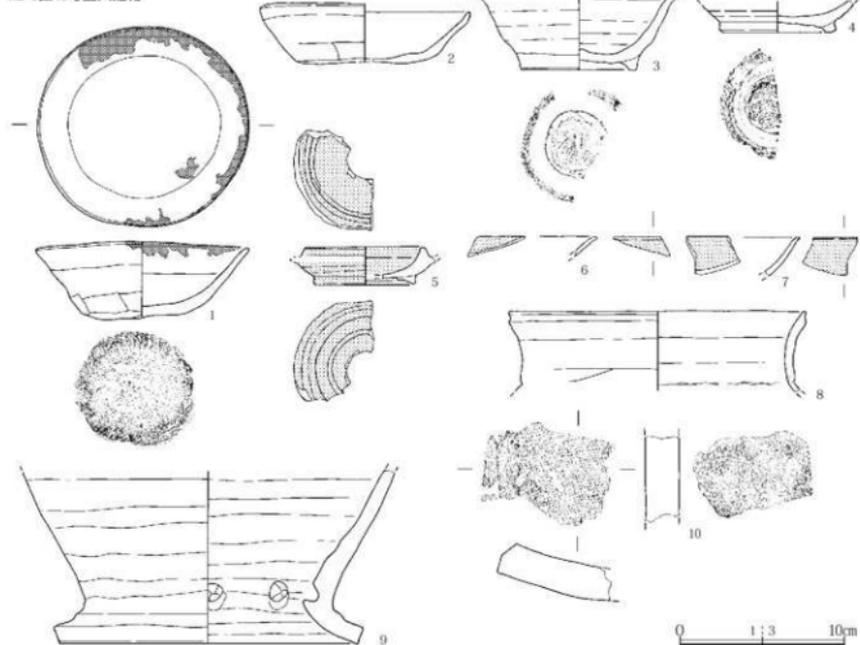
R2-3区38号竪穴建物



R2-3区39号竪穴建物

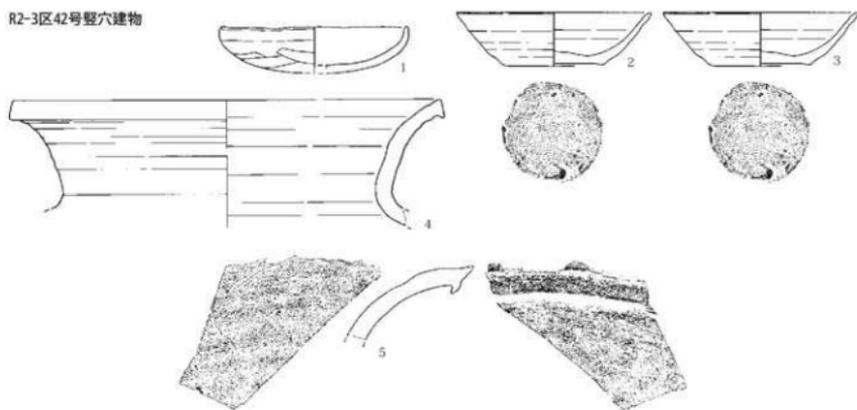


R2-3区40号竪穴建物

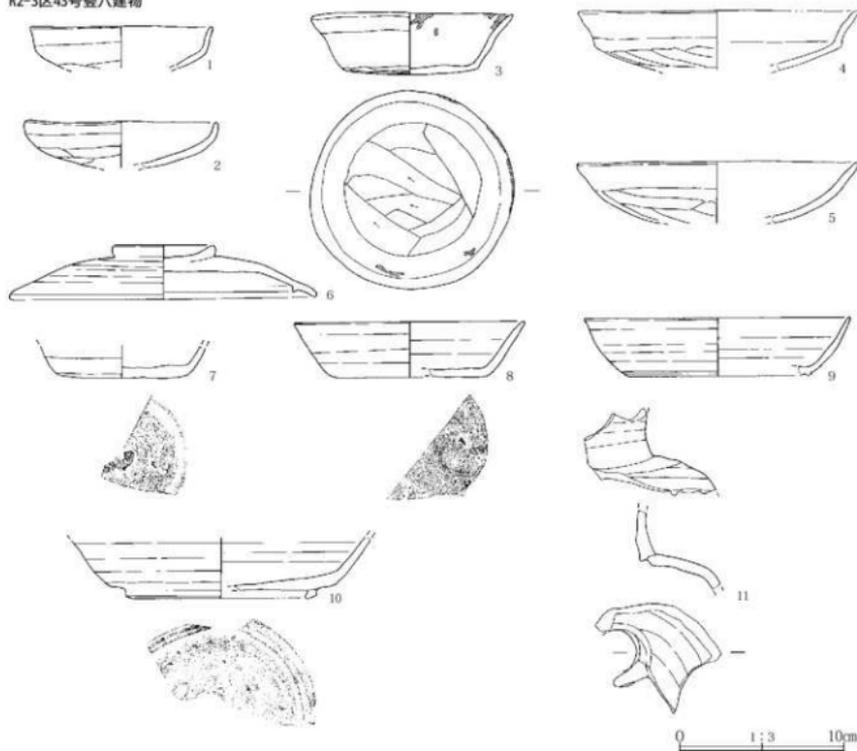


第215図 R2-3区38・39・40号竪穴建物出土遺物

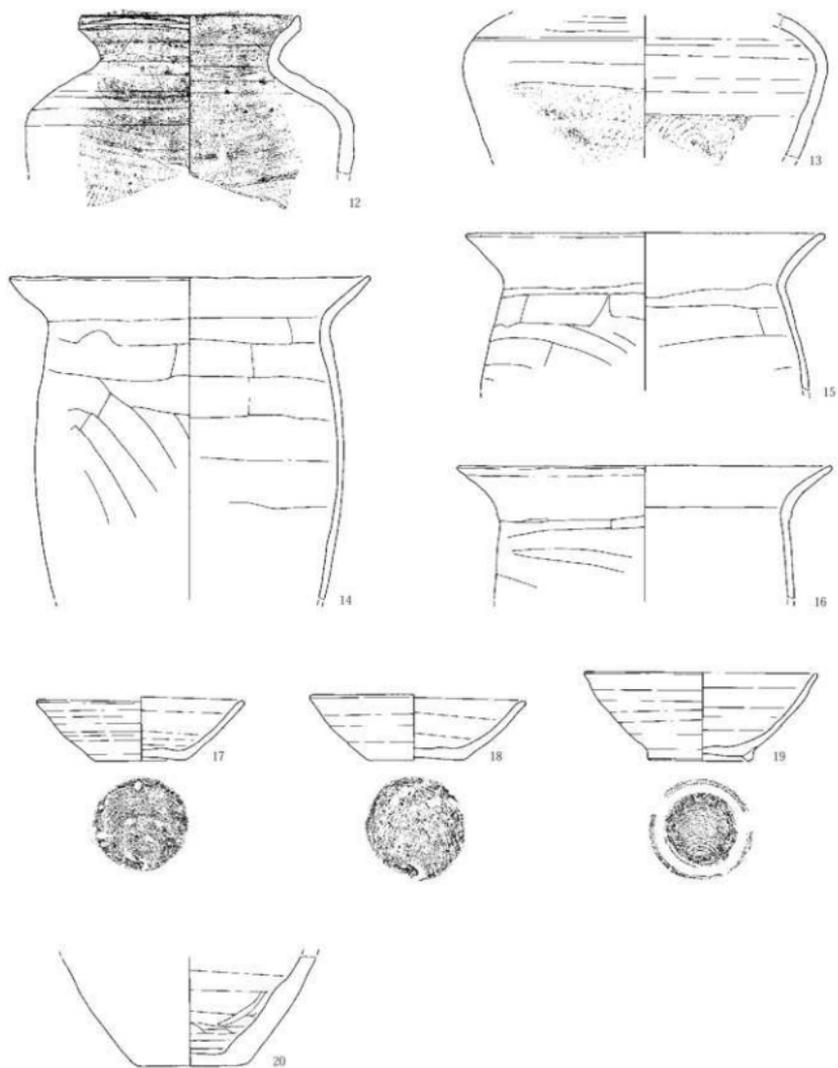
R2-3区42号竪穴建物



R2-3区43号竪穴建物

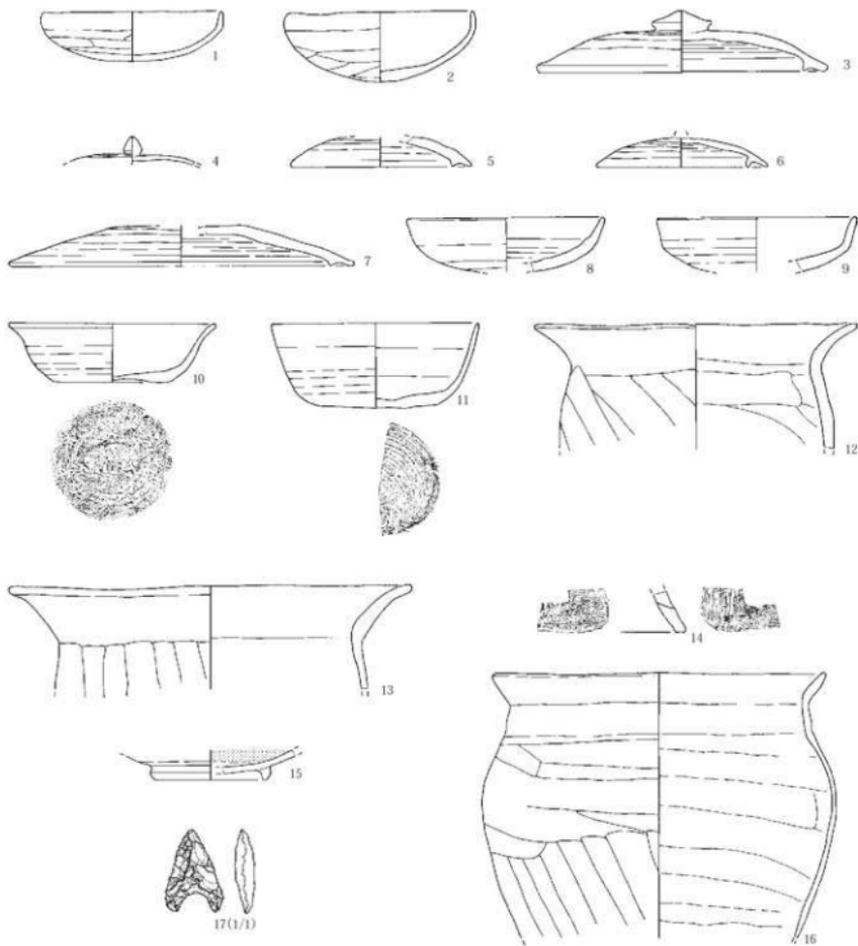


第216図 R2-3区42・43号竪穴建物出土遺物

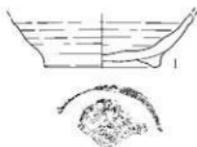


0 1:3 10cm

R2-3区44号竪穴建物



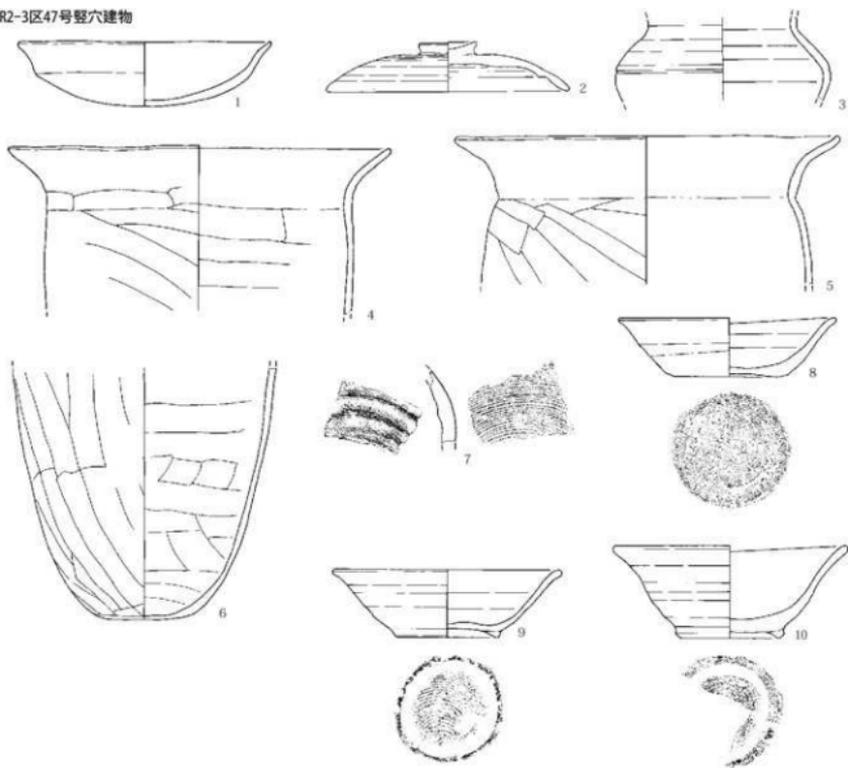
R2-3区46号竪穴建物



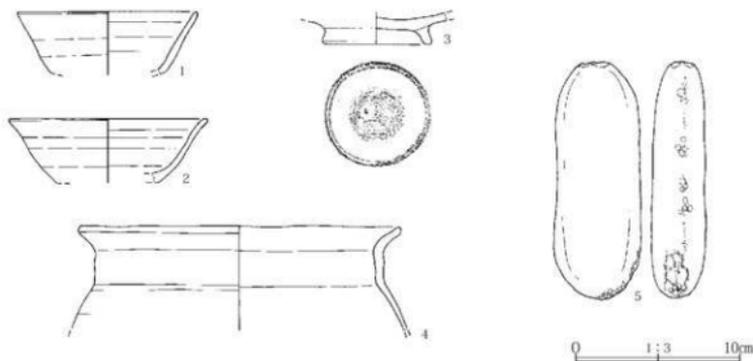
0 1:3 10m

第218図 R2-3区44・46号竪穴建物出土遺物

R2-3区47号竪穴建物

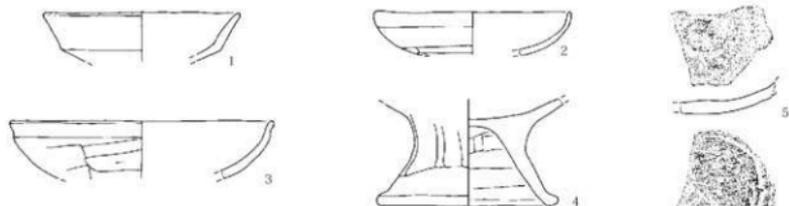


R2-3区48号竪穴建物



第219図 R2-3区47・48号竪穴建物出土遺物

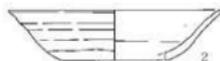
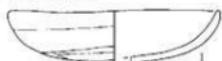
R2-3区49号竪穴建物



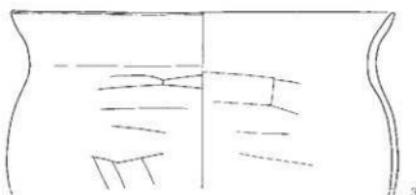
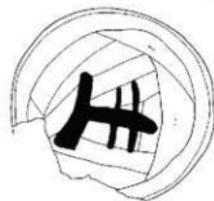
R2-3区50号竪穴建物



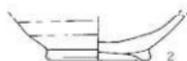
R2-3区51号竪穴建物



R2-3区52号竪穴建物



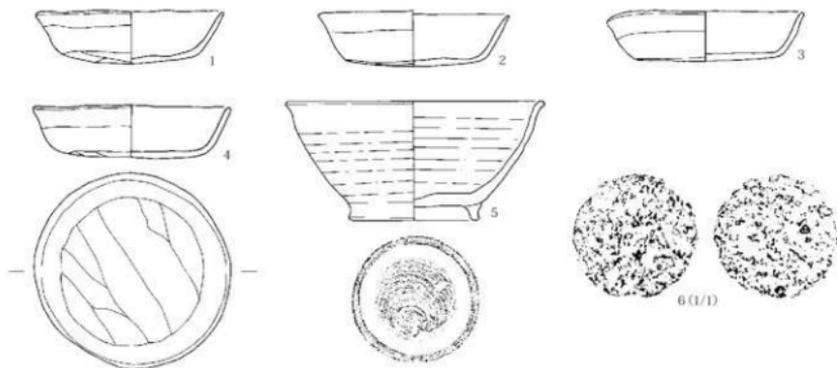
R2-3区53号竪穴建物



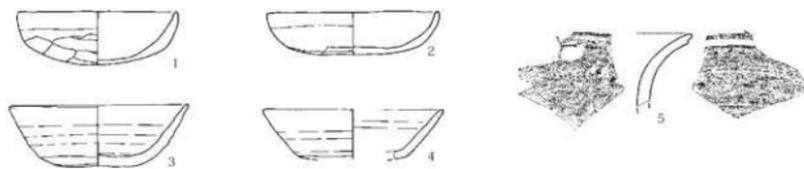
0 1:3 10m

第220图 R2-3区49・50・51・52・53号竪穴建物出土遺物

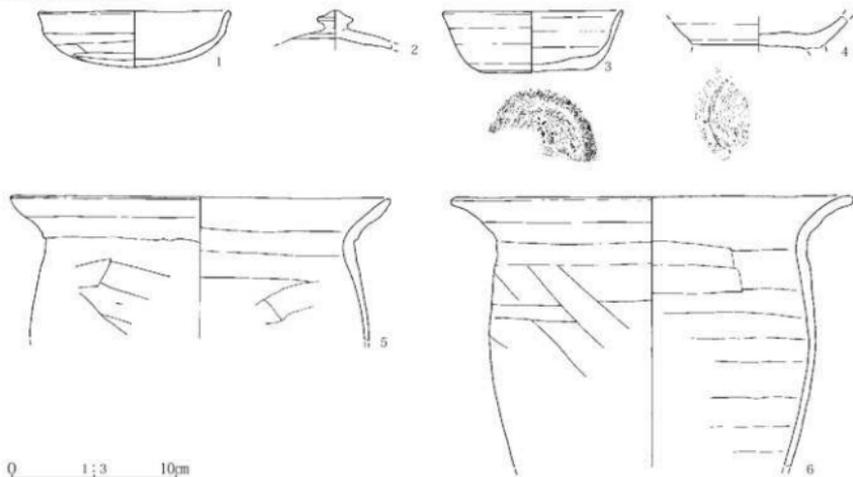
R2-3区55号竪穴建物



R2-3区56号竪穴建物



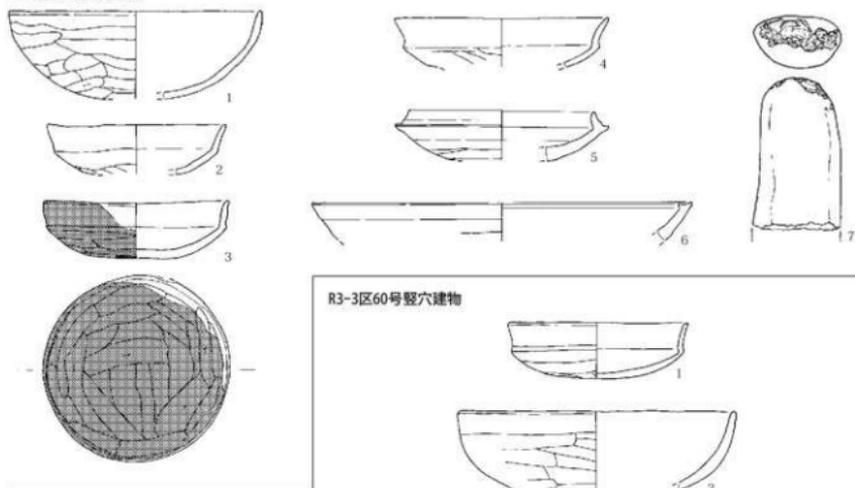
R2-3区57号竪穴建物



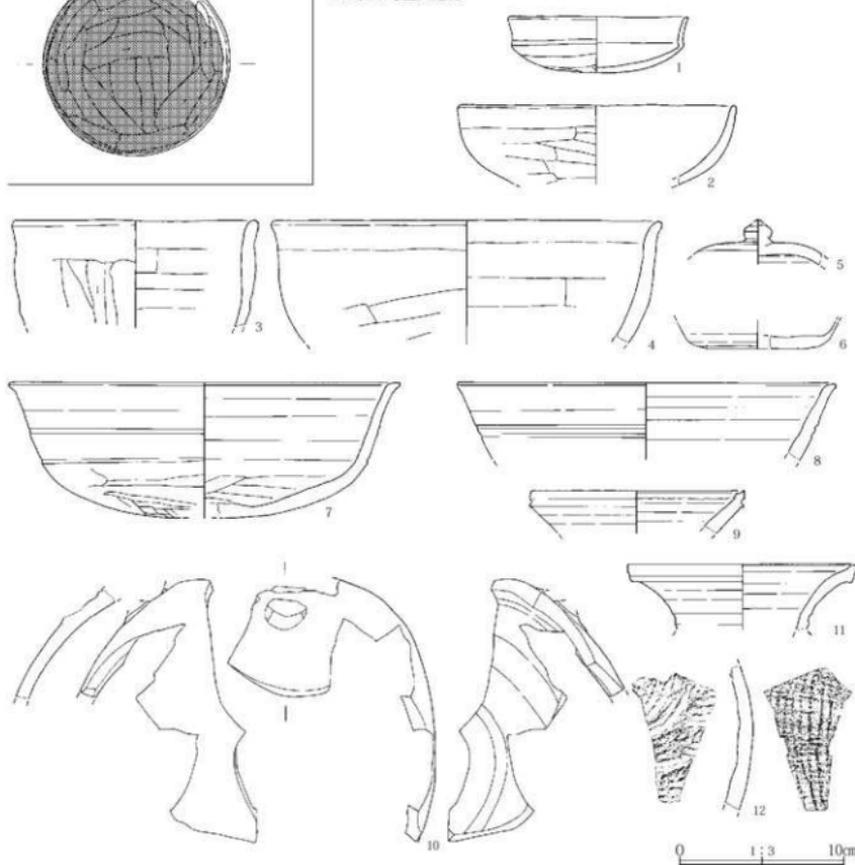
0 1:3 10cm

第221图 R2-3区55・56・57号竪穴建物出土遺物

R3-3区58号竪穴建物



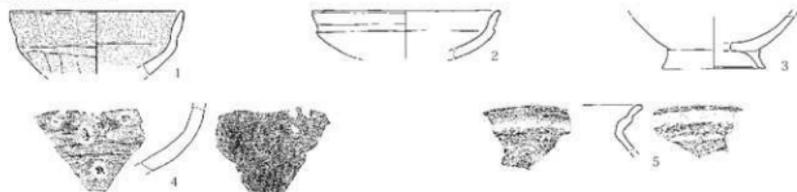
R3-3区60号竪穴建物



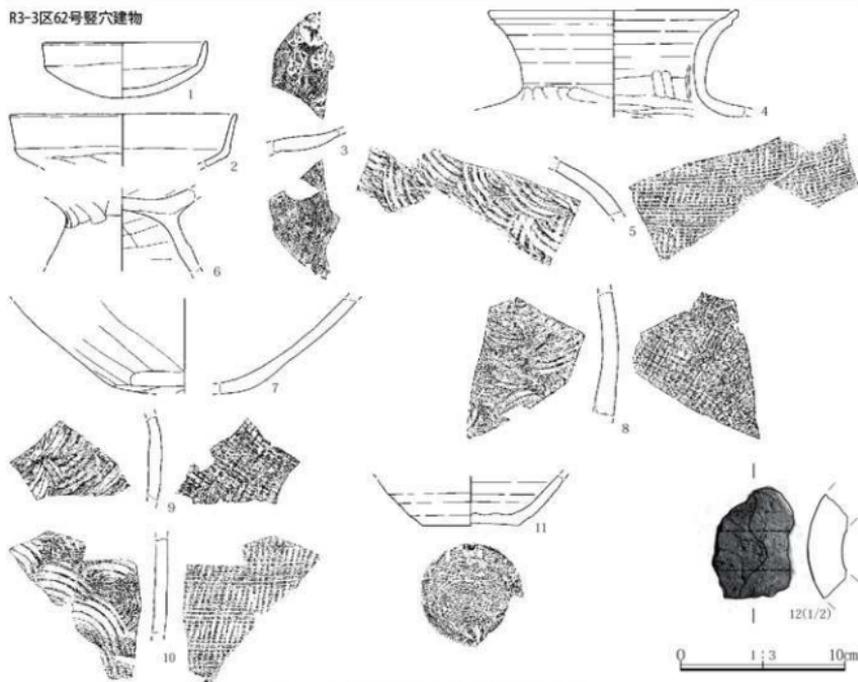
第222图 R2-3区58・60号竪穴建物出土遺物



R3-3区61号竪穴建物

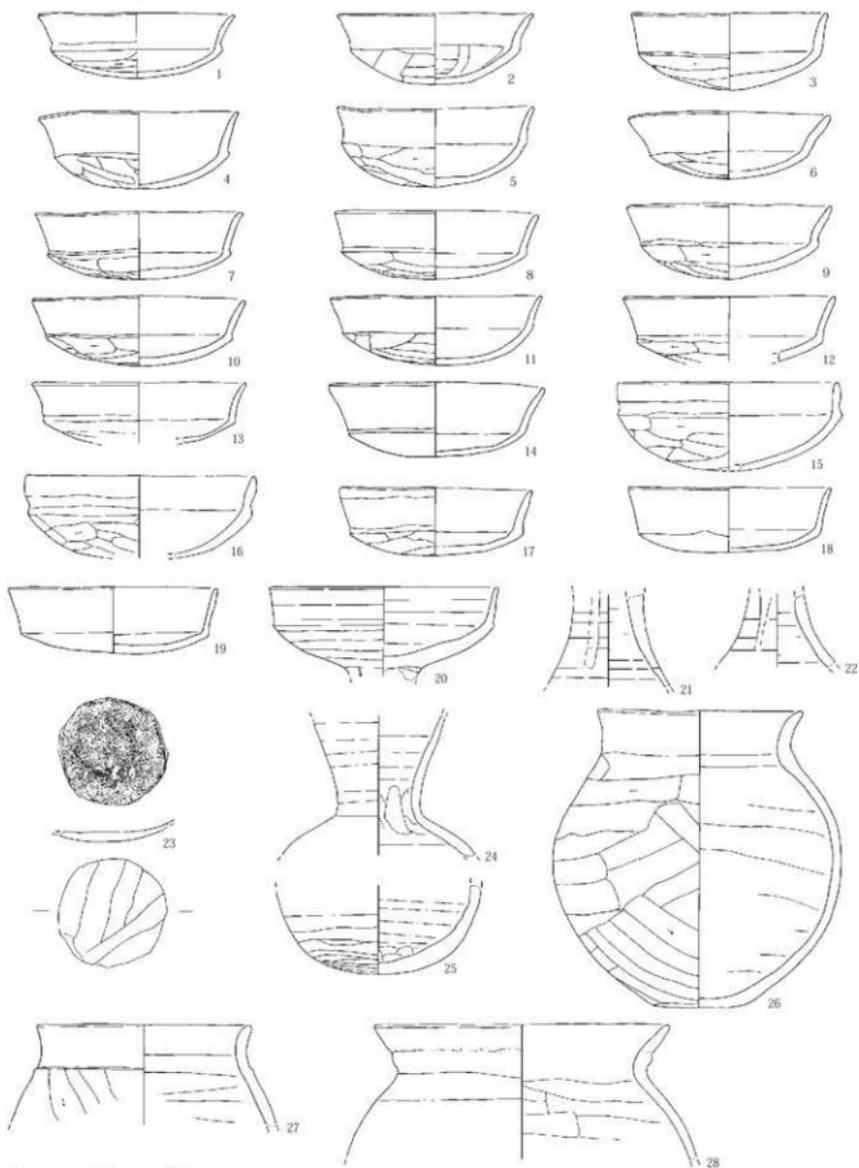


R3-3区62号竪穴建物

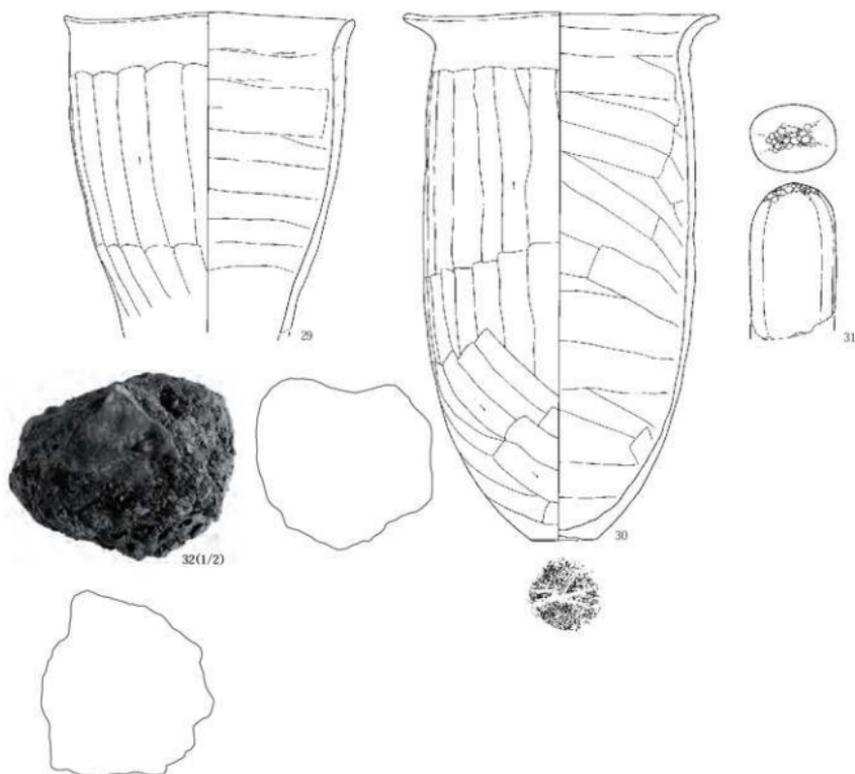


第223図 R2-3区60・61・62号竪穴建物出土遺物

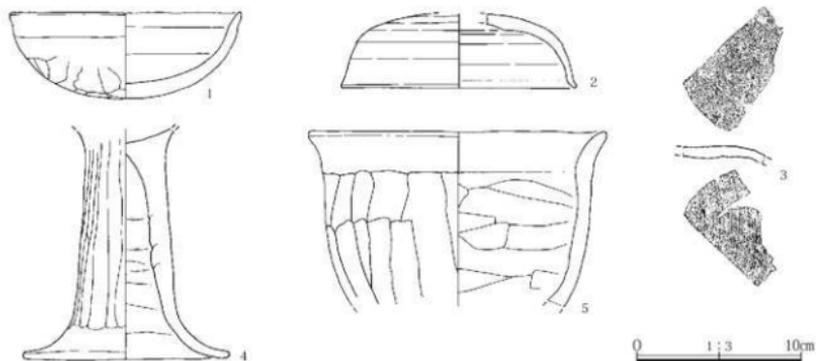
R3-3区63号竪穴建物



第224图 R2-3区63号竪穴建物出土遺物

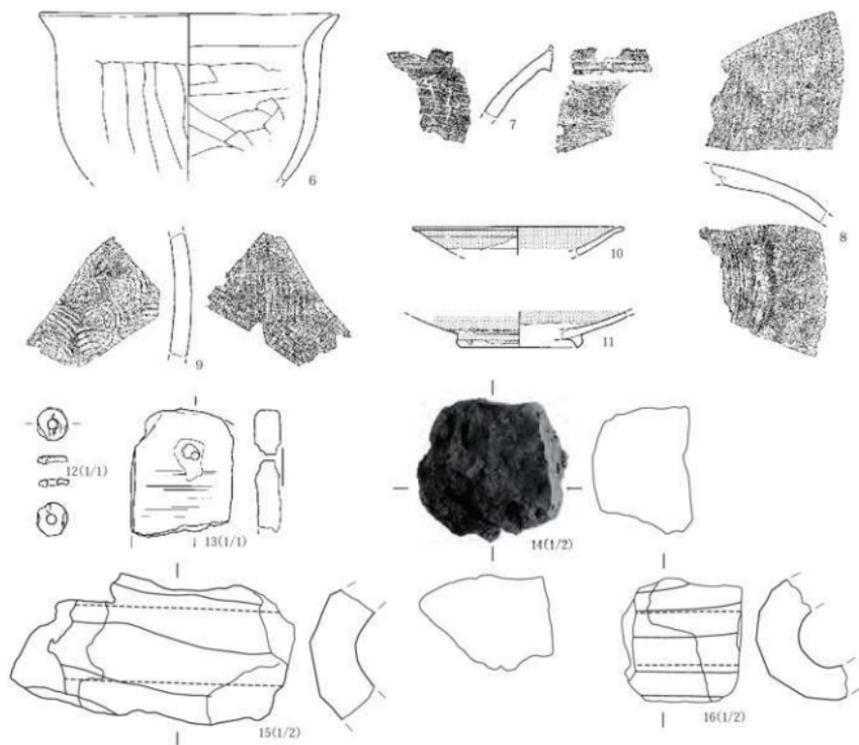


R3-3区64号壺穴建物

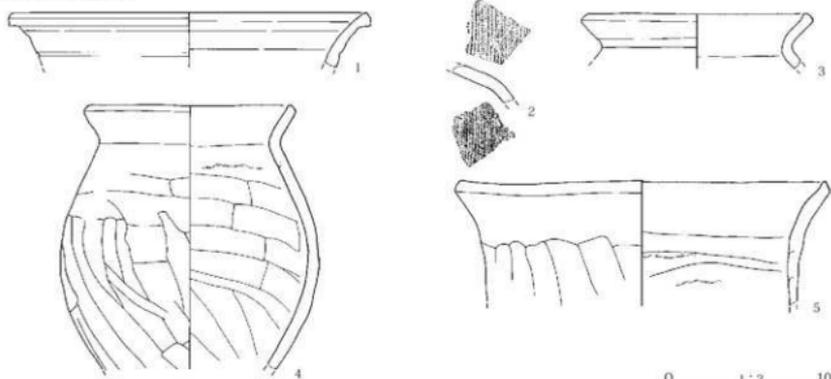


第225图 R2-3区63・64号壺穴建物出土遺物

綿貫千葉西道跡



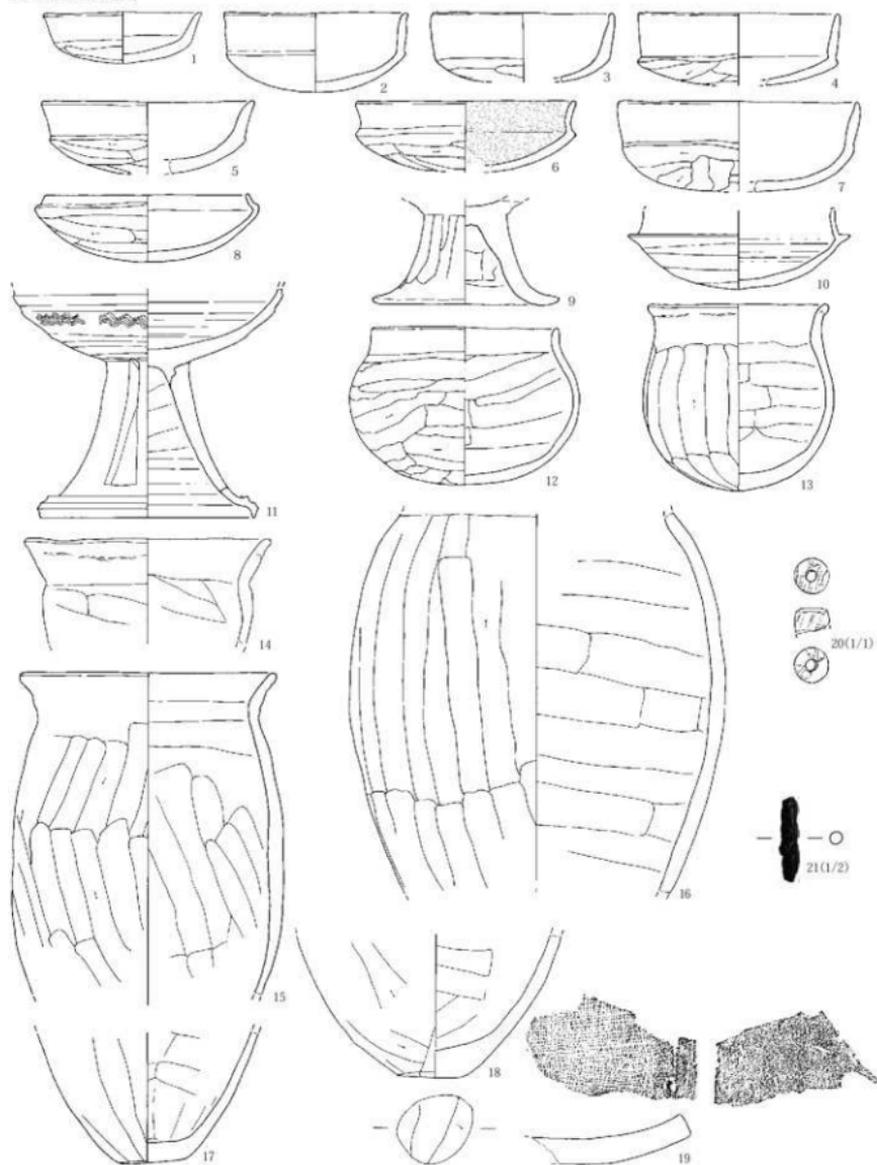
R3-3区65号竪穴建物



0 1:3 10m

第226图 R2-3区64・65号竪穴建物出土遺物

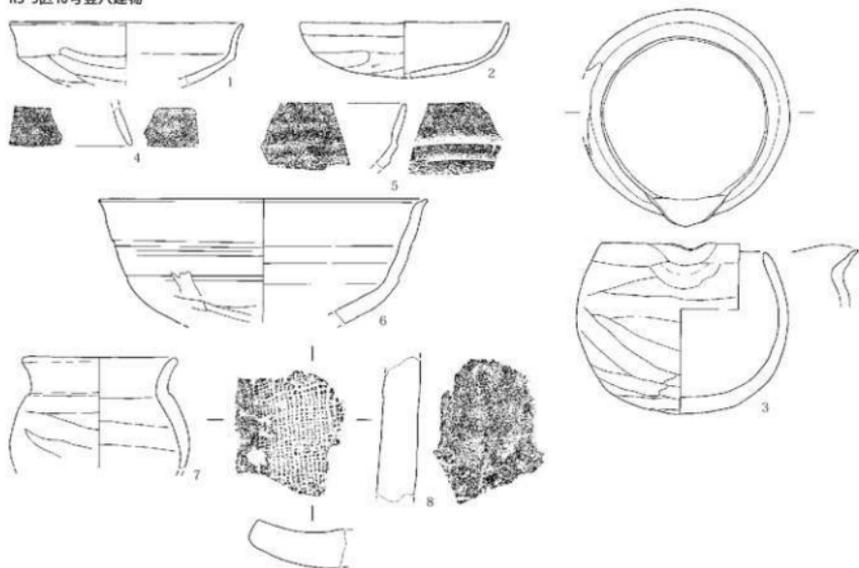
R3-5区9号竪穴建物



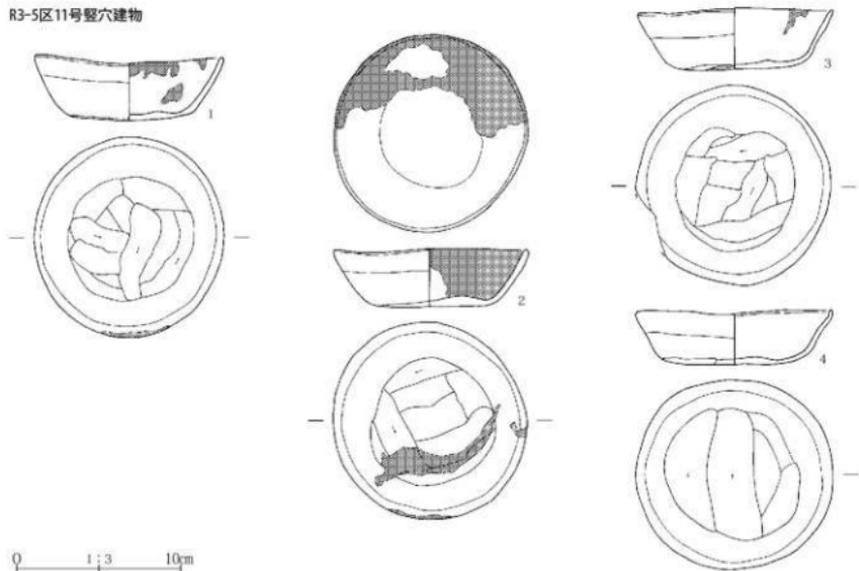
第227图 R3-5区9号竪穴建物出土遺物

0 1 3 10m

R3-5区10号竪穴建物

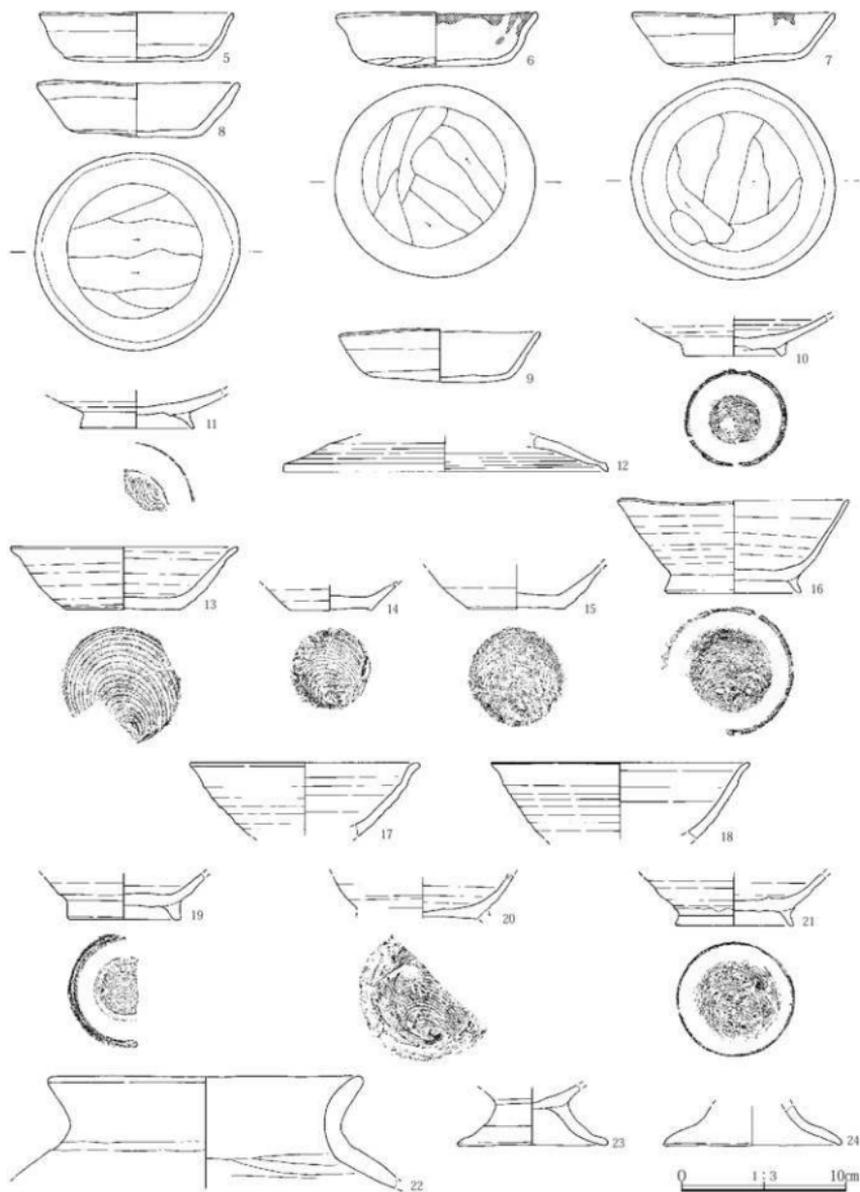


R3-5区11号竪穴建物



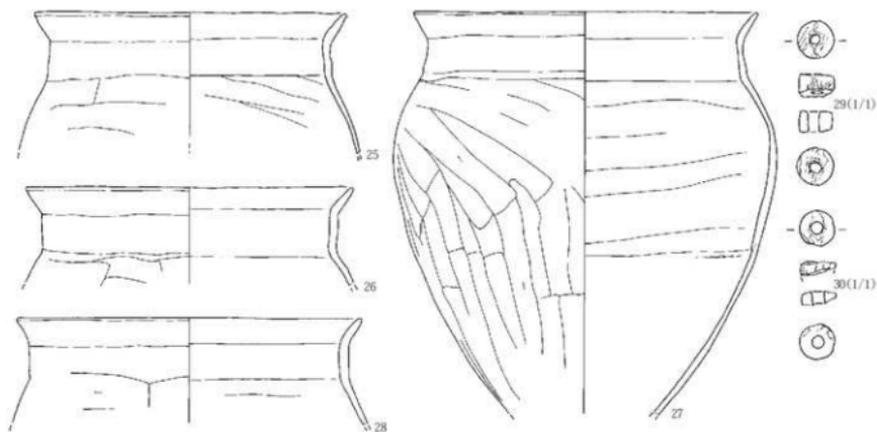
0 1:3 10m

第228图 R3-5区10・11号竪穴建物出土遺物

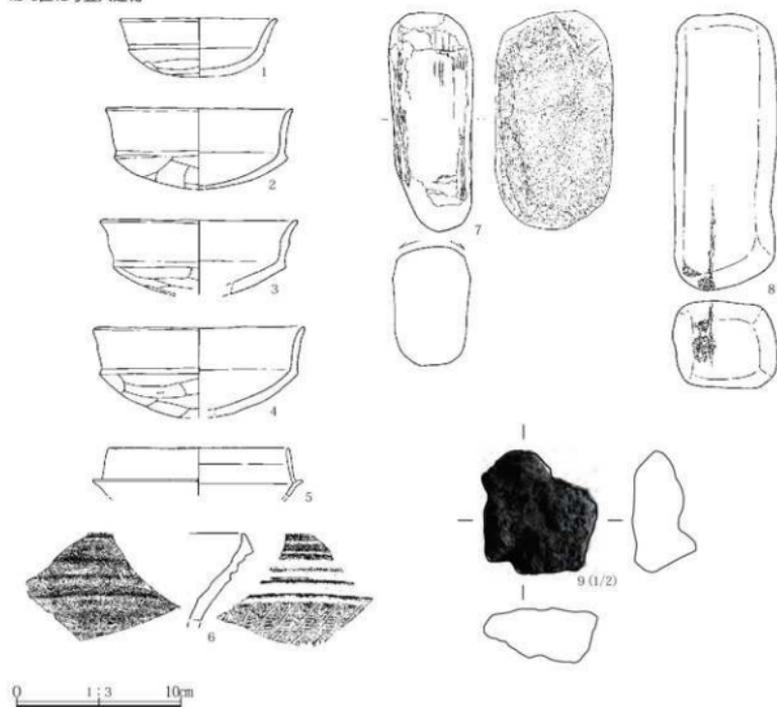


第229図 R3-5区11号竪穴建物出土遺物

綿貫千葉西遺跡

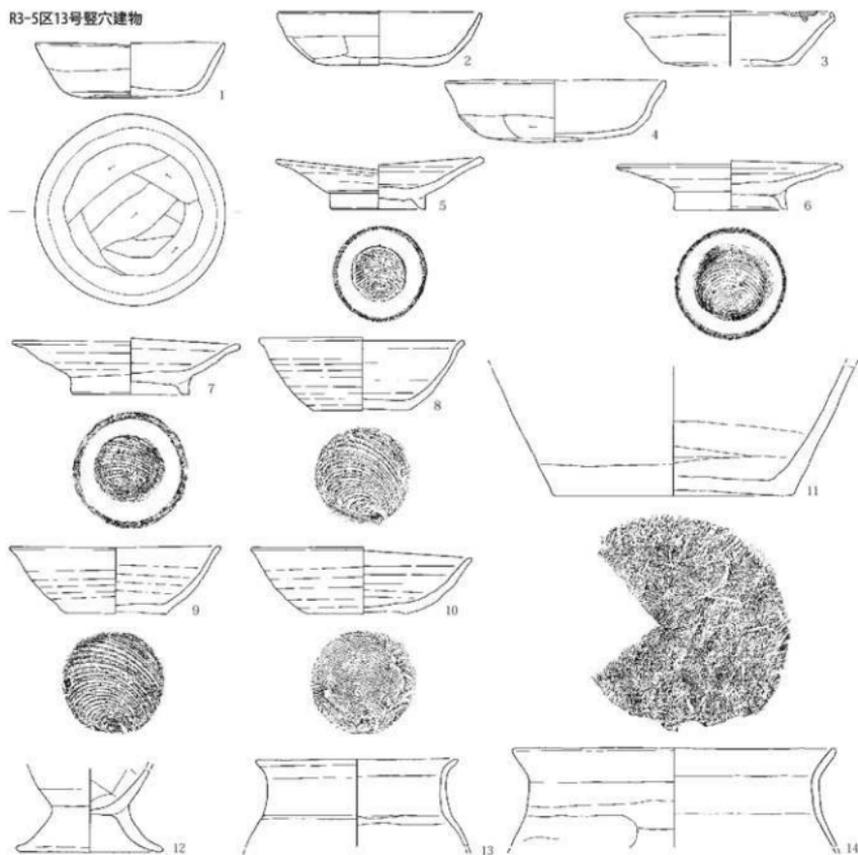


R3-5区12号竪穴建物

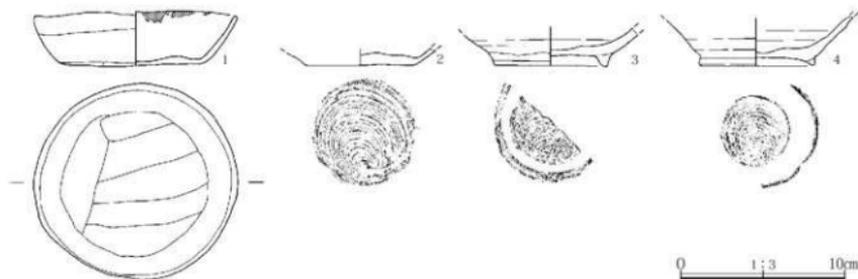


第230图 R3-5区11・12号竪穴建物出土遺物

R3-5区13号竪穴建物



R2-3区1号溝



0 1:3 10cm

第231图 R3-5区13号竪穴建物・R2-3区1号溝出土遺物

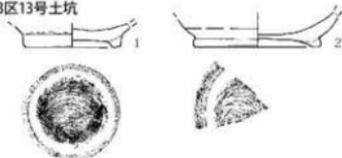
R2-3区1号土坑



R2-3区2号土坑



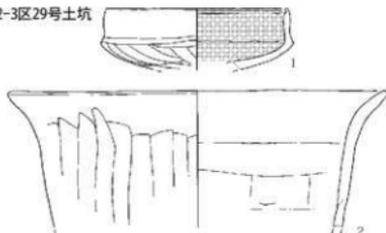
R2-3区13号土坑



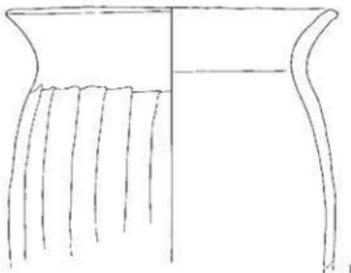
R2-3区10号土坑



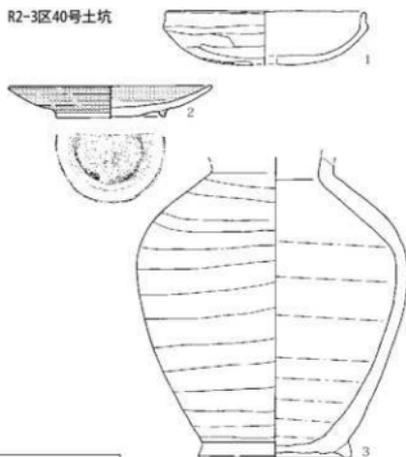
R2-3区29号土坑



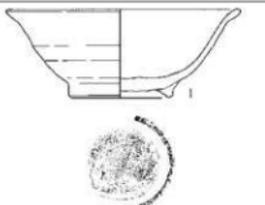
R2-3区34号土坑



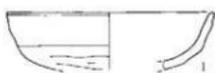
R2-3区40号土坑



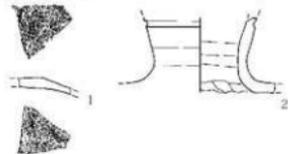
R2-3区41号土坑



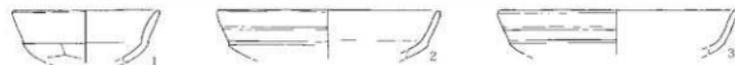
R2-3区86号土坑



R2-3区87号土坑



R3-5区23号土坑



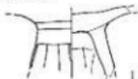
0 1:3 10m

第232图 R2-3区1・2・10・13・29・34・40・41・86・87号土坑出土遺物、R3-5区23号土坑出土遺物

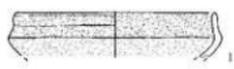
R2-3区17号ビット



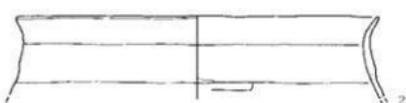
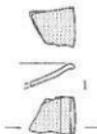
R2-3区78号ビット



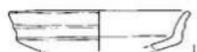
R2-3区84号ビット



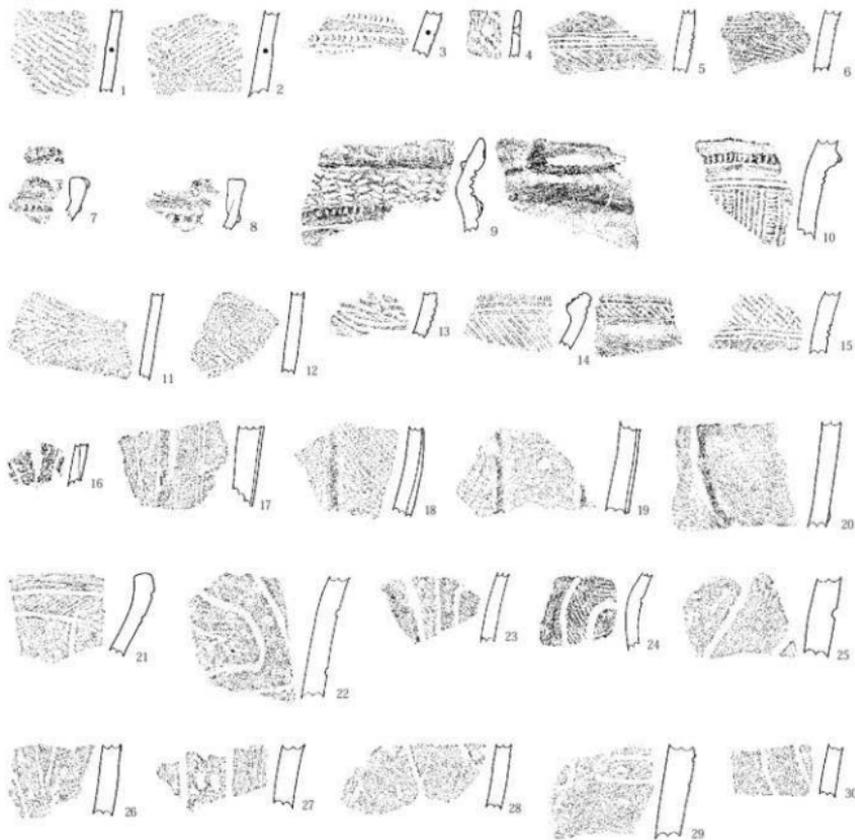
R2-3区95号ビット



R2-3区129号ビット

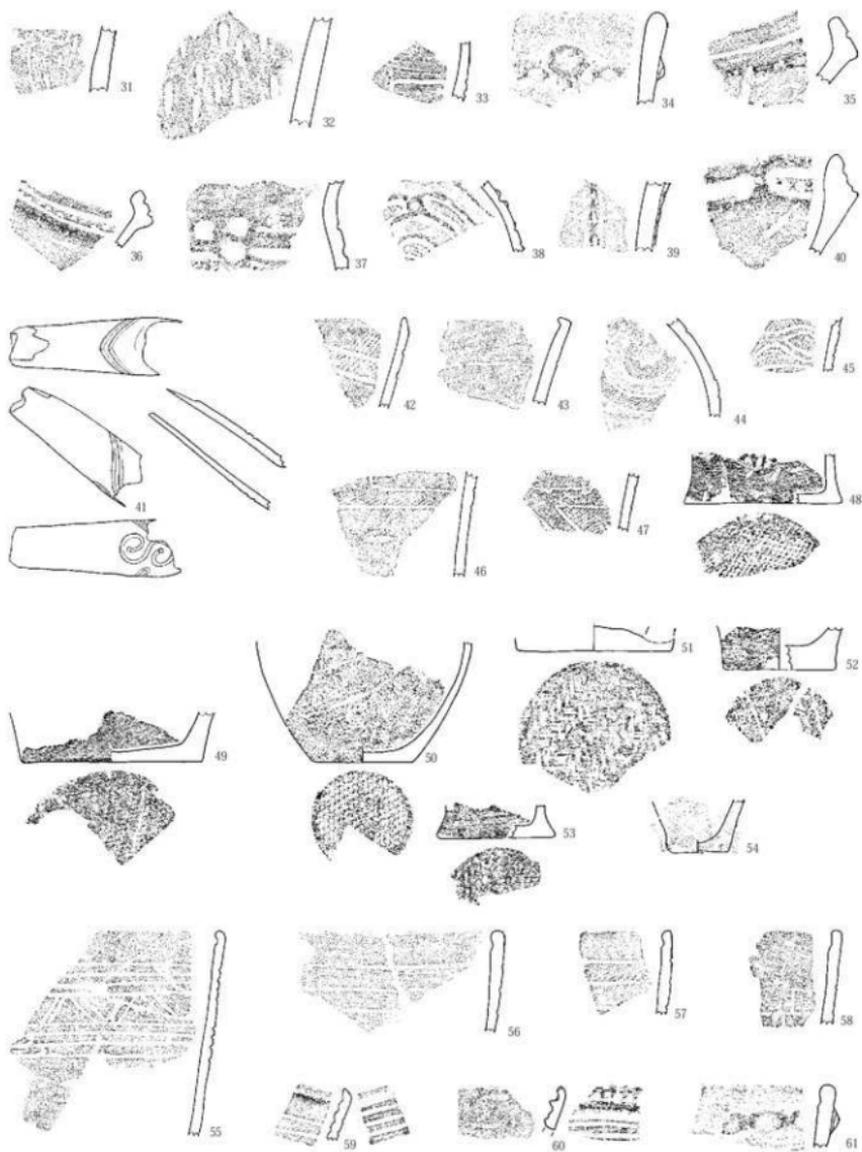


遺構外



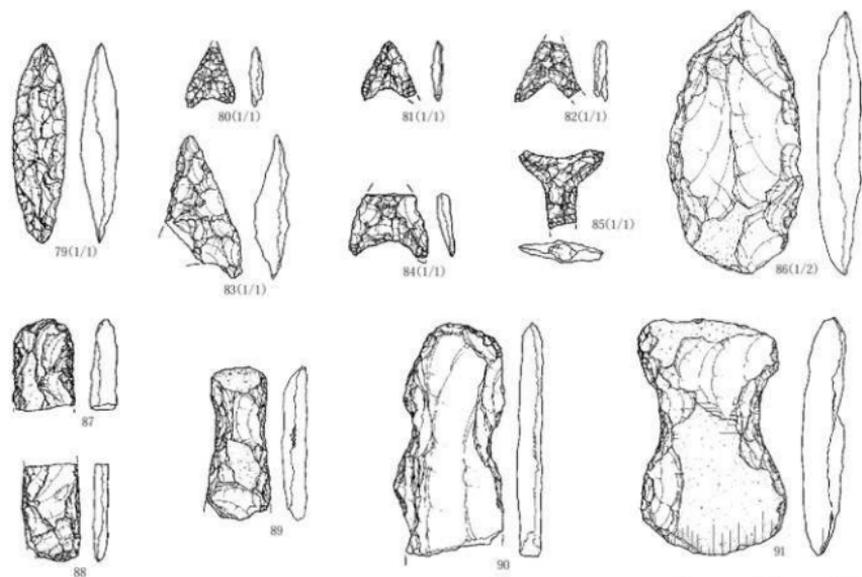
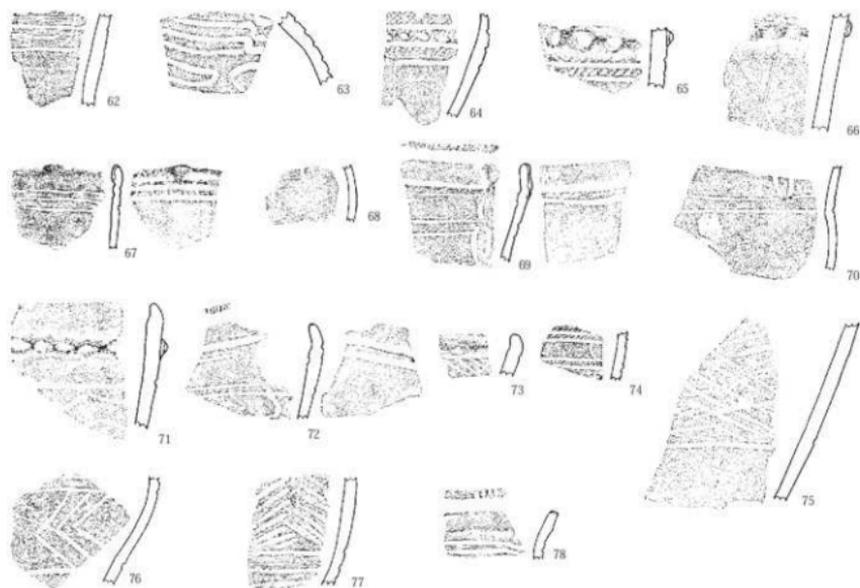
第233図 R2-3区17・78・84・95・129号柱穴出土遺物、遺構外出土遺物

0 1:3 10m



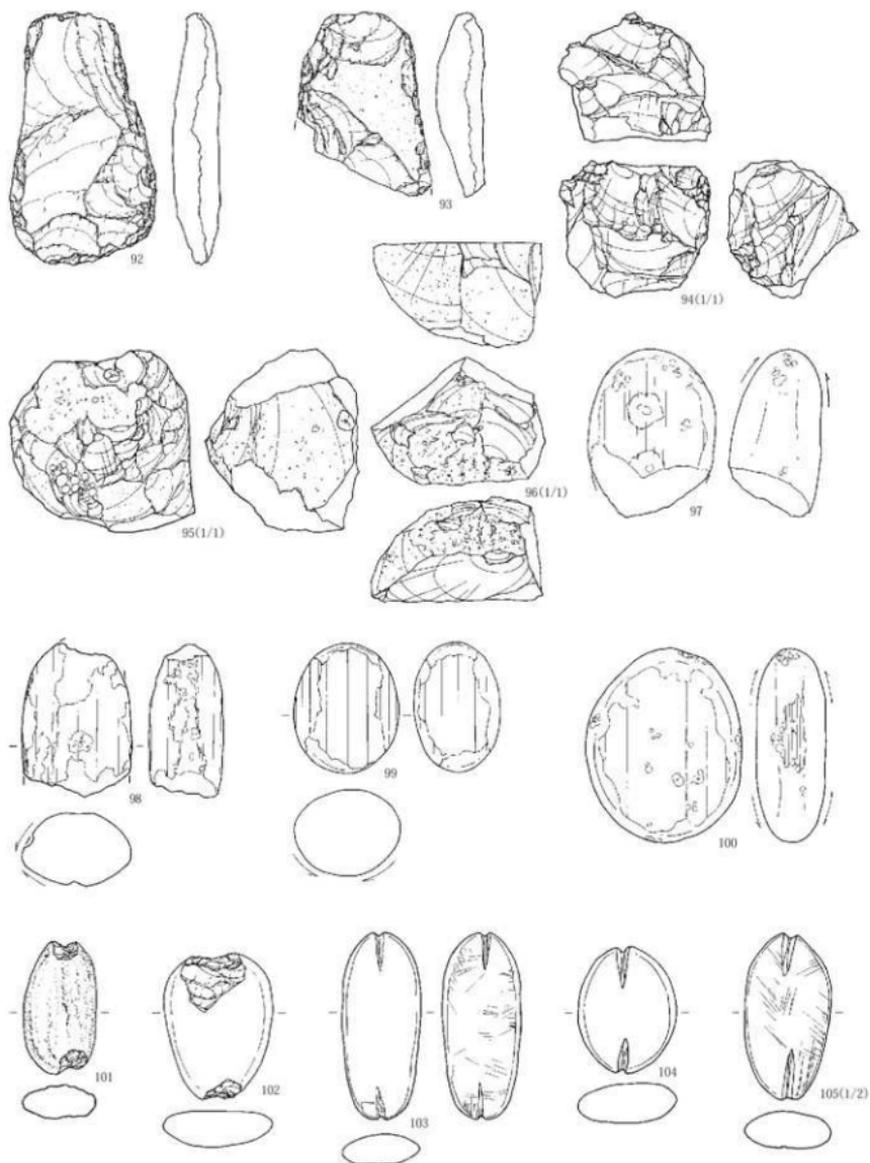
第234図 R2-3区遺構外出土遺物2

0 1:3 10m

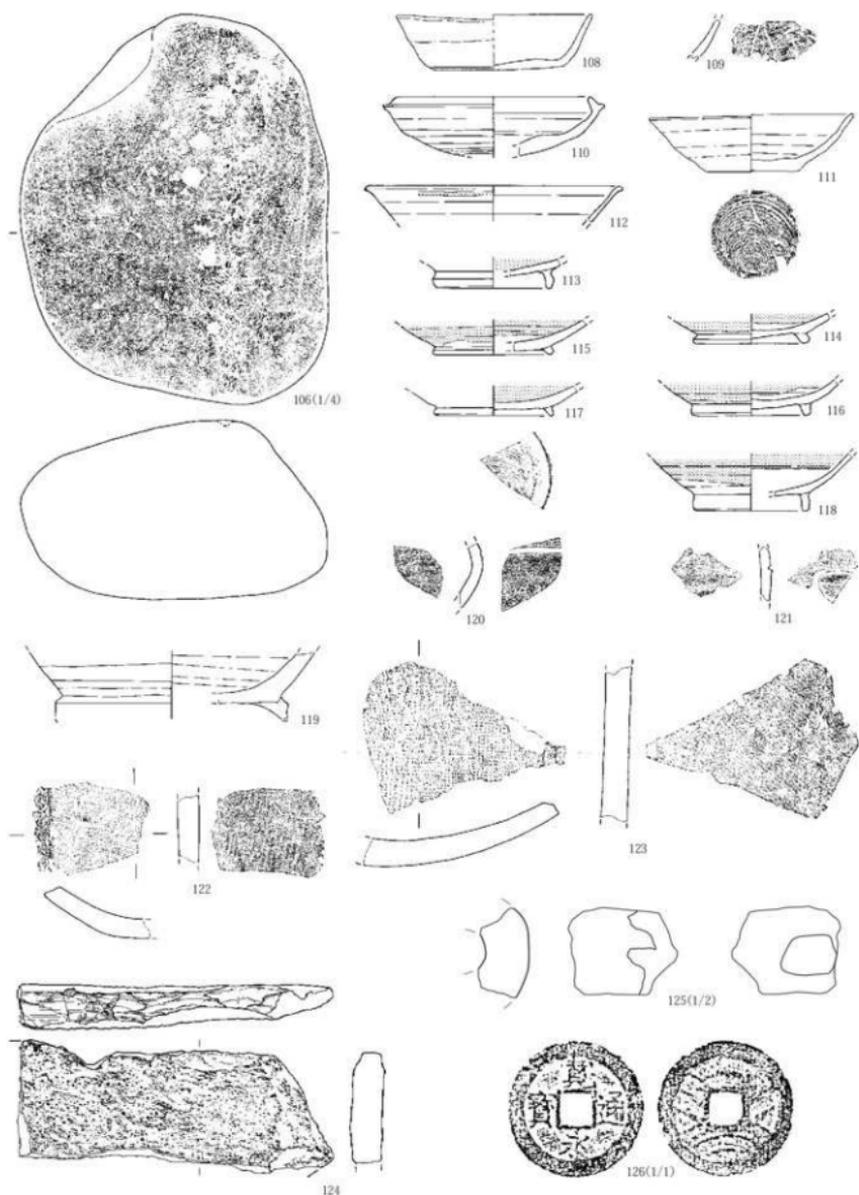


0 1:3 10cm

第235図 R2-3区遺構外出土遺物3



第236図 R2-3区遺構外出土物4



第237図 R2-3区遺構外出土遺物5

0 1:3 10cm

綿貫千葉西遺跡 遺物観察表

R3-5区8号竪穴建物

棟 号 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第18500 PL.54	1	縄文土器 深鉢	+5.4 口縁部破片			細砂、輝石/良好/	波状口縁で口縁が内湾。口縁に沿って4条の浮線をめぐらし、以下、浮線による弧状、渦巻状のモチーフを施す。地文にL8縄文を施文。	諸磯b式
第18500 PL.54	2	縄文土器 深鉢	フク土 胴部破片			粗砂、輝石/ふつ う/	20089と同一個体。浮線による渦巻状モチーフを施す。	諸磯b式
第18500 PL.54	3	縄文土器 深鉢	フク土 胴部破片			粗砂/ふつう/	横位浮線を多段にめぐらす。地文にL8縄文を横位施文。	諸磯b式
第18500 PL.54	4	縄文土器 深鉢	フク土 胴部破片			細砂、輝石/ふつ う/	浮線による弧状モチーフを施す。地文にL8縄文を横位施文。	諸磯b式
第18500 PL.54	5	縄文土器 深鉢	フク土 胴部破片			粗砂/ふつう/	弧状の原体圧直を複数施す。	興津式
第18500 PL.54	6	縄文土器 深鉢	+37.3 胴部破片			粗砂、輝石/ふつ う/	横位浮線を多段にめぐらす。地文にL8縄文を横位施文。	諸磯b式
第18500 PL.54	7	縄文土器 深鉢	+16.1 胴部破片			細砂、輝石/良好/	L8縄文を横位施文する。	前期後葉か
第18500 PL.54	8	縄文土器 深鉢	フク土 胴部破片			粗砂、輝石/良好/	結節L8縄文を横位施文する。	前期未葉
第18500 PL.54	9	縄文土器 深鉢	フク土 胴部破片			粗砂、チャート細 礫、雲母/良好/	L8、L8の結束羽状縄文を横位施文する。	前期未葉
第18500 PL.54	10	縄文土器 深鉢	フク土 胴部破片			粗砂、片岩/良好/	くの字状に外屈する器形。屈曲部に切込み帯をめぐらす。以下、L8縄文を横位施文。	前期未葉か
第18500 PL.54	11	縄文土器 深鉢	フク土 胴部破片			粗砂、チャート細 礫/良好/	結節L8縄文を横位施文する。	前期未葉
第18500 PL.54	12	縄文土器 深鉢	フク土 底部破片			細砂、赤色粒/ふ つう/	底部際に集合沈線をめぐらして区画、集合沈線による顕 面状文をめぐらす。	十三菩提式
第18500 PL.54	13	縄文土器 深鉢	フク土 胴部破片			粗砂/良好/	集合沈線による弧状モチーフを施す。沈線は半隆起線状。	十三菩提式
第18500 PL.54	14	縄文土器 深鉢	フク土 胴部破片			粗砂、輝石/良好/	横位へら切り浮線をめぐらす。	暗ヶ峯式
第18500 PL.54	15	縄文土器 深鉢	フク土 胴部破片			粗砂、輝石/良好/	横位へら切り浮線をめぐらす。	暗ヶ峯式
第18500 PL.54	16	縄文土器 深鉢	+19.0 底部破片	底	19.0	細砂、輝石/良好/	L8縄文を縦位帯状施文する。	五領ヶ台式
第18500 PL.54	17	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部破片			粗砂、チャート細 礫、雲母/良好/	折り返し状の肥厚口縁。以下、無文。	阿玉台式
第18500 PL.54	18	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部破片			粗砂、雲母/良好/	緩やかな波状口縁。口縁下に縦位短沈線をめぐらす。	阿玉台式
第18500 PL.54	19	縄文土器 深鉢	フク土 胴部破片			細砂、輝石、横 砂/ふつう/	横位平行沈線をめぐらす。以下、L8縄文を横位施文。	有尾式
第18500 PL.54	20	縄文土器 深鉢	フク土 胴部破片			細砂、赤色粒/ふ つう/	小型。横位、弧状の沈線を多段に施すが、施文は規則的 ではない。	前期後葉か

R2-3区25号竪穴建物

棟 号 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第18600 PL.54	1	縄文土器 深鉢	床直+12.8 口縁~底部2/3	口 底	30.5 10.3	高 47.8	細砂、輝石/良好/	胴上位が膨らみ、頸部で緩やかにすばまって口縁が閉く器形。口縁に推定3単位の小突起を付し、口縁外面を短く内屈させて1条の沈線をめぐらし、突起部に円形刺突を施す。頸部に半蔵竹管による集合沈線をめぐらし、突起下から縦位集合沈線を垂下、胴部は集合沈線による懸垂文を突起下および中間に推定6単位施す。地文にL8縄文を全面施文。	堀之内1式
第18600 PL.54	2	縄文土器 深鉢	床直 口縁~胴部破片	口	(33.0)		粗砂、輝石/良好/	胴中位で屈曲する器形。屈曲部上位を文様帯とし、上下に1帯ずつ横位帯状沈線をめぐらして区画、帯状沈線による顕面状文を2段帯することで三角区画が上下交互に連なる意匠を作出し、三角区画内に沈線を重層させる。帯状沈線内にL8縄文を充填施文。口縁に低く幅広い突起を付し、中央を凹ませて内面に張り出させ、張り出し部に横位沈線を施文、突起部の上端から内面にかけて斜位沈線を充填、両端に円形刺突を施す。	堀之内2式
第18700 PL.54	3	縄文土器 深鉢	-3.2~床直 口縁~胴部破片	口	25.0		粗砂、片岩、輝石 /ふつう/	口縁に円孔を伴う突起を1単位ないし2単位付し、8の字状の貼付文を付す。文様帯下端は欠損しているが、おそろく上下に1帯ずつ横位帯状沈線をめぐらし、内部に帯状沈線による菱形状文を横位に連ねることで、菱形と対向する三角区画が連なる意匠を作出する。菱形、三角区画内に帯状沈線ないし単沈線を重層させ、帯状沈線内、区画内にL8縄文を充填施文する。	堀之内2式

採掘 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1889Q PL.55	4	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部破片				細砂、輝石/良好/	帯状沈線による弧状モチーフを施し、LR縄文を充填施文する。	称名寺I式
第1877Q PL.55	5	縄文土器 深鉢	フク土 胴部破片				粗砂、輝石/良好/	3条沈線による弧状モチーフを施し、片側のみ列点を充填施文する。	称名寺II式
第1877Q PL.55	6	縄文土器 深鉢	フク土 口縁～胴部破片				粗砂、片岩、輝石/ふつう/	胴部が膨らみ、頸部で緩やかにすばまって口縁が開く器形。胴部に刻み隙線をめぐらして口縁部無文帯を区画、口縁から刻み隙線を垂下させ、交点に円形刺突を施す。胴部文様帯は帯状沈線による幾何学モチーフを施し、LR縄文を充填施文する。	堀之内I式
第1877Q PL.55	7	縄文土器 深鉢	フク土 胴部破片				細砂、輝石/良好/	胴部のすばまる部位。胴部を境に上下に沈線によるモチーフを施し、LR縄文を充填施文する。頸部に刺突を伴う円形貼付文を付す。	堀之内I式
第1877Q PL.55	8	縄文土器 深鉢	-1.1 胴部破片				粗砂、輝石/良好/	横位3条の沈線をめぐらして胴部文様帯を区画、下位の沈線間のみ縦位短沈線を充填施文する。以下、集合沈線による懸垂文構成とし、部分的にLR縄文を充填施文する。	堀之内I式
第1877Q PL.55	9	縄文土器 深鉢	瓶方 口縁～胴部破片				粗砂、輝石/良好/	胴中位でくの字状に内屈し、口縁が外反しなが開く器形。口縁に小突起を付し、下部にV字状の隙線を垂下、中心にも1条加え、下端に刺突を伴う円形貼付文を付す。屈曲部に横位沈線をめぐらして文様帯を区画、集合沈線による弧状、流水状モチーフを配す。	堀之内2式
第1877Q PL.55	10	縄文土器 深鉢	+8.8 口縁部破片				粗砂、片岩/良好/	帯状沈線による菱形など幾何学モチーフを施し、LR縄文を充填施文する。	堀之内2式
第1877Q PL.55	11	縄文土器 深鉢	+9.4 口縁部破片				粗砂、輝石/ふつう/	帯状沈線による三角形、菱形モチーフを施し、区画内に沈線を重層させる。	堀之内2式
第1889Q PL.55	12	縄文土器 深鉢	-2.9～+8.3 口縁～胴部破片				粗砂、片岩、輝石/ふつう/	口縁に弧状の小突起を貼付、内面に刻みを付し、下部に円孔を穿つ。文様帯内を縦位に分割し、三角形を基調とするモチーフを区画内に重層させ、LR縄文を充填施文する。	堀之内2式
第1889Q PL.55	13	縄文土器 深鉢	+10.2 口縁部破片				粗砂、輝石/ふつう/	帯状沈線による幾何学モチーフを施し、LR縄文を充填施文する。	堀之内2式
第1889Q PL.55	14	縄文土器 深鉢	床直 口縁部破片				粗砂、輝石/良好/	沈線による渦巻文など、幾何学モチーフを施す。	堀之内2式
第1889Q PL.55	15	縄文土器 深鉢	フク土 胴部破片				粗砂、輝石/良好/	帯状沈線による幾何学モチーフを施し、LR縄文を充填施文する。	堀之内2式
第1889Q PL.55	16	縄文土器 深鉢	+12.0 胴部破片				粗砂、片岩、輝石/良好/	帯状沈線による幾何学モチーフを施し、LR縄文を充填施文、8の字貼付文を付す。	堀之内2式
第1889Q PL.55	17	縄文土器 深鉢	フク土 胴部破片				//	20016と同一個体。	堀之内2式
第1889Q PL.55	18	縄文土器 注口土器	フク土 胴部破片				粗砂、輝石/良好/	帯状沈線による幾何学モチーフを施し、LR縄文を充填施文する。	堀之内2式
第1889Q PL.56	19	縄文土器 深鉢	フク土 口縁～胴部破片				粗砂、輝石/良好/	胴部が膨らみ、頸部で緩くすばまって口縁が開く器形。口縁がくの字状に短く内屈する。無文だが、口縁部と胴下部に斜位の指ナデ状の調整痕を顕著に残す。口縁内面の段、明瞭。	堀之内式併行
第1889Q PL.56	20	縄文土器 深鉢	床直 口縁部破片				細砂、輝石/ふつう/	無文。	後期前葉
第1899Q PL.56	21	縄文土器 深鉢	床直 口縁部破片				粗砂、輝石/ふつう/	口縁の無文部か。	後期前葉
第1899Q PL.56	22	縄文土器 深鉢	+11.2 胴部破片				粗砂、輝石/ふつう/	胴下部で緩く内屈。無文。縦位のナデ整形。	後期前葉
第1899Q PL.56	23	礫石器 凹石	+8.5 定形	長 幅	9.5 7.4	厚 重	6.2 366.2	粗粒輝石安山岩/ 不定形/	表面無磨面に大きな漏斗状の窪み穴1、左辺磨面面に小さな漏斗状の窪み穴がある。礫形状はおおむね断面三角形状。
第1899Q PL.56	24	礫石器 凹石	+7.8 定形	長 幅	9.7 8.5	厚 重	5.7 600.5	粗粒輝石安山岩/ 精円礫/	表面無全面が磨耗するほか、斜行する最打痕がある。小口部上端と裏面側に最打痕がある。
第1899Q PL.57	25	石製品 砥石	+95.6 1/2	長 幅	(7.0) 8.7	厚 重	2.5 178.3	流紋岩凝灰岩//	表面無全面には割い線条痕が斜行、中央付近が浅く窪む。砥面には破損面から微細加工が連続、御縁整形のように見える。
第1899Q PL.56	26	礫石器 磨石	床直 定形	長 幅	7.3 7.2	厚 重	5.0 381.6	粗粒輝石安山岩/ 不定形/	表裏面とも磨耗する。最打痕は弱く、部分的に散見される程度。
第1899Q PL.56	27	礫石器 磨石	-2.5 定形	長 幅	12.1 10.9	厚 重	6.7 1284.3	粗粒輝石安山岩/ 精円礫/	表裏面とも著しく磨耗。礫面が変色するほどである。掌サイズより大型で、手持ち石器としては著しく持てる程度の大きさ。

綿貫千葉西道跡 遺物観察表

種別 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第18904 PL.57	28 礫石器 台石	+7.5 定形	長 18.2 幅 12.6	厚 4.6 重 1285.5		粗粒輝石安山岩/ 扁平積肉礫	上端側に敲打痕が主たるほか、摩耗面が広がる。手持ち石器としては重過ぎるため、台石と見えた。	
第18904 PL.57	29 礫石器 石皿	+15.6 1/2	長 (21.5) 幅 (21.4)	厚 10.1 重 3884		粗粒輝石安山岩/ 有縁	四脚付の石皿で、掻出口を有する。皿内面および外側面は丁寧に磨き整形。皿部中央は大きく掘り窪む。石材は多孔質で、裏面側には空気が抜けた痕跡が目立つ。左辺側足裏には漏斗状の窪み穴がある。	
第19004 PL.57	30 礫石器 台石	未直 定形	長 29.8 幅 21.9	厚 7.9 重 4772.8		流紋岩凝灰岩//	表面中央付近は弱く膨らみ、敲打痕を有する。全面的に磨耗しているが、特に中央付近の磨耗が著しい。裏面側には漏斗状を呈す窪み穴がある。	
第19004 PL.56	31 不明 石製品	+11.7 2/3	長 50.1 幅 30.0	厚 10.2 重 10200		デイスイト凝灰岩//	表面側は、上端付近を除き磨面を欠く。窪面とした部分は線染痕があり、磨削されたものか。右辺側を欠き詳細は不明だが、中央付近が深くボウル状に窪む。内面は部分的に研ぎされている。裏面側は分割された状態。	

R2-3区44号土坑

種別 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第19104 PL.58	1 礫石器 石皿	未直 定形	長 29.0 幅 20.1	厚 10.8 重 4299.7		粗粒輝石安山岩/ 有縁	四脚付石皿。掻出口を有する。皿部には空気が抜けた痕跡が多少は残されているが、皿部側縁(立ち上がり)は丁寧に磨き整形。皿部中央手前が最も磨り減る。裏面側側部には漏斗状の窪み穴があるほか、脚部裏にも似た窪み穴がある。	

R2-3区52号土坑

種別 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第19104 PL.58	1 礫石器 多孔石	未直 定形	長 18.5 幅 17.4	厚 12.2 重 3711.3		粗粒輝石安山岩//	表裏面とも漏斗状の窪み穴が多数により平坦化する。窪面全面に存筋を律布する。多孔穴として定型的。	

R2-3区59号土坑

種別 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第19104 PL.58	1 陶土器 深鉢	未直 胴部破片					粗砂、輝石/ふつう/	胴部が膨らみ、頸部でくの字状に外屈する器形。頸部に除帯をめぐらし、沈線に沿わせ、円形刺突を施文、以下、複数条の沈線による懸垂文を施す。胴部地文には横文を施文。	胴之内口式

R2-3区2号竪穴建物

種別 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第19204 PL.59	1 須恵器 椀	未直 底欠	口 11.3 底 6.8			細粒砂・粗粒砂/ 酸化塩/灰白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	有台杯

R2-3区3号竪穴建物

種別 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第19204 PL.59	1 土師器 口縁部～底部片	+8.1 口縁部～底部片	口 12.0 横 14.0			細粒砂・粗粒砂/ 酸化塩/明赤褐色	口縁部はナデ、横下から手持ちヘラ削り。口縁部中に段を作る。内外ともに横し焼成。	有段口縁
第19204 PL.59	2 須恵器 蓋杯の身	未直 ほぼ定形	口 14.0 横 16.3	高 5.5		細粒砂・粗粒砂/ 還元塩/黄灰	ロクロ整形。回転は右回り。蓋受けは、ほぼ水平に作る。底部は回転ヘラ削り。白色の粗粒砂を多く含む。	
第19204 PL.59	3 須恵器 蓋杯の身	口縁部下半～底部片	横 14.0			細粒砂/還元塩/灰	ロクロ整形。回転は右回り。蓋受けは水平に作る。体部に2条の沈線を施される。胎土には白色の粗粒砂が多く含まれる。	

R2-3区4号竪穴建物

種別 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第19204 PL.59	1 須恵器 カマド左袖	カマド左袖 定形	口 11.2 底 6.1			細粒砂・粗粒砂/ 還元塩/褐灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。高台は欠損。口唇部がやや外反する。	
第19204 PL.59	2 須恵器 カマド	カマド 1/2	口 11.9 底 6.0	台 5.2 高 4.4		細粒砂・粗粒砂/ 還元塩/灰白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第19204 PL.59	3 灰釉陶器 長頸壺	頸り方 高台				微砂粒/還元塩/灰黄	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。二次焼成を受けているか。	
第19204 PL.59	4 須恵器 羽釜	カマド左袖 口縁部～底部	口 19.0 底 6.8	跨 22.6 脚 23.4		細粒砂・粗粒砂/ 酸化塩/にぶい黄橙	ロクロ整形。回転は右回り。跨は貼付。胴部は下位に、上方向からのヘラ削り。内面胴部中位から下位はヘラナデ。	
第19204 PL.59	5 須恵器 羽釜	カマド 口縁部～底部	口 19.0 底 7.4	跨 21.9 脚 21.2		細粒砂・粗粒砂/ 酸化塩/橙	ロクロ整形。回転は右回り。跨は貼付。胴部は中位から下位にかけて、上・斜め方向からのヘラ削り。内面は底部から跨下へヘラナデ。	
第19204 PL.59	6 須恵器 羽釜	カマド 口縁部～胴部	口 20.4 跨 25.0	脚 23.8		細粒砂・粗粒砂/ 酸化塩/赤褐色	ロクロ整形。回転は右回り。跨は貼付。	

種 図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	口 高	厚 重			
第1939R PL. 5	7	須臾器 割釜	カマド 口縁部～底部	口 底	21.0 5.8	25.2 24.0	細粒砂/酸化塩/明 褐色	口口整形。回転は右回り。刃は貼付。胴部は中位から 下位にかけて、上方向からのヘラ削り。内面は底部から 胴部下位はヘラナデ。	
第1939R PL. 6	8	須臾器 割釜	カマド左袖 口縁部～胴部	口 底	22.2 24.9	胴 23.4	細粒砂/酸化塩/こ ぶい層	口口整形。回転は右回り。刃は貼付。胴部下位はヘラ 削り。内面は摩耗のため、ヘラナデなどの単位が観察で きない。	
第1939R PL. 6	9	鉄製品	フク土 ほぼ完形	長 幅	(5.0) 0.5	厚 重 0.5 4.6	//	断面形状がやや丸みを帯びるが釘とみられる。頭部の折 返しははっきりとしない。	
- PL. 6	10	灰輪陶器 椀	フク土 口縁部片				微砂粒/還元塩/灰 白	口口整形。回転は右回り。施釉方法不明。口唇部は大 きく外反する。	光ヶ丘1号窯式 期/写真のみ
- PL. 6	11	灰輪陶器 皿	フク土 口縁部片				微砂粒/還元塩/灰 白	口口整形。回転は右回り。施釉方法不明。	大原2号窯式 期/写真のみ
- PL. 6	12	灰輪陶器 甌	フク土 胴部片				微砂粒/還元塩/灰 白	口口整形。回転は右回り。外面に施釉。施釉方法不明。	東道10世紀代 か/写真のみ
- PL. 6	13	灰輪陶器 甌	フク土 胴部片				微砂粒/還元塩/灰 白	口口整形。回転は右回り。胴部は回転ヘラ削り。施釉 方法不明。	東道10世紀代 か/写真のみ

R2-3区5号竪穴建物

種 図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	口 高	厚 重			
第1939R -	1	土師器 杯	フク土 口縁部～底部	口 底	9.6 10.0		細粒砂/還元塩/暗 褐色	口縁部はヨコナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。胎 土に微細な片岩粒を少量含む。	
第1939R -	2	土師器 杯	フク土 口縁部～底部	口 底	11.0 11.2	高 3.2	細粒砂/酸化塩/暗 褐色	口縁部はヨコナデ。摩耗が激しくヘラ削りなど単位が観 察できない。	
第1939R -	3	土師器 杯	フク土 口縁部～底部	口 底	13.8 14.2		細粒砂/酸化塩/暗 褐色	口縁部はヨコナデ。体部上位ナデ。その下位から底部手 持ちヘラ削り。	
第1939R -	4	土師器 杯	フク土 口縁部～底部	口 底	11.8 12.0		細粒砂/酸化塩/暗 褐色	口縁部はヨコナデ。体部上半ナデ。下半から底部手持ち ヘラ削り。	
第1939R -	5	須臾器 盤	フク土 口縁部～底部片	口 底	28.0 24.6	高 2.8	細粒砂/還元塩/灰 白	口口整形。回転は右回り。口唇部は面を作る。体部の 下位は回転ヘラ削り。	
第1939R -	6	須臾器 高杯	45.6 杯部下平～脚部 上半片				細粒砂/還元塩/灰 白	口口整形。回転は右回り。杯部と脚部は貼付。脚部は 透孔を3方に穿つ。	
第1939R -	7	須臾器 高杯	フク土 杯部下半片	径	12.0		細粒砂/還元塩/灰 白	口口整形。回転は右回り。杯部底部は回転ヘラ削り。 縁を作り口縁部を立ち上げる。胎土に微細な白色粒子を 少量含む。	
第1939R PL. 6	8	緑輪陶器 皿	フク土 口縁部片	口 底	13.0		微砂粒/還元塩/灰 白	口口整形。回転は右回り。施釉は淡緑色。	東海産か
第1939R PL. 6	9	灰輪陶器 椀	フク土 胴部～底部	底 台	7.2 7.0		微砂粒/還元塩/灰 白	口口整形。回転は右回り。体部下位は回転ヘラ削り。	虎渓山1号窯 式期
第1939R PL. 6	10	鉄滓	7.3 破片	長 幅	5.3 4.0	厚 重 2.3 42.5	//	ガラス質の光沢が多く見られる。発泡は少なく、材質は密。 酸化土砂中に小石がわずかに混じる。	
第1939R PL. 6	11	羽口	フク土 破片	長 幅	(3.3) (3.4)	厚 重 1.1 12.3	//	先端部近くの羽口破片。胎土に砂粒は少ない。内面の加 工痕は確認できない。	
- PL. 6	12	割片石器 打製石斧	フク土 2/3	長 幅	12.2 6.4	厚 重 3.5 314.2	硬質泥質/短冊形/ 滑石//	完成状態。両側縁のエッジは摩耗して輪に装着された可 能性が大。胴部を大きく欠く。器体全体が風化してい るが、被熱の可能性あり。	写真のみ

R2-3区6号竪穴建物

種 図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	口 高	厚 重			
第1939R PL. 6	1	土師器 杯	掘り方5.7 口縁部下平～底 部	径	13.5		細粒砂/良好/黒褐 色	口縁部はヨコナデ。椀下から底部は手持ちヘラ削り。内 外ともに焼し焼成。	須臾器蓋片蓋 模倣
第1939R -	2	土師器 杯	フク土 体部～底部片				細粒砂/良好/こ ぶい層	残存部は手持ちヘラ削り。	須臾器蓋片蓋 模倣
第1939R -	3	土師器 杯	フク土 胴部～底部	口 底	12.6 12.8		細粒砂/良好/暗 褐色	口縁部はヨコナデ。椀下から底部はナデや手持ちヘラ削 りと思われるが、摩耗のため単位が観察できない。	須臾器蓋片蓋 模倣
第1939R -	4	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 底	11.6 12.0	高 3.1	細粒砂/良好/こ ぶい層	口縁部はヨコナデ。椀下から底部は手持ちヘラ削り。内 面に煤が付着する。	須臾器蓋片蓋 模倣
第1939R PL. 6	5	礫石器 磨石?	14.3 1/2	長 幅	(9.4) 3.4	厚 重 2.1 105.3	雲母石英片岩//	小口部内側縁に磨片。摩耗痕が広がる。上端部を大きく 欠く。	棒状礫
- PL. 6	6	割片石器 加工割片?	フク土 破片	長 幅	3.9 2.8	厚 重 0.9 10.1	滑石//	素材割片と見られ、上端部や右辺を打ち欠いた痕跡 がある。石製模造品の素材か。	写真のみ

綿貫千葉西道跡 遺物観察表

R2-3区7号竪穴建物

棟 号 PL.No.	No.	種類 種類	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第193区	1	土師器 杯	フク土 口縁部～底部	口 12.0 底 12.2	細粒砂/良好/黒褐色	口縁部はココナデ。内外ともに焼し焼成。	須恵器蓋材蓋 模倣

R2-3区8号竪穴建物

棟 号 PL.No.	No.	種類 種類	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第194区	1	黒色土師 杯蓋	床直 罎～天片部	口 5.5	細粒砂/酸化塩/灰 黄	口口口整形。回転は右回り。内面黒色処理。罎は円盤状 粘土を貼付し、罎面をつまみ上げ環状に作る。	内里 杯蓋	
第194区	2	須恵器 罎	罎り方 口縁部～体部片	口 14.6	細粒砂/酸化塩/灰 黄	口口口整形。回転は右回り。		
第194区	3	灰軸陶器 皿	フク土 底部～体部片	底 8.1 台 7.6	微砂粒/還元塩/灰 白	口口口整形。回転は右回り。高台は貼付。施輪方法不明。	虎沢山1号室 式期	
第194区	4	須恵器 羽釜	フク土 胴部～胴部	口 19.0 制 21.2	23.3 細粒砂/酸化塩/に ぶい黄橙	口口口整形。回転は右回り。罎は貼付。内面胴部はヘラ ナデ。		
第194区	5	須恵器 羽釜	フク土 口縁部～胴部	口 21.0 制 25.2	26.0 細粒砂/酸化塩/に ぶい黄橙	口口口整形。回転は右回り。罎は貼付。胴部下位はヘラ 削り。		
第194区	6	礫石 磨石	+14.9 方形	長 10.6 幅 3.1	厚 3.0 重 128.5	凝灰質砂岩//	小形棒状礫の上端側小口部が鋭打され、滑っている。礫 面は鉄色に錆び付き、礫面が削ついている状態がよく分 かる。	棒状礫
第194区	7	鉄滓	フク土 破片	長 3.3 幅 3.6	厚 3.1 重 39.3	//	洋質は密。わずかに有機質痕跡が確認できるか。	
-	8	灰軸陶器 罎	フク土 口縁部片			微砂粒/還元塩/灰 白	口口口整形。回転は右回り。施輪方法は刷毛塗か。口唇 部は外反する。	光ヶ丘1号室 式期皿/写真 のみ
-	9	灰軸陶器 皿	フク土 口縁部片			微砂粒/還元塩/灰 白	口口口整形。回転は右回り。施輪方法不明。	大原2号室式 期～虎沢山1 号室式期/写 真のみ
-	10	灰軸陶器 罎	フク土 胴部片			微砂粒/還元塩/灰 白	口口口整形。回転は右回り。施輪方法不明。	東遺10世紀代 か/写真のみ
-	11	灰軸陶器 罎	フク土 胴部片			微砂粒/還元塩/灰 白	口口口整形。回転は右回り。施輪方法不明。	東遺10世紀代 か/写真のみ

R2-3区9号竪穴建物

棟 号 PL.No.	No.	種類 種類	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第194区	1	土師器 杯	カマド ほぼ定形	口 11.0 底 5.0	高 3.6	細粒砂・粗粒砂/ 良好/明赤褐色	体部の上半ナデ、下部をヘラ削りで整形。内面ヘラナデ。 底部切り離し後、ヘラで整形。	
第194区	2	須恵器 杯	カマド 口縁部～底部片	口 12.0 底 5.1	高 4.1	細粒砂・粗粒砂/ 良好/橙	口口口整形。回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。 口唇部がやや外反する。	
第194区	3	須恵器 杯	罎り方 口縁部～底部片	口 12.5 底 6.4	高 4.1	細粒砂・粗粒砂/ 良好/にぶい黄橙	口口口整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は 貼付が剥落。口唇部が外反する。	
第194区	4	須恵器 罎	+20.7 口縁部～底部片	口 12.6 底 7.4	台 6.6 高 5.6	微砂粒/還元塩/褐 灰	口口口整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は 貼付。口唇部がやや外反する。	
第194区	5	須恵器 罎	-3.2 口縁部～底部片	口 13.6 底 7.9	台 6.4 高 5.6	微砂粒・粗粒砂/ 還元塩/灰	口口口整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は 貼付。底部と高台とに隙間が残り、粗い整形。口唇部が やや外反する。	
第194区	6	須恵器 罎	貯蔵穴 口縁部～底部片	口 13.9 底 6.7	台 6.0 高 5.6	微砂粒・粗粒砂/ 還元塩/にぶい黄 橙	口口口整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は 貼付。底部と高台とに隙間が残り、粗い整形。口唇部が やや外反する。	
第195区	7	須恵器 杯	カマド 1/2	口 14.0 底 6.4	高 4.1	細粒砂・粗粒砂/ 還元塩/にぶい黄 橙	口口口整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は 剥落。口唇部がやや外反する。	
第195区	8	灰軸陶器 罎	フク土 口縁部片	口 12.0		微砂粒/還元塩/灰 白	口口口整形。回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台 は貼付。施輪方法は漆け掛け。	虎沢山1号室 式期
第195区	9	灰軸陶器 罎	フク土 口縁部片	口 13.6		微砂粒/還元塩/灰 白	口口口整形。回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台 は貼付。施輪方法は漆け掛け。	大原2号室式 期
第195区	10	灰軸陶器 罎	フク土 口縁部～体部片	口 16.0		微砂粒/還元塩/灰 黄	口口口整形。回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台 は貼付。施輪方法は漆け掛け。口唇部はわずかに外反する。	大原2号室式 期
第195区	11	灰軸陶器 罎	罎り方 底部～体部片	底 8.0 台 7.9		微砂粒/還元塩/に ぶい黄	口口口整形。回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台 は貼付。施輪方法は漆け掛け。	大原2号室式 期
第195区	12	灰軸陶器 罎	フク土 胴部片			微砂粒/還元塩/黄 灰	口口口整形。回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台 は貼付。施輪方法不明。	東遺産
第195区	13	須恵器 罎	カマド 胴部～底部片	制 24.8		細粒砂・粗粒砂/ 還元塩/にぶい黄 橙	口口口整形。回転は右回り。胴部中位より下は、ヘラナデ。 内面は胴部下位までヘラナデ。底部は外反させ、ナデで 整形する。胴部下位に、蓋子を受容穴の孔あり。	

種 図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1959 PL.61	14	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部上 半片	口 胴	22.0 22.3		細粒砂/良好/灰濁	口縁部ヨコナデ。頸部直下は 横方向にヘラ削り。それ 以下は斜め方向にヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。頸部直 下から胴部上位は、ハケメのあるヘラナデ。
第1959 -	15	須恵器 甕	カマド 口縁部～頸部	横	20.0		細粒砂・粗粒砂/ 酸化塩/灰黄濁	ロク口整形。回転は右回り。口縁下に、断面三角形の凸 部を作る。胎土中に粗粒砂が多い。
第1959 -	16	須恵器 甕	胴部 底部～胴部下位 片	底	8.0		細粒砂・粗粒砂/ 還元塩/灰濁	ロク口整形。胴部ヘラ削り。内面底部までヘラナデ。
- PL.61	17	灰釉陶器 椀	フク土 口縁部片				微砂粒/還元塩/灰 白	ロク口整形。回転は右回り。底部は回転ヘラナデ。高台 は貼付。施輪方法不明。口唇部はわずかに外反する。
R2-3区10号塚穴建物								
種 図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1959 PL.62	1	土師器 杯	床下土坑 口縁部～底部片	口 底	12.7 7.6	高 3.8	細粒砂/酸化塩/橙	口縁部ヨコナデ。体部はナデ。底部はヘラ削り。
第1959 PL.62	2	須恵器 杯	フク土 口縁部～底部	口 底	12.2 5.7	高 3.6	細粒砂/還元塩/灰 黄	ロク口整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第1959 PL.62	3	須恵器 杯	フク土 1/2	口 底	13.4 5.6		細粒砂/還元塩/灰 白	ロク口整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。 口唇部は少し外反する。
第1959 PL.62	4	須恵器 杯	+13.8 口縁部～底部片	口 底	13.5 6.0	高 3.9	細粒砂/還元塩/灰 白	ロク口整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第1959 -	5	須恵器 杯	胴部 底部～体部片		6.1		細粒砂/還元塩/灰 白	ロク口整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第1959 PL.62	6	須恵器 椀	+18.6 口縁部～底部片	口 底	13.3 6.1	台 5.6 高 3.4	細粒砂/還元塩/泥 赤い黄濁	ロク口整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付。
第1960 PL.62	7	須恵器 椀	フク土 口縁部～底部片	口 底	14.4 6.9	台 6.2 高 5.0	細粒砂・粗粒砂/ 還元塩/淡赤橙	ロク口整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付。
第1960 -	8	須恵器 椀	床下土坑 口縁部～底部片	口 底	14.2 7.0	台 6.8 高 4.8	細粒砂/還元塩/灰 白	ロク口整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付。
第1960 -	9	須恵器 椀	胴り方 口縁部～体部片	口	12.9		細粒砂/還元塩/泥 赤い黄濁	ロク口整形。回転は右回り。
第1960 -	10	須恵器 椀	胴り方 口縁部～体部片	口	13.0		細粒砂/還元塩/濁 灰	ロク口整形。回転は右回り。口唇部は少し外反する。
第1960 PL.62	11	須恵器 椀	胴り方 口縁部～体部片	口	14.8		細粒砂/還元塩/灰 黄	ロク口整形。回転は右回り。口唇部は少し外反する。
第1960 -	12	須恵器 椀	+15.3 口縁部～体部片	口	14.8		細粒砂/還元塩/黄 灰	ロク口整形。回転は右回り。口唇部がやや外反する。
第1960 -	13	須恵器 椀	フク土 口縁部～体部片	口	13.1		細粒砂/還元塩/灰 黄	ロク口整形。回転は右回り。口縁部が外反する。
第1960 -	14	須恵器 椀	フク土 口縁部～体部片	口	15.0		細粒砂/還元塩/黄 灰	ロク口整形。回転は右回り。口縁部が外反する。
第1960 -	15	須恵器 椀	フク土 口縁部～体部片	口	15.0		細粒砂/還元塩/灰 黄濁	ロク口整形。回転は右回り。
第1960 -	16	須恵器 椀	床下土坑 口縁部～体部片	口	20.0		細粒砂/還元塩/灰 白	ロク口整形。回転は右回り。
第1960 -	17	須恵器 椀	床下土坑 底部～体部片	底 台	6.2 5.6		細粒砂/還元塩/灰 白	ロク口整形。回転は右回り。高台は貼付。
第1960 -	18	須恵器 椀	フク土 底部～口縁部片	底	6.0		細粒砂/酸化塩/橙	ロク口整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第1960 -	19	須恵器 椀	胴り方 底部～体部片	底 台	6.6 6.3		細粒砂/還元塩/灰 白	ロク口整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付。
第1960 -	20	須恵器 椀	胴り方 底部～体部片	底 台	6.7 6.4		細粒砂/還元塩/灰 黄	ロク口整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付。
第1960 -	21	灰釉陶器 皿	+13.2、フク土 口縁部～体部片	口	14.0		微砂粒/還元塩/灰 白	ロク口整形。回転は右回り。施輪方法は掛け削り。口縁 部は小さく外反する。
第1960 PL.62	22	灰釉陶器 皿	+13.2 定形	口 底	14.8 7.3	台 7.0 高 2.8	微砂粒/還元塩/黄 灰	ロク口整形。回転は右回り。底部は回転ヘラナデ。高台 は貼付。施輪方法は刷毛埴り。
第1960 -	23	灰釉陶器 椀	フク土 口縁部～体部片	口	18.0		微砂粒/還元塩/灰 黄	ロク口整形。回転は右回り。底部は回転ヘラナデ。高台 は貼付。施輪方法は刷毛埴り。口縁部は小さく外反する。
第1960 PL.62	24	灰釉陶器 椀	床下土坑 底部～口縁部へ	底 台	8.4 8.6		微砂粒/還元塩/灰 黄	ロク口整形。回転は右回り。底部は回転ヘラナデ。高台 は貼付。体部下平は回転ヘラ削り。施輪方法は刷毛埴りか 2条の円線による区画。円線上位に刺突文を巡らす。内 面はヘラナデ。アテ具痕が見る。
第1960 PL.62	25	須恵器 壺	フク土 胴部片				細粒砂/還元塩/灰 白	

綿貫千葉西遺跡 遺物観察表

種 図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第197図 -	26	土師器 甕	+15.8 口縁部～胴部上 段片	口 製	16.0 17.0		細粒砂/良好/にふ い陶	口縁部ヨコナデ。頸部以下胴部ヘラ削り、内面胴部ヘラ ナデ。	
第197図 -	27	土師器 甕	フク土 口縁部～頸部片	口 製	19.7		細粒砂/良好/にふ い陶	口縁部ヨコナデ。	
第197図 -	28	土師器 甕	床下土坑 口縁部～胴部上 段片	口 製	20.0		細粒砂/酸化塩/橙	口縁部ヨコナデ。胴部外面ヘラ削り。内面ヘラナデか、 摩耗のため単位は観察できない。	
第197図 PL.62	29	土師器 甕	床直 口縁部～胴部中 段片	口 製	20.2 22.4		細粒砂/良好/にふ い陶	口縁部ヨコナデ。頸部以下胴部外面ヘラ削り、内面胴部 ヘラナデ。	
第197図 -	30	土師器 甕	+26.0 口縁部～胴部上 段片	口 製	23.2		細粒砂/良好/橙	口縁部ヨコナデ。頸部以下胴部ヘラ削り、内面胴部ヘラ ナデ。	
第197図 -	31	土師器 甕	フク土 底部～胴部中位 段片	底 製	3.5 10.5		細粒砂/良好/にふ い赤褐色	胴部ヘラ削り、内面ヘラナデ。	
第197図 -	32	須恵器 甕	床下土坑 胴部片				細粒砂・粗粒砂/ 還元塩/灰白	頸部に近い胴部片が、胎土の白色粒子が多く含まれる。	
第197図 -	33	土師器 甕	床下土坑 口縁部～胴部上 段片	口 製	20.0		細粒砂/良好/明赤 褐色	口縁部ヨコナデ。	
第197図 PL.62	34	羽口 -	フク土 破片	長 幅	(2.8) (3.9)	厚 重	1.1 11.8	//	外面が一部溶融する。胎土はほぼ胎土。
第197図 PL.62	35	羽口 -	フク土 破片	長 幅	(3.2) (3.3)	厚 重	1.1 14.1	//	全体に外面に発色が現れる。内面は両端部をつなげる ような加工が現存する。

R2-3区11号竪穴建物

種 図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第198図 PL.62	1	土師器 杯	フク土 完形	口 製	10.8 9.0	高 4.5	細粒砂/良好/明赤 褐色	口縁部はヨコナデ。椀下から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器蓋杯蓋 模倣
第198図 PL.62	2	土師器 杯	掘り方 1/2	口 製	12.0 11.0	高 4.8	細粒砂/良好/明赤 褐色	口縁部はヨコナデ。椀下から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器蓋杯蓋 模倣
第198図 PL.62	3	土師器 杯	掘り方 ほぼ完形	口 製	12.5 11.7	高 5.5	細粒砂/良好/明赤 褐色	口縁部はヨコナデ。椀下から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器蓋杯蓋 模倣
第198図 PL.63	4	土師器 杯	掘り方 3/4	口 製	12.7 12.6	高 3.8	細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ。摩耗が激しくナデ、ヘラ削りの単位 が観察できない。	
第198図 -	5	須恵器 杯蓋の蓋	掘り方 天井部片				細粒砂・粗粒砂/ 還元塩/灰	ロクロ整形。回転は右回り。天井部回転ヘラ削り。胎土 に白色粒子が多く含まれる。断面は中央から内面側が赤 褐色を呈する。	
第198図 -	6	須恵器 甕	フク土 頸部～胴部上位 片				細粒砂・粗粒砂/ 還元塩/灰	ロクロ整形。回転は右回り。内面は同心円状のアケ具痕 が残る。外面は平行叩き痕が残る。叩いた後開閉をあげ てカキメ。	
第198図 -	7	須恵器 甕	フク土 胴部片				細粒砂・粗粒砂/ 還元塩/灰	ロクロ整形。回転は右回り。内面は同心円状のアケ具痕 が残る。外面は平行叩き痕がわずかに残る。胎土に微細 な白色粒子が多く含まれる。	
第198図 PL.63	8	石製品 鉢輪	-7.2 完形	径 -	4.1 61.4	高 2.2	2.2 蛇紋岩//	上下両面とも平滑だが、左右で厚味が異なる。上面輪の 輪穴周辺は先肉を帯びる。体部外面は面取り整形後、磨 き整形。径6mの孔を内側穿孔。	厚型台形状 孔径0.6
第198図 PL.63	9	羽口 -	フク土 破片	長 幅	(3.9) (4.7)	厚 重	1.3 24.3	//	外面が発色する。面取りがされている。胎土がやや赤み を持つ。

R2-3区12号竪穴建物

種 図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第199図 -	1	土師器 杯	床下土坑 1/4	口 製	11.4 11.5	高 4.4	細粒砂/酸化塩/橙	口縁部はヨコナデ。椀下から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器蓋杯蓋 模倣
第199図 -	2	土師器 杯	床下土坑 口縁部～底部片	口 製	11.8 11.8		細粒砂/酸化塩/橙	口縁部はヨコナデ。椀下から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器蓋杯蓋 模倣
第199図 -	3	土師器 杯	貯蔵穴 1/4	口 製	11.6 12.8		微細粒砂/酸化塩/ 灰黄褐色	口縁部はヨコナデ。椀下から底部は手持ちヘラ削り。焼 じ焼成。	須恵器蓋杯身 模倣
第199図 -	4	土師器 高杯	フク土 杯身部～脚部片				細粒砂/良好/にふ い黄褐色	脚柱部外面縦方向の丁寧なヘラ磨き。杯部と脚部との接 合面は不明瞭。	
第199図 PL.63	5	土師器 甕	貯蔵穴 口縁部～胴部上 半片	口 製	25.0 22.0		細粒砂・粗粒砂/ 良好/橙	口縁部はヨコナデ。胴部は縦方向ヘラ削り。内面はヘラ ナデか、器面摩耗のため観察できず。	6と同一個体 か

採 取 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1999R -	6	土師器 甕	フク土 胴部～下部片	底 10.6	細粒砂/粗粒砂/ 良好/橙	胴部は縦方向へラ削り。内面はヘラナデか、不鮮明のため観察できず。底部穴は、へら削りの後ナデで整形。	5と同一個体か
第1999R -	7	土師器 甕	フク土 口縁部～胴部上 半片	口 17.2 胴 13.2	細粒砂/粗粒砂/ 良好/橙	胴部はヨコナデ。胴部は縦方向・下からのへら削りを胴部で止める。内面はヘラナデ。	
第1999R PL.63	8	土師器 甕	+6.6 口縁部～胴部上 部片	口 15.0 胴 18.0	細粒砂/良好/灰黄 色	口縁部内外ともに、刷毛目のあるヘラナデ。外面内面ともに胴部以下ヘラナデ。	
第1999R PL.63	9	土師器 甕	割り方 底部～胴部上位 片	底 6.6 胴 20.0	細粒砂/粗粒砂/ 良好/灰黄橙	底部と胴部はへら削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第1999R PL.63	10	土製品 土鉢	-7.2、柱穴 完形	長 8.3 孔 0.8 径 2.5 重 48.1	細粒砂/良好/橙	外面はナデ。中央部に指頭痕が残る。穿孔は肉端から。	
第1989R PL.63	11	石製品 石製模造品	11型+8.7 完形	長 3.6 厚 0.8 幅 2.6 重 12.0	滑石//	薄板状割片を素材に用い、片側磨して表面上下2ヶ所に功を穿つ。鋭形。	分No.3 孔径0.2

R2-3区13号竪穴建物

採 取 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2000R -	1	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 11.0 底 10.4	細粒砂/良好/浅黄 色	口縁部はヨコナデ。椀下から底部は手持ちへら削りか。	須恵器蓋杯蓋 模倣
第2000R -	2	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 12.0 底 11.0	細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ。椀下から底部は手持ちへら削り。	須恵器蓋杯蓋 模倣
第2000R PL.63	3	土師器 杯	カマド袖、 +23.5 口縁部～底部片	口 13.0 高 5.0 底 13.5	細粒砂/粗粒砂/ 良好/橙	口縁部はヨコナデ。体部上半は摩耗のためナデなど観察できない。体部下半から底部は手持ちへら削り。	須恵器蓋杯蓋 模倣
第2000R PL.63	4	土師器 高杯	+35.4 杯部～脚部上半 片	口 12.0 底 10.1	細粒砂/良好/橙	杯部端部ヨコナデ。体部摩耗のためへら削りなど単位見えず。脚注内面へラナデ、へらの圧痕が残る。	
第2000R -	5	須恵器 蓋杯の蓋	フク土 天井部		細粒砂/還元塩/灰 色	ロクロ整形。回転は右回り。天井部は回転へら削り。	
第2000R -	6	土師器 甕	フク土 口縁部～胴部片	口 12.8	細粒砂/良好/ふい 色	口縁部はヨコナデ。胴部はへら削り。内面は摩耗のため観察できず。	
第2000R PL.63	7	土師器 円盤	フク土 完形	長 4.3 短 3.9	細粒砂/良好/ふい 色	摩耗が進み、整形痕観察できず。土器片の周囲を二次加工。	
第2000R PL.63	8	石製品 鉄片	+16.8 完形	長 15.5 厚 9.8 幅 23.1 重 5275.4	粗粒輝石安山岩//	表面側に径40の窪み穴がある。裏面側は平坦で、中央付近には打痕が、周辺部は摩耗が著しい。表面側が赤く見えるのはベンガラが付着したためか。表裏面ともむび割れる。やや流動性を持って固まる。滓質は密。わずかに酸化土砂が付着する。	旧4号土坑
第2000R PL.64	9	鉄滓	カマドフク土 破片	長 4.6 厚 2.5 幅 3.5 重 45.1	//	下面に酸化土砂が付着する。上面は凹凸が激しい。滓質は密。	
第2000R PL.64	10	鉄滓	カマドフク土 破片	長 6.2 厚 2.5 幅 3.5 重 32.4	//	下面に酸化土砂が付着する。上面は凹凸が激しい。滓質は密。	
第2000R PL.64	11	弱口 破片	+23.5 破片	長 (5.9) 厚 1.0 幅 (5.3) 重 50.0	//	残存する端部外面にわずかに滓が付着している。胎土は細く、内面に加工痕が見られる。	

R2-3区14号竪穴建物

採 取 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2011R PL.64	1	土師器 杯	-25.4、割り方 口縁部～底部	口 11.3 高 3.7 底 10.2	細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ。椀下から底部は手持ちへら削りか、摩耗のため単位は観察できず。	須恵器蓋杯蓋 模倣
第2011R PL.64	2	土師器 杯	フク土 口縁部～底部	口 13.0 高 4.1 底 11.2	細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ。椀下から底部は手持ちへら削りか、摩耗のため単位は観察できず。	須恵器蓋杯蓋 模倣
第2011R PL.64	3	土師器 甕	-29.2、割り方 口縁部～胴部	口 18.0	細粒砂/粗粒砂/ 良好/ふい色	口縁部はヨコナデ。胴部は縦方向・下からのへら削りを口縁部下で止め、そこを工具でナデ、へら削りの上端を整形する。内面は胴部以下ヘラナデ。胎土に粗粒砂が多く含まれる。	

R2-3区15号竪穴建物

採 取 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2011R -	1	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 11.6	細粒砂/良好/ふい 色	口縁部ヨコナデ。摩耗のため、へら削りの単位が観察できない。	
第2011R PL.64	2	須恵器 皿	フク土 1/3	口 13.4 台 8.6 底 8.6 高 2.6	細粒砂/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2011R PL.64	3	須恵器 皿	フク土 口縁部～底部	口 14.0 台 8.8 底 8.9 高 2.1	細粒砂/還元塩/灰 色	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2011R PL.64	4	須恵器 杯	フク土 口縁部穴	底 6.2 台 5.7	細粒砂/還元塩/灰 色	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	

綿貫千葉西道跡 遺物観察表

採 回 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第201回 PL 64	5	須恵器 杯	+13.3 2/3	口 底	12.8 6.3	高 3.9	細粒砂/還元焰/黒 褐色	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。 内外雄し焼成。
第201回 PL 64	6	須恵器 杯	フク土 1/3	口 底	13.5 7.0	高 3.5	細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付。
第201回 PL 64	7	須恵器 杯	+2.6 底部	底	6.2		細粒砂/還元焰/灰 黄褐色	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第201回 PL 64	8	須恵器 椀	+0.8 ほぼ正形	口	15.0 8.2	台 高 8.0 6.0	細粒砂/還元焰/黄 灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付。
第201回 PL 64	9	須恵器 椀	+17.5 1/2	口	15.4 7.2	台 高 7.2 5.5	細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付。
第202回 -	10	須恵器 椀	+3.6 底部～体部	底 台	7.0 5.9		細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付。
第202回 -	11	須恵器 椀	直直 底部～体部下位 片	底 台	6.8 6.6		細粒砂/酸化焰/黄 灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付。内面ヘラナデ。
第202回 -	12	須恵器 椀	フク土 底部～体部片	底	7.2 6.9		細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付。
第202回 -	13	須恵器 椀	直直 底部～体部下位 片	底 台	6.8 7.0		細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付。
第202回 -	14	須恵器 椀	+28.4 底部～体部	底	7.6		細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付が剥落。
第202回 -	15	須恵器 椀	直直 底部～体部片	底	8.8		細粒砂/還元焰/に ぶい椀	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付。高台欠損後、底部を再調整。
第202回 -	16	須恵器 椀	フク土 底部～体部片	底	10.1		細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付が剥落。
第202回 -	17	土師器 甕	フク土 口縁部～胴部上 位片	口	19.0		細粒砂/良好/にぶ い椀	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴 部にヘラナデ。
第202回 -	18	土師器 甕	フク土 口縁部～胴部上 位片	口	21.0		細粒砂/良好/にぶ い椀	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴 部にヘラナデ。
第202回 -	19	須恵器 高杯	フク土 杯部口縁部片	口	11.8 10.4		細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。杯部口縁部は中ほどに2条の 凹線を巡らし、その上位に波状文、下位に刺突文を施す、 底部はヘラ削り。
第202回 PL 64	20	礫石器 磨石	フク土 定形	長 幅 重	7.1 1.7 46.5		砂岩//	小口部両端に磨行痕がある。表裏面とも平坦な砥面が摺 れて鉄跡が落ちている。研磨具として使用されたものか。
R2-3区16号壁穴建物								
採 回 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第203回 -	1	須恵器 杯	フク土 1/4	口 底	8.6 5.0	高 2.0	細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第203回 PL 65	2	須恵器 杯	貯蔵穴 1/4	口 底	9.8 6.0	高 2.0	細粒砂/還元焰/椀	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第203回 PL 65	3	須恵器 杯	フク土 1/3	口 底	9.6 6.0	高 1.9	細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第203回 PL 65	4	須恵器 杯	+14 1/3	口 底	9.8 6.0	高 2.3	細粒砂/還元焰/淡 黄	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、摩耗の ため、切り離し後の調整の有無が観察できない。
第203回 PL 65	5	須恵器 椀	+13.1 1/2	口	12.3 6.1	高 4.1	細粒砂/還元焰/に ぶい黄椀	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第203回 PL 65	6	須恵器 椀	+0.5 高台欠	口	14.8 7.1		細粒砂/還元焰/に ぶい黄椀	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付が剥落。
第203回 -	7	須恵器 椀	フク土 口縁部～底部片	口	16.6 9.0	高 4.2	細粒砂/還元焰/褐 灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。 口縁部外反する。
第203回 -	8	須恵器 椀	フク土 1/3	口	15.0 6.6		細粒砂/還元焰/に ぶい黄椀	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付が剥落。口縁部少し外反する。
第203回 -	9	灰釉陶器 段皿	フク土 口縁部～体部片	口	11.6		細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。施釉は洗い掛け。
第203回 PL 65	10	須恵器 台付鉢	+0.7 脚部片	脚	23.0		細粒砂/酸化焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。脚部上半はヘラ削り。内面はヘ ラナデ。重とみられたが形態から脚付鉢などの脚部と判断。 ロクロ整形。回転は右回り。底部はヨコナデで整形し、 外反するため底面は下につかない。胴部はヘラ削り。内 面はヘラナデ。
第203回 -	11	須恵器 甕	直直 底部～胴部下位 片	底	22.6		細粒砂/還元焰/黒 褐色	ロクロ整形。内外面ともに摩耗・剥落のため、ヘラ削り・ ナデの単位観察できず。
第203回 -	12	須恵器 甕	直直 底部～胴部下位 片	底	14.5		細粒砂/還元焰/明 褐色	ロクロ整形。内外面ともに摩耗・剥落のため、ヘラ削り・ ナデの単位観察できず。

種 別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第20300 PL.65	13	鉄製品 紡輪	-2.8 定形	径 - 厚 24.0	4.5 0.3 //	径が小さい紡輪。踵に覆われ、軸部分は確認できない。	
第20300 PL.65	14	鉄製品 棒状製品	フク土 破片	長(16.7) 幅 0.6	厚 0.2 重 15.4	//	断面が丸い棒状の製品。太さが異なるもの含まれている。近現代の可能性も否定できない。
- PL.65	15	割片石器 打製石斧	フク土 2/3	長(7.5) 幅(6.8)	厚 2.1 重 137.5	硬質泥岩/分割形	未成品?内側縁のエッジは潰れ、柄に装着可能だが、割離面はシャープで、新鮮な状態。器体の上下両端を欠く。器体が焼け焼熱した可能性。
- PL.65	16	石製品 カマド構築材	カマド+8.4 破片	長(18.7) 幅(8.6)	厚(7.7) 重 844.3	未固結凝灰岩//	表裏面は平らな整形面。左右両面は破損面。整形面は被熱赤化してヒビ割れるほか、焼ける。

R2-3区17号竪穴建物

種 別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第20400 PL.65	1	土師器 杯	掘り方-3.4 1/3	口 10.8 底 10.4	高 4.7	細粒砂/良好/黄褐色	口縁部はヨコナデ、椀下から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器蓋杯蓋 根椀
第20400 PL.65	2	土師器 杯	+29.3 1/3	口 11.1 底 10.4	高 3.6	細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下から底部は手持ちヘラ削りか、摩滅のため部分的に観察できない。	須恵器蓋杯蓋 根椀
第20400 -	3	土師器 甕	フク土 底部-胴部下位片	底 5.0		細粒砂/良好/ふい い黄橙	底部に木炭屑が残る。胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	

R2-3区18号竪穴建物

種 別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第20400 PL.65	1	土師器 杯	+10.7 1/2	口 11.0 底 10.6	高 3.8	細粒砂/良好/ふい い橙	口縁部はヨコナデ、椀下から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器蓋杯蓋 根椀
第20400 -	2	土師器 杯	掘り方 口縁部-底部片	口 11.8		細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下から底部は手持ちヘラ削りか、摩滅のため部分的に観察できるのみ。	須恵器蓋杯蓋 根椀
第20400 -	3	土師器 杯	+9.9 口縁部-体部片	口 16.0 底 14.8		細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下から底部は手持ちヘラ削りか、摩滅のため部分的に観察できる。口唇部が外反する。	
第20400 PL.65	4	土師器 杯	+9.2 4/5	口 11.6 底 8.8	高 3.0	細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。	9世紀後半
第20400 -	5	須恵器 有台杯	+18.5 底部片	底 10.4 台 9.8		細粒砂/還元焰/灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部へラ削り。高台は貼付。	8世紀前半
第20400 -	6	須恵器 甕	+30.8 胴部片			細粒砂・粗粒砂/ 還元焰/灰	ロクロ整形。回転は右回り。内面は同心円状のアテ貝痕が残る。外面はカキメで明き板張を消す。胎土に微細な白色粒子が多く含まれる。	
第20400 PL.65	7	礫石器 磨石	フク土 定形	長 14.0 幅 5.5	厚 4.1 重 490	変質安山岩/杵状 礫/	小口部両端に磨打痕がある。先端部が尖り気味であり、磨石には最適。	

R2-3区19号竪穴建物

種 別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第20500 PL.65	1	黒色土器 椀	+6.4 3/4	口 16.3 底 7.5	台 8.2 高 6.6	細粒砂/酸化焰/灰 白	内面黒色処理。ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転へラ削り。高台は貼付。体部中程より底部は回転へラ削り。内面は底部より口縁まで、丁寧な横方向のヘラ磨き。	
第20500 PL.65	2	須恵器 杯	カマド 定形	口 9.2 底 5.8	高 2.0	細粒砂/酸化焰/橙	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。	
第20500 PL.65	3	須恵器 甕	カマド ほぼ定形	口 10.4 底 5.5	高 3.1	細粒砂/酸化焰/ふ い橙	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整か、高台は脱落。	
第20500 PL.65	4	須恵器 甕	直直+9.4 口縁部-底部片	口 11.4 底 5.6	台 6.0 高 5.0	細粒砂・粗粒砂/ 還元焰/灰白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切りか。高台は貼付。	
第20500 PL.65	5	須恵器 杯	カマド 2/3	口 13.2 底 6.2	台 5.6 高 4.5	細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り。高台は貼付。	
第20500 -	6	灰釉陶器 甕	フク土 底部-体部片	底 7.0 台 6.4		還元焰/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り。高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期
第20500 PL.65	7	須恵器 杯	フク土 口縁部片			細粒砂/還元焰/灰 黄褐色	ロクロ整形。外面に黒書。残存が悪く判読不能。	
第20500 PL.65	8	灰釉陶器 甕	フク土 口縁部-体部片	口 13.6		還元焰/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。体部は下位にヘラ削り。施釉方法は洗け掛け。	大原2号窯式 期
第20500 PL.65	9	須恵器 甕	カマド 胴部下位片			細粒砂・粗粒砂/ 酸化焰/橙	ロクロ整形。内面に粘土巻き上げによる輪轆み痕が残る。外面はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第20500 PL.65	10	土師器 甕	カマド 胴部	胴 29.7		細粒砂・粗粒砂/ 良好/明赤褐色	胴部はロクロ整形。外面はヘラ削り。内面の残存部上半にヘラナデ。	
第20500 -	11	須恵器 羽釜	フク土 口縁部-胴部下 位片	口 25.6 胴 28.2		細粒砂/酸化焰/灰 黄褐色	ロクロ整形。回転は右回りか。罫は貼付。上下に貼付時のナデ。胴部はヘラ削り。	
第20500 PL.65	12	礫石器 磨石	フク土 定形	長 15.4 幅 6.1	厚 4.3 重 604.6	細粒輝石安山岩//	小口部両端の磨打痕がある。礫中央の礫部は擦れて鉄屑が落ちる。	鉄杖礫。2号土 坑

綿貫千葉西遺跡 遺物観察表

採 掘 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第20509 PL.66	13	鉄滓 -	+13.0 破片	長 幅	4.6 5.5	厚 重	3.3 144.4	//	上面は比較的平らでわずかに発泡する。下面は丸みを帯びている。浄質は密。全体が黒っぽい。
- PL.66	14	灰輪陶器 皿	フク上 口縁部片					微砂粒/還元焰/灰 白	口縁部整形、回転は右回り。施釉方法不明。 大原2号窯式 期～虎尻山1 号窯式期

R2-3区20号竪穴建物

採 掘 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第20609 PL.66	1	須恵器 椀	胴り方 2/3	口 底	10.2 4.0	高 3.1	細粒砂/還元焰/黄 灰	口縁部整形、回転は右回り。底部は回転系切り無調整。		
第20609 -	2	須恵器 椀	胴り方 底部	底 径	6.4 6.4		細粒砂/還元焰/灰 白	口縁部整形。底部は回転系切り、高台は貼付。		
第20609 -	3	須恵器 椀	フク上 底部一体部片	底 径	6.2 6.0		細粒砂/還元焰/灰 白	口縁部整形、回転は右回り。底部は回転系切り、高台は貼付。		
第20609 -	4	須恵器 椀	+11.6 底部一体部下位	底 径	8.0 8.0		細粒砂/還元焰/灰 白	口縁部整形、回転は右回り。底部は回転系切り、高台は貼付。		
第20609 PL.66	5	灰輪陶器 皿	+5.5 2/3	口 底	13.0 6.3	台 高	6.5 3.3	微砂粒/還元焰/灰 白	口縁部整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉は漬け掛け。内面に垂れ釉。	大原2号窯式 期
第20609 -	6	灰輪陶器 椀	胴り方、埋没上 口縁部片	口 径	12.7			微砂粒/還元焰/灰 白	口縁部整形、回転は右回り。施釉は漬け掛け。	大原2号窯式 期
第20609 -	7	灰輪陶器 椀	フク上 底部一体部下位片	底 径	7.3 7.0			微砂粒/還元焰/灰 白	口縁部整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉は漬け掛け。	大原2号窯式 期
第20609 -	8	土師器 甕	胴り方、埋没上 口縁部～胴部上 位片	口 径	26.0			細粒砂/酸化焰/こ ぶい黄橙	口縁部はヨコナデ。胴部は縦方向・下からのヘラ削りを頸部で止める。内面はヘラナデ。	
第20609 -	9	須恵器 羽釜	フク上 口縁部～胴部上 位片	口 径	23.4 28.4			細粒砂/還元焰/陶 灰	口縁部整形、回転は右回り。頸は貼付。内面はヘラナデ。	
第20609 -	10	須恵器 羽釜	床直 口縁部～胴部上 位片	口 径	26.7 30.0			細粒砂/酸化焰/こ ぶい橙	口縁部整形、回転は右回り。頸は貼付。内面はヘラナデ。	
第20609 PL.66	11	鉄滓 検査滓か	床直 一部欠損	長 幅	9.6 9.6	厚 重	3.9 381.6	//	下面は丸みを帯び、上面は中心部がわずかに凹む。上面に酸化土砂が多く付着し、下面は有機質痕跡が確認できる。	

R2-3区21号竪穴建物

採 掘 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第20709 -	1	須恵器 高杯	フク上 胴部片	脚 径	14.8			細粒砂/還元焰/黄 灰	口縁部整形、回転は右回り。脚部端には凹線が巡る。	
第20709 PL.66	2	土師器 甕	+17.1 口縁部～胴部中 位片	口 径	19.8 16.8			細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ。胴部は縦方向・下からのヘラ削りを頸部で止める。内面はヘラナデ。	

R2-3区22号竪穴建物

採 掘 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第20709 PL.66	1	土師器 杯	フク上 口縁部～底部片	口 径	10.5 10.1			細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ。椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器蓋杯蓋 椀燻
第20709 PL.66	2	土師器 杯	フク上 1/2	口 径	11.0 10.5			細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ。椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器蓋杯蓋 椀燻
第20709 PL.66	3	土師器 杯	+19.6 1/3	口 径	13.3 11.8	高 3.8		細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ。椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器蓋杯蓋 椀燻
第20709 PL.66	4	土師器 杯	フク上 口縁部～底部片	口 径	13.8 12.0			細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ。椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器蓋杯蓋 椀燻
第20709 PL.66	5	土師器 杯	フク上 口縁部～底部片	口 径	14.2 12.6			細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ。椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器蓋杯蓋 椀燻

R2-3区23号竪穴建物

採 掘 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第20709 PL.66	1	土師器 杯	-13.8 完形	口 径	10.4 10.8	高 3.8		細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ。椀下から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器蓋杯蓋 椀燻
第20709 PL.66	2	土師器 杯	胴り方 3/4	口 径	12.4 11.7	高 3.4		細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ。椀下から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器蓋杯蓋 椀燻
第20709 -	3	土師器 杯	フク上 1/5	口 径	17.8 16.0			細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ。椀下から底部のナデや手持ちヘラ削りなど、厚削のため観察できない。口唇部が外反する。	
第20709 -	4	須恵器 蓋杯の蓋	フク上 天井部片					細粒砂/還元焰/灰 白	口縁部整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。断面は灰赤色を呈する。	

種 図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2070図 PL.66	5	土師器 費	カマド袖 底部～胴部下半片	底	3.0		細粒砂/良好/褐	胴部から下位までヘラ削り、内面胴部から底部までヘラナデ。
第2070図 -	6	須恵器 費	廻り方 口縁部片				細粒砂/還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。口縁は上方に引き出され、口唇部下に小凸部を作る。
第2070図 -	7	須恵器 費	フク上 胴部片				細粒砂/還元焰/灰	胴部は叩き締め成形。外面は格子状の叩き板の痕跡が微かに残る。間隔をあけてカキ目。内面は下部に同心円状のアテ具痕、上部に平行状アテ具が残る。断面は灰赤色を呈する。
第2070図 -	8	須恵器 椀	フク上 底部～体部片	底 台	7.7 6.6		細粒砂/還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り、高台は貼付。
第2070図 PL.66	9	灰軸陶器 椀	フク上 1/2	口 底	16.3 7.8	台 5.7	微砂粒/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形、回転は右回り。施種方法は漬け掛け。口縁部は小さく外反する。重ね焼き痕が残る。

R2-3区24号竪穴建物

種 図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2080図 PL.67	1	土師器 杯	廻り方フク上 1/2	口 底	12.8 11.6	高 4.5	細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ、種下から底部は手持ちヘラ削り。
第2080図 PL.67	2	土師器 杯	+8.2 完形	口 底	13.8 14.4	高 4.1	細粒砂/良好/にぶ い赤褐	口縁部はヨコナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内外ともに焼上げ成。
第2080図 PL.67	3	土師器 杯	+5.5 ほぼ完形	口 底	13.1 14.1	高 3.6	細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内外ともに焼上げ成。
第2080図 PL.67	4	須恵器 椀	+11.1 1/3	口 底	13.4 6.0	高 4.5	細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第2080図 PL.67	5	須恵器 椀	廻り方-6.4 1/2	口 底	14.4 5.6		細粒砂/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り、高台は貼付が脱落。
第2080図 -	6	須恵器 椀	口縁部～体部片	口	14.0		細粒砂/還元焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。
第2080図 -	7	須恵器 杯	+6.1 底部	底	6.4		細粒砂/還元焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第2080図 -	8	須恵器 椀	+12.7 底部～体部下位片	底 台	5.0 5.8		細粒砂/還元焰/灰 褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り、高台は貼付。
第2080図 -	9	土師器 費	+13.5 口縁部～胴部上 位片	口	18.0		細粒砂/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。
第2080図 -	10	土師器 費	フク上 口縁部～胴部上 位片	口	19.8		細粒砂/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。

R2-3区27号竪穴建物

種 図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2090図 PL.67	1	須恵器 杯	-1.8 完形	口 底	10.2 4.6	高 3.2	細粒砂/酸化焰/に ぶい褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第2090図 PL.67	2	須恵器 杯	床直 2/3	口 底	14.4 7.0	高 4.8	細粒砂/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第2090図 -	3	須恵器 椀	+8.5 底部～体部下半 片	底 台	6.0 6.8		細粒砂/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り、高台は貼付。
第2090図 PL.67	4	灰軸陶器 皿	カマド、カマド 袖 完形	口 底	12.2 6.7	台 高 6.5 2.6	微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。施種漬け掛け。内面に重ね焼き痕。
第2090図 -	5	灰軸陶器 皿	床直 1/3	口 底	12.0 8.0	台 高 2.7	微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。施種方法不明。口唇部はわずかに外反する。底部は回転ヘラ削り。
第2090図 -	6	灰軸陶器 皿	カマド 口縁部片	口	11.8		微砂粒/還元焰/浅 黄	ロクロ整形、回転は右回り。施種漬け掛け。
第2090図 -	7	灰軸陶器 椀	-1.7 口縁部片	口	12.6		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施種方法不明。
第2090図 -	8	灰軸陶器 椀	+7.5 底部～体部片	底 台	5.5 5.2		微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。施種方法不明。
第2090図 -	9	灰軸陶器 椀	フク上 口縁部～体部片	口	15.9		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施種方法不明。
第2090図 -	10	土師器 費	+5.3 頸部～胴部上位 片	頸	15.0		細砂粒/良好/灰黄 褐	頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。

綿貫千葉西道跡 遺物観察表

採 掘 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第20908 -	11	須臾器 羽釜	カマド 口縁部～胴部上 段片	口	24.0	-	細粒砂/還元焰/橙	ロクロ整形、回転は右回り。跨は貼付。内面はヘラナデ。	
第20908 PL.67	12	須臾器 羽釜	カマド 底部～胴部下 半片	底 脚	8.4 24.3	-	細粒砂・粗粒砂/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転は右回り。内面はヘラナデ。	
第20908 PL.67	13	土製品 土鉢	床直 定形	長 径	5.1 2.0	0.7 17.4	細粒砂・粗粒砂/ 酸化焰/褐灰	両端部平坦面を作る。表面はナデ。	
第20908 PL.67	14	土製品 土鉢	φ15.0 定形	長 径	4.4 2.0	0.65 14.8	細粒砂・粗粒砂/ 酸化焰/褐灰	表面はナデ。	
第20908 PL.67	15	鉄滓 輪型滓か	-2.2 1/2か	長 幅	10.3 9.4	厚 重	4.5 403.4	//	上面は比較的平坦で下面は丸みを帯びる。上面にガラス 質とみられる光沢が見られる。下面には酸化土砂がわず かに付着する。滓質は密。
第20908 PL.67	16	石製品 砥石	-1.6 1/8	長 幅	(15.0) (17.0)	厚 重	10.0 3006.8	粗粒輝石安山岩//	表面側の外縁付近に研磨痕が残る。素材そのものは被熱 破損したもので、部分的に保ける。

R2-3区28号竪穴建物

採 掘 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第21088 PL.68	1	土師器 杯	カマド ほぼ定形	口 径	12.2 12.3	高 3.4	細粒砂/酸化焰/橙	口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部手持ちヘラ削り。	
第21088 PL.68	2	須臾器 杯	-5.4 3/4	口 底	11.2 6.4	高 3.0	細粒砂/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形、回転は右回り。底部はヘラ起こし後回転ヘ ラ削り。	
第21088 PL.68	3	須臾器 杯	カマド 定形	口 底	12.0 7.4	高 3.8	細粒砂/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部はヘラ起こし後回転ヘ ラ削り。内面底部に付着物。	
第21088 PL.68	4	須臾器 杯蓋	カマド ほぼ定形	口 高	18.0 4.3	幅 3.3	細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。口 縁部は端部を折り曲げ。横はつぶれた擬宝珠状を貼付。	
第21088 PL.68	5	土師器 小型甕	カマド 3/4	口 底	11.8 5.1	脚 高	13.0 11.7	細粒砂/良好/橙	口縁部ヨコナデ。胴部から底部までヘラ削り。内面は底 部から胴部ヘラナデ。
第21088 PL.68	6	土師器 甕	カマド ほぼ定形	口 底	15.2 4.7	脚 高	18.2 17.2	細粒砂/良好/橙	口縁部ヨコナデ。胴部から底部までヘラ削り。内面は底 部から胴部ヘラナデ。
第21088 PL.68	7	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部上 半片	口 脚	21.2 20.4	-	細粒砂/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部はヨコナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴 部にヘラナデ。	
第21088 PL.68	8	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部中 段片	口 脚	22.0 21.2	-	細粒砂/良好/橙	口縁部から頸部はヨコナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴 部にヘラナデ。	

R2-3区29号竪穴建物

採 掘 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第21088 -	1	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 径	10.8 10.4	-	細粒砂/酸化焰/に ぶい橙	口縁部ヨコナデ。体部底部手持ちヘラ削り。
第21088 -	2	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 径	11.6 11.8	-	細粒砂/酸化焰/橙	口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ。体部下部から底部手持 ちヘラ削り。
第21088 -	3	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 径	12.0 12.2	-	細粒砂/良好/橙	口唇部はヨコナデ。口縁部はナデ。体部から底部は手持 ちヘラ削り。
第21088 -	4	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 径	14.4 15.0	-	細粒砂/良好/橙	口唇部はヨコナデ。口縁部はナデ。体部から底部は手持 ちヘラ削り。

R2-3区30号竪穴建物

採 掘 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第21188 PL.68	1	須臾器 杯	掘り方 1/4	口 底	9.8 5.0	高 2.8	細粒砂/還元焰/灰 濁	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第21188 PL.68	2	須臾器 杯	1号土坑+7.6 口縁部～底部	口 底	10.0 5.0	高 3.4	細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第21188 PL.68	3	須臾器 杯	カマド 1/4	口 底	10.8 4.8	高 2.8	細粒砂/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第21188 -	4	須臾器 杯	床直 底部～体部片	底	5.7	-	細粒砂/還元焰/灰 濁	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。高台は 貼付。	
第21188 -	5	須臾器 検	フク土 1/2	口 底	14.3 7.4	台 高	8.8 6.3	細粒砂・粗粒砂/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後回転ヘ ラナデ。高台は貼付。
第21188 -	6	須臾器 検	床直 口縁部～体部片	口	13.6	-	細粒砂/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。内面体部に焼成前の線刻。	
第21188 -	7	須臾器 検	カマド 口縁部～体部片	口	14.3	-	細粒砂/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転は右回り。口唇部が外反する。	

種 別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第2118号 -	8	須恵器 椀	カマド 底部片	底 台	6.7 8.0		細粒砂/還元焼/褐 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。		
第2118号 PL.68	9	須恵器 椀	カマド 底部～体部下半	底 台	8.4 8.5		細粒砂/還元焼/褐 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。		
第2118号 PL.68	10	灰輪陶器 椀	掘り方-5.7 1/4	口 底	15.7 7.8	台 高	7.2 4.7	微粒砂/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉漬け掛け。	虎渓山1号室 式期
第2118号 -	11	灰輪陶器 椀	フク土 口縁部片				細粒砂/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は不明。	大原2号室式 期～虎渓山1 号室式期	
第2118号 -	12	灰輪陶器 椀	フク土 口縁部片				細粒砂/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は不明。	大原2号室式 期～虎渓山1 号室式期	
第2118号 -	13	灰輪陶器 椀	フク土 口縁部片				細粒砂/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は不明。	大原2号室式 期～虎渓山1 号室式期	
第2118号 -	14	灰輪陶器 椀	フク土 口縁部片				細粒砂/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は不明。	大原2号室式 期～虎渓山1 号室式期	
第2118号 -	15	須恵器 羽釜	カマド 口縁部～胴片				細粒砂/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転方向不明。胴は貼付、口縁部は平坦面を作る。		
第2118号 -	16	須恵器 甕	掘り方 頸部～胴部上位	口 底	24.4			細粒砂/還元焼/灰 白	胴部は叩き締め成形。外面は降灰のため叩き痕不明。内面はアテ具痕をヘラナデで消しているが、かすかにアテ具痕の凹凸が残る。	

R2-3K31号竪穴建物

種 別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第2128号 -	1	須恵器 椀	22.3 1/4	口 底	12.4 7.0	台 高	6.0 5.1	細粒砂/還元焼/灰 褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2128号 -	2	須恵器 椀	5.2 底部～体部片	口 底	7.3 7.4			細粒砂/還元焼/灰 褐色	ロクロ整形、回転は右回り。高台は貼付。	
第2128号 -	3	土師器 甕	床直 口縁部～胴部下 位片	口 胴	13.4 13.8			細粒砂/良好/に ふい糟	口縁部から頸部はヨコナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	大ききから台 付費か。
第2128号 -	4	土師器 甕	フク土 口縁部～頸部片	口 胴	18.0			細粒砂/良好/糟	口縁部から頸部はヨコナデ。	
第2128号 -	5	須恵器 高杯	フク土 杯身部片	口 椀	14.8 14.1			細粒砂/還元焼/暗 灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。杯部底部回転ヘラ削り。口縁部下に稜を作る。断面にふい赤褐色を呈する。内面降灰が少し付着。外面端部から底部にかけて、降灰が付着。	

R2-3K32号竪穴建物

種 別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第2128号 -	1	須恵器 皿	カマド 1/5	口 底	14.0 8.8	台 高	8.0 2.5	細粒砂/還元焼/灰 黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2128号 -	2	須恵器 杯	7.8 底部	口 底	5.6			細粒砂/還元焼/灰 褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。内外焼し焼成。	線刻?
第2128号 PL.69	3	須恵器 椀	竪穴 1/2	口 底	14.2 6.8	台 高	6.4 5.3	細粒砂/還元焼/灰 ふい黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2128号 PL.69	4	須恵器 椀	0.4、掘り方 4/5	口 底	14.4 6.4	台 高	5.9 5.1	細粒砂・粗粒砂/ 還元焼/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2128号 PL.69	5	須恵器 椀	フク土 1/2	口 底	14.5 6.7	台 高	5.6 5.5	細粒砂/還元焼/灰 黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2128号 -	6	須恵器 椀	1.5 底部～体部	口 底	5.6 6.7			細粒砂/還元焼/灰 褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2128号 -	7	須恵器 椀	+19.7 底部～体部	口 底	6.9 6.2			細粒砂・粗粒砂/ 還元焼/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2128号 PL.69	8	灰輪陶器 小瓶	フク土 胴部片	口 胴	7.6			微細砂/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。胴部下位ヘラ削り。施釉方法は不明。	
第2128号 -	9	灰輪陶器 長頸壺	掘り方 胴部片					微細砂/還元焼/灰 オリーブ	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は不明。	
第2130号 PL.10	10	土師器 台付費	カマド 台部～胴部中位片	口 胴	14.4			細粒砂/良好/に ふい赤褐色	内面胴部ヘラナデ。外面摩擦のため、ヘラ削りなど単位が観察できない。台部貼付。	
第2130号 -	11	土師器 台付費	+3.1 台部片	口 胴	12.0			細粒砂/良好/に ふい明褐色	台部ヨコナデ。胴部底部に貼付。	
第2130号 -	12	土師器 甕	7.0 口縁部～胴部上 位片	口 底	17.4			細粒砂/良好/に ふい糟	口縁部から頸部はヨコナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	

綿貫千葉西遺跡 遺物観察表

種目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第21300 PL.69	13	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 半片	口 20.8			細粒砂/良好/明赤 褐色	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部はヨコナデ、 胴部はヘラ削り。内面は胴部へラナデ。
第21300 PL.69	14	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部上 底片	口 22.4			細粒砂/良好/赤褐色	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部はヨコナデ、 胴部はヘラ削り。内面は胴部へラナデ。
第21300 -	15	須恵器 甕	+20.7 口縁部片	胴 7.6			細粒砂/還元焰/褐色	口縁部整形。残存部に2段の波状文が遺る。内面はヘラナ デ。
第21300 PL.69	16	瓦 平瓦	床直 下端部片				細粒砂/還元焰/こ ぶい黄褐色	表面は布目状が残り、裏面はナデ、下端はヘラ削り。厚 さ1.3～2.5cm。

R2-3区33号竪穴建物

種目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第21300 PL.69	1	土師器 杯	割り方 ほぼ完形	口 12.0	高 8.0	3.6	細粒砂/良好/橙	口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部手持ちヘラ削り。内面 の底部周辺に凹線が1条遺る。
第21300 -	2	須恵器 皿	床直 底部～体部片	底 6.8	台 6.2		細粒砂/還元焰/こ ぶい黄褐色	口縁部整形。回転は右回り。底部は回転系切りか、高台 は貼付。
第21300 -	3	灰釉陶器 椀	フク土 体部片				微細砂/還元焰/灰 黄	口縁部整形。回転は右回りか。残存下位にヘラ削りの痕 跡が残る。施釉方法は漬け掛け。
第21300 -	4	須恵器 椀	+7.8 底部～体部片	底 8.2	台 7.0		細粒砂/還元焰/浅 黄褐色	口縁部整形。回転は右回り。高台は貼付。再調整。
第21300 -	5	須恵器 羽釜	床直 上位片	口 21.2	跨 23.8		細粒砂・粗粒砂/ 還元焰/灰白	口縁部整形。回転は右回り。跨は貼付。内面はヘラナデ。
第21300 PL.69	6	礮石器 礮石	床直 完形	長 15.5	厚 5.0	3.3	粗粒輝石安山岩//	小口部両端に敲打痕がある。右辺エッジの破損面には鉄 跡が付着。これが古い破損面であることが分かる。

R2-3区34号竪穴建物

種目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第21400 -	1	土師器 杯	床直 1/3	口 11.6	高 9.0	3.9	細粒砂/良好/橙	口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部手持ちヘラ削り。
第21400 -	2	須恵器 杯蓋	床直 口縁部～天井部 片	口 18.0	方 16.8		細粒砂/還元焰/灰 黄	口縁部整形。回転は右回り。天井部中央寄りへラ削り。
第21400 -	3	須恵器 皿	+7.1 1/4	口 10.8	底 5.6		細粒砂/還元焰/オ リーブ黒	口縁部整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付。内面降灰が付着。
第21400 -	4	須恵器 杯	フク土 1/3	口 13.0	高 6.0	3.6	細粒砂・粗粒砂/ 還元焰/暗灰黄	口縁部整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第21400 -	5	須恵器 皿	フク土 底部～体部片	底 6.0	台 6.0		細粒砂/還元焰/灰 白	口縁部整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付。内面底部に重ね焼痕。
第21400 -	6	須恵器 杯	フク土 底部片	底 6.8	台 6.4		細粒砂・粗粒砂/ 還元焰/灰白	口縁部整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は 貼付。
第21400 -	7	灰釉陶器 壺	フク土 胴部片				微細砂/還元焰/灰 黄	口縁部整形。回転は右回り。胴部へラ削り。施釉方法は 不明。
第21400 -	8	灰釉陶器 壺	フク土 胴部片				微細砂/還元焰/灰 白	口縁部整形。回転は右回り。胴部へラ削り。施釉方法は 不明。
第21400 -	9	須恵器 羽釜	+8.9、カマド 口縁部～胴部上 底片	口 22.0	跨 24.7		細粒砂/還元焰/橙	口縁部整形。回転は右回り。内部頸部下へラナデ。跨は 貼付。
第21400 PL.69	10	鉄製品 紡輪	床直 一部欠損か	長 (19.6)	厚 0.6		//	断面が丸い棒状の製品。端部に向かうにつれてわずかに 細くなっている。両端が欠ける。

R2-3区35号竪穴建物

種目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第21400 -	1	土師器 杯	割り方 口縁部～体部片				細粒砂/良好/橙	口縁部ヨコナデ。残下部は手持ちヘラ削り。

R2-3区37号竪穴建物

種目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第21400 -	1	須恵器 皿	フク土 1/2	口 8.6	底 4.8	1.3	細粒砂/酸化焰/こ ぶい橙	口縁部整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整か。
第21400 -	2	須恵器 皿	フク土 1/3	口 9.8	底 5.8	1.7	細粒砂/酸化焰/こ ぶい橙	口縁部整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整か。
第21400 -	3	灰釉陶器 皿	フク土 底部～体部下位	底 8.0	台 7.2		微細砂/還元焰/灰 白	口縁部整形。回転は右回り。底部は回転へラナデ、高台 は貼付。施釉方法不明。

種 図 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2149B -	4	灰軸陶器 皿	フク土 底部～体部下位	底 台	8.8 8.4	微粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第2149C -	5	灰軸陶器 灰軸	フク土 底部～胴部下位 片	底 台	8.6 9.0	微粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。高台は貼付。施釉方法不明。胎土に白色粒子が多く含まれる。	
第2149D -	6	灰軸陶器 壺	フク土 胴部上位片	胴	14.2	微粒砂/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法不明。	

R2-3区38号竪穴建物

種 図 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第2159B PL.69	1	土師器 杯	フク土 1/2	口 底	11.6 7.7	高 3.3	細粒砂/良好/に ぶい赤褐色	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。		
第2159C PL.69	2	土師器 杯	フク土 1/2	口 底	12.3 8.4	高 2.8	細粒砂/良好/橙	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	線刻	
第2159D -	3	須恵器 椀	床直 底部～体部下位	底 台	7.2 7.4		細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。		
第2159E -	4	土師器 甕	フク土 口縁部～頸部片	口	18.0		細粒砂/良好/明赤 褐色	口縁部ヨコナデ。		
第2159F PL.69	5	土製品 土鐘	掘り方柱穴 底形	長 径	4.6 2.1	孔 重	0.5 17.6	細粒砂/酸化焰/に ぶい	内周部平坦面を作る。表面はナデ。	

R2-3区39号竪穴建物

種 図 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第2159G -	1	須恵器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 底	11.6 5.8	高 3.2	細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第2159H -	2	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 底	11.6 6.1		細粒砂/還元焰/に ぶい黄褐色	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第2159I -	3	須恵器 椀	フク土 底部～体部下位	底 台	6.8 6.0		細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。高台は貼付。高台の形が崩れ、粗い整形。	
第2159J -	4	灰軸陶器 灰軸	+5.6 底部片	台	8.9		微粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転ヘラナデ。施釉方法不明。	

R2-3区40号竪穴建物

種 図 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第2159K PL.70	1	土師器 碗	床直 現存	口 底	12.8 6.6	高 4.2	細粒砂/良好/橙	口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ、下半ヘラ削り。底部は砂底。内面口縁部・体部の一部分に煤が付着する。		
第2159L PL.70	2	土師器 杯	+9.4、フク土 3/4	口 底	12.6 7.2	高 3.5	細粒砂/良好/橙	口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ、下半ヘラ削り。底部に細粒砂が多量に付着する。細粒砂底面付着するため、削りなど調整できない。		
第2159M PL.70	3	須恵器 椀	+5.1～+7.4 1/3	口 底	12.4 7.5	台 高	6.5 5.0	細粒砂/良好/に ぶい	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2159N -	4	須恵器 椀	+7.8 底部～体部下位 片	底 台	7.1 6.4			細粒砂/良好/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2159O PL.70	5	緑釉陶器 托	+22.7 1/4	底 台	6.2 6.0			微粒砂/還元焰/に ぶい黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は蛇ノ目状を貼付。口縁部か検受のどちらかを貼付しているが判然としなし。輪調は透明感のある淡緑色を呈す。	東海産9世紀 後半
第2159P -	6	灰軸陶器 椀?	フク土 口縁部片	口	18.0			微粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。施釉方法不明。	
第2159Q -	7	灰軸陶器 椀?	フク土 口縁部片	口	18.0			微粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。施釉方法不明。	
第2159R -	8	土師器 甕	+7.2 口縁部～上位片	口	18.0			細粒砂/良好/に ぶい	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラ削り。内部ヘラナデ。	
第2159S PL.70	9	須恵器 甕	床直 底部～胴部下位 片	底	18.0			細粒砂・粗粒砂/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。外面内面ともに胴部下位まで、ヘラナデ。底部は外反するため底面は下につかない。胴部はヘラナデ。内面底部に貫子の挿受の孔あり。	
第2159T PL.70	10	土製品 瓦	フク土 胴部片	厚	2.0			細粒砂・粗粒砂/ 還元焰/灰	表面は布目粗。端部はヘラナデ。	

R2-3区42号竪穴建物

種 図 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第2160A -	1	土師器 杯	フク土 1/4	口 最	11.2 11.5	高 2.8	細粒砂/良好/橙	口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ・下位から底部手持ちヘラ削り。	

綿貫千葉西遺跡 遺物観察表

種 目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第216図 -	2	須恵器 杯	フク土 底部～体部下位片	口 底	11.6 6.0	高 3.3	細粒砂/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第216図 -	3	須恵器 椀	フク土 胴部	口 底	6.7 6.6		細粒砂/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は貼付。
第216図 -	4	須恵器 甕	フク土 口縁部～胴部	口	26.0		細粒砂・粗粒砂/ 還元塩/灰	ロクロ整形。回転は右回り。胎土に白色粒子が多く含まれる。
第216図 -	5	須恵器 甕	フク土 口縁部片				細粒砂・粗粒砂/ 還元塩/灰	ロクロ整形。回転は右回り。口縁部を上下に引き出す。胎土に白色粒子が多く含まれる。断面はにぶい赤褐色を呈する。
R2-3区43号塚穴建物								
種 目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第216図 -	1	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 底	11.8 11.7		細粒砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ。体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。
第216図 -	2	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 底	12.0 12.2		細粒砂/良好/橙	口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ、体部下半から底部は手持ちヘラ削り。
第216図 PL.70	3	土師器 杯	床直 空形	口 底	12.0 8.9	高 3.8	細粒砂/良好/明赤 褐色	口縁部ヨコナデ。体部下半ナデ。底部手持ちヘラ削り。底部・口縁に炭化物が付着。
第216図 -	4	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 底	16.0 15.1		細粒砂/良好/橙	口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ、体部下半から底部手持ちヘラ削り。
第216図 -	5	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 底	16.7 15.0		細粒砂/良好/明赤 褐色	口縁部ヨコナデ。体部・底部手持ちヘラ削り。
第216図 PL.70	6	須恵器 杯蓋	-4.9 3/4	口 幅	18.4 6.0	高力 15.8	細粒砂/還元塩/に ぶい黄	ロクロ整形。回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。内面にカエリを作る。握は円盤状粘土を貼付し、周囲をつまみ上げ環状に作る。
第216図 -	7	須恵器 杯	フク土 底部～体部下位片	口 底	7.8		細粒砂/還元塩/黄 灰	ロクロ整形。回転は右回り。体部回転ヘラ削り。底部は回転ヘラ起こし後回転ヘラ削り。
第216図 PL.70	8	須恵器 杯	+13.1 1/4	口 底	13.8 9.6	高 3.8	細粒砂/還元塩/黄 灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部はヘラ起こし後回転ヘラ削り。
第216図 -	9	須恵器 有台杯	フク土 口縁部～底部片	口 底	15.8 10.6	台高 10.0 3.2	細粒砂/還元塩/褐 灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は削り出し。
第216図 PL.70	10	須恵器 盤	+17.8 口縁部～口縁部下片	口 底	11.6 10.4		細粒砂・粗粒砂/ 還元塩/灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。内面降灰が少し付着。
第216図 -	11	須恵器 平瓶	-2.7 頸部～胴部片				細粒砂/還元塩/灰	口縁部胴部ともロクロ整形。回転は右回り。口縁部は胴部に貼付するように投合。
第217図 PL.70	12	須恵器 壺	カマド袖+7.1 口縁部～胴部上半片	口 胴	13.0 20.0		細粒砂・粗粒砂/ 還元塩/灰	胴部は叩き締め成形。口縁部はロクロ整形。口縁部から胴部上位はロクロ整形、胴部中位以下は外面に平行叩き削、内面にアテ具痕が残る。
第217図 -	13	須恵器 壺	フク土 胴部片	胴	22.1		細粒砂/還元塩/灰 白	胴部は叩き締め成形。上半はロクロ整形。胴部下半は外面に平行叩き削がかすかに残り、内面は同心円状アテ具痕が残る。
第217図 PL.71	14	土師器 甕	カマド袖、貯蔵 穴 口縁部～胴部 中位片	口 胴	21.6 18.8		細粒砂/良好/黄 灰	口縁部ヨコナデ。胴部から下ヘラ削り、内面胴部以下胴部ヘラナデ。
第217図 PL.70	15	土師器 甕	貯蔵穴 口縁部～胴部 上位片	口	21.6		細粒砂/良好/に ぶい橙	口縁部ヨコナデ。胴部から下ヘラ削り、内面胴部以下胴部ヘラナデ。
第217図 -	16	土師器 甕	床直 口縁部～胴部 上位片	口	22.2		細粒砂/酸化塩/橙	口縁部ヨコナデ。胴部以下胴部ヘラ削り。内部摩耗のためヘラナデなど単位が観察できない。
第217図 PL.71	17	須恵器 杯	+14.8 空形	口 底	12.4 5.5	高 3.9	細粒砂/還元塩/褐 灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第217図 PL.71	18	須恵器 杯	+15.0 空形	口 底	12.8 6.0	高 4.0	細粒砂/還元塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第217図 PL.71	19	須恵器 椀	フク土 1/3	口 底	14.0 6.9	台高 5.8 5.4	細粒砂/還元塩/灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、高台は貼付。
第217図 -	20	須恵器 羽釜	フク土 底部～胴部下位片	口 底	7.0		細粒砂/酸化塩/橙	ロクロ整形。回転は右回り。内面胴部最下部ヘラナデ。

R2-3区44号竪穴建物

棟 号 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第218号 PL.71	1	土師器 杯	5.2 1/4	口 径	10.8 11.0	高 3.0	細粒砂/酸化塩/釉	口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ、体部下位から底部手持ちヘラ削り。
第218号 PL.71	2	土師器 杯	直直 1/2	口 径	11.3 11.6	高 4.3	細粒砂/酸化塩/釉	口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ、体部下位から底部手持ちヘラ削り。
第218号 PL.71	3	須恵器 杯蓋	直直 定形	口 径	17.2 3.7	幅 14.6	細粒砂/酸化塩/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。内面にカエリを作り、握宝珠状飾を貼付。
第218号 -	4	須恵器 杯蓋	フク土 縁～天井部	口 径	17.2 1.2		細粒砂/還元塩/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。握は宝珠状を貼付。
第218号 -	5	須恵器 杯蓋	フク土 口縁部～天井部 片	口 径	10.7 8.6		細粒砂・粗粒砂/ 還元塩/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。内面にカエリを作る。
第218号 -	6	須恵器 杯蓋	フク土 口縁部～天井部 片	口 径	11.2 8.0		細粒砂/還元塩/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。内面にカエリを作る。握は貼付が剥落。
第218号 -	7	須恵器 杯蓋	0.7 口縁部～天井部 片	口 径	20.6 18.2		細粒砂/還元塩/灰 黄濁	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。内面にカエリを作る。
第218号 -	8	須恵器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 径	11.8		細粒砂/還元塩/灰	ロクロ整形、回転は右回り。体部下位ヘラ削り。断面はふい赤褐色を呈する。
第218号 -	9	須恵器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 径	11.9		細粒砂/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。内面降灰が付着。
第218号 PL.71	10	須恵器 杯	フク土 1/2	口 径	12.4 7.0	高 3.6	細粒砂/還元塩/濁 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。
第218号 PL.71	11	須恵器 椀	4.5.2 2/3	口 径	12.4 7.8	高 5.2	細粒砂・粗粒砂/ 還元塩/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。
第218号 -	12	土師器 費	3.7 口縁部～胴部上 位片	口 径	19.2		細粒砂/良好/にふ い釉	口縁部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。
第218号 -	13	土師器 費	1.0 口縁部～胴部上 位片	口 径	24.1		細粒砂/良好/にふ い釉	口縁部はヨコナデ、胴部は縦方向ヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。
第218号 PL.71	14	須恵器 円面硯	フク土 胴足部片		7.3		細粒砂/還元塩/灰	ロクロ整形か。胴足に複数の透孔、透孔の間は数本の凹線を縁切を施す。
第218号 -	15	灰釉陶器 皿	フク土 底部～体部片	底 径	6.1		細粒砂/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。高台は貼付。施釉方法は不明。
第218号 PL.71	16	土師器 費	14.5 口縁部～胴部中 位片	口 径	20.2 21.3		細粒砂/良好/にふ い濁	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。
第218号 PL.71	17	割片石器 石鏝	フク土 片形	長 幅	1.7 1.2	厚 0.4 重 0.7	黒色頁岩/四基無 基鏝/	完成状態？表面側は全面加工、裏面側は素材面を残す。石器基部をU字状に大きく抉る。粗い作り。

R2-3区46号竪穴建物

棟 号 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第218号 -	1	須恵器 椀	4.6 底部～体部片	底 径	7.0 6.0		細粒砂/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。

R2-3区47号竪穴建物

棟 号 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第219号 PL.71	1	土師器 杯	カマド 1/2	口 径	15.2 13.2	高 3.9	細粒砂/酸化塩/に ふい釉	口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラ削り。
第219号 PL.71	2	須恵器 杯蓋	9.9 1/4	口 径	14.4 3.0	幅 3.5	細粒砂/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。内面にカエリを作る。握は円盤状粘土を貼付し、周囲をつまみ上げ環状に作る。
第219号 -	3	須恵器 壺	フク土 頸部～胴部片	頸 径	9.0 13.0		細粒砂/還元塩/灰	ロクロ整形、回転は右回り。胴部上位に凹縁が巡る。
第219号 -	4	土師器 費	カマド 口縁部～胴部上 位片	口 径	23.0		細粒砂/良好/釉	口縁部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。

綿貫千葉西道跡 遺物観察表

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第21900 -	5	土師器 費	カマド 口縁部～胴部上 段片	口 23.1		細粒砂/良好/に ふい赤褐色	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴 部にヘラナデ。
第21900 PL.72	6	土師器 費	カマド 底部～胴部下位 片	底 6.0		細粒砂/良好/に ふい赤褐色	胴部ヘラ削り。底部は摩耗のため観察できない。内面ヘ ラナデ。
第21900 -	7	須恵器 志	フク土 胴部片			細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。外面はカキメ。
第21900 PL.71	8	須恵器 杯	フク土 ほぼ完形	口 13.0 底 6.4	高 3.6	細粒砂/還元焰/に ふい黄褐色	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。
第21900 -	9	須恵器 椀	フク土 1/3	口 13.6 底 7.0	台 6.0 高 4.1	細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は 貼付。
第21900 PL.71	10	須恵器 椀	フク土 口縁部～底部	口 14.0 底 6.6	台 6.0 高 5.6	細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は 貼付。
R2-3区48号竪穴建物							
種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第21900 -	1	須恵器 杯	フク土 口縁部～体部片	口 10.6		細粒砂/還元焰/	ロクロ整形。回転は右回り。断面は赤褐色を呈する。外 面降灰が付着。
第21900 -	2	須恵器 杯	フク土 口縁部～体部片	口 11.8		細粒砂/還元焰/	ロクロ整形。
第21900 -	3	須恵器 椀	フク土 底部	底 5.9 台 6.3		細粒砂/還元焰/	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は 貼付。胎土に白色粒子が、多量に含まれる。
第21900 -	4	土師器 費	床直 口縁部～胴部上 段片	口 19.4		細粒砂/良好/	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴 部にヘラナデ。
第21900 PL.72	5	礫石器 礫石	フク土 完形	長 14.5 幅 5.4	厚 3.3 重 436.3	雲母石英片岩//	上端微小口部の稜縁部に敲打痕が残る。稜縁線が粗すん でみえないのは磨れているだけで、敲打されているため ではない。
R2-3区49号竪穴建物							
種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第22000 -	1	土師器 杯	フク土 口縁部～体部片	口 11.8 底 10.8		細粒砂/良好/	口縁部ヨコナデ、稜以下手持ちヘラ削り。
第22000 -	2	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 11.7		細粒砂/良好/	口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、体部下位から底部手持 ちヘラ削り。
第22000 -	3	土師器 杯	フク土 口縁部～体部片	口 15.7		細粒砂/良好/	口縁部ヨコナデ、体部・底部手持ちヘラ削り。
第22000 PL.72	4	土師器 台付鉢	床直 脚部片	脚 10.2		細粒砂・粗粒砂/ 良好/	胴部ヘラ削り。脚部内面ヘラナデ。
第22000 -	5	須恵器 杯	フク土 底部片			細粒砂/還元焰/	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。胎土 に白色粒子が多く含まれる。
R2-3区50号竪穴建物							
種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第22000 -	1	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 10.7		細粒砂/良好/	口縁部ヨコナデ、体部・底部手持ちヘラ削り。
R2-3区51号竪穴建物							
種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第22000 -	1	土師器 杯	フク土 1/3	口 12.6		細粒砂/良好/	口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、体部下位から底部手持 ちヘラ削り。
第22000 PL.72	2	須恵器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 12.7 底 6.0	台 3.1	細粒砂/還元焰/黒 褐色	ロクロ整形。回転は右回り。
R2-3区52号竪穴建物							
種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第22000 PL.72	1	土師器 杯	貯蔵穴 4/5	口 12.3	高 3.3	細粒砂/良好/粗	口縁部ヨコナデ、体部ナデ。底部手持ちヘラ削り。外面 底部に墨書。
第22000 -	2	須恵器 杯蓋	カマド 口縁部片	口 18.0		細粒砂/還元焰/灰 黄褐色	ロクロ整形。回転は右回り。口縁部は端部を折り曲げ。
第22000 -	3	土師器 費	カマド 口縁部～胴部上 半片	口 23.2 脚 23.7		細粒砂/良好/明赤 褐色	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴 部にヘラナデ。

種 類 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第220回 PL-72	4	須恵器 甕	カマド 口縁部片	口	42.0		細粒砂/還元焰/褐 灰	ロクロ整形後、ヘラナデ。回転は右回り。口唇部下に断面三角形の凸帯を作る。	

R2-3区53号竪穴建物

種 類 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第220回 PL-72	1	須恵器 杯	+13.2 1/2	口	13.4	高 3.9	細粒砂/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第220回 PL-72	2	須恵器 椀	+7.4 底部～体部片	底	6.2		細粒砂/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	

R2-3区55号竪穴建物

種 類 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第221回 PL-72	1	土師器 杯	-0.6 ほぼ完形	口	11.4	高 3.2	細粒砂/良好/橙	口縁部ヨコナデ、体部ナデ。底部は手持ちヘラ削り。	
第221回 PL-72	2	土師器 杯	-0.9 2/3	口	11.4	高 8.4	細粒砂/良好/明褐	口縁部ヨコナデ、体部ナデ。底部は手持ちヘラ削り。	
第221回 PL-72	3	土師器 杯	床直 ほぼ完形	口	11.6	高 3.1	細粒砂/良好/にぶ い褐	口縁部ヨコナデ、体部ナデ。底部は手持ちヘラ削り。	
第221回 PL-72	4	土師器 杯	床直 完形	口	11.7	高 3.2	細粒砂/良好/橙	口縁部ヨコナデ、体部ナデ。底部は手持ちヘラ削り。	
第221回 PL-72	5	須恵器 椀	床直 2/3	口	15.4	台 高 7.2	細粒砂・粗粒砂/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。胎土に白色粗粒砂が多く含まれる。	
第221回 PL-72	6	銭貨?	床直 ほぼ完形	径	2.522	厚 0.175	//	孔なし。全体に劣化が見られ、判断しきれないが近現代の銭貨の可能性が高い。	

R2-3区56号竪穴建物

種 類 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第221回 PL-72	1	土師器 杯	+10.9 1/2	口	9.6	高 3.3	細粒砂/良好/橙	口縁部ヨコナデ、体部ナデ。底部は手持ちヘラ削り。	
第221回 -	2	土師器 杯	+13.4 1/3	口	10.2	高 2.5	細粒砂/良好/橙	口縁部ヨコナデ、体部ナデ。底部は手持ちヘラ削り。	
第221回 -	3	須恵器 杯	フク土 1/4	口	10.6	高 3.7	細粒砂・粗粒砂/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第221回 -	4	須恵器 杯	フク土 口縁部～底部片	口	10.8		細粒砂/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第221回 -	5	須恵器 甕	フク土 口縁部片	口	6.6		細粒砂/還元焰/赤 黒	ロクロ整形、回転は右回り。口縁に凸帯を作る。内面降灰が付着する。断面赤褐色を呈する。	

R2-3区57号竪穴建物

種 類 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第221回 -	1	土師器 杯	フク土 1/4	口	11.4	高 3.4	細粒砂/良好/にぶ い橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第221回 -	2	須恵器 杯蓋	フク土 柄～天井部片	柄	2.4		細粒砂・粗粒砂/ 還元焰/にぶい黄 褐	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り、宝珠形の柄を貼付。	
第221回 -	3	須恵器 杯	フク土 1/2	口	10.7	高 3.7	細粒砂/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り後回転ヘラ削り。	
第221回 -	4	須恵器 椀	フク土 底部～体部下位 片	底	7.0		細粒砂/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付が剥落。	
第221回 -	5	土師器 甕	フク土 口縁部～胴部上 位片	口	22.6		細粒砂/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第221回 -	6	土師器 甕	フク土 口縁部～胴部 位片	口	24.0		細粒砂/還元焰/に ぶい黄褐	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラ削り。内面ヘラナデ。	

R3-3区58号竪穴建物

種 類 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第222回 PL-72	1	土師器 杯	床直 1/4	口	15.2		細粒砂/良好/明褐	口縁部はヨコナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第222回 -	2	土師器 杯	廻り方 口縁部～底部片	口	10.8		細粒砂/良好/明褐	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第222回 PL-72	3	土師器 杯	-9.4 完形	口	11.1	高 3.5	細粒砂/良好/明褐	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。外面の大部分に煤が付着。	

綿貫千葉西道跡 遺物観察表

種 図 No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第222図 -	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 径	12.9 11.9			細砂粒/良好/ぶ い糟	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへら削り。	
第222図 PL.72	須恵器 蓋杯の身	フク土 口縁部～底部片	口 径	11.1 13.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。体部下半から底部は回転へら削り。口縁部は貼付。	
第222図 -	須恵器 壺	フク土 口縁部	口 径	22.9			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。内面口唇部下に小凸部を作る。内面に降灰が付着。	
第222図 PL.72	礫石器 磨石	フク土 1/2	長 幅	(9.3) 5.4	厚 重	3.2 236.7	珪質頁岩//	上端側小口部には表裏面とも敲打が広がり表面が荒れている。敲打痕にはこれに伴う割傷痕が生じているが、裏面側中央左の割傷痕は風化して時間差がある。	棒状礫

R3-3区60号竪穴建物

種 図 No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第222図 -	土師器 杯	床直 1/5	口 径	10.8 10.4	高 3.4		細砂粒/良好/糟	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへら削り。	
第222図 -	土師器 杯	床直 口縁部～体部片	口 径	16.8			細砂粒/良好/糟	口縁部はヨコナデ、体部から底部は手持ちへら削り。	
第222図 -	土師器 鉢	6.7 口縁部～体部上 半片	口 径	14.4			細砂粒/良好/糟	口縁部はヨコナデ、体部は縦方向へら削り。内面は体部にヘラナデ。	
第222図 -	土師器 鉢	14.5 口縁部～体部片	口 径	23.4			細砂粒/良好/糟	口縁部はヨコナデ、体部上位はナデ、中位は手持ちへら削り。内面は体部にヘラナデ。	
第222図 PL.73	須恵器 杯蓋	フク土 天井部片	幅	1.8			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転へら削り。摘は疑宝珠状を取付。	
第222図 PL.73	須恵器 杯	フク土 底部片	底 径	8.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へら削り。	
第222図 -	須恵器 鉢	床直～18.7 1/4	口 径	23.6 19.6			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。椀下にはヘラナデ。底部は手持ちへら削り、口縁部中ほどに1～2条の凹線が巡る。内面は底部にヘラナデ。	
第222図 -	須恵器 鉢	床直 口縁部片	口 径	23.6			細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部中ほどに2条の凹線が巡る。	
第222図 -	須恵器 瓶	フク土 口縁部片	口 径	13.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。口唇部は内面に折り返し、外面口唇部下に小凸部を作る。	
第222図 PL.73	須恵器 提瓶	6.2 胴部片					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、肩に一封の把手を取付。外面は器面磨滅のため整形不鮮明。内面は中ほどにナデ。	
第222図 -	須恵器 瓶	12.6 口縁部～頸部片	口 径	13.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。口唇部下に小凸部を作る。内面に降灰が付着。	提瓶または横瓶
第222図 -	須恵器 壺	9.7 胴部片					細砂粒/還元焰/こ ぶい黄	胴部は叩き締め成形。外面には格子目状叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第222図 -	須恵器 壺	14.5 胴部片					細砂粒/還元焰/灰	胴部は叩き締め成形。外面の平行叩き痕は大部分がカキムによって消されている。内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第222図 PL.73	鉄製品 内頸座金付 石製品 金具	19.7 完形	長 径	2.8 0.4	重 1.4		//	一方の上部0.5cm部分で凸部が作られる。下部には同様の様子は見られない。	
第222図 PL.73	石製品 砥石	フク土 破片	長 幅	(5.9) 2.9	厚 重	(5.2) 102.8	砥沢石//	幅の狭い側面を主たる砥面としたもの。両側面も砥面となり、右側面には斜向した刃ならし傷が残る。	切り砥石

R3-3区61号竪穴建物

種 図 No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第222図 -	土師器 椀	フク土 口縁部～底部	口 径	10.4 9.6			細砂粒/良好・焼 果廻	口縁部はヨコナデ、椀下体部は手持ちへら削り。内外面とも焼成。
第222図 -	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 径	11.2 10.8			細砂粒/良好/糟	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへら削り、器面磨滅のため単位不明。
第222図 -	須恵器 椀	フク土 底部～体部片	底 径	5.5 5.6			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り、高台は貼付。
第222図 -	須恵器 壺	フク土 胴部小片					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。残存部下部に降灰が付着。
第222図 -	土師器 台付費	フク土 口縁部～頸部片					細砂粒/良好/灰黄 褐色	口縁部はヨコナデ、胴部のハケメは不鮮明。

R3-3区62号竪穴建物

種 図 No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第222図 PL.73	土師器 鉢	4.3 ほぼ完形	口 径	9.9 9.6	高 3.4		細砂粒/良好/糟	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへら削り、器面磨滅のため単位不明。

種目 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第22389 -	2	土師器 杯	床直 口縁部～体部片	口 径	13.7 13.0		細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへう割り。		
第22390 -	3	須恵器 高杯	フク土 杯部底部片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。内面に降灰や炭上砂が付着。		
第22390 PL.73	4	須恵器 横瓶	床直 口縁部～頸部片	口	15.0		細砂粒/良好/灰白	口縁部はロクロ整形、回転は右回り。口唇部下に小凸帯を伴う。頸部は内外面ともナデ。		
第22390 -	5	須恵器 壺	フク土 胴部片				細砂粒/還元焰/灰	胴部は甲き締め成形。外面はカキメで甲き痕を消しているが、内面は同心円状アテ具痕が残る。		
第22390 -	6	土師器 台付甕	+10.2 胴部下位～脚部 上位片	底	6.8		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	台部は胴部に貼付するように接合。胴部はへう割り、台部はへうナデ。内面は胴部・台部ともへうナデ。		
第22390 PL.73	7	土師器 甕	床直 底部～胴部下位 片	底	8.7		細砂粒/良好/黄褐	底部と胴部はへう割り。内面は底部から胴部にへうナデ、器面磨滅のため単位不明。		
第22390 -	8	須恵器 甕	+10.4 胴部片				細砂粒/還元焰/灰 黄	胴部は甲き締め成形。外面には格子目状甲き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。		
第22390 -	9	須恵器 甕	フク土 胴部片				細砂粒/還元焰/灰 黄	胴部は甲き締め成形。外面には格子目状甲き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。		
第22390 -	10	須恵器 甕	フク土 胴部片				細砂粒/還元焰/灰 黄	胴部は甲き締め成形。外面は成形後カキメが施されているが、間隔があるため甲き痕が残る。内面は同心円状アテ具痕が残る。		
第22390 -	11	須恵器 無台榺	フク土 底部～体部	底	6.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。		
第22390 PL.73	12	羽口 石	フク土 破片	長 幅	(4.4) (3.3)	厚 重	1.4 20.9	//	内面は残りが悪い。胎土にわずかに砂粒が混入する。	
PL.73	13	割片石器 石核	フク土 完形	長 幅	1.8 1.8	厚 重	1.4 4.0	黒曜石//	上面および裏面に大きな分割面を残した小型石核。上端から小形剥片を剥離して石核を放棄したもの。残核。	写真のみ
PL.73	14	割片石器 石核	フク土 完形	長 幅	1.7 2.1	厚 重	1.0 3.8	黒曜石//	裏面側に風化剥離面を持つ小形石核。上下両端から小形剥片を剥離して石核を放棄。残核。	写真のみ
PL.73	15	礫石器 多孔石	フク土 完形	長 幅	25.3 15.8	厚 重	12.9 3587.1	粗粒輝石安山岩/ 亜角礫//	右辺側を除き表面は赤化、赤化面には漏斗状の窪み穴が規則なく穿たれるほか、右辺側崩面にも窪み穴が穿たれる。多孔質で軽い。	写真のみ

R3-3IK63号竪穴建物

種目 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第22489 PL.73	1	土師器 杯	+11.0～+15.4 ほぼ完形	口 径	11.7 10.4	高	4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへう割り。
第22489 -	2	土師器 杯	+6.7 1/4	口 径	11.8 10.2	高	4.3	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへう割り。
第22489 PL.73	3	土師器 杯	+9.1～+10.3 2/3	口 径	11.8 11.0	高	4.7	細砂粒/良好/ふ い・黄	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへう割り。
第22489 PL.73	4	土師器 杯	+10.2 3/4	口 径	11.8 10.6	高	4.7	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへう割り。
第22489 PL.73	5	土師器 杯	+7.7～+22.1 3/4	口 径	11.8 11.2	高	4.9	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへう割り。
第22489 PL.73	6	土師器 杯	床直～+23.6 3/4	口 径	12.1 9.6	高	4.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへう割り。
第22489 PL.73	7	土師器 杯	+21.6 1/2	口 径	12.2 11.0	高	4.1	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへう割り。
第22489 PL.73	8	土師器 杯	床直 2/3	口 径	12.2 11.2	高	4.2	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへう割り。
第22489 PL.73	9	土師器 杯	+7.5 完形	口 径	12.3 10.8	高	4.6	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへう割り。
第22489 PL.73	10	土師器 杯	床直～+5.2 ほぼ完形	口 径	12.8 11.2	高	4.2	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへう割り。
第22489 PL.74	11	土師器 杯	+9.9 完形	口 径	12.8 10.4	高	4.2	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへう割り。
第22489 -	12	土師器 杯	床直 口縁部～体部片	口 径	12.8 11.4			細砂粒/良好/ふ い・黄	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへう割り。
第22489 -	13	土師器 杯	フク土 口縁部～体部片	口 径	12.8 11.7			細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへう割り。
第22489 PL.74	14	土師器 杯	+10.5～+23.1 完形	口 径	13.0 10.6	高	4.6	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへう割り、器面磨滅のため単位不明。
第22489 PL.74	15	土師器 杯	床直 2/3	口 径	13.2 13.6	高	5.4	細砂粒/良好/ふ い・黄	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへう割り。口縁部は垂直に立ち上がる。

綿貫千葉西道跡 遺物観察表

種 図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第2248 PL.74	16	土師器 杯	+13.9 1/4	口 13.7	高 5.2	底 13.5	細砂粒/良好/ふい 黄橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は垂直に立ち上がる。		
第2248 PL.74	17	土師器 杯	+10.8~+16.3 片形	口 11.6	高 10.4	底 11.0	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。		
第2248 PL.74	18	土師器 杯	+11.1 1/3	口 12.0	高 11.0	底 11.0	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。		
第2248 PL.74	19	土師器 杯	+9.8 ほぼ片形	口 12.6	高 11.4	底 11.4	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。 器面磨滅のため単位不明。		
第2248 PL.74	20	須恵器 高杯	+7.1~+9.8 杯部片	口 13.6	底 13.4		細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り、胴部は接合。杯部はロクロ 整形、回転は右回り、底部は回転ヘラ削り。胴部には透 孔が3方に穿たれている。		
第2248 -	21	須恵器 高杯	フク土 脚部片				細砂粒/還元塩/灰	胴部はロクロ整形、回転は右回り。透孔が3方に穿たれて いる。		
第2248 -	22	須恵器 高杯	フク土 脚部片				細砂粒/還元塩/灰	ロクロ整形、回転は右回り。透孔が3方に穿たれている。		
第2248 PL.74	23	土師器 杯	床直 底部片	縦 6.4	厚 0.6	横 6.4	細砂粒/良好/橙	杯底部の二次加工。かけ口四隅を調整。底部は手持ちヘ ラ削り。		
第2248 PL.74	24	須恵器 壺	+13.9 口縁部下半~胴 部上位片				細砂粒/還元塩/灰	胴部はロクロ整形、回転は右回り、頸部は絞り込み口縁 部に移行する。		
第2248 PL.74	25	須恵器 壺	+23.6 底部~胴部下半 片				細砂粒/還元塩/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部から胴部下半は手持ち ヘラ削り。内面は底部にナデ。		
第2248 PL.74	26	土師器 壺	+17.0~+18.0 1/4	口 12.2	底 18.0	高 5.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部と底部はヘラ削り。内 面は底部から胴部にヘラナデ。		
第2248 -	27	土師器 壺	+15.6 口縁部~胴部上 位片	口 12.8			細砂粒/良好/ふい 黄	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴 部にヘラナデ。		
第2248 PL.74	28	土師器 費	+5.7 口縁部~胴部上 位片	口 17.7			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部はヨコナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。		
第2258 PL.74	29	土師器 費	+9.7 口縁部~胴部下 位片	口 17.4			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラ ナデ。		
第2258 PL.74	30	土師器 費	+9.7~+17.8 ほぼ片形	口 18.5	底 16.2	高 32.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部と底部はヘラ削り。内 面は底部から胴部にヘラナデ。		
第2258 PL.74	31	礫石器 皿	+11.6 1/2	長 9.5	厚 4.2	幅 5.2	粗粒輝石安山岩/ 重	小口部上部に敲打痕が集中する。敲打痕は摩耗している が、よく集中しており、使用痕として捉えた。	棒状産	
第2258 PL.74	32	鉄滓 -	-5.6 1/4	長 7.7	厚 7.7	幅 7.2	重 468.6	//	細かな発泡が見られる。上面以外に酸化土砂の付着が見ら れる。下面がわずかに丸みを帯び、特に白っぽい土砂 が付着している。	

R3-3区64号塚穴建物

種 図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2258 -	1	土師器 杯	+36.6 1/3	口 13.7	高 5.2	底 13.5	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部はヨコナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は 手持ちヘラ削り。	
第2258 PL.75	2	須恵器 蓋杯の蓋	+20.5 1/3	口 14.1	高 12.4		細砂粒/還元塩/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。内 面口縁部に段を作る。	
第2258 -	3	須恵器 蓋杯の蓋	フク土 天井部				細砂粒/還元塩/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削りか、 陶灰付着で不鮮明。	
第2258 PL.75	4	土師器 高杯	+6.0 脚部	脚 11.9			細砂粒/良好/明 橙	内面に粘土細巻き上げによる輪積み痕が残る。杯部との 接合状態不明、脚部柱状部はヘラナデ、蓋部はヨコナデ。 内面は柱状部にヘラナデ。	
第2258 PL.75	5	土師器 鉢	+8.8 口縁部~体部片	口 17.7			細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部はヘラ削り。内面は体部にヘラ ナデ。	
第2268 PL.75	6	土師器 鉢	+29.3 口縁部~胴部	口 17.9			細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部はヘラ削り。内面は体部にヘラ ナデ。	
第2268 -	7	須恵器 費	フク土 口縁部片				細砂粒・粗砂粒/ 輝/還元塩/灰	ロクロ整形、回転は右回り。口唇部下に凸帯を作る。	
第2268 -	8	須恵器 壺	フク土 胴部上位片				細砂粒/還元塩/灰	胴部は叩き締め成形後ロクロ整形。外面はカキメ、内面 はヘラナデ。アテ具痕がすかに残る。	
第2268 -	9	須恵器 費	フク土 胴部片				細砂粒/還元塩/灰	胴部は叩き締め成形。外面には格子状甲痕、内面は同 心円状アテ具痕が残る。	
第2268 -	10	灰釉陶器 皿	フク土 口縁部片	口 12.6			細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は漬け掛け。	大塚2号窯式 煎

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2269 PL.75	11	灰釉陶器 皿	フク土 底部～体部片	底台	7.5 7.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘1号墓 式期
第2269 PL.75	12	石製品 白玉	+5.2 丸形	径	0.7 厚 0.2		滑石//	上面孔縁が平円で平滑だが、下面孔縁は新鮮でシャープ、下面側は欠損というより分割面と捉えておきたい。	分No.4 孔径0.2
第2269 PL.75	13	石製品 石製模造品	+3.8 1/2	長 幅	(2.6) 2.1	厚 4.8	滑石//	表面側は比較的丁寧な研磨。裏面側その他の側縁は形状を整える程度の雑な研磨。右辺側表面はかけているが、穿孔後の欠陥。孔は径2mmほどで、表面側孔は裏面側から先行されたもので、周辺が浅く窪む。	分No.5 削形 孔径0.2
第2269 PL.75	14	鉄洋	+16.3 1/4分	長 幅	5.6 5.6	厚 3.9 191.8	//	洋質は密。細かな気泡と空隙がわずかに見られる。	
第2269 PL.75	15	羽口	+22.5 一部欠損	長 幅	(11.6) (6.1)	厚 2.1 136.3	//	外面を8角形に整形したとみられる。内面は丸く作られる。胎土はわずかに砂粒を含む。	2点接合
第2269 PL.75	16	羽口	+33.6 破片	長 幅	(4.8) (5.0)	厚 1.7 53.4	//	外面は10角形もしくは12角形程度の面取りがされている。内面は丸く作られる。胎土にはほば粘土質で作られる。	

R3-3区65号竪穴建物

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2269 -	1	須臾器 甕	フク土 口縁部片	口	21.4		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。口唇部下に小凸部を作る。	
第2269 -	2	須臾器 壺	フク土 胴部上位片	口	13.0		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。外面はカキメ。	
第2269 -	3	土師器 小型甕	カマド 口縁部～頸部片	口	11.8		細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	口縁部はヨコナデ。	
第2269 -	4	土師器 小型甕	+2.6 口縁部～胴部下 位片1/4	口	11.8 15.6		細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部はヨコナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第2269 -	5	土師器 甕	+0.6 口縁部～胴部上 位片	口	22.0		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい橙	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部はヨコナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にヘラナデ。	

R3-5区9号竪穴建物

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2279 PL.75	1	土師器 杯	+12.5～+16.7 2/3	口 径	9.4 8.4	高 3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへら削り。杯蓋極微。	
第2279 PL.75	2	土師器 杯	+22.4 1/2	口 径	11.0 10.8	高 4.9	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへら削り。杯蓋極微。	
第2279 PL.75	3	土師器 杯	+15.4～+18.3 1/4	口 径	11.0 10.6		細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへら削り。杯蓋極微。	
第2279 PL.75	4	土師器 杯	+6.8 1/4	口 径	12.1 12.0		細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへら削り。杯蓋極微。	
第2279 -	5	土師器 杯	+14.7 1/4	口 径	12.8 11.8		細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへら削り。杯蓋極微。	
第2279 PL.75	6	土師器 杯	未直 1/3	口 径	13.2 13.2		細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへら削り。内面焼成焼。	
第2279 PL.75	7	土師器 杯	+5.5～+15.8 1/3	口 径	14.4 14.0	高 5.5	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへら削り。杯蓋極微。	
第2279 PL.75	8	土師器 杯	未直 1/4	口 径	12.2 13.6	高 4.1	細砂粒/良好/赤褐	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちへら削り。杯身極微。	
第2279 PL.75	9	土師器 高杯	+9.3 胴部片	脚	11.2		細砂粒/良好/橙	脚部は杯部に貼付。脚部は柱状部がへら削り、胴部はヨコナデ。内面はヘラナデ。	
第2279 PL.75	10	須臾器 蓋杯の身	フク土 1/2	蓋	13.4		細砂粒/還元焰/黄 褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へら削り。底部から蓋受けまで成形し、口縁部を貼付。内面は機械化状態。	
第2279 PL.76	11	須臾器 高杯	+7.8 杯底部～脚部	底脚	5.0 13.0		細砂粒/還元焰/灰 白	杯部・脚部ともロクロ整形、回転は右回り後接合。杯部は口縁部下に段を2段作り、体部上半に波状文、下半から底部に回転へら削り。脚部は透孔を3方に穿つ。	
第2279 PL.76	12	土師器 壺	+8.9 1/3	口 径	11.0 13.8	高 9.7	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、胴部から底部はへら削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第2279 PL.76	13	土師器 小型甕	+9.0 1/4	口 径	10.6 10.6	高 11.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/黄褐色	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部から底部はへら削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第2279 -	14	土師器 小型甕	未直 口縁部～胴部上 位片	口	14.6		細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	口縁部はヨコナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第2279 PL.76	15	土師器 甕	未直～+16.9 口縁部～胴部下 位片	口 径	15.2 16.4		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄褐色	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にヘラナデ。	

綿貫千葉西道跡 遺物観察表

種 類 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第227図 PL.76	16	土師器 鉢	+6.6~+16.8 胴部片	側	22.8	細砂粒/粗砂粒/ 良好/にぶい黄褐色	胴部は外面はヘラ削り、内面はヘラナデ。		
第227図 PL.76	17	土師器 鉢	床直 底部~胴部下位	底	4.0	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。		
第227図 PL.76	18	土師器 鉢	+9.4~+12.3 底部~胴部下位	底	4.5	細砂粒/粗砂粒/ 良好/にぶい黄褐色	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。		
第227図 PL.76	19	瓦 平瓦	+19.0 側端部片			細砂粒/還元焰/灰	表面には布目痕が残るが、裏面はナデ。側面はヘラ削り。		
第227図 PL.76	20	石製品 白玉	+17.3 ほぼ定形	径 幅	0.7 - 0.4	厚 重 0.5	滑石//	上面孔部が平坦で、下面孔部は斜め分割され、断面形状は台形状になる。大部の縦位線糸痕は摩耗著しい。孔径は2mmほど。	分No.6 孔径0.2
第227図 PL.76	21	鉄製品 紡輪か	フク土 破片	長	3.4	- - 2.5	木//10	破片のため測定できないが、断面形状は丸く紡輪となるか。欠損部には跡があり、古い時代の欠けとなる。	
R3-5区10号竪穴建物							竪穴建物		
種 類 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第228図 -	1	土師器 杯	+10.8 口縁部~底部片	口 径	14.0 13.0	高 13.0	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第228図 PL.76	2	土師器 杯	+5.2 1/4	口	12.4		細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	口縁部はヨコナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第228図 PL.76	3	土師器 片口鉢	+8.7 ほぼ定形	口 径	9.8 12.7	高 10.4	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はヘラナデ、器面減滅のため単位不明。口縁部を外に押し出すようにして注ぎ口を作る。	
第228図 -	4	須恵器 蓋杯の蓋	フク土 口縁部片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。	
第228図 -	5	須恵器 高杯	フク土 杯口縁部片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部は下半に段を2段作り、体部上半に段状支を造らす。	
第228図 -	6	須恵器 高杯	床直 杯口縁部片	口	19.8		細砂粒/還元焰/灰	口縁部は中ほどに2条の凹線が走り、底部は手持ちヘラ削り。断面は赤褐色を呈す。	
第228図 -	7	土師器 小型鉢	+17.7 口縁部~胴部上 半片	口 径	9.2 11.9		細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第228図 PL.76	8	瓦 平瓦	フク土 側端部片				細砂粒/還元焰/灰 黄	表面には布目痕が残るが、裏面はナデ。側面はヘラ削り。	
R3-5区11号竪穴建物									
種 類 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第228図 PL.77	1	土師器 杯	+5.6 定形	口 径	11.2 7.8	高 4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面口縁部と体部に煤が付着。	燈明に使用か
第228図 PL.77	2	土師器 杯	+3.6 定形	口 径	11.6 7.5	高 3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面口縁部と体部、外面底部に煤が付着。	燈明に使用か
第228図 PL.77	3	土師器 杯	+1.4 定形	口 径	11.7 7.2	高 3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面口縁部の一部に煤が付着。	燈明に使用か
第228図 PL.77	4	土師器 杯	+0.7 ほぼ定形	口 径	11.8 8.2	高 3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第229図 PL.77	5	土師器 杯	+2.4~+5.9 1/2	口 径	11.8 8.4	高 3.0	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第229図 PL.77	6	土師器 杯	+6.6 定形	口 径	12.0 8.5	高 3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面口縁部に煤が付着。	燈明に使用か
第229図 PL.77	7	土師器 杯	床直 定形	口 径	12.1 8.2	高 3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面口縁部に煤が付着。	
第229図 PL.77	8	土師器 杯	床直 定形	口 径	12.1 8.0	高 3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第229図 PL.77	9	土師器 杯	床直 ほぼ定形	口 径	12.1 9.0	高 3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第229図 -	10	須恵器 皿	+7.7 底部~体部下位 片	底 径	6.2 5.6		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第229図 -	11	須恵器 皿	フク土 底部~体部下位 片	底 径	6.4 6.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第229図 -	12	須恵器 杯蓋	+6.1 口縁部~天井部 片	口 径	19.6		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中ほどまで回転ヘラ削り。口縁部は端部を折り曲げ。	
第229図 PL.77	13	須恵器 杯	+6.9~+12.8 1/3	口 径	13.6 7.0	高 3.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。口唇部は僅かに外反する。	

採 掘 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第22909 -	14	須臾器 杯	+15.1 底部	底	4.8		細砂粒/還元焰/灰 ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第22909 -	15	須臾器 椀	床直 底部～体部下半	底	5.8		細砂粒/還元焰/灰 ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第22909 PL.77	16	須臾器 椀	-2.2 ほぼ完形	口 底	13.9 7.6	台 高 7.8 5.6	細砂粒/粗砂粒/ 還元焰/灰オリーブ ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は 貼付。	
第22909 -	17	須臾器 椀	フク土 口縁部～体部片	口	13.7		細砂粒/還元焰/灰 ロクロ整形、回転は右回り。	
第22909 -	18	須臾器 椀	-16.0 口縁部～体部片	口	15.6		細砂粒/還元焰/灰 ロクロ整形、回転は右回り。	
第22909 -	19	須臾器 椀	-11.2 底部～体部下位 片	底 台	6.8 6.6		細砂粒/還元焰/灰 ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は 貼付。	
第22909 -	20	須臾器 椀	+6.7 底部～体部下位 片	底	6.6		細砂粒/還元焰/灰 白 ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は 貼付が剥落。	
第22909 PL.77	21	須臾器 椀	-1.5 底部～体部下位 片	底 台	6.7 6.9		細砂粒/還元焰/灰 白 ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は 貼付。	
第22909 PL.77	22	土師器 甌	床直 口縁部～胴部上 位片	口	18.6		細砂粒/良好/橙 口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴 部にヘラナデ。	
第22909 -	23	土師器 台付甌	-25.5 胴部下位～台部 片	底 台	5.6 8.8		細砂粒/良好/橙 台部は貼付。胴部はヘラ削り、台部はヨコナデ。	
第22909 -	24	土師器 台付甌	フク土 台部片	台	10.6		細砂粒/良好/明赤 釉 台部はヨコナデ。	
第23009 -	25	土師器 甌	-22.4～-25.5 口縁部～胴部上 位片	口	18.7		細砂粒/良好/にぶ い黄緑 口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴 部にヘラナデ。	
第23009 -	26	土師器 甌	床直 口縁部～胴部上 位片	口	19.8		細砂粒/良好/にぶ い黄 口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴 部にヘラナデ。	
第23009 PL.77	27	土師器 甌	-3.6～床直 口縁部～胴部下 位片	口 制	20.6 23.3		細砂粒/良好/にぶ い黄 口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴 部にヘラナデ。	
第23009 -	28	土師器 甌	+13.5 口縁部～胴部上 位片	口	20.8		細砂粒/良好/明赤 釉 口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴 部にヘラナデ。	
第23009 PL.77	29	石製品 白玉	床直 ほぼ完形	径	0.8	厚 重 0.5 0.4	滑石//	分No.8 孔径0.2
第23009 PL.77	30	石製品 白玉	+9.2 1/2	径	0.7	厚 重 (0.3) 0.1	滑石//	分No.7 孔径0.3

R3-5区12号竪穴建物

採 掘 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第23009 PL.77	1	土師器 杯	フク土 ほぼ完形	口 径	9.3 7.1	高 3.6	細砂粒/良好/明赤 釉 口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第23009 PL.77	2	土師器 杯	-1.0～+16.4 3/4	口 径	11.3 10.4	高 4.9	細砂粒/良好/橙 口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第23009 -	3	土師器 杯	床直 口縁部～体部片	口 径	11.8 10.4		細砂粒/良好/明赤 釉 口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第23009 PL.77	4	土師器 杯	床直 1/3	口 径	12.8 12.0		細砂粒/良好/明赤 釉 口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第23009 PL.77	5	須臾器 蓋杯の身	+10.5 口縁部～体部片	口 蓋	12.0 12.8		細砂粒/還元焰/暗 赤灰 ロクロ整形、回転は右回り。底部から蓋受けまでを成型 後口縁部を作る。	
第23009 PL.77	6	須臾器 甌	+10.2 口縁部片				細砂粒/還元焰/灰 ロクロ整形、回転は右回りか。口唇部は上に引き上げられ 口唇部下に3条の凹線と2条の凸線を彫らし、その下に2 段の波状文を施す。	高杯形器台か も
第23009 PL.77	7	石製品 砥石	+6.1 完形	長 幅	13.3 7.2	厚 重 5.2 588.5	流紋岩凝灰岩//	柱状礫
第23009 PL.77	8	礫石器 こもあみ石 (砥石)	+6.1 完形	長 幅	16.8 6.2	厚 重 5.4 1005.8	砂岩//	柱状礫

綿貫千葉西道跡 遺物観察表

種 別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第230図 PL.77	9	鉄滓 鉄滓	フク土 一部	縦 横	5.0 4.6	厚 重	2.2 60	/無/10	発見は見られず浮置は密。下面は平らになっているが、 杓型状鉄滓となるかは不明。
- PL.77	10	礫石器 こもみ石 定形	+10.5	長 幅	19.8 6.9	厚 重	4.5 810	砂岩//	全体として確度は低くしているのは鉄跡が付いているため。 礫の先端部が黒ずんでいないのは擦れているため、 使用によるものではない。

R3-5区13号竪穴建物

種 別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第231図 PL.78	1	土師器 杯	+3.7 定形	口 底	11.3 8.4	高	3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ。椀下体部から底部は手持ちへら削り。 内面は底部から胴部にかけて僅か直状に付着。
第231図 PL.78	2	土師器 杯	-5.3~床直 1/3	口 底	12.2 8.0	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ。体部と底部は手持ちへら削り。
第231図 PL.78	3	土師器 杯	-7.8 3/4	口 底	12.5 8.1	高	3.3	細砂粒/良好/にぶ い濁	口縁部はヨコナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。 内面口唇部に僅が付着。
第231図 PL.78	4	土師器 杯	+2.2 3/4	口 底	13.2 8.5	高	3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ。体部と底部は手持ちへら削り。
第231図 PL.78	5	須恵器 皿	+2.2 ほぼ定形	口 底	12.3 5.8	台	5.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り。高台は 貼付。
第231図 PL.78	6	須恵器 皿	+12.0 口縁部~底部	口 底	13.4 6.7	台	6.8 3.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り。高台は 貼付。
第231図 PL.78	7	須恵器 皿	-3.7 定形	口 底	13.7 7.2	台	7.0 3.4	細砂粒/酸化焰/ 黄濁	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り。高台は 貼付。
第231図 PL.78	8	須恵器 無台椀	+2.2 ほぼ定形	口 底	12.2 5.9	高	4.4	細砂粒/酸化焰/ にぶい赤濁	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。
第231図 PL.78	9	須恵器 杯	+8.5 定形	口 底	12.6 6.0	高	4.2	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。
第231図 PL.78	10	須恵器 杯	+2.4 定形	口 底	13.2 6.0	高	4.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。
第231図 PL.78	11	須恵器 壺	-3.7~+20.6 底部~胴部下位 片	口 底	14.4			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/濁灰	ロクロ整形か。底部と胴部下位はへら削り。胴部はへら ナデ。内面は底部から胴部にへらナデ。
第231図 -	12	土師器 台付甕	+10.9 台部~胴部下位 片	底 台	4.6 8.5			細砂粒/良好/明赤 濁	台部は貼付。台部から胴部下位はヨコナデ。内面は胴部 がへらナデ。
第231図 -	13	土師器 甕	-5.2 口縁部~胴部上 位片	口	12.2			細砂粒/良好/明赤 濁	口縁部から頸部はヨコナデ。胴部はへら削り。内面は胴 部にへらナデ。
第231図 -	14	土師器 甕	+2.3 口縁部~胴部上 位片	口	19.4			細砂粒/良好/明赤 濁	口縁部から頸部はヨコナデ。胴部はへら削り。内面は胴 部にへらナデ。

R2-3区1号溝

種 別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第231図 PL.78	1	土師器 定形	床直~+18.1 定形	口 底	12.1 8.8	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部ヨコナデ。体部下平ナデ。底部は手持ちへら削り。 口縁部に僅が付着。
第231図 -	2	須恵器 杯	+18.1 底部~体部片	口 底	6.4			細砂粒/還元焰/濁 灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。
第231図 -	3	須恵器 椀	フク土 底部~体部下位 片	底 台	7.7 7.0			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り。高台は 貼付。
第231図 -	4	須恵器 椀	+15.7 底部~体部片	底 台	7.5 6.7			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰オリー ブ	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り。高台は 貼付。

R2-3区1号土坑

種 別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第232図 -	1	常滑陶器 壺か甕	フク土 体部片	口 底	- -	高 -	- /灰/		器表暗赤色濁。内外面撫で。

R2-3区2号土坑

種 別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第232図 PL.78	1	須恵器 高杯	床直 杯身部~脚部片					細砂粒/良好/灰黄 濁	杯部から脚部にへら削り。内面杯は使用により器面が擦 り磨かれた状態。

R2-3区10号土坑

種 目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第232区 -	1	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 12.8 高 2.8 横 13.8	細粒砂/酸化塩/濁 灰	口縁部はヨコナデ、椀下から底部は手持ちヘラ削り。内 外ともに焼じ焼成。	須恵器蓋杯身 模倣

R2-3区13号土坑

種 目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第232区 -	1	須恵器 底部	フク土 底部	底台 6.0 5.8	細粒砂/酸化塩/濁 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は 貼付。	
第232区 -	2	須恵器 椀	フク土 底部～体部下位 片	底台 7.4 7.8	細粒砂/酸化塩/に ぶい焼	ロクロ整形、回転は右回り。底部回転糸切り、高台は貼付。	

R2-3区26号土坑

種 目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
- PL.78	1	灰釉陶器 皿	フク土 口縁部片		微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法不明。	虎渓山1号窯 式期か/写真 のみ

R2-3区27号土坑

種 目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
- PL.78	1	灰釉陶器 皿	フク土 口縁部片		微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法不明。口唇部はわ ずかに外反する。	大原2号窯式 期/写真のみ

R2-3区29号土坑

種 目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第232区 -	1	土師器 杯	赤直 口縁部～底部片	口 11.0 横 11.6	微砂粒/良好/焼	内面黒色処理。口縁部はヨコナデ、椀下から底部は手持 ちヘラ削り。内面黒色処理。	
第232区 -	2	土師器 甕	+15.7 口縁部～胴部上 位片	口 22.6	細粒砂/良好/灰白	口縁部はヨコナデ。胴部は縦方向・縦方向のヘラ削りが 胴部で止まる。内面胴部はヘラナデ。	

R2-3区34号土坑

種 目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第232区 PL.78	1	土師器 甕	フク土 口縁部～胴部上 半片	口 19.4 胴 19.8	細粒砂/酸化塩/に ぶい焼	口縁部ヨコナデ。胴部縦方向のヘラ削り。内部摩擦のため 観察できず。	

R2-3区40号土坑

種 目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第232区 PL.78	1	土師器 杯	フク土 1/4	口 12.0 高 3.3 横 12.5	細粒砂/酸化塩/明 赤濁	ロクロ整形、回転は右回り。胴部はヘラナデ。底部はへ ら削り、高台は貼付。	
第232区 PL.78	2	灰釉陶器 皿	+20.2 口縁部 1/2	口 12.1 台 6.4 底 6.6 高 1.9	微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、重ね焼 き痕が残る。施釉は漬け掛け。	虎渓山1号窯 式期
第232区 PL.78	3	須恵器 壺	+10.3 胴部～底部	底 7.6 台 9.0 胴 8.8 横 16.4	細粒砂/還元塩/濁 灰	胴部から胴部上平回転ヘラナデ、胴部下平回転ヘラ削り。 底部回転ヘラ削り、高台は貼付。	

R2-3区41号土坑

種 目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第232区 PL.78	1	須恵器 椀	赤直 1/3	口 13.9 台 6.0 底 6.8 高 5.4	細粒砂/還元塩/灰	ロクロ整形、回転は右回り。高台は貼付。摩擦のため回 転糸切り痕観察できず。	

R2-3区86号土坑

種 目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第232区 -	1	土師器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 12.4 横 11.4	細粒砂/良好/に ぶい黄焼	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。	

R2-3区87号土坑

種 目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第232区 -	1	須恵器 蓋杯の蓋	フク土 天井部小片		細砂粒/還元塩/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削りか、 濁灰が付着し詳細不明。	
第232区 -	2	須恵器 壺	フク土 口縁部～頸部片	底 5.6	細砂粒/還元塩/灰	ロクロ整形、回転は右回り。頸部は絞り込み口縁部に移行、 口縁部に凹線が走る。	

綿貫千葉西遺跡 遺物観察表

R3-5区23号土坑

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2339区	1	土師器 杯	フク上 口縁部～底部片	口 8.8 横 7.6	細砂粒/良好/ふい い槽	口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第2339区	2	土師器 杯	フク上 口縁部～体部片	口 13.4 横 12.0	細砂粒/良好/明赤 彩	有段口縁杯。口縁部はヨコナデ、椀下体部から底部は手持ちヘラ削り。口縁部の中ほどに段を作る。	
第2339区	3	土師器 杯	フク上 口縁部片	口 14.4	細砂粒/良好/ふい い赤陶	有段口縁杯。口縁部の中ほどに段を作る。	

R2-3区17号ピット

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2339区	1	土師器 杯	床直 口縁部～底部片	口 10.0 横 10.4	細砂粒/良好/槽	口縁部はヨコナデ、体部上半ナデ、体部下平から底部は手持ちヘラ削り。内面は摩耗する。	

R2-3区78号ピット

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2339区	1	土師器 高杯	フク上 杯身部底部～脚 部上位片			杯部と脚柱部の接合面をヘラナデで仕上げ。脚柱部外面ヘラナデ。内面杯と脚柱との接合面は、ヘラで横方向にナデ付ける。	

R2-3区84号ピット

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2339区	1	土師器 杯	フク上 口縁部片	口 12.0 横 13.0	細砂粒/良好/槽	口縁部はヨコナデ、椀下から底部は手持ちヘラ削り。内外ともに焼し焼成。	

R2-3区95号ピット

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2339区	1	灰輪陶器 輪	フク上 口縁部片			微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転は右回りか。施釉方法不明。虎渡山口号窯式期
第2339区	2	土師器 甕	フク上 口縁部～胴部上 位片	口 22.0		細砂粒/良好/ふい い槽	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ削りか、摩耗のため単位は観察できない。内面ヘラナデ。

R2-3区129号ピット

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2339区	1	土師器 杯	フク上 口縁部～体部片	口 10.7 横 11.0	細砂粒/良好/ふい い槽	口縁部ヨコナデ、椀下体部は手持ちヘラ削り。口縁部中に段を作る。	有段口縁杯

R2-3区/R3-5区遺構外

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2339区 PL.79	1	縄文土器 深鉢	12号 胴部破片			細砂、繊維/ふつ う/	無節R1縄文を横位施文する。 黒浜・有尾式
第2339区 PL.79	2	縄文土器 深鉢	23号 胴部破片			細砂、赤色粒、輝 石、繊維/良好/	R1、R2縄文を羽状施文する。 黒浜・有尾式
第2339区 PL.79	3	縄文土器 深鉢	12号1面 胴部破片			細砂、輝石、繊維 /ふつう/	連続爪形文を横位、斜位に施す。 有尾式
第2339区 PL.79	4	縄文土器 深鉢	12号 胴部破片			細砂、繊維/ふつ う/	無節R1縄文を横位施文する。 黒浜・有尾式
第2339区 PL.79	5	縄文土器 深鉢	23号 胴部破片			細砂、赤色粒、輝 石、繊維/良好/	R1、R2縄文を羽状施文する。 黒浜・有尾式
第2339区 PL.79	6	縄文土器 深鉢	12号1面 胴部破片			細砂、輝石、繊維 /ふつう/	連続爪形文を横位、斜位に施す。 有尾式
第2339区 PL.79	7	縄文土器 深鉢	12号11号 口縁部破片			粗砂/良好/	口縁内面肥厚。横位ヘラ切り浮線めぐらす。口唇部、口縁下に爪状の素浮線を貼付する。 暗ヶ峯式
第2339区 PL.79	8	縄文土器 深鉢	47-3、11号 口縁部破片			粗砂/良好/	口縁内面肥厚、口縁に小突起を付す。横位ヘラ切り浮線めぐらす。 暗ヶ峯式
第2339区 PL.79	9	縄文土器 深鉢	47-3、9号 口縁部破片			細砂、チャート細 粒、輝石、石英/ 良好/	口縁に小突起を付す。口縁部をやや肥厚させて縦位短沈線帯を作出。刻み線帯をめぐらして口縁部文様帯を区画し、ハの字状突起を充填施文する。口縁内面を肥厚させて杵状文を施文。 五箇ヶ台式
第2339区 PL.79	10	縄文土器 深鉢	43土坑 胴部破片			粗砂、輝石/良好/	刻み線帯、横位集合比線帯をめぐらして文様帯を区画。下位区画に縦位集合比線帯を重下させ、角押文、三角押文を沿わせる。 五箇ヶ台式
第2339区 PL.79	11	縄文土器 深鉢	10号無方 胴部破片			粗砂、輝石/良好/	結節R1、R2縄文を羽状施文する。 前期末葉

採 掘 圃 No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2338区 PL-79	12	縄文土器 深鉢	23区 胴部破片		粗砂、輝石/良好/	結節LR、RLの結束羽状縄文を横位施文する。	前期末葉
第2338区 PL-79	13	縄文土器 深鉢	120-510 胴部破片		粗砂、輝石/良好/	平行沈線による弧状モチーフを施し、平行沈線を充填施文する。	前期末葉～中期初頭
第2338区 PL-79	14	縄文土器 深鉢	63区盤方 上縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/良好/	口縁下に横位3条の沈線をめぐらし、以下、斜位沈線を充填施文する。口縁内面を肥厚させて文様帯を作出し、上下に平行沈線をめぐらして区画し、内部に斜位沈線を充填施文、斜格子目状に赤漆帯を貼付する。口縁部に削みを付す。	前期末葉～中期初頭
第2338区 PL-79	15	縄文土器 深鉢	63区 胴部破片		粗砂、輝石/良好/	横位3条の沈線をめぐらして文様帯を区画、斜位沈線を充填施文し、斜格子目状に平行沈線を施す。	前期末葉～中期初頭
第2338区 PL-79	16	縄文土器 深鉢	47-3、10区 深鉢		粗砂、輝石/良好/	沈線による幾何学モチーフを描き、区内に格子目文を充填施文、モチーフ間に印刻を施す。	前期末葉～中期初頭
第2338区 PL-79	17	縄文土器 深鉢	12区 胴部破片		粗砂、赤色粒、輝石/良好/	隆帯による懸垂文を施し、縦位条線を充填施文する。	加曾利E4式
第2338区 PL-79	18	縄文土器 深鉢	18区 胴部破片		粗砂、赤色粒、輝石/ふつう/	隆帯による懸垂文を施し、LR縄文を縦位充填施文する。	加曾利E4式
第2338区 PL-79	19	縄文土器 深鉢	23区 胴部破片		細砂、輝石/良好/	隆帯による懸垂文を施し、RL縄文を縦位充填施文する。	加曾利E4式
第2338区 PL-79	20	縄文土器 深鉢	63区盤方 胴部破片		粗砂、輝石/良好/	弧状の隆帯を垂下させ、LR縄文を充填施文する。	加曾利E4式
第2338区 PL-79	21	縄文土器 深鉢	178区盤方 口縁部破片		細砂、輝石/良好/	帯状沈線によるモチーフを施し、LR縄文を充填施文する。	称名寺I式
第2338区 PL-79	22	縄文土器 深鉢	59区 胴部破片		粗砂、白色粒、輝石/良好/	帯状沈線による弧状モチーフを施し、LR縄文を充填施文する。	称名寺I式
第2338区 PL-79	23	縄文土器 深鉢	確認面 胴部破片		粗砂、輝石/ふつう/	帯状沈線によるモチーフを施し、LR縄文を充填施文する。	称名寺I式
第2338区 PL-79	24	縄文土器 深鉢	47-3、10区 胴部破片		粗砂、輝石/ふつう/	帯状沈線による弧状モチーフを施し、LR縄文を充填施文する。	称名寺I式
第2338区 PL-79	25	縄文土器 深鉢	120-510 胴部破片		粗砂、輝石/ふつう/	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第2338区 PL-79	26	縄文土器 深鉢	13土坑 胴部破片		粗砂、輝石/ふつう/	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第2338区 PL-79	27	縄文土器 深鉢	12ピット 胴部破片		粗砂、輝石/ふつう/	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第2338区 PL-79	28	縄文土器 深鉢	9区 胴部破片		粗砂、輝石/ふつう/	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第2338区 PL-79	29	縄文土器 深鉢	8区 胴部破片		粗砂、白色粒、輝石/ふつう/	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第2338区 PL-79	30	縄文土器 深鉢	120-495 胴部破片		粗砂、輝石/良好/	帯状沈線による弧状モチーフを施す。	称名寺II式
第234区 PL-79	31	縄文土器 深鉢	17区 胴部破片		粗砂、白色粒、輝石/良好/	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第234区 PL-79	32	縄文土器 深鉢	63区 胴部破片		粗砂、輝石/ふつう/	列点を充填施文する。	称名寺II式
第234区 PL-79	33	縄文土器 深鉢	47-3、9区 胴部破片		粗砂、輝石/良好/	帯状沈線による弧状モチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第234区 PL-79	34	縄文土器 深鉢	61ピット 胴部破片		細砂、輝石/良好/	口縁部に押降帯をめぐらし、T字状に隆帯を垂下させる。縦位隆帯の上端部を円状にし、上面を凹ます。	後期初頭
第234区 PL-79	35	縄文土器 深鉢	9区 胴部破片		細砂、赤色粒、輝石/良好/	表状口縁、口縁をくの字状に内屈させて文様帯を作出し、1条の沈線をめぐらす。	堀之内I式
第234区 PL-79	36	縄文土器 深鉢	9区 胴部破片		細砂、輝石/ふつう/	波状口縁、口縁をくの字状に内屈させて文様帯を作出し、2条の沈線を施し、沈線間に刺突を充填施文する。	堀之内I式
第234区 PL-79	37	縄文土器 深鉢	115-490 胴部破片		粗砂、赤色粒、輝石/良好/	胴部のすばまる部位、頸部に円形刺突を3個施し、横位沈線をめぐらす。	堀之内I式
第234区 PL-79	38	縄文土器 注口土器	1面 胴部破片		細砂、輝石/良好/	隆帯による横内状文を弧状に施し、内側に沈線を沿わせ、LR縄文を充填施文する。交点に刺突を伴う円形貼付文を付す。	堀之内I式
第234区 PL-79	39	縄文土器 深鉢	17区 胴部破片		細砂、輝石/良好/	刺突を伴う隆帯を垂下させる。	堀之内I式
第234区 PL-79	40	縄文土器 深鉢	表探 口縁部破片		粗砂、チャート細礫、輝石/良好/	口縁をくの字状に内屈させて文様帯を作出し、沈線、横内状沈線、刺突を施す。	堀之内I式
第234区 PL-79	41	縄文土器 注口土器	47-3、9区 注口部		粗砂、輝石/良好/	下面基部にS字状沈線を描き、端部に円形刺突を施す。上面はV字状に沈線を施し、下面のS字を折り返す。	堀之内I式
第234区 PL-80	42	縄文土器 深鉢	63区 上縁部破片		粗砂、輝石/ふつう/	口縁外面がくの字状に短く内屈、内屈部を無文帯とし、以下、2条の斜位沈線を施す。地文にLR縄文を横位施文。	堀之内I式

綿貫千葉西遺跡 遺物観察表

採掘 No. PL_No.	種類 No.	種類 種別	出土位置 現存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2348区 PL_80	43	縄文土器 深鉢	17型 17型 17型			粗砂、白色粒、輝石、石英/良好/	横位1条の沈線をめぐるす。ほかは無文。	堀之内2式
第2348区 PL_80	44	縄文土器 注口土器 深鉢	17型 17型			細砂、輝石/ふつう/	帯状沈線による曲線モチーフを隔別し、LR縄文を充填施文する。	堀之内2式
第2348区 PL_80	45	縄文土器 深鉢	18型 18型			細砂/良好/	小型。帯状沈線による幾何学モチーフを備し、文様外にLR縄文を充填施文する。	堀之内2式
第2348区 PL_80	46	縄文土器 深鉢	47-3、12型No28 12型No28			粗砂、輝石/ふつう/	帯状沈線によるモチーフを備し、LR縄文を充填施文する。	堀之内2式
第2348区 PL_80	47	縄文土器 深鉢	47-3、12型 12型			粗砂、輝石/良好/	帯状沈線によるモチーフを備し、LR縄文を充填施文する。	堀之内2式
第2348区 PL_80	48	縄文土器 深鉢	21型カマド 21型カマド	底	(9.6)	粗砂、輝石/ふつう/	残存部は無文。底面に刷代痕。	堀之内2式
第2348区 PL_80	49	縄文土器 深鉢	23型 23型	底	(11.0)	細砂、輝石/良好/	残存部は無文。底面に刷代痕。	後期前葉
第2348区 PL_80	50	縄文土器 深鉢	83 83	底	6.0	粗砂/ふつう/	残存部は無文。底面に刷代痕。	後期前葉
第2348区 PL_80	51	縄文土器 深鉢	58型 58型	底	9.3	粗砂、粗礫、片岩/ふつう/	底面に刷代痕。	後期前葉
第2348区 PL_80	52	縄文土器 深鉢	60型 60型	底	(6.8)	粗砂/良好/	残存部は無文。底面に本葉痕。	後期前葉
第2348区 PL_80	53	縄文土器 深鉢	84型 84型	底	(7.2)	細砂/ふつう/	残存部は無文。底面に刷代痕。	後期前葉
第2348区 PL_80	54	縄文土器 深鉢	44型 44型	底	3.5	粗砂、輝石/ふつう/	小型。残存部は無文。	後期前葉少
第2348区 PL_80	55	縄文土器 深鉢	12型貯蔵方、 12型内土坑、 10型貯蔵方 12型貯蔵方			粗砂、赤色粒、輝石/良好/	3条および4条の横位沈線をめぐるして横帯区画し、区画内に2条沈線による扇歯状文を施す。下位の横位沈線に弧状の区切り文を施す。口縁内面に1条の門線をめぐるす。	加曾利B1式
第2348区 PL_80	56	縄文土器 深鉢	17型 17型			粗砂、赤色粒、片岩、輝石/良好/	帯縄文の縄文を横位条線に置換して施文する。口縁内面に1条の門線をめぐるす。	加曾利B1式
第2348区 PL_80	57	縄文土器 深鉢	28型 28型			粗砂、赤色粒、輝石/良好/	帯縄文LRを施す。口縁内面に1条の門線をめぐるす。	加曾利B1式
第2348区 PL_80	58	縄文土器 深鉢	22型 22型			細砂/ふつう/	帯縄文の縄文を横位条線に置換し、区切り文を施す。口縁内面に1条の門線をめぐるす。	加曾利B1式
第2348区 PL_80	59	縄文土器 深鉢	23型 23型			細砂、輝石/良好/	縦やかな波状口縁で、口縁がくの字状に短く内屈。帯縄文LRを施す。口縁内面に3条の門線を施す。	加曾利B1式
第2348区 PL_80	60	縄文土器 浅鉢	1面 1面			細砂、輝石/ふつう/	口縁内面に内形割突、横位隆線、横位沈線をめぐるす。口唇部に刻み、小型の山形が連なる形状を作出する。	加曾利B1式
第2348区 PL_80	61	縄文土器 深鉢	134ビットNo1 134ビットNo1			粗砂、輝石/良好/	口縁部に押捺帯、口縁内面に1条の門線をめぐるす。	加曾利B式
第2350区 PL_80	62	縄文土器 深鉢	22型1ビット 22型1ビット			細砂/ふつう/	20060と同一個体。	加曾利B1式
第2350区 PL_80	63	縄文土器 注口土器 深鉢	11型 11型			細砂、白色粒、輝石/ふつう/	帯縄文LRをめぐるす、区切り文を施す。下位に横長楕円状モチーフを備し、LR縄文を充填施文する。	加曾利B1式
第2350区 PL_80	64	縄文土器 深鉢	12型1ビット 12型1ビット			細砂、輝石/ふつう/	帯縄文LRをめぐるす、沈線間に列点を施す。	加曾利B1式
第2350区 PL_80	65	縄文土器 深鉢	11型 11型			粗砂、赤色粒、輝石/良好/	押捺帯、帯縄文LRをめぐるす。	加曾利B式
第2350区 PL_80	66	縄文土器 深鉢	65型 65型			細砂、輝石/ふつう/	口縁下に押捺帯をめぐるし、以下、斜格子目文を施す。	加曾利B式
第2350区 PL_80	67	縄文土器 深鉢	47-3、99型 47-3、99型			細砂、輝石/ふつう/	口縁に小突起を付す。口縁部内外に3条の沈線をめぐるす。	加曾利B1式
第2350区 PL_80	68	縄文土器 注口土器 深鉢	86上坑 86上坑			細砂、輝石/ふつう/	集合沈線によるレンズ状文を施し、交点に円文を配す。地文にLR縄文を施文、レンズ状区画内を磨り消す。	加曾利B1式
第2350区 PL_80	69	縄文土器 深鉢	11型 11型			細砂、輝石/良好/	口縁がくの字状に短く内屈。内屈部に扁平な貼付文を付す。帯縄文LRをめぐるし、区画内に対弧文を施す。内面にも沈線を施文。口唇部に刻みを付す。内面ミガキ整形、背中位でくの字状に短く外屈する器形。屈曲部上位を文様帯とし、帯縄文LR、対弧文を施す。	加曾利B2式
第2350区 PL_80	70	縄文土器 深鉢	11型 11型			細砂、輝石/良好/	口縁部に押捺帯をめぐるし、以下、横位沈線、対向する連弧状文を施す。口縁内面に1条の門線をめぐるす。	加曾利B2式
第2350区 PL_80	71	縄文土器 深鉢	1面 1面			粗砂、粗礫、輝石/ふつう/	口縁がくの字状に短く内屈。帯縄文LRをめぐるし、区画内に対向する弧線文を施す。内面にも沈線を施文。口唇部に刻みを付す。内面ミガキ整形。	加曾利B2式
第2350区 PL_81	73	縄文土器 深鉢	21型 21型			細砂、赤色粒、輝石/良好/	口縁がくの字状に短く内屈。横位沈線をめぐるして文様帯を区画。斜線文を施す。羽状になるか。	加曾利B2式

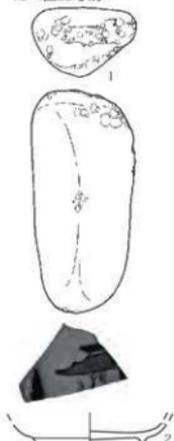
採 取 No. PL-81	種 類 器種	出土位置 埋存率	計測値		胎土/焼成/色調 砂材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第23580 PL-81	縄文土器 深鉢	一括 胴部破片			粗砂、赤色粒、輝石/良好/	帯縄文LRをめぐらし、区画内に弧線文を施す。	加曾利B2式
第23581 PL-81	縄文土器 深鉢	134ピットNo1 胴部破片			粗砂、片岩、輝石/良好/	横位沈線をめぐらして文様帯を区画、羽状沈線を充填施す。	加曾利B2式
第23582 PL-81	縄文土器 深鉢	58号 胴部破片			粗砂、輝石/良好/	上下に横位沈線をめぐらして文様帯を区画、羽状沈線を施す。	加曾利B2式
第23583 PL-81	縄文土器 深鉢	63号 胴部破片			粗砂、輝石/ふつう/	横位沈線をめぐらして文様帯を区画、羽状沈線を施す。	加曾利B2式
第23584 PL-81	縄文土器 深鉢	63号 口縁部破片			粗砂、輝石/良好/	口縁外面をわずかに肥厚させて口縁文帯を作出。以下、工字文帯の横位沈線を施す。口唇部に部分的な刻みを付す。	晩期後葉
第23585 PL-81	割片石器 石鏃	フク土 方形	長 4.0 幅 1.1	厚 0.8 重 3.3	黒色頁岩/尖基鏃/	完成状態。ほぼ左右対称だが、先端部より基部側の加工は粗く振れ気味に見える。エッジはシャープで、側縁摩耗は見られない。	
第23586 PL-81	割片石器 石鏃	2298No1 ほぼ定形	長 (1.2) 幅 1.0	厚 0.3 重 0.2	黒曜石/凹基無茎鏃/	完成状態。表裏面とも押圧割離が全面を覆う。器体先端部をわずかに破損する。	
第23587 PL-81	割片石器 石鏃	フク土 略方形	長 1.2 幅 1.1	厚 0.2 重 0.4	黒曜石/凹基無茎鏃/	完成状態。表裏面とも丁寧な押圧割離が全面を覆う。右辺「返し部」を欠く。	
第23588 PL-81	割片石器 石鏃	フク土 3/4	長 (1.2) 幅 (1.4)	厚 0.4 重 0.3	チャート/凹基無茎鏃/	完成状態。表裏面とも丁寧な押圧割離を施す。先端部および右辺「返し部」を欠く。	
第23589 PL-81	割片石器 石鏃	フク土 4/5	長 3.0 幅 (1.5)	厚 0.7 重 1.7	黒曜石/凹基無茎鏃/	大形で加工状態は粗く、未成品の可能性。左辺側「返し部」の欠損は大粒の珪石によるもの。	
第23590 PL-81	割片石器 石鏃	フク土 1/2	長 (1.3) 幅 1.6	厚 0.3 重 0.5	黒曜石/凹基無茎鏃/	完成状態。表裏面とも丁寧な押圧割離が全面を覆う。先端部を欠く。	
第23591 PL-81	割片石器 石鏃	フク土 1/3	長 (1.6) 幅 1.7	厚 0.4 重 0.8	珪質頁岩//	丁字状の幅み部に棒状の機能部が付くタイプ。加工は丁寧で、完成状態にある。先端部を欠く。	
第23592 PL-81	割片石器 石槍	フク土 定形	長 10.8 幅 5.5	厚 1.7 重 115.9	硬質泥岩//	幅広割片を用い、両縁を粗く加工して木葉形状の器体を作成する。左辺側エッジは弱く摩耗、内面として使用したのかもしれない。	
第23593 PL-81	割片石器 打製石斧	フク土 1/3	長 (5.5) 幅 3.8	厚 1.7 重 43.6	硬質泥岩/短冊形/	完成状態。器体中央より下部を大きく欠損する。側縁が弱く摩耗。再生時の破損である可能性が高い。	
第23594 PL-81	割片石器 打製石斧	フク土 1/2	長 (5.9) 幅 3.5	厚 0.9 重 27.3	珪質頁岩/短冊形/	完成状態。対側側下部を欠損する。表裏面とも熱処理、器体には薄く剥離痕が残る。	
第23595 PL-81	割片石器 打製石斧	フク土 3/4	長 (9.3) 幅 3.9	厚 1.6 重 68.4	黒色頁岩/短冊形/	完成状態。器体上半部が弱く折れる。器体表面が風化しているが、両側縁ともエッジは潰れ、使用中破損した可能性が高い。	
第23596 PL-81	割片石器 打製石斧	8.7 4/5	長 (14.2) 幅 6.8	厚 1.5 重 167.6	雲母石英片岩/分銅形/	未成品。対側側加工が粗く、製作途中で破損したのかもしれない。	
第23597 PL-81	割片石器 打製石斧	フク土 定形	長 14.4 幅 8.7	厚 2.5 重 331.3	粗粒輝石安山岩//分銅形/	完成状態。表裏面とも対側側縁、両側縁に帯縄前。上端部は直線的に整形されているが、摩耗等はなく、対側として機能していないのと思われる。	分銅形
第23600 PL-81	割片石器 石鏃	フク土 定形	長 15.4 幅 8.8	厚 2.7 重 402.9	黒色頁岩//	未成品。幅広割片を用い、周辺加工して器体を作成する。対側および側縁はシャープで、新鮮である。	
第23601 PL-81	割片石器 石鏃	フク土 1/3	長 (11.2) 幅 (8.2)	厚 2.9 重 263.1	硬質泥岩//	完成状態。両側縁のエッジは弱く摩耗するのに対し、上端側エッジは新鮮。再生途中破損したのかもしれない。	
第23602 PL-81	割片石器 石核	フク土 定形	長 2.7 幅 3.0	厚 2.6 重 20.9	黒曜石//	石核形状は養子状を呈す。打面と作業面を交互に入れ替え、小形割片を割離する。珪石等夾雑物は見られないが、石核内部に石英脈は致命的。	
第23603 PL-81	礫石器 原石	フク土 定形	長 3.7 幅 3.8	厚 3.1 重 46.7	黒曜石//	上面側は確面として風化しているが、岩石内に取り込まれた不純物(流紋岩質)の可能性も否定できない。珪石が含まれない良質石材で、試し割の痕跡はない。	
第23604 PL-81	礫石器 原石	フク土 定形	長 2.6 幅 3.5	厚 2.2 重 20.5	黒曜石//	確面を部分的に現す以外は平坦な風化割離面で覆われる。割片割の割離は行われていないように見える。	
第23605 PL-81	礫石器 凹石	フク土 1/2	長 (10.2) 幅 7.6	厚 5.6 重 537.8	粗粒輝石安山岩//楕円礫/	表裏面とも摩耗。漏斗状の窪み穴が見える。下縁側の破損面は明らかに摩耗しており、破損後も使用されたのと思われる。	
第23606 PL-81	礫石器 磨石	フク土 1/2	長 (9.4) 幅 6.7	厚 4.4 重 321.2	粗粒輝石安山岩//楕円礫/	表面側に浅い漏斗状の窪み穴がある。表裏面とも摩耗が著しく、著しく研ぎ減る。熱処理痕跡で確面が割れる。	
第23607 PL-81	礫石器 磨石	フク土 定形	長 8.0 幅 6.4	厚 5.2 重 413.6	輝緑岩//楕円礫/	ほぼ全面が摩耗している。摩耗部分は確面のザラツキを感じることはできないほどである。	
第23608 PL-81	礫石器 磨石	フク土 定形	長 11.8 幅 9.4	厚 4.2 重 750.5	粗粒輝石安山岩//扁平礫/	表裏面とも摩耗するほか、上縁側小口部に強い敲打痕。このほか、右側面は敲打摩耗して平坦面を形成する。	
第23609 PL-81	礫石器 石鏃	フク土 定形	長 5.5 幅 2.9	厚 1.4 重 35.4	雲母石英片岩//扁平楕円礫/	小口部両端は打ちかけ、ノッチ状を呈す。紐掛け部は整形され、筋状に窪む。	
第23610 PL-81	礫石器 石鏃	フク土 定形	長 6.0 幅 4.5	厚 1.5 重 57.0	変質安山岩//扁平楕円礫/	小口部両端は打ちかけ、ノッチ状を呈す。紐掛け部の整形は不明瞭。	

綿貫千葉西道跡 遺物観察表

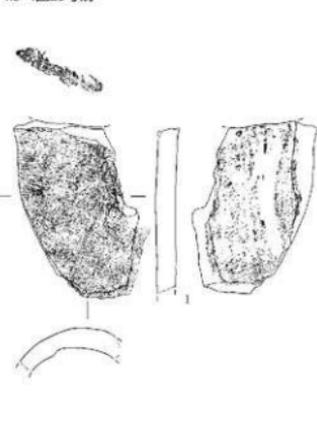
採 取 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第236図 PL.R2	103	礮石器 石鏃	フク土 定形	長 幅	11.4 4.7	厚 重	1.8 133.2	流紋岩/燧灰岩//	上下両端とも胎状に切れ目を刻む。表裏面とも赤く、ベンガラが付着したのかもかもしれない。
第236図 PL.R2	104	礮石器 石鏃	フク土 定形	長 幅	5.2 4.0	厚 重	1.6 54.5	燧灰質砂岩/扁平 楕円礮//	小口部両端に胎状に切れ目を刻む。切り目はシャープで、新鮮である。未使用か。
第236図 PL.R2	105	礮石器 石鏃	フク土 定形	長 幅	6.7 3.5	厚 重	1.5 51.4	珪質頁岩//	小口部両端に胎状に切れ目を刻む。礮面には斜行すべ条痕があり、上端側の切目縁線は丸味を帯びているが、これが使用によるものか判断できない
第237図 PL.R2	106	礮石器 多孔石	フク土 定形	長 幅	31.7 25.1	厚 重	14.6 18200	粗粒輝石安山岩/ 分銅形? /	完成状態。上端部に柄部があり、これに大きな体部が付く。刃部摩耗、側縁摩耗(巻摩耗)とも明確に残る。
第237図 PL.R2	107	礮石器 多孔石	フク土 破片	長 幅	(14.2) (10.2)	厚 高	(6.5) 1161.2	粗粒輝石安山岩//	表面側に漏斗状の窪み穴を多く穿つ。表面以外すべて破損面。礮サイズの割に礮重量は重い。
第237図 PL.R2	108	土師器 杯	フク土 定形	口 底	11.7 8.2	高	3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部はココナデ。体部はナデ、底部は手持ちへら削り。
第237図 PL.R2	109	土師器 杯	フク土 割部片					細砂粒/良好/にふ い黄橙	底部は手持ちへら削りか。摩耗のため単位は観察できない。
第237図 -	110	須恵器 蓋杯の身	フク土 破片	口 幅	11.7 13.4			細砂粒・粗粒砂/ 還元塩/灰白	ロクロ整形。回転は右回り。底部回転へら削り。胎土の黒色粒子が多く含まれる。
第237図 PL.R2	111	須恵器 無台椀	フク土 ほぼ定形	口 底	12.2 5.5	高	3.5	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第237図 -	112	灰釉陶器 椀	フク土 口縁部片	口 底	16.0			微砂粒/還元塩/灰 黄	ロクロ整形。回転は右回り。施釉方法不明。口唇部は小さく外反する。
第237図 -	113	灰釉陶器 椀	フク土 底部片	底 台	7.0 6.8			微細砂粒/還元塩/ 灰黄	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。内面底部まで施釉。
第237図 PL.R2	114	灰釉陶器 椀	フク土 底部～体部下位 片	底 台	6.2 6.5			微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。施釉方法不明。内面は砥として使用のため磨減する。
第237図 -	115	灰釉陶器 椀	フク土 底部～体部片	底 台	7.0 6.9			微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。施釉方法不明。
第237図 -	116	灰釉陶器 椀	フク土 底部～体部片	底 台	7.4 6.8			微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。
第237図 -	117	灰釉陶器 椀	フク土 底部～体部下位 片	底 台	7.2 7.0			微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。高台は貼付。施釉方法不明。
第237図 -	118	灰釉陶器 椀	フク土 底部～体部片	底 台	6.8 6.6			微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。刷毛塗か。
第237図 -	119	須恵器 盃	フク土 底部～割部下位 片	底	13.2			細砂粒/還元塩/褐 灰	ロクロ整形。回転は右回り。割部下位回転へら削り。底部は回転へら削り、高台は貼付。
第237図 -	120	須恵器 盤か	フク土 割部片					細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。割部に凹線が通る。
第237図 PL.R2	121	須恵器 甕	フク土 割部片					細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転は右回りか。外面に線刻。
第237図 -	122	瓦 平瓦	フク土 左側端部片	厚	1.2			細砂粒/還元塩/褐 灰	表面に布目痕。側面へらナデ。硬質。
第237図 -	123	土製品 瓦	フク土 右側端部片	厚	1.6			細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰白	表面に布目痕。側面へらナデ。
第237図 PL.R2	124	石造物 板碑	フク土 破片	長 幅	(19.1) (8.1)	厚 重	2.8 616.7	雲母石英片岩//	右辺側を折断して形状を整えるほか、右辺側上端を浅くノッチ状に加工する。加工意図は不明。下端側端部には斜向するよう整形。板碑基部の可能性も否定できない。石の目は長軸上に重なり、裏面側は表面側より平滑であり、表裏面を逆転させるべきかもしれない。
第237図 PL.R2	125	羽口 -	フク土 破片	長 幅	(4.4) (3.5)	厚 重	1.6 23.2	//	外面はわずかに面取りがされており、痕跡が見られる。内面は孔に対して垂直方向の痕跡が見られる。
第237図 PL.R2	126	銭貨 寶永通宝四 文銭	フク土 定形	長 短	2.819 2.076	厚 重	0.112 3.4	//有//	11波。全体が赤褐色に変色している。背の波はやや見えづらい。

岩鼻塚合遺跡

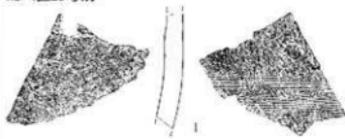
R3-4区22号溝



R3-4区23号溝



R3-4区25号溝



R3-4区27号溝



第238図 R3-4区22・23・25・27号溝出土遺物

0 1:3 10m

R3-4区22号溝

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第238図 PL.R2	1	礫石器 敲石	フク上 完形	長幅 6.4 厚 4.3 重 536.8	粗粒輝石安山岩//	断面三角形状を呈す棒状の小口部分に弱い敲打痕。	
第238図 PL.R2	2	肥前磁器 染付皿	フク上 底部1/4	口底 (6.5)	灰白	内面山水文か、透明釉やや白濁し、焼成不良。	19世紀

R3-4区23号溝

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第238図 -	1	瓦 丸瓦	+11 上端部片		細砂粒/酸化塩/明赤褐	棒巻作り。表面はヘラナデ、裏面に布目織が残る。が上端部はヘラナデ。	

R3-4区25号溝

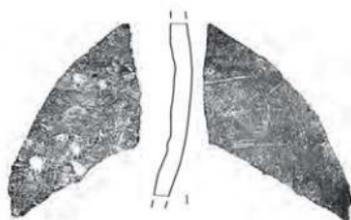
検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第238図 -	1	須恵器 壺	フク上 胴部片		細砂粒/還元塩/灰	胴部は叩き締め成形。外面の叩き痕はナデ消され、カキメが施されている。内面もアチ具痕がナデ消されている。	

R3-4区27号溝

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第238図 PL.R2	1	縄文土器 深鉢	フク上 胴部破片		粗砂、輝石/ふつう	横位帯状に集合沈澱をめぐらす。	諸磯b式
第238図 -	2	須恵器 甕	フク上 口縁部片		細砂粒/還元塩/灰	口縁部はロクロ整形。口部下に小凸帯を作る。	

岩鼻延養寺遺跡

R2-4区1号竪穴状遺構



0 1:3 10m

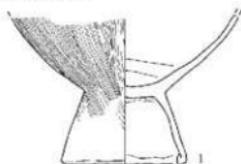
R2-4区1号竪穴状遺構

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第239図 -	1	常滑陶器 壺か甕	フク上 体部片	口底 - 器高 -	/灰/	器表暗赤褐色。内外面撫で。	中世

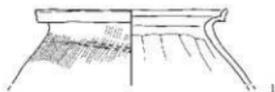
第239図 R2-4区1号竪穴状遺構出土遺物

岩鼻天神道跡

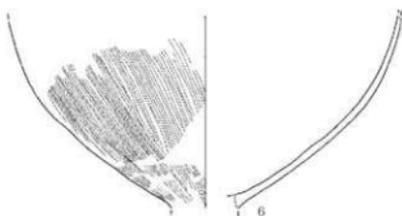
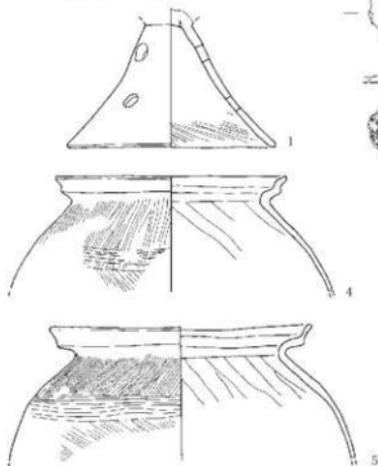
R2-4区1号竖穴建物



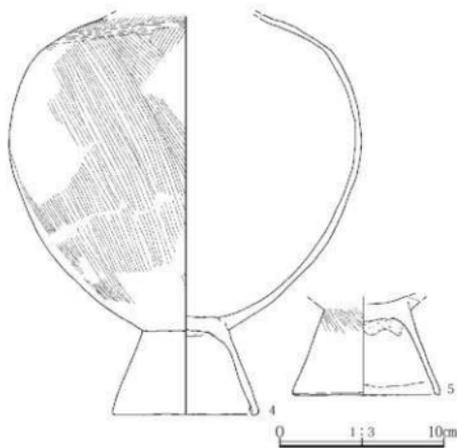
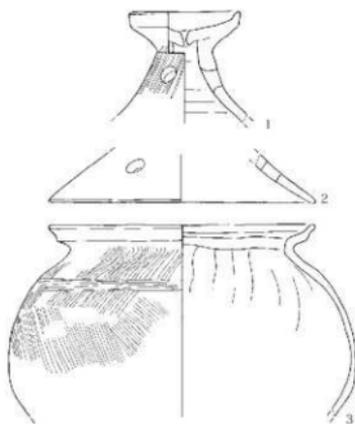
R1-47-3遺跡1号竖穴建物



R1-47-3遺跡2号竖穴建物

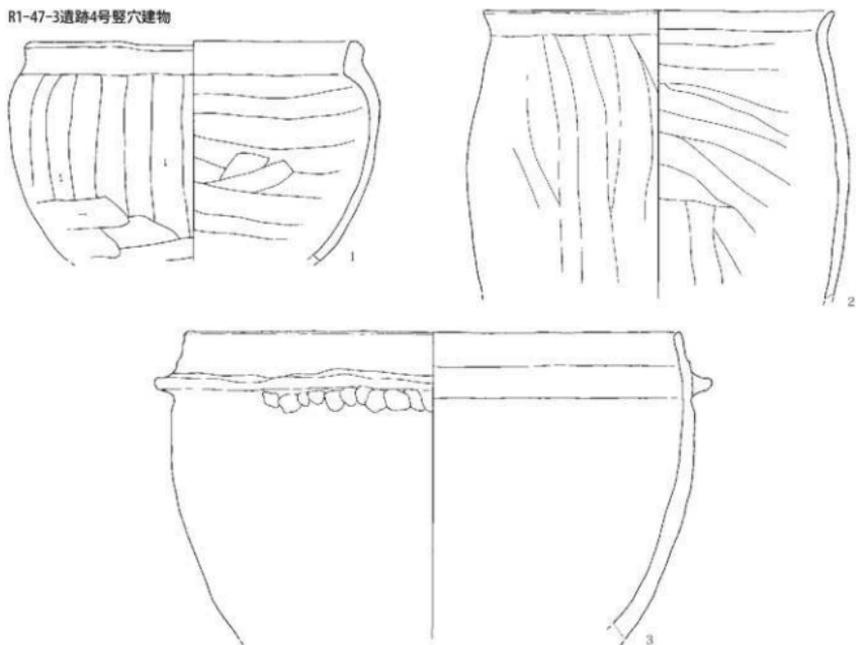


R1-47-3遺跡3号竖穴建物

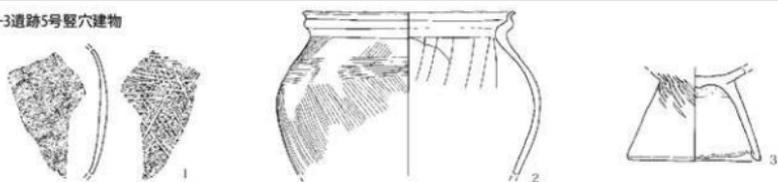


第240图 R2-4区1号竖穴建物、R1-47-3遺跡1・2・3号竖穴建物出土遺物

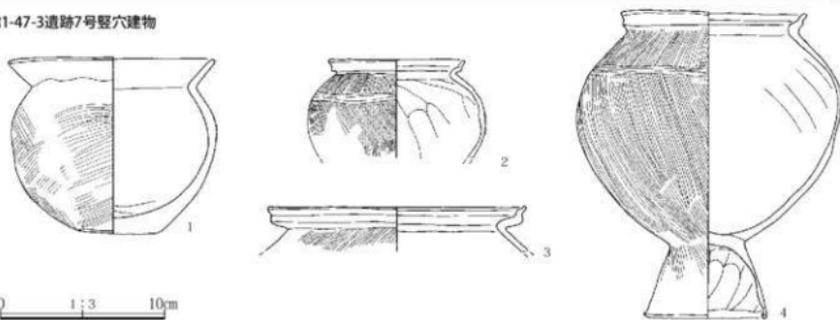
R1-47-3遺跡4号竪穴建物



R1-47-3遺跡5号竪穴建物



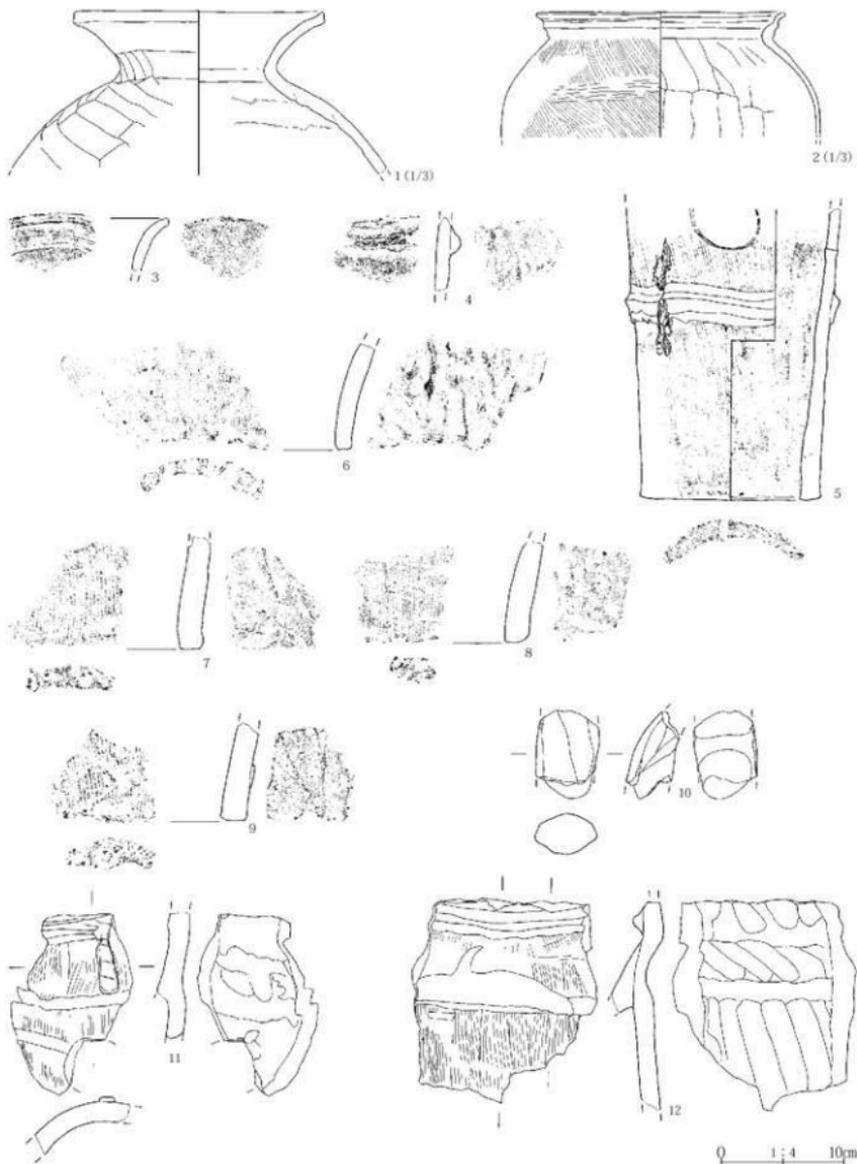
R1-47-3遺跡7号竪穴建物



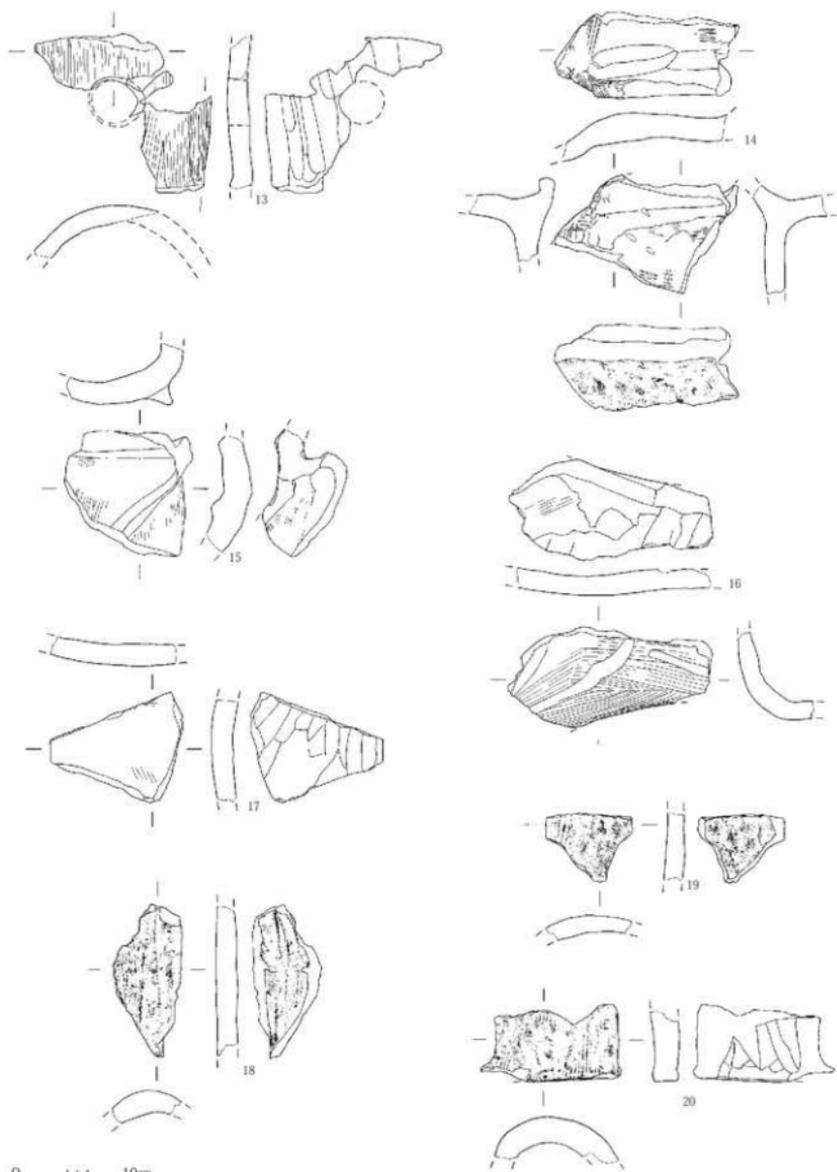
0 1:3 10m

第241图 R1-47-3遺跡4・5・7号竪穴建物出土遺物

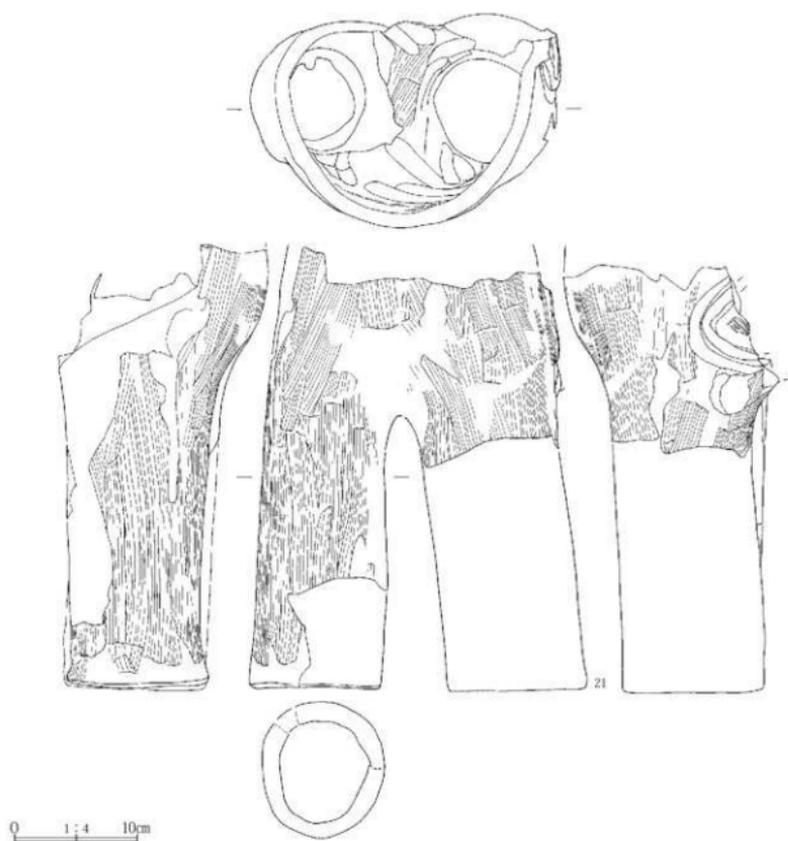
R1-47-3遺跡1号竪穴状遺構



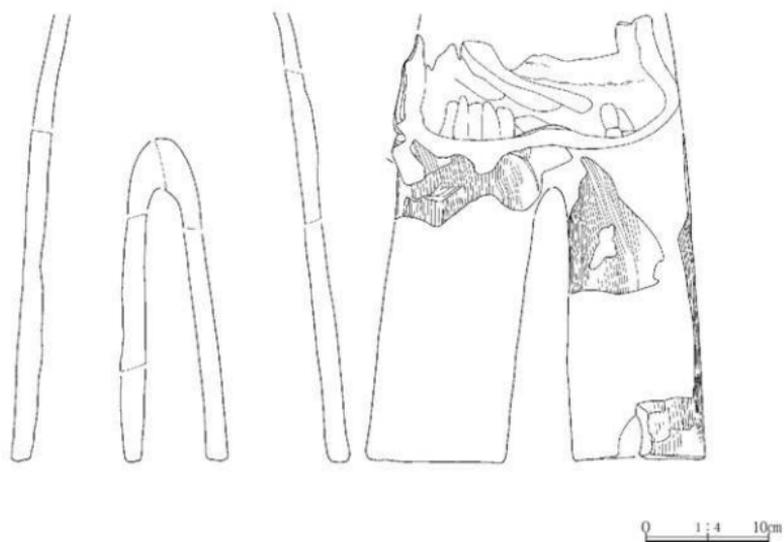
第242图 R1-47-3遺跡1号竪穴状遺構出土遺物1



第243图 R1-47-3道跡1号型穴状遺構出土遺物2

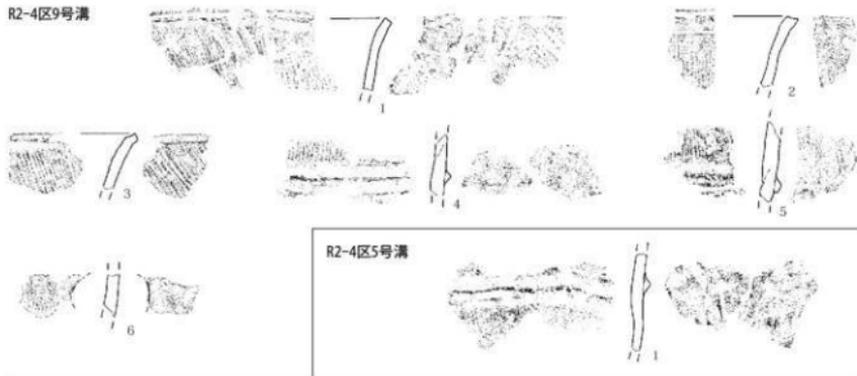


第244図 R1-47-3遺跡1号竪穴状遺構出土遺物3 a



第245図 R1-47-3遺跡1号竪穴状遺構出土遺物3 b

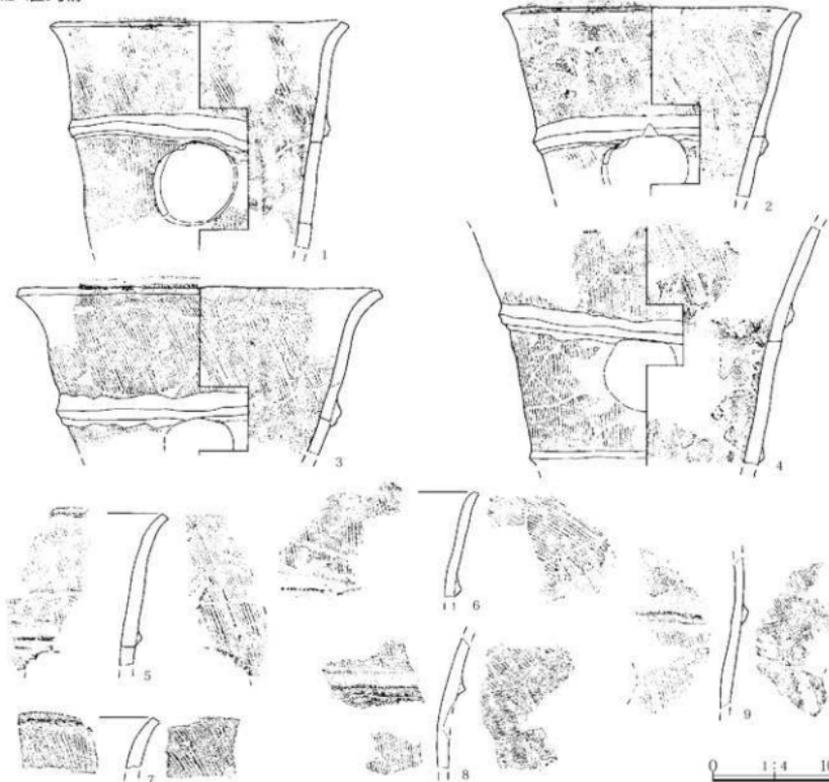
R2-4区9号溝



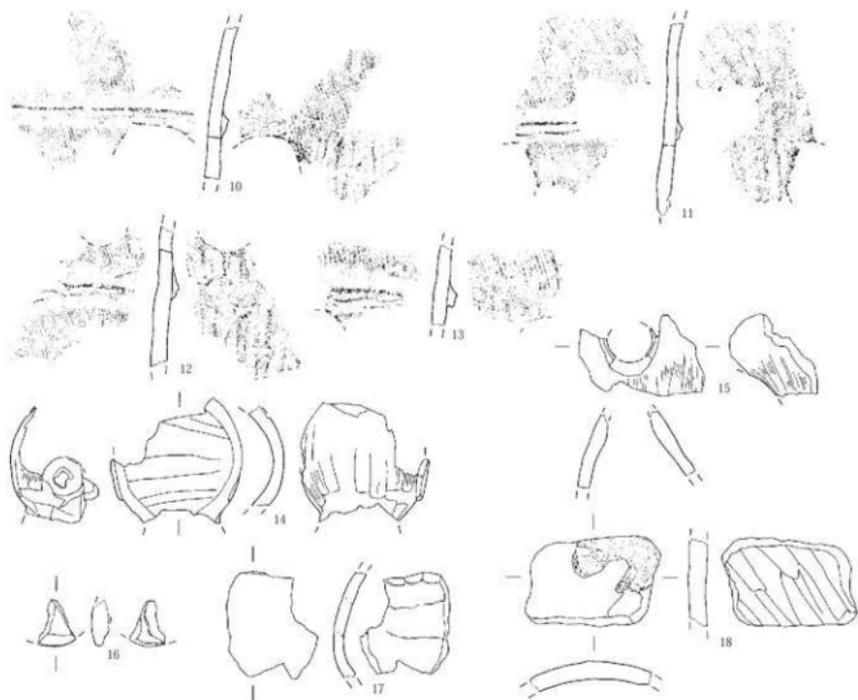
R2-4区5号溝



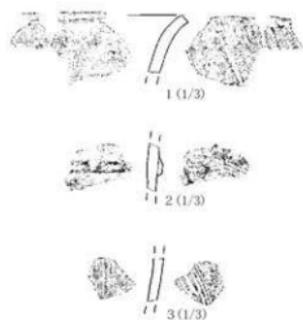
R2-4区6号溝



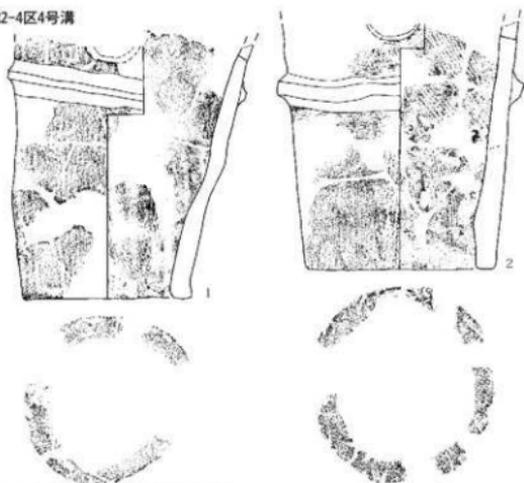
第246图 R2-4区9・5・6号溝出土遺物



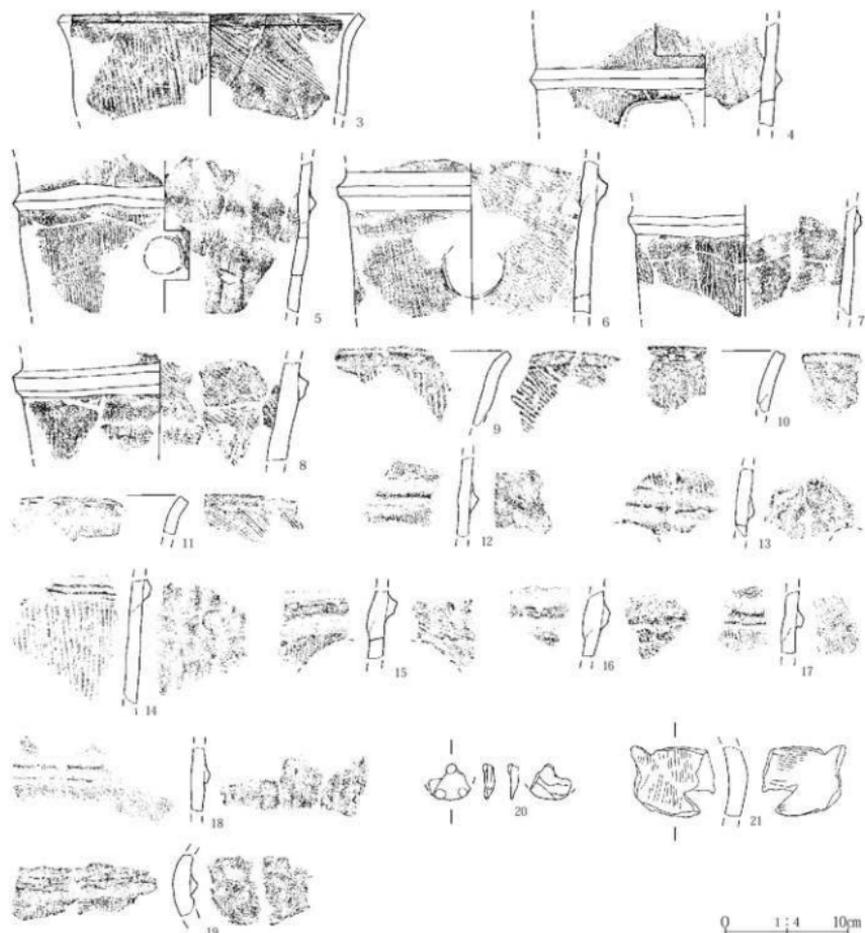
R2-4区1号溝



R2-4区4号溝



第247图 R2-4区6・1・4号溝出土遺物



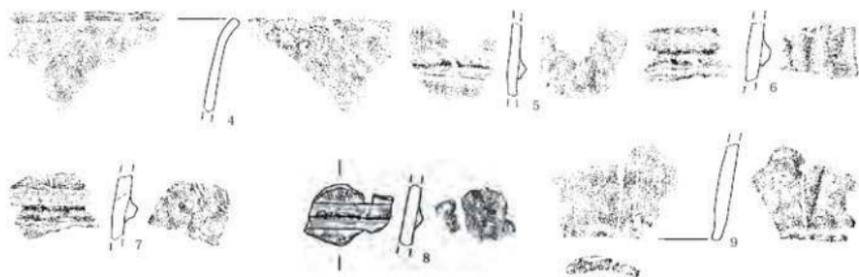
R1-47-1道跡5号溝



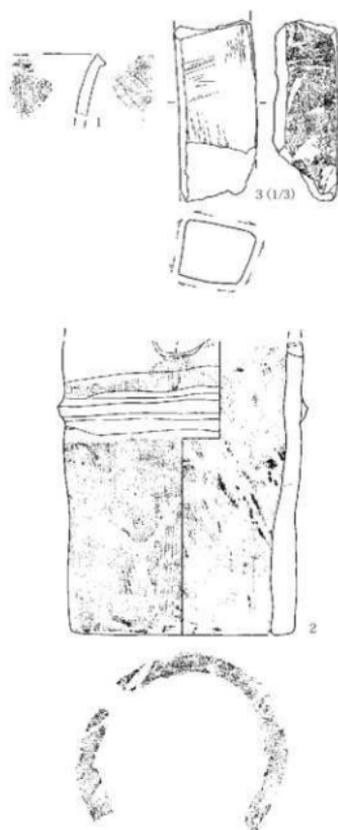
R1-47-1道跡4号溝



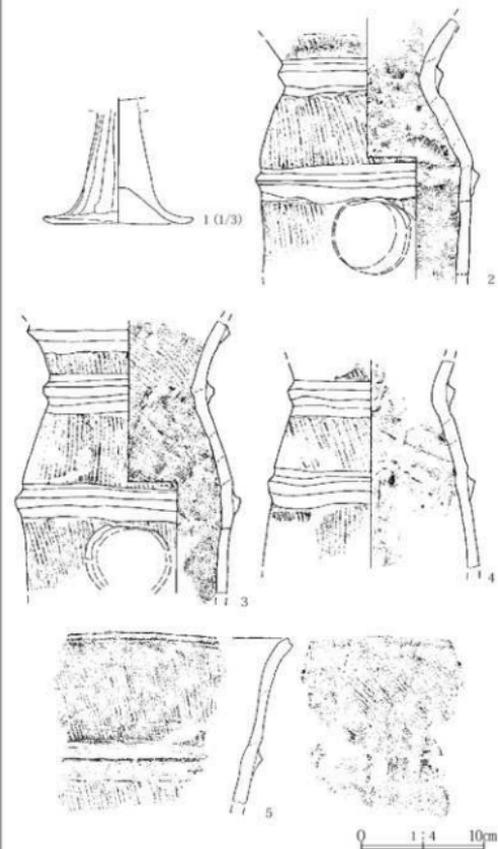
第248图 R2-4区4号溝、R1-47-1道跡5・4号溝出土遺物



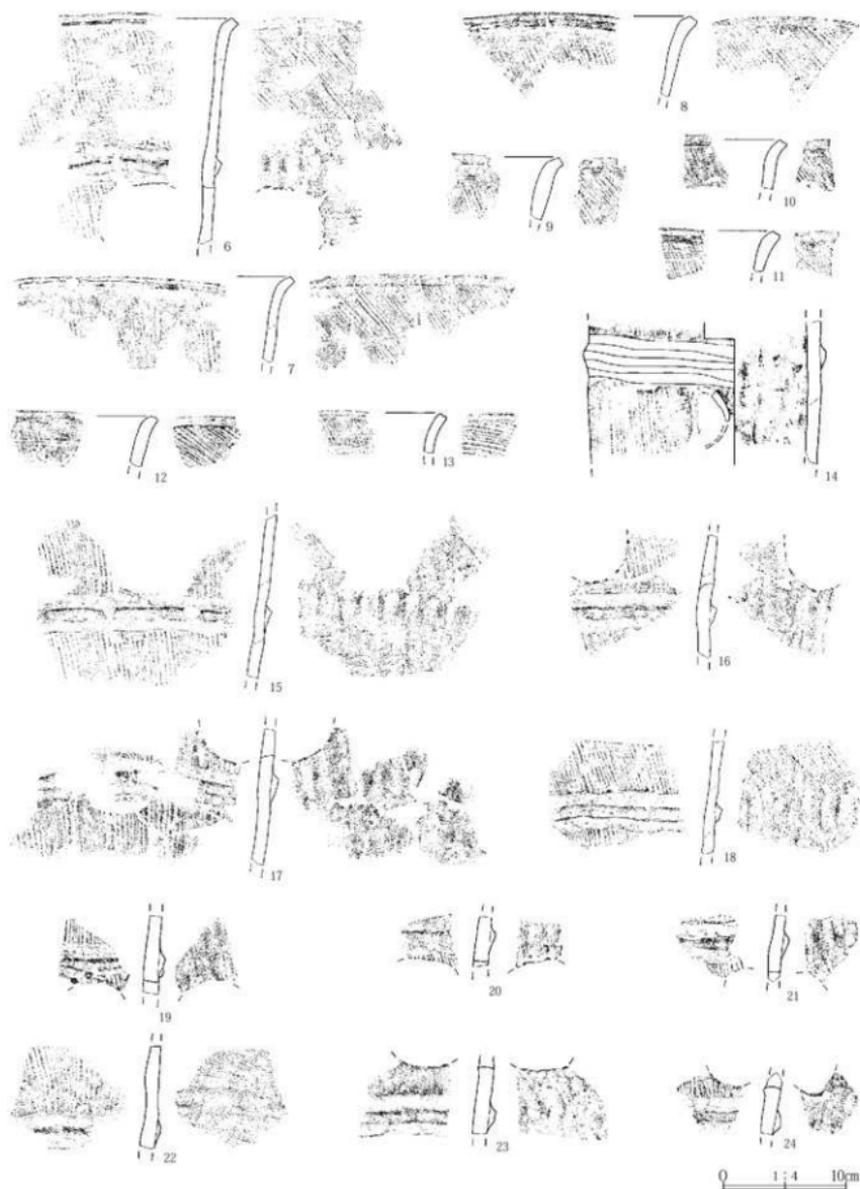
R1-47-3道跡2号溝



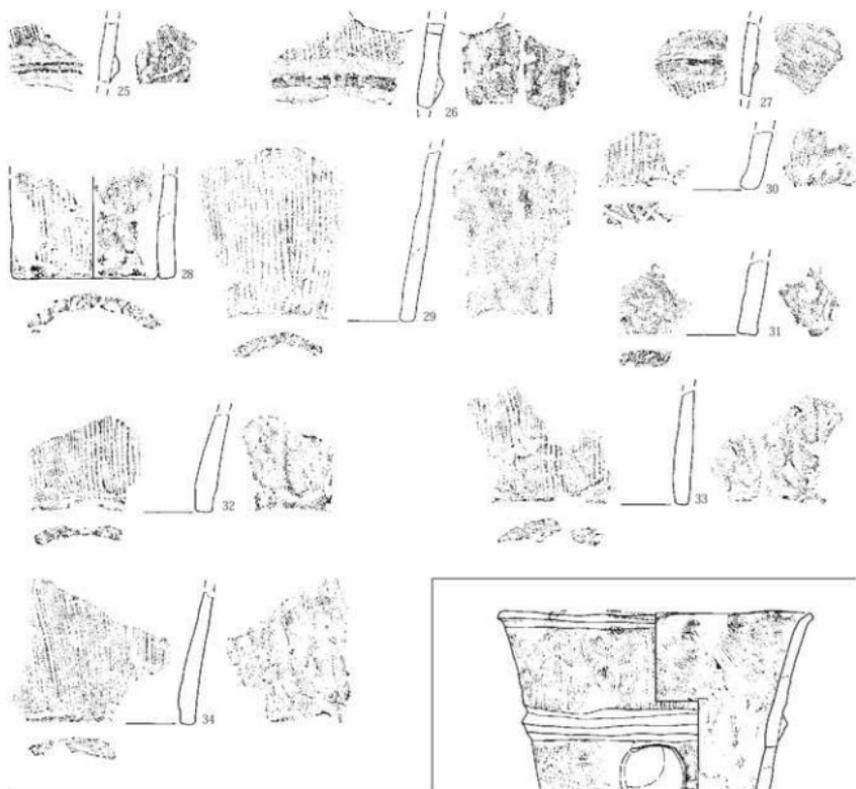
R1-47-3道跡5号溝



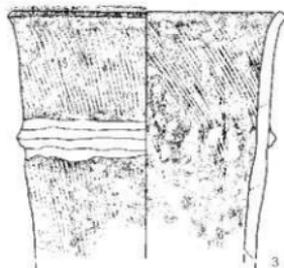
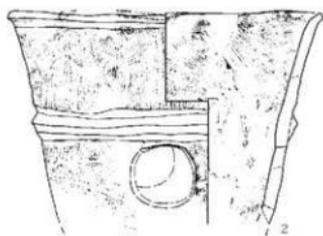
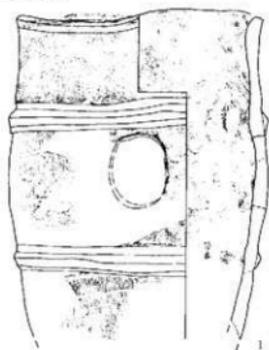
第249图 R1-47-1道跡4号溝、R1-47-3道跡2・5号溝出土遺物



第250図 R1-47-3遺跡5号溝出土遺物2

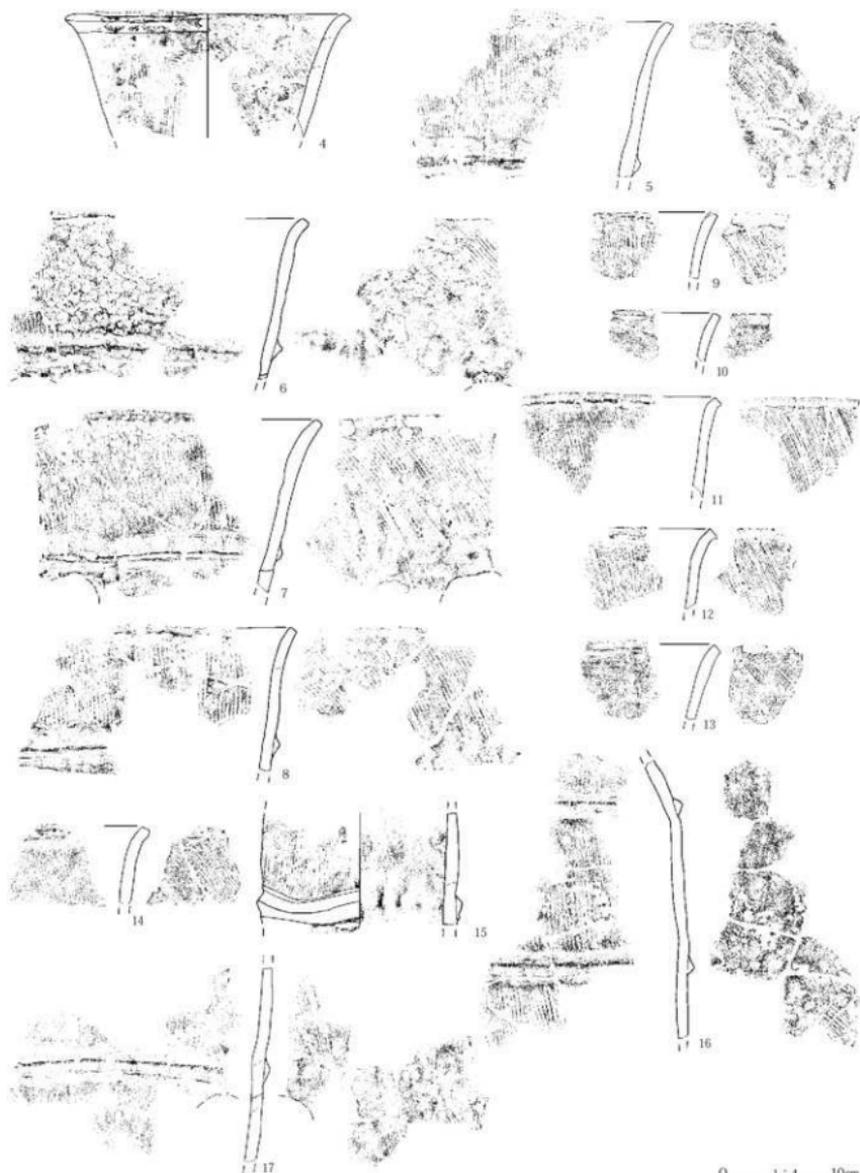


R1-47-3遺跡14号溝

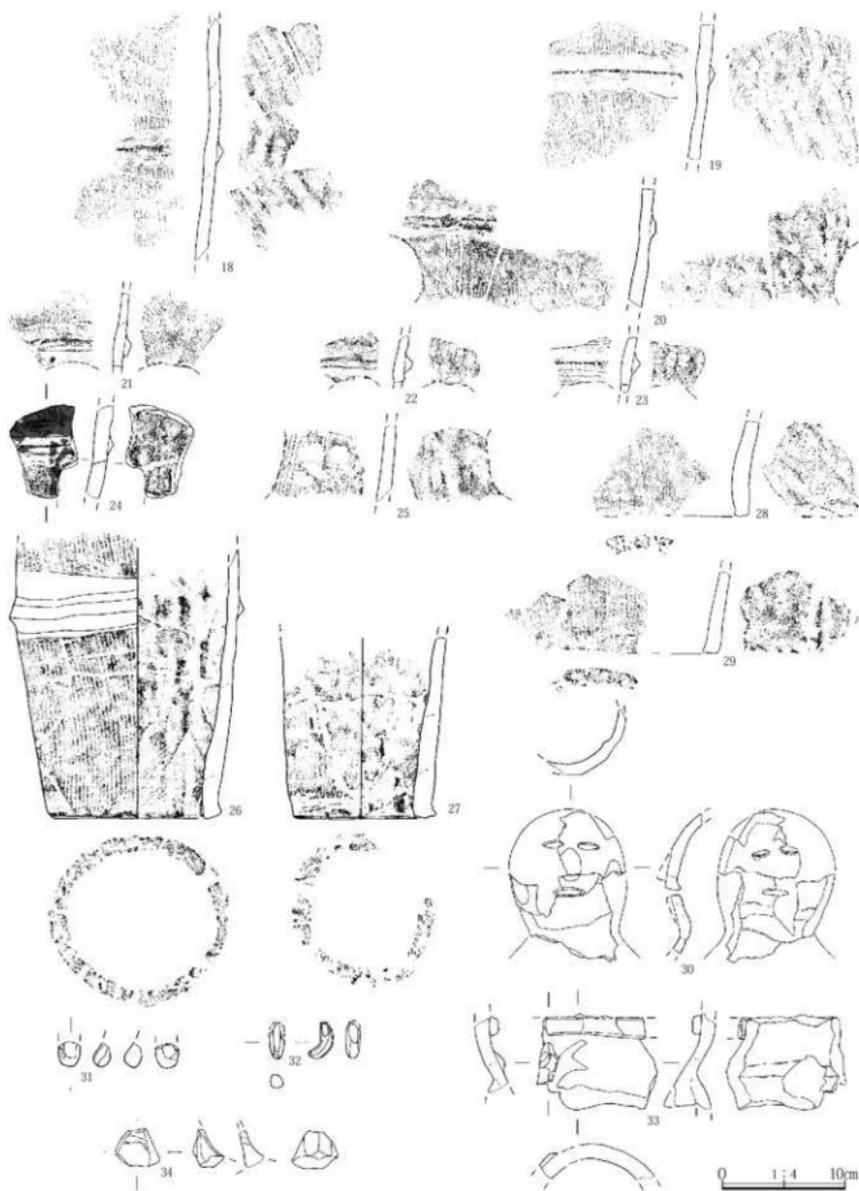


0 1:4 10cm

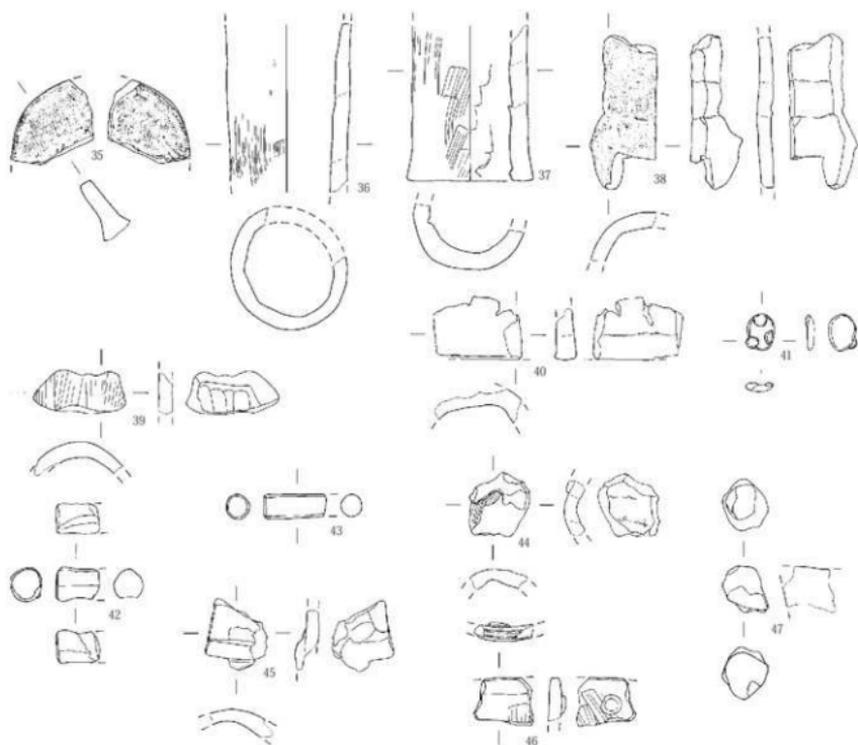
第251图 R1-47-3遺跡5・14号溝出土遺物



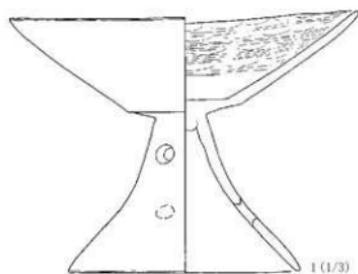
第252図 R1-47-3道跡14号溝出土遺物2



第253図 R1-47-3道跡14号溝出土遺物3

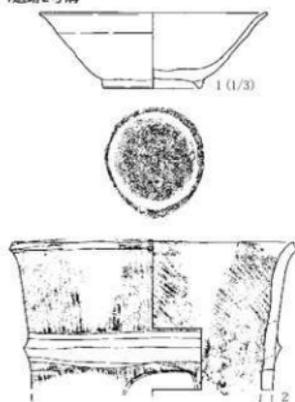


R2-4区8号溝



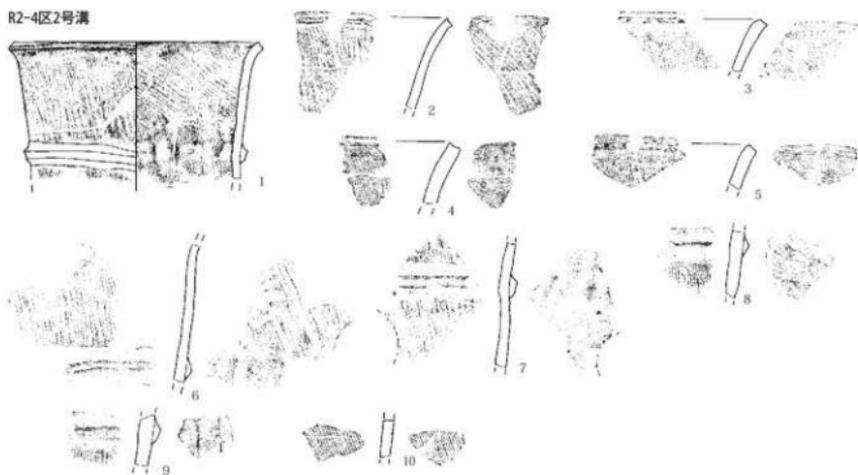
0 1:4 10cm

R1-47-1遺跡2号溝



第254図 R1-47-3遺跡14号溝出土遺物4、R2-4区8号溝出土遺物、R1-47-1遺跡2号溝出土遺物

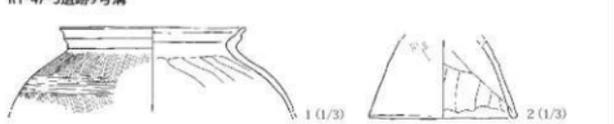
R2-4区2号溝



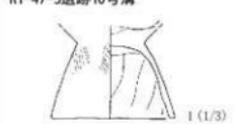
R1-47-1遺跡3号溝



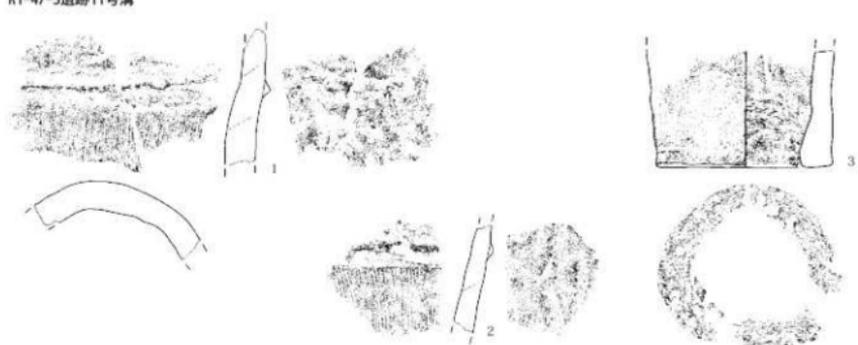
R1-47-3遺跡9号溝



R1-47-3遺跡10号溝

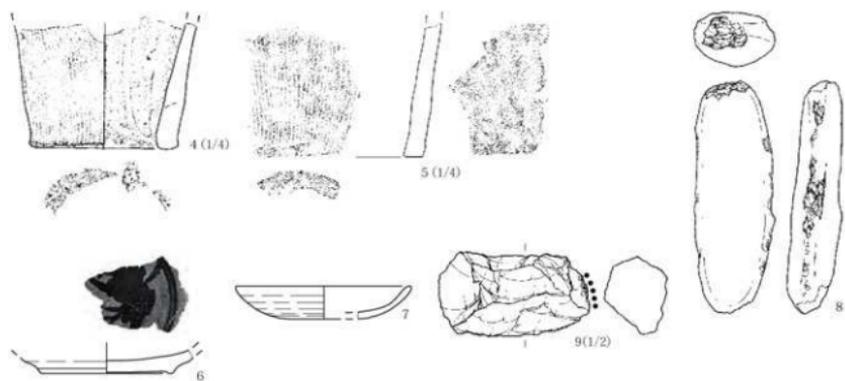


R1-47-3遺跡11号溝

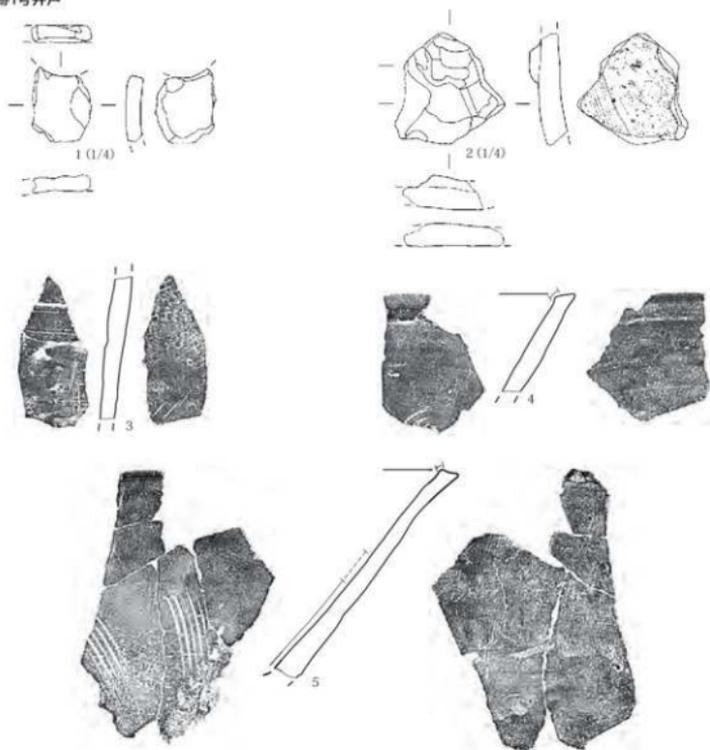


第255図 R2-4区2号溝、R1-47-1遺跡3号溝出土遺物、R1-47-3遺跡9・10・11号溝出土遺物

岩鼻天神道跡

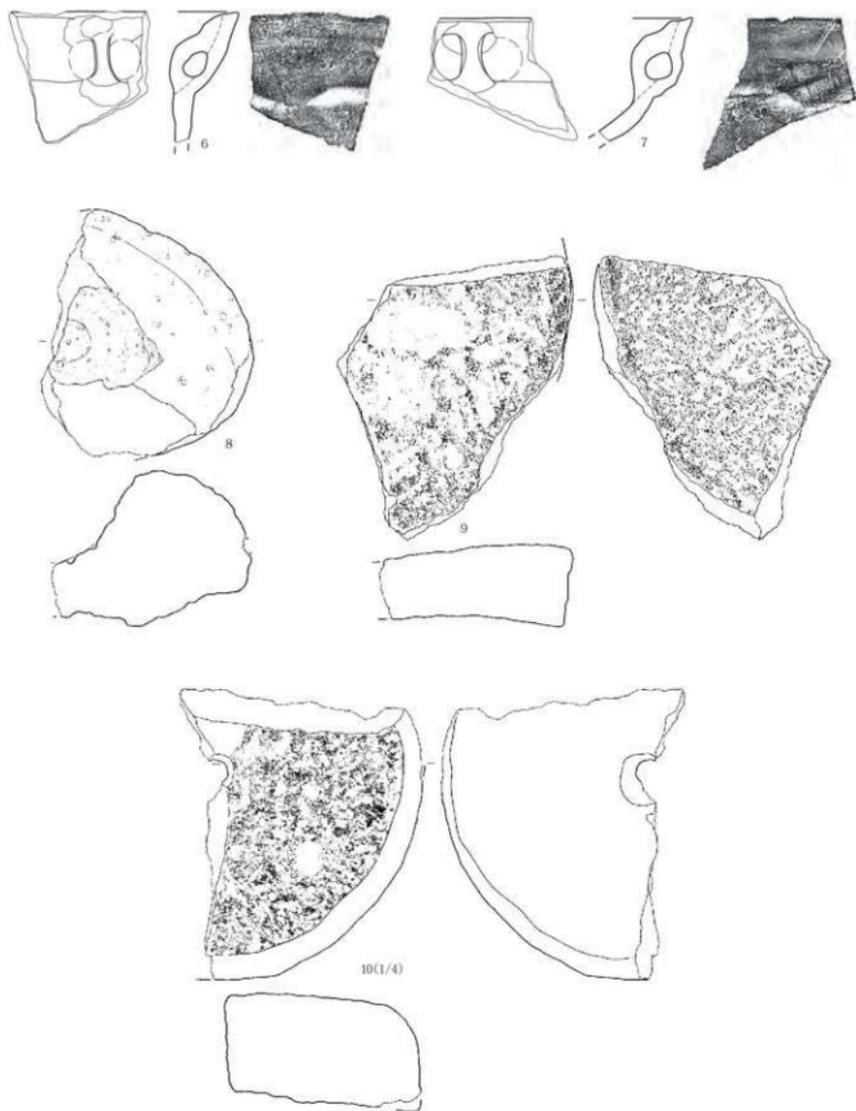


R1-47-3遺跡1号井戸



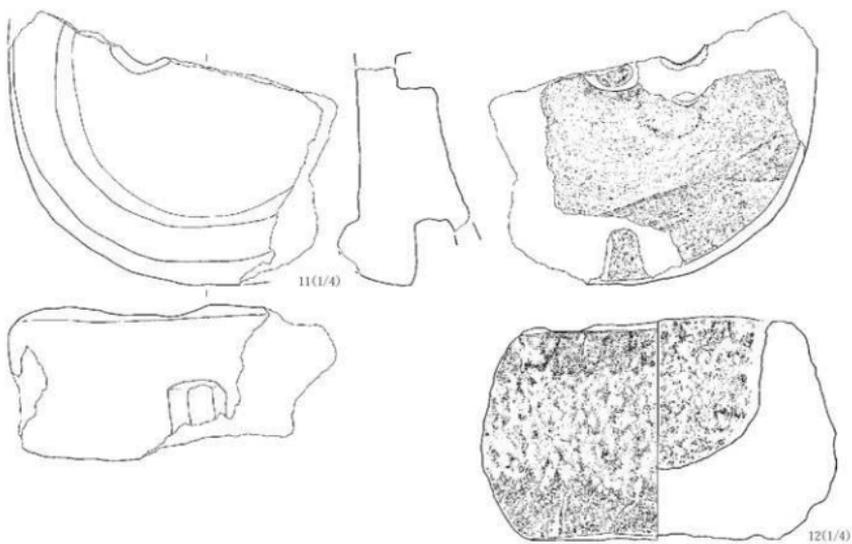
第256図 R1-47-3遺跡11号溝出土遺物2、1号井戸出土遺物1

0 1:3 10cm

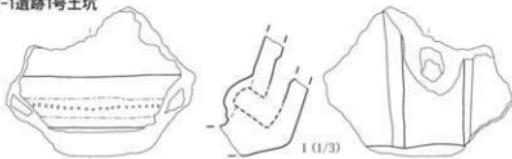


第257图 R1-47-3遺跡1号井戸出土遺物2

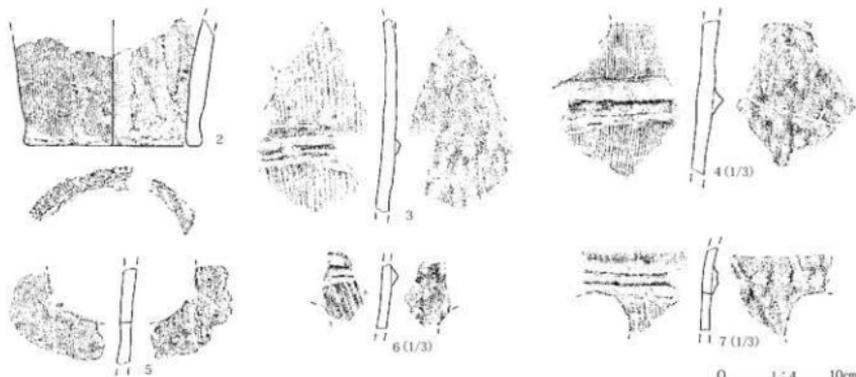
岩鼻天神道跡



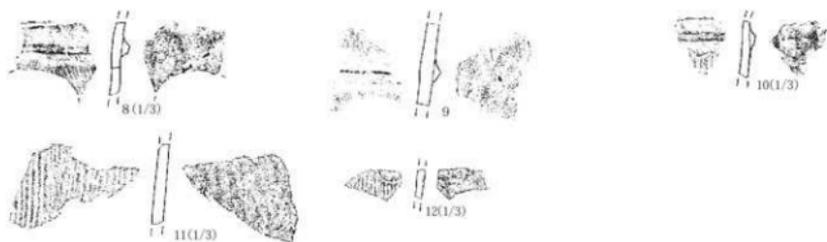
R1-47-1遺跡1号土坑



R2-4区遺構外



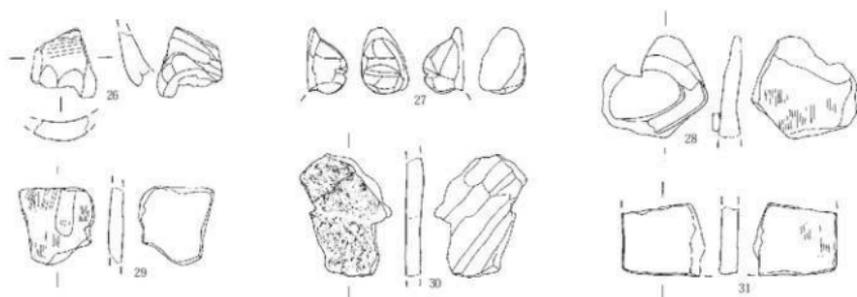
第258図 R1-47-3遺跡1号井戸出土遺物3、R1-47-1遺跡1号土坑出土遺物、R2-4区遺構外出土遺物1



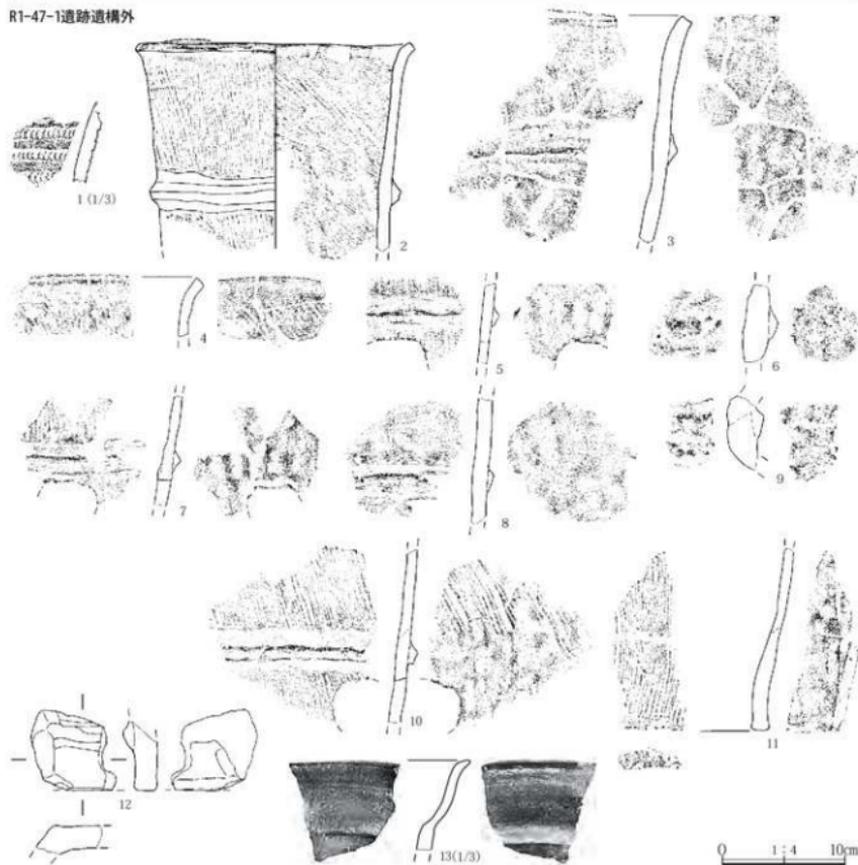
R2-4区遺構外(古墳周辺)



第259図 R2-4区遺構外出土遺物2、R2-4区遺構外(古墳周辺)出土遺物1

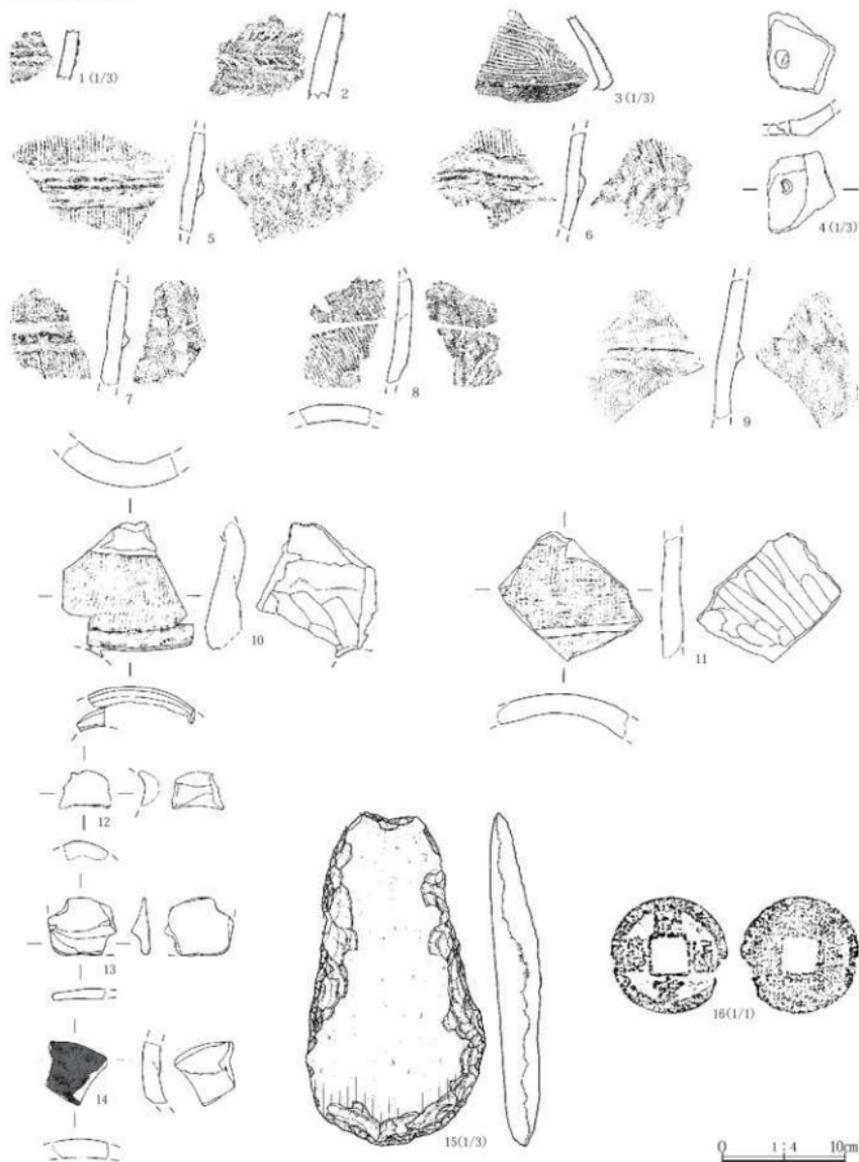


R1-47-1遺跡遺構外



第260図 R2-4区遺構外(古墳周辺)出土遺物2、R1-47-1遺跡遺構外出土遺物

R1-47-3遺跡遺構外



第261图 R1-47-3遺跡遺構外出土遺物

岩鼻天神遺跡 遺物観察表

R2-4区1号竪穴建物

棟目 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第24009 PL-83	1	土師器 台付甕	+24.8 台部～胴部下位	脚	7.4		細砂粒/酸化塩/灰 ぶい黄橙	成形・整形の特徴 胴部腹位のハケメ(1.5cm/8～10本)内面ヘラナデ。脚部 端部折り返し。	

R1-47-3遺跡1号竪穴建物

棟目 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第24009 -	1	土師器 台付甕	ビッドフク土 口縁部～胴部上 位片	口	11.5		細砂粒/良好/灰黄 褐	成形・整形の特徴 口縁部はヨコナデ。頸部から胴部はハケメ(1cm当たり5本)、 胴部下に横方向ハケメ。内面は頸部がヘラナデ、胴部はナ デ。	

R1-47-3遺跡2号竪穴建物

棟目 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第24009 PL-83	1	土師器 高杯	+10.1 脚部	脚	12.3		細砂粒・微/良好/ 橙	杯部は胴部に貼付するように接合。外面は器面磨滅の ため整形不鮮明。内面は下半にハケメ。脚部には上下2段 の透孔を3方に穿つ。	
第24009 PL-83	2	土師器 蓋	フク土 縁～天井部				細砂粒/良好/橙	蓋は貼付。表裏ともナデ。蓋には穿孔あり。	
第24009 PL-83	3	土師器 台付甕	床直 ほぼ完形	口 胴	11.5 15.8	台 高 7.0 18.5	細砂粒/良好/ぶ い黄視	胴部は台部に貼付するように接合。台部端部は内側に折 り返し。口縁部はヨコナデ。胴部から台部上位にハケメ(1 cm当たり6本)、胴部上位に横方向ハケメ。内面は頸部 にヘラナデ。台部底部に砂粒の多い粘土を貼付。	
第24009 -	4	土師器 台付甕	床直 口縁部～胴部上 位片	口	13.8		細砂粒/良好/ぶ い黄視	口縁部はヨコナデ。胴部から台部上位にハケメ(1cm当 り6本)、胴部上位に横方向ハケメ。内面は頸部にヘラナデ、 胴部はナデ。	
第24009 -	5	土師器 台付甕	+5.7 口縁部～胴部上 位片	口	15.8		細砂粒/良好/ぶ い黄視	口縁部はヨコナデ。胴部から台部上位にハケメ(1cm当 り6本)、胴部上位に横方向ハケメ。内面は頸部にヘラナデ、 胴部はナデ。	
第24009 PL-83	6	土師器 台付甕	+5.7 胴部下半片	底	5.0		細砂粒/良好/灰黄 褐	外面はハケメ(1cm当たり6本)、内面はナデ。	

R1-47-3遺跡3号竪穴建物

棟目 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第24009 PL-83	1	土師器 器台	フク土 口縁部～脚部下 位片	口 縁	6.6 6.5	底 3.4	細砂粒/良好/橙	受部と脚部は接合。受部は口縁部がヨコナデ。底部はヘ ラナデ。脚部はヘラミガキ。内面は脚部がヘラナデ。脚 部に透孔を3方に穿つ。	
第24009 PL-83	2	土師器 高杯	フク土 脚部片	脚	16.0		細砂粒/良好/橙	内外面とも器面磨滅のため整形不鮮明。脚部には上下2段 の透孔を穿つ。	
第24009 PL-83	3	土師器 台付甕	床直～+5.7 口縁部～胴部中 位片	口 胴	16.0 21.0		細砂粒/良好/ぶ い黄橙	口縁部はヨコナデ。頸部から胴部中位にハケメ(1cm当 り5本)、胴部上位に横方向ハケメ。内面は頸部にヘラナデ、 胴部はナデ。	
第24009 PL-83	4	土師器 台付甕	床直～+6.5 底部～胴部上位 片	口 底	21.5 5.2	台 8.7	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	胴部は台部に貼付するように接合。台部端部は内側に折 り返し。胴部はハケメ(1cm当たり5本)、上位に横方向ハ ケメ。台部はナデ。	
第24009 PL-83	5	土師器 台付甕	フク土 台部片	台 底	8.7 5.2		細砂粒/良好/明赤 褐	胴部は台部に接合。台部端部は内側に折り返し。台部上 位はハケメ(1cm当たり5本)。内面は底部に砂粒の多い粘 土を貼付。	

R1-47-3遺跡4号竪穴建物

棟目 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第24109 PL-84	1	土師器 甕	カマドフク土 口縁部～胴部下 位片	口 胴	19.8 22.4		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部はヨコナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴 部にヘラナデ。	
第24109 PL-84	2	土師器 甕	床直 口縁部～胴部中 位片	口 胴	21.2 23.0		細砂粒/良好/ぶ い黄視	口縁部から頸部はヨコナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴 部にヘラナデ。	
第24109 PL-84	3	須恵器 羽釜	床直～+27.9 口縁部～胴部上 半片	口 脚	29.7 33.7	脚 31.6	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	ロコロ成形状。跨は貼付。跨下に貼付時の指痕が残る。 胴部はヘラ削りか、器面磨滅のため単位不明。内面はヘ ラナデ。	

R1-47-3遺跡5号竪穴建物

棟目 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第24109 PL-84	1	土師器 甕	フク土 胴部片				細砂粒/良好/ぶ い黄橙	外面は粗いハケメ。内面はヘラナデ。	

挿入No.	種類	出上位置	計測値			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
No.	器種	残存率	口	底	高	石材・素材等		
第241図 PL.84	2 土師器 台付費	床直へ7.0 口縁部～胴部下 位片	口 製 12.6			細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部はヨコナデ、頸部から胴部はハケメ(1cm当たり6本)、胴部上位に横方向ハケメ。内面は頸部がヘラナデ、胴部はナデ。	
第241図 PL.84	3 土師器 台付費	床直 台部	台 底 8.0 4.4			細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	胴部は台部に接合、台部端部は内側に折り返し、台部上位はハケメ(1cm当たり5本)、内面は底部に砂粒の多い粘土を貼付。	

R1-47-3遺跡7号竪穴建物

挿入No.	種類	出上位置	計測値			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
No.	器種	残存率	口	底	高	石材・素材等		
第241図 PL.84	1 土師器 小型費	床直 ほぼ完成	口 製 12.4	底 高 4.5 10.2		細砂粒/良好/に ぶい赤褐色	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部は粗いハケメ(1cm当たり5本)、底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第241図 PL.84	2 土師器 台付費	床直へ6.8 口縁部～胴部中 位片	口 製 8.1 10.8			細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部はヨコナデ、胴部はハケメ(1cm当たり8本)、上位に横方向ハケメ。内面は頸部にヘラナデ、胴部にヘラナデ。	
第241図 PL.84	3 土師器 台付費	6.8 ほぼ完成	口 製 11.2 15.9	台 高 7.1 18.5		細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	胴部は台部に接合、台部端部は内側に折り返し、胴部から台部上位にハケメ(1cm当たり8本)、胴部上位に横方向ハケメ。内面は底部に砂粒の多い粘土を貼付、胴部下半は全体的に覆っている。	
第241図 -	4 土師器 台付費	+19.9 口縁部～胴部上 位片	口 製 15.5			細砂粒/良好/に ぶい褐色	口縁部はヨコナデ、胴部はハケメ(1cm当たり5本)。内面は頸部にヘラナデ、胴部にヘラナデ。	

R1-47-3遺跡1号竪穴状遺構

挿入No.	種類	出上位置	計測値			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
No.	器種	残存率	口	底	高	石材・素材等			
第244図 PL.85	1 土師器 直	フク上 口縁部～胴部上 位片	口 製 15.0			細砂粒/良好/橙	内面胴部に輪組み痕が残る。口縁部は上半がヨコナデ下半はヘラナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。		
第244図 PL.85	2 土師器 台付費	フク上 口縁部～胴部上 位片	口 製 15.0 19.6			細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部はヨコナデ、胴部から台部上位にハケメ(1cm当たり5本)、胴部上位に横方向ハケメ。内面は頸部にヘラナデ、胴部はナデ。		
挿入No.	No.	出上位置	①底位②口径③底径④高(cm)	⑤胎土⑥色調⑦焼成	口縁 突帯 透孔	⑧胎土⑨色調⑩焼成	⑪形状	⑫特徴	備考
第244図 PL.85	3	円筒輪輸 フク上	①口縁部片②③④⑤	①②③④⑤	-	①②③④	-	①外弁②内弁	
第244図 PL.85	4	円筒輪輸 フク上	①胴部片②③④⑤⑥⑦	①C 細粗砂粒・褐鉄鉱粗砂粒・チャート細粗砂粒②明赤褐色③B2	-	①B2	-	①12	外面タテハケの突帯貼り付け。内面ナデ、ナナメ方向のハケメ。
第244図 PL.85	5	円筒輪輸 ③2.2→47.4	①基部片②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	①C 細粗砂粒・チャート細粗砂粒・褐鉄鉱粗砂粒・海綿骨針②明赤褐色③B2	-	①33	円か	①8	外面タテハケの突帯貼り付け。内面ナデ。突帯断面形状は三角形である。
第244図 PL.85	6	円筒輪輸 フク上	①底部片②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	①C 細粗砂粒・チャート小礫、細粗砂粒・褐鉄鉱粗砂粒②橙③B2	-	①②	-	①11	外面タテハケ、内面ナデ。
第244図 PL.85	7	円筒輪輸 フク上	①底部片②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	①C 細粗砂粒・チャート細粗砂粒・褐鉄鉱粗砂粒②明赤褐色③B2	-	①②	-	①6	外面タテハケ、内面ナデ。
第244図 PL.85	8	円筒輪輸 フク上	①底部片②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	①C 細粗砂粒・チャート細粗砂粒・褐鉄鉱粗砂粒②明赤褐色③B2	-	①②	-	①9	外面タテハケ、内面ナデ。
第244図 PL.85	9	円筒輪輸 フク上	①底部片②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	①C 細粗砂粒・チャート細粗砂粒・海綿骨針②明赤褐色③B2	-	①②	-	①6	外面タテハケ、内面ナデ。
第245図 PL.85	10	形象輪輸人物 フク上	①人物 胴の一部②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	①B 細粗砂粒・チャート細粗砂粒②橙③B2	-	①②	-	①②	人物輪輸の胴部接合部。根元が肩に挿入される。外面ハケナデ。
第245図 PL.85	11	形象輪輸人物 フク上	①人物輪輸胴部片②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	①B 細粗砂粒・橙、チャート・褐鉄鉱、細粗砂粒②橙③B2	-	①②	-	①6	人物輪輸胴部及び帯部。人物輪輸の胴部の一部と、腰帯部の一部である。胴部は、下端まで遺存していない。腰帯と想定される箇所より下に向かって紐状のものが垂下している。上部が直線状に近い半円形状を呈する透孔が一部遺存する。外面タテハケ、内面ナデ。

岩鼻天神遺跡 遺物観察表

採 掘 Pl.No.	No.	出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 突帯 透孔		①外径 ②内径	特徴	備考	
					分類 項目	①第1 ②第2 形状				
第245図 PL.85	12	形象埴輪人物 フク土	①人物埴輪部 ②(16.0) ③(13.1)④2.7	①B 細粗砂粒、チャー ト・規鉄鉱 細粗砂粒 ②橙③B2	-	①- ②-	-	①7 ②-	人物埴輪裾部及び帯部。人物埴輪の裾部の一部と、腰帯部の一部である。裾部は、下端まで遺存していない。腰帯と想定される箇所より下に向かって窪み箇所があり、紐状のものが穿通した可能性がある。外面タテハケ、内面ナデ。	12と13は同一 個体の可能性 あり。
第245図 PL.85	13	形象埴輪人物 フク土	①人物埴輪部 ②(11.8) ③(10.0)④1.9	①B 細粗砂粒、チャー ト・規鉄鉱 細粗砂粒 ②橙③B2	-	①- ②-	円	①7 ②-	人物埴輪の器台部。786と胎土・焼成などが類似していることもあり、同一個体の可能性が高い。径が現存長3.5cmの円孔透孔あり、外面タテハケ、内面ナデ。	12と13は同一 個体の可能性 あり。
第244図 PL.85	14	形象埴輪馬形 フク土	①馬形埴輪あ おりの一部 ②(6.9) ③(3.6)④6.4	①B 細粗砂粒、チャー ト 細粗砂粒②橙③A2	-	①- ②-	-	①- ②-	馬形埴輪のあおり片。あおりの下端部の横片で、膠の位置からすると後部のおおりの下部の可能性が高い。あおりの端部に横方向に割目が見えられている。	
第244図 PL.85	15	形象埴輪馬形 フク土	①馬形埴輪尻 部片②(9.7) ③(10.0)④7.7	①B 細粗砂粒、チャー ト・規鉄鉱 細粗砂粒 ②橙③B2	-	①- ②-	-	①7 ②-	馬形埴輪の尻部片。尻尾にかける尻がいの帯部の表現と、背骨の一部の表現があり、雲珠を表現した箇所が破損していると想定される。外面一部タテハケ、内面ナデ。	
第245図 PL.85	16	形象埴輪馬形 フク土	①馬形埴輪 の脚部片② (14.8)③(9.3) ④1.7	①B 細粗砂粒・糠 チャート 細粗砂粒・ 糠②にぶい黄橙③A2	-	①- ②-	-	①6 ②8	馬形埴輪の脚部片。外面タテハケ、内面ナデ、一部ハケ。脚部の屈曲がきつい。	
第244図 PL.85	17	形象埴輪 フク土	①形象埴輪側 部片②(8.2) ③(9.9)④1.7	①B 細粗砂粒、チャー ト・規鉄鉱 細粗砂粒 ②橙③B2	-	①- ②-	-	①- ②-	形象埴輪側部片。平用に近しい弧状を呈する。馬形埴輪の側部の可能性が高い。外面タテハケ、内面ナデ。	
第245図 PL.85	18	形象埴輪馬形 フク土	①馬形埴輪の 脚部片②(12.2) ③(5.5)④0.8	①B 細粗砂粒、チャー ト 細粗砂粒②にぶ い黄橙③B2	-	①- ②-	-	①8 ②-	馬形埴輪の脚部片。外面タテハケ、内面ナデ、一部ハケ。外側に広がるような形を取る。	
第245図 PL.85	19	形象埴輪馬形 フク土	①馬形埴輪の 脚部片②(5.4) ③(6.8)④1.5	①B 細粗砂粒、チャー ト 細粗砂粒②にぶ い黄橙③B2	-	①- ②-	-	①- ②-	馬形埴輪の脚部片。外面タテハケ、内面ナデ、一部ハケ。	
第245図 PL.85	20	形象埴輪馬形 フク土	①馬形埴輪の 脚部片②(6.1) ③(10.1)④2.1	①B 細粗砂粒、チャー ト 細粗砂粒②にぶ い黄橙③A2	-	①- ②-	-	①7 ②-	馬形埴輪の脚部片。外面タテハケ、内面ナデ。外側に広がるような形を取る。	
第243図 第244図 PL.86	21	形象埴輪馬形 フク土	①馬形埴輪の 前脚部片 ②(36.3) ③(23.2) ④17.2	①B 細粗砂粒・糠 チャート・規鉄鉱 細 粗砂粒・糠②橙③A2	-	①- ②-	-	①7 ②7	馬形埴輪前脚部。右前脚は3/4が遺存するが、左前脚は、下半分は欠損している。外面は、タテハケを施し、内面も体部脚付け根部にはハケメ施す。脚部内面はナデ。ヒズメの表現が右前脚後で確認できる。左脚側面体部寄りに、楕円形の隆帯があり、おそらく輪筋の表現と想定される。鞍の表現は確認できない。	

R2-4区9号溝

採 掘 Pl.No.	No.	出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 突帯 透孔		①外径 ②内径	特徴	備考
					分類 項目	①第1 ②第2 形状			
第246図 PL.86	1	円筒埴輪 フク土	①口縁部片②- ③-④(6.2)	①C 細粗砂粒・チャー ト 細粗砂粒②橙③C3	-	①- ②-	-	①8 ②6	内面口縁部位にナメハケ。ハケメ幅やや大きい。
第246図 PL.86	2	円筒埴輪 フク土	①口縁部片②- ③-④(6.1)	①C 細粗砂粒・チャー ト 細粗砂粒②明赤濁 ③B2	B2	①- ②-	-	①7 ②9	内面口縁部位にナメハケ。赤色塗彩の可能性あり。ハケメ幅やや大きい。
第246図 PL.86	3	円筒埴輪 フク土	①口縁部片②- ③-④(5.1)	①C 細粗砂粒・チャー ト 細粗砂粒 ②赤濁③A1	A3	①- ②-	-	①7 ②8	内面口縁部位にナメハケ。
第246図 PL.86	4	円筒埴輪 フク土	①口縁部下部 ～側部片②-③- ④(5.2)	①C 細粗砂粒・チャー ト 細粗砂粒②明赤濁 ③B2	-	①- ②S1	-	①6 ②-	口縁部下部～側部第1段の可能性あり。突帯は三角形状である。赤色塗彩が口縁部に施されていた可能性あり。ハケメ幅やや大きい。
第246図 PL.86	5	円筒埴輪 フク土	①口縁部下部 ～側部片②-③- ④(6.8)	①B 細粗砂粒・チャー ト 細粗砂粒③C3	-	①- ②M1	-	①7 ②10	内面口縁部位にナメハケ。突帯は、断面M字状である。
第246図 PL.86	6	円筒埴輪 フク土	①側部片②- ③-④(3.8)	①C 細粗砂粒・チャー ト 細粗砂粒②橙③B2	-	①- ②-	-	①7 ②-	側部片。透孔の一部が残る。外面ハケ不明瞭。

R2-4区5号溝

採掘 PL.No.	No.	出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 分類 項目	突帯 ①第1 ②第2	透孔 形状	フタ ①外側 ②内側	特徴	備考
第246図 PL.86	1	円筒埴輪 フク土	①胴部片②- ③-④(7.3)	①C 細粗砂粒・チャー ト粗粗砂粒②橙③B2	-	①-2 ②-	-	①B ②-	外面タテハケ、内面ナデ。突帯下位粗いナデ。	

R2-4区6号溝

採掘 PL.No.	No.	出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 分類 項目	突帯 ①第1 ②第2	透孔 形状	フタ ①外側 ②内側	特徴	備考
第246図 PL.86	1	円筒埴輪 フク土	①口縁部～胴 部片②(23.0)③- ④(18.7)	①C 細粗砂粒・チャー ト粗粗砂粒②明褐色③ B2	A2	①- ②S1	① ②11	① ②11	外面タテハケ、内面口縁部位にナメハケ。内 面胴部第1段は、ナデ。突帯は、平行に貼付され ず、波状になっている。突帯貼付後の上下のナ デも粗い。	
第246図 PL.86	2	円筒埴輪 フク土	①口縁部～胴 部片②(23.5)③- ④(15.8)	①C 細粗砂粒・石英粒 ②橙③C2	A1	①- ②S3	(円)	① ②10	内面口縁部位にナメハケが施される。内面胴 部第1段は、ナデ。突帯は、断面三角形状で、下 部のナデが粗い。	
第246図 PL.86	3	円筒埴輪 フク土	①口縁部～胴 部片②(29.2)③- ④(14.5)	①C 細粗砂粒・砂岩 粗粒・凝灰岩粗粒・ チャート粗粒②橙 ③B2	A3	①- ②M1	(円円)	① ②9	口縁部の下部と胴部第1段の一部が残る。内面口 縁部位にナメハケが施される。内面胴部第1段 は、ナデが施される。突帯は、断面M字状で、 下部のナデが粗い。	
第246図 PL.87	4	円筒埴輪 フク土	①口縁部下 部～胴部片②- ③-④(20.5)	①C 細粗砂粒・石英粒 ②橙③B2	-	(S) ②S1	(円円)	① ②8	口縁部の下部と胴部第1段が残る。内面口縁部 位にナメハケ。内面胴部第1段は、ナデ。②突 帯は、断面三角形状で、突帯下部のナデが粗い。 第1突帯は第2突帯と同じ形状と推定する。	
第246図 PL.87	5	円筒埴輪 フク土	①口縁部～胴 部片②③- ④(13.2)	①C 細粗砂粒・チャー ト粗粗砂粒②橙③B2	A2	①- ②S1	-	① ②10	口縁部の一部が残る。内面口縁部位にナメハ ケ。突帯は、断面三角形状である。	
第246図 PL.87	6	円筒埴輪 フク土	①口縁部片②- ③-④(9.5)	①B 粗砂粒・凝灰岩粗 粒・チャート粗粒② 橙③B2	-	①- ②S1	-	①10 ②10	口縁部の一部が残る。内面口縁部位にナメハ ケ(10本)が施される。突帯は、断面三角形状 である。	
第246図 PL.87	7	円筒埴輪 フク土	①口縁部片②- ③-④(4.6)	①C 細粗砂粒・チャー ト粗粗砂粒②橙③C3	A2	①- ②-	① ②10	① ②10	内面口縁部位にナメハケ。	
第246図 PL.87	8	円筒埴輪 フク土	①口縁部～胴 部片②③- ④(10.7)	①C 細粗砂粒・チャー ト粗粒②③B2	-	①- ②S1	-	① ②8	内面口縁部位にナメハケが施される。内面胴 部第1段は、ナデ。突帯は、断面三角形状である。	
第246図 PL.87	9	円筒埴輪 フク土	①口縁部～胴 部片②③- ④(4.6)	①C 細粗砂粒・チャー ト粗粗砂粒②橙③B2	-	①- ②M1	-	① ②10	口縁部の下部と胴部第1段の一部が残る。内面口 縁部位にナメハケが施される。内面胴部第1段 は、ナデが施される。突帯は、断面M字状である。	
第247図 PL.87	10	円筒埴輪 フク土	①胴部片②- ③-④(12.7)	①C 細粗砂粒・チャー ト粗粗砂粒②橙③B2	-	①- ②M1	(円円)	① ②10	内面口縁部位にナメハケが施される。内面胴 部第2段は、ナデ。突帯は、断面M字状で、下部 のナデが粗い。	
第247図 PL.87	11	円筒埴輪 フク土	①胴部片②- ③-④(15.5)	①C 細粗砂粒・チャー ト粗粗砂粒②橙③B2	-	①- ②M1	-	① ②10	内面口縁部位にナメハケ。内面胴部はナデ。 突帯は、断面M字状で、下部のナデが粗い。	
第247図 -	12	円筒埴輪 フク土	①胴部～基部 片②③- ④(12.0)	①C 細粗砂粒・チャー ト粗粗砂粒②橙③B2	-	①- ②M1	-	① ②10	内面口縁部位にナメハケ。内面はナデ。突帯は、 断面M字状で、下部のナデが粗い。	
第247図 PL.87	13	円筒埴輪 フク土	①口縁部～胴 部片②③- ④(8.7)	①C 細粗砂粒・チャー ト粗粗砂粒②橙③B2	-	①M1 ②-	-	① ②7	口縁部下～胴部第1段の上部。内面口縁部位に ハケがある。突帯は、M字状である。	
第247図 PL.87	14	形象埴輪人物 フク土	①人物頭部片 ②(9.8) ③(10.4)④1.2	①C 細粗砂粒・礫 チャート粗粗砂粒・ 礫②橙③B2	-	①- ②-	-	① ②-	人物埴輪の頭後頭部。顔面及び頂頭部。両側 面部は欠損。右耳飾りの表現は残る。後頭部頭 頂部付近に刻線痕あり。髪表現の刻線と推定。 内面ナデ。	
第247図 PL.87	15	形象埴輪人物 +52.6	①人物埴輪右 肩部②(8.2) ③(7.2)④1.1	①B 細粗砂粒・礫 チャート粗粗砂粒・ 礫②橙③C3	-	①- ②-	-	①10 ②-	人物埴輪の右肩部片。内面ナデ。	
第247図 PL.87	16	形象埴輪不明 フク土	①器種・部位 不明②(3.8) ③(3.0)④1.2	①B 粗砂粒・礫。 チャート粗粗砂粒。礫 ②橙③B2	-	①- ②-	-	①- ②-	形象埴輪部位不明。表面と想定される面に横方 向に刻線あり。裏面には粘土を宿状に重ねるよ うにしている。左端には刻線痕あり。	
第247図 PL.87	17	形象埴輪不明 フク土	①器種・部位 不明②(8.7) ③(7.4)④0.8	①B 粗砂粒・礫。チャー ト粗粗砂粒。礫②橙③ B2	-	①- ②-	-	①- ②-	形象埴輪部位不明。外表面荒れている。縦横両 方向に内湾している。内面の輪組み痕跡明確。	
第247図 PL.87	18	形象埴輪不明 フク土	①器種・部位 不明②(10.5) ③(11.8)④1.5	①C 細粗砂粒・礫 チャート粗粗砂粒・ 礫②浅黄橙③C2	-	①- ②-	-	① ②-	形象埴輪種類部位不明。屈曲が緩やかで、外面 にタテハケ、1/3ほど表面刻線している。内面ナ デ。	

岩鼻天神道跡 遺物観察表

R2-4区1号溝

採 掘 PL.No.	No.	出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 分類 項目	突帯 ①第1 ②第2	透孔 形状	径 ①外径 ②内径	特徴	備考
第247段 PL.87	1	円筒埴輪 フク土	①C 細粒砂粒・チャー ト②-③- ④<5,4	①C 細粒砂粒・チャー ト・粗粒細粒砂粒 ②橙③B2	A2	①- ②-	-	①11 ②11	外面タテハケ、内面ナメハケ。	
第247段 PL.87	2	円筒埴輪 フク土	①C 細粒砂粒・チャー ト②-③- ④<3,5	①C 細粒砂粒・チャー ト細粒砂粒②浅黄橙 ③B2	-	①- ②-	-	①8 ②-	突帯部片。	
第247段 PL.87	3	円筒埴輪 フク土	①C 細粒砂粒・チャー ト②-③<3,8	①C 細粒砂粒・チャー ト細粒砂粒②橙③B2	-	①- ②-	-	①7 ②不明	外面タテハケ、内面ナメハケ、内面ハケ数不明。	

R2-4区4号溝

採 掘 PL.No.	No.	出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 分類 項目	突帯 ①第1 ②第2	透孔 形状	径 ①外径 ②内径	特徴	備考
第247段 PL.87	1	円筒埴輪 +16.4	①C 細粒砂粒・チャー ト②-③14.4 ④21.5	①B 細粒砂粒・小礫 チャート細粒粒、小 礫②浅黄橙③B2	-	①台2 ②-	-	①5 ②-	底部～第1突帯の一部まで遺存。外面タテハケ、 内面ナデ。ハケメ幅やや大きい。底部調整なし。	
第247段 PL.87	2	円筒埴輪 フク土	①C 細粒砂粒・チャー ト細粒砂粒②明赤褐 ③15.8④19.8	①B 細粒砂粒・チャー ト細粒砂粒②明赤褐 ③B1	-	①- ②台1	-	①6 ②7	外面タテハケ、内面にナメハケ。ハケメ幅や や大きい。底部調整なし。	
第248段 PL.88	3	円筒埴輪 +13.0	①C 細粒砂粒・チャー ト細粒砂粒②橙③B2	①C 細粒砂粒・チャー ト細粒砂粒②橙③B2	A2	①- ②-	-	①6 ②6	外面タテハケ、内面口縁部にナメハケ。ハケ メ幅やや大きい。	
第248段 PL.87	4	円筒埴輪 フク土	①C 細粒砂粒・チャー ト細粒砂粒②明赤褐 ③6.4	①C 細粒砂粒・チャー ト細粒砂粒②明赤褐 ③B1	-	①- ②三2	(片円)	①8 ②8	外面タテハケ、内面にナメハケ、ナデ。突帯 下位粗いナデ。	
第248段 PL.88	5	円筒埴輪 フク土	①C 細粒砂粒・小礫 チャート細粒粒、砂 岩小礫②明赤褐③B2	①C 細粒砂粒・小礫 チャート細粒粒、砂 岩小礫②明赤褐③B2	-	①三2 ②-	-	①8 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。突帯下位粗いナデ。	
第248段 PL.88	6	円筒埴輪 フク土	①C 細粒砂粒・小礫 チャート細粒粒、石 英小礫②明赤褐③B1	①B 細粒砂粒・小礫 チャート細粒粒、石 英小礫②明赤褐③B1	-	①- ②台1	(円形)	①6 ②6	外面タテハケ、内面にナメハケ。ハケメ幅や や大きい。内面に指調理圧痕あり。	
第248段 PL.88	7	円筒埴輪 フク土	①B 細粒砂粒・小礫・ チャート細粒砂粒② 浅黄橙③B2	①B 細粒砂粒・小礫・ チャート細粒砂粒② 浅黄橙③B2	-	①台3 ②-	-	①7 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。突帯下位粗いナデ。 ハケメ幅やや大きい。	
第248段 PL.88	8	円筒埴輪 フク土	①C 細粒砂粒・チャー ト細粒砂粒②赤褐③ ④8.3	①C 細粒砂粒・チャー ト細粒砂粒②赤褐③ B2	-	①- ②台1	-	①7 ②7	外面タテハケ、内面にナメハケ。ハケメ幅や や大きい。	
第248段 PL.88	9	円筒埴輪 フク土	①C 細粒砂粒・小礫 チャート細粒粒、小 礫②橙③C3	①B 細粒砂粒・小礫 チャート細粒粒、小 礫②橙③C3	A2	①- ②-	-	①6 ②6	外面タテハケ、内面タテハケ、ハケメ幅やや 大きい。	
第248段 PL.88	10	円筒埴輪 フク土	①B 細粒砂粒・小礫 チャート細粒粒、石 英小礫②橙③B2	①B 細粒砂粒・小礫 チャート細粒粒、石 英小礫②橙③B2	A1	①- ②-	-	①9 ②7	外面タテハケ、内面ナメハケ。	
第248段 PL.88	11	円筒埴輪 フク土	①C 細粒砂粒・小礫 チャート細粒粒、小 礫②明赤褐③B2	①B 細粒砂粒・小礫 チャート細粒粒、小 礫②明赤褐③B2	A2	①- ②-	-	①9 ②9	外面タテハケ、内面ナメハケ。	
第248段 PL.88	12	円筒埴輪 フク土	①B 細粒砂粒・小礫 チャート細粒粒、小 礫②明赤褐③B2	①B 細粒砂粒・小礫 チャート細粒粒、小 礫②明赤褐③B2	-	①三3 ②-	-	①9 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。突帯上下位粗いナデ。	
第248段 PL.88	13	円筒埴輪 フク土	①C 細粒砂粒・チャー ト・石英細粒砂粒 ②黄橙③C3	①C 細粒砂粒・チャー ト・石英細粒砂粒 ②黄橙③C3	-	①三1 ②-	-	①6 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。突帯下位粗いナデ。	
第248段 PL.88	14	円筒埴輪 フク土	①B 細粒砂粒・小礫 チャート細粒粒、小 礫②浅黄橙③B3	①B 細粒砂粒・小礫 チャート細粒粒、小 礫②浅黄橙③B3	-	①B1 ②-	-	①9 ②9	外面タテハケ、内面ナデ。突帯下位粗いナデ。	
第248段 PL.88	15	円筒埴輪 フク土	①B 細粒砂粒・小礫 チャート細粒粒、片 岩小礫②橙③B2	①B 細粒砂粒・小礫 チャート細粒粒、片 岩小礫②橙③B2	-	①- ②-	-	①11 ②8	外面タテハケ、内面にナメハケ。内面のハケ メ幅やや大きい。	
第248段 PL.88	16	円筒埴輪 フク土	①C 細粒砂粒・チャー ト細粒砂粒②橙③C3	①C 細粒砂粒・チャー ト細粒砂粒②橙③C3	-	①-② 台1	-	①- ②不明	外面調整不明確。内面ナメハケ。	
第248段 PL.88	17	円筒埴輪 フク土	①C 細粒砂粒・チャー ト細粒砂粒・凝灰岩 小礫②橙③A1	①C 細粒砂粒・チャー ト細粒砂粒・凝灰岩 小礫②橙③A1	-	①B1 ②-	-	①10 ②9	外面タテハケ、内面タテハケ、ナデ。	

種 別 PL.No.	No.	出上位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 突帯 透孔		形状	特徴	備考
					分類 項目	①第1 ②第2			
第248回 PL.88	18	円筒埴輪 フク上	①胴部片(突 帯)②-③- ④5.7	①B 細粗砂粒・小礫 チャート細粗粒、小 礫②明赤褐色③B2	-	①-3 ②-	①8②-	外面タテハケ、内面ナデ。突帯下位粗いナデ。	
第248回 PL.88	19	円筒埴輪朝顔 フク上	①顔部片②- ③-④(5.4)	①C 細粗砂粒・チャー ト・石英細粗砂粒 ②橙③B2	-	①-3 ②-	①8②-	朝顔形埴輪顔部片。外面タテハケ、内面ナデ。	
第248回 PL.88	20	形象埴輪馬形 フク上	①馬形埴輪古 葉片②(2.8) ③(3.2)④(0.6)	①B 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒②橙③B2	-	①- ②-	①9②-	馬形埴輪古葉破片。顔を表現したと思われる円形浮文が3つ部付。	
第248回 PL.88	21	形象埴輪不明 フク上	①器種・部位 不明②(5.4) ③(6.5)④(1.0)	①B 細粗砂粒・礫 チャート細粗砂粒・ 礫②橙③B2	-	①- ②-	①9②9	形象埴輪器種・部位不明。縦方向内湾、縦方向外湾する。外面タテハケ。内面ヨコハケ。	

R1-47-1遺跡5号溝

種 別 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第248回 -	1	上師器 台付費	フク上 胴部～底部	底	5.0	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	台部と胴部の接合状態不明。胴部はハケム(1cm当たり5本)。	
第248回 -	2	上師器 台付費	+6.8 口縁部～胴部上 位片	口	13.0	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	口縁部はヨコナデ、胴部はハケム(1cm当たり4本)。	

R1-47-1遺跡4号溝

種 別 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第248回 PL.88	1	上師器 杯	+22.4 4/5	口 最	11.8 12.5	高 5.1 細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部はヨコナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り、体部は器面磨滅のため単位不明。内面は体部から口縁部に斜放射状ヘラミガキ。	
第248回 -	2	上師器 費	フク上 口縁部～胴部上 位片	口	15.6	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第248回 -	3	上師器 費	フク上 底部～胴部下位 片	底	7.4	細砂粒/良好/黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	

種 別 PL.No.	No.	出上位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 突帯 透孔		形状	特徴	備考
					分類 項目	①第1 ②第2			
第249回 PL.88	4	円筒埴輪 フク上	①口縁部片②- ③-④(7.7)	①C 細粗砂粒・褐鉄部 粗砂粒・チャート細 粗砂粒②明赤褐色③B2	A2	①- ②-	①8②8	外面タテハケ。内面ナメハケ。	やや摩耗。
第249回 PL.88	5	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④(5.7)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒②明赤褐色 ③B2	-	①- ②-	①8②-	外面タテハケ、突帯ナデ。内面タテハケ。	やや摩耗。
第249回 PL.88	6	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④(4.7)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄部 粗砂粒②橙③C3	-	①B2 ②-	①- ②-	外面突帯。断面形状はM字状である。内面ナデ。	摩耗激しい。
第249回 PL.88	7	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④(5.3)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄部 粗砂粒②明赤褐色③B2	-	①B1 ②-	①10 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。突帯断面形状はM字状である。	
第249回 PL.88	8	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④(4.7)	①C 細粗砂粒・チャート 細粗砂粒・褐鉄部粗 砂粒②明赤褐色③B3	-	①-3 ②-	①- ②-	白塗装か。外面タテハケ。内面ナデ。突帯断面形状は三角形状である。	やや摩耗。
第249回 PL.88	9	円筒埴輪 フク上	①底部片②- ③-④(7.4)	①C 細粗砂粒・褐鉄部 粗砂粒・チャート細 粗砂粒②明赤褐色③B3	-	①- ②-	①7-	外面タテハケ。内面ナデ。	やや摩耗。

R1-47-3遺跡2号溝

種 別 PL.No.	No.	出上位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 突帯 透孔		形状	特徴	備考
					分類 項目	①第1 ②第2			
第249回 PL.88	1	円筒埴輪 フク上	①口縁部片②- ③-④(5.1)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄部 粗砂粒②橙③B2	A1	①- ②-	①- ②-	外面タテハケか。内面ナデ。ナメハケ。	
第249回 PL.88	2	円筒埴輪 +32.9	①基底部片 ②-③(18.1) ④(22.8)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄部 粗砂粒②橙③B2	-	①台1 ②-	円か	①10-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ。突帯断面形状は台形状である。

岩鼻天神遺跡 遺物観察表

採掘 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2490 PL.88	3	石製品 砥石	床直 1/2	長 (11.0) 厚 4.0 幅 5.0 重 148.1	砥沢石/切り砥石/		内面使用、表面側面は傾位に研ぎ減り、段が生じている。 右側面には方ならしめが集中する。熱被破損。

R1-47-3遺跡5号溝

採掘 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第2490 PL.89	1	土師器 高杯	+59.6～-60.6 脚部	脚 9.0	細砂粒/良好にふ い陶	脚部は柱状に杯部底部まで作り、杯部は脚部に巻き付け るように接合。脚部は柱状部がへら削り、裾部はココナデ。 内面はへらナデ。			
採掘 PL.No.	No.	出土位置	①胎土②色調③焼成 ④口径⑤口径 ⑥底径⑦高(cm)	①口径 ②変形 ③透孔 ④形状 ⑤内外 ⑥内径	特徴	備考			
第2490 PL.80	2	円筒輪軸朝顔 +45.1	①頸部～胴部 片②-③- ④<20.0>	①C 細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒・チャート細粗 砂粒②明赤褐色③B2	①②③ (胴部) ④⑤⑥ (頸部)	円	①⑤ ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ、ナ ナメハケ、輪軸突。突帯断面形状は三角形状で ある。	
第2490 PL.89	3	円筒輪軸朝顔 フク土	①口縁部～胴 部片②-③- ④<16.2>	①C 細粗砂粒・チャ ート細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②明赤褐色③B2	①②③ (胴部) ④⑤⑥ (頸部)	円	①⑤ ②⑤	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ、ナ ナメハケ。突帯は雑な成形で断面形状は不定気 味である。	
第2490 PL.89	4	円筒輪軸朝顔 フク土	①口縁部②- ③-④<12.5>	①C 細粗砂粒・チャ ート細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②明赤褐色③B2	①② (胴部) ③④⑤ (頸部)	-	①⑤ ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ。突 帯断面形状は三角形に近い台形状・M字状で ある。	
第2490 PL.89	5	円筒輪軸 +11.6	①口縁部～胴 部片②-③- ④<13.9>	①C 細粗砂粒・チャ ート細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②明赤褐色③B2	B3	①- ②③	-	①⑥ ②⑥	外面割線。口縁部横ナデ。外面タテハケのち突 帯貼り付け。内面ナメハケ。突帯断面形状は 三角形状である。
第2500 PL.89	6	円筒輪軸 フク土	①口縁部～胴 部片②-③- ④<18.0>	①C 細粗砂粒・チャ ート細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②明赤褐色③B2	B1	①- ②③	-	①⑤ ②⑩	口縁部横ナデ。外面タテハケのち突帯貼り付け。 内面2種類の工具で斜めにハケメを入れる。突帯 断面形状は三角形状である。
第2500 PL.89	7	円筒輪軸 フク土	①口縁部片②- ③-④<7.1>	①C 細粗砂粒・チャ ート細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②明赤褐色③B2	B1	①- ②-	-	①⑦ ②⑦	口縁部横ナデ。外面タテハケ。内面ナメハケ。
第2500 PL.89	8	円筒輪軸 フク土	①口縁部片②- ③-④<6.5>	①C 細粗砂粒・チャ ート細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②橙③B2	B2	①- ②-	-	①⑥ ②⑥	口縁部横ナデ。外面タテハケ。内面ナメハケ。
第2500 PL.89	9	円筒輪軸 フク土	①口縁部片②- ③-④<5.3>	①C 細粗砂粒・チャ ート細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒・凝灰岩粗砂粒② 明赤褐色③B2	B2	①- ②-	-	①⑦ ②⑦	口縁部横ナデ。外面タテハケ。内面ナメハケ。
第2500 PL.89	10	円筒輪軸 フク土	①口縁部片②- ③-④<4.2>	①C 細粗砂粒・チャ ート細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②明赤褐色③B2	B2	①- ②-	-	①⑧ ②⑧	口縁部横ナデ。外面タテハケ。内面ナメハケ。
第2500 PL.89	11	円筒輪軸 フク土	①口縁部片②- ③-④<3.6>	①C 細粗砂粒・チャ ート細粗砂粒②橙③B2	A1	①- ②-	-	①⑦ ②⑦	口縁部横ナデ。外面タテハケ。内面ナメハケ。
第2500 PL.89	12	円筒輪軸 フク土	①口縁部片②- ③-④<4.3>	①C 細粗砂粒・チャ ート小礫、細粗砂粒・褐 鉄鉱粗砂粒②明赤褐 ③B2	B1	①- ②-	-	①⑥ ②⑥	口縁部横ナデ。外面タテハケのちナデか。内面 ナメハケ。
第2500 PL.89	13	円筒輪軸 フク土	①口縁部片②- ③-④<3.3>	①B 細粗砂粒・チャ ート細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒・凝灰岩粗砂粒 ②明赤褐色③B2	A2	①- ②-	-	①⑤ ②⑤	外面タテハケ。内面ココナデ。
第2500 PL.89	14	円筒輪軸 +58.6～-60.4	①胴部片②- ③-④<10.2>	①C 細粗砂粒・チャ ート小礫、細粗砂粒・褐 鉄鉱粗砂粒②橙③B2	-	①台2 ②-	-	①⑤ ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ。突 帯断面形状は台形・M字状である。透かし孔円形。
第2500 PL.89	15	円筒輪軸 フク土	①口縁下部～ 胴部片②-③- ④<13.2>	①C 細粗砂粒・チャ ート細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②明赤褐色③B2	-	①- ②③	-	①⑤ ②⑨	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面の異なる ハケ工具2種類使用。内面ナデ・ナメハケ。突 帯断面形状は三角形状である。
第2500 PL.89	16	円筒輪軸 +58.2	①胴部片②- ③-④<8.2>	①C 細粗砂粒・チャ ート細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②明赤褐色③B2	-	①台1 ②-	-	①⑧ ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ。突 帯断面形状は三角形に近い台形状である。
第2500 PL.89	17	円筒輪軸 フク土	①胴部片②- ③-④<11.1>	①C 細粗砂粒・チャ ート細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②明赤褐色③B2	-	①台1 ②-	円か	①⑤ ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ。突 帯断面形状は三角形に近い台形状である。

岩鼻天神遺跡 遺物観察表

採掘 Pl.No.	No.	出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 突帯 透孔		形状	特徴	備考	
					分類 項目	①第1 ②第2				①外側 ②内側
第2508 PL.89	18	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④<11.0>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒③明赤褐色③B2	-	①- ②台1	-	①9 ②9	外面タテハケのち突帯貼り付け。間隔の異なる 工具使用。内面ナデ・ナメハケ。突帯断面形 状は三角形に近い台形状である。	胎分3
第2508 PL.89	19	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④<4.1>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒③明赤褐色③B2	-	①B1 ②-	円	①7 ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ。突 帯断面形状は三角形に近いM字状である。透か し孔円形。	
第2508 PL.89	20	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④<3.6>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒③明赤褐色③B2	-	①B1 ②-	半円	①7 ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ。突 帯断面形状は三角形に近いM字状である。透か し孔半円形。	
第2508 PL.89	21	円筒埴輪 +45.1	①胴部片②- ③-④<5.4>	①C 細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒・小礫②橙③B2	-	①3 ②-	-	①7 ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ。突 帯断面形状は三角形である。	
第2508 PL.89	22	円筒埴輪 フク上	①口縁下部〜 胴部片②-③- ④<8.3>	①C 細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒・チャート粗粗 砂粒③明赤褐色③B2	-	①- ②3	-	①6 ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ、ナ メハケ。突帯断面形状は三角形である。	
第2508 PL.89	23	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④<5.5>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒③橙③C3	-	①B1 ②-	円か	①- ②-	外面タテハケか。内面ナデ。突帯断面形状は上 部の長いM字状である。透かし孔円形か。	摩耗激しい。
第2508 PL.89	24	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④<5.1>	①C 細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒・チャート粗粗 砂粒③明赤褐色③B2	-	①台3 ②-	円か	①5 ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ。突 帯断面形状は台形である。透かし孔円形か。	やや摩耗。
第2518 PL.90	25	円筒埴輪 フク上	①口縁下部〜 胴部片②-③- ④<4.9>	①C 細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒・チャート小 礫。細粗砂粒③明赤 褐色③B2	-	①- ②台2	-	①7 ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ、ナ メハケ。突帯断面形状は台形状である。	
第2518 PL.90	26	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④<6.4>	①B 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒・片岩小礫③明赤 褐色③B2	-	①台1 ②-	円か	①4 ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ。突 帯断面形状は台形状である。透かし孔円形か。	
第2518 PL.90	27	円筒埴輪 +60.4	①胴部片②- ③-④<5.9>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒③橙③B2	-	①3 ②-	-	①5 ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ。突 帯断面形状は三角形である。	
第2518 PL.90	28	円筒埴輪 フク上	①底部片②- ③13.2④<8.5>	①C 細粗砂粒・チャート 小礫。細粗砂粒・褐 鉄鉱粗砂粒③明赤褐 色③B2	-	①- ②-	-	①5 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。	
第2518 PL.90	29	円筒埴輪 フク上	①底部片②- ③-④<13.6>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒・凝灰岩粗 砂粒③浅黄褐色③B2	-	①- ②-	-	①4 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。	胎分2
第2518 PL.90	30	円筒埴輪 フク上	①底部片②- ③-④<4.9>	①C 細粗砂粒・チャート 小礫。細粗砂粒・凝 灰岩粗砂粒③橙③B3	-	①- ②-	-	①4 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。	やや摩耗。
第2518 PL.90	31	円筒埴輪 フク上	①底部片②- ③-④<6.1>	①C 細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒・チャート粗粗 砂粒③浅黄褐色③C3	-	①- ②-	-	①12 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。	
第2518 PL.90	32	円筒埴輪 +58.9	①底部片②- ③-④<7.8>	①B 細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒・チャート粗粗 砂粒③明赤褐色③B2	-	①- ②-	-	①8 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。	
第2518 PL.90	33	円筒埴輪 フク上	①底部片②- ③-④<9.5>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒・石英③明赤褐色 ③B2	-	①- ②-	-	①6 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。	
第2518 PL.90	34	円筒埴輪 フク上	①底部片②- ③-④<10.7>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒③明赤褐色③B2	-	①- ②-	-	①7 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。	

R1-47-3遺跡14号溝

採掘 Pl.No.	No.	出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 突帯 透孔		形状	特徴	備考	
					分類 項目	①第1 ②第2				①外側 ②内側
第2518 PL.90	1	円筒埴輪 フク上	①口縁部〜胴 部片②-③- ④<20.7>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒③橙③B2	A1	①B1 ②B1	円	①10 ②10	外面タテハケ。内面ナメハケ。突帯断面形状 はM字状である。	
第2518 PL.90	2	円筒埴輪 フク上	①口縁部〜胴 部片②-③- ④<17.2>	①C 細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒・チャート粗粗 砂粒③橙③B3	A1	①- ②B1	円	①8 ②8	口縁部横ナデ。外面タテハケ。内面ナメハケ。 突帯断面形状はM字状である。	やや摩耗。

岩鼻天神遺跡 遺物観察表

標 本 PL.No.	No.	出土位置	①部位①口徑 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③構成	口縁 突帯 分類 ①第1 項目 ②第2	透孔 形状	N/A ①外側 ②内側	特徴	備考	
第2518号 PL.90	3	円筒埴輪 フク土	①口縁部～胴 部片②-③- ④<20.2>	①C 細粗砂粒・チャー ト小礫、細粗砂粒・褐 鉄鉱粗砂粒②明赤褐色 ③B2	A3	①- ②B1	-	①6 ②6	口縁部・突帯横ナデ、外面タテハケ。内面ナ メハケ。	
第2528号 PL.90	4	円筒埴輪 フク土	①口縁部～胴 部片②-③- ④<10.2>	①B 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒②明赤褐色③ B2	A4	①- ②B2	-	①10 ②10	口縁部横ナデ、外面タテハケ、内面ナメハケ。	やや摩耗。
第2528号 PL.90	5	円筒埴輪 フク土	①口縁部片②- ③-④<13.0>	①C 細粗砂粒・チャー ト小礫、細粗砂粒・褐 鉄鉱粗砂粒②明赤褐色 ③B2	A2	①- ②B1	-	①10 ②10	口縁部横ナデ、外面タテハケ、内面ナメハケ。 突帯断面形状はM字状である。	
第2528号 PL.90	6	円筒埴輪 フク土	①口縁部～胴 部片②-③- ④<13.3>	①B 細粗砂粒・褐鉄 鉱粗砂粒・チャート 小礫、細粗砂粒 ②明赤褐色③B2	A3	①- ②B3	-	①- ②-	口縁部横ナデ、外面タテハケ。内面ナメハケ。 突帯断面形状は三角形状である。	摩耗激しい。
第2528号 PL.90	7	円筒埴輪 フク土	①口縁部～胴 部片②-③- ④<14.5>	①C 細粗砂粒・褐鉄 鉱粗砂粒・チャー ト小礫、細粗砂粒② 明赤褐色③B2	A2	①- ②B1	-	①6 ②6	口縁部横ナデ、外面タテハケ。内面ナメハケ。 突帯断面形状はM字状である。	摩耗激しい。
第2528号 PL.90	8	円筒埴輪 フク土	①口縁部～胴 部片②-③- ④<11.3>	①B 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄 鉱粗砂粒・チャート細 粗砂粒②明赤褐色③ B2	A1	①- ②B2	-	①6 ②8	口縁部横ナデ、外面タテハケ。内面ナメハケ。 突帯断面形状は三角形状である。	摩耗激しい。
第2528号 PL.90	9	円筒埴輪 フク土	①口縁部片②- ③-④<5.4>	①B 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄 鉱粗砂粒②明赤褐色③ B2	A1	①- ②-	-	①5 ②6	口縁部横ナデ、外面タテハケ、内面ナメハケ。	やや摩耗。
第2528号 PL.90	10	円筒埴輪 フク土	①口縁部片②- ③-④<4.0>	①B 細粗砂粒・褐鉄 鉱粗砂粒・チャー ト細粗砂粒②明赤褐色③ B2	A1	①- ②-	-	①12 ②10	口縁部横ナデ、外面タテハケ、内面ナメハケ。	やや摩耗。
第2528号 PL.90	11	円筒埴輪 フク土	①口縁部片②- ③-④<8.1>	①B 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄 鉱粗砂粒②明赤褐色③ B2	A1	①- ②-	-	①10 ②10	口縁部横ナデ、外面タテハケ、内面ナメハケ。	やや摩耗。
第2528号 PL.91	12	円筒埴輪 フク土	①口縁部片②- ③-④<6.7>	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒②橙③B2	B2	①- ②-	-	①9 ②8	口縁部横ナデ、外面タテハケ、内面ナメハケ。	
第2528号 PL.91	13	円筒埴輪 フク土	①口縁部片②- ③-④<6.3>	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄 鉱粗砂粒②橙③B2	B1	①- ②-	-	①10 ②10	口縁部横ナデ、外面タテハケ、内面ナメハケ。	
第2528号 PL.91	14	円筒埴輪 フク土	①口縁部片②- ③-④	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄 鉱粗砂粒②明赤褐色③ B2	A3	①- ②-	-	①12 ②10	口縁部横ナデ、外面タテハケ。内面ナメハケ。	
第2528号 PL.91	15	円筒埴輪 フク土	①胴部片②- ③-④<9.1>	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄 鉱粗砂粒②橙③B2	-	①B2 ②-	-	①9 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。突帯断面形状は三角 形状である。	
第2528号 PL.91	16	円筒埴輪 フク土	①口縁下部～ 胴部片②-③- ④<21.5>	①B 細粗砂粒・褐鉄 鉱粗砂粒・チャー ト小礫、細粗砂粒② 明赤褐色③B2	-	①B3 ②B3	-	①6 ②-	外面タテハケ横ナデ。内面ナメハケ。突帯断 面形状は三角形状である。	摩耗激しい。
第2528号 PL.91	17	円筒埴輪 フク土	①口縁下部～ 胴部片②-③- ④<10.6>	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄 鉱粗砂粒②明赤褐色③ B2	-	①- ②B3	円か	①10 ②10	外面タテハケ。内面ナメハケ。突帯断面形状 は三角形状である。	
第2538号 PL.91	18	円筒埴輪 フク土	①口縁下部～ 胴部片②-③- ④<18.0>	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄 鉱粗砂粒②明赤褐色③ B2	-	①- ②B2	-	①9 ②10	外面タテハケ。内面ナメハケ。突帯断面形状 は三角形状である。	
第2538号 PL.91	19	円筒埴輪 フク土	①口縁下部～ 胴部片②-③- ④<10.9>	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄 鉱粗砂粒②明赤褐色③ B2	-	①- ②B2	-	①9 ②10	外面タテハケ。内面ナメハケとナデ。突帯断 面形状は三角形状である。	
第2538号 PL.91	20	円筒埴輪 フク土	①胴部片②- ③-④<9.8>	①B 細粗砂粒・チャー ト小礫、細粗砂粒・褐 鉄鉱粗砂粒②明赤褐色 ③B2	-	①B2 ②-	円	①8 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。突帯断面形状はM字 状である。	
第2538号 PL.91	21	円筒埴輪 フク土	①口縁下部～ 胴部片②-③- ④<5.6>	①B 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒 ②明赤褐色③B2	-	①- ②B1	円	①16 ②17	外面タテハケ。内面ナメハケ。突帯断面形状 はM字状である。	
第2538号 PL.91	22	円筒埴輪 フク土	①胴部片②- ③-④<3.6>	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒②橙③B2	-	①- ②-	円か	①- ②-	外面タテハケ、突帯ナデ。内面ナメハケ。内 外面で異なるハケメ工具使用か。	

採 掘 PL. No.	No.	出土位置	①部位①口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	①口縁 突帯 透孔 N/A 分類 ①第1 形状 項目 ②第2	①外径④ ②内径	特徴	備考	
									①口縁部片② ③-④(3.6)
第2538 PL.91	23	円筒埴輪 フク土	①口縁部片② ③-④(3.6)	①B 細粗砂粒・チャート 粗砂粒② ③明赤褐色③B	①- ②-③2	①- ②-③8	突体上部ヨコハケ。内面ナメハケ、ナデ。突帯断面は三角形形状。		
第2538 PL.91	24	円筒埴輪 フク土	①胴部片② ③-④(7.3)	①B 細粗砂粒・チャート 小礫、粗粗砂粒 ②明赤褐色③B	-	①32 ②-	赤色有。外面タテハケ、内面ナデ。突帯断面は三角形形状である。		
第2538 PL.91	25	円筒埴輪 フク土	①胴部片② ③-④(6.2)	①C 細粗砂粒・褐鉄 粗砂粒②・チャート粗 粗砂粒③③B	-	①- ②-	外面タテハケ、内面ナデ。	やや摩耗。	
第2538 PL.91	26	円筒埴輪 フク土	①底部片② ③-④(13.6) ④<22.0	①C 細粗砂粒・チャート 粗粗砂粒・褐鉄粗粗 砂粒② ③明赤褐色③B	-	①32 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。突帯断面は三角形形状。		
第2538 PL.91	27	円筒埴輪 フク土	①胴部～底部 ②-③ ④<14.5	①C 細粗砂粒・褐鉄粗 粗砂粒②③B	-	①- ②-	外面ヨコハケ、内面ナデ。		
第2538 PL.91	28	円筒埴輪 フク土	①底部片② ③-④(7.7)	①C 細粗砂粒・チャート 粗粗砂粒・褐鉄粗粗 砂粒②明赤褐色③B	-	①- ②-	外面タテハケ、内面ナデ。		
第2538 PL.91	29	円筒埴輪 フク土	①底部片② ③-④(6.4)	①C 細粗砂粒・褐鉄粗 粗砂粒②明赤褐色③B	-	①- ②-	外面タテハケ、内面ナデ。	やや摩耗。 断分4	
第2548 PL.91	30	形象埴輪人物 フク土	①人物顔片 ②(11.9) ③(9.3)④(9.9)	①B 細粗砂粒・礫。 チャート・褐鉄粗。粗 粗砂粒②浅黄褐色③B	-	①- ②-	人物埴輪顔破片。顔面から頸部残る。後頭部は無く、顔面の鼻・顎・耳部は欠損している。目は、左右に段差があり、やや右目が高い位置にある。目の造作は、へうで細く切り取っている。口もへうで細めに口を開けた状況の表現をしてい。外面は丁寧なナデ、内面ナデ。		
第2548 PL.91	31	形象埴輪人物 フク土	①頭飾り ②<2.0 ③<1.9④1.3	①B 細粗砂粒・礫。 チャート・褐鉄粗。粗 粗砂粒②③B	-	①- ②-	人物の首飾の一部の可能性あり。丸玉を表現しているか。		
第2548 PL.91	32	形象埴輪人物 フク土	①人物上着 ひも一部 ②<2.9 ③<1.1④1.2	①B 細粗砂粒・礫。 チャート・褐鉄粗。粗 粗砂粒②③B	-	①- ②-	人物の首飾の一部の可能性あり。勾玉を表現しているか。		
第2548 PL.91	33	形象埴輪人物 フク土	①人物顔部片 ②<7.0③<9.8 ④<3.4	①B 細粗砂粒・礫。 チャート・褐鉄粗。粗 粗砂粒②浅黄褐色③B	-	①- ②-	人物埴輪の眼部。帯部がよく残る。右眼部に、下に垂下する結状の表現あり。外面ハケ後ナデ、内面ナデ。		
第2538 PL.91	34	形象埴輪馬形 フク土	①馬の耳の一部 ②<2.7 ③<3.7④<2.2	①B 細粗砂粒・礫。 チャート・褐鉄粗。粗 粗砂粒②浅黄褐色③B	-	①- ②-	両側面が破損のため、明瞭ではないが、馬の耳の基部と推定する。内部に輪積痕一部残る。		
第2548 PL.91	35	形象埴輪馬形 フク土	①馬たてがみ 片②<5.1 ③<8.1④<2.6	①B 細粗砂粒・礫。 チャート・褐鉄粗。粗 粗砂粒②浅黄褐色③B	-	①- ②-	①2 ②-	馬のたてがみの一部。下部に割離痕跡。	
第2548 PL.91	36	形象埴輪馬形 フク土	①馬脚部片 ②<10.3 ③<8.6④1.8	①B 細粗砂粒・礫。 チャート・褐鉄粗。粗 粗砂粒②浅黄褐色③B	-	①- ②-	①8 ②-	馬脚部。脚下部はなく、ひづめの表現は観察できない。外面タテハケ、内面ナデ。	
第2548 PL.91	37	形象埴輪馬形 フク土	①馬脚部片 ②<11.8 ③<9.4④<1.5	①B 細粗砂粒・礫。 チャート・褐鉄粗。粗 粗砂粒②浅黄褐色③B	-	①- ②-	①6 ②-	馬脚部。ひづめの表現は観察できない。外面タテハケ、内面ナデ。ハケム幅や広い。	
第2548 PL.91	38	形象埴輪馬形 フク土	①馬脚部片 ②<12.2 ③<6.6④<1.3	①B 細粗砂粒・礫。 チャート・褐鉄粗。粗 粗砂粒②浅黄褐色③B	-	①- ②-	①8 ②-	馬脚部。切開内接合の切開面である。外面タテハケ、内面ナデ。	
第2548 PL.91	39	形象埴輪馬形 フク土	①馬脚部片 ②<3.3 ③<7.5④<1.3	①B 細粗砂粒・礫。 チャート・褐鉄粗。粗 粗砂粒②浅黄褐色③B	-	①- ②-	①5 ②-	径からすると馬の脚の一部と推定。外面タテハケ、内面ナデ。ハケム幅や広い。	
第2548 PL.91	40	形象埴輪人物 フク土	①馬脚部片 ②<4.7 ③<7.0④<1.5	①B 細粗砂粒・礫。 チャート・褐鉄粗。粗 粗砂粒②浅黄褐色③B	-	①- ②-	①- ②-	馬脚部。ひづめの表現は観察できない。内面ナデ。	
第2548 PL.91	41	形象埴輪馬形 フク土	①帯金具片 ②<2.9 ③<2.3④<0.6	①B 細粗砂粒・礫。 チャート・褐鉄粗。粗 粗砂粒②③B	-	①- ②-	①- ②-	長径2.7cmの長楕円形の板状部に、長径1cmほどの円形浮文が三角形に3個部付している。革帯の帯金具を表現した可能性がある。	
第2548 PL.91	42	形象埴輪家形 フク土	①家棟木片 ②<2.7③<3.5 ④<0.9	①B 細粗砂粒・礫。 チャート・褐鉄粗。粗 粗砂粒②浅黄褐色③B	-	①- ②-	①5 ②-	家の棟木と推定。半分ほど遺存し、下部部に棟木に付着していた割離痕跡が確認できる。	

岩鼻天神遺跡 遺物観察表

採 掘 PL.No.	No.	出土位置	①部位①口徑 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③構成	口縁 突帯 透孔		①外径④ ②内径⑤	特徴	備考
					分類 項目	①第1 ②第2			
第254区 PL.91	43	形象埴輪家形 フク上	①家型木②1.7 ③④4.9⑤0	①B 細粗砂粒・礫、 チャート・鉄鉄鉱 細 粗砂粒②橙③B2	-	①- ②-	-	①- ②-	丸棒状の製品。片端が欠損している。棟木からの 割断痕跡が認められない。別の部位の可能性 あり。
第254区 PL.91	44	形象埴輪不明 フク上	①器種・部位 不明②<4.5>1 ③④4.8⑤①0	①B 細粗砂粒・礫、 チャート・鉄鉄鉱 細 粗砂粒②橙③B2	-	①- ②-	-	①10 ②-	種別・部位不明。やや絞り込んだ本体に、逆V字 形の幅1.0~1.5cmの板状品が付着する。
第254区 PL.91	45	形象埴輪不明 フク上	①器種・部位 不明②<4.7> ③④5.2⑤①.4	①B 細粗砂粒・礫、 チャート・鉄鉄鉱 細 粗砂粒②橙③B2	-	①- ②-	-	①- ②-	人物形部か、家埴輪の一部。屈曲が大きく、角 状になると家埴輪の柱部の一部の可能性あり。 外面タテハケ後ナデ。内面ナデ。
第254区 PL.91	46	形象埴輪 フク上	①口縁部片 ②③.6 ③④4.5⑤③0.9	①B 細粗砂粒・礫、 チャート・鉄鉄鉱 細 粗砂粒②橙③B2	-	①- ②-	-	①5 ②6	口縁部片。口唇部には溝状の線刻あり。口辺部 内面、口唇部から1.3cmの箇所に直径1.7cmの円 形浮文がつく。口縁部内外面ナデ。口縁部下は 外面タテハケ。内面ナメハケ。器種不明
第254区 PL.91	47	形象埴輪不明 フク上	①器種・部位 不明②<3.6> ③④3.6⑤③0.6	①B 細粗砂粒・礫、 チャート・鉄鉄鉱 細 粗砂粒②橙③B2	-	①- ②-	-	①- ②-	厚みのある形態で、一部側面に残存部がある。 種別・部位不明。

R2-4区8号溝

採 掘 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/構成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 径	高 さ	台 高	台 孔			
第254区 PL.92	1	土師器 高杯	+10.8 1/2	口 径	20.8	高 さ	15.8	1.8	細粗砂/酸化塩/植	杯部内面、体部中位から口縁までへう磨き。体部を1周す る幅1から2mm程度の磨きを数回繰り返したのち、直径2cmほ どの弧状の磨きを1周回らせる。体部中位から口縁部まで、 4回繰り返す。胴部上位・下位に2段に方形の透孔を穿つ。 摩耗のため磨きの単位が観察できない。

R1-47-1遺跡2号溝

採 掘 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/構成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 径	高 さ	台 高	台 孔			
第254区 PL.92	1	須恵器 甌	+19.7~+22.7 1/2	口 径	13.6	台 高	5.8	4.7	細粗砂/還元塩/灰 質	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台 は貼付。

採 掘 PL.No.	No.	出土位置	①部位①口徑 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③構成	口縁 突帯 透孔		①外径④ ②内径⑤	特徴	備考
					分類 項目	①第1 ②第2			
第254区 PL.92	2	円筒埴輪 床直~+5.7	①口縁部~ 胴部片②③- ④<12.1>	①C 細粗砂粒・ チャート・細粗砂粒・ 片岩粗砂粒 ②に赤い黄橙③B3	①- ②-③	平円	①5 ②5	口縁部横ナデ。外面タテハケ。内面ナメハケ。 突帯断面形状は三角形である。	やや摩耗。

R2-4区2号溝

採 掘 PL.No.	No.	出土位置	①部位①口徑 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③構成	口縁 突帯 透孔		①外径④ ②内径⑤	特徴	備考
					分類 項目	①第1 ②第2			
第255区 PL.92	1	円筒埴輪 フク上	①口縁部~胴 部(1/3)②19.8 ③~④11.7	①C 細粗砂粒・礫、 チャート・細粗粒、小 礫・凝灰岩小礫粒 ②橙③B2	①- ②B1	-	①7 ②7	外面タテハケ。内面口縁部上位にナメハケ。 外面口縁部下位からは、ナデ。突帯は、断面M 字形と三角形が共用される形態である。突帯下 位粗いナデ。ハケメ幅やや大きい。後円部に右 方向にやや傾斜する直線状の線刻(現状で幅0.1 cm、長さ10.5cm)あり。	
第255区 PL.92	2	円筒埴輪 フク上	①口縁部②- ③~④8.0	①C 細粗砂粒・小礫 チャート細粒 ②橙③B1	①- ②-	-	①7 ②7	外面タテハケ。内面口縁部にナメハケ。突帯は、 ハケメ幅やや大きい。	
第255区 PL.92	3	円筒埴輪 フク上	①口縁部~胴 部②③-④4.7	①C 細粗砂粒・ チャート・細粗砂粒 ②橙③B2	①B1	-	①11 ②9	外面タテハケ。内面口縁部にナメハケ。	
第255区 PL.92	4	円筒埴輪 フク上	①口縁部②- ③~④5.3	①C 細粗砂粒・小礫 チャート・細粗粒②橙 ③B2	①- ②-	-	①11 ②9	外面タテハケ。内面口縁部にナメハケ。	
第255区 PL.92	5	円筒埴輪 フク上	①口縁部片②- ③~④③.5	①C 細粗砂粒・チャート 細粗砂粒 ②橙③B2	①B1	-	①11 ②不明	外面タテハケ。内面口縁部にナメハケが施さ れる。	
第255区 PL.92	6	円筒埴輪 フク上	①口縁部下部 ~第2突帯②③- ④~⑤11.7	①C 細粗砂粒・チャート 細粗砂粒②に赤い 黄橙③C2	-	①- ②B3	①7 ②4	外面タテハケ。内面口縁部にナメハケ。突帯は、 断面M字形である。ハケメ幅やや大きい。内面 のハケは外面のハケより幅がさらに大きい。	
第255区 PL.92	7	円筒埴輪 フク上	①口縁部下部 ~胴部②③- ④10.6	①C 細粗砂粒・ チャート・細粗砂粒② 橙③B2	-	①- ②B1	①7 ②不明	外面タテハケ。内面口縁部にナメハケ。突帯は、 断面M字形である。ハケメ幅やや大きい。突帯 下位粗いナデ。	

種 類 Pl.No.	No.	出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 突帯 透孔		形状	特徴	備考	
					分類 項目	①第1 ②第2				
第2558 PL.92	8	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④5.6	①C 細粒砂粒・ チャート細粒砂粒② 明赤帯③B1	-	①S2 ②-	-	①8 ②-	外面タテハケ。突帯下位の粗いナデ。	
第2558 PL.92	9	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④4.0	①C 細粒砂粒・小礫 チャート細粒② ③B2	-	①B1 ②-	-	①8 ②-	外面タテハケ。突帯下位の粗いナデ。	
第2558 PL.92	10	円筒埴輪 フク上	①口縁部下位 ②-③④3.2	①C 細粒砂粒・チャート 細粒・小礫・炭灰粒小 礫粒②③B2	-	①- ②-	-	①8 ②8	外面タテハケ。直線状(現状の長さ3.7cm,幅1mm) の彫刻。内面ハケ。	

R1-47-1遺跡3号溝

種 類 Pl.No.	No.	出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 突帯 透孔		形状	特徴	備考	
					分類 項目	①第1 ②第2				
第2558 PL.92	1	円筒埴輪 フク上	①口縁部片②- ③-④4.5	①C 細粒砂粒・ チャート細粒砂粒② 浅黄帯③B3	A2	①- ②-	-	①5 ②6	外面タテハケ。内面ナメハケ。	やや摩耗。
第2558 PL.92	2	円筒埴輪 フク上	①口縁部片②- ③-④5.0	①C 細粒砂粒・ チャート礫。細粒砂 粒。焼鉄灰粒砂粒② 明赤帯③B2	B2	①- ②-	-	①- ②9	口縁部横ナデ。外面タテハケ。内面ナメハケ。	やや摩耗。
第2558 PL.92	3	円筒埴輪断面 フク上	①胴部・肩部 片②-③- ④③,4	①C 細粒砂粒・ チャート細粒砂粒② 浅黄帯③C3	-	①- ②B1 (96)	-	①- ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ。突 帯断面形状はM字状である。	摩耗激しい。
第2558 PL.92	4	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④3.8	①C 細粒砂粒・ チャート小礫。細粒 砂粒②明赤帯③B2	-	①32 ②-	-	①- ②-	外面タテハケ。突帯部横ナデ粗い。内面ナデ。 突帯断面形状は三角形状である。	

R1-47-3遺跡9号溝

種 類 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高			
第2558 -	1	土師器 台付甕	フク上 胴部上・胴部上 位片	口	11.2	細粒砂粒/良好/ふ い黄帯	口縁部はヨコナデ。胴部から台部上位にハケメ(1cm当た り5本)、胴部上位に横方向ハケメ。内面は頸部にヘラナデ、 胴部はナデ。	
第2558 -	2	土師器 台付甕	フク上 台部片	台	8.8	細粒砂粒/良好/橙	肩部は内側に折り返し。台部上位にハケメ。内面はヘラ ナデ。	

R1-47-3遺跡10号溝

種 類 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高			
第2558 -	1	土師器 台付甕	フク上 台部片	台	7.4	細粒砂粒/良好/浅黄	胴部は台部に貼付するように接合。台部肩部は内側に折 り返し。台部上位にハケメ(1cm当たり5本)、中位から下 位はナデ。内面はヘラナデ。	

R1-47-3遺跡11号溝

種 類 Pl.No.	No.	出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 突帯 透孔		形状	特徴	備考	
					分類 項目	①第1 ②第2				
第2558 PL.92	1	円筒埴輪 +31.0~+33.2	①胴部片②- ③-④10.4	①C 細粒砂粒・チャ ート細粒砂粒・高綿骨 針②浅黄帯③B3	-	①B2 ②-	-	①8 ②-	外面タテハケ。のち突帯貼り付け。内面ナデ。 輪軸痕。突帯断面形状は三角形状である。	やや摩耗。
第2558 PL.92	2	円筒埴輪 +11.3	①胴部片②- ③-④8.7	①C 細粒砂粒・チャ ート細粒砂粒②明赤 帯③B3	-	①32 ②-	-	①7 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。突帯断面形状は三角 形状である。	やや摩耗。
第2558 PL.92	3	円筒埴輪 +53.5~+56.5	①底部片②- ③14.2④9.4	①C 細粒砂粒・チャ ート細粒砂粒・高綿骨 針②③B2	-	①- ②-	-	①6 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。	
第2568 PL.92	4	円筒埴輪 +59.8	①底部片②- ③(12.0)④ <10.4	①B 細粒砂粒・チャ ート細粒砂粒②浅黄 帯③B2	-	①- ②-	-	①7 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。	
第2568 PL.92	5	円筒埴輪 21.6	①底部片②- ③-④10.9	①B 細粒砂粒・チャ ート小礫。細粒砂粒② 浅黄帯③B2	-	①- ②-	-	①6 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。	
種 類 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
口				高						
第2568 PL.92	6	瀬戸・美濃 陶器 鉄輪皿	フク上 底部1/5	口	-	高	-	/浅黄帯/	底部内面2重輪軸内に不明文様を鉄輪具で掘く。内面から 高台外面に長石輪に近い輪軸。	17世紀前半~ 中葉

岩鼻天神遺跡 遺物観察表

種 類 PL_No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2568E PL_92	7	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	フク上 1/4	口 底 (10.6) 高 (4.9)	2.0 /灰/	外面口縁部以下は回転削り。軸輪輪縁後に体部外面以下を拭う。	18世紀後半～ 19世紀前半
第2568E PL_92	8	礫石器 磨石	フク上 完形	長 14.1 幅 5.0 厚 3.3 重 300.1	雲母石英片岩//	小口部両端および右側面に最打痕、下端側小口部は最打痕相。裏面側は大きく破損面が広がる。	摩打痕
第2568E PL_92	9	石製品 火打石?	フク上 破片	長 3.4 幅 6.1 厚 66.1	石英//	分割して、形状を柱状に整える。右辺側短辺が最打され、やや潰れるように見える。上面のみ磨面が残る。軟質石材。	

R1-47-3遺跡1号井戸

種 類 PL_No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	口縁 突帯 透孔 分類 ①第1 項目 ②第2 形状	特徴	備考
第2568E PL_93	1	形象埴輪不明 フク上	①器種・部位 不明②5.2 ③(4.5)×(1.2)	①B 細顆砂粒・礫 チャート・泥鉄底 細 顆砂粒②粘③肥	-	①- ②-	板状品。側縁が一方は、円弧状を呈し、一方は直線状である。馬の鞍板などの装具か、女子人物の髪の一部の可能性あり。内外面ナデ。	
第2568E PL_93	2	形象埴輪馬形 フク上	①馬装具片 ②(9.0) ③(8.8)×(2.3)	①B 細顆砂粒・礫 チャート・泥鉄底 細 顆砂粒②粘③肥	-	①- ②-	板状品。上部には隆起部分があり、中央部に窪み認められる。下部部にも緩やかな隆起部分認められる。馬の装具である尻がいの雲珠付近か、鞍敷の輪縁がかかる箇所可能性がある。	

種 類 PL_No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第2568E -	3	常滑陶器 蓋か樊	フク上 体部片	口 底 - 高 -	-	/灰/	器表暗赤褐色。内外面撫で。	中世
第2568E -	4	在地系土器 片口鉢	フク上 口縁部片	口 底 - 高 -	-	チャート微量含む /明灰/	器表黄褐色。内面にすり目。口縁端部内部器表摩滅。	15世紀後半～ 16世紀
第2568E PL_93	5	在地系土器 片口鉢	フク上 口縁部から体部片	口 底 - 高 -	-	片岩含む/ぶい 泥/	内面すり目。体部内面下半使用により摩滅。口縁端部内部摩滅。	15世紀後半～ 16世紀
第2578E PL_93	6	在地系土器 内耳罎	フク上 口縁部片	口 底 - 高 -	-	微細な片岩含む/ 泥/	器厚厚い。内面口縁部下の段差は明瞭。	16世紀後半～ 17世紀初頭
第2578E PL_93	7	在地系土器 内耳罎	フク上 口縁部片	口 底 - 高 -	-	微細な片岩含む/ ぶい/黄褐/	外面器表黒褐色で層付着。器厚やや厚い。内面口縁部下の段差は小さいが明瞭。	16世紀後半～ 17世紀初頭
第2578E PL_93	8	石製品 石製品	フク上 2/3	長 (15.0) 厚 10.0 幅 (13.0) 重 974.4	角閃石安山岩//		表面側に径7cm、深さ5cm程度の窪みがある。裏面側を粗く整形して平坦化して安定させている。石材は軟質で、加工は容易。	
第2578E PL_93	9	石製品 石製品	フク上 1/4	長 (17.4) 厚 6.0 幅 (14.3) 重 1226.6	粗粒輝石安山岩//		破損して情報を欠く中心部を除き、表面側は幅広い工具痕と外縁部摩耗痕が目立つ。裏面側の工具痕は幅広く、方向性の異なる工具痕が錯綜している。表裏面とも外縁は摩耗して断面形状は石臼様だが、根拠は弱い。	
第2578E PL_93	10	石製品 石臼(下)	+195.6 1/4	径 (34.0) 高 10.1 重 4920.5	粗粒輝石安山岩//		芯棒孔が残るのみで、下口上面の主溝・副溝の痕は見られない。角縁を捕獲岩とした多孔質安山岩であり、良質石材とはいえない。	
第2588E PL_94	11	石製品 石臼(上)	+9.8 1/4	径 (35.0) 高 12.7 重 6000	牛伏砂岩//		主溝・副溝は激しく使い減り、分溝数は不明。物入れ、軸穴、挽手孔が残る。石材内には石英脈が走り、良質石材とはいえない。	
第2588E PL_93	12	石製品 石鉢	+83.70 完形	径 22.0 高 17.6 重 12100.1	粗粒輝石安山岩//		体部は丸味を帯び、体部中央に最大径がある。底部は浅く上げ底状で、内縁は概ね垂直に立ち上がる。体部外面は口縁部および底部付近が丁寧な磨き整形、中央付近は粗くノミ痕が残る。	

R1-47-1遺跡1号土坑

種 類 PL_No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第2588E PL_94	1	信州陶器か 蒸煎罎	フク上 体部片	口 底 - 高 -	-	/明黄褐/	蒸気噴出孔部内径が15cmと小さく、兼業用蒸煎罎と推定。外面無軸。内面貫入の入り白炭軸。蒸気噴出孔は帯状に軸を掻き取る。外吹込み。排水は不明。	近現代

R2-4区遺構外

種 類 PL_No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第2588E PL_94	1	縄文土器 深鉢	フク上 製部破片				粗砂、輝石/良好/ 縦穴浮線を多段にめぐらす。地文に縄文を横位施文。	諸磯b式
種 類 PL_No.	No.	種類 器種	出土位置	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	口縁 突帯 透孔 分類 ①第1 項目 ②第2 形状	特徴	備考
第2588E PL_94	2	確認面 フク上	①底部②②- ③(13.6) ④(10.3)	①C 細顆砂粒・チャート 粗顆砂粒②赤褐③ 肥	-	①- ②-	外面タテハケ。内面ナデ。	

種 図 PL.No.	No.	出土位置	①部位②口径③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 突帯 透孔		形状	①外②内③内外	特徴	備考
					分類項目	①第1②第2				
第25808 PL.94	3	円筒埴輪 フク土	①胴部片②-③-④<14.9>	①C 細粗砂粒・チャート・地鉄底層粗砂粒② ③②	-	①M1 ②-	-	①6 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。ハケム幅やや大きい。	
第25808 PL.94	4	円筒埴輪 フク土	①胴部片②-③-④<12.6>	①D 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒③赤褐色 ③②	-	①3 ②-	-	①8 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。	
第25808 PL.94	5	円筒埴輪 フク土	①胴部片②-③-④<6.4>	①C 細粗砂粒・チャート ②地鉄底層粗砂粒③ ③②	-	①-	不明	①9 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。透孔は円弧状に残るが、全形の判断は困難。	
第25808 PL.94	6	円筒埴輪 フク土	①胴部片②-③-④<5.3>	①D 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒③浅黄褐色 ③②	-	①3 ②-	-	①- ②-	外面タテハケ、内面ナデ。ハケム幅やや大きい。	
第25808 PL.94	7	円筒埴輪 フク土	①胴部片②-③-④<6.7>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒③赤い 黄褐色③②	-	①M3 ②-	-	①6 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。ハケム幅やや大きい。	
第25908 PL.94	8	円筒埴輪 フク土	①胴部片②-③-④<6.0>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒③浅黄褐色 ③②	-	①台1 ②-	(円形)	①- ②-	外面タテハケ、内面ナデ。透孔一部あり。	
第25908 PL.94	9	円筒埴輪 フク土	①口縁部②胴部片③-④<7.1>	①C 細粗砂粒・チャート ②地鉄底層粗砂粒③ ③②	-	①- ②3	-	①9 ②9	外面タテハケ、内面ナメハケ。	
第25908 PL.94	10	円筒埴輪 フク土	①胴部片②-③-④<4.7>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒③赤い 黄褐色③②	-	①台2 ②-	-	①- ②-	外面タテハケ、内面ナデ。	
第25908 PL.94	11	円筒埴輪 フク土	①胴部片②-③-④<6.8>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒③赤い 黄褐色③②	-	①- ②-	-	①4 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。ハケム幅やや大きい。	
第25908 PL.94	12	円筒埴輪 フク土	①胴部片②-③-④<2.5>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒③②	-	①- ②-	-	①8 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。	刻書 円弧状

R2-4区遺構外(古墳周辺)

種 図 PL.No.	No.	出土位置	①部位②口径③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 突帯 透孔		形状	①外②内③内外	特徴	備考
					分類項目	①第1②第2				
第25908 PL.95	13	円筒埴輪 フク土	①胴部下②基部③-④<13.0>④<15.9>	①B 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒・片角粗粒 ③②	-	①S1 ②-	-	①8 ②-	内面ナデ。突帯は三角形状である。底部にハケ状工具で横方向に調整。	
第25908 PL.95	14	円筒埴輪 フク土	①底部片(1/4) ②-③<12.3 ④<7.7>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粒・凝灰岩粒③ ③②	-	①- ②-	-	①10 ②-	内面ナデ。	
第25908 PL.95	15	円筒埴輪 フク土	①口縁部片②-③-④<8.5>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒③②	A2	①- ②-	-	①9 ②10	内面ナメハケ。	
第25908 PL.95	16	円筒埴輪 フク土	①口縁部片②-③-④<7.8>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒③②	A2	①- ②-	-	①8 ②11	内面ナメハケ。	
第25908 PL.95	17	円筒埴輪 フク土	①胴部②基部③-④<11.1>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒③②	-	①M1 ②-	-	①10 ②-	胴部→基部片。外面タテハケ、内面ナデ。突帯は、断面三角形に近いM字状である。	
第25908 PL.95	18	円筒埴輪 フク土	①口縁下部②胴部③-④<7.2>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒③②	-	①- ②S1	-	①9 ②9	口縁部内面ハケ。突帯は三角形状である。突帯下位粗いナデ。	
第25908 PL.95	19	円筒埴輪 フク土	①胴部②基部③-④<14.4>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒③A1	-	①M1 ②-	-	①10 ②-	突帯はM字状である。突帯下位粗いナデ。内面ナデ。	
第25908 PL.95	20	円筒埴輪 フク土	①胴部片②-③-④<11.2>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒③②	-	①S1 ②-	-	①6 ②-	内面ナデ。突帯はM字→三角形状である。突帯下位粗いナデ。ハケ目幅やや大きい。	
第25908 PL.95	21	円筒埴輪 フク土	①基部部片②-③-④<11.4>	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒③②	-	①- ②-	-	①10 ②-	内面ナデ。	
第25908 PL.95	22	形象埴輪人物 フク土	①人物輪廓部②器材埴輪 台部③<6.3> ④<7.4>⑤<1.5>	①C 細粗砂粒・礫 チャート粗粗砂粒・礫 ②③②	-	①- ②-	-	①9 ②-	人物埴輪の裾部あるいは、機材埴輪の台部への移行部。内面ナデ。	
第25908 PL.95	23	形象埴輪人物 フク土	①人物輪廓部②器材埴輪 台部③<11.3> ④<10.4>⑤<1.5>	①C 細粗砂粒・礫 チャート粗粗砂粒・礫 ②③②	-	①- ②-	-	①9 ②-	人物埴輪の裾部あるいは、機材埴輪の台部への移行部。内面ナデ。人物輪廓とすれば、帯の表現が割離したものか、刀子・鎌などが割離した痕跡を示している可能性がある。器材埴輪の台部とすれば、紐が割離した箇所の可能性もあり。	

岩鼻天神遺跡 遺物観察表

種 別 PL.No.	No.	出土位置	①部位②口径 ③底径④高(m)	①胎土②色調③焼成	①口縁 突帯 分類①第1 項目②第2	①外弁 ②内弁	①外弁 ②内弁	特徴	備考
第2508 PL.95	24	形象埴輪不明 フク土	①器種・部位 不明②<4.4> ③<4.2>④0.8	①C 細粒砂粒・礫 チャート細粒砂粒・礫 ②橙③B2	- ①- ②-	- ①- ②-	- ①- ②-	形象埴輪器種・部位不明。縦横方向に内湾する。外面ハケ。内面ナデ。上部に絞りの跡あり。	
第2508 PL.95	25	形象埴輪馬形 フク土	①馬形埴輪頭 部②<5.7> ③<15.3>④1.1	①C 細粒砂粒・礫 チャート細粒砂粒・礫 ②橙③B2	- ①- ②-	- ①- ②-	①8 ②9	馬形埴輪の頭部の可能性あり。左の円形部は、鏡板の表現の可能性ある。内面一部ハケ。	馬の頭か？
第2608 PL.95	26	形象埴輪馬形 フク土	①馬形埴輪耳 部②<5.4> ③<5.3>④1.8	①C 細粒砂粒・礫 チャート細粒砂粒・礫 ②浅黄橙③B2	- ①- ②-	- ①- ②-	- ①- ②-	馬形埴輪の耳の基部の可能性ある。内面に一部ハケ。	
第2608 PL.95	27	形象埴輪馬形 フク土	①鈴②<5.2> ③<3.8>④3.3	①B 細粒砂粒・礫 チャート細粒砂粒・礫 ②③-	- ①- ②-	- ①- ②-	- ①- ②-	馬形埴輪の馬具の装飾の跡と推定する。表面には、本体からの明瞭な剝離痕跡がある。	
第2608 PL.95	28	形象埴輪馬形 フク土	①馬形埴輪頭 部。表面鏡板 付側面部② <8.2>③<7.9> ④2.5	①B 細粒砂粒・礫 チャート細粒砂粒・礫 ②橙③B2	- ①- ②-	- ①- ②-	①7 ②9	馬形埴輪の素焼鏡板付側の鏡板の可能性あり。鏡板部の下半部は欠損し。内面には下顎との接合部の剝離痕が下部にある。内面一部ハケ。	
第2608 PL.95	29	形象埴輪不明 フク土	①器種・部位 不明②<6.3> ③<6.2>④0.9	①C 細粒砂粒・礫 チャート細粒砂粒・礫 ②橙③B3	- ①- ②-	- ①- ②-	①9 ②-	形象埴輪器種・部位不明。板状品。外面タテハケ。内面ナデ。外面に剝離痕あり。	
第2608 PL.95	30	形象埴輪不明 フク土	①器種・部位 不明②<10.①> ③<6.5>④1.2	①C 細粒砂粒・礫 チャート細粒砂粒・礫 ②橙③B2	- ①- ②-	- ①- ②-	- ①- ②-	形象埴輪器種・部位不明。板状であるが、横方向にやや内湾する。表面荒れている。器材埴輪の破片の可能性ある。内面ナデ。	
第2608 PL.95	31	形象埴輪不明 フク土	①器種・部位 不明②<5.8> ③<6.8>④1.4	①C 細粒砂粒・礫 チャート細粒砂粒・礫 ②浅黄橙③B2	- ①- ②-	- ①- ②-	- ①- ②-	形象埴輪器種・部位不明。板状で、直角のコーナー部が残る。表面荒れている。裏面一部ハケ。	

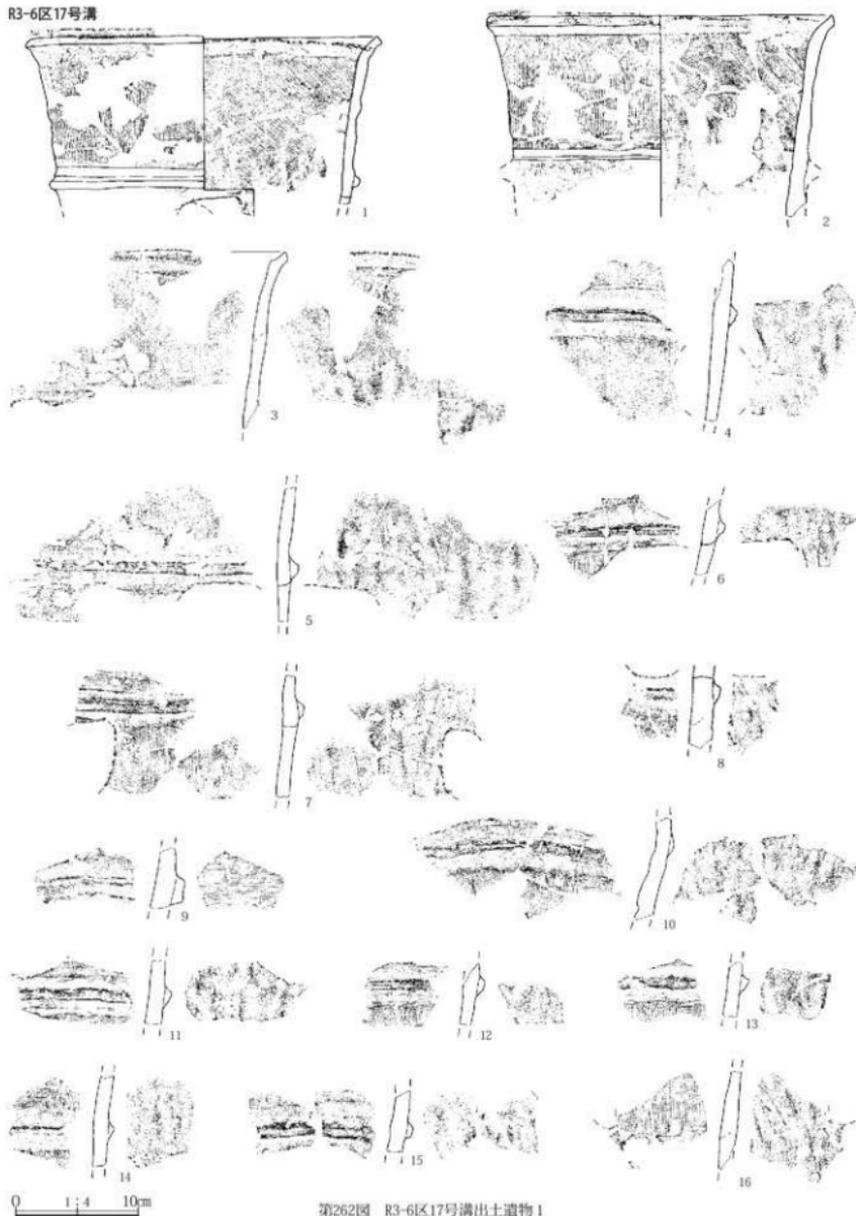
R1-47-1遺跡遺構外

種 別 PL.No.	No.	種別 器種	出土位置 現存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第2608 PL.95	1	陶土器 深鉢	47-1、32ピット 胴部破片				粗砂、輝石/良好/ 斜行する連続爪形文を多段に施す。	諸儀b式	
種 別 PL.No.	No.	出土位置	①部位②口径 ③底径④高(m)	①胎土②色調③焼成	①口縁 突帯 分類①第1 項目②第2	①外弁 ②内弁	①外弁 ②内弁	特徴	備考
第2608 PL.95	2	円筒埴輪 床直	①口縁部片② ③-④<17.0>	①C 細粒砂粒・チャ ート礫。細粒砂粒②明 赤橙③B2	A3	- ①- ②B2	- ①5 ②4	外面タテハケ。内面ナメハケ。突帯断面形状はM字状である。	
第2608 PL.95	3	円筒埴輪 フク土	①口縁部片② ③-④<17.4>	①B 細粒砂粒・チャ ート細粒砂粒・粗鉄鉱 砂粒・小礫②橙③B3	B2	- ①- ②③2	- ①- ②-	外面タテハケ。内面ナデ。突帯断面形状は三角形状である。	摩耗激しい。
第2608 PL.95	4	円筒埴輪 フク土	①口縁部片② ③-④<5.1>	①C 細粒砂粒②ぶ い黄橙③B2	B3	- ①- ②-	- ①6 ②6	口縁部横ナデ。外面タテハケ。内面ナメのハケ。	
第2608 PL.96	5	円筒埴輪 フク土	①胴部片② ③-④<7.0>	①C 細粒砂粒・粗鉄鉱 砂粒・チャート細粒 砂粒②ぶい黄橙③ C3	- ①3 ②-	半円	- ①6 ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ。突帯断面形状は下部が良い三角形状である。	やや摩耗。
第2608 PL.96	6	円筒埴輪 フク土	①胴部片② ③-④<6.3>	①B 細粒砂粒・小礫・ チャート細粒砂粒② ぶい黄橙③B3	- ①- ②-	- ①- ②-	- ①- ②-	外面突帯。内面ナデ。	摩耗激しい。
第2608 PL.96	7	円筒埴輪 フク土	①胴部片② ③-④<8.7>	①C 細粒砂粒・チャ ート細粒砂粒・石英粗 砂粒・粗鉄鉱砂粒②ぶ い黄橙③B3	- ①3 ②-	半円	- ①5 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。突帯断面形状は三角形状である。	やや摩耗。
第2608 PL.96	8	円筒埴輪 フク土	①胴部片② ③-④<10.0>	①B 細粒砂粒・粗鉄鉱 砂粒・チャート細粒 砂粒②明赤橙③B2	- ①B1 ②-	- ①- ②-	- ①9 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。突帯断面形状はM字状である。	
第2608 PL.96	9	円筒埴輪側面 フク土	①胴部片② ③-④<5.9>	①B 細粒砂粒・小礫・ チャート細粒砂粒・粗 鉄鉱砂粒②橙③B2	- ①B1 ②-	- ①- ②-	- ①- ②-	外面突帯。内面ナデ。	摩耗激しい。
第2608 PL.96	10	円筒埴輪 床直	①口縁下部 ②胴部片③-④ ④<13.7>	①C 細粒砂粒・チャ ート細粒砂粒・粗鉄鉱 砂粒②明赤橙③B2	- ①- ②B1	- ①- ②-	- ①7 ②5	外面タテハケ。内面タテハケ。突帯断面形状はM字状である。	

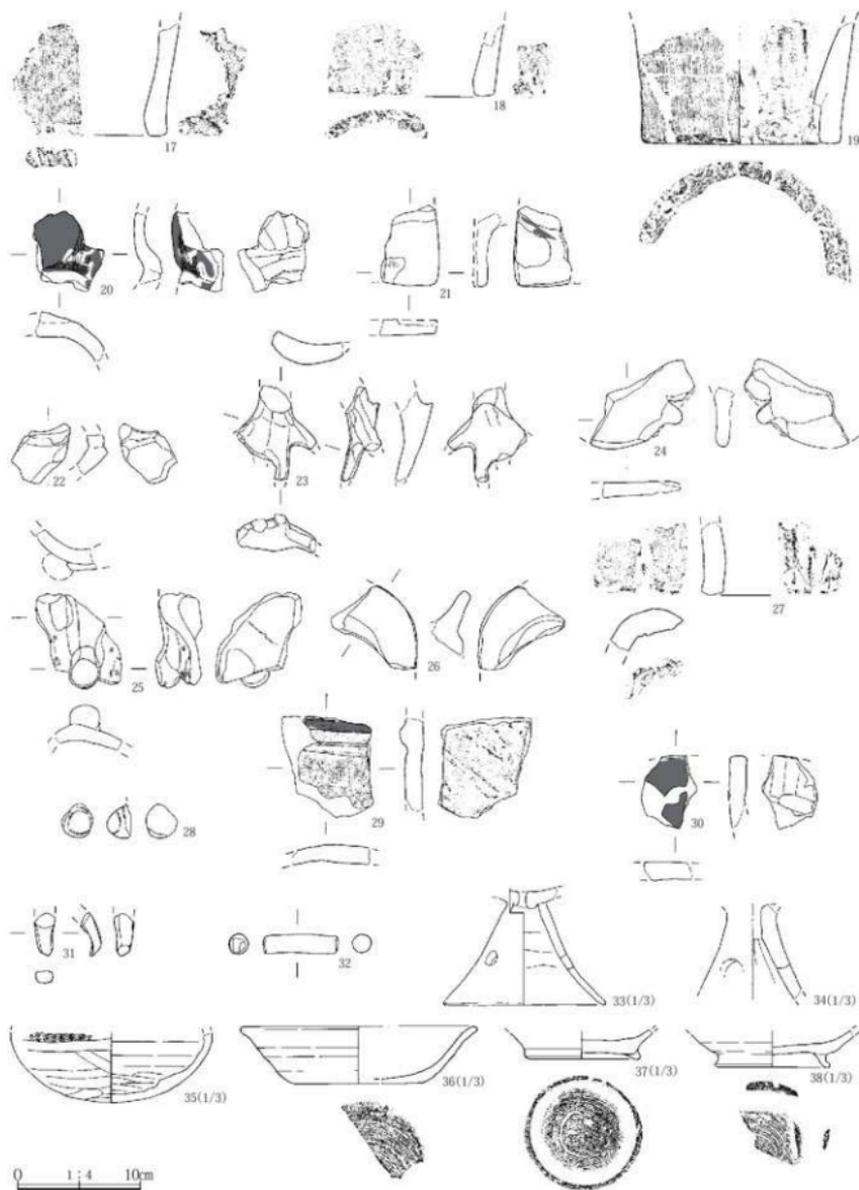
種 別 PL.No.	No.	出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 突帯 透孔		①外径②内径③形状	特徴	備考	
					分類 項目	①第1 ②第2				
第2608 PL.96	11	円筒埴輪 床床	①底部片②- ③-④(14.7)	①C 細粗砂粒・チャート ②粗粗砂粒・石英粗 砂粒③明赤褐色④B2	-	①- ②-	-	①6 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。	
第2609 PL.96	12	形象埴輪家形 フク土	①家基部分 ②(5.7) ③(5.9)④1.8	①B 細粗砂粒・礫 チャート②粗粗砂粒・礫 ③B2	-	①- ②-	-	①7 ②-	家形埴輪基部分。横方向の隆帯が認められ、四柱を表四隅の位置の隆帯と想定される一部が残る。内面ナデ。	
種 別 No.		種類 現存率	出土位置	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等			成形・整形の特徴	備考	
第2609 -	13	在地系土器 内耳鍋	フク土 口縁部片	口 底	—	—	—	高 —	微細な白色粒を含む /にふい/濁/ 器表黒色。口縁部下内面は段差。口縁端部は平坦。耳部 付近の口縁部片。	15世紀末～16 世紀中葉

R1-47-3遺跡遺構外

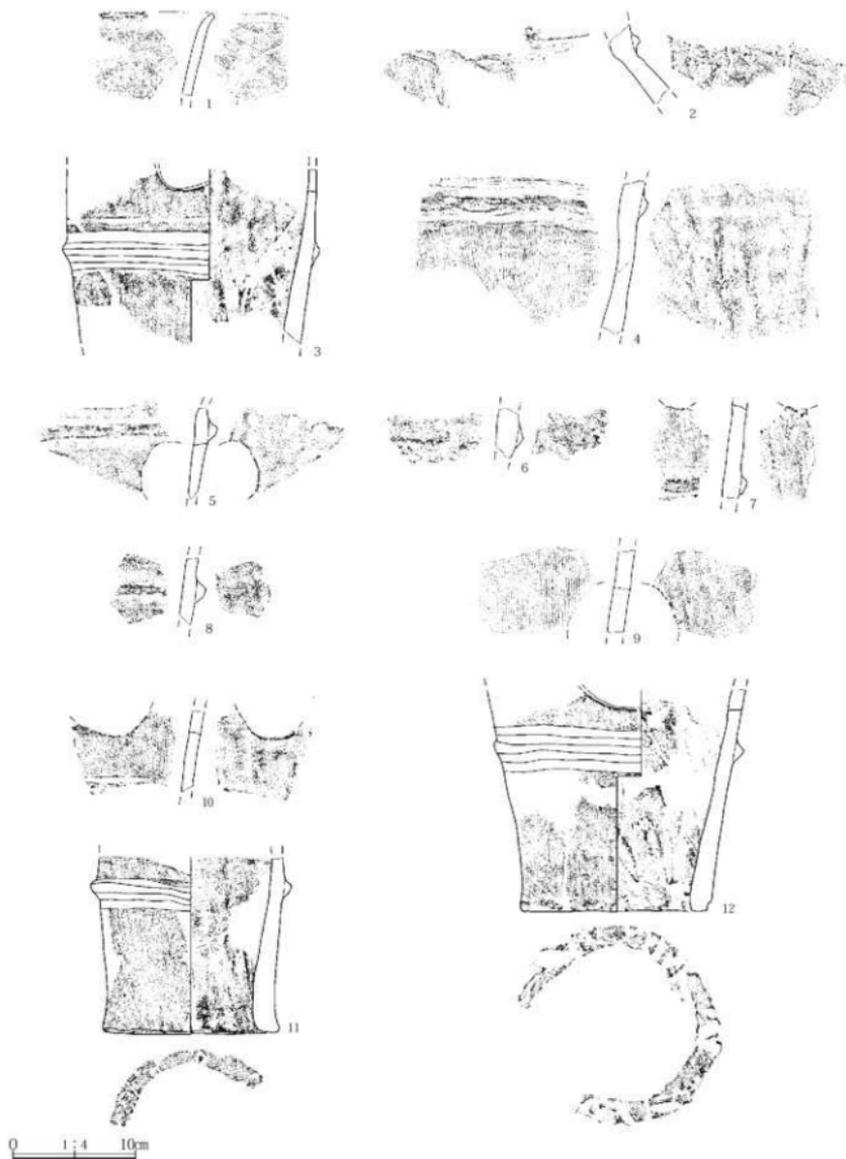
種 別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴		備考	
第2610 PL.96	1	縄文土器 深鉢	47-3、14溝 割部破片			細砂、輝石/良好/	横位浮線をめぐらす。	諸磯b式	
第2610 PL.96	2	縄文土器 深鉢	47-3、11溝 割部破片			細砂、輝石/ふつ う/	横位浮線をめぐらす。	諸磯b式	
第2610 PL.96	3	縄文土器 注口土器	R1、試掘トレンチ 割部破片			細砂、輝石/良好/	尊盤玉の器形。帯状沈線による幾何学モチーフを描き、 帯状沈線外の区画内に沈線を重層させる。帯状沈線内に 1線文を充填施文する。	堀之内2式	
第2610 -	4	土師器 有孔鉢	フク土 底部片			細砂粒/良好/にふ い/濁/ 細砂粒石安山岩//	底部と体部はヘラ閉り。内面は底部から体部にヘラナゲ。 底部に複数の小孔を穿す。 完成状態。底に込んでいるわけではないが、対部エッジ は摩耗して丸味を帯びる。大形の幅広い割片を用い、周辺 加工して石器の形状を整える。		
第2610 PL.96	15	割片石器 斧形	フク土	長 20.2 厚 3.1 幅 10.9 重 722.7					
第2610 PL.96	16	鉄貨 皇宗通寶	フク土 ほぼ斧形	長 2.441 厚 0.110 短 1.906 重 2.5					
種 別 PL.No.	No.	出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 突帯 透孔		①外径②内径③形状	特徴	備考
					分類 項目	①第1 ②第2			
第2610 PL.96	5	円筒埴輪 フク土	①割部片②- ③-④(7.9)	①C 細粗砂粒・チャート ②小礫、細粗砂粒・規 鉄粗粗砂粒③明赤褐色 ④B2	-	①B1 ②-	-	①6 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。突帯断面形状はM字 状である。
第2610 PL.96	6	円筒埴輪 フク土	①口縁下部～ 割部片②-③- ④(8.0)	①C 細粗砂粒・チャート ②小礫、細粗砂粒・規 鉄粗粗砂粒③明赤褐色 ④B2	-	①- ②B2	-	①6 ②-	外面タテハケの突帯貼り付け。内面ナデ。ナメ メハケ。突帯断面形状はM字状である。
第2610 PL.96	7	円筒埴輪 フク土	①口縁下部～ 割部片②-③- ④(8.4)	①C 細粗砂粒・チャート ②細粗砂粒③明赤褐色 ④B3	-	①- ②31	-	①6 ②-	外面タテハケ。内面ナデ、ナメメハケ。突帯断 面形状は三角形である。
第2610 PL.96	8	円筒埴輪 フク土	①部位不明②- ③-④(8.7)	①C 細粗砂粒・チャート ②細粗砂粒・海綿骨 針③明赤褐色④B2	-	①- ②-	-	①6 ②-	へこみ有。外面タテハケ。内面ナデ。
第2610 PL.96	9	円筒埴輪 フク土	①口縁下部～ 割部片②-③- ④(9.2)	①C 細粗砂粒・チャート ②細粗砂粒・海綿骨 針③明赤褐色④B2	-	①- ②32	-	①10 ②-	外面タテハケ、内面ナデ、ナメメハケ。突帯断 面形状は三角形である。
第2610 PL.96	10	形象埴輪人物 フク土	①人物部分 不明②(10.5) ③(11.4)④1.8	①B 細粗砂粒・礫、 チャート・規鉄粗 細 粗砂粒②礫③B2	-	①- ②-	-	①7 ②-	人物埴輪の顔部。帯部が剥離するも一部残る。 裾の内側に器台部がある。外面タテハケ。内面 ナデ。
第2610 PL.96	11	形象埴輪不明 フク土	①器種・部位 不明②(10.5) ③(11.7)④1.6	①B 細粗砂粒・礫、 チャート・規鉄粗 細 粗砂粒②礫③B2	-	①- ②-	-	①7 ②-	外面タテハケの後、横方向に、0.8～2.3cmの長 さの線を右から左に刻んでいる。威やかな円弧 状を呈する。人物の髪、あるいは馬の鞍轡と想 定される。
第2610 PL.96	12	形象埴輪不明 フク土	①器種・部位 不明②(2.9) ③(4.2)④1.3	①B 細粗砂粒・礫、 チャート・規鉄粗 細 粗砂粒②礫③B2	-	①- ②-	-	①- ②-	内筒する本体の上下が欠損している。円弧状を 呈しているが、左右が欠損し全体像が明瞭でない。 器種・部位不明。
第2610 PL.96	13	形象埴輪不明 フク土	①器種・部位 不明②(4.4) ③(5.5)④1.5	①B 細粗砂粒・礫、 チャート・規鉄粗 細 粗砂粒②礫③B2	-	①- ②-	-	①- ②-	直角状に屈曲する角部を持ち、両方向に直線状 に延長する。直線部に平行して降りる箇所が あるが、剥離して全体像が明瞭でない。器種・ 部位不明。
第2610 PL.96	14	形象埴輪不明 フク土	①器種・部位 不明②(5.2)③ (4.6)④1.3	①B 細粗砂粒・礫、 チャート②細粗砂粒③ 礫④B2	-	①- ②-	-	①14 ②-	両方向にやや円弧状を呈する板状品。外面に赤 色顔料の塗布が認められる。外面細いタテハ ケ。内面ナデ。部位不明。



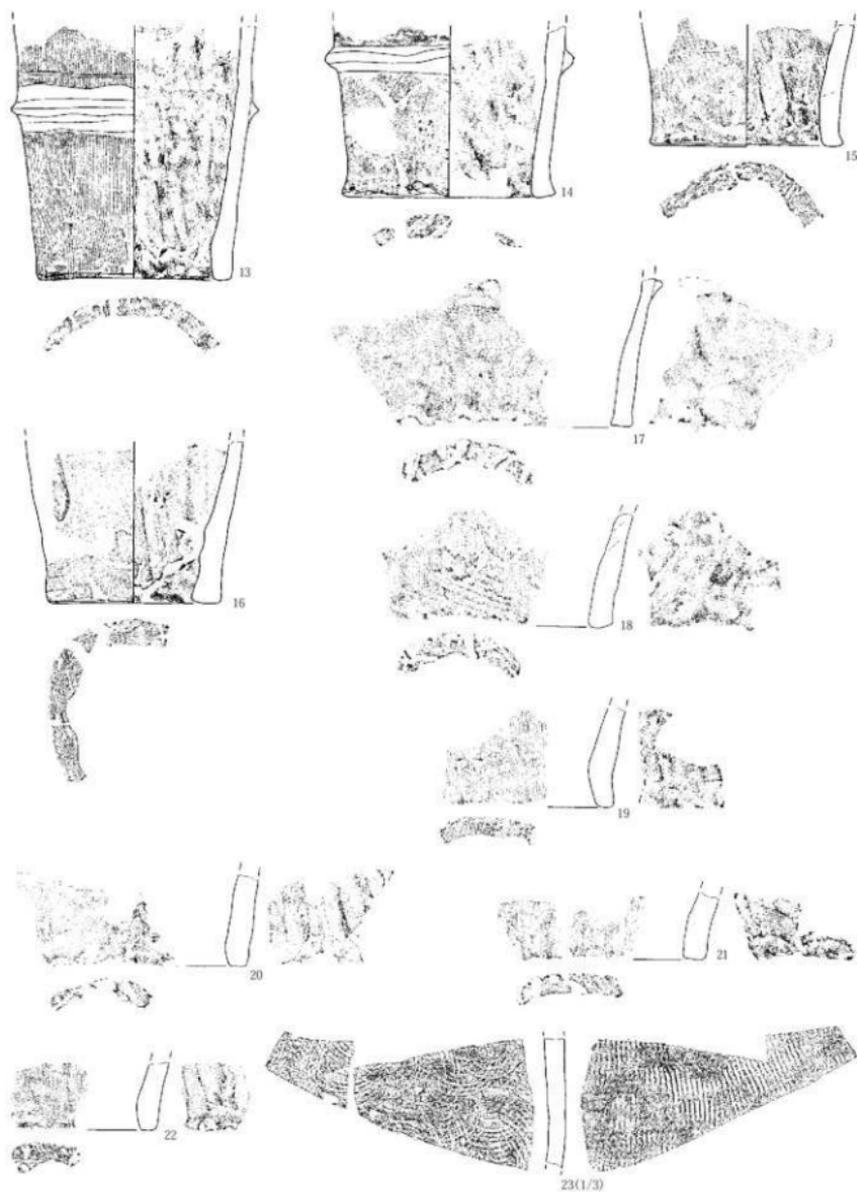
第262图 R3-6区17号溝出土遺物1



第263図 R3-6区17号溝出土遺物2



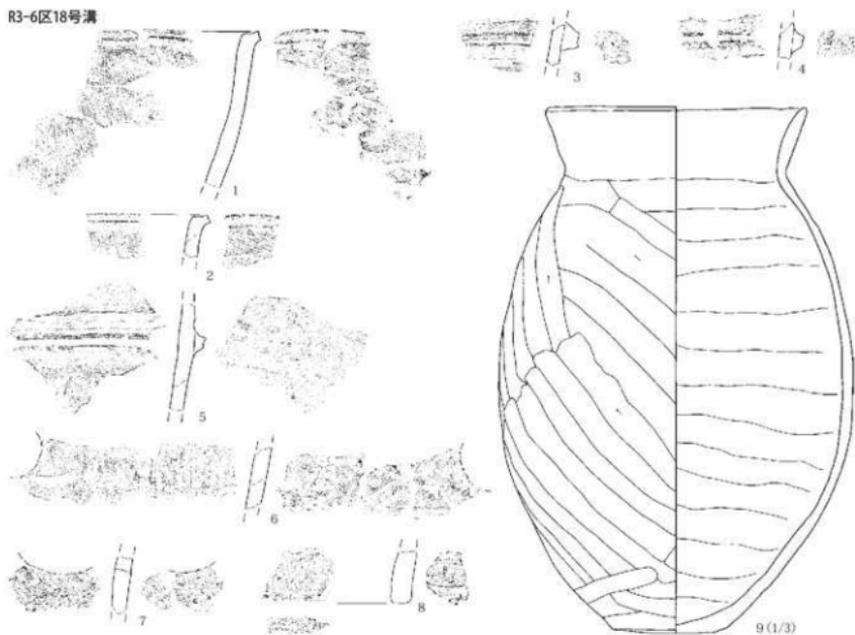
第264图 R3-6区1号遺物集中出土遺物 1



第265図 R3-6区1号遺物集中出土遺物2

0 1:4 10m

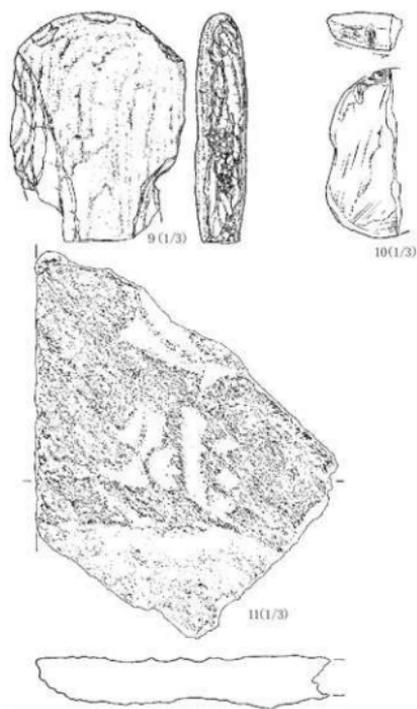
R3-6区18号溝



R3-6区15号溝



第266图 R3-6区18号溝出土遺物、15号溝出土遺物 1



R3-6区19号溝



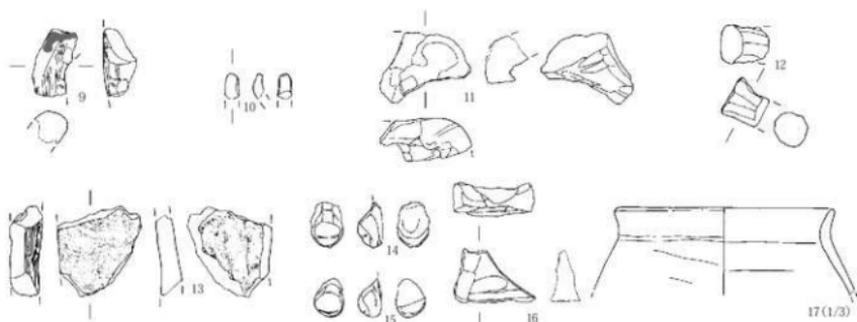
R3-6区20号溝



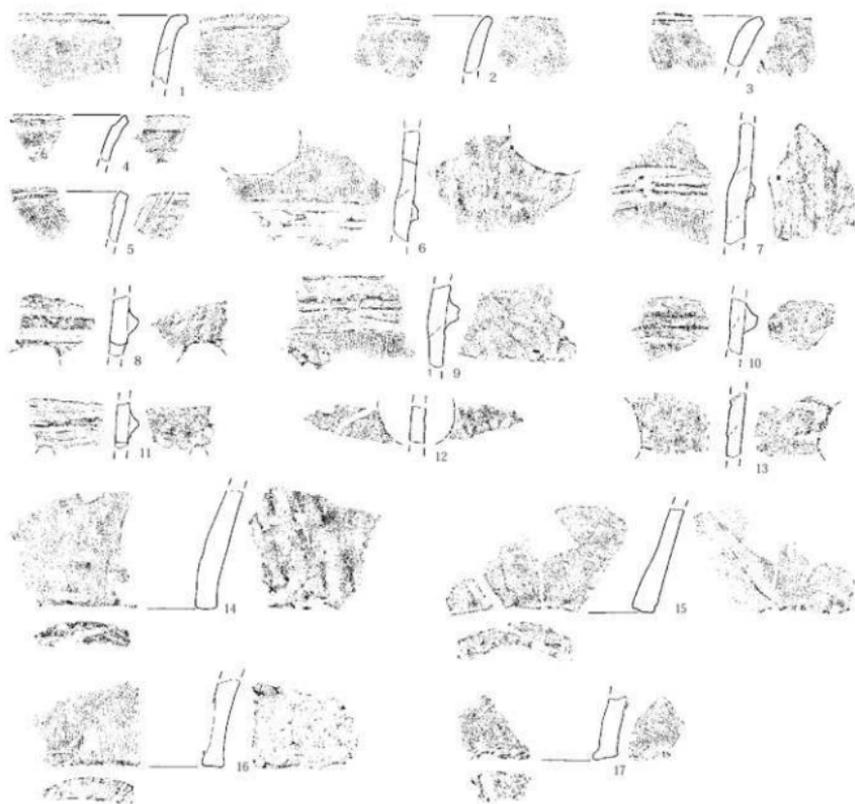
0 1:4 10cm

第267图 R3-6区15号溝出土遺物2、19号溝出土遺物、20号溝出土遺物1

岩鼻赤城道跡



R3-6区遺構外



第268図 R3-6区20号溝出土遺物2、遺構外出土遺物1

0 1:4 10m



第269図 R3-6区遺構外出土遺物2

岩鼻赤城遺跡 遺物観察表

R3-6区17号溝

種別 PL.No.	No.	器種 出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①C 胎土②色調③焼成	口縁 分類 項目	変形 ①第1 ②第2	透孔 形状	④外 ⑤内	特徴	備考
第26296 PL.97	1	円筒埴輪 +31.7	①口縁部~胴 部②28.0 ③~④(12.8)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒②浅黄橙③B2	A2	①- ②台2	平円	①10 ②10	口縁部横ナデ、外面タテハケのち突部貼り付け、内面ナナメハケ。突部断面形状は台形状である。透かし孔平円形。	
第26296 PL.97	2	円筒埴輪 フク上	①口縁部~胴 部②27.8 ③~④(16.2)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒②浅黄橙③B2	A2	①- ②-	-	①10 ②10	口縁部横ナデ、外面タテハケのち突部貼り付け、内面ナナメハケ。突部は割離しており、断面形状不明。	
第26296 PL.97	3	円筒埴輪 フク上	①口縁部~胴 部②- ③~④(11.1)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒②浅黄橙 ③B2	A2	①- ②-	-	①10 ②10	口縁部横ナデ、外面タテハケのち突部貼り付け、内面ナデ・ナナメハケ。突部は割離しており、断面形状不明。	
第26296 PL.97	4	円筒埴輪 +13.9	①口縁下部~ 胴部片②- ③~④(13.1)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒②浅黄橙③C3	-	①- ②B1	-	①10 ②10	外面タテハケのち突部貼り付け。内面ナナメハケ。突部断面形状はM字状である。	やや摩耗。
第26296 PL.97	5	円筒埴輪 フク上	①口縁下部~ 胴部片②- ③~④(7.8)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒②浅黄橙③B2	-	①- ②台2	平円	①12 ②12	外面タテハケのち突部貼り付け。内面ナデ、ナナメハケ。突部断面形状は台形状である。透かし孔平円形。	
第26296 PL.97	6	円筒埴輪 +39.0~+44.2	①胴部片②- ③~④(5.3)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒②凝灰岩粗砂 粒③浅黄橙③B2	-	①台1 ②-	平円	①10 ②-	外面タテハケのち突部貼り付けし、透かし孔をあける。内面ナデ。突部断面形状は台形状。透かし孔は平円形である。	
第26296 PL.97	7	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③~④(9.6)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒②浅黄橙③B2	-	①台2 ②-	平円	①11 ②-	外面タテハケのち突部貼り付けし、のち透かし孔開ける。内面ナデ。突部断面形状は台形状。透かし孔は平円形。	
第26296 PL.97	8	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③~④(5.4)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒②橙③C3	-	①3 ②-	円か	①- ②-	赤色有。外面摩耗激しく、調整不明。ハケメか、内面ナデ。突部断面形状は台形状である。透かし孔円形か。	摩耗激しい。
第26296 PL.97	9	円筒埴輪側面 フク上	①側面胴部片 ②~③~④(4.7)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・凝灰岩 粗砂粒②浅黄橙③C3	-	①- ②-	-	①- ②16	赤色有。外面摩耗激しく調整不明。内面ヨコハケ。突部断面形状はM字状である。	摩耗激しい。
第26296 PL.97	10	円筒埴輪 +45.9~+50.5	①胴部片②- ③~④(8.1)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒②浅黄橙③B3	-	①B2 ②-	-	①9 ②-	外面タテハケのち突部貼り付け。内面ナデ。突部断面形状はM字状である。	やや摩耗。
第26296 PL.97	11	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③~④(5.2)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒②浅黄橙③B2	-	①台1 ②-	-	①11 ②-	外面タテハケのち突部貼り付け。内面ナデ。突部断面形状は三角形に近い台形状である。	
第26296 PL.97	12	円筒埴輪 +38.1	①胴部片②- ③~④(5.0)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒②浅黄橙③B2	-	①台3 ②-	-	①14 ②-	外面タテハケのち突部貼り付け。内面ナデ。突部断面形状は台形状である。	
第26296 PL.97	13	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③~④(4.4)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒②浅黄橙③B2	-	①台3 ②-	-	①12 ②-	外面タテハケのち突部貼り付け。内面ナデ。突部断面形状は三角形に近い台形状である。	
第26296 PL.97	14	円筒埴輪 +42.3	①口縁下部~ 胴部片②- ③~④(7.4)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒②橙③B3	-	①- ②3	-	①11 ②10	外面タテハケ、ナデか。のち突部貼り付け。内面ナナメハケ。突部断面形状は三角形形である。	やや摩耗。
第26296 PL.97	15	円筒埴輪 +37.6	①口縁下部~ 胴部片②③- ④(4.8)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒②橙③B3	-	①- ②台1	-	①- ②-	外面タテハケ、内面ナデ、ナナメハケ。突部断面形状は台形状である。	やや摩耗。
第26296 PL.97	16	円筒埴輪 フク上	①部位不明② ③~④(8.0)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒②浅黄橙 ③B2	-	①- ②-	-	①10 ②14	外面タテハケ、内面ナデ・ナナメハケ。	
第26396 PL.98	17	円筒埴輪 +34.9	①底部片②- ③~④(9.1)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒②橙③B2	-	①- ②-	-	①11 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。	
第26396 PL.98	18	円筒埴輪 フク上	①底部片②- ③~④(5.4)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒②橙③B2	-	①- ②-	-	①13 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。	
第26396 PL.98	19	円筒埴輪 +26.5~+26.8	①底部片②- ③(16.0) ④(9.7)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱 粗砂粒②浅黄橙③B2	-	①- ②-	-	①10 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。	
第26396 PL.98	20	形象埴輪人物 フク上	①人物顔片② ③(5.6) ④(5.7)⑤(1.2)	①B 粗粗砂粒・糠。 チャー ト 粗粗砂粒・ 糠②橙③B2	-	①- ②-	-	①12 ②-	人物顔面左下部。顔面は粘土を張り込み、少し厚みを出している。頸の一部が遺存している。顔面は、ナデ、顔面部以外の顔部はハケ、内面はナデ。顔面部を中心に赤色顔料が塗されている。	

採 掘 PL.No.	No.	器 種 出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	④口縁 変形		⑤透孔	⑥ノド	⑦外径⑧ ⑨内径	特徴	備考
					分類 項目	第1 第2					
第26300 PL.97	21	形象埴輪人物 フク土	①人物 女子高田型 ②(6.1) ③(4.7)④1.3	①B 細粗砂粒・礫。 チャート・褐鉄鉱 細粗砂粒 ②浅黄橙③B2	-	①- ②-	-	①- ②-	板状品。直角の角部を有して二側面が遺存しているが、いずれも欠損している。薄手の板状品で、基部の可能性のある箇所は円弧状に盛り上がりがある。高田型の可能性があるが、円弧状を呈した偏筒の表現の有無など検討を要する部分がある。盛り上がり部の外面に赤色塗彩が認められる。		
第26300 PL.97	22	形象埴輪人物 フク土	①人物顔 ②(4.0) ③(4.3)④1.8	①B 細粗砂粒、チャート・褐鉄鉱 細粗砂粒 ②浅黄橙③B2	-	①- ②-	-	①- ②-	人物の顔から肩の破片と推定。肩部に頸を粘土紐で積み上げて造作している。		
第26300 PL.97	23	形象埴輪人物 フク土	①人物手 ②(7.9) ③(6.4)④1.8	①B 細粗砂粒・礫。 チャート・褐鉄鉱 細粗砂粒 ②浅黄橙③B2	-	①- ②-	-	①- ②-	手の中で、親指と人差し指が残っており、他の指は欠損している。手の平は、平坦でやや親指が内湾し、人差し指は真っ直ぐ伸ばしている。		
第26300 PL.97	24	形象埴輪不明 20溝+36.1	①器種・部位 不明②(4.4) ③(9.5)④1.6	①B 細粗砂粒、チャート・褐鉄鉱 細粗砂粒 ②に黄橙③B2	-	①- ②-	-	①- ②-	板状品。側縁は円弧状を呈し、突起が一つ出ている。種類・部位不明。		
第26300 PL.97	25	形象埴輪馬形 20溝+34.8	①馬具跡赤葉片 ②(6.8) ③(5.8)④1.5	①B 細粗砂粒、チャート・褐鉄鉱 細粗砂粒 ②浅黄橙③B2	-	①- ②-	-	①- ②-	馬の胸か尻にある鈴舌葉の破片と推定。赤葉本体の下部が遺存し、赤葉の下部の鈴は残るが、上部左側の鈴は割離し、右側にあつたと思われる鈴は欠失している。右鈴舌葉と推定する。外面タテハケ、内面ナデ。		
第26300 PL.98	26	形象埴輪馬形 +45.4	①馬鞍片 ②(4.2) ③(7.3)④3.0	①B 細粗砂粒、チャート・褐鉄鉱 細粗砂粒 ②浅黄橙③B2	-	①- ②-	-	①- ②-	円弧状を呈する板状品の外形で、両短側縁は欠失している。底部は円弧状に割離痕跡がある。馬鞍の可能性あり。		
第26300 PL.97	27	形象埴輪馬形 フク土	①C 馬脚武部片 ②(6.0) ③(5.9)④1.8	①C 細粗砂粒・チャート 細粗砂粒・褐鉄鉱 細粗砂粒②浅黄橙③B2	-	①- ②-	-	①13 ②-	馬脚武部。切開再接合の切開面あり。外面タテハケ、内面ナデ。		
第26300 PL.98	28	形象埴輪馬形 +34.1	①蹄②(1.6) ③2.5④2.2	①B 細粗砂粒、チャート・褐鉄鉱 細粗砂粒 ②橙③B2	-	①- ②-	-	①- ②-	少しふんだ球形部の斜め下側に割け目を表現しており、鈴と分かれる。裏面に割離痕跡あり。馬か人物に付けられていたものと思われる。		
第26300 PL.98	29	形象埴輪家形 フク土	①家壁片 ②(7.8) ③(7.2)④1.8	①B 細粗砂粒・礫。 チャート・褐鉄鉱 細粗砂粒 ②浅黄橙③B2	-	①- ②-	-	①12 ②-	板状品。横方向の変形が認められる。家形埴輪の西柱部底部と推定。変形には赤色顔料が施されている。外面は細かいハケ、内面ナデ。		
第26300 PL.98	30	形象埴輪不明 フク土	①器種・部位 不明②(5.8) ③(4.3)④1.4	①B 細粗砂粒、チャート・褐鉄鉱 細粗砂粒 ②浅黄橙③B2	-	①- ②-	-	①- ②-	板状品。遺存している側縁部は直線状を呈する。外面は丁寧なナデ、内面ナデ。外面には一部赤色顔料が塗布されている可能性あり。器種・部位不明。		
第26300 PL.98	31	形象埴輪不明 +23.9	①器種・部位 不明②(3.4) ③(1.7)④0.7	①B 細粗砂粒、チャート・褐鉄鉱 細粗砂粒 ②浅黄橙③B2	-	①- ②-	-	①- ②-	勾玉状の形態で、頭部が欠失している可能性がある。裏面に明確な割離痕跡なし。人物の首飾りの勾玉の可能性あり。		
第26300 PL.98	32	形象埴輪不明 +20.3	①器種・部位 不明②(5.9) ③(1.3)④0.5	①B 細粗砂粒、チャート・褐鉄鉱 細粗砂粒 ②橙③B2	-	①- ②-	-	①- ②-	丸棒状の製品。欠損は無い。家壁木かとも思うが、棒木から割離した痕跡が認められない。種類・部位不明。		
採 掘 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土・焼成・色調 石材・素材等		成形・整形の特徴		備考	
第26300 PL.98	33	土師器 器台	+13.2 脚部片	底 脚	2.2 9.6			細砂粒/良好/橙	受部は底部にホゾ状の突起を作り脚部に差し込むように接合。器面磨滅のため整形不詳。脚部に透孔を3方に穿つ。		
第26300 PL.98	34	土師器 器台	+30.8 脚部上半片					細砂粒/良好/橙	受部底部にホゾ状突起を作り脚部に差し込むようにに接合。外面は器面磨滅のため整形不明。内面はナデ。脚部に透孔を3方に穿つ。		
第26300 PL.98	35	須恵器 盤	+27.0 底部一側部下平片	側	12.2			細砂粒/還元焰/灰	ロクろ整形。回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り、側部下位は回転ヘラ削り、中位に波状文を施す。内面は底部にナデ。		
第26300 PL.98	36	須恵器 杯	フク土 1/4	口 底	14.0 8.0	3.5		細砂粒/還元焰/浅黄	ロクろ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。		
第26300 -	37	須恵器 輪	フク土 底部	底 台	6.8 6.6			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクろ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。		
第26300 -	38	須恵器 輪	フク土 底部一側部片	底 台	6.4 6.4			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクろ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。		

岩鼻赤城遺跡 遺物観察表

R3-6区1号遺物集中

挿図 No.	No.	器種 出位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁		透孔	形状	特徴	備考
					①第1 ②第2	①第1 ②第2				
第264図	1	円筒埴輪 +13.8	①口縁部片②- ③-④(7.1)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②浅黄橙③B2	A1	①- ②-	-	①12 ②12	口縁部横ナデ、外面タテハケ、内面ナメハケ。	
第264図	2	円筒埴輪 +11.3~+12.0	①胴部片②- ③-④(4.1)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②浅黄橙③B2	-	①台2 ②-	-	①12 ②-	外面ナメハケのち突部貼り付け。内面ナデ。 突部断面形状台形状である。	
第264図	3	円筒埴輪 +14.0~+15.6	①胴部片②- ③-④(12.4)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②橙③B3	-	①台2 ②-	円か	①- ②-	外面タテハケのち突部貼り付け。突部上部に沈 靨。内面ナデ。突部断面形状は三角形・台形状 である。透かし孔円か。	やや摩耗。
第264図	4	円筒埴輪 +25.0	①胴部片②- ③-④(12.7)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②浅黄橙③B2	-	①3 ②-	-	①9 ②-	外面タテハケのち突部貼り付け。内面ナデ。突 部断面形状は三角形である。	
第264図	5	円筒埴輪 +19.5	①胴部片②- ③-④(7.1)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒②橙③B3	-	①台1 ②-	半円	①11 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。突部断面形状台形状。 透かし孔半円形である。	やや摩耗。
第264図	6	円筒埴輪 フタ上	①胴部片②- ③-④(3.2)	①B 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒②明赤褐 ③B3	-	①3 ②-	-	①1 ②-	外面調整不肌。内面ナデか。突部断面形状三角 形である。	やや摩耗。
第264図	7	円筒埴輪 +15.7	①胴部片②- ③-④(7.6)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②浅黄橙③B3	-	①台1 ②-	-	①10 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。突部断面形状は台形 状である。	やや摩耗。 断面5
第264図	8	円筒埴輪 +9.7	①胴部片②- ③-④(5.1)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒②明赤褐 ③B2	-	①台1 ②-	-	①10 ②-	外面タテハケのち突部貼り付け。内面ナデ。突 部断面形状は台形状である。	
第264図	9	円筒埴輪 床直	①胴部片②- ③-④(6.6)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒②浅黄橙 ③B2	-	①- ②-	円	①10 ②10	外面タテハケのち透かし孔をあける。内面ナメ ハケのちナデ。透かし孔円形。	断面6
第264図	10	円筒埴輪 +15.9	①胴部片②- ③-④(6.6)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒②橙③B3	-	①- ②-	円か	①12 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。下部に沈靨。透かし 孔円か。	やや摩耗。
第264図	11	円筒埴輪 +13.8~+14.0	①胴部-底部 ②-③(14.3) ④(14.1)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②橙③B3	-	①台2 ②-	-	①9 ②-	外面タテハケのち突部貼り付け。内面ナデ。突 部断面形状は三角形・台形状である。	やや摩耗。
第264図	12	円筒埴輪 +9.7~+17.1	①胴部-底部 片②-③(15.0) ④(18.0)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②橙③B3	-	①3 ②-	円か	①12 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。突部断面形状は三角 形状である。透かし孔円か。	やや摩耗。
第265図	13	円筒埴輪 +13.7~+14.0	①胴部-底部 ②-③(16.0) ④(20.6)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②浅黄橙③B2	-	①3 ②-	-	①11 ②-	外面タテハケのち突部貼り付け。突部上部に沈 靨。内面ナデ。突部断面形状は三角形・台形状 である。底部へこみあり。	
第265図	14	円筒埴輪 -0.4~+3.8	①胴部-底部 片②-③(17.4) ④(13.4)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②橙③B3	-	①台2 ②-	-	①14 ②-	外面タテハケのち突部貼り付け。内面ナデ。突 部断面形状は台形状である。底部へこみあり。	やや摩耗。
第265図	15	円筒埴輪 床直	①底部片②- ③(15.4) ④(9.9)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②浅黄橙③B2	-	①- ②-	-	①12 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。	
第265図	16	円筒埴輪 +14.5~+19.5	①底部片②- ③-④(13.2)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②浅黄橙③B2	-	①- ②-	-	①12 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。	
第265図	17	円筒埴輪 床直	①胴部-底部 ②-③-④ (12.2)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②橙③B3	-	①- ②-	-	①11 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。底部へこみあり。	やや摩耗。
第265図	18	円筒埴輪 +13.7	①底部片②- ③-④(8.8)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②浅黄橙③B3	-	①- ②-	-	①8 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。底部へこみあり。	やや摩耗。
第265図	19	円筒埴輪 +16.4	①底部片②- ③-④(7.8)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②浅黄橙③B2	-	①- ②-	-	①10 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。	
第265図	20	円筒埴輪 +13.5	①底部片②- ③-④(7.1)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②浅黄橙③B2	-	①- ②-	-	①11 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。	
第265図	21	円筒埴輪 +11.5	①底部片②- ③-④(4.8)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②浅黄橙③B2	-	①- ②-	-	①12 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。	
第265図	22	円筒埴輪 +18.8	①底部片②- ③-④(5.4)	①C 細粗砂粒・チャー ト細粗砂粒・褐鉄鉱粗 砂粒②明赤褐③B3	-	①- ②-	-	①10 ②-	外面タテハケ。内面ナデ。	やや摩耗。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第265図 -	23	須臾器 器種	+14.2 胴部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焼/灰 胴部は明き締め成形。外面には平行明き痕が残るが、内面は同心円状アテ具痕をナデ消し、かすかに残る。

R3-6区18号溝

挿図 PL.No.	No.	器種 出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 突帯 透孔		①外径 ②内径	特徴	備考
					分類 項目	①第1 ②第2			
第266図 PL.99	1	円筒埴輪	①口縁部②胴部片 +74.0~+74.5	①C 細粗砂粒・チャート小礫、細粗砂粒 ②浅黄褐色③B2	B4	①- ②-	-	①9 ②9	外面赤彩。口縁部横ナデ、外面タテハケ、内面ナメハケ。
第266図 PL.99	2	円筒埴輪	①口縁部片② +74.1	①C 細粗砂粒・チャート細粗砂粒 ②浅黄褐色③B2	B4	①- ②-	-	①10 ②11	口縁部横ナデ、外面タテハケ、内面ナメハケ。
第266図 PL.99	3	円筒埴輪	①胴部片②フク土 ③-④(3.2)	①C 細粗砂粒・チャート細粗砂粒 ②灰黄褐色③B2	-	①B3 ②-	-	①- ②-	突体部。外面タテハケか。内面ナデ。突体断面形状はM字状である。
第266図 PL.99	4	円筒埴輪	①胴部片② +67.2~+67.3	①C 細粗砂粒・チャート小礫、細粗砂粒 ②明赤褐色③B2	-	①B2 ②-	-	①- ②-	突体部。断面形状はM字状。内面ナデ。
第266図 PL.99	5	円筒埴輪	①口縁部②胴部片③フク土 ④(8.5)	①C 細粗砂粒・チャート細粗砂粒 ②浅黄褐色③B2	-	①- ②B1	-	①10 ②10	外面ナメハケ。タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ。ヨコハケ。突帯断面形状はM字状である。
第266図 PL.99	6	円筒埴輪	①胴部片② +72.8~+74.2	①C 細粗砂粒・チャート小礫、細粗砂粒・凝灰岩粗砂粒 ②浅黄褐色③B2	-	①- ②-	-	①12 ②-	外面タテハケ、内面ナデ、ヨコハケか。
第266図 PL.99	7	円筒埴輪	①胴部片② +73.8	①C 細粗砂粒・チャート小礫、細粗砂粒 ②明赤褐色③B2	-	①- ②-	円か	①9 ②-	外面ナメハケ、内面ナデ。透かし孔円か。
第266図 PL.99	8	円筒埴輪	①底部片② +73.3	①B 細粗砂粒・チャート小礫、細粗砂粒 ②橙褐色③B2	-	①- ②-	-	①10 ②10	外面タテハケ、内面ヨコハケ。
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴		備考	
第266図 PL.99	9	土師器 器種	+57.0 3/4	口 15.6 底 6.8 制 21.5 高 32.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部はヨコナデ。胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。			

R3-6区15号溝

挿図 PL.No.	No.	器種 出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 突帯 透孔		①外径 ②内径	特徴	備考
					分類 項目	①第1 ②第2			
第266図 PL.99	1	円筒埴輪	①口縁部片②床直 ③-④(4.3)	①C 細粗砂粒・チャート細粗砂粒 ②浅黄褐色③B2	B3	①- ②-	-	①12 ②12	線刻有。口縁部横ナデ、外面タテハケ、内面タテハケ。
第266図 PL.99	2	円筒埴輪	①口縁部片②フク土 ③-④(4.3)	①C 細粗砂粒・チャート細粗砂粒 ②浅黄褐色③B2	A2	①- ②-	-	①11 ②12	口縁部横ナデ、外面タテハケ。内面横・斜めのハケメ。
第266図 PL.99	3	円筒埴輪	①胴部片② +26.2	①C 細粗砂粒・チャート細粗砂粒 ②浅黄褐色③B2	-	①B2 ②-	-	①12 ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ。突帯断面形状はM字状である。
第266図 PL.99	4	円筒埴輪	①胴部片② +12.6	①C 細粗砂粒・チャート細粗砂粒 ②橙褐色③B3	-	①台2 ②-	-	①12 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。突帯断面形状は台形状である。
第266図 PL.99	5	円筒埴輪	①胴部片② +14.3	①C 細粗砂粒・チャート細粗砂粒 ②橙褐色③B3	-	①B2 ②-	-	①12 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。突帯断面形状はM字状である。
第266図 PL.100	6	円筒埴輪	①底部片②床直 ③-④(10.3)	①C 細粗砂粒・チャート細粗砂粒 ②浅黄褐色③B2	-	①- ②-	-	①11 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。
第266図 PL.100	7	円筒埴輪	①底部片② +15.7~+24.5	①C 細粗砂粒・チャート細粗砂粒 ②浅黄褐色③B2	-	①- ②-	-	①10 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。
第266図 PL.100	8	円筒埴輪	①底部片② +27.7	①C 細粗砂粒・チャート細粗砂粒 ②橙褐色③B2	-	①- ②-	-	①12 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴		備考	
第267図 PL.100	9	石製品 石製品	+31.2 1/2	長 10.6 (14.0) 厚 3.1 重 674.7	雲母石英片岩//	右側縁は鋸打され深く切れ、ノッチ状を呈す。表面とも側縁を粗く磨滅する。石屑未成品の可能性も考えてみたが、加工意図が明らかではなく、石製品として扱った。			

岩鼻赤城遺跡 遺物観察表

挿 図 PL. No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第267図 PL.100	10	石製品 砥石	フク土 1/2	長 幅	10.4 (4.6)	厚 重	2.3 88.4	流紋岩凝灰岩//	表面磨のみ弱い研ぎ痕が残る。このほか上端側側面に刃 ならし痕、表面側上端に工具痕がある。同形の砥石が縄 文期終末建物から出土。
第267図 PL.100	11	石造物 板碑	▽32.2 1/8	長 幅	(23.6) (18.4)	厚 重	3.1 1668.3	雲母石英片岩//	種子鎌台の一部と脇付種子が残る。形りは浅く不明瞭。 左辺側を逆台形状に整形。他辺は破損しているが、上辺 破損面は風化して他の破損面とは風化状態が異なる。

R3-6区19号溝

挿 図 PL. No.	No.	器 種 出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 突帯 透孔		特 徴	備考	
					分類 項目	①第1 ②第2			形状 ①外口 ②内口
第267図 PL.100	1	円筒埴輪 ▽27.5→28.0	①底部片②- ③(14.0) ④(8.1)	①C 細粗砂粒・チャー ト・粗鉄鉱粗 砂粒・結晶片質粗砂粒 ②浅黄橙③B2	-	①- ②-	-	①10 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。
第267図 PL.100	2	円筒埴輪 ▽17.3	①底部片②- ③④(10.9)	①C 細粗砂粒・チャー ト・粗鉄鉱粗 砂粒・石英②浅黄橙③B2	-	①- ②-	-	①10 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。
第267図 PL.100	3	形象埴輪人物 ▽26.3	①人物顔片 ②(6.5) ③(10.8)④1.4	①B 細粗砂粒・チャー ト・粗鉄鉱 粗粗砂粒 ②浅黄橙③B2	-	①- ②-	-	①12 ②-	人物の首の可能性あり。円弧状の本体に、横方 向の隆帯が剥離したものである。隆帯部が首の 部分の可能性がある。

R3-6区20号溝

挿 図 PL. No.	No.	器 種 出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 突帯 透孔		特 徴	備考	
					分類 項目	①第1 ②第2			形状 ①外口 ②内口
第267図 PL.100	1	円筒埴輪 ▽20.4→34.2	①胴部～底部 ②③(14.8) ④(19.4)	①C 細粗砂粒・チャー ト・粗鉄鉱粗 砂粒②浅黄橙③C3	-	①台2 ②-	-	①8 ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ。突 帯断面形状は台形状である。
第267図 PL.100	2	円筒埴輪 フク土	①口縁部片②- ③④(5.3)	①C 細粗砂粒・チャー ト・粗鉄鉱粗 砂粒・石英②浅黄橙③ B3	-	①- ②-	-	①12 ②-	外面刻筋。外面タテハケ、内面ナメハケ。
第267図 PL.100	3	円筒埴輪 フク土	①口縁部片②- ③④(2.5)	①C 細粗砂粒②浅黄橙 ③B2	-	①- ②-	-	①8 ②B1	口縁部横ナデ、外面タテハケ、内面ナデ。
第267図 PL.100	4	円筒埴輪 フク土	①胴部片②- ③④(5.6)	①C 細粗砂粒・チャー ト・粗鉄鉱粗 砂粒②橙③B2	-	①台1 ②-	-	①12 ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ。突 帯断面形状は三角形に似た台形状である。
第267図 PL.100	5	円筒埴輪 フク土	①胴部片②- ③④(4.5)	①C 細粗砂粒・チャー ト・粗鉄鉱粗②橙③B2	-	①B2 ②-	-	①9 ②-	外面タテハケのち突帯貼り付け。内面ナデ。突 帯断面形状はM字状である。
第267図 PL.100	6	円筒埴輪 ▽16.3	①部位不明②- ③④(6.4)	①C 細粗砂粒・チャー ト・粗鉄鉱粗②黄橙 ③B3	-	①- ②-	-	①10 ②-	赤彩有。外面横ナデ、タテハケ。内面ナデ。
第267図 PL.100	7	円筒埴輪 ▽12.0	①底部片②- ③④(7.3)	①B 細粗砂粒・チャー ト・粗鉄鉱粗②橙③B2	-	①- ②-	-	①10 ②-	外面タテハケ、内面ナデ。
第267図 PL.100	8	形象埴輪人物 フク土	①首～顔片 ②(3.2) ③(7.0)④1.3	①B 細粗砂粒・チャー ト・粗鉄鉱粗粗砂粒 ②③④黄橙③B2	-	①- ②-	-	①②- ②-	人物顔部片。口か眼の切り込みが造作されてい る。内面は絞り込みが認められる。
第268図 PL.100	9	形象埴輪人物 フク土	①人物顔片 ②(5.3) ③(5.1)④2.4	①B 細粗砂粒・チャー ト・粗鉄鉱粗粗砂粒 ②橙③B2	-	①- ②-	-	①②- ②-	人物腕の一部、屈曲した状態で、縦方向に平截 の状況である。おそらく、肩から腕の付け根の 部位と想定する。肩上部付近に赤色塗彩の痕跡 あり。
第268図 PL.100	10	形象埴輪人物 フク土	①人物勾玉片 ②(1.9) ③(1.1)④0.8	①B 細粗砂粒・チャー ト・粗鉄鉱粗粗砂粒 ②橙③B2	-	①- ②-	-	①②- ②-	やや屈曲し、両端が欠損している。勾玉の破片の 可能性あり。
第268図 PL.100	11	形象埴輪馬形 ▽21.4	①馬破片 ②(5.0) ③(6.9)④2.6	①B 細粗砂粒・チャー ト・粗鉄鉱粗粗砂粒 ②橙③B2	-	①- ②-	-	①②- ②-	円弧状を呈する先端から切り込みが入る。本体 は、半分ほど欠損している。内側には押圧の痕 跡あり。馬の口の破片の可能性ある。
第268図 PL.100	12	形象埴輪家形 フク土	①家脚木片 ②(3.1) ③(2.8)④3.4	①B 細粗砂粒・チャー ト・粗鉄鉱粗粗砂粒 ②橙③B2	-	①- ②-	-	①②- ②-	先が開く円柱状で、反対側は欠損している。馬 タテガミの先端か、家脚木の破片の可能性あり。
第268図 PL.100	13	形象埴輪馬形 フク土	①馬脚片 ②(6.2) ③(6.8)④1.6	①B 細粗砂粒・チャー ト・粗鉄鉱粗粗砂粒 ②橙③B2	-	①- ②-	-	①②- ②-	馬脚部。切開り接合の切開面が認められる。外 面タテハケ、内面ナデ。
第268図 PL.100	14	形象埴輪馬形 ▽26.3	①蹄②(1.7) ③(2.6)④2.1	①B 細粗砂粒・チャー ト・粗鉄鉱粗粗砂粒 ②橙③B2	-	①- ②-	-	①②- ②-	少し歪んだ球形部の斜め下に繫目を表現して おり、鈴と分かる。裏面に刺繍跡あり。馬 か人物に付けられていたものと思われる。

挿図 PL.No.	No.	器種 出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 変帯 透孔		①外側 ②内側	特徴	備考
					分類 項目	①第1 ②第2			
第268図 PL.100	15	形象埴輪馬形 フク土	①蹄②(1.6) ③2.8④2.2	①B 細粒砂粒・チャー ト・硃鉄藍 粗粒砂粒 ②橙③藍	-	①- ②-	①- ②-	少し歪んだ球形部の割れ下側に頸け目を表現して おり、鈴と分る。裏面に割離痕跡あり。馬 か人物に付けられていたものと思われる。	
第268図 PL.100	16	形象埴輪不明 ①・21.3	①器種・部位 不明②(3.9) ③(5.9)④(2.3)	①B 細粒砂粒・チャー ト・硃鉄藍 粗粒砂粒 ②橙③藍	-	①- ②-	①- ②-	山形状の外形で、下部と側片の一方が直線状 に成たれ、割離痕跡がある。種類・部位不明。	
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第268図 -	17	土師器 フク土 口縁部→胴部上 位片	口	12.4			細粒砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラ ナデ。	

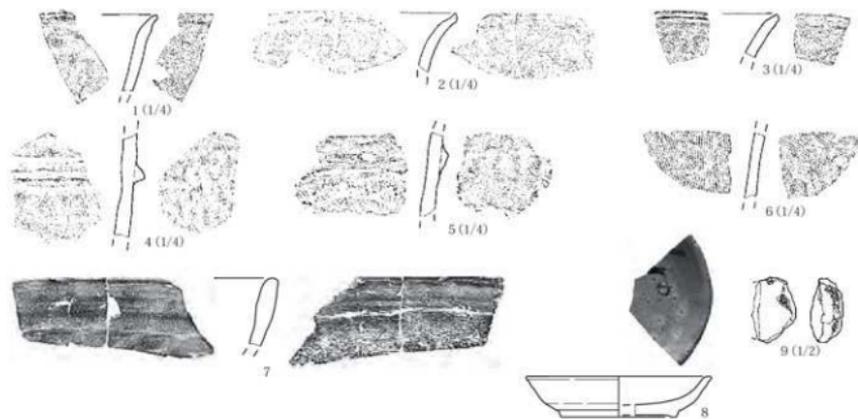
R3-6区遺構外

挿図 PL.No.	No.	器種 出土位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 変帯 透孔		①外側 ②内側	特徴	備考
					分類 項目	①第1 ②第2			
第268図 PL.101	1	円筒埴輪 フク土	①口縁部②- ③-④(5.9)	①C 細粒砂粒・チャー ト 粗粒砂粒・硃鉄藍粗 粒砂粒②浅黄橙③藍	B4	①- ②-	①8 ②7	口縁部横ナデ、外面タテハ、内面ヨコハケ。	
第268図 PL.101	2	円筒埴輪 フク土	①口縁部②- ③-④(4.7)	①C 細粒砂粒・チャー ト 粗粒砂粒②浅黄橙 ③C	A1	①- ②-	①- ②10	内外面ナメハケ。	やや摩耗。
第268図 PL.101	3	円筒埴輪 フク土	①口縁部②- ③-④(4.4)	①C 細粒砂粒・チャー ト 粗粒砂粒②浅黄橙 ③C	B1	①- ②-	①7 ②7	口縁部横ナデ、外面タテハ、内面ナメハケ。	やや摩耗。
第268図 PL.101	4	円筒埴輪 フク土	①口縁部②- ③-④(4.0)	①C 細粒砂粒・チャー ト 粗粒砂粒・硃鉄藍 粗粒砂粒②橙③C	B1	①- ②-	①- ②-	口縁部横ナデ。	摩耗激しい。
第268図 PL.101	5	円筒埴輪 フク土	①口縁部②- ③-④(3.9)	①C 細粒砂粒・チャー ト 粗粒砂粒②浅黄橙 ③藍	B1	①- ②-	①7 ②-	内面ヘラ記号。口縁部横ナデ、外面ナメハケ、 内面ヨコハケ。	
第268図 PL.101	6	円筒埴輪 フク土	①胴部②- ③-④(8.5)	①C 細粒砂粒・チャー ト 粗粒砂粒②浅黄橙 ③藍	-	①藍 ②-	①7 ②-	外面タテハのち突帯貼り付け。内面ナデ。突 帯断面形状はM字状、透かし孔円形。	
第268図 PL.101	7	円筒埴輪 フク土	①胴部②- ③-④(9.8)	①C 細粒砂粒・チャー ト 粗粒砂粒②浅黄橙 ③藍	-	①藍 ②-	①13 ②-	外面タテハのち突帯貼り付け。内面ナデ。突 帯断面形状はM字状である。	
第268図 PL.101	8	円筒埴輪 フク土	①胴部②- ③-④(4.0)	①C 細粒砂粒・チャー ト 粗粒砂粒②浅黄橙 ③藍	-	①台1 ②-	①- ②-	外面調整不明、内面ナデ。突帯断面形状は台形状。 透かし孔は半円形である。	摩耗激しい。
第268図 PL.101	9	円筒埴輪 フク土	①胴部②- ③-④(6.8)	①C 細粒砂粒・チャー ト 粗粒砂粒・硃鉄藍 粗粒砂粒②浅黄橙③藍	-	①藍 ②-	①11 ②11	外面タテハのち突帯貼り付け。内面ナデ・ナ メハケ。突帯断面形状はM字状である。	
第268図 PL.101	10	円筒埴輪 フク土	①胴部②- ③-④(4.4)	①C 細粒砂粒・チャー ト 粗粒砂粒②浅黄橙 ③藍	-	①藍 ②-	①11 ②-	外面タテハのち突帯貼り付け。内面ナデ。突 帯断面形状はM字状である。	
第268図 PL.101	11	円筒埴輪 フク土	①胴部②- ③-④(3.6)	①C 細粒砂粒・チャー ト 粗粒砂粒②明赤褐 ③藍	-	①台2 ②-	①- ②-	外面タテハのち突帯貼り付け。内面ナデ突帯 断面形状は三角形に近い台形状である。	
第268図 PL.101	12	円筒埴輪 フク土	①胴部②- ③-④(2.7)	①C 細粒砂粒・チャー ト 粗粒砂粒②浅黄橙 ③藍	-	①- ②-	①12 ②-	外面タテハ、内面ナデ。透かし孔円形。	やや摩耗。
第268図 PL.101	13	円筒埴輪 フク土	①胴部②- ③-④(5.2)	①C 細粒砂粒・チャー ト 粗粒砂粒②浅黄橙 ③藍	-	①- ②-	①10 ②9	外面タテハ、内面ナメハケ。透かし孔半円形。	
第268図 PL.101	14	円筒埴輪 フク土	①底部②- ③-④(9.1)	①C 細粒砂粒・チャー ト 粗粒砂粒②浅黄橙 ③藍	-	①- ②-	①11 ②-	外面タテハ、内面ナデ。	
第268図 PL.101	15	円筒埴輪 フク土	①底部②- ③-④(8.7)	①C 細粒砂粒・チャー ト 粗粒砂粒・硃鉄藍 粗粒砂粒②浅黄橙③藍	-	①- ②-	①8 ②10	外面タテハ、内面ナデ・ヨコハケ。	
第268図 PL.101	16	円筒埴輪 フク土	①底部②- ③-④(7.1)	①C 細粒砂粒・チャー ト 粗粒砂粒・硃鉄藍 粗粒砂粒②浅黄橙③藍	-	①- ②-	①10 ②-	外面タテハ、内面は割離しており調整不明。 底部にへこみあり。	内面割離

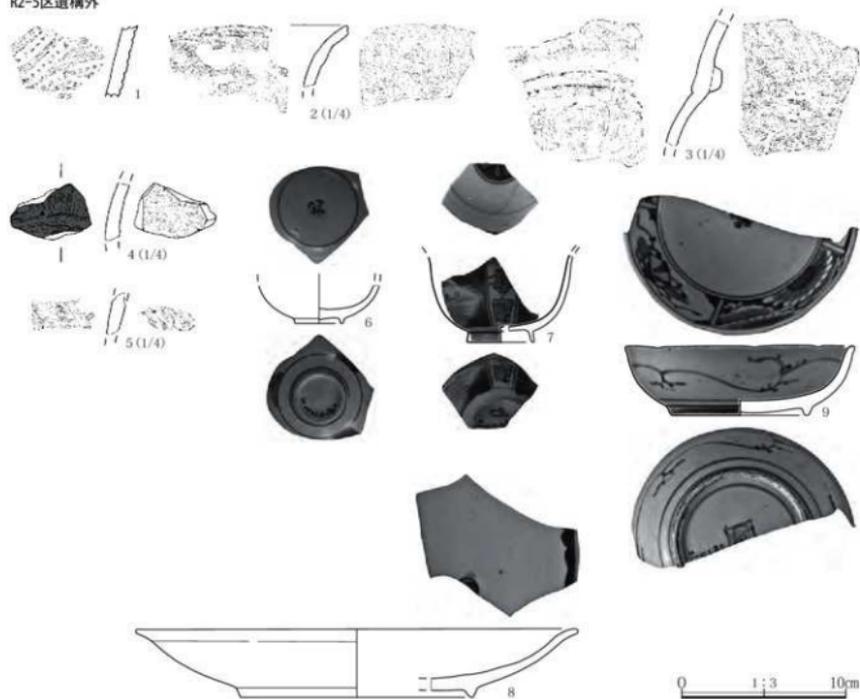
岩鼻赤城遺跡 遺物観察表

採 掘 PL.No.	No.	器 種 出土位置	①部位①口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 変帯 透孔		N/A	①外側② ④内側	特徴	備考
					分類 項目	①第1 ②第2				
第26904 PL.101	17	円筒埴輪 フク土	①底部片②- ③④4.9④	①C 細粗砂粒・チャート ②細粗砂粒③浅黄粒③A2	-	①- ②-	-	①8 ②10	底部へへこみあり。外面タテハケ。内面ヨコハケ。	
第26904 PL.101	18	形象埴輪人物 フク土	①人物左頸片 ②③5.3 ④7.4④1.7	①B 細粗砂粒・チャート ②・粗鉄鉱 細粗砂粒 ③にふい黄粒③A2	-	①- ②-	-	①12 ②-	人物顔面の左頸付近の破片の可能性あり。顔面は剥離している。口の一部分と思われる切り込み面あり。頸部などに一部赤色塗彩の可能性あり。外面ハケ後ナデ。内面指頭押圧痕跡あり。	
第26904 PL.101	19	形象埴輪人物 フク土	①人物胸片 ②③3.9 ④3.0④2.3	①B 細粗砂粒・雑 チャート細粗砂粒② 浅黄粒③A1	-	①- ②-	-	①10 ②-	人物胸の一部。縦方向に半環の状況である。	
第26904 PL.101	20	形象埴輪人物 フク土	①人物装具片 ②④4.6 ③③.9④2.5	①B 細粗砂粒・チャート ②・粗鉄鉱 細粗砂粒 ③浅黄粒③A2	-	①- ②-	-	①- ②-	板状の本体部に装着する形で、断面半円形状の装具を付けている。刀子などの装具の可能性あり。赤色顔料塗彩の可能性あり。	
第26904 PL.101	21	形象埴輪馬形 フク土	①馬耳片 ②⑤.6 ③⑧.9④1.4	①B 細粗砂粒・チャート ②・粗鉄鉱 細粗砂粒・ 礫③A2	-	①- ②-	-	①- ②-	馬の耳が欠損した可能性が高い箇所。裏側には絞り込むような痕跡がある。また耳跡の前には革帯を表現したと推定される隆帯がある。ただし、一部しか残存していないので、断言できない。	
第26904 PL.101	22	形象埴輪馬形 フク土	①馬脚底部片 ②⑥.4 ③④.7④1.8	①B 細粗砂粒・チャート ②・粗鉄鉱 細粗砂粒 ③浅黄粒③A2	-	①- ②-	-	①12 ②-	馬脚底部。つづめを表現する割り込みの一部が認められる。外面細かいタテハケ。内面ナデ。	
第26904 PL.101	23	形象埴輪馬形 フク土	①馬脚片 ②⑤.3 ③④.8④1.1	①B 細粗砂粒・チャート ②・粗鉄鉱 細粗砂粒 ③浅黄粒③A2	-	①- ②-	-	①13 ②-	内湾して円弧状を呈している。上下左右が欠損し全体像が不明でない。馬脚の可能性あり。	
第26904 PL.101	24	形象埴輪家形 フク土	①家四柱部片 ②⑫.9 ③⑭.9④2.2	①B 細粗砂粒・チャート ②・粗鉄鉱 細粗砂粒 ③A2	-	①- ②-	-	①- ②-	家四柱部の破片。下部の横方向の変帯の一部を残して剥離している。変帯の上部側縁に即して窓か入口と思われる直角状に切り込まれた穴の一部が残る。底部にも円弧状の切り込みが半分ほど確認できる。	
第26904 PL.101	25	形象埴輪家形 フク土	①家四柱部 ②⑫.5 ③⑭.3④2.1	①B 細粗砂粒・チャート ②細粗砂粒③A2	-	①- ②-	-	①8 ②-	ごく緩やかに横方向に内湾する板状品。2条の変帯が下部にあり、下段の変帯は、断面M字状で、すぐ上に位置する変帯は断面三角形形状である。下段の変帯の下側縁に沿って透し穴が直線状に2cmほど開いていた痕跡がある。横方向の変帯と下段部の割り込みと考えれば家の四柱部の底部付近の部位の可能性あり。外面タテハケ。内面ナデ。	
第26904 PL.101	26	形象埴輪家形 フク土	①家破片 ②⑤.4 ③⑥.0④2.8	①B 細粗砂粒・チャート ②細粗砂粒③浅黄 粒③A2	-	①- ②-	-	①9 ②-	緩やかに内湾する板状品。方側面には、造作面があり、家の窓・入口の側縁の可能性あり。表裏ともに欠損多い。	
第26904 PL.101	27	形象埴輪不明 フク土	①器種・部位 不明②④.8 ③④.9④1.9	①B 細粗砂粒・チャート ②・粗鉄鉱 細粗砂粒 ③にふい黄粒③A2	-	①- ②-	-	①- ②-	板状品。円弧状を呈する先端部以外は欠損が多い。裏側に剥離痕跡あり。種類・部位不明。	
第26904 PL.101	28	形象埴輪不明 フク土	①器種・部位 不明②③.3 ③④.9④1.3	①B 細粗砂粒・チャート ②・粗鉄鉱 細粗砂粒・ 礫③浅黄粒③A1	-	①- ②-	-	①12 ②-	頸の一部のように、斜めに傾斜後に、上に立ち上がる。外面ハケ。内面ナデ。種類・部位不明。	
第26904 PL.101	29	形象埴輪不明 フク土	①器種・部位 不明②⑥.6 ③⑦.6④1.6	①B 細粗砂粒・チャート ②・粗鉄鉱 細粗砂粒・ 礫③A1	-	①- ②-	-	①- ②-	円弧状を呈する。四辺が欠損し全体像不明。外面細かいハケ。赤色塗彩。内面ナデ。種類・部位不明。	
第26904 PL.101	30	形象埴輪不明 フク土	①器種・部位 不明②⑤.9 ③⑤.4④1.6	①B 細粗砂粒・チャート ②・粗鉄鉱 細粗砂粒・ 礫③浅黄粒③A2	-	①- ②-	-	①- ②-	緩やかに内湾する製品。外面はナデ。内面には、剥離痕がある。種類・部位不明。	
第26904 PL.101	31	形象埴輪不明 フク土	①器種・部位 不明②③.5 ③④.4④1.3	①B 細粗砂粒・チャート ②細粗砂粒③A1	-	①- ②-	-	①- ②-	やや鋭角状の角部を有する板状品。外面丁寧なナデ。内面ナデ。種類・部位不明。	
第26904 PL.101	32	形象埴輪不明 フク土	①器種・部位 不明②③.9 ③⑤.4④1.0	①B 細粗砂粒・チャート ②・粗鉄鉱 細粗砂粒 ③浅黄粒③A1	-	①- ②-	-	①- ②-	屈曲した板状品。剥離が多い。種類・部位不明。	
採 掘 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴		備考	
第26904 -	33	瓦 十能瓦	フク土 破片	長	厚	1.0	/灰白/	軟質の型作りで十能瓦であろう。現段階における分布の西限か。	江戸時代～現代	

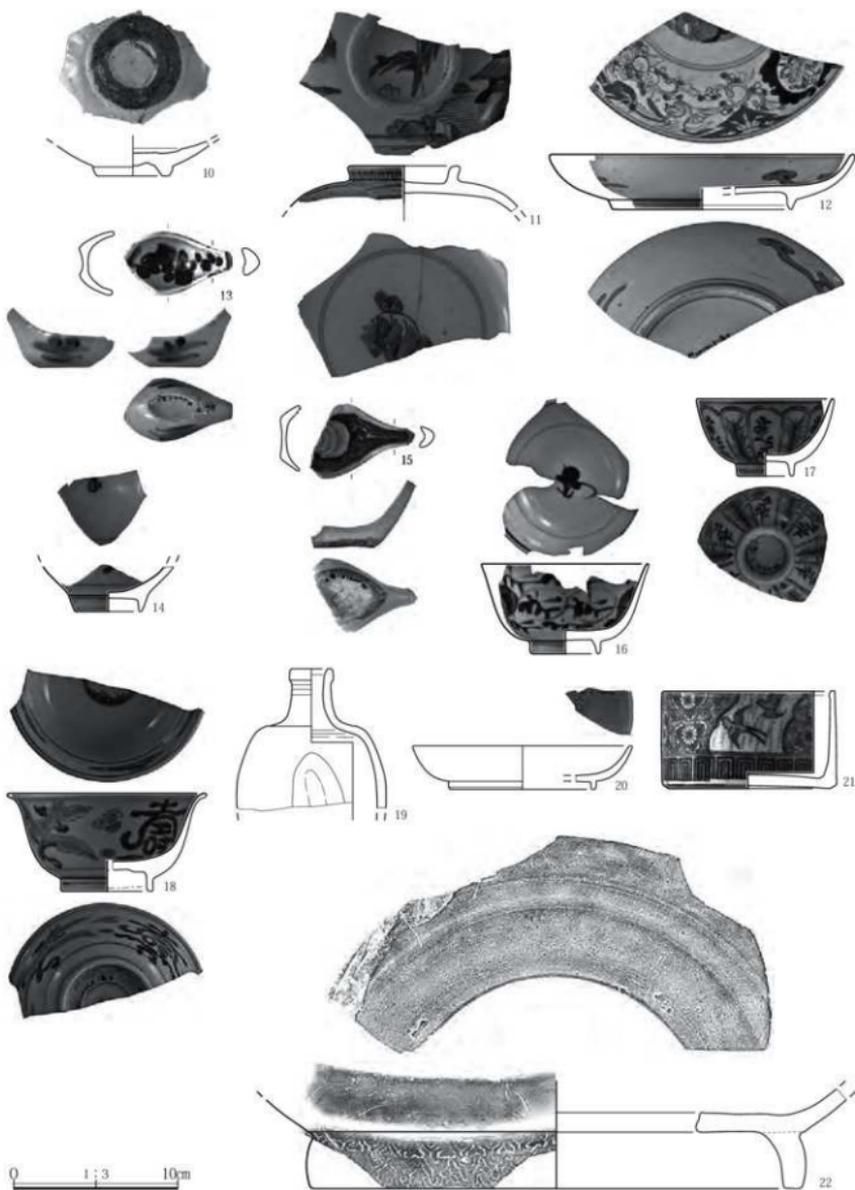
R2-5区1号溝



R2-5区道構外



第270図 R2-5区1号溝、道構外出土遺物 1



第271図 R2-5区遺構外出土遺物2

R2-5区1号溝

種別 PL.No.	No.	器種 出位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 変形 項目	突帯 分類 ①第1 ②第2	透孔 形状	跡 ①外 ②内	特徴	備考
第27006 PL.102	1	円筒埴輪 フク上	①口縁部②- ③-④<6.5>	①D 細粗砂粒・チャート 粗砂粒②明赤褐色③ ②	A1	①- ②-	-	①13 ②8	口縁部横ナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ。	
第27006 PL.102	2	円筒埴輪 フク上	①口縁部②- ③-④<5.1>	①C 細粗砂粒・チャート 粗砂粒・海狗骨針 ①浅黄褐色③C	A4	①- ②-	-	①- ②-	内外面ナデ	摩耗激しい。
第27006 PL.102	3	円筒埴輪 フク上	①口縁部②- ③-④<4.1>	①D 細粗砂粒・チャート 粗砂粒②赤褐色③E	A1	①- ②-	-	①- ②-	口縁部横ナデ	
第27006 PL.102	4	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④<8.6>	①D 細粗砂粒・チャート 粗砂粒②橙③E	-	①台3 ②-	-	①- ②-	外面タテハケ、内面ナデ。	摩耗激しい。
第27006 PL.102	5	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④<6.7>	①B 細粗砂粒・チャート 粗砂粒・片岩粗 砂粒②浅黄褐色③E	-	①M1 ②-	-	①6 ②6	外面タテハケ、内面ナメハケ。突帯は断面M 字状である。	
第27006 PL.102	6	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④<5.1>	①D 細粗砂粒・チャート 粗砂粒②赤褐色③E	-	①- ②-	-	①9 ②7	外面タテハケ、内面ナメハケ。	
種別 No.	No.	種類 器種	出位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等			成形・整形の特徴		備考
第27006 -	7	在地系土器 焙烙	フク上 口縁部から底部 片	口 底	-	高	-	黒色藍釉、石英含 む/黒/	器表付近灰白色、器裏暗灰色。外面中位に接合痕。耳部欠損。	江戸時代
第27006 PL.102	8	瀬戸・美濃 陶器 鉄鉢皿	フク上 1/4	口 底	(11.4)	高 (7.0)	2.5	/灰白/	内面に鉄絵。内面から高台端部付近に灰絵。底部内面に 目痕1カ所残る。	17世紀前半～ 中葉
第27006 -	9	石製品 火打石	フク上 1/2	長 幅	2.6 (1.8)	厚 重 7.3		石英//	板状割片の縁部が鋭行ざれられる。比較的均質な石英で 比較的良質だが、やや軟質石材の部類か。	

R2-5区遺構外

種別 PL.No.	No.	器種 出位置	①部位②口径 ③底径④高(cm)	①胎土②色調③焼成	口縁 変形 項目	突帯 分類 ①第1 ②第2	透孔 形状	跡 ①外 ②内	特徴	備考
第27006 PL.102	2	円筒埴輪 フク上	①口縁部片 ②-③-④<6.0>	①C 細粗砂粒・チャート 粗砂粒・片岩粗 砂粒②橙③E	B2	①- ②-	-	①11 ②-	口縁部横ナデ、外面タテハケ、内面ヨコ、ナメ ハケ。	
第27006 PL.102	3	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④<10.3>	①C 細粗砂粒・小礫、 石英粗砂粒、チャート 粗砂粒②橙③E	-	①E3 ②-	-	①13 ②15	外面タテハケ、内面ヨコ、ナメハケ。突帯 は断面M字状である。	やや摩耗。
第27006 PL.102	4	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④<4.7>	①C 細粗砂粒・チャート 粗砂粒②橙③E	-	①- ②-	-	①10 ②-	外面タテハケ。下部に横ナデ一条、突帯か。内 面ナデ。	やや摩耗。
第27006 PL.102	5	円筒埴輪 フク上	①胴部片②- ③-④<3.7>	①C 細粗砂粒・チャート ・石英粗砂粒② 橙③E	-	①- ②-	-	①17 ②-	外面タテハケ、内面ヘラナデ。	鋭利か。やや 摩耗。
種別 PL.No.	No.	種類 器種	出位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等			成形・整形の特徴		備考
第27006 PL.102	1	縄文土器 深鉢	フク上 胴部破片						粗砂、礫石/良好/ 斜位、弧状の連続凹形を施す。	諸磯式
第27006 PL.102	6	肥前磁器 染付小丸碗	フク上 底部	口 底	-	高 2.9	-	/白/	外面に染付。底部内面1重圏線内に簡略化した五弁花。透 明釉に貫入する。	18世紀後半～ 19世紀前半
第27006 PL.102	7	肥前磁器 染付端反碗	フク上 体部から底部 1/4	口 底	-	高 (4.0)	-	/白/	体部外面に「福寿」と惣絵の染付。口縁部内面幅広と広い 圈線。底部内面1重圏線内に不明文様。焼跡。高台内に焼 継時の文字か記号あり。	19世紀前半～ 中葉
第27006 PL.102	8	肥前磁器 染付皿	フク上 口縁部一部、底 部1/8	口 底	(26.8)	高 (14.0)	4.2	/白/	焼継。口縁部内面と底部内面に染付。	18世紀後半～ 19世紀中葉
第27006 PL.102	9	肥前磁器 染付皿	表上 1/2	口 底	(13.9)	高 8.4	4.2	/灰白/	口縁端部輪花に作る。体部内面に花文と宝文？。底部内 面はコンニャク印判による五弁花。体部外面に唐草文。 高台内1重圏線内に1重角内の過福字文。	18世紀中葉～ 後半
第27106 PL.102	10	肥前磁器 皿	表上 底部	口 底	-	高 4.4	-	/白/	内面から高台部透明釉。底部内面蛇の目輪割ぎ。残存部 は無文。	17世紀後半～ 18世紀中葉
第27106 PL.102	11	肥前磁器 染付蓋か	フク上 天井部2/3	口 幅	-	高 6.9	-	/白/	外面とつまみ内に線描きを中心とした染付。つまみ端部 無輪。天井部2重圏線内に不明文様。	19世紀前半～ 中葉
第27106 PL.102	12	肥前磁器 上絵皿	フク上 1/3	口 底	(18.5)	高 (10.9)	3.4	/白/	鳳凰？と唐草文、丁字等は赤絵で他は染付。高台内1重 圏線。	近現代

岩鼻北上北道跡 遺物観察表

採 集 PL_No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第17106 PL_103	13	肥前磁器か 染付散蓮華	表上 2/3	長 幅	- 3.9	高 -	/白/	側面と内面に染付。文様は簡略化され、呉須の色調は濃い、 下面設置部分のみ無軸。	19世紀
第17106 PL_103	14	瀬戸・美濃 磁器 染付広東碗	フク土 底部1/3	口 底	- (4.0)	高 -	/白/	外面染付。底部内面1重圏線内に不作文様。	19世紀前半～ 中葉
第17106 PL_103	15	瀬戸・美濃 磁器か 染付散蓮華	フク土 2/3	長 幅	- -	高 -	/白/	型押し成形で内面に開刻文。線を開刻した部分に呉須を 入れる。底部外面無軸。酸化コバルト使用か。	近代
第17106 PL_103	16	瀬戸・美濃 磁器か 染付端反碗	表上 口縁部一部、底 部完	口 底	(10.1) 4.0	高 5.5	/白/	外面に簡略化した唐草文。口縁部内面に幅広の1重圏線。 底部内面1重圏線内に不作文様。	19世紀中葉
第17106 PL_103	17	瀬戸・美濃 磁器か 染付碗	フク土 口縁部1/3、底 部完	口 底	(8.3) 3.2	高 4.7	/白/	外面ゴム印版による染付。高台内1重圏線。	近現代
第17106 PL_103	18	製作地不詳 染付鉢	フク土 1/2	口 底	(12.0) (5.6)	高 6.0	/白/	外面に「壽」字と植物文の染付。口縁部内面は團扇間に簡 略化した飛雲と龍文。底部内面不作文様。蛇の目四脚高 台で高台内の圏線内に不明路。	19世紀
第17106 PL_103	19	瀬戸・美濃 陶器 踏輪徳利	フク土 口縁部完、体部 1/3	口 底	2.5 -	高 -	/浅黄/	残存する体部の一方を覆ませる。頸部内面から外面に踏 軸。	18世紀後半～ 19世紀前半
第17106 PL_103	20	眼平焼か 皿	フク土 1/8	口 底	(13.2) (8.8)	高 2.7	/灰白/	内面に龍文を型押し。高台端部を除き黄色軸。	近代
第17106 PL_103	21	製作地不詳 磁器 蓋物か殺重	フク土 口縁部一部欠	口 底	10.5 9.8	高 6.0	/白/	外面に銅板転写による唐草文と鳥の染付。鳥の背後にし たれ繻状の文様を緑色下絵で描く。蓋か上段が重なる箇 所の軸を割く。底部外面無軸。	近現代
第17106 PL_103	22	在地系土器 蓋重火鉢	フク土 底部1/4	口 底	- (29.7)	高 -	複雑な片岩含む/ 灰/	体部外面は型による施文。高台貼り付け。底部に焼成前 の円孔。円孔部の蓋は出土していない。	近現代

第11章 まとめ

1. 岩鼻天神遺跡・岩鼻赤城遺跡調査古墳について

県道前橋長湊線整備にかかわる一連の発掘調査において、「高崎工区」の南側寄りに位置する岩鼻天神遺跡、岩鼻赤城遺跡から合計11基の古墳が検出された(調査時には溝の遺構名称が付けられ、報告では古墳周囲の遺構名称が併記されている。付図参照)。いずれの古墳も1938(昭和13)年刊行の『上毛古墳総覧』(以下『総覧』)、1998年作成の『高崎市遺跡分布地図』に記載のない未周知の古墳であった。

今回検出された古墳についての調査所見は第8章・第9章で報告したとおりであるが、本稿ではこれらの古墳の概要について再述する中で、その形成内容、時期について改めて整理し、綿貫古墳群をはじめとした烏川・井野川下流域の古墳分布中における岩鼻天神遺跡・岩鼻赤城遺跡調査古墳の位置づけについて若干の検討を加えてみたい。

1 今回検出した古墳の概要

(1) 遺跡の立地

岩鼻天神遺跡、岩鼻赤城遺跡は、地形区分としては井野川低地帯に属し、その南西部に位置する。

両遺跡地の西側は高崎台地が接している。第3図にみられるよう両遺跡の西側には高崎台地と井野川低地帯を区分する崖線が南北方向に延びる。比高は3～5mである。両遺跡はこの崖線に貼り付くよう広がる微高地上に立地する。南方約500mには烏川が東流し、下流約1.2kmで支流の井野川が合流している。北側は井野川の支流である粕川が崖線に沿って南方向に流下し、岩鼻延養寺遺跡の北側で東方向に向きを変え、蛇行して東流、その後、井野川に合流している。粕川は河道にそって幅の狭い低地が付随していたようである。

両遺跡は、現在の土地利用の状況からはつぶさに判断することは困難であるが、烏川、そしてその支流の井野川、粕川に囲まれた低地内の狭い微高地上に展開していたものと考えられる。

微高地は井野川・烏川の流路に向かって緩やかに傾斜しており、現前橋長湊線の現道から東方に100～200mの

地点にわずかな段差がついている。

(2) 調査前の土地利用

調査前の土地利用状況であるが、両遺跡地の県道東側部分は日本化薬高崎工場(旧岩鼻火薬製造所)・土木建設会社の敷地であった。西側部分は多くが商用地として使用されていたが、以前は製材所、農耕地として利用されていた。

明治初期に作成された「壬申絵図」では粕川北側の綿貫村地内岩鼻二子山古墳以南には、地目を萩畑とする円形地割が多数認められ、古墳の存在が推定されている。¹⁾ 岩鼻村字天神の調査対象地とその周辺の地目は、畑地が主体で、水田は粕川南側の字町田に一部認められる程度で、旧中山道の北側一帯、烏川、井野川に接する地帯には農地が広がり、古墳の痕跡を残す地割はほとんど認められない。

1880(明治13)年作成の国立公文書館収蔵の「公文附属の図、一八七号 群馬県下岩鼻火薬製造所」には岩鼻火薬製造所用地周辺、岩鼻村地内の井野川右岸から倉賀野町の烏川左岸の水源水路取水口までの地割、土地地の状況が記されている。この図中には倉賀野町字大応寺から岩鼻村字龍宮をはじめ、古墳と考えられる土山の表示が多数認められる。火薬製作所用地の西側、字塚合に3基、字天神にも2基土山の記載が認められる。用地内の字塚合にも不鮮明であるが1基記載されているようである。密集度は推測しがたいが、一定数の古墳が築造されていたことが知られる。

字塚合の3基は、『総覧』岩鼻村第5・8・9号古墳と推定される。字天神の2基のうちの1基が『総覧』岩鼻村第4号と推定される。今回の調査対象地に土山の記載がないことは「壬申絵図」に見られた土地利用状況と同様である。

1982(明治15)年から1905・1906(明治38・39)年作成と考えられる「旧東二遺火薬製造所統括図」にはその後、火薬製造所が拡張されたため、1935(昭和10)年の『総覧』作成時の調査の際には「陸軍省用地」として立ち入りが不可能となる以前の岩鼻村内の地割が表示されており、津金澤吉茂氏らの研究では『総覧』岩鼻村第4号から9号古墳

の位置の特定と、推定地が提示されている。¹²⁾火薬製造所東側、粕川の下流側にも古墳と考えられる地割が少数見える。

昭和10年代作成の「岩鼻村耕地図」ではその位置が比定でき、「総覧」にも登載された岩鼻村第4・5・8・9号古墳も、その後、火薬製造所敷地が現前橋長瀬線まで拡張されたため、その後の経過を知ることができなくなってしまった。

以上のように、当該地域に残された地図資料等を一覧した結果、今回検出した古墳が小規模で低墳丘であったことから、比較的早くに削平され、江戸時代末から明治時代初期には当該地の土地利用には既に特別な影響を与えるような存在でなかったことがうかがえる。

なお、調査地の古墳群形成前の土地利用の状況であるが、岩鼻天神遺跡で古墳時代前期、4世紀の竪穴建物が検出されていることから、竪穴建物廃絶から古墳築造ま

での段階で土地利用が居住域から墓域に大きく変化していたことは第8章に報告のとおりである。台地上の岩鼻・延養寺遺跡では方形周溝墓が検出されている。

(3) 検出された古墳の概要

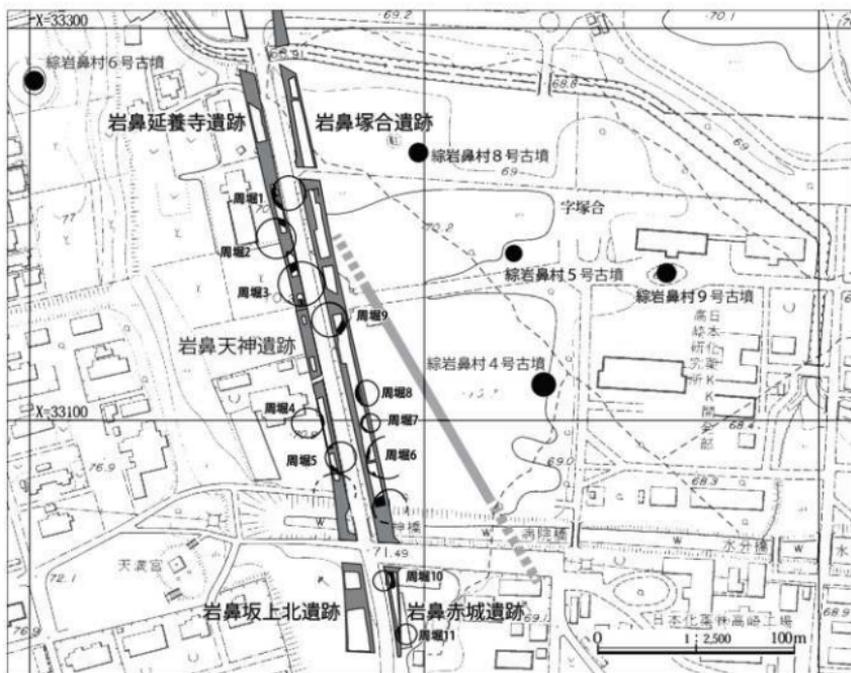
今回の調査では岩鼻天神遺跡で9基、岩鼻赤城遺跡で2基の古墳が検出された(付図6～8、第272図参照)。

調査地が現道の拡幅部分を対象としたため、個々の調査区が狭小で、いずれの古墳も墳丘を巡る周堀の一部が検出されるに止まった。

各々の古墳は、その形状からいずれも円墳と推定される。想定される復元径は、第8章・第9章に記載したとおりであるが、周堀7の約8mを最小に、最大は周堀6の約17mで、約14mから16mが5基である。

周堀の規模は周堀3・9が約3m、小規模な周堀7で約1mである。

周堀内の埋没土は上層にAs-Bを含む黒色土の堆積は記



第272図 岩鼻天神・岩鼻赤城遺跡の古墳周堀と総覧掲載の岩鼻村古墳分布(高崎市都市計画図 昭和54年 使用)

録されているが、6世紀初頭降下とされる榛名二ツ岳活川テフラ(Hr-FA)についての記載はみられない。北方900mに位置し、5世紀前半の築造と考えられる不動山古墳では内堀、外堀のいずれも底面近くにHr-FAの純層が堆積している。今回検出した古墳周堀の場合は、周堀が完全に埋没した後Hr-FAが降下したか、Hr-FAが降下した後周堀が掘削されたかのいずれかになる。後述する出土埴輪の特徴からは後者の可能性が高い。

土地利用の経過に記したように早くから墳丘の削平が進行したことがうかがわれ、墳丘盛土等の存在は確認されなかった。ただし、岩鼻赤城遺跡の周堀10には列石が存在して可能性が高い。

埋葬施設については調査区が墳丘中央部に及んでいないこともあり、検出することはできなかった。

倉賀野東古墳群大道南群では6世紀前半の玄室平面がL字形や、袖無形・両袖形の横穴式石室が採用されている。若宮古墳群9号墳も埋葬施設は横穴式石室のようである。本遺跡においても横穴式石室が採用されていたことが考えられる。

出土資料としては周堀あるいは、これと重複、近接する遺構から埴輪片が多数出土している。原位置からの出土は皆無である。古墳に伴うと考えられる土師器・須恵器の出土は周堀5の土師器片を除いて確認されていない。

個々の古墳の位置関係は、付図にみるよう周堀の外縁と外縁の距離が周堀1と周堀2で周堀外縁同士の間が5m弱、周堀4と周堀5の間が約8mというように、5mから8mの間隔で築造されていることがわかる。

第272図を参照するとわかるように南北の長さ約250m、道路幅幅の間隔が幅約22～25mの調査区の中に11基を検出したことになる。この状況は極めて密集した状態に近いものである。

調査区外への古墳の広がりを想定することは困難であるが、北側には粕川の流路が、西側は高崎台地東端の崖線があり、これにより地形が画されている。両遺跡の北から東側に位置する字塚合には『綜覧』岩鼻村第5・8・9号古墳の存在が記録されている。この3基の中で一番東側に位置していたと考えられる『綜覧』岩鼻村第9号墳と遺跡の最北端で検出した周堀1との距離は230mとなる。

また、今回の再検討で字天神内、調査地の東側に存在していたことが再確認された『綜覧』岩鼻村第4号古墳と

調査地点との距離は約110mである。

これらが今回調査の古墳と同一の古墳群に含まれると仮定した場合、その古墳群の範囲は最大東西約200m、南北約250mと想定され、その中に相当数、20基、あるいはそれを超える古墳が築造されていたことが考えられる。その状態は、『綜覧』調査時に約70基の古墳が確認された岩鼻町龍宮から倉賀野町大応寺にかけて広がる倉賀野東古墳群大応寺群の在り方に近いものであったと考えられる。

(4) 出土した埴輪の概要

・円筒埴輪の出土状況とその様相

周堀6を除く10基の周堀から円筒埴輪が出土している。円筒埴輪には普通円筒と朝顔形埴輪の両者が確認できたが、いずれも破片資料で、一部の残存に止まり、全体形状を知ることができる資料は皆無であった。普通円筒には胴部に3条の突帯が確認できる資料が見られないことから2条3段構成であったと考えられる。

群馬県西地域における密窯焼成の円筒埴輪の編年については中里正憲氏の研究成果がある。²⁾中里氏は、「円筒埴輪の変化は、口径・底径の矮小化、第1段の伸長化、第3段の短縮化の中におこっており、これらの変化から大きく3つに分類することができる」とし、5世紀末以降の円筒埴輪を4期に区分、年代的に位置づけている。

今回検出された円筒埴輪については前述のとおり、全体形状がわかる資料が皆無であることから、中里氏の成果に沿った比較ができないが、以下に資料全体に見られる形状、製作技法について概括する。

第3段、口縁部は、計測可能な資料9点からは復元径も含め、口径18.7～29.4cm、高さは資料14点から8.5～12.3cmの数値が得られた。口縁部先端(口唇部)は、周堀1の1～3に代表されるように、器内が薄く、外方に弱く屈曲して立ち上がり、先端が平坦あるいはM字状を呈するものが多く見られた。先端は両面ともヨコ方向のナデを施すことから、内面の口縁部直下に小さな稜を有するものが多い。

口縁部の高さは器形全体の中での比率はわからないので、明確な判断はできないが、周堀10出土資料に比して周堀8・9出土資料の方がやや短く、これが時間差を表しているかもしれない。

第1段、基底部は計測可能な資料11点から復元径も含め、底径13.6～17.4cm、高さは7点の資料から11.5～

17.3cmであった。周堀9出土資料は基底部に伸長化が見られ、口縁部の短縮化と呼応している。

外面調整はすべてタテハケである。内面調整は、基底部、胴部にはナデ、口縁部にはハケメを施すものが主体であった。透孔は円形の他に半円形の崩れた形状のものが多数あった。突帯の断面形状は突出度が弱く、低い台形が主体で、他にH字形、三角形が見られた。赤色塗彩は周堀9の2・4、周堀9の24、周堀10の8・9の口縁部に見られた。底部調整は基本的に採用されていないが、周堀10の17の外面下端、29の内面下端にヘラズリが見られた。ヘラ記号(線刻)は周堀7の24に見られた。

胎土については綿貫観音山古墳のように藤岡産埴輪の特徴である結晶片岩や海綿骨針化石の混入が顕著ではない。胎土分析の結果では目視できなくても片岩が混入する資料の存在も指摘されている。この他に赤色粘土粒を多く含む資料も目立つ。

以上の特徴から、今回検出された円筒埴輪は多少の時期差を有しながらも、ほぼ同時期の所産とすることができそうである。中里氏の編年観を参考にすれば中里氏の2期(TK47～MT15型段階)から3期(TK10～MT85段階)の3期寄りの6世紀前半に位置づけられようか。

・形象埴輪の出土状況とその様相

形象埴輪は周堀5(復元径約12m)、周堀9(復元径約16m)、周堀10(復元径不明)から出土が確認された。また、周堀7と周堀8の間、周堀8の南側に接する1区1号竪穴状遺構から小型の馬形埴輪の前脚部分が出土している。その造形をみると製作技術が安定する以前の製品のようなものである。調査区が限定的であることから判断は難しいが、古墳の規模と形象埴輪樹立の関係性は導き出せない。

多くが破片資料であったことから器種を断定できたものは一部に限られ、人物・馬・家が確認できた。盾・大刀・鞆等、はっきりと器財と断定できる資料は認められなかった。

周堀5からは人物後頭部片が出土している。周堀9からは人物顔・上衣裾の一部、馬の鞍・脚部・家の堅魚木が出土している。周堀10からは人物の顔・右手・上衣の裾部分、女子の鬘、馬の脚・鈴杵葉が出土している。

全体的に人物の造作が小型であること、周堀10の人物右手の指先の表現、鈴杵葉の存在などが製作時期を検討する材料になると考えられる。

2 岩鼻天神遺跡・岩鼻赤城遺跡周辺の古墳分布と出土品

(1) 周辺古墳の様相

ここでは岩鼻天神遺跡・岩鼻赤城遺跡で今回検出された古墳群をより理解するために、周辺、烏川とその支流の井野川の合流点周辺、高崎市南東部から玉村町にかけての古墳分布及び出土品について整理してみたいと考える。

第273図に示したとおり、両遺跡の南側を東流する烏川に沿うようにその左岸段丘上に古墳が帯状に分布している。上流から倉賀野東古墳群、井野川との合流点には若宮古墳群、そしてその下流には途切れることなく下郷遺跡を含む八幡原古墳群が形成されている。また、井野川右岸には綿貫観音山古墳に代表される綿貫古墳群が見られる。

また、両遺跡の西側、高崎台地上には粕川に沿って小型の前方後円墳飯玉神社古墳、大型円墳の『綜覧』岩鼻村6号・7号墳が築造されており、段丘上にはこの他にも未周知の古墳が多数点在していたことが想定される。

粕川を上流に約2.5km遡った高崎台地縁辺部には正始元年銘の三角縁神獸鏡を出土したことで知られる柴崎蟹沢古墳、近年の調査で粘土椀を主体部とすることが判明した方墳浅間山古墳、前方後方形を含む方形・円形周溝墓が群在していた矢中村東(A・B・C)遺跡が存在する。古墳時代前期には周辺地域の開発拠点があったことが知られる。

倉賀野東古墳群は、烏川左岸段丘上に東西1500m、南北幅200mの範囲に約160基の古墳が展開していた。

現在残存する古墳は皆無に等しいが、『綜覧』によれば、古墳群の西(烏川上流)側の大道南群では88基が確認され、直径10から20mの小円墳が密集する状態の群集墳が形成されていた。1967(昭和42)年に17基が調査され、6世紀前半から7世紀にわたる間、3時期にわたり、4支群で継続的に古墳群が形成されていたことが明らかになった。調査された古墳の主体部はすべて横穴式石室で、17基のうちの15基に埴輪が樹立されていた。

東(烏川下流)側の大応寺群は、大道南群と比較して、その分布状況はやや散漫で、『綜覧』には前方後円墳2基、岩鼻村1号古墳に代表される大型円墳3基、これに中・小円墳を含めた72基が記載されている。墳丘長約25mの帆立貝式古墳乙大応寺遺跡1号墳、大応寺埴輪円筒棺使用石椀、岩鼻1号古墳址、岩鼻坂上遺跡1号墳等の発掘

調査が行われているが、群全体の実態は今一つ明らかになっていない。『総覧』には「石棺」を内蔵するとの記載が、土手二子山古墳、カプト山古墳など4基の古墳にあることから、5世紀後半から6世紀初めに舟形石棺を採用した首長墓層の古墳が築造され、これが倉賀野東古墳群形成の端緒となり、その後、大道南群にみられる比較的均質性の高い群集墳の形成に転換、7世紀前半まで古墳群の造営が継続したとの考え方が示されている。⁽⁴⁾

大道南群の調査では6世紀前半から中葉の横穴式石室を有する円墳3基が検出されている。その中で3号墳は両袖形横穴式石室を主体部とする直径17・18mの円墳である。男子の双脚全身像を含む形象埴輪群の樹立、金銅製刀装具や稀少性の高い鉄製鍔が副葬されていることが注目される。

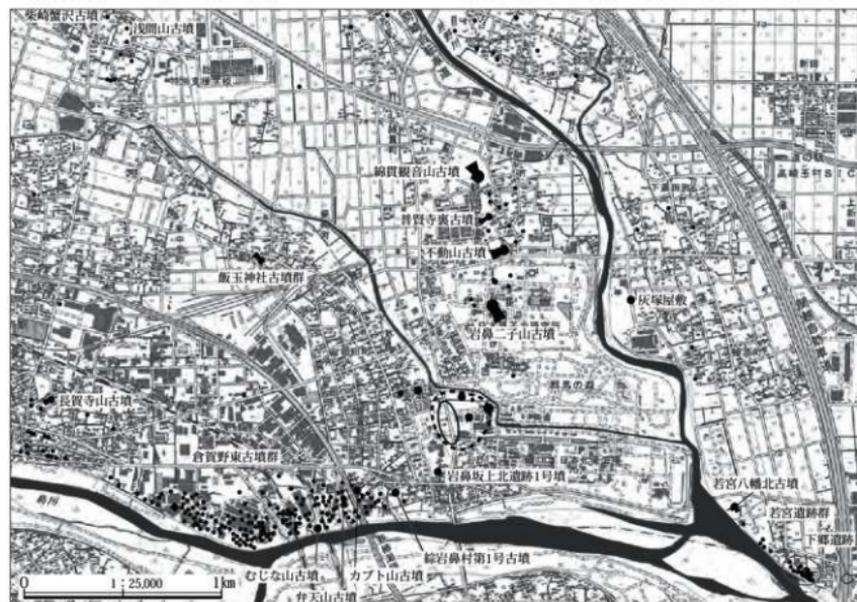
なお、大道南群を含む倉賀野地区は、東京国立博物館所蔵の双龍環頭大刀や三果環頭大刀をはじめ、群馬県内では裝飾付大刀の出土が集中する地域として知られている。当該古墳群の被葬者と大和政権、あるいは上毛野地域の有力首長層との密接な関係が形成されていたことを

示している。

若宮古墳群は烏川と井野川の合流地点からやや下流の烏川左岸に位置する古墳群で、1974(昭和49)の調査では古墳17基、小石塚26基が検出されている。上流側には5世紀後半の築造で、舟形石棺を主体部に有する帆立貝式古墳若宮八幡北古墳や円墳鈴塚古墳が、下流側には4世紀の下郷天神塚古墳、下郷道跡の方形周溝墓群を挟み、玉村町分の八幡原古墳群までほぼ途切れることなく古墳が分布しており、150基を超える数が確認されているという。

若宮古墳群では、竪穴系小石塚を主体部とする5世紀後半の群集墳と立地を同じくするように、6世紀代の横穴式石室を主体部とする古墳群が継続的に形成されていた。限られた範囲の中に多数の古墳が密集していた状態で、周堀が切りあい、5世紀後半の古墳の上に6世紀後半の古墳が重なっていた。

その中でも若宮9号墳は円筒埴輪、馬形埴輪の特徴から6世紀前半から半ばの築造と考えられ、岩鼻天神道跡・岩鼻赤城道跡の古墳群と同時期の古墳が5世紀後半、6



第273図 岩鼻天神・岩鼻赤城道跡(○)周辺の古墳分布(国土地理院1/25,000地形図「高崎」図幅を編集・加工)

世紀後半の古墳が主体と考えられる若宮古墳群にも存在していたことがわかる。

綿貫古墳群は、井野川右岸の河岸段丘上の中でも井野川の流路に近い比較的高燥な地点に南北1000から1200mの範囲に展開している。北側寄りには綿貫観音山古墳を北限に普賢寺裏古墳、不動山古墳、『綜覧』岩鼻村12号古墳等5世紀前半から6世紀後半にいたる首長墓系列の前方後円墳を中核とした墓域が形成され、現在も円墳3基が残存している。南側は5世紀前半の前方後円墳岩鼻二子山とその周囲に小古墳を主体とした群集墳が展開するといった状況が認められた。

このような古墳分布の中で注目される古墳として、北側、有力首長墓域内にある普賢寺東古墳がある。この古墳は、普賢寺裏古墳の東方に位置していた直径約18mの円墳と考えられるが、横穴式石室と推定される主体部から肩庇付冑、小札甲、鉄地金銅張字形鏡板付轡が出土している。西暦500年前後する時期の築造と考えられている。

南側では後述する東京国立博物館収蔵の振り環頭大刀や環状鏡板付轡を出土した2基の古墳の存在が注意される。こちらは首長墓群域からやや離れた地点に築造されている。

本遺跡周辺の古墳群の分布、の中でも6世紀前半に築造された古墳の在り方について検討してみた。その中で、円墳から構成される群集墳の中にも階層差があり、それぞれの古墳群の中に、普賢寺東古墳、倉賀野東古墳群大道南群3号墳のような首長墓に近い内容の埴輪樹立、副葬品の埋納がなされている古墳が存在することが注意されたところである。

(2) 旧岩鼻火薬製造所出土の遺物について

・東京国立博物館収蔵品

東京国立博物館には岩鼻火薬製造所の設置、敷地拡張に伴って出土した出土品が多数収蔵されている。

『埋蔵物録』には1883・1906・1911(明治16・39・44)年、1918(大正7)年の4件、埋蔵物発見の報告が残されている。1918(大正7)年の記録には岩鼻二子山古墳出土の舟形石棺と出土品について記録されている。⁽⁵⁾

また、『東京国立博物館図版目録』古墳遺物篇(関東Ⅱ)にも6件、岩鼻火薬製造所構内、あるいはその近接地からの出土品が掲載されている。この中には高崎市綿貫町

市ケ原出土品として金環、大刀、刀装具、鉄矛、鉄鏃等と共に馬具の環状鏡板付轡がある。市ケ原からは別に大刀、刀子が収蔵されている。また、高崎市綿貫(岩鼻の誤り)町塚合出土の振り環頭大刀の振り環、鉄鏃、馬具の環状鏡板付轡がある。

市ケ原出土の環状鏡板付轡2点のうちの1点(列品番号775)は、鏡板に4段の兵庫鎖を連結した立間を有するもので、くの字状を呈した引手は銜との連結は別々になされている。

塚合出土の環状鏡板付轡(列品番号777)の鏡板は矩形、鏡形の立間が付くものであるが、こちらもくの字状の引手と銜の連結を別々に行っている。

・群馬県立歴史博物館収蔵品

群馬県立歴史博物館には1940(昭和15)年岩鼻火薬製造所敷地内にあった古墳(小塚)出土とされる出土品が収蔵されている。出土地は断定できないが、火薬製造所の敷地拡大に関係して出土した可能性が考えられる。それらは、金環、大刀、金銅製刀装具、馬具の環状鏡板付轡、鎧、人物埴輪、円筒埴輪等で、鉄鏃は7世紀初頭の特徴を有している。

・白岡市所在の絵馬に付く大刀

埼玉県白岡市柴山八幡神社に1909(明治42)年群馬県群馬郡岩鼻村大字綿貫字市ケ原所在古墳出土とされる大刀が絵馬に固定されて奉納されている。大刀はその形状から6世紀後半から7世紀初頭の所産と考えられている。

東京国立博物館収蔵の2点の轡は6世紀前半の所産とされるもので、⁽⁶⁾塚合出土の振り環頭大刀とともに本遺跡の周辺に今回検出した古墳群と同時期の古墳が築造されていたことを示している。

また、群馬県立歴史博物館収蔵品や白岡市柴山八幡神社所在大刀の存在からは、6世紀後半以降も本遺跡周辺で古墳の築造が継続されていたことが知られる。

3 まとめ

今回の調査で未周知であった小円墳11基の存在が明らかになった。これらの古墳は、周層埋没土の堆積状態、出土埴輪の様相から、Hr-FA降下後の6世紀前半から中頃に形成が開始され、比較的短期間に展開した群集墳の一例と考えられる。

東京国立博物館収蔵品をみると粕川を挟んだその北側

にも同時期の古墳が築造されていたことがわかる。綿貫古墳群については綿貫観音山古墳をはじめ主要古墳が著名であることから注目度の高い古墳群であるが、岩鼻火薬製造所の設置、敷地の拡張があったことから南側を中心に群の範囲、構成、変遷については未だに不明確な点が多い。綿貫原北遺跡の調査では綿貫観音山古墳の西方地点で7世紀代の円墳が検出されている。

今回報告の古墳群を綿貫古墳群中に含めるか否かについてはもう少し検討を加えてみたいと考える。

岩鼻天神遺跡・岩鼻赤城遺跡で古墳群が形成された6世紀前半、周辺地域の社会状況はどのようなものであったのであろうか。この時期は、綿貫古墳群の有力首長墓である5世紀前半の岩鼻二子山古墳や不動山古墳の築造から、6世紀後半における綿貫観音山古墳の築造までの間にあたり、周辺地域には一帯を統括するような有力古墳の存在は知られていない。⁽⁷⁾同様の状況が倉賀野東古墳群、若宮古墳群周辺でも認められる。

極名山噴火によるHr-FAの降下、それに続く泥流の発生による極名山山東南麓地域の生産域、用水系の被災、本遺跡の南西6kmに位置する藤岡七興山古墳の成立、佐野ミヤケ・緑野ミヤケの設置などと、5世紀後半から6世紀後半へと周辺地域が大きく変化する中で形成された群集墳の造営者層は、どの首長層と関係を結び、どの首長層を支えたのであろうか。そして、本周辺地域に見られる活発な群集墳の形成、これらの中の普賢寺東古墳や倉賀野東古墳群大道南群3号墳のような有力者層の存在が次の綿貫観音山古墳成立の基盤になったことが推定される。岩鼻天神遺跡・岩鼻赤城遺跡の円墳群も小規模でありながらも比較的充実した内容であったことが想像される。周辺古墳群の動向についてさらに密な検討を重ねていきたいと考える。

註

- (1) 国立公文書館デジタルアーカイブで閲覧。
- (2) 文献28掲載図を参照。
- (3) 文献30による。
- (4) 「埋蔵物録」は、東京国立博物館に残されている1974(明治77)年から1963(昭和37)年までに発見届が出された埋蔵物に関する記録である。
- (5) 文献27による。
- (6) 文献2・3による。
- (7) 普賢寺東古墳の築造時期については、墳丘形状から岩鼻二子山古墳、不動山古墳に先行するとの考え方が示されていたが、文献1では前述の2古墳に後出するとの考え方が示されている。

引用・参考文献

- 1 大塚剛重・梅澤重昭2017『東アジアに翔る上毛野の首長』新泉社

- 2 岡安光彦1984『いわゆる「素甕の甕」について—環状鏡板付甕の型式学的分析と編年—』日本古代文化研究(前刊号)古墳文化研究会
- 3 加藤三生1996『素甕鏡板付甕について—群馬県内出土品の分類と編年を中心として—』群馬県内出土の馬具・馬形埴輪。群馬県古墳時代研究会
- 4 菊池実・原田雅純2007『陸軍火薬製造所の歴史—国立公園群馬の森の過去をさぐる—みやま文庫
- 5 群馬県1938『上毛古墳綜覧』
- 6 群馬県教育委員会1982『史跡観音山古墳』
- 7 群馬県教育委員会2017『群馬県古墳総覧』
- 8 群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『箱石茂間山古墳・不動山古墳』
- 9 群馬県埋蔵文化財調査事業団2022『綿貫原北遺跡・綿貫原遺跡。綿貫原前遺跡・綿貫三反郎遺跡・綿貫反町遺跡』
- 10 群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『岩鼻古墳』
- 11 群馬県立歴史博物館2021『古墳大図解馬へのあゆみ』
- 12 近藤義郎編1994『前方後円墳集成』東北・関東編 山川出版社
- 13 杉山和徳2022『梁山諏訪八幡神社奉納古刀絵馬—伝群馬郡岩鼻村所在古墳出土鉄刀—』白岡市生涯学習センター—歴史資料展示室紀要第4号 白岡市教育委員会
- 14 志村哲2004『2部 箱田玉遺跡の調査。第6章 第4節藤原滝埴輪の供給について。』国立歴史民俗博物館研究報告;第120集 国立歴史民俗博物館
- 15 高崎市1999『普賢寺裏古墳』・『普賢寺東古墳』・『若宮古墳群』『高崎市史』資料編1
- 16 不動山東遺跡調査会1986『不動山東遺跡』
- 17 高崎市遺跡調査会1997『高崎情報(地)遺跡』
- 18 高崎市遺跡調査会2000『綿貫原北前玉遺跡発掘調査報告書』
- 19 高崎市教育委員会1994『岩鼻赤北遺跡・八幡原灰塚玉遺跡・飯塚新田西遺跡・雁田遺跡』
- 20 高崎市教育委員会1989『高崎市内遺跡緊急埋蔵文化財発掘調査報告書岩鼻1号古墳址』
- 21 高崎市教育委員会1991『高崎市内遺跡緊急埋蔵文化財発掘調査報告書乙大応寺遺跡1号墳』
- 22 高崎市教育委員会1998『高崎市遺跡分布地図』
- 23 高崎市教育委員会2008『山名古墳群』
- 24 高崎市教育委員会2009『綿貫・台新田遺跡』
- 25 高崎市史編さん専門委員会原始古代部会1995『若宮八幡北古墳の埴輪』『高崎市史研究』4 高崎市史編さん専門委員会
- 26 高澤考古学研究所2013『岩鼻・飯塚寺遺跡』
- 27 玉村町教育委員会・遺跡調査会2002『角洲伊勢山遺跡・角洲伊勢山IV遺跡、下郷2遺跡・天神塚2遺跡、八幡原塚遺跡・薬師遺跡』
- 28 塚越甲子郎・柳沢一男・南雲芳朗・大野哲二2003『倉賀野東古墳群大道南群調査報告(下)—遺物編その二—考察』『高崎市史研究』17 高崎市史編さん専門委員会
- 29 津金澤吉茂・飯島雄雄・大久保美加1981『群馬県高崎市岩鼻町(群馬)の森を中心とする地域の歴史について』『群馬県立歴史博物館紀要』第2号 群馬県立歴史博物館
- 30 東京国立博物館1983『東京国立博物館図録目録』古墳遺物篇(関東Ⅱ)
- 31 中里正憲2002『群馬県西部の円筒埴輪編年—2案3段円筒埴輪を中心に—』『埴輪研究会誌』第6号
- 32 深澤敦仁2007『上野地域における群集墳構造の推移』『関東の後期古墳群』六一書房
- 33 右島和夫1993『上野における群集墳の成立』『関西大学考古学研究室創設40周年記念考古学論叢』
- 34 山田俊輔2004『2部 箱田玉遺跡の調査。第6章まとめ 第1節円筒埴輪。』国立歴史民俗博物館研究報告;第120集 国立歴史民俗博物館
- 35 若狭徹2012『古墳時代東国地域の地域経営』吉川弘文館

2. 40号竪穴建物出土の緑釉陶器托について

はじめに

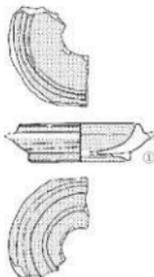
遺跡地周辺は、古墳時代後期6世紀後半に地域豪族の盟主とみられる綿貫観音山古墳の被葬者が出現する。その後の状況については開発が進み終末期古墳の多くが造成により消滅してしまったなか、古墳時代後期後半から古代について十分な解明できていない現状がある。今回の一連の発掘調査では、それを補う成果が上げられ、解明の一助となるとみられる。

古代、遺跡地は、「倭名類聚抄」によって群馬郡烏名郷に比定される地域でもある。周辺の台地上では数多くの遺跡が発掘調査され古墳時代より竪穴建物、古墳など多くの遺構が複雑に重複した状態で検出されている。さらに綿貫遺跡で9世紀後半の構築と考えられる大規模な基壇遺構が検出され、寺院跡¹⁾の存在が知られている。

しかし、この地域の遺跡では、多くの竪穴建物が検出され、これらが複雑に重複しているためその性格や地域の特徴を抽出・分析することを難しくしている。

出土緑釉陶器托

今回の前橋長瀬線の発掘調査でも多くの竪穴建物と古墳が複雑に重複しているとともに開発による造成によって遺構の残存状態も不良であった。そうした中で綿貫千葉西遺跡(R2,3-4区40号竪穴建物、以後R2,3-4区は省略)から県内では初出とみられる緑釉陶器托①(第274図、PL.70-5)が出土している。



40号竪穴建物出土緑釉陶器托①

第274図 綿貫千葉西遺跡出土の托

40号竪穴建物は調査範囲や重複する39号竪穴建物によって南西角の一部しか発掘調査できていないが、出土遺物は比較的多く緑釉陶器托の他に須恵器椀、灰釉陶器皿・椀、須恵器甕、土師器甕が出土しており、竪穴建物の存続時期は床面から出土している土器から9世紀末から10世紀第1四半期に比定できる。

緑釉陶器托は、底部から体部にかけての破片であるが、内面底部周縁に椀の高台を受ける小突起が環状に作られており段皿とはやや異なる形態を呈していることから托と判断できる。成・整形は、右回転のロクロが使用され、ロクロからの切り離し技法は底部ヘラナゲのため不明である。体部は内外面とも丁寧なヘラミガキが施されている。高台は蛇の目状の形態のものが貼付されている。釉薬は透明感のある黄緑色を呈している。高台の形態や貼付によるものであることから東海地方、猿投西南麓古窯跡群での生産で、生産時期は高台の形状から9世紀後半に比定できる。

緑釉陶器托は床面より22cm上からの出土で、確実に共存すると断言できないが、竪穴建物の存続年代とはほぼ同様であることから共存の可能性が窺える。

緑釉陶器皿や椀は、竪穴建物からの出土例も多くみることができるが、托となるとその出土例は全国的に見て少なく、その用途を考えても一般の竪穴建物からの出土に疑義が生じる。こうした点から今回、出土した緑釉陶器托について若干の考察を行うこととした。

托について

托は8世紀代では、受部が深めの形態を呈しており、鉄鉢(仏鉢)を受けるためのものと判断できる。こうした鉢受の托は県内では、伊勢崎市十三宝塚遺跡(5次調査)第V A土坑から出土した奈良三彩製によるもの②²⁾、藤岡市上栗須寺前遺跡群24号溝から出土した須恵器製によるもの③³⁾が出土している。これに対して今回、綿貫千



伊勢崎市十三宝塚遺跡(5次調査)第V A土坑奈良三彩托②
藤岡市上栗須寺前遺跡群24号溝須恵器托③

第275図 群馬県合出土の托

葉西遺跡40号壜穴建物から出土した緑釉陶器托は、正式な席での飲酒用や飲茶用の器の受け皿とされるものである⁽⁴⁾。

飲酒用や飲茶用の托は中国の六朝時代以降に正式な席での盞(中国の碗・杯にあたる器種名称)の受け皿として定着したとされている。日本では唐代の白磁や青磁によるものが搬入され、大宰府や平安京から出土している。こうした白磁・青磁の影響によって緑釉陶器や灰釉陶器によるものが製作されている⁽⁵⁾。

飲酒用や飲茶用の器の受け皿としての托の出土例は、少なく平安京においても白磁・青磁製によるものが数点報告されているだけである。畿内以外では、福岡県大宰府や神奈川県相模国府域、滋賀県鴨遺跡などの消費地遺跡と愛知県黒塚西南麓古窯跡群の生産地遺跡から数例が報告されているだけである。生産地で報告されているものには9世紀後半代の緑釉陶器生産の窯である愛知県名古屋市熊ノ前2号窯跡から1点、熊ノ前1号・4号窯跡から3点、愛知県みよし市黒笹90号窯跡から3点、緑釉陶器・灰釉陶器の生産の窯である9世紀前半の黒笹89号窯跡から緑釉陶器製が1点、同じく9世紀前半の灰釉陶器生産の窯である黒笹5号窯跡から1点、9世紀後半代の黒笹89号窯跡から1点が出土⁽⁶⁾している。

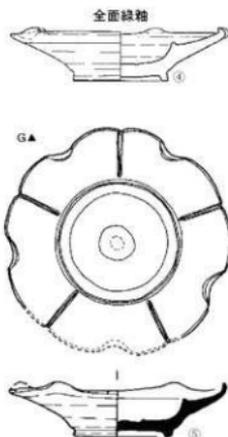
畿内以東の消費地遺跡からは滋賀県高島市鴨遺跡から緑釉陶器製⁽⁷⁾、神奈川県平塚市真土六ノ城遺跡から灰釉陶器製⁽⁸⁾の各1点が出土している。鴨遺跡と真土六ノ城遺跡の消費地遺跡についてその性格を概観すると以下のとおりである。

鴨遺跡は琵琶湖西岸に位置し、9世紀後半を中心とした建物、塀、溝、井戸などが検出され、出土遺物には緑釉陶器、灰釉陶器や平安時代の土器とともに貞観15(873)年の農耕取穫を記載した木簡をはじめ多くの木簡、墨書土器、銅印、硯、人形などの木製品がある。以前は近江国高島部の官衙関連遺跡と考えられていたが、近年は古代荘園関連の遺跡と考えられている。出土した托は緑釉陶器製で京都洛西窯跡群の小塩窯産で9世紀末から10世紀初頭の年代観が与えられている。形態は高台が削り出しによる輪高台を呈し、底部から体部下半は椀状に立ち上がり、体部上半から口縁部は直線的に開くが、内面は底部に深みを持たせ、底部周縁に小凸帯が巡る。口縁部は輪花を5カ所に施し、内面に花卉状の陰刻花文が施されている。なお、大きさは口径13.3cm、内輪径6.5

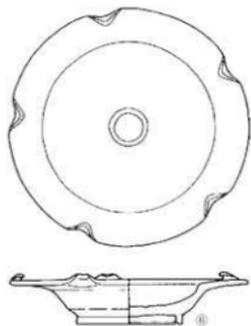
cm、提携5.8cm、器高3.3cmを測る⁽⁷⁾。

相模国府域では、相模国府国守の南に隣接する地点に位置する真土六ノ城遺跡から灰釉陶器托が出土している。灰釉陶器托は3号土坑から出土しており、土坑の規模は径1.55×1.35m、深さ0.36mを測り、内部より多量の土器が出土している。出土した土器には土師器杯・椀・小型甕・甕、須恵器杯・椀、灰釉陶器皿・椀・長頸甕がみられるが、圧倒的に土師器杯が多い。なお、土坑の時期については出土須恵器杯・椀より10世紀前半に比定されている。性格については、墨書土器の存在や周辺で検出した同様の土坑から官衙に関する祭祀に使用された土器が埋められた土坑とみられている。灰釉陶器托は上層からの出土で、大きさは口径13.2cm、底径5.9cm、器高3.4cmを測る。形態は高台が角形を呈し、体部は椀状の立ち上がり呈し、口縁部は鴨遺跡のものより大きく開く。内面は底部周縁に小凸帯が巡り、口縁部の5カ所に輪花を施す。口縁部輪花の間には底部凸帯に向けて直線的にごく小規模な凸帯が作られている。施釉方法は自然釉などで明確ではないとしているが、内面だけの施釉であるとみられている。この灰釉陶器托の年代観については施釉方法や高台の形状から9世紀前半と判断されている⁽⁸⁾。

以上のような出土例をみると綿貫千葉西遺跡出土の緑



鴨遺跡出土緑釉陶器托の図④
真土六ノ城遺跡出土灰釉陶器托の図⑤



猿投西南麓古窯跡群黒笹5号窯跡出土灰釉陶器托の図⑧

第277図 生産地出土の托

釉陶器托は口縁部が欠損するため、断定はできないが、真土六ノ城遺跡や猿投西南麓古窯跡群黒笹5号窯跡から出土した灰釉陶器托と同様な形態とみる事が可能である。

今回出土した托は、正式な席での飲酒用や飲茶用器の受け皿とされているが、飲酒用とするには1点だけの出土であり飲酒の席＝宴席を想定することは難しく、また、平安京や大宰府周辺で出土している白磁や青磁による托も単独であることから飲酒用としてより飲茶用に使用されたものとするのが妥当とみられる。

飲茶の風習

日本における飲茶は、文献から9世紀初頭に唐から帰国した学問僧永忠によって伝えらとされている⁽⁹⁾。しかし、茶道具の出土例は山城国府に近接した京都府山崎廃寺より奈良三彩の系譜による緑釉単彩の碗、釜、風炉のセットが出土していることから、長岡京期ころにはすでに始まったと考えられている⁽¹⁰⁾。飲茶の風習は中国では唐代に広く普及し、飲茶を提供する店も出現していたとされている。また、茶には覚醒効果があることから僧が勉学の際に眠気防止に用いられたとされ、唐では僧の必需品ともされていた。

飲茶の風習は、前記のように畿内では奈良時代8世紀末にはすでに寺院などで行われたと考えられているが、地方における風習になるとほとんど解明されていない状態である。こうした中、相模国府から托が出土したことは9世紀代に下向した国司によって飲茶の風習が持ち込

まれたことが想定でき、今後国府域から托が出土することは期待できる。さらに、今回の綿貫千葉西遺跡からの出土は、地方の富豪層でも比較的早い段階から飲茶の風習が行われていたことが窺える傍証になりえると考えられる。

おわりに

相模国府での出土例は国府という畿内との関係が強い場所である。しかし、綿貫千葉西遺跡は国府が設置されている群馬部ではあるが、国司が常駐する場所ではなくやや離れた地域である。綿貫千葉西遺跡の周辺環境をみると9世紀前半代に創建された綿貫廃寺が存在する。綿貫廃寺の全貌は解明されていないが、大規模な基壇をもつ建物が存在しており、大規模な寺院であれば居住する僧によって日々祈禱や経典についての勉学が行われていたことは想像できる。こうした僧によって飲茶の風習が出土托の年代観である9世紀後半には始まったことが想定できる。そしてこの茶器が9世紀末に在野の僧にわたり、堅六建物から出土したと想定することが可能である。

今回の緑釉陶器托の出土は、この地域における飲茶の風習が比較的早い段階から始まったことと、その飲茶をもたらし背景となった寺院を建立するだけの権勢を有していた富豪層の存在を裏付けることになったのではないだろうか。

註・参考文献

- (1)高崎市教育委員会1985『綿貫遺跡』
- (2)埴野教育委員会1981『十三宝塚遺跡第5次発掘調査報告Ⅳ』
- (3)興野山理成文化財調査事業団 第205集 1996『上栗須寺前遺跡群Ⅲ』
- (4)田畑潤2022『平安時代における中国陶磁』解説『図録 平安時代のやきもの一その姿、うつろいゆくー』愛知陶磁美術館を参考にした。
- (5) (4)と同様。
- (6)愛知県教育委員会1980『愛知県 猿投山西南麓古窯跡群分布調査報告書(1)』。賀澤一郎2004『Ⅱ-2古代後期の土器』『古代官衙遺跡Ⅱ』遺跡・遺物編』独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所、愛知県史編さん委員会2015『愛知県史別冊Ⅲ 古代官衙遺跡』愛知県による。愛知県史は解説に托とあるものを抽出。『古代官衙遺跡Ⅱ』は内面ほどに小凸部状のものや底部から体部の段に深みを持たせて作られている個体を「托」とした。
- (7)高島町教育委員会1980『鴨遺跡』、緑釉陶器托の発掘例は愛知陶磁美術館2022『解説』図録 平安時代のやきもの一その姿、うつろいゆくーから転載。なお、緑釉陶器托の年代観については『鴨遺跡』や斎藤孝正『じょろん一協投窯 平安時代前期の協投窯の様相』『日本の美術40号』至文堂では9世紀前半の年代観を与えている。
- (8)托・出土状態は、平塚市遺跡調査会1992『真土六ノ城遺跡Ⅱ』遺跡の立地についてはその後の発掘調査。相模国府については、財団法人かなわ考古学財団2009『湘南新道開道遺跡Ⅳ 寺ノ内遺跡Ⅵノ城遺跡』を参考にした。
- (9)村井康彦1979『茶の文化史』岩波新書より
- (10)賀澤一郎1901『12部の焼物の特質とその変容』『コラム日本における茶法の開始』『古代の日本 第6巻近畿Ⅱ』角川書店

3. 鋤先痕について

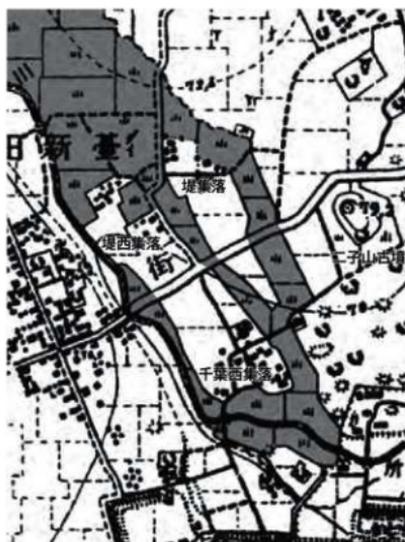
高崎市東部地域は市街化が著しく、古い農村風景は姿を消してしまいましたが、高度経済成長期(昭和30～40年代)前の遺跡地周辺は屋敷林に囲まれた家屋と広々とした水田のコントラストが見事であった。典型的鋤先痕は綿貫堤西遺跡のみ確認されているだけであるが、粕川左岸の低地部にはより広く鋤先痕が残されている可能性があり、試掘調査の結果を踏まえれば、盛土や攪乱によりただ確認されないだけということになる。

＜鋤先痕の検出地点＞

鋤先痕が確認されたのは、令和2年度調査の綿貫堤西遺跡だけである。市道H981号線(軽便鉄道跡地)を挟んで北には綿貫反町遺跡の低地部があり、報告書(第712集)に記載したとおり、反町遺跡には略南東に向く溝4条が確認されており、溝4条は台地部縁辺部を流れる水路として、繰り返して掘り直されていることが明らかであった。溝から市道まで約50mが調査対象から外れ断定できないが、おそらく堤西遺跡に続く低地は全域が水田化されていたものと思われる。

綿貫堤西遺跡では鋤先痕なしとされているが、As-B下の黒色粘質土の上には鉄サビが列状に点々としている様子(PL.7)が見取れる。PL.2は昭和30年代撮影の県道前橋長瀬線沿線の国土地理院航空写真(左)であり、枠で囲んだ部分を拡大したのが右の写真である。写真中央の南北に延びる道路が県道前橋長瀬線で、上端側でクロスする道路が旧軽便鉄道跡地になる。軽便鉄道跡地の南が堤西遺跡であり、県道を挟んだ東に「堤集落」がある。そして、堤遺跡から続く低地を挟んだ西側に「堤西集落」がある。両集落の南には「千葉集落」があり、すぐ傍を粕川が流れる。写真では分かりにくいですが、迅速測図(第278図)には「堤集落」北を南東に抜ける水路や水田があり、集落間を抜ける水田が描かれている。上記2遺跡ではAs-Bに埋もれた水田耕土下に灰白色シルトがあり、その下層に黒色土が堆積する点(第4図)も同様であり、条件的には何ら変わるところがない。いずれも低地部は狭長であり、高崎泥流層より上に砂層が堆積することから、粕川が流れた旧流路とすることができる。

岩鼻地区水田については、粕川が南南東から東へ流路



第278図 粕川左岸の低地部に広がる水田

を変える地点以東に細々とした低地が形成され、両岸に狭い水田があるだけである。中申絵図には右岸に広く水田が記されているが、右岸側水田は粕川に堰を設け台地上に引水して拓いたものであり、これにより台地縁辺を水田化したものである。堰より引水した水路は三角形を二つ連続させ、より下流に導水を試みたものである。最後に粕川に並行するよう水路を掘り、水田化を達成している。岩鼻地区水田は、できるだけ広い範囲で水田化を達成しようとしたものであり、おそらく新田開発されたものであろう。県道より東の岩鼻地区では中世鋤先痕の検出は期待できないというのが、現時点の想定である。

＜鋤先痕調査と課題＞

10年前刊行した「自然災害と考古学」では、As-B下の水田耕土に刻まれた鋤先痕の性格を明らかにするため、①それがいつ残されたのか、②どのようにすればテフラが反転するのか、③鋤先痕の形状と方向性確認、④掘り込み面の確認を通じ鋤先痕が残された時代を特定しようとした調査例を紹介している。いずれも前橋・高崎周辺域の遺跡で、「復旧」に加えて新規に示された概念＝「開

壘」に当たるものがあるかどうか検討されている。鋤先痕が整然と並ぶ例が圧倒的であり、鋤先痕と鋤先痕の間のテフラが乱れることなく堆積していることから「天地返し」であり、「開墾」であるとした。これに対し新田中道東遺跡には明らかに開墾と評価される地点があるとする一方で、畦を避けた鋤先痕もあり開墾と復旧が混在するとした。さらには、復旧の様子が読み取れる文献にも触れている。文献の内容は「再開墾として5000町歩を寄進しようとしたが、あまりにも広く申請は却下された」というものである。噴火後10年が過ぎたころの申請であり、根回し不足さえなければ、広大な荘園が出現したかもしれないという。1130(太治5)年には濁名荘、1157(保元2)年には新田荘が立荘化されている。新田荘では国衙の要請を受け19郷を再開墾したということであり、在地領主による再開墾は全国的傾向でもあった。

<鋤先痕評価の現状>

鋤先痕はAs-B下木田上面で確認され、黒色粘質土に反転したテフラが残る。これを見逃がすことはまずないように思う。鋤先痕発掘の歴史はわからないが、前橋長瀨線公園バイパスではこれを意識した発掘が行われたということである。再開墾という概念は明らかに荘園研究を意識したものであり、女堀発掘の頃から使われていたように思う。As-Bを鋤き込んだ鋤先痕がいつごろのものか、これをとらえようと層位発掘するなどしたが、鋤先痕を覆う洪水層でもなければ、復旧の時期は特定できないというのが大方の意見である。

群馬県内の埋没水田調査例は、平成6年段階で321を数えたというから、20年が経過した今、少なくとも水田遺跡の発掘例は400を超えているものとみられる。火山災害だけではなく、洪水や地震災害に襲われた遺跡も少なからず発掘調査されており、復旧に立ち上がる人々の姿が雄々しく語られている。災害が起きるたびに様々な問題が指摘され心配の種が尽きることはないが、列島には無数の断層があり、毎年の土砂災害があり、100%の安全はない。中越地震で壊滅的被害を受けた村では村人が流出、村の再建は難しいといひ、また東北地方では震災で高台移転を余儀なくされるなどしているが、基本的に以前の生活の回復を願い再建が計られている。こうした災害では被災者は再建者でもあるわけである。これに

対し再開墾は前後で主人公が異なる。有力者が資材を提供、耕作放棄地を再び農地として再生させ、これを荘園化したのである。荘園は律令期、摂関期、院政期、中世と大きく変容したとされる。10世紀を前後する頃、当時の有力農民は土地に縛られることはなく、「その時々々の国司や荘園領主の求めるところに応じ、転々と住まいを変えた」というのである(伊藤 2021)。考古学的には①再開墾を説明する際の鋤先痕の在り方(立木の痕跡確認)、②鋤先痕と畦畔の重複関係や作業の反復性が検討されるのであろうが、制度(政策)面で荘園の変化・変容が目まぐるしいなかで、荘園が広域化するようになると、これを考古学的に明らかにしようとするのが依然その証明は難しくなる。

ともあれ、発掘調査で広域に広がる鋤先痕を詳細調査と称して部分調査で終えるという対応では限界があるということである。少なくとも①の立木の有無や②の畦畔と鋤先痕の関係程度はデータを示す必要がある。全体を見た上で調査法を決めるべきで、考古学的成果から検証すべきであるという意見は当然だが、復旧・再開墾・開墾については多少混乱があるように思う。

<再開墾と開墾>

復旧水田なる用語は、テフラを前後して同位置に畦畔が重なることをとらえた用語で、同じ耕作者であるからこそあり得た決定的な証拠として知られる。これに対し再開墾は時を置いて荒地を耕作地に再生しようというものであろうか。雑草に覆われ地境も分かる程度の短い期間から雑木に覆われるまで、時間軸は様々である。先にも述べたとおり、荘園研究における再開墾は、「有力者が資材を提供、耕作放棄地を再生するもの」であり、鋤先痕が残る程度から伐根跡が残る程度までさまざまであろう。雑木等の伐根跡が残される点は「開墾」も「再開墾」も変わらない。広辞苑には「荒地をひらくこと。山野を耕して新たに田畑を開くこと」とあるように開墾された地点には田畑はないというのが前提で、これが再開墾と開墾の相違点になるように思う。

群馬県埋没文化財調査事業団 2012 「荒地地の再開墾と中世の幕開け」
『自然災害と考古学』

群馬県埋没文化財調査事業団第231集 1998 「下芝天神遺跡」

群馬県埋没文化財調査事業団第52集 2012 「上新田中道東遺跡」

伊藤 優一 2021 「荘園」中公新書

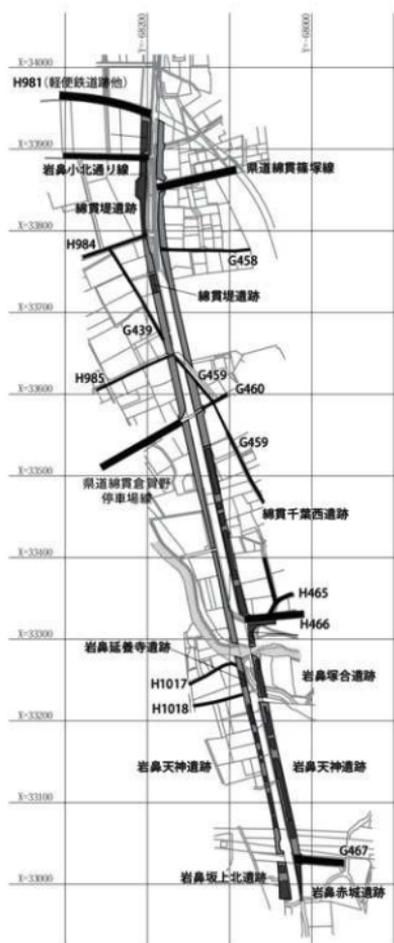
4. 近世綿貫村と岩鼻村について

県道前橋長瀬線拡幅部の報告(第712集)では、市道を介して接する5遺跡を報告した。高崎市では町名と字名で報告書遺跡名としているが、江戸時代の街道は字界として現代に引き継がれており、近世遺跡に関して言えば理想的な命名法と思われる。近年、高崎市東部は市街化が著しく、古い農村風景は姿を消してしまったが、明治期の壬申絵図、迅速測図、昭和初期の地形図、戦前耕地図、高度成長期前の地形図、現代地形図と同一縮尺で並べてみると、現代の生活道が明治時代初期まで辿れるだろうことが明らかであり、市道は明治期の小径を広げただけであるということが実感されるのである。こうした見解は歴史地理学では至極当然のことになるのであろうが、発掘調査ではハツ場ダム発掘で現道下に240年前の街道が埋もれていた事実が、先行体験として生きているからこそ、先の想定の妥当性に確信が持てるのである。現代社会は近世社会を引き継いでおり、また、情報量も



第279図 発掘調査区と県道を横断する市道1

多く、近世遺跡は発掘の対象から外されているのであるが、記憶は徐々に薄れていくものであり、いまは当然の環境の一要素として村の街道や県道の歴史を捉え、遺跡立地に係る地形変化を理解した上で、報告書を作成することが必要になるのではないだろうか。軽便鉄道より北の近世街道については、前の報告書(第712集)で触れた



第280図 発掘調査区と県道を横断する市道2

とおりであるが、ここでは以下軽便鉄道以南の綿貫村と岩鼻村の街道についてその概要を述べておこうと思う。

<調査遺跡と市道>

第280図は、発掘調査区と県道を横切る市道の関係を図化したものである。県道前橋長湊線東には戦前の岩鼻火薬製造所に代わり、戦後は日本化薬、県立歴史博物館・美術館、日本原子力研究所が並び、江戸時代の塚合集落や街道は姿を消している。それでも美術館・博物館の北には千葉西集落があり、また、赤城神社や岩鼻陣屋周辺には古い街道や地割が残る。先述したとおり、壬申絵図、迅速測図、耕地図、現代地形図で同じ地点に街道が確認できるなら、それは江戸時代後期までさかのぼる可能性が高い。第280図に黒い実線で記した何本か(市道H981・H984・H985・G459・G460・H460・H1017・H1018・G467号線)、これが近世後期までさかのぼる街道になるものと思われる。

最も北に位置する綿貫堤西遺跡は軽便鉄道跡地(H981

号線)から市道H984号線の間であり、40mほど南に綿貫堤遺跡がある。綿貫千葉西遺跡は県道綿貫倉賀野停車場線(旧旧幣使街道)「綿貫南」の信号から粕川の間になる。粕川以南では岩鼻延徳寺遺跡が市道1017から市道1018号線の間、岩鼻天神遺跡が市道G1018から市道G467号線(岩鼻火薬製造所、引込水路南)の間、岩鼻赤城遺跡が市道G467号線以南となる。

<近世街道>

上記市道は、いずれも江戸時代後期にさかのぼる可能性があり、集落間を結ぶ「騎小径」や集落から水田に続く「徒小径」である。第281・282図は、迅速測図(明治18年)・昭和7年測図の地形図を並べたものであるが、迅速測図の段階では前橋長湊線は旧旧幣使街道止まりで、これが国道(旧17号線、旧中山道)に繋がるのは、明治末の頃である。岩鼻火薬製造所の操業開始は明治15年で、明治40年代と昭和10年代に敷地が拡大、戦前(昭和17年)には旧幣使街道を現在地まで押し上げた。この結果、旧旧幣使



第281図 明治期中頃の旧綿貫村・岩鼻村街道(明治18年)
第一軍管地方迅速測図1/20000「倉賀野」



第282図 昭和初期の旧綿貫村・岩鼻村街道
大日本帝国陸地測図昭和7年測量1/25000「高崎」

街道南の古墳、集落、小径は姿を消し大きく様変わりしたが、県道東(千葉西、塚合、天神地区)には古い小径が残されていることが判明した。粕川以北で言えば、市道G459号線、G465号線である。粕川以南では、県道西の岩鼻延養寺遺跡が市道1017・1018号線で分断されているが、県道東は博物館・館敷地、工場敷地となり、以前の地割はデータで見られるだけとなった。迅速測図と地形図には約50年の時が経過しているが、本書掲載の綿貫千葉西、岩鼻延養寺、岩鼻塚合遺跡周辺の小径には似た線形の小径があり、いまなお生活道(市道)として残っている。

明治期には、前橋長湊線の前身が見えるだけである(第281図)。昭和初期のルートとも差は大きくはないが、粕川の渡河地点のみ迂回している点が異なる。最短距離は千葉西から坂下を結ぶルートだが、途中塚合集落があり、製造所西の街道を北上させ旧例幣使街道に入り、すぐ先を右折させ前橋方面へ進んだのであろう(第283図)。岩鼻陣屋の西に、田中仙道から臺新田を通り栗崎、大類へ抜ける街道がある。烏川左岸にも赤城神社周辺に古い小径が廻り、八幡原へ抜ける街道がある。

津金沢氏はか(1981)は、岩鼻町周辺の歴史的環境に言及する中で「例幣使街道分間延絵図」を引用しているが、そこには例幣使街道を介して北に「前橋道」が、南に「岩鼻陣屋道」が描かれる。「前橋道」は観音山古墳東を通り普賢寺東を抜けて不動山古墳東で例幣使街道を超えるルート、「岩鼻陣屋道」は例幣使街道南の二子山古墳の西を迂回、千葉西集落の南を通り粕川を渡るルートとして描かれている。ルートは俯瞰的に描かれているだけで詳しくは分からないが、延養寺あたりから粕川を渡り、西に回り込んで陣屋、そして旧中仙道と続いたのであろう。

江戸時代の街道は旧中仙道や旧例幣使街道が五街道、三国街道や十石街道、信州街道が脇往還として機能した。これ以外は城下と村々を結ぶ小径や、隣村や田圃に続く小径が見られるだけである。地方と地方を結ぶ街道は厳しく制限されていた。解禁されるのは近代以後であるが、前橋長湊線の整備は織物業発展によるのであろう。

<検出された溝と字境>

第284図は、高崎市都市計画図1/2500に岩鼻延養寺・岩鼻塚合・岩鼻天神遺跡の調査区図を合成したものである。青焼き都市計画図4枚をスキャニング、これを合成



第283図 綿貫町・岩鼻町耕地図(昭和10年代)

したため、貼り合わせ部分が歪んでおり、若干誤差が生じているが、参考程度にはなるだろう。図示した溝は岩鼻延養寺遺跡の溝1条、岩鼻塚合遺跡の溝5条、岩鼻天神遺跡の溝1条である。このうちAs-Aが覆土下層に堆積した溝(岩鼻天神11号溝)があり、その走行からして赤城神社に続く道路に重なるのではないかとと思われる。そして、11号溝を都市計画図に重ねたところ、ほぼ一致することが確認されたわけである。一方、岩鼻塚合遺跡の溝は11号溝よりやや北を流れており、壬申絵図に描かれた水路(塚合の字界とされた水路)ではないかと思われるので、先の都市計画図に字界を乗せてみた結果、字界と整合する溝は28号溝であることが判明した。これにより、江

戸時代の用水路の姿というものが具体的にイメージできるようにになった。

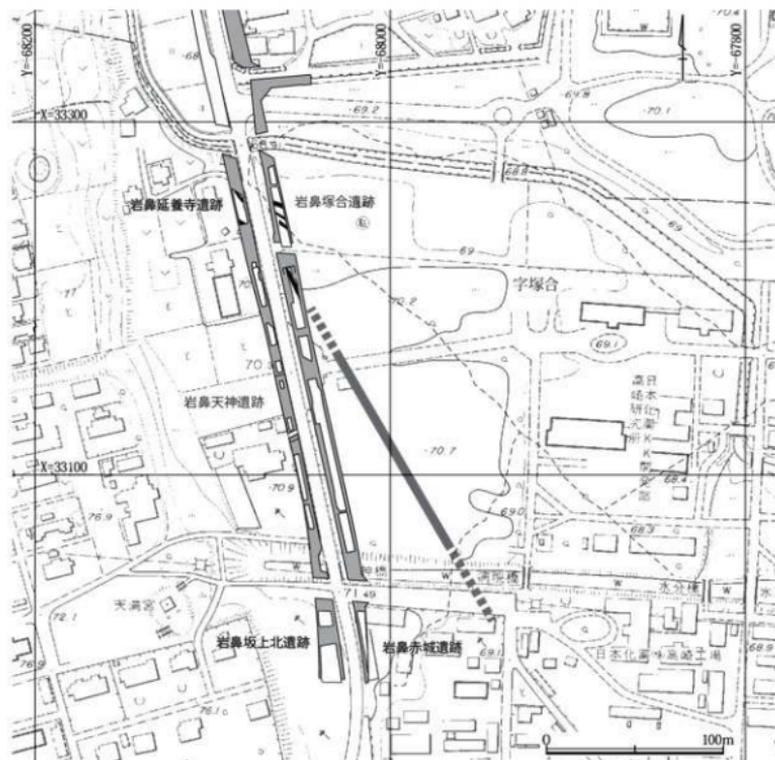
＜壬申絵図に描かれた水路＞

壬申絵図には水路が描かれているが、この水路に該当する溝が発掘調査で検出されているのか、また検出されているとすれば、どの溝に対応するのかを検討してみた。

崖線下を南南東に流れる粕川は、県道前橋長湊線を越えるあたりで東流するようになるが、壬申絵図(明治6年)には岩鼻陣屋東築地堀の延長線上に粕川から引き込んだ水路が描かれている(第285図)。水路は塚合集落の南側字界を流れ、集落の南東部で大きく北東に折れ、集落の東を北流しているが、途中水路を分流させ南東方向

に水路を流している。水路の南側にも水田が広がり、水路は水田耕作に欠かせない用水路になっている。

水路は概ね南東方向に掘られ、できるだけ広く水田が作れるよう、限界まで達したところで水路を北流させ、粕川に落水させている。加えて落水地点直前で途中分水させるなどして給水路として効率的に機能させるよう工夫が見られる。第285図に地点番号を付しておいたので、これに基づき用水路の構造を説明することとする。1～4が粕川取水(1)から最初の落水ポイント(4)に至る最初のルートであり、8～9が最初の落水ポイント(4)から東側の水田へ給水するための水路である。1～4、8～9が太く描かれており、メインとなる水路であることが分かる。これに対し、2・5、3・6・7の表現は細い。



第284図 検出された近世溝と塚合集落字境、古径(高崎市都市計画図昭和54年測量使用)



第285図 壬申絵図に描かれた用水路と水田

壬申絵図の表現は概して概念的で実態とは異なるのであろうが、支線として機能したと思われる。支線3-7と北流する主水路は6の地点で交差しており、交差状況からみて樋で渡した可能性を想定したくなる。2ヶ所の分水ポイント8・10は、いずれも落水地点の間隙にあり、8-9は主水路(1-4)同様の線形を描いて落水、10-11は粕川に並行して流れ、田圃20枚を潤す。

<壬申絵図に残された水田>

岩鼻村の水田は粕川流域に広がるだけで、綿貫村同様畑作が卓越している。壬申絵図に記された水田は、粕川から引水した水路によるものであり、水田の質は地点毎(A-D)に異なるようである。

A地区は塚合集落の周辺に当たる。水路1で囲まれた集落周辺には水田16枚があり、その内訳は上田4・中田5・下田7である。上田は支線(2-5)と支線(3-7)の北にあり、水田は広い。中田も下田も水路に接した地点では1反歩を超え広い。粕川右岸の下田は狭い段丘下の平坦面を利用したものである。

B地区は水路1の南に広がる地点で、ここには水田32枚(上田17・中田11・下田4)がある。水路を引き水田化

を達成した地区だが、予想以上に上田が多く、水田面積も広い。下田4枚は陣屋側に近い地点にあり、水が巧く廻せずこれが影響した可能性がある。また、水路から離れた水田は畑として耕作されたものが圧倒的で、水路に近い水田も畑作に転じたものが多い。

C地区は、水路2で囲まれた地点に当たる。粕川に落水する直前に水路1から分水したのが水路2で、水田17枚(上田7・中田7・下田3)がある。上田は平均5畝・中田は平均4畝ほどである。下田は粕川右岸にあり、面積は7畝弱である。水路南の地点とは異なり、畑作に転じた水田はない。

D地点は水路北(支線10-11)の地点で、水路北に上田、水路南に下田が広がる。また、分水点10より東の畑には「上田六畝田戻」あるいは「四畝廿九歩ノ内下ヶ畑廿畝十五歩田ナリ」などと記された畑19筆があり、何か特殊な事情がありそうである。水路が引かれることで当初の畑が水田化された耕作地、水路が引き直され畑が水田化されるような事情があり、「田戻」や「田ナリ」の現象が生じたのではないだろうか。

<溝と絵図に描かれた水路の評価>

壬申絵図に描かれた水路(溝)は、平面位置からみれば塚合遺跡25～28号溝のいずれかであり、これに延養寺遺跡14号溝が続く可能性がある。延養寺遺跡16号溝も、同軸の水路(溝)として注意しておくべきであるが、これに続く溝が見当たらない。絵図に示されるように、水路が塚合集落南側の字界を流れたとすると、塚合遺跡の最も南を流れる28号溝が絵図の水路に当たる可能性が高い。塚合28号溝および延養寺14号溝は、溝底に凹凸があり、水が流れたのは明らかであるが、溝底面の標高差が遺跡間(延養寺14号溝: 68.44m、塚合28号溝: 67.46m)で約0.98mがあり、溝の勾配が4/100弱というのは急すぎるように思う。塚合の溝4条の走行は略南東に向いているが、延養寺北の市道H1017号線付近に集約されるように見える。延養寺16号溝も、その延長上には塚合遺跡の攪乱があり、どのように溝がつながるのか、実態は不明としかいいようがない。

上記溝以外の水路には、県道東の岩鼻天神遺跡11号溝があるだけである。この溝は途中木杭が直交するように打たれ、堰を伴う水路になる。遺構図や写真(第158図、PL.45-3)、土層註に示した通り、溝の覆土にはAs-Aが厚く堆積していた。As-Aは厚さ10cmほどで、溝の堆積物としてみると、高崎市域遺跡のテフラとしてはやや薄く、もう少し厚く堆積しているかもしれない。写真からテフラのユニットの有無が読み取れず、一次堆積したのか二次堆積したものか、断定できないが、いずれにしてもAs-A降下時には溝は機能しておらず、降下後ほどなくして溝は完全埋没したのである。そして、その上面は平坦に整形されており、道として再利用されたものと思われる。そう考えるのは、この溝の延長上に溝と同軸方向の道があるからである。道の延長上には赤城神社があるとはいえ、そこまで14号溝が延びていたのか、これについては分からないが、図示したとおり、B地区には水田と記された地目が多く、天神11号溝がB地区の給水を目的とした可能性を指摘しておきたい。これにより標高の高い水路南に水田が広がることの説明も納得できるのではないだろうか。

<屋敷>

壬申絵図には、屋敷65筆分が記載されている。屋敷は

粕川右岸の塚合集落と延養寺集落、八幡原村へ向かう途中の黒黒集落(壬申絵図には字名の記載なし)の3ヶ所と、旧中山道沿線の集落である。屋敷の数は集落毎に異なり、塚合が3筆3人、延養寺が2筆2人、黒黒(黒黒は耕地図字名)が13筆8人、旧中山道沿線が45筆40人、それぞれ屋敷面積は4畝12歩、6畝15歩、8畝が平均値である。塚合は前々からある古い集落、黒黒は新田集落、坂下から坂上周辺が街道沿い集落となる。戸主と屋敷筆数が対応する塚合では3軒中2軒が2畝、残る1軒が7畝である。須黒では戸主と筆数が対応するのは8人中5人で、残る3人は2～3筆を有していた。街道沿い集落では字毎に1人が複数の筆を有しているが、陣屋南地区の差が激しい。同地区には複数の筆に同じ名前が記されている。1筆のみからなる屋敷面積は大部分(10例中8例)が5畝未満であり、小規模である。同地区には八つ姓があり、このうち2姓の屋敷面積が広く複数の筆に分かれている。本家分家の関係にあるのだろうが、T姓では5軒中3軒が複数の筆に分かれている。陣屋南地区を除く中山道沿い集落には五つ(大道下・大道南・川端・坂下・坂下南)があり、大多数は1軒1筆になっているが、屋敷地2筆が連続するもの5例中3例を占める。黒黒集落は屋敷(2反4畝5歩・2反3畝27歩・2反2畝17歩)1筆は広い。このうち1筆には屋敷3畝、別の1筆には屋敷3畝27歩とあり、耕作地が含まれることが分かる。絵図の記載内容は多様で、後日検討してみたい。

<その他>

壬申絵図に描かれた粕川左岸には萩畑と記された円形区画があるほか壘型区画があり、その形状や規模からこれを古墳としたのは津金沢氏ほか(1981)である。上毛古墳総覧には、塚合集落周辺に古墳3基が記されているだけであったが、県道発掘調査で岩鼻天神・赤城両遺跡の狭長な範囲に古墳周堀11基が発見され、想定以上の古墳群であることが判明した。明治期絵図の粕川右岸に左岸と同じ円形区画が見られないことから、岩鼻陣屋設置に絡んだ陣屋東の堀の造成等で削平あるいは盛土されたとするのが穏当な解釈になるだろう。

5. 版築様の斜め互層堆積について

堤西遺跡(本報告)の北1kmに綿貫原遺跡(第712集)がある。同遺跡には区画溝3本があり、最も東の屋敷区画溝には方1町を想定してみた。出土遺物も14～16世紀代の陶器類(皿・内示銅・片口鉢)や板磚、石臼等が出土、中世屋敷跡に伴う区画溝であることが判明した。区画溝3本があり、As-A降下の段階には完全埋没していた中央区画溝、As-Aが溝の下層に堆積した東側区画溝、As-A混土で埋もれていた西側区画溝の順に新旧関係が辿れる。このうち、中央区画溝は軸方向が異なり遺跡北の道路に直交する可能性が高く、また、残る区画溝2本は軸方向が略北を向いており、中世的集落改変後の姿というべきものが見て取れる。最も西側の区画溝は北東側コーナー付近こそ相似形となっているが、区画溝中央から南は現道に並行しており、クランク気味の形状が想定されるかもしれない。県道西には井野川の洪水を契機に当地に移住してきたという農家があり、親から聞いた話では「屋敷まわりに濠が廻っており、板を渡していた」ということである。洪水が「寛保の洪水」であるならば、東側区画溝が移住当時の区画溝で、西側区画溝はAs-A降下後、ある段階で埋め戻されたということになる。

西側区画溝には中世遺物も多少は出土しているが、主体は17世紀末～19世紀中葉の陶器類である。先の農家の話では濠に灰を捨てたということであるから、つい最近まで北側の濠は生きていたのであろうが、少なくとも東側の濠は完全埋没したと考えていいように思う。ここで取り上げるのは、綿貫原遺跡(第712集、PL.25-5・6)で報



写真16 綿貫原遺跡(第712集) 6区7溝の斜め互層堆積

告した6区7号溝のセクションである。報告書にはローム主体の褐色土で一気に埋もれていたとしておいた。明らかに人為的な埋め土であったが、それ以上は何も分からなかった。今回軽便鉄道以南の報告をまとめるにあたり、岩鼻塚合遺跡の溝を記載中、調査区東側断面のローム土と黒色土の斜め互層堆積が目に入り、データを見直したところ、何地点か同様の堆積があることが分かり、以下このことについて整理してみた。

<堤西遺跡、調査区断面>

堤西遺跡の斜め互層堆積は、令和2年度調査北側調査地点の東西両断面(PL.52-1・2)にある。この地点は軽便鉄道跡地(H981号線)の南に当たり、調査前はコンビニ駐車場となり、厚く砕石が敷かれていた。問題となる互層は砕石の直下であり、発掘調査ではこれを盛土(店舗地業)として一括しており、土層注には強固に転圧した



第286図 互層堆積が見られた地点

ものとある。以下、2層はAs-A混土、3層はAs-B混土(淡)、4層はAs-B混土(濃)と注記されている。

東壁は、西壁に比べて互層堆積が分かりにくい。写真から見る限り、ローム主体の褐色土は斜め堆積する傾向にはあるが、西壁ほど明瞭ではないようである。

<岩鼻天神遺跡、1号竪穴建物断面>

調査区は、幅2 m弱と狭い。写真3 (PL.52-3)は岩鼻天神遺跡1号竪穴建物の南面をみたものである。コーナー付近は水平堆積しているが、断面に刺さる大型礫を境にロームが斜向堆積する状態が見て取れる。

<岩鼻塚合遺跡、21~28号溝>

写真(PL.52-4)は南側調査区の東壁断面で、ローム主体の褐色土と黒色土が斜め互層堆積する様子が見える。互層堆積の上部には砕石が厚く敷かれているが、境界は不整合であり、時間差が明らかである。斜め互層堆積は遺跡の北側を流れる粕川に向かって傾斜しているが、これより南の土層堆積は不明である。互層堆積層は調査区北で1 m程度(砕石を除く)、調査区南の23号溝付近で0.6 m程度の層厚がある。

同様に、西壁の土層断面も図や写真データがなく、調査区壁面が汚れてどのような状態で堆積していたのか、どうにも判断できない。

写真(PL.52-5)は27号溝の土層断面である。溝は近世溝であり、同軸方向(北西-南東)に溝が繰り返し掘り直されている。問題となる互層堆積は、溝が完全埋没した後の堆積であり、右から左(南から北)へ、傾斜の低い方へ向けて斜め互層堆積する状態が明らかであった。

<岩鼻天神遺跡、11号溝>

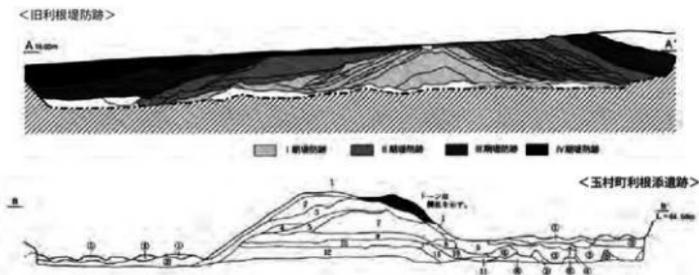
11号溝は、As-A降下以前に埋もれた溝であり、木杭が溝に直交して打たれていた(PL.45)。溝に堆積したAs-Aの上位には間層を挟んで礫混じり暗褐色土が水平に堆積、これが道路の埋め土となり、水平な路面を確保したのであろう。ローム主体の褐色土は顕著とはいえないが、斜め堆積が部分的に残されており、また中程に黒色土の間層があるように見えるところもある(PL.52-5)。溝断面の道路上面にはレンガが顔を出しているのが分かる。レンガの刻印が確認できないため、時期決定できないということであるが、互層堆積を考えるうえで参考になるだろう。

<発掘例-旧利根川堤防ほか->

利根川堤防の調査は、利根川流域の群馬・埼玉・茨城3県で行われている。本県では玉村町利根添遺跡、埼玉県下では旧利根川堤防跡(埼玉県埋蔵文化財調査事業団第450集)、茨城県下では山王中坪遺跡がある。

利根川流域の築堤は嘗々と繰り返されているが、工事中に発見された杉戸町山合遺跡の利根川堤防跡が最初(昭和36年)であり、杉戸町浅間前遺跡(平成5年)の発掘が最初の発掘であるという(田中2016)。現在、当事業団も利根川堤防関連の調査を進めているが、いまのところ発掘地内に堤防はなく、これを直接調査する機会はなさそうである。

各堤防の記載では、①堤防の盛土構造、②盛土作業の方向性、③堤防の構築年代、④破堤した際の堤防修築法や修築時期に関心が集中している(田中2016)。本稿では、近世堤防(土居)に繋がる盛土構造という観点で検討して



第287図 利根川関連堤防断面図
(上: 埼玉県旧利根川堤防跡、下: 玉村町利根添遺跡)

いこう。

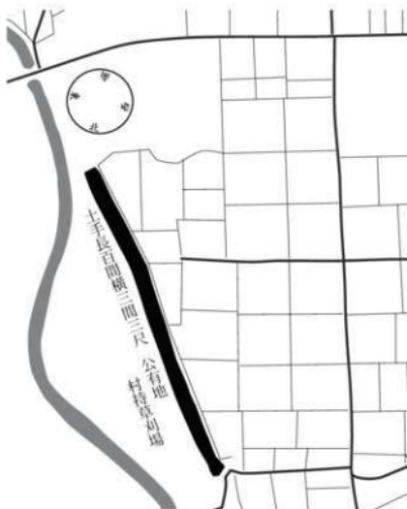
堤防には、①地山に対し水平に盛土する方法、②地山を台形状に削り出し砂質土と粘質土を交互に斜め突き固める方法、③礫と粘土を芯材に杭を打ち込み粘土で覆う方法などがあるといひ、①②は静岡県富里遺跡の例、③は岐阜県柿田遺跡の例である。旧利根川堤防では、初期の土と砂を交互に重ねる方法から、土だけで盛土する方法が採られたといひ、恰も破堤させるのを前提とする方法が採られている。これに対し、埼玉県杉戸町の浅間前遺跡では、同じ利根川堤防でも粘性の強い土と粘性の弱い土を斜め方向に交互に重ね、これを突き固める方法(第287図上)が採られていた。築堤は、中世までさかのぼるとされている。茨城県の例は築堤法に係わるものであるが、川表側が急斜度で裏側が緩く盛土される様子が判明しており、堤本体は版築様に水平に叩き締められたようである。

玉村町利根添遺跡の堤は、川表側:川裏側の勾配は1:1か、川裏側の勾配が緩い断面台形状を呈す。堤本体は水平堆積しているが、粘土と砂を交互に重ねるような状態は意識していないように見える。また、報文では江戸時代の農書に記された築堤技術が紹介されており、当時の技術水準がよくわかる。①上手の下幅を広く上手の傾斜は緩く、②粘性の高い土は上に盛り下に小石混じりの土を重ねること、③堤には柳を植えること、④堤には芝を植えること、以上の4点が重要であるという。利根添遺跡の堤は本流筋の堤防が切れた地点に築かれた南北堤で、洪水を旧河道に逃そうとしたものであるという。報文では旧流路跡が藤川のそれであり、構造的に弱い箇所であることを指摘しているが、この想定が正しいなら、洪水を前提に堤が築かれたことになる。

<斜め互層堆積の背景>

冒頭述べたとおり、綿貫原遺跡では区画溝が褐色土と黒色土が互層堆積、これが斜め方向を向いていた。溝が人為的に埋め戻されることは決して珍しいことではないが、黄色と黒の互層堆積が版築様堆積を呈し、注意を引いた。交互に土砂を重ねる版築は寺院基壇や築地塙建設の際に採用されるものであろうか、それが斜め堆積するようなことはない。どうして斜め堆積なのか、今も疑問である。発掘地点が県道脇であることから、県道建設に

かかわるものか、軽便鉄道建設あるいは軍用施設整備にかかわるものか、それとも壬申絵図に記された粕川右岸の土手の痕跡(第288図)か、考え得る候補を挙げる一方、これと似た埋め土はあるのか不思議であった。江戸時代堀割の発掘や利根川堤防の構造がヒントになるのではないかと考え調べてみた。



第288図 壬申絵図に描かれた臺新田村の土手

<土木技術、転圧法>

江戸時代の堤防は土居と呼ばれ、川面(前のり側)をササや篠竹で覆い、川裏に杉や板を植え、モッコを背負わせ締め固めたということである(中島秀雄2004)。土木学界では土居内部の構造については言及されていないが、近年はスーパー堤防関連の調査で堤防の断ち割り調査が行われるようになり、その構築法が明らかにされつつある。

<築堤の歴史>

利根川堤防の歴史は古く、中世までさかのぼる。築堤には砂と土を交互に突き固める方法が主流だが、礫を混ぜ杭を打ち込む方法、川表に礫を積み上げる方法もあり多様である。いくら固く突き固めるとはいえ、砂が主役では強度の点で心もとないが、単純に突き固める素材(砂から土、土から石へ)が変わるといふものでもないよう

だ。川表側に礫を用いたのは堤防の強度を確保するためだが、河床に礫があるからであり、砂が多用されたのは経済的側面が大きい。堤の断面が略台形から堤防に小段がつくのは明治期以後の方式だそう。いずれも堤の強度を確保するための方策だが、破堤する可能性はゼロにはならない。むしろ、堤は破堤するものとして築かれてきたというのが大方の見解である。ここでは「斜め互層堆積」の起源が築堤にあり、そしてそれが近代にも継続されるということが確認できればいいのであるが、なぜそれが採用されたのか興味深い。

また、報文では「地方凡例録」の治水に関する記載が紹介されている。そこでは堤の構造より流路の制御法や堤の決壊防止策が重視されているという。高崎藩主の命で寛政3～6年に著されたものであるが、天明泥流の発生から10年が経過したところであり、洪水が多発したころの出来事である。著者大石久敬は江戸時代中期の農家とされているが、治水に長け「判例録」には治水関係の記載があるという。九州久留米藩領城島の出ということであるが、久留米と言えば「千栗堤」が有名だが何か関係するのかもしれない。

第2表は綿貫・岩鼻地区の大規模土木事業をまとめたものであるが、まずは江戸時代後期の岩鼻陣屋東の堀割掘削、土塁構築がある。続いて、明治期になり岩倉県庁整備(明治初年)があり、岩鼻火薬製造所着工(明治13年)がある。これ以降の土木関連事業は、すべてが岩鼻火薬製造所に係わり、軽便鉄道敷設や工場敷地の拡大が続く。県道が田中山道に接続したのも烏川を渡河して藤岡方面と連絡したのも、無関係とはいえないように思う。本道跡で確認された「斜め互層堆積」は2ヶ所があり、北の1ヶ所が堤西道跡のそれで、軽便鉄道に接している。南の1ヶ所も日本火薬製造所に近い。軽便鉄道の敷設は1917(大正6)年の、日本火薬製造所の敷地拡大は1942(昭和17)年のことである。いずれも堤防とは係わりがなさそうであるが、同じ技術伝統にあるのは確実で、地盤を強化する点で合致する。南側地点は工場の正門に当たり、基盤整備作業は欠かせない。北側の堤西地点についても軽便鉄道「上州岩鼻駅」とは県道前橋長湊線を挟んだ位置になる。やや離れ過ぎているとはいえ、従前の水田の上に盛土し、地盤改良していることから、まったく無関係ともいえないだろう。壬申絵図の臺新田村東に

は長さ百間、幅三間三尺の土手(第288図)が描かれているが、ちょうど対岸に当たるのが堤西道跡であり、「斜め互層堆積」も川裏の土手になる可能性も否定できないが、河川規模からして土手とするのは難しい。日本火薬製造所の敷地拡大は昭和17年のことであるが、土地買収は昭和14年には開始されていることが群馬県土地台帳により明らかである。軽便鉄道「上州岩鼻駅」西(堤西道跡)の「斜め互層堆積」については台帳が未確認であり、断定できない。地主の聞き取り調査の必要も感じている。

築堤に当たり、掘削も土砂運搬も人力から機械力利用へ変化したという。堤防を締固める際も同様であり、人力による「タコつき」や「土羽打ち」が昭和30年代までの主流であり、ブルドーザー使用は昭和30年代以降のことである(中島2004)。綿貫堤西や岩鼻天神道跡で見られた「斜め互層堆積」するような状態は機械作業では無理があり、人力によることは明らかである。発掘調査では対象外とされ、詳細な情報は得られず特定は困難だが、開発状況を踏まえれば、堤西道跡のそれが大正期のもので、天神道跡のそれは戦前のものであると思われる。

第2表 道跡周辺の工事年表

1793年(寛政5年)	岩鼻陣屋設置
1880年(明治13年)	岩鼻火薬製造所着工
1882年(明治15年)	岩鼻火薬製造所製造開始
1907年(明治40年)	第一次拡大、長湊線が中山道まで繋がる
1917年(大正6年)	軽便鉄道営業開始
1939年(昭和14年)	民地買収(岩鼻5号墳)
1942年(昭和17年)	工場拡大(例幣使が北へ移動)

参考文献

- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団第450集 2019「日利根川堤防跡」
 玉村町教育委員会1998「母祖道跡」
 田中祐樹 2016「古利根川(日利根川)左岸の中世堤防について最近の調査成果から」『埼玉考古』第51号
 中島秀雄 2004「河川堤防技術の変遷」『河川技術』
 津金沢吉茂ほか 1981「群馬県高崎市岩鼻町 群馬の森を中心とする地域の歴史について」『群馬県立歴史博物館第2号』

6. 滑石製白玉の原産地分析について

本書には8遺跡を掲載しているが、地形的には粕川を挟んで兩岸に広がる2遺跡とするのが妥当な理解になる。表題の滑石製白玉が出土したのは綿貫千葉西遺跡のみであり、いずれも竪穴建物から出土したものである。粕川右岸の岩鼻天神遺跡や岩鼻赤城遺跡では古墳周堀1基が確認されているが、滑石製品類の出土は現在のところ確認できていない。石材同定で滑石とされたものは白玉6点と剥片1点の計7点のみであり、分析点数としては物たりなかったが、藤岡市竹沼遺跡ほか2遺跡出土の石製模造品に加え、藤岡市文化財保護課の厚意により伝十二天塚古墳表採の石製模造品(刀子)を参考資料として分析試料に加えることができ、充実したデータとなった。

滑石の関東地区原産地データについては、すでに井上氏がデータを公表している。氏の分析では藤岡市大奈良と甘栗町秋畑の滑石は同じ岩帯にあること、大奈良・秋畑の滑石と県北(上越国境)の滑石は明らかに分離できることが示されている。また、出土品で滑石とされるものは、岩石学的には滑石質蛇紋岩とすべきであるという。ここ数年、県北の縄文遺跡や古墳時代遺跡では装身具に「菓ろう石」と呼ばれる軟質石材が使われていることが明らかになり、注目されている。「菓ろう石」は流紋岩など火山岩類が熱水変質作用を受け生成されたもので、肉眼で両者を区別することは難しいといひ、西日本(岡山や広島、山口)のものが良質であるという。東日本では長野のものが良質とされ、関東地方では栃木県(大貫・大席鉱山など)や群馬県(四万鉱山など)に産するという(五十嵐2006)。

こうした現状を踏まえ、藤岡市竹沼遺跡・本郷花ノ木B遺跡・甘栗町甘栗条里遺跡出土の石製模造品類(剥片類を含む)に、同じく藤岡市伝十二天塚古墳表採の石製模造品を参考資料として加え、これらの原産地分析を試みた次第である。

県内出土の石製模造品類についてはすでに研究実績があり、その変遷や傾向が指摘されている(女屋1988・深沢2001ほか)。その原材料については当初から三波川帯にあるとされ、とくに原産地が問われることはなかった。関西地区では兵庫県八鹿系(聖長鉱山)の滑石が関西圏に広域に流通した一方、和歌山系(船戸山)の滑石が岐阜県

下で確認されるなど、ダイナミックな流通が明らかとなった。こうした成果を受け、関東地区でも滑石の原産地データの整備が行われたのが、ハツ場ダム関連の発掘調査が最盛期を迎えた頃であった。群馬県内においては平成26年の夏に上信国境の滑石が、同年冬に藤岡・甘栗地区(三波川帯)滑石が採取されている。茨城・埼玉両県の原産地サンプルはこれと並行して採取したようであるが、日程の詳細は把握できていない。

滑石鉱山については、飯島静男氏より手書き位置図をいただいていたが、現地に出かけることもなく時間だけが過ぎていた。鉱山位置図入手の経緯について詳細は忘れてしまったが、現在は閉山しており、考古学が目指す質の滑石は入手が難しいということであった(飯島氏談)。井上氏の採取に同行した折、東京オリンピックの頃まで鉱山で働いていたという地元の方がおられたが、滑石は白が上質で、当時は山からゴンドラで県道下まで運んだということであった。現地には露頭があるわけではなく、坑口周辺でサンプリングしたのを記憶しているが、黒曜石が概ね均質であるのに対して、考古学で滑石と呼んでいるものは「マントルかんらん岩あるいは超塩基性岩に水が加わり蛇紋岩化作用を受け、岩石の密度が減少したことで地表まで浮上した岩石」(防災研究チーム2020)であり、多様な顔つきを見せるという。

<消費5遺跡のデータ>

消費5遺跡の分析試料は、 Al_2O_3/SiO_2 、 MgO/SiO_2 、 MgO/Fe_2O_3 とも大部分が領域内に纏まることが明らかである。これから飛び出る試料の評価が問われることになる。

綿貫の7点は全点が綿貫千葉西遺跡の出土であり、No.2・5が6世紀前半の、No.1・3・4が6世紀後半の竪穴建物から出土したものである。No.6・7は9世紀後半の竪穴建物(11号)の出土だが、11号竪穴建物は12号竪穴建物(5世紀末～6世紀初頭)と重複しており、混入遺物となる可能性が高い。同様に、出土遺物から藤岡市竹沼遺跡(EH-1号住)・本郷花ノ木B遺跡(45号住)は6世紀後半、甘栗条里遺跡(109号住)は6世紀前半の製作跡となる。

一般的に、 Al_2O_3/SiO_2 には負の相関関係があり、 Al_2O_3 が20～30wt%で SiO_2 が30～40wt%の一群、 Al_2O_3 が5wt%以下で SiO_2 が60～70wt%の一群がある。同様に MgO/SiO_2 では、 SiO_2 が30～40wt%(MgO :20～25wt%)の一群

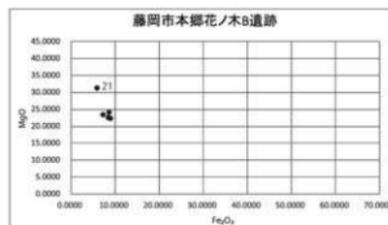
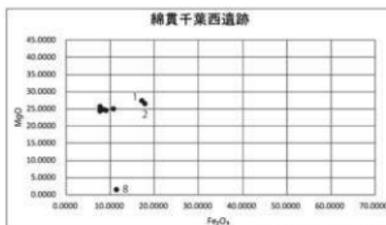
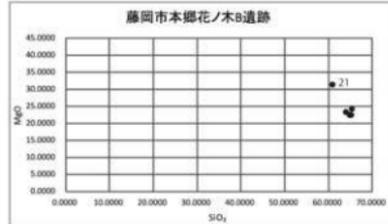
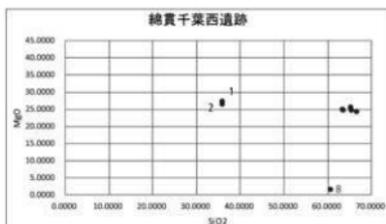
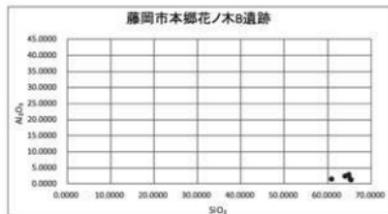
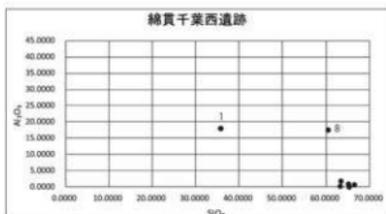
と、 SiO_2 が60~70Wt% (MgO : 20~25Wt%)の一群がある。 $\text{MgO}/\text{Fe}_2\text{O}_3$ については綿貫や本郷花ノ木B、竹沼側は概ね似た領域内に収まっているが、伝十二天塚古墳や甘菜遺跡例は分布が個性的であり、個別の分析が必要となるだろう。綿貫千葉西遺跡では分析試料No 3~7が領域内に、No 1・2 (No1は風化面・No2は切断面測定)・No 8が領域外に外れる。

本郷花ノ木B遺跡の6点は1点 (No21)が外れているが、残る5点は領域内に収まる。

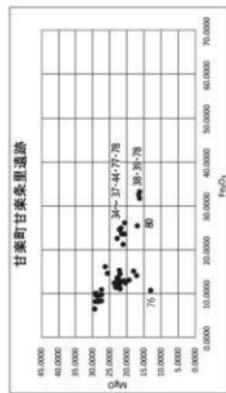
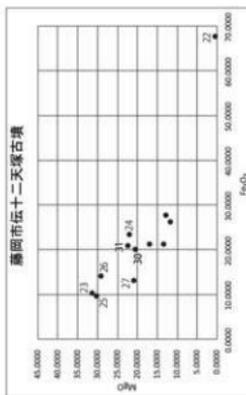
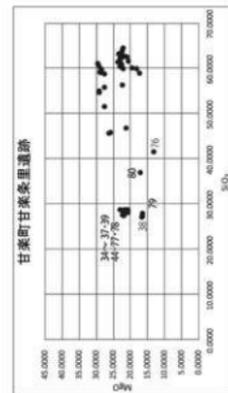
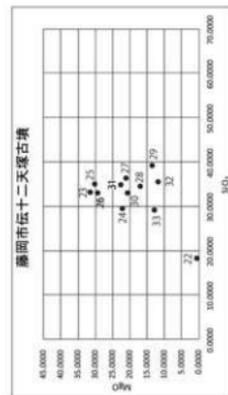
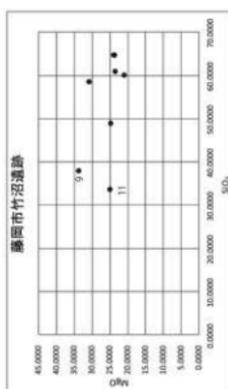
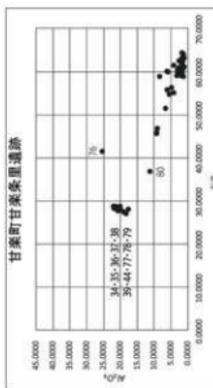
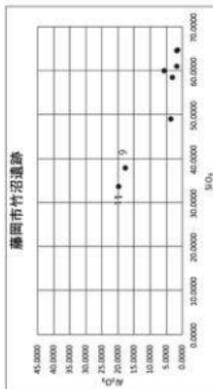
竹沼遺跡の8点は、6点 (No10・12~16)が領域内に収まり、No 9・11が領域外に外れる。領域外に外れる2点も $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ では Al_2O_3 が20Wt%前後、 SiO_2 が30~40Wt%である。 $\text{MgO}/\text{Fe}_2\text{O}_3$ も MgO が25~35Wt%と差がありそうであるが、綿貫千葉西遺跡のデータは同一個体の風化面と

切断面の数値であり比較は難しい。もう少し分析例を充実させる必要がある。

伝十二天塚古墳の12点はNo22のみ領域が外れているが、No22は鉄分が厚く付着したサンプルであり、分析の際は破損面をターゲットに分析するように依頼したもので、鉄サビの付着が影響しているかもしれない。残る11点の内訳はNo23~27が刀子形模造品、No28~33が白玉である。 MgO/SiO_2 には、 MgO が30Wt%前後の一群と10~25Wt%の一群に分離できそうである。前者には、刀子形の模造品以外は含まれない。後者の20~25Wt%の領域には刀子と白玉が含まれているが、白玉も深緑のグループであり、色調が影響している。 $\text{MgO}/\text{Fe}_2\text{O}_3$ は負の相関関係にあり、 MgO が10~35Wt%の一群と5Wt%以下の一群がある。前者は25Wt%を境に二分されるようである。



第289図 化学分析図1 (綿貫千葉西・本郷花ノ木B遺跡)



甘楽遺跡の47点の内訳はNo34～51が99号住、No52～65が99号住ピット内、No66～80が109号住の出土である。

各図(Al_2O_3/SiO_2 、 MgO/SiO_2 、 MgO/Fe_2O_3)に示される分布状況はグルーピングが可能であり、 Al_2O_3/SiO_2 には少なくとも2群が、 MgO/SiO_2 には2～3群が、 MgO/Fe_2O_3 には4群がグルーピングされそうである。

Al_2O_3/SiO_2 では SiO_2 が30Wt%以下の一群(No34～39・44・No77～79)と60Wt%前後の一群があるほか、領域外にNo76・80がある。 MgO/SiO_2 では領域外のNo76・80を挟んでNo34～39・44・No77～79の一群と SiO_2 が60%前後の一群がある。また、後者には MgO が15～25Wt%と25～30Wt%に集中があり、細分可能な状況にある。 MgO/Fe_2O_3 は、以下の集中部4群がある。

MgO が30Wt%弱、 Fe_2O_3 が10Wt%前後の一群

→(No42～45・46～48・66～69、75)

→99・109住覆土

MgO が18～25Wt%、 Fe_2O_3 が11～16Wt%の一群

→(No40・41・50～52・55・57～61・63・65・73)

→No52～65は99住pitの遺物

MgO が20～25Wt%、 Fe_2O_3 が20～26Wt%の一群

→(No34～37・77・78)

→No34～37は99住覆土、77・78は109住覆土

MgO が15～20Wt%、 Fe_2O_3 が30～35Wt%の一群

→(No38・39・79)

→No38・39は99住覆土、No79は109住覆土

・綿貫、本郷花ノ木B遺跡の分析値は、よく似る。

・竹沼も綿貫や本郷花ノ木B遺跡の分析値に近い。が、やや離れ気味の2点(No9、11)がある。竹沼遺跡の分析試料には SiO_2 が30～40Wt%となる一群と、 SiO_2 が60Wt%前後を示す一群があり、前者が御荷鉾緑色岩類(超塩基性岩類)に、後者が酸性岩類に区分されている。

<原石データ>

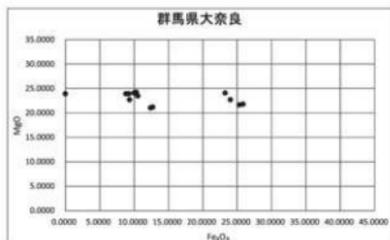
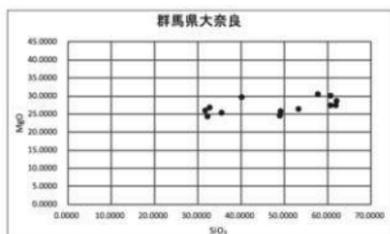
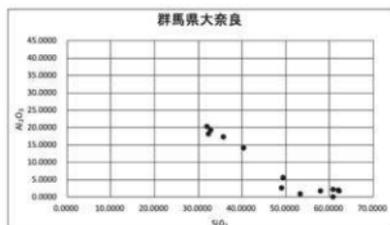
原産地データは関東地区群馬、埼玉、茨城3県の原石データが示されている。井上氏は、岩石学では火山岩は SiO_2 の量で定義されるというのが世界標準であり、これに従い分析は行われるべきであるという。原産地データは以下の12ヶ所が示されている。

群馬県：藤岡市大奈良・甘楽町秋畑・四万・上信鉱山
埼玉県：美の山・國神・砕石場・長瀬野口・長瀬粉末
茨城県：梅沢採石場・長谷鉱山

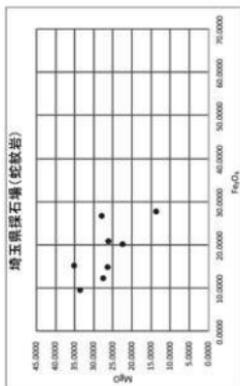
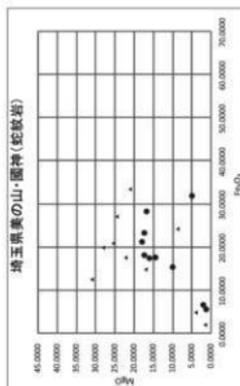
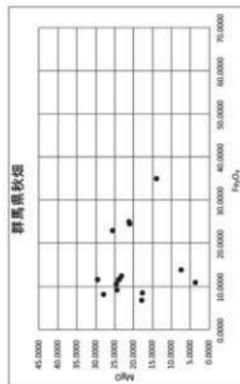
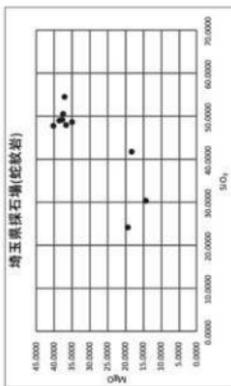
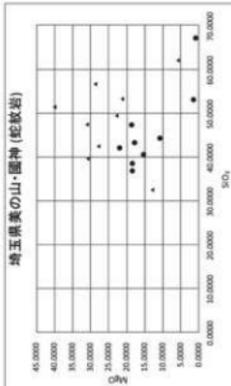
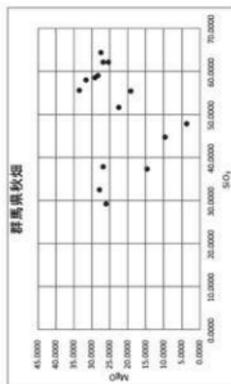
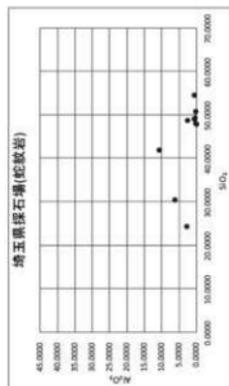
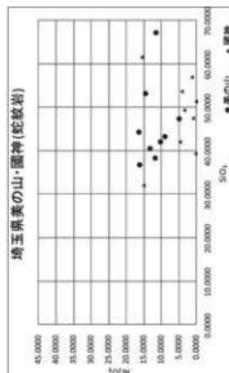
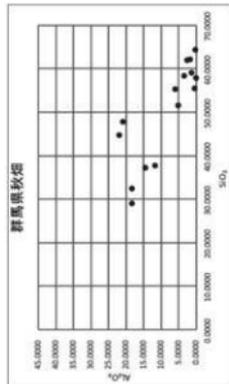
長野県：内山ダム

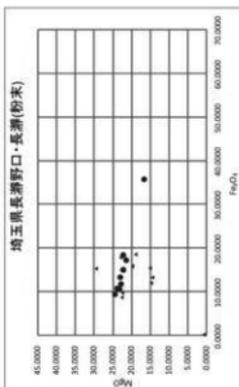
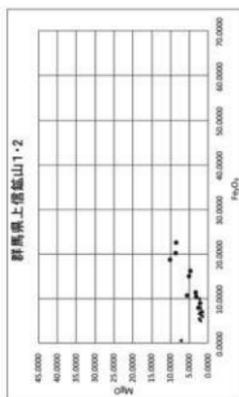
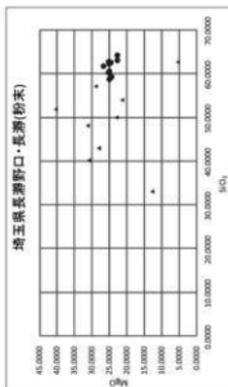
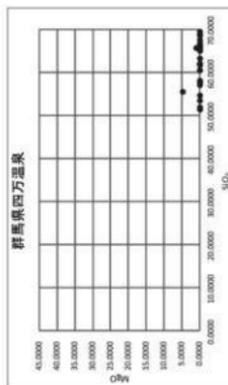
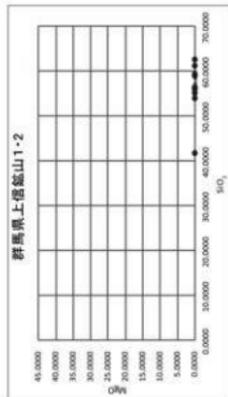
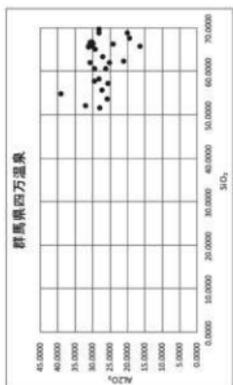
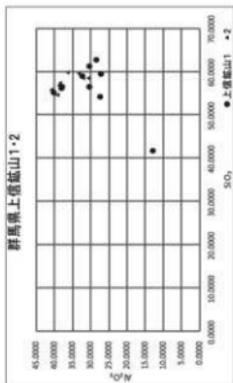
12の原産地データには、 Al_2O_3/SiO_2 が負の相関関係を示す一群(群馬県大奈良・秋畑、茨城県梅沢)と、 SiO_2 が50～70Wt%に集中する一群がある。後者は Al_2O_3 の含有比が5Wt%になるもの(埼玉県長瀬野口)と、15～40Wt%になるもの(群馬県上信鉱山・四万温泉、長野県内山ダム)がある。

埼玉関連のデータには、蛇紋岩と記された原産地(美の山、國神、砕石場)、原産地のみが記される原産地(長瀬野口)がある。「美の山」の領域は藤岡市大奈良や甘楽町秋畑より上に、「國神」「砕石場」は下に分布領域がある。これに対し「長瀬野口」は Al_2O_3 が5Wt%以下を示し対照

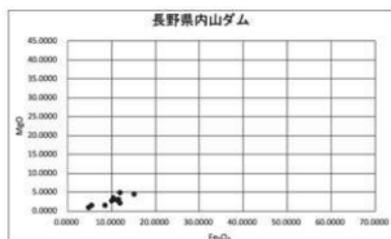
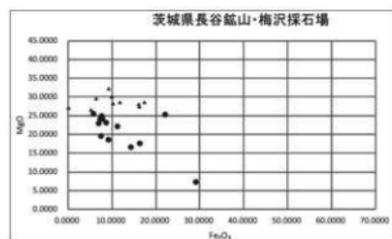
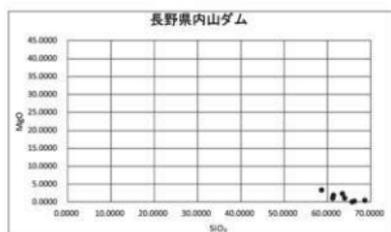
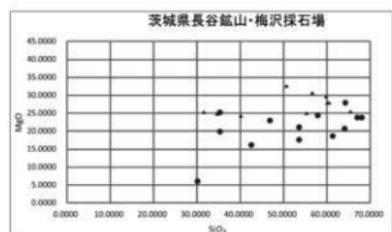
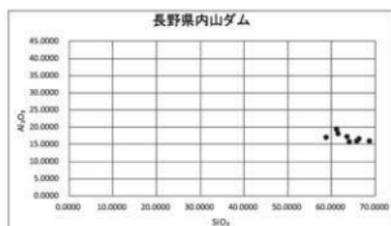
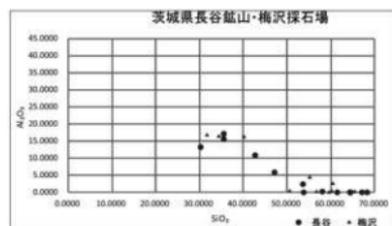


第291図 化学分析図3(原産地、大奈良)





第293図 化学分析図5(原産地・上信越山・四方温泉・長瀬野口)



第294図 化学分析図6(原産地、茨城長谷鉱山・長野内山ダム)

的であり、どちらかという群馬県北の上信鉱山1に近い。これと似たデータが長野県内山ダムのデータになる。

茨城県の鉱山データは大奈良や秋畑、埼玉県下の蛇紋岩グループに近い。

<滑石・葉ろう石・滑石質蛇紋岩>

滑石製石製模造品等には、灰白色～青灰色の軟質石材が使われている。井上氏は、考古学的には慣例的に「滑石」と呼ばれているが、岩石学的には蛇紋岩が熱水作用で変質したものであるといい、「滑石質緑色岩類あるいは滑石質蛇紋岩というほうがいい」と本遺跡の分析報告書

で指摘している。

群馬県内には、12の滑石関連鉱山がある。最も早く開発されたのが秋畑タルク鉱山(1900年)、滑石鉱山が最も多く採業されたのが1950年(大奈良ほか)である。滑石は戦後原材料として幅広く使われており、工業用原材料としては白が上質とされ、濃い色になるほど等級品質が下がるということである。

大奈良・秋畑鉱山は三波川帯にあり、上信越国境に近い上信鉱山や四万鉱山は成分的に大奈良・秋畑と明らかに異なる領域に分布(第293図)する。滑石は蛇紋岩が変

質したもので、ろう石は流紋岩などが熱水変質作用を受け変質したものであるという(五十嵐1111)。両者は肉眼で見分けることは難しいようであるが、それぞれの由来を知れば、似て非なる石材であるということだけは分かるが、厄介な石材である。

<蛇紋岩> 蛇紋岩の定義は、以下のとおりである。

地学辞典には「600℃以下の温度条件でMgに富んだかんらん岩・輝石が熱水変質作用により蛇紋岩に変わる」とある。防災研究チームも「地下深く存在したマントルかんらん岩や超塩基性岩類に水が加わる蛇紋岩化作用を受け、岩石の密度が減少、地表まで上昇した岩石」と述べている。井上氏も「かんらん岩などが水と反応して、蛇紋岩化作用を受けることで生成された岩石」、五十嵐氏も「超塩基性岩(実質的には変質岩)であり、かんらん岩に水が加わり蛇紋岩となる」としている。

<滑石> 滑石の定義は、以下のとおりである。地学辞典には、「超苦鉄質岩の熱水変質作用の産物として、また、ある種の広域変成岩の主成分として産す。ドロマイトの熱変成によっても作られる」とある。井上氏は「滑石は超苦鉄質岩の蛇紋岩が変質したものと、高圧低温下で塩基性凝灰岩が変質したものである」といい、蛍光X線分析ではSiO₂が60～63wt%、Al₂O₃が0～3wt%の領域にあるという。私信では、かんらん岩の変質に伴いFeが抜け出して蛇紋岩に変化、さらにこの蛇紋岩のFeが抜け出して滑石に変化したものであるといい、流紋岩やデイサイトが熱水作用を受けて生成するともいう。言わば、蛇紋岩起源のものと流紋岩起源のものとがあるということであるが、大奈良や秋畑が蛇紋岩起源で、栗比のものが流紋岩起源ということであろうか。

ろう石には、①パイロフィライトを主成分とするろう石、②カオリン貫ろう石、③絹雲母貫ろう石3種があるとされる。

葉ろう石とされるものはこれまで何度か見ているが、印象が薄く、具体的に思い浮かばない。ろう石とは肉眼で区別するのは難しいということであるが、やや透明感があり緑色を呈するものと、乳白色のものがあるようである。

<母岩的特徴>

分析試料一覧表の備考には、器種名称(未成品・石核・剥片)、母岩的特徴を略記した。加えて、竹沼や本郷の

試料は過去に分析実績があり、これについては旧番を併記しておいた(事業団報告書652集)。旧番を記したのは、データの突合が目的である。

母岩的特徴は肉眼的観察によるもので、本来なら接合作業を経て分類されるべきものであろうが、接合の可能性は少なく、母岩毎の記載も難しい。分析一覧備考に記した石材の観察所見は急速観察したものであるが、時間をかけるほど実態に近づけるという保証はない。母岩的視点からみた観察結果を記載するのは、母岩分類が分析データと、どのような対応関係にあるのか、その有効性を確認するためである。以下そのことについて概要を述べておきたい。

記載は色調の特徴が主で、①青灰色、②白灰色、③淡緑色、④青灰色と灰白色の斑模様としてみた。どの程度有効か分からなかったが、Feの量と関係するようだ。

<まとめ>

分析の結果、本遺跡の出土品は本郷花ノ木B遺跡に類似、流紋岩起源の滑石であることが判明した。竹沼遺跡の出土品は滑石および滑石質蛇紋岩の二群からなることが判明した。最も良質に見えた伝十二天塚古墳の表採品は、分析上は滑石質蛇紋岩(緑色岩系滑石)ということであろうか。甘菜条里遺跡についても滑石とされるものと滑石質蛇紋岩があり、竹沼遺跡と同様な構成になることが明らかとなった。こうした傾向は原石データにも整合的で、両者は同じ岩帯であると結論されたようである。

平野・須藤(2000)では、滑石鉱床にはタルクタイプのものでクロライトタイプのものであるという。前者は三波川結晶片岩層(かんらん岩・蛇紋岩を原岩)にあり、鉱体は1～2m、鉱床規模は500tであるとした。また、後者のタイプは御荷鉾緑色岩層(超苦鉄凝灰岩)にあり、鉱床規模は5000t以上であるという。藤岡地区には、大奈良や下日野に滑石鉱山が複数あるということであり、このことから、岩脈が複数あり、採集地は分散しているという想定が可能である。原岩が限定され、Al₂O₃の重量比が10wt%単位で異なるのは、そうした鉱床の相違を反映しているかもしれないが、富岡地区の石製模造品を含めてもう少しデータを充実させたいところである。

また、本遺跡では1点のみが風化面の計測(No 1)に加え同じ個体で新鮮面(切断面)の計測(No 2)を行い、風化面と新鮮面では計測値が異なるのか検討してみた。

分析結果は風化面も新鮮面も影響はないというのが結論だが、同様な計測を行い、信頼性を高める必要がある。黒曜石同様、被熱の影響も検証する必要がある。現状では大奈良一甘菜産滑石は分離できないとされているが、出土位置や個体識別の検討を通じて、もう少し解像度を上げた検討ができるよう取り組もう、と思う。

県内の玉造工房資料を分析した各氏の石材呼称は微妙だが、石材は初期の緑色岩類から最盛期の滑石質蛇紋岩へ、そして最終段階の滑石使用の順に変遷するという考えがある。初期に緑色岩類を使用することに異論はなく、滑石質蛇紋岩から滑石へ、あるいは、時期がくだるのにつれて滑石でも軟質のものや白色のものが主流になるとする理解である(女屋1997)。一方、甘菜糸里遺跡では「石材はすべて滑石であり、粗製品の白玉は青味がかった灰色や淡緑色を呈し研磨仕上げの白玉は乳白色を呈する。粗製品に乳白色の白玉はまったくといっていいほど使われていない」とする見解がある(小安1989)。前者は石材の質に通時的変化を、後者は共時的変化を捉える点が異なる。前者は滑石鉱山の変遷を、また、後者は鉱山資源が多様であることを示唆するものであり、検証する必要がある。

滑石と葉ろう石は肉眼では区分できないということであり、現状で原産地は不明である。近年、吾妻川流域の縄文期遺跡や古墳時代遺跡では葉ろう石を用いた玉類が発見され、上信越国境には滑石鉱山が点在することから、原石の採集地発見が期待されている。葉ろう石には様々な色調を呈し明暗もあり多様である。製品類は磨かれて強く光沢を帯びるのに対し、剥片類は光沢に欠ける傾向もあるようだが、古墳時代の滑石製玉類とは質感が異なるように思う。今後は、葉ろう石と同定された玉類についても分析をおこない、どのように分析データが示されるのか、待望される場所である。上述した滑石鉱床分析(平野・須藤2000)以外の分析として、北毛四方鉱山交渉の分析(2009)があり、いずれも鉱床が小規模であることと、岩脈が薄く複雑であることを指摘している。四方鉱山ではろう石帯とされるものが10~15m幅で脈状に分布、写真で示された高アルミナ鉱やコラングムAは良質であるということであるが、粒状であり玉類の素材としては不適当である。また、ここでは露頭サンプル2点(SM110・SM215)と採掘済み試料(サンプリング位置不明)

3点の化学分析が行われており、

SM110のSiO₂:Al₂O₃比(44.47wt%:37.63wt%)

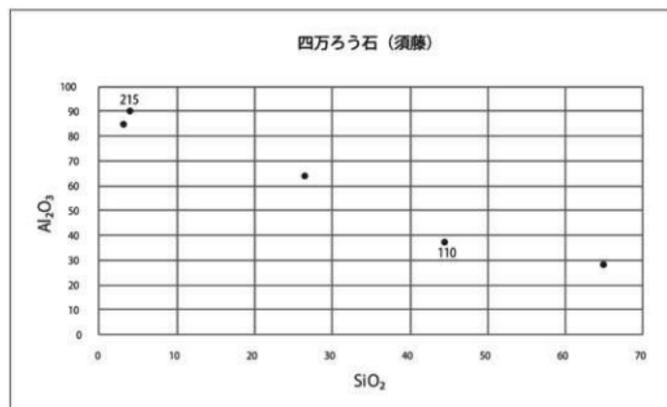
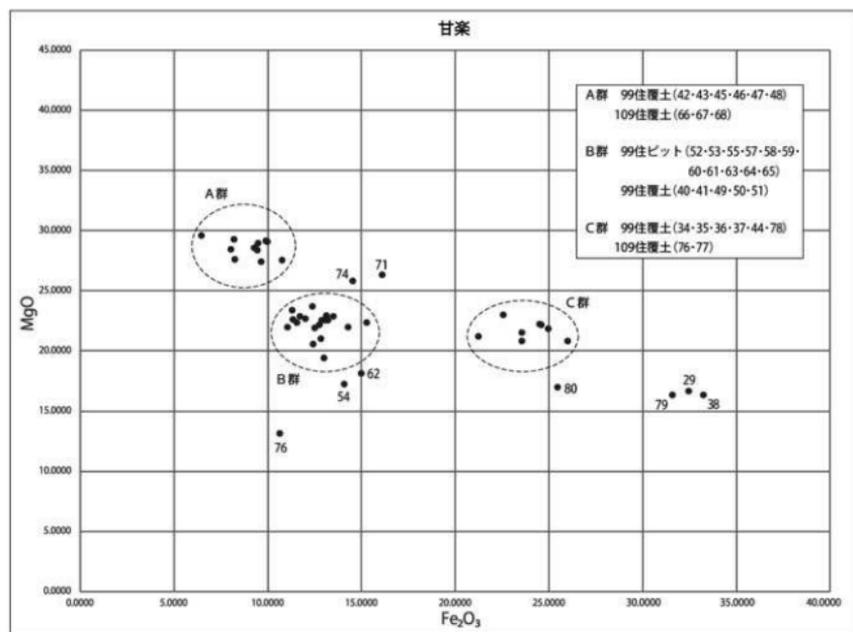
SM215のSiO₂:Al₂O₃比(4.04wt%:90.39wt%)

の露頭サンプルの分析値を得ている。残る3点もSM1がSM215に近い数値となっているが、サンプル5点の分布域が集中するようことはない。現状で滑石の原産地が絞れたわけではないが、考古サイトとして露頭調査に積極的に関わるべきであると助言されている。

石器石材の原産地データ分析は分析者に任されているのが現状で、考古サイトはユーザーであることが多い。分析法は研究者毎に異なり、その有効性が実感できないため、なかなかデータが蓄積していかず悪循環にある。データを蓄積するには組織的・継続的であることが重要であり、組織内の問題意識共有も必要になる。

参考文献

- 藤岡市教育委員会 1978 『F1竹沼遺跡』昭和52年度発掘調査概報
- 藤岡市教育委員会 2022 『本郷花ノ木B遺跡ほか』
- 甘菜町教育委員会 1989 『甘菜糸里遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団第215集 1997 『緑芝遺跡群 緑芝上郷遺跡 竹沼遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団第704集 2022 『方木沢遺跡』
- 女屋和志雄 1988 『群馬県における古墳時代の玉作』『群馬の考古学』創立十周年記念論集
- 深沢敦仁 2001 『群馬県の石製品・石製模造品製作地について』『考古学』英訳『梅澤重昭先生休戚記念論文集』
- 井上 巖 2005 『滑石の化学特性と産地分布』『第54回 埋蔵文化財研究集会 古墳時代の滑石製品』
- 須藤定久 2009 『群馬県四方ろう石鉱山』『地質ニュース661号』
- 群馬県 1956 『第IV報 多野郡の滑石鉱床』『群馬県地下資源調査報告書委託調査第12集』
- 防災地質チーム 2020 『蛇紋岩について』『基地土本研究所月報809号』



第295図 化学分析図7 (上：甘楽条里道跡、下：四万温泉)

7. 統括

検出遺構は縄文時代から古墳・古代・中近世まで内容も多岐に及んだ。言及できていない点が二三あり、若干を補足しておきたい。

まず旧石器だが、綿貫地区旧石器は発見されるとすれば、陣馬岩層なだれ以後As-YF降下までの石器群であることを指摘しておきたい。豊富な石材資源(黒色安山岩・黒色頁岩)が川の両側にあり、平坦な移動ルートとしても優れた河原に石器群が残されているかもしれないが、4mを掘り下げる必要があり、発見のハードルは高い。

縄文時代では前期後半から後期前葉の竪穴建物3棟が確認されている。後期前葉の竪穴には土坑が伴い、集落を形成することが明らかである。出土遺物では後期竪穴建物から出土したC字状の石製品が目目され、これと礫石器2点が壁際で石囲い状に出土した。この程度の石組は珍しいものではないということであるが、該期の屋内祭祀として興味深い。また、やや離れた綿貫原前遺跡の石製品(第712集、第216図3)は包含層出土の遺物であり伴出土器も不明だが、博物館所蔵の石製品(東吹上遺跡)を想起させるものがある。神保植松遺跡の報告書に同形態の石製品(環石)がある。その上限は縄文前期、下限は弥生中期後半としておこう。

古墳関係では未知の古墳群が発見され、成果を上げた。粕川右岸の岩鼻天神・岩鼻赤城遺跡発見の古墳周堀11基がそれで、上毛古墳総覧の岩鼻村古墳4基と合わせ、大規模な古墳群になることが明らかとなった。古墳分布は岩鼻天神遺跡の県道西調査区に未調査地があり、この地点に古墳が隠れている可能性も否定できないが、現状で古墳分布は二群に分離可能である。古墳分布は地形的な制約(段丘崖)があり、粕川右岸に帯状に分布したものと恐れ、粕川左岸古墳分布からすると、東西700m前後に広がる可能性がある。埴輪は赤く焼き上がるものと白く焼き上がるものがあり、埴輪胎土は片岩片や海綿骨針など見た目の特徴が乏しく、胎土中の赤色粒が鉱物粒か粘土粒か、どのように記載すべきであるか悩んだ。こうした疑問は解消されつつあるが、埴輪窯の出土品分析は欠かせない。成果品には $Al_2O_3-SiO_2$ 分布図が原古墳のデータと併せ図示されているが、マイナス方向に直線的に並んでいる。その分布状態は滑石のそれ(滑石分析を参照)

と同様であり、基盤層を反映したそれに近い。であるならば、秋間や太田など丘陵単位に対比を行えば差は明らかとなる。

古墳時代以後の集落動向については、5～6世紀代の古墳造営や9世紀代の古代寺院設置を踏まえ評価する必要がある。井野川下流域では県道拡幅関係(本報告)と国道354号線関連、工業団地造成関連の発掘調査が行われ、県道関連で45,974㎡、国道関連で36,829㎡、高崎市分で104,208㎡になる。分析は将来的課題となるだろうが、集落動向について取り纏めてみたので、竪穴建物の増減傾向について、その傾向を指摘しておきたい。

事業関連の綿貫地区発掘調査では、12遺跡963棟の竪穴建物が調査されている(第329・365・547・556・567・579集)。このうち、前・後期に時期区分された578棟の竪穴建物についてその増減傾向を記せば、増減期3期の指摘が可能である。第1に4世紀代(前・後期区分できない竪穴120棟)、第2に6世紀後半代(106棟)、第3に9世紀後半代(93棟)に竪穴のピークがあり、集落の拡大期を迎えた(表3を参照)。竪穴の増減傾向で見た特徴は、4世紀代集落も、6・9世紀代集落も、ピークに達する前より後のほうが減少が激しいことが指摘できそう。農耕集落の発展史観からすれば、4世紀代集落の激減ぶりにはおどろかされるが、時期別に細分できておらず集落変遷は課題として残されている。それにしても5世紀代集落は壊滅的に減少しており、これ以上の画期はない。その背景には①欠水地帯であることが影響したとする考え方、②気候変動を反映したとする考え方などがあるだろうが、③初期農耕適地の開発を終え、平地から丘陵へ開発対象を拡大した結果の人口移動とも、5世紀代になり導入された馬匹生産の開始が影響したものと解釈できようか。いずれにしても、5世紀代集落の動向は広く見定める必要がありそう。6・9世紀代集落の増減は、どのように捉えることができるだろうか。6世紀後半は井野川下流域最後の大形墳(綿貫観音山古墳)が築かれる時期である。大形墳に近接した集落という視点で集落を捉える必要があり、綿貫千葉西遺跡や綿貫伊勢遺跡、下流高井前遺跡で拡大傾向が著しい。集落拡大が大形墳造営に絡む可能性が高い。

一方、9世紀代の集落は後半期に拡大しているといえそうであるが、減少期のピークは8世紀後半期にあり、

1世紀ほど時間を要している。当事業団では赤城山南麓の集落が9世紀前半期になり竪穴棟数が減少することを指摘、これを地震災害(弘仁地震)による二次災害(泥流・洪水)が原因と指摘した。荘園研究でも古代集落の消滅が取沙汰されているが、9世紀後半の気候変動が原因であるとす。長野県の調査例は隣県でもあり、また、洪水災害によるものであり興味深い。屋敷遺跡の例がそれである。同遺跡は7～9世紀に繰り返し洪水に見舞われ、その都度復旧されたということであるが、888年の大洪水以後、集落は復旧されることはなかったという。峠を隔てた田川流域も同様で、それまでの集落は9世紀後半に消滅、その後の集落は洪水を避け段丘上に移動したと述べた(伊藤2021)。

888年という年代は文献と年代測定から得られた確実性の高い数字で、八ヶ岳の山体崩壊とダム湖の決壊に原因があり、これにより千曲川大洪水(早川2011)が起きたというが、田川流域の洪水はダム決壊によるものでないことは明らかである。田川流域は塩尻峠西にあり、その谷筋は八ヶ岳には延びていないからである。氏は千葉県下でも9世紀後半期の集落が消滅することから、気候変動によるものとしたのだろうか、本県および埼玉県下の平安期地震災害と言え、弘仁地震(818年)である。上野・信濃とも地震後ほどなく洪水が発生しており、下流域の生産域に甚大な被害を与えた点で変わらないが、片や9世紀前半、片や9世紀後半というのでは気候変動によるものとは断言できない。もう少し精度を上げた時間軸を集落研究でも用意する必要があるのではないか。

そうでなければ本県平野部の9世紀後半の竪穴建物棟数増加は、説明ができないからである。近年の理化学年代測定は飛躍的に発展しており、最新の年代測定法では実年代が年単位で明らかになるほか、降水量の増減も推定でき、気候変動解明の精度が増している。発掘調査でも、これに対応できるよう心がけたい。

綿貫遺跡(高崎市調査1985)では、土壇遺構(瓦葺建物)が9世紀後半期竪穴建物の上で確認されたという。建物が何か確定していないようであるが、綿貫千葉西遺跡40号竪穴では緑釉陶器製「托」が出土、その関連が指摘されているところである(第11章2)。建物が瓦葺であることや、9世紀後半竪穴建物の上面が確認面であることを踏まえれば、高崎市本郷満行原遺跡(第722集)同様、そこには富豪層(田堵)と呼ばれる農民層の頭領が想起されてくる。群馬県内の集落動向は綿貫地区遺跡群でも変わらないが、綿貫小林前集落では9世紀前半期の18棟を経て9世紀後半代には33棟を数えるまでに拡大した。そして、10世紀前半も同規模の集落として継続しているのであるが、瓦葺建物検出地点にも近く、同じ集落内の重要施設として理解すべきものである。本郷遺跡群では宗教関連遺物も注目されているが、併せて「銅印」や「権」なども出土しており、郷の中枢として機能したと思われる。これとほぼ同時期の綿貫遺跡にも瓦葺建物があり、注目しておきたい。

参考文献

- 伊藤俊一 2021「荘園」中公新書
中塚 武 2020「気候変動の日本史」吉川弘文館

第3表 井野川流域遺跡の竪穴棟数の変遷

遺跡/ 時期	下流天水	綿貫小林前	綿貫原北 (限道)	綿貫原	綿貫原前	綿貫反町	綿貫千葉西	綿貫原北野	綿貫牛道	綿貫伊勢	下流高井前	総計
03C.後半										1		1
04C.前半										2	1	3
04C.後半	7									7		14
05C.前半	2											2
05C.後半							1					11
06C.前半	1	1				1	3		1			14
06C.後半	10	7					10		1	40		38
07C.前半	8	1				1	4		3	32	24	73
07C.後半	11						6		1	26	16	60
08C.前半	7	1					5		4	24	3	44
08C.後半			5							7	4	16
09C.前半	2	18					3			7	1	31
09C.後半	7	33	1	1	1		12	13		19	6	93
10C.前半		30			1		8	3		15	6	63
10C.後半	2	12					3			8	10	35
11C.前半							2			1	1	4
総計	57	108	1	1	2	2	57	16	10	189	135	578

計測一覽表

土坑計劃一覽表

< 綫貫西道跡 >

遺構名	形狀	長徑	短徑	深さ	主軸方位
R1-13区1号土坑	橢圓形	2.24	1.17	0.39	N-76°-W
R1-13区2号土坑	方形	(1.85)	0.78	0.53	N-14°-W
R1-13区3号土坑	橢圓形	(0.85)	0.75	0.44	N-82°-E
R1-13区4号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-13区5号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-13区6号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-13区7号土坑	橢圓形	(1.32)	0.85	0.16	N-14°-W
R1-13区8号土坑	円形	(1.08)	1.03	0.06	N-77°-E
R1-13区9号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-13区10号土坑	橢圓形	1.93	(0.54)	0.48	N-2°-E
R1-13区11号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-13区12号土坑	橢圓形	1.08	0.94	0.26	N-74°-E
R1-13区13号土坑	橢圓形	0.96	0.88	0.29	N-88°-E
R1-13区14号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-13区15号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-13区16号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-13区17号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-13区18号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-13区19号土坑	方形	0.70	0.55	0.27	N-79°-W
R1-13区20号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-13区21号土坑	円形	0.80	0.77	0.05	N-12°-W
R1-13区22号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-13区23号土坑	橢圓形	0.96	0.51	0.13	N-51°-W
R1-13区24号土坑	橢圓形	1.83	1.24	0.54	N-29°-W
R1-13区25号土坑	不明	0.67	(0.25)	0.19	N-4°-E
R1-13区26号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-13区27号土坑	円形	0.66	0.62	0.36	N-21°-E

< 綫貫千星西道跡 >

遺構名	形状	長徑	短徑	深さ	主軸方位
R2-3区1号土坑	溝状	(2.30)	0.57	0.10	N-70°-E
R2-3区2号土坑	溝状	4.15	0.57	0.06	N-20°-W
R2-3区3号土坑	溝状	3.50	0.71	0.09	N-16°-E
R2-3区4号土坑	欠番	-	-	-	-
R2-3区5号土坑	橢圓形	1.48	(0.66)	0.11	N-16°-W
R2-3区6号土坑	橢圓形	1.84	(1.03)	0.10	N-14°-W
R2-3区7号土坑	橢圓形	(1.05)	1.20	0.47	N-12°-E
R2-3区8号土坑	円形	0.78	(0.77)	0.31	N-20°-E
R2-3区9号土坑	欠番	-	-	-	-
R2-3区10号土坑	円形	0.74	0.67	0.27	N-22°-W
R2-3区11号土坑	橢圓形	2.10	0.90	0.47	N-8°-E
R2-3区12号土坑	橢圓形	0.88	0.75	0.17	N-20°-W
R2-3区13号土坑	溝状	4.25	1.30	0.55	N-76°-E
R2-3区14号土坑	橢圓形	0.74	0.63	0.19	N-27°-E
R2-3区15号土坑	欠番	-	-	-	-
R2-3区16号土坑	欠番	-	-	-	-
R2-3区17号土坑	欠番	-	-	-	-
R2-3区18号土坑	欠番	-	-	-	-
R2-3区19号土坑	欠番	-	-	-	-
R2-3区20号土坑	欠番	-	-	-	-
R2-3区21号土坑	欠番	-	-	-	-
R2-3区22号土坑	長方形	1.24	0.95	0.41	N-80°-E
R2-3区23号土坑	欠番	-	-	-	-
R2-3区24号土坑	欠番	-	-	-	-
R2-3区25号土坑	長方形	1.24	0.96	0.10	0°
R2-3区26号土坑	橢圓形	0.90	(0.60)	0.58	N-13°-W
R2-3区27号土坑	橢圓形	1.40	(0.45)	0.23	N-12°-W
R2-3区28号土坑	橢圓形	(0.80)	(0.60)	0.34	N-7°-W
R2-3区29号土坑	橢圓形	1.43	0.75	0.03	N-67°-E
R2-3区30号土坑	円形	0.60	0.57	0.31	N-31°-W
R2-3区31号土坑	橢圓形	(0.47)	(0.40)	0.29	N-63°-W
R2-3区32号土坑	橢圓形	1.03	0.59	0.15	N-3°-E
R2-3区33号土坑	橢圓形	0.82	0.75	0.13	N-11°-W
R2-3区34号土坑	長方形	1.07	(0.29)	0.25	N-11°-W
R2-3区35号土坑	長方形	2.26	(0.62)	0.57	N-8°-W
R2-3区36号土坑	橢圓形	(1.10)	0.95	0.21	N-10°-E
R2-3区37号土坑	橢圓形	0.61	0.57	0.20	N-12°-W

< 綫貫千星西道跡 >

遺構名	形状	長徑	短徑	深さ	主軸方位
R2-3区38号土坑	橢圓形	1.50	(0.65)	0.28	0°
R2-3区39号土坑	円形	0.60	0.56	0.13	N-42°-E
R2-3区40号土坑	橢圓形	0.74	0.65	0.26	N-5°-E
R2-3区41号土坑	橢圓形	0.90	0.66	0.17	N-21°-W
R2-3区42号土坑	橢圓形	0.63	0.59	0.28	N-30°-E
R2-3区43号土坑	橢圓形	0.66	(0.39)	0.88	N-14°-W
R2-3区44号土坑	橢圓形形状	(0.57)	(0.57)	0.26	N-35°-E
R2-3区45号土坑	橢圓形	0.59	0.46	0.30	N-12°-W
R2-3区46号土坑	橢圓形	0.90	0.85	0.26	N-28°-E
R2-3区47号土坑	橢圓形	(0.80)	0.70	0.13	N-30°-W
R2-3区48号土坑	橢圓形	(0.66)	0.61	0.22	N-23°-W
R2-3区49号土坑	橢圓形	0.75	0.60	0.09	N-4°-W
R2-3区50号土坑	橢圓形	0.58	0.47	0.26	N-18°-E
R2-3区51号土坑	橢圓形	1.15	(0.43)	0.18	N-11°-W
R2-3区52号土坑	橢圓形形状	0.90	0.60	0.24	N-60°-E
R2-3区53号土坑	橢圓形	0.87	(0.73)	0.27	N-44°-E
R2-3区54号土坑	橢圓形	(1.45)	(0.77)	0.23	0°
R2-3区55号土坑	橢圓形	1.34	(0.53)	0.20	N-13°-E
R2-3区56号土坑	橢圓形	1.34	(0.67)	0.26	N-10°-W
R2-3区57号土坑	橢圓形	0.90	(0.61)	0.11	N-15°-W
R2-3区58号土坑	欠番	-	-	-	-
R2-3区59号土坑	橢圓形形状	(0.41)	(0.24)	0.06	N-20°-E
R3-3区85号土坑	橢圓形	0.97	0.80	0.13	N-10°-W
R3-3区86号土坑	橢圓形	1.22	1.18	0.19	N-15°-W
R3-3区87号土坑	欠番	-	-	-	-
R3-3区20号土坑	欠番	-	-	-	-
R3-3区21号土坑	欠番	-	-	-	-
R3-3区22号土坑	欠番	-	-	-	-
R3-3区23号土坑	長方形	0.52	0.42	0.36	N-25°-W
R3-3区24号土坑	橢圓形	1.49	(0.85)	0.24	N-52°-E

< 岩鼻综合道跡 >

遺構名	形状	長徑	短徑	深さ	主軸方位
R3-4区21号土坑	橢圓形形状	0.80	0.48	0.31	N-50°-W

< 岩鼻延喜寺道跡 >

遺構名	形状	長徑	短徑	深さ	主軸方位
R2-4区9号土坑	長方形形状	(1.23)	0.63	0.74	N-66°-E
R2-4区10号土坑	略長方形形状	0.95	0.45	0.68	N-56°-W
R2-4区11号土坑	略長方形形状	1.28	0.62	0.19	N-20°-W

< 岩鼻天神道跡 >

遺構名	形状	長徑	短徑	深さ	主軸方位
R2-4区1号土坑	長方形	1.91	0.68	0.64	N-10°-W
R2-4区2号土坑	円形	(1.03)	0.78	0.33	N-30°-E
R2-4区3号土坑	円形	(0.91)	0.55	0.11	N-78°-E
R2-4区4号土坑	欠番	-	-	-	-
R2-4区5号土坑	橢圓形	0.93	0.69	0.17	N-69°-E
R2-4区6号土坑	欠番	-	-	-	-
R2-4区7号土坑	橢圓形	0.55	0.48	0.20	N-60°-W
R2-4区8号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-1道跡1号土坑	円形	(1.40)	(0.97)	0.45	N-73°-E
R1-47-1道跡2号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-1道跡3号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-1道跡4号土坑	長方形	(0.98)	(0.58)	0.11	N-89°-W
R1-47-1道跡5号土坑	長方形	(1.04)	0.59	0.18	N-88°-W
R1-47-1道跡6号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-1道跡7号土坑	円形	1.42	(0.53)	0.22	N-12°-W
R1-47-1道跡8号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-1道跡9号土坑	円形	(0.74)	0.94	0.60	N-70°-E
R1-47-1道跡10号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-1道跡11号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-1道跡12号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-1道跡13号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-1道跡14号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-1道跡15号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-1道跡16号土坑	欠番	-	-	-	-

土坑計劃一覽表

<岩鼻天神道跡>

遺構名	形状	長径	短径	深さ	主軸方位
R1-47-1 道跡17号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-1 道跡18号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-1 道跡19号土坑	長方形	2.05	0.59	0.15	N-49°-W
R1-47-1 道跡20号土坑	楕円形	0.92	0.63	0.13	N-75°-W
R1-47-3 道跡1号土坑	楕円形	(0.83)	0.78	0.19	N-80°-E
R1-47-3 道跡2号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-3 道跡3号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-3 道跡4号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-3 道跡5号土坑	楕円形	1.16	(0.80)	0.18	N-7°-W
R1-47-3 道跡6号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-3 道跡7号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-3 道跡8号土坑	欠番	-	-	-	-
R1-47-3 道跡9号土坑	欠番	-	-	-	-

<岩鼻赤城道跡>

遺構名	形状	長径	短径	深さ	主軸方位
R3-6区10号土坑	長方形	(1.47)	1.06	0.24	N-70°-E
R3-6区11号土坑	長方形	(1.27)	1.10	0.34	N-76°-E
R3-6区12号土坑	長方形	(1.00)	1.02	0.33	N-75°-E

<岩鼻赤城道跡>

遺構名	形状	長径	短径	深さ	主軸方位
R3-6区13号土坑	長方形	(1.05)	0.90	0.35	N-75°-E
R3-6区14号土坑	欠番	-	-	-	-
R3-6区15号土坑	楕円形	0.90	0.72	0.36	N-10°-W
R3-6区16号土坑	楕円形	(0.72)	(0.51)	0.27	N-10°-W
R3-6区17号土坑	楕円形	(0.70)	(0.18)	0.29	N-10°-W
R3-6区18号土坑	長方形	(1.10)	(0.42)	0.18	N-8°-W
R3-6区19号土坑	楕円形	0.70	0.65	0.24	N-8°-W
R3-6区20号土坑	欠番	-	-	-	-
R3-6区21号土坑	欠番	-	-	-	-
R3-6区22号土坑	溝状	1.85	0.64	0.25	N-25°-E

<岩鼻坂上北道跡>

遺構名	形状	長径	短径	深さ	主軸方位
R2-5区1号土坑	欠番	-	-	-	-
R2-5区2号土坑	長方形	(1.46)	1.20	0.21	N-70°-E
R2-5区3号土坑	欠番	-	-	-	-
R2-5区4号土坑	欠番	-	-	-	-
R2-5区5号土坑	長方形	(0.95)	0.90	0.12	N-70°-E
R2-5区6号土坑	欠番	-	-	-	-

<鉾貫堤西道跡>

遺構名	形状	長径	短径	深さ	備考
R1-13区1 P	円形	0.34	0.31	0.35	
R1-13区2 P	円形	0.21	0.20	0.31	
R1-13区3 P	円形	0.30	0.28	0.16	
R1-13区4 P	円形	0.24	0.23	0.05	
R1-13区5 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区6 P	円形	0.27	0.24	0.40	
R1-13区7 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区8 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区9 P	円形	0.21	0.18	0.25	
R1-13区10 P	楕円形	0.22	0.18	0.31	
R1-13区11 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区12 P	円形	0.28	0.27	0.21	
R1-13区13 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区14 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区15 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区16 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区17 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区18 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区19 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区20 P	円形	0.27	0.26	0.13	
R1-13区21 P	楕円形	0.39	0.34	0.09	
R1-13区22 P	円形	0.56	(0.27)	0.18	
R1-13区23 P	楕円形	0.51	0.34	0.28	
R1-13区24 P	円形	0.24	0.20	0.10	
R1-13区25 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区26 P	楕円形	0.52	0.40	0.12	
R1-13区27 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区28 P	楕円形	0.55	0.41	0.19	
R1-13区29 P	楕円形	0.29	0.25	0.18	
R1-13区30 P	円形	0.22	0.22	0.14	
R1-13区31 P	不整形	0.55	0.32	0.22	
R1-13区32 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区33 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区34 P	円形	0.37	0.31	0.27	
R1-13区35 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区36 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区37 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区38 P	-	-	-	-	欠番
R1-13区39 P	円形	0.30	0.27	0.36	

<鉾貫千葉西道跡>

区-遺構名	形状	長径	短径	深さ	備考
R2-3区1 P	円形	0.40	0.40	0.20	
R2-3区2 P	楕円形	0.40	0.37	0.36	

柱穴計劃一覽表

<鉾貫千葉西道跡>

区-遺構名	形状	長径	短径	深さ	備考
R2-3区3 P	楕円形	0.43	(0.40)	0.17	
R2-3区4 P	円形	0.24	0.24	0.14	
R2-3区5 P	楕円形	0.30	0.20	0.22	
R2-3区6 P	楕円形	0.22	0.20	0.11	
R2-3区7 P	-	-	-	-	欠番
R2-3区8 P	楕円形	0.30	0.20	0.10	
R2-3区9 P	方形?	0.28	0.24	0.27	
R2-3区10 P	楕円形	0.40	0.35	0.34	
R2-3区11 P	楕円形	0.37	0.32	1.01	
R2-3区12 P	-	-	-	-	欠番
R2-3区13 P	楕円形	0.32	0.27	0.23	
R2-3区14 P	楕円形	0.32	0.30	0.33	
R2-3区15 P	円形	0.30	0.30	0.12	
R2-3区16 P	円形	0.26	0.26	0.34	
R2-3区17 P	楕円形	0.33	0.33	0.22	
R2-3区18 P	楕円形	0.50	0.42	0.58	
R2-3区19 P	楕円形	0.40	0.37	0.55	
R2-3区20 P	楕円形	0.35	0.29	0.46	
R2-3区21 P	楕円形	0.49	0.38	0.40	
R2-3区22 P	-	-	-	-	欠番
R2-3区23 P	楕円形	0.60	0.40	0.53	
R2-3区24 P	円形	0.28	0.24	0.30	
R2-3区25 P	台形	0.34	0.26	0.28	
R2-3区26 P	円形	0.45	0.45	0.42	
R2-3区27 P	方形	0.26	0.25	0.53	
R2-3区28 P	楕円形	0.26	0.23	0.55	
R2-3区29 P	楕円形	0.27	(0.12)	0.34	
R2-3区30 P	円形	0.63	0.58	0.52	
R2-3区31 P	楕円形	0.52	0.34	0.66	
R2-3区32 P	楕円形	0.33	0.32	0.54	
R2-3区33 P	楕円形	(0.22)	0.18	0.12	
R2-3区34 P	楕円形	0.41	0.21	0.22	
R2-3区35 P	-	-	-	-	欠番
R2-3区36 P	楕円形	0.45	0.33	0.54	1号柱穴例
R2-3区37 P	楕円形	(0.70)	(0.33)	0.97	
R2-3区38 P	-	0.20	0.18	0.20	
R2-3区39 P	-	-	-	-	欠番
R2-3区40 P	楕円形	0.48	0.44	0.19	
R2-3区41 P	楕円形	0.36	0.35	0.78	1号柱穴例
R2-3区42 P	円形	0.40	(0.35)	0.22	
R2-3区43 P	楕円形	0.43	0.30	0.20	
R2-3区44 P	円形	0.34	0.32	0.61	
R2-3区45 P	楕円形	0.23	0.21	0.27	
R2-3区46 P	楕円形	0.47	0.46	0.47	

<前頁千貫西道跡>

区-遺構名	形状	長径	短径	深さ	備考
R2-3区47P	円形	0.24	0.24	0.32	
R2-3区48P	楕円形	0.59	0.41	0.62	1号柱穴列
R2-3区49P	円形	0.34	0.31	0.29	1号柱穴列
R2-3区50P	楕円形	(0.57)	0.40	0.69	1号柱穴列
R2-3区51P	-	-	-	-	欠番
R2-3区52P	楕円形	0.32	0.30	0.39	
R2-3区53P	楕円形	0.72	0.52	0.34	
R2-3区54P	楕円形	(0.36)	(0.24)	0.26	
R2-3区55P	楕円形	0.49	0.28	0.21	
R2-3区56P	楕円形	0.48	0.46	0.24	
R2-3区57P	円形	0.28	0.23	0.25	
R2-3区58P	楕円形	0.50	0.34	0.18	
R2-3区59P	楕円形	0.26	0.22	0.24	
R2-3区60P	楕円形	0.39	0.35	0.50	
R2-3区61P	楕円形	0.58	0.49	0.64	
R2-3区62P	楕円形	0.42	(0.18)	0.87	
R2-3区63P	楕円形	(0.45)	0.36	0.40	
R2-3区64P	楕円形	0.37	0.33	0.43	
R2-3区65P	円形	0.27	0.26	0.23	
R2-3区66P	楕円形	0.48	0.37	0.40	
R2-3区67P	方形?	0.32	0.32	0.74	1号柱穴列
R2-3区68P	不明	(0.52)	(0.39)	0.67	
R2-3区69P	楕円形	0.34	0.30	0.29	
R2-3区70P	円形	0.27	0.27	0.44	
R2-3区71P	楕円形	0.41	0.39	0.59	1号柱穴列
R2-3区72P	楕円形	0.32	0.25	0.27	
R2-3区73P	楕円形	0.52	0.46	0.22	
R2-3区74P	楕円形	0.38	0.27	0.56	
R2-3区75P	楕円形	0.60	0.38	0.37	
R2-3区76P	円形	0.34	0.32	0.38	
R2-3区77P	円形	0.38	0.34	0.32	
R2-3区78P	楕円形	(0.26)	0.30	0.18	
R2-3区79P	楕円形	0.38	0.31	0.19	
R2-3区80P	楕円形	0.43	0.40	0.37	
R2-3区81P	楕円形	(0.30)	0.45	0.30	
R2-3区82P	楕円形	0.53	0.44	0.30	
R2-3区83P	楕円形	0.35	0.33	0.47	
R2-3区84P	楕円形	0.48	0.39	0.44	
R2-3区85P	楕円形	0.40	0.31	0.25	
R2-3区86P	円形	0.39	0.37	0.61	
R2-3区87P	円形	0.53	0.53	0.26	
R2-3区88P	-	-	-	-	欠番
R2-3区89P	楕円形	(0.30)	0.28	0.28	
R2-3区90P	楕円形	0.49	0.27	0.33	
R2-3区91P	楕円形	0.46	0.42	0.46	
R2-3区92P	楕円形	0.28	(0.14)	0.35	
R2-3区93P	楕円形	0.37	0.31	0.22	
R2-3区94P	楕円形	0.51	0.43	0.29	
R2-3区95P	楕円形	0.50	0.40	0.25	
R2-3区96P	円形	0.32	0.28	0.25	
R2-3区97P	楕円形	(0.38)	0.38	0.35	
R2-3区98P	円形	0.33	0.33	0.42	
R2-3区99P	-	-	-	-	欠番
R2-3区100P	楕円形	(0.89)	0.60	0.31	
R2-3区101P	円形	0.35	0.30	0.45	
R2-3区102P	円形	0.36	0.36	0.40	
R2-3区103P	楕円形	0.44	0.39	0.32	
R2-3区104P	楕円形	0.28	0.22	0.44	
R2-3区105P	楕円形	0.43	0.35	0.98	
R2-3区106P	楕円形	(0.41)	0.40	0.64	
R2-3区107P	楕円形	0.44	0.35	0.39	
R2-3区108P	長方形	0.54	0.37	0.37	
R2-3区109P	楕円形	0.29	0.25	0.43	
R2-3区110P	楕円形	0.41	0.35	0.31	
R2-3区111P	円形	0.40	0.38	0.27	
R2-3区112P	-	-	-	-	欠番
R2-3区113P	楕円形	(0.73)	0.63	0.38	
R2-3区114P	楕円形	(0.58)	(0.38)	0.52	

<前頁千貫西道跡>

区-遺構名	形状	長径	短径	深さ	備考
R2-3区115P	楕円形	0.30	0.25	0.44	
R2-3区116P	楕円形	0.50	0.49	0.58	
R2-3区117P	楕円形	0.46	0.43	0.54	
R2-3区118P	-	-	-	-	欠番
R2-3区119P	楕円形	0.38	0.33	0.20	
R2-3区120P	不明	0.48	(0.21)	0.17	
R2-3区121P	-	-	-	-	欠番
R2-3区122P	円形	0.32	0.31	0.30	
R2-3区123P	円形	0.32	0.32	0.28	
R2-3区124P	円形	0.40	0.36	0.18	
R2-3区125P	楕円形	0.51	0.48	0.51	
R2-3区126P	楕円形	0.48	0.40	0.17	
R2-3区127P	楕円形	(0.33)	0.44	0.33	
R2-3区128P	楕円形	(0.45)	0.50	0.27	
R2-3区129P	楕円形	(0.45)	0.38	0.41	
R2-3区130P	-	-	-	-	欠番
R2-3区131P	楕円形	0.38	(0.35)	0.31	
R2-3区132P	円形	0.28	0.27	0.44	
R2-3区133P	円形	0.40	0.40	0.25	
R2-3区134P	円形	(0.60)	0.55	0.56	
R2-3区135P	円形	0.55	0.49	0.43	
R2-3区136P	円形	(0.15)	0.20	0.33	1型内
R2-3区137P	楕円形	(0.25)	(0.13)	0.40	1型内
R2-3区138P	楕円形	(0.13)	0.17	0.31	1型内
R2-3区139P	楕円形	0.60	0.51	0.44	土坑内
R2-3区140P	楕円形	0.45	(0.25)	0.39	
R3-3区175P	楕円形	0.30	0.25	0.33	
R3-3区176P	円形	0.29	0.28	0.27	土坑内
R3-5区31P	楕円形	0.37	0.26	0.17	
R3-5区32P	長方形	0.50	0.44	0.68	
R3-5区33P	楕円形	0.45	0.33	0.21	
R3-5区34P	楕円形	0.39	0.34	0.27	
R3-5区35P	楕円形	0.51	0.50	0.08	
R3-5区36P	-	-	-	-	欠番
R3-5区37P	-	-	-	-	欠番
R3-5区38P	-	-	-	-	欠番

<岩鼻延蓋寺遺跡跡>

遺構名	形状	長径	短径	深さ	備考
R2-4区26P	楕円形	0.25	0.22	0.19	
R2-4区27P	円形	0.22	0.22	0.22	
R2-4区28P	楕円形	0.26	0.22	0.42	
R2-4区29P	楕円形	0.28	0.20	0.27	
R2-4区30P	楕円形?	0.20	(0.10)	0.16	
R2-4区31P	楕円形	0.25	0.22	0.16	
R2-4区32P	円形	0.22	0.22	0.26	
R2-4区33P	円形	0.48	0.46	0.26	
R2-4区34P	楕円形	0.27	0.23	0.25	
R2-4区35P	楕円形?	0.32	0.23	0.18	
R2-4区36P	楕円形?	0.32	(0.15)	0.23	
R2-4区37P	円形	0.20	0.18	0.13	
R2-4区38P	円形	0.18	0.16	0.15	
R2-4区39P	楕円形	0.50	0.43	0.44	
R2-4区40P	楕円形	0.70	0.40	0.33	
R2-4区41P	円形	0.19	0.19	0.31	
R2-4区42P	円形	0.60	0.58	0.62	
R2-4区43P	楕円形	0.68	0.60	0.48	
R2-4区44P	楕円形	0.67	0.48	0.47	
R2-4区45P	円形	0.73	0.68	0.31	

<岩鼻天神遺跡跡>

遺構名	形状	長径	短径	深さ	備考
R2-4区1P	円形	0.26	0.21	0.27	
R2-4区2P	円形	0.26	0.24	0.24	
R2-4区3P	円形	0.39	0.36	0.11	
R2-4区4P	円形	0.23	0.21	0.17	
R2-4区5P	-	-	-	-	欠番
R2-4区6P	-	-	-	-	欠番

<岩鼻天神道跡>

道標名	形状	長径	短径	深さ	備考
R2-4区7 P	-	-	-	-	欠番
R2-4区8 P	楕円形	0.33	0.27	0.36	
R2-4区9 P	楕円形	0.20	0.18	0.33	
R2-4区10 P	楕円形	0.35 (0.24)	0.28		
R2-4区11 P	円形	0.20	0.20	0.36	
R2-4区12 P	楕円形	0.22	0.20	0.24	
R2-4区13 P	楕円形	0.23	0.20	0.30	
R2-4区14 P	楕円形	0.29	0.25	0.25	
R2-4区15 P	楕円形	0.24	0.21	0.21	
R2-4区16 P	円形	0.23	0.23	0.17	
R2-4区17 P	円形	0.27	0.27	0.27	
R2-4区18 P	楕円形	(0.17)	0.23	0.35	
R2-4区19 P	円形	0.25	0.24	0.32	
R2-4区20 P	楕円形	0.20	0.18	0.37	
R2-4区21 P	楕円形	0.26	0.21	0.23	
R2-4区22 P	楕円形	0.24	0.16	0.19	
R2-4区23 P	楕円形	0.25	0.24	0.36	
R2-4区24 P	円形	0.15	0.15	0.19	
R2-4区25 P	円形	0.17	0.16	0.17	
R2-4区46 P	長方形	0.24	0.13	0.07	
R2-4区47 P	円形	0.16	0.14	0.09	
R2-4区48 P	楕円形?	(0.14)	0.14	0.09	
R2-4区49 P	円形	0.16	0.14	0.27	
R2-4区50 P	円形	0.29	0.27	0.26	
R2-4区51 P	楕円形	0.45	0.43	0.16	
R2-4区52 P	円形	0.36	0.35	0.08	
R2-4区53 P	円形	0.20	0.20	0.06	
R1-47-1道跡1 P	円形	0.28	0.25	0.17	
R1-47-1道跡2 P	楕円形	0.45	0.36	0.12	
R1-47-1道跡3 P	楕円形	0.27	0.22	0.23	
R1-47-1道跡4 P	円形	0.29	0.27	0.12	
R1-47-1道跡5 P	楕円形	0.24	0.19	0.23	
R1-47-1道跡6 P	楕円形	0.36	0.27	0.05	浅い皿状
R1-47-1道跡7 P	楕円形	0.40	0.37	0.06	浅い皿状
R1-47-1道跡8 P	円形	0.46	0.44	0.09	浅い皿状
R1-47-1道跡9 P	楕円形	0.55	0.47	0.15	浅い皿状
R1-47-1道跡10 P	楕円形	0.40	0.38	0.12	
R1-47-1道跡11 P	円形	0.27	0.26	0.29	
R1-47-1道跡12 P	楕円形	0.29	0.25	0.21	
R1-47-1道跡13 P	楕円形	0.30	0.26	0.23	
R1-47-1道跡14 P	円形	0.17	0.17	0.08	
R1-47-1道跡15 P	楕円形	0.31	0.26	0.29	
R1-47-1道跡16 P	楕円形	0.43	0.37	0.16	浅い皿状
R1-47-1道跡17 P	楕円形	0.32	0.30	0.14	
R1-47-1道跡18 P	楕円形	0.31	0.29	0.11	
R1-47-1道跡19 P	楕円形	0.20	0.19	0.08	
R1-47-1道跡20 P	円形	0.34	0.34	0.14	
R1-47-1道跡21 P	楕円形	0.24	0.21	0.28	
R1-47-1道跡22 P	楕円形	0.46	0.38	0.11	
R1-47-1道跡23 P	楕円形	0.33	0.26	0.08	浅い皿状
R1-47-1道跡24 P	楕円形	0.27	0.24	0.15	浅い皿状
R1-47-1道跡25 P	楕円形	0.15	0.12	0.15	
R1-47-1道跡26 P	楕円形	0.28	0.25	0.41	
R1-47-1道跡27 P	楕円形	0.25	0.20	0.14	浅い皿状
R1-47-1道跡28 P	楕円形	0.25	0.23	0.15	
R1-47-1道跡29 P	楕円形	0.27	0.24	0.12	
R1-47-1道跡30 P	楕円形	0.27	0.23	0.15	
R1-47-1道跡31 P	楕円形	0.48	0.42	0.11	
R1-47-1道跡32 P	楕円形	0.25	0.21	0.27	
R1-47-1道跡33 P	楕円形	0.32	0.25	0.09	
R1-47-1道跡34 P	楕円形	0.52	0.37	0.10	浅い皿状
R1-47-1道跡35 P	楕円形	0.37	0.27	0.18	
R1-47-1道跡36 P	楕円形	0.40	0.32	0.10	
R1-47-1道跡37 P	楕円形	0.41	0.29	0.11	浅い皿状
R1-47-1道跡38 P	楕円形	0.40	0.30	0.15	浅い皿状

<岩鼻天神道跡>

道標名	形状	長径	短径	深さ	備考
R1-47-1道跡39 P	楕円形	0.47	(0.25)	0.10	
R1-47-1道跡40 P	楕円形	0.38	0.29	0.13	
R1-47-1道跡41 P	円形	0.36	0.35	0.08	
R1-47-1道跡42 P	楕円形	0.39	0.32	0.09	
R1-47-1道跡43 P	円形	0.45	0.42	0.15	
R1-47-1道跡44 P	円形	0.20	0.18	0.37	
R1-47-1道跡45 P	円形	0.40	0.36	0.07	浅い皿状
R1-47-1道跡46 P	円形	0.48	0.45	0.29	
R1-47-1道跡47 P	円形	0.23	0.23	0.09	
R1-47-1道跡48 P	楕円形	0.20	0.20	0.18	
R1-47-1道跡49 P	楕円形	(0.35)	0.30	0.13	
R1-47-1道跡50 P	楕円形	0.30	0.30	0.17	
R1-47-1道跡51 P	円形?	(0.17)	0.34	0.17	
R1-47-1道跡52 P	円形	0.28	0.25	0.10	
R1-47-1道跡53 P	不明	(0.30)	(0.13)	0.18	
R1-47-1道跡54 P	方形?	(0.21)	(0.26)	0.16	
R1-47-1道跡55 P	不明	(0.23)	0.35	0.08	浅い皿状
R1-47-1道跡56 P	円形?	(0.35)	(0.37)	0.40	
R1-47-1道跡57 P	円形	0.21	0.20	0.29	
R1-47-1道跡58 P	円形	0.37	0.36	0.12	
R1-47-1道跡59 P	楕円形	0.23	0.16	0.11	
R1-47-1道跡60 P	楕円形	0.30	0.27	0.11	浅い皿状
R1-47-1道跡61 P	楕円形	0.28	0.25	0.08	
R1-47-1道跡62 P	円形	0.22	0.21	0.37	
R1-47-1道跡63 P	楕円形	0.31	0.26	0.08	浅い皿状
R1-47-1道跡64 P	楕円形	0.40	0.30	0.24	
R1-47-1道跡65 P	楕円形	0.36	0.30	0.33	
R1-47-1道跡66 P	方形	0.46	0.42	0.29	
R1-47-1道跡67 P	円形	0.30	0.28	0.08	浅い皿状
R1-47-1道跡68 P	楕円形	0.26	0.21	0.07	浅い皿状
R1-47-1道跡69 P	楕円形	0.49	0.48	0.22	
R1-47-1道跡70 P	楕円形	0.35	0.33	0.23	
R1-47-3道跡1 P	楕円形	0.41	0.35	0.41	
R1-47-3道跡2 P	楕円形	0.38	0.30	0.43	
R1-47-3道跡3 P	楕円形	0.30	0.27	0.26	
R1-47-3道跡4 P	楕円形	0.28	0.27	0.19	
R1-47-3道跡5 P	楕円形	0.36	0.33	0.14	
R1-47-3道跡6 P	楕円形	0.32	0.30	0.23	
R1-47-3道跡7 P	楕円形	0.27	0.22	0.25	
R1-47-3道跡8 P	楕円形	0.40	0.32	0.17	
R1-47-3道跡9 P	楕円形	(0.71)	0.78	0.45	
R1-47-3道跡10 P	楕円形	0.57	0.48	0.60	
R1-47-3道跡11 P	楕円形	0.26	(0.19)	0.20	
R1-47-3道跡12 P	楕円形	0.44	0.35	0.14	
R1-47-3道跡13 P	楕円形	0.31	0.27	0.20	
R1-47-3道跡14 P	楕円形	0.25	0.22	0.10	
R1-47-3道跡15 P	長方形	(0.63)	0.42	0.11	
R1-47-3道跡16 P	楕円形	0.49	0.42	0.09	
R1-47-3道跡17 P	楕円形	0.29	0.25	0.12	
R1-47-3道跡18 P	楕円形	(0.41)	0.32	0.16	
R1-47-3道跡19 P	楕円形	(0.32)	0.29	0.39	
R1-47-3道跡20 P	楕円形	0.34	0.23	0.36	

<岩鼻赤城道跡>

区-道標名	形状	長径	短径	深さ	備考
R3-6区21 P	円形	0.20	0.20	0.12	1面
R3-6区22 P	楕円形	0.42	0.41	0.17	1面
R3-6区23 P	楕円形	0.36	0.34	0.69	1面
R3-6区24 P	楕円形	0.45	(0.35)	0.11	1面
R3-6区25 P	楕円形	0.46	0.40	0.19	1面
R3-6区26 P	楕円形	0.23	0.18	0.30	1面
R3-6区27 P	方形	0.20	0.18	0.10	1面
R3-6区28 P	楕円形	0.25	0.20	0.24	1面
R3-6区29 P	楕円形	0.35	(0.21)	0.46	1面
R3-6区30 P	楕円形	0.33	0.25	0.22	1面

新旧道構一覧表

	旧道跡名称	新道跡名称
綱貫堤西道跡	R1-13区6号土坑 R1-13区20号土坑	1号地下式土坑 1号井戸
綱貫千歳西道跡	1号埋め戻	R2-3区59号土坑
岩鼻坂上北道跡	R2-5区2号溝 R2-5区5号溝	R2-5区2号土坑 R2-5区5号土坑

欠番とした道構名称	
綱貫堤西道跡	R1-13区4～6・9・11・14～18・20・22号土坑 R1-13区5・7・8・11・13・14～19・25・27・32・33・35～38P
綱貫千歳西道跡	R3-3区59号貯穴建物 R2-3区4・9・15～21・23・24・58号土坑 R3-3区87号土坑 R3-5区20・21・22号土坑 R2-3区7・12・22・35・39・51・88・99・112・118・121・130P R3-5区36・37・38P
岩鼻天神道跡	R2-4区4・6・8号土坑 R1-47-1道跡2・3・6・8・10～18号土坑 R1-47-3道跡1～4・6～9号土坑 R1-47-3道跡6号溝 R2-4区5・6・7P
岩鼻赤坂道跡	R3-6区14号土坑
岩鼻坂上北道跡	R2-5区1号土坑 R2-5区2・6号溝

第12章 自然科学分析

分析の目的と経過

本書で報告する遺跡は大小8遺跡があり、綿貫地区に3遺跡、岩鼻地区に5遺跡が内訳になる。うち、岩鼻地区2遺跡(岩鼻天神・岩鼻赤城遺跡)には古墳周堀11が確認され、旧例幣使街道南に広がる粕川左岸群集墳と併せ、古墳群を形成するものと思われる。岩鼻地区の群集墳が姿を消したのは、一つは岩鼻陣屋の設置が原因であり、一つは岩鼻化糞製造所の開設が理由である。周辺域には岩鼻二子山古墳から綿貫観音山古墳に至る大型古墳群があり、粕川下流域に広がる群集墳がどのようにかわるのかが注目されるところであるが、烏川左岸には倉賀野東古墳群があり、これを含めた古墳群の全様が検討されてしかるべきだろう。そうした際、検討に足るデータを残そうというのが本分析の趣旨であり、分析業務を業者委託した理由である。同様に、綿貫千葉西遺跡の竪穴建物から出土した石製模造品についても、原産地同定を実施したのは消費遺跡の様相を明らかにする第一歩とするためである。

<埴輪胎土分析>

胎土分析については以前から行われ、実績がある。当初は、県有施設の協力を得て瓦や須恵器を対象に胎土分析が行われた。その後、北関東自動車道調査で粘土採掘坑が確認され、採掘坑粘土と土師器の比較が行われ、成果を上げた。埴輪の胎土分析関連では綿貫観音山古墳や藤岡市原古墳の実践例があり、埴輪窯の同定が行われた。分析法は埴輪プレバートを作成し、併せて蛍光X線分析を行なうというもので、本書でも同様な手法を採用した。

分析試料については、接合作業を行う中で得られた埴輪の胎土情報を念頭に特徴的な二系統の埴輪片6点を選んだ。分析試料6点については事前に写真撮影を行い、実測作業を終えたのちプレバートを作成、以後の分析作業を業者委託した。遺跡が烏川を挟んで藤岡の埴輪窯に近く、結晶片岩や針状骨片が特徴的に含まれるだろうと想定していたが、そうした鉱物は見当らず困惑した。分析試料は最終的に焼き上がりの異なる2種類の埴輪片と、綿貫地区から出土した特徴的な埴輪片6点を選び、分析に供した。分析に並行して出土した埴輪類の観察を行う必要から、埴輪に含まれる鉱物片について肉眼観察用に埴輪胎土中の鉱物写真と鉱物名を記したメモを買い、記載時に参照させていただいた。分析前の打ち合わせでも、焼土粒にもみえる軟質の赤褐色鉱物が何か、検討が行われた。この鉱物粒は、後日「褐鉄鉱」とするメールが届いた。成果品には以前委託した藤岡市原古墳の分析成果を踏まえた報告とするように依頼した。

分析終了後、分析結果の概要説明を受けた。分析結果については本文に譲り、ここでは今後分析に必要な心がけや準備すべきものは何か、を確認してみた。今更という感もあるだろうが、埴輪製作には埴輪工人は当然だが、製作に必要な材料(粘土、混和材)と焼成窯が必要になる。粘土は粘土採掘坑のサンプルがなければ、焼成窯周辺の粘土サンプルが必要になる。藤岡市では藤岡瓦と土鍋の製作が知られているが、それぞれ使う粘土が異なるとされ、ローム台地の粘土と低地部に堆積した粘土がサンプルとして必要であること、このほか粘土上位のロームのデータも混和材を考える上で必要であるという。当然、埴輪窯から出土した埴輪片が必要になる。焼成は化学変化であるから、焼成実験も必要になるだろう。いずれも以前から指摘されていることばかりである。蛍光X線分析に加え鉱物の全量解析も試みる提案も受けているが、整備すべき事柄は多く、組織的・計画的に取り組む必要がある。

<石製模造品の原産地同定>

石材についても、胎土分析同様の問題を抱えている。石器石材の原産地分析は黒曜石で大きな成果が得られているが、それは火山ガラスであることが分析の成功した要因である。石製模造品も同様な成果が期待されるのであるが、熱水変成を受けた滑石は変質の程度が多様で、単純ではない。近年県北の葉口石が注目されているが、鉱山でも薄く脈状に産出するように、三波川帯の滑石も顕頭で産状を確認する必要があるが専門家から指摘されている。要は、原産地データを充実させるということである。分析の詳細は別項にまとめておいたので、参照されたい。

1. 埴輪の胎土分析

1. はじめに

土器などの焼物は、基本材料として粘土と砂粒などの混入物(または混和物)で構成されるが、粘土材料は比較的良質と思える粘土層から採取されたことが、粘土採掘坑の調査から推察される(藤根・今村, 2001)。また、粘土自体に珪藻化石や放射虫化石が混在している場合があり、使用した粘土層の堆積環境や堆積時代を推定できる。

縄文土器や弥生土器などの焼物に利用できる粘土材料は、固結していない地層、すなわち、およそ第三紀中新統以降の地層、第四紀新統～更新統の地層、そして断層粘土に限定できると考えられる(藤根, 1998; 藤根・小坂, 1997)。

土器胎土中の砂粒物は、これらの地層に付随する砂粒の可能性が高いが、祭祀用とされる土器では、意図的に混和している場合も考えられる。例えば、東海地域の弥生時代後期の赤彩されたバレススタイル土器では、バレススタイル土器のうち3分の1程度に砂粒物として火山ガラスが多量に含まれている(藤根, 1998)。これらの火山ガラスは、粘土採取場所の上下層や周辺に分布するテフラ層由来と考えられる。このように胎土分析においては、粘土や混入物または混和材について、岩石・鉱物のほかに微化石類やテフラなどの記載が重要であり、粘土や砂粒物、混和物の特徴を調べたうえで、周辺地質と比較・検討する必要がある。

ここでは、高崎市綿貫町・岩鼻町地内に所在する綿貫41・47-3遺跡で出土した埴輪について、薄片の偏光顕微鏡観察を行い、粘土の種類と砂粒組成の特徴を調べ、埴輪の胎土材料について検討した。また、蛍光X線分析を行い、化学組成を調べた。

2. 試料と方法

分析試料は、綿貫41・47-3遺跡で出土した6世紀後半の円筒埴輪6点である(表1)。分析は、薄片の偏光顕微鏡による観察と蛍光X線分析である。

[薄片の偏光顕微鏡による観察]

表1 分析試料の詳細

分析No.	登録番号	種類	器種	遺跡名	区	遺構No.	遺構	出土位置	掲載図版	備考
1	30754	埴輪	円筒	綿貫堤西遺跡	13	20	土坑	覆上	第184図1	透かし有
2	30798	埴輪	円筒	岩鼻天神遺跡	R1-47-3遺跡	5	溝	覆上	第2510図29	底部片
3	30807	埴輪	円筒	岩鼻天神遺跡	R1-47-3遺跡	5	溝	覆上	第2500図18	底有
4	30850	埴輪	円筒	岩鼻天神遺跡	R1-47-3遺跡	14	溝	覆上	第2530図29	底部片
5	30988	埴輪	円筒	岩鼻赤城遺跡	6	遺構外	確認面	覆上	第2680図7	底有
6	30999	埴輪	円筒	岩鼻赤城遺跡	6	遺構外	試掘トレンチ	覆上	第2680図9	底有

埴輪片は、岩石カッターを用いて整形し、全体にエポキシ系樹脂を含浸させて固化処理を行った。試料は、精密岩石薄片作製機で整形、研磨フィルムを用いて研磨し、厚さ0.02mm前後の埴輪薄片を作製した。最後に、仕上げとしてコーティング剤を塗布した。

薄片は、偏光顕微鏡を用いて、薄片全面に含まれる微化石類(放射虫化石、珪藻化石、骨針化石など)、鉱物、大型砂粒の特徴、その他の混和物等について観察と記載を行った。微化石類は、全体を300倍で観察した後、1500倍(油浸)で観察した。なお、ここで採用した微化石類や岩石、鉱物の各分類群の特徴は、以下の通りである。

[放射虫化石] 放射虫は、放射仮足類に属する海生浮遊性原生動物で、その骨格は硫酸ストロンチウムまたは珪酸からなる。放射虫化石は、海生浮遊性珪藻化石とともに外洋性堆積物中に含まれる。

[珪藻化石] 珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、大きさは10～数百 μm 程度である。珪藻は、海水域から淡水域に広く分布する。小杉(1988)や安藤(1990)は、現生珪藻に基づいて環境指標種群を設定し、具体的な環境復原を行っている。ここでは、種あるいは属が同定できる珪藻化石(海水種、淡水種)を分類した。

[骨針化石] 海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状である。海綿動物の多くは海水産であるが、淡水産も23種ほどが知られ、湖や池、川の底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。したがって、骨針化石は水成環境を指標する。

[植物珪酸体化石] 主にイネ科植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、長径約10~50 μ m前後である。一般にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本やスゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在する。

[胞子化石] 胞子は、直径約10~30 μ m程度の珪酸質の球状粒子である。水成堆積物中に多く見られるが、土壌中にも含まれる。

[石英・長石類] 石英および長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち、後述する双晶などのように、光学的な特徴をもたないものは石英と区別するのが困難な場合が多く、一括して扱う。

[長石類] 長石は、大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶(主として平行な縞)を示すものと累帯構造(同心円状の縞)を示すものに細分される(これらの縞は組成の違いを反映している)。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの(パーサイト構造)と格子状構造(微斜長石構造)を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶(微文象構造という)である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶(斑晶)によく見られる。パーサイト構造を示すカリ長石は、花崗岩などケイ酸分の多い深成岩などに産出する。

[雲母類] 一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で、風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開(規則正しい割れ目)にそって板状に剥かれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。花崗岩など、ケイ酸分の多い火成岩に普遍的に産し、変成岩類や堆積岩類にも産出する。

[輝石類] 主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石(主に紫蘇輝石)は、肉眼ではビール瓶のような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。ケイ酸分の少ない深成岩類や火山岩類、ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩類に産出する。単斜輝石(主に普通輝石)は、肉眼では緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてケイ酸分の少ない火山岩類や、ケイ酸分の最も少ない火成岩類や変成岩類中にも産出する。

[角閃石類] 主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は、細長く平たい長柱状である。閃緑角のような、ケイ酸分が中間的な深成岩類や変成岩類、火山岩類に産出する。

[ガラス質] 透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄く湾曲したガラス(バブル・ウォール型:記載ではバブル型と略す)や、小さな泡をたくさんもつガラス(軽石型)などがある。主に火山噴火により噴出した噴出物(テフラ)である。

[緑れん石] 緑色~淡緑色のサイコロ状鉱物で、屈折率が高く、異常干渉色を示す。緑色片岩に特徴的に含まれる。

[ザクロ石] 無色透明で屈折率の高いサイコロ状鉱物である。変成岩中にごく普通に産出し、火山岩中にも含まれる。

[片理複合石英類] 石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、片理構造を示す岩石である。雲母片岩や結晶片岩、片麻岩や粘板岩、千枚岩と考えられる。なお、ホルンフェルスも片理複合石英類を示す。

[複合石英類] 複合石英類は、石英が集合している粒子で、基質(マトリックス)の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は、粗粒から細粒までさまざまである。ここでは便宜的に、粒径が0.01mm未満の粒子を微細、0.01~0.05mmの粒子を小型、0.05~0.10mmの粒子を中型、0.10mm以上の粒子を大型と分類した。微細結晶の集合体である場合には、堆積岩類のチャートなどに見られる特徴がある。

[砂岩質・泥岩質] 石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、基質部分をもつ。構成粒子の大きさが約0.06mm以上のものを砂岩質、約0.06mm未満のものを泥岩質とした。

[斑晶質・完晶質] 斜長石や輝石・角閃石などの結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなる岩石である。直交ニコルの観察において結晶度が高い岩石片である。

[流紋岩質] 石英や長石などの結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなり、主に流理構造を示す岩石である。

[凝灰岩質] ガラス質で斑晶質あるいは完晶質構造を持つ粒子のうち、直交ニコルの観察において結晶度が低く、全体的に暗い岩石片である。

[ホルンフェルス] 前述の片理複合石英類のほか、泥岩質あるいは凝灰岩質のうち構成粒子あるいは粒子境界が不鮮明であり、やや斑状組織を呈する濁った粒子である。直消光において全体的に暗い。

[不明粒子] 下方ボーラーのみ、直交ボーラーのいずれにおいても不透明な粒子や、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明粒子とした。

[蛍光X線分析]

蛍光X線分析は、ガラスビードを製作するガラスビード法を用いた。試料は、岩石カッターを用いて2~4g程度を採取し、表面の汚れ等の影響を排除するため、表面や破断面を削り、精製水で超音波洗浄を行った。試料は、アルミナ製乳鉢で粉末にして、るつぽに入れて、電気炉で750℃、6時間焼成した後、デンケータ内で放冷し、0.9000g秤量した。これを、無水四ホウ酸リチウム $\text{Li}_2\text{B}_4\text{O}_7$ と、メタホウ酸リチウム LiBO_2 を8:2の割合で調製した融剤4.5000gと十分に混合し、白金製のるつぽに入れ、ビードサンプラーにて約750℃で250秒間予備加熱、約1100℃で150秒間溶融させ、約1100℃で450秒間揺動加熱してガラスビードを製作した。

分析は、フィリップス社製波長分散型蛍光X線分析装置MagiX (PW2424型)にて、検量線法による定量分析を行った。標準試料には、独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センターおよび米国標準技術研究所(NIST)の岩石標準試料計18種類を用いた。定量元素は、ナトリウム(Na_2O)、マグネシウム(MgO)、アルミニウム(Al_2O_3)、ケイ素(SiO_2)、リン(P_2O_5)、カリウム(K_2O)、カルシウム(CaO)、チタン(TiO_2)、マンガン(MnO)、鉄(Fe_2O_3)の主成分10元素と、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の微量元素4元素の計14元素である。

この分析方法は、原古墳の埴輪の蛍光X線分析の同じ方法と分析機器を使用した。

3. 結果および考察

偏光顕微鏡による埴輪薄片の観察結果を述べる。粒子組成については、微化石類や岩石片、鉱物を記載するために、プレパラート全面を精査した。以下では、粒度組成や、0.1mm前後以上の岩石片・鉱物の砂粒組成、微化石類などの記載を示す。なお、表2における不等号は、量比の概略を示す。また、表3の量比を示す記号は、●は極めて多い、○は非常に多い、○は多い、△は検出、一は不検出を示す。

3-1. 微化石類による粘土材料の分類

埴輪薄片の全面を観察した結果、微化石類(放射虫化石、珪藻化石、骨針化石)が検出された。微化石類の大きさは、放射虫化石が数100 μm 、珪藻化石が10~数100 μm 、骨針化石が10~100 μm 前後である(植物珪酸体化石は10~50 μm 前後)。一方、碎屑性堆積物の粒度は、粘土が約3.9 μm 以下、シルトが約3.9~62.5 μm 、砂が62.5 μm ~2mmである(地学団体研究会新版地学事典編集委員会編、2003)。主な堆積物の粒度分布と微化石類の大きさの関係から、微化石類は粘土中に含まれると考えられる。植物珪酸体化石以外の微化石類は、粘土の起源(粘土層の堆積環境)を知るのに有効な指標になる。植物珪酸体化石は、土器製作の場で灰質に伴って多く混入する可能性が高いなど、他の微化石類のように粘土の起源を必ずしも指標しない。

今回の試料の埴輪胎土は、粘土中に含まれていた微化石類により、a)海水成粘土、b)淡水成粘土、c)水成粘土、d)その他粘土、の4種類に分類された(表3)。以下では、それぞれの粘土の特徴について述べる。

a)海水成粘土(分析No.2、No.4)

これらの埴輪中には、放射虫化石が含まれていた。また、海綿動物の骨格の一部である骨針化石も含まれていた。

b)淡水成粘土(分析No.5、No.6)

主にチャートや泥岩類などの複合石英類(微細)からなる堆積岩類で構成される。なお、少ないものの片岩類、深成岩類、流紋岩類、凝灰岩類なども含まれていた。

2)主に堆積岩類と片岩類からなるCa群(分析№2)

主に複合石英類(微細)からなる堆積岩類と片理複合石英類からなる片岩類で構成される。なお、少ないものの深成岩類、流紋岩類、凝灰岩類なども含まれていた。

3)主に堆積岩類と凝灰岩類からなるCb群(分析№1)

主に複合石英類(微細)からなる堆積岩類と複合石英類(大型)からなる深成岩類で構成される。なお、凝灰岩類をやや多く含み、少ないものの流紋岩類、片岩類なども含まれていた。

4)主に堆積岩類と凝灰岩類からなるCe群(分析№5)

主に複合石英類(微細)からなる堆積岩類と凝灰岩質からなる凝灰岩類で構成される。なお、少ないものの深成岩類、流紋岩類、片岩類なども含まれていた。

3-3. 化学組成による特徴と分類

蛍光X線分析による化学組成は、酸化ケイ素(SiO_2)が66.6~74.7%で分布範囲が広く、酸化アルミニウム(Al_2O_3)が15.7~19.8%、酸化鉄(Fe_2O_3)が3.32~8.54%、酸化カリウム(K_2O)が1.12~1.95%、酸化ナトリウム(Na_2O)が1.17~1.64%、などであった(表5)。

遺跡より15kmほど南に所在する原古墳(6世紀中頃)の埴輪の分析では、円筒埴輪(I群)と形象埴輪など(II群)で異なる化学組成が得られている(藤根・米田・竹原, 2009)。今回分析した円筒埴輪の化学組成は、この原古墳の埴輪の化学組成と比較すると、分析№2と№3がII群に近い領域にプロットされ、その他の円筒埴輪は、II群よりも酸化ケイ素(SiO_2)が高い領域に分布する(図1、仮にIII群とする)。

なお、酸化ケイ素(SiO_2)-酸化アルミニウム(Al_2O_3)分布図は、粘土と砂粒の割合の概略を示すと考えられ、直線的に並ぶI群は粘土分が多く、II群は砂粒が多く、III群は砂粒がより多い。これは、酸化アルミニウム(Al_2O_3)が主に粘土に多く含まれ、酸化ケイ素(SiO_2)が主に砂粒に多く含まれることに起因する。分析№6は、他の埴輪からなる直線分布よりやや上側にプロットされ、粘土または砂粒の特徴が異なることを示す(IV群)。また、分析№1の酸化ケイ素(SiO_2)は、分析した埴輪中で最も高い値を示した(表5)。

3-4. 遺跡周辺の地質環境

遺跡周辺は、第四紀完新世の礫・砂からなる自然堤防及び扇状地堆積物など(凡例a₁)、更新世後期の礫・砂及び泥からなる大間々扇状地堆積物など(凡例M, M₁, M₂)、安山岩岩塊・礫・砂及び泥からなる前橋泥流堆積物(凡例mm)、石英安山岩及び角閃四サイト火砕流堆積物からなる榛名火山噴出物(凡例Ha)、更新世前期の礫・砂及び泥からなる物見山礫層及び相当層(凡例Mo)、更新世-完新世の火山岩層からなる火山扇状地堆積物(凡例vd)が分布する。

新第三紀中新世後期の礫岩・砂岩(亜炭を伴う)からなる板鼻層・楊井層・鳩山層など(凡例lg, ls, lt)、中新世中-前期の泥岩・砂岩及び凝灰岩からなる吉井層・土塩層・將軍沢層など(凡例Yo, Ys)、泥岩・砂岩泥岩互層及び凝灰岩からなる福島層・福田層・神戸層・井戸沢層など(凡例Fu, Fk, ld)、礫岩・砂岩及び泥岩からなる牛伏層・小幡層・小淵層・五反田層など(凡例Ub, Ob)が分布する。これらの地層のうち、井戸沢層、福島層、吉井層では、有孔虫化石を産することから海成層である。また、板鼻層(lt)は、下部が海成層、上部は陸生層である(日本の地質「関東地方」編集委員会編, 1988)。

中生代ジュラ紀の苦鉄質片岩・泥質片岩・石英片岩からなる三波川変成岩類(凡例Sb, Sa)、玄武岩・ドレライト(粗粒玄武岩)・ハイアロクラスタイト(水中で形成された火山岩)及び凝灰岩・泥岩・チャート及び石灰岩を伴う御荷鉾緑色岩類(凡例Mk)が分布する。なお、御荷鉾緑色岩類の分布域の南側地域には、同ジュラ紀の泥岩混在岩や玄武岩、チャー

トや石灰岩などからなる秩父帯(凡例Ma, Suなど)が広く分布する。

なお、地質図では示していないが、東側の渡良瀬川流域の八王子丘陵には、中新世中期の流紋岩-デイサイト軽石凝灰岩(凡例Qy)、ジュラ紀の砂岩及び砂岩質頁岩層からなる足尾帯(凡例Sa)、白亜紀後期-古第三紀の流紋岩溶結凝灰岩・凝灰角礫岩及び角礫岩からなる金山流紋岩類(凡例Kn)が分布する。また、八王子丘陵の南側の金山丘陵では、中新世後期の礫岩・安山岩質凝灰岩及び砂岩からなる強戸礫岩層(凡例Go)が分布する。このうち、中新世中期の流紋岩-デイサイト軽石凝灰岩(凡例Qy)の一部の湯ノ入凝灰岩分層は、海成層である(日本の地質「関東地方」編集委員会編, 1988)。

3-5. 埴輪材料の特徴

埴輪薄片の偏光顕微鏡観察では、分析No. 2、No. 4、No. 5において放散虫化石が含まれていた。また、分析No. 1以外において量比に違いがあるものの片岩類が含まれていた。

表5 蛍光X線分析による化学組成(重量%)

分析 No.	Na ₂ O (%)	MgO (%)	Al ₂ O ₃ (%)	SiO ₂ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	K ₂ O (%)	CaO (%)	TiO ₂ (%)	MnO (%)	P ₂ O ₅ (%)	Total (%)	B ₂ O ₃ (ppm)	Se (ppm)	Y (ppm)	Zr (ppm)
1	1.04	0.61	15.7	74.7	0.014	1.90	0.48	0.44	0.002	3.42	99.3	73	117	16	185
2	1.41	1.78	17.8	69.2	0.076	1.62	1.10	1.13	0.050	5.29	99.7	80	125	19	175
3	1.17	0.48	18.2	68.6	0.040	1.17	0.86	0.84	0.011	8.54	98.6	58	110	17	197
4	1.40	0.68	16.3	71.3	0.055	1.44	0.78	1.03	0.007	6.46	99.6	72	113	23	215
5	1.30	1.23	17.0	72.0	0.037	1.95	1.28	0.82	0.046	3.64	99.3	79	149	16	189
6	1.17	0.38	19.8	70.8	0.040	1.29	0.72	0.71	0.014	5.32	98.2	68	112	25	147
砂小値	1.17	0.38	15.7	68.6	0.034	1.12	0.49	0.64	0.014	3.32	98.0	68	112	16	147
砂大値	1.44	1.78	19.8	74.7	0.055	1.95	1.28	1.13	0.067	8.54	99.7	80	149	25	215

藤岡市鬼石に所在する原古墳の円筒埴輪・形象埴輪(10試料)の偏光顕微鏡観察では、片岩類が普遍的に検出され、7試料の埴輪において放散虫化石も検出された(藤根ほか, 2009)。また、北側に位置する綿貫観音山古墳などの円筒埴輪や形象埴輪においても、15試料中13試料において片岩類が含まれ、5試料において放散虫化石も含まれていた(藤根・古橋, 1998)。

これら放散虫化石や片岩類は、鐮川南側の藤岡地域や埼玉北部の児玉地域を指標する要素と考えられ、後述する鮎川沿いの猿田埴輪窯跡や神流川沿いの本郷埴輪窯跡は、こうした要素をもつと考えられる。

なお、分析No. 6の円筒埴輪では、片岩類が含まれるが、沼沢湿地生などの淡水種珪藻化石が多く含まれ、この地域に沼沢湿地成の粘土層が用いられた。この粘土層は、新第三紀中新世の海成層ではなく、これよりも新しい更新世前期の礫・砂及び泥からなる物見山礫層及び相当層(凡例Mo)、板鼻層上部(凡例It)などの淡水成と思われる粘土層が利用されたことが考えられる。化学組成においても、I群やII群あるいはIII群が並ぶラインから上側に外れる(図2)。

なお、岩野谷丘陵北端部の安中市野殿から高崎市栗野町にかけて中期更新世野殿層(かつて上部中新世の秋間層とされた)では、淡水種珪藻化石を含む(中島・南雲, 1999; 日本地質学会, 2015)。分析No. 6は、片岩類を含むため、この地層中の砂粒組成について確認が必要である。

また、分析No. 1の円筒埴輪は、微化石類や火山岩類(玄武岩)も含まれていなかった。さらに、化学組成においても、酸化ケイ素(SiO₂)が最も多い。これらの特徴から、藤岡地域や児玉地域の地質学特性と異なる可能性が考えられる。

主な埴輪窯について見ると、鮎川沿いの猿田埴輪窯跡は、新第三紀中新世後期の礫岩・砂岩(亜炭を伴う)からなる板鼻層・楊井層・鳩山層など(凡例Is)、中新世中-前期の泥岩・砂岩及び凝灰岩からなる吉井層・土壇層・將軍沢層など(凡例Yo)、泥岩・砂岩泥岩互層及び凝灰岩からなる福島層・福田層・神戸層・井戸沢層など(凡例Fu)が分布する白石(しろい)丘陵に位置する。鮎川は、中生代ジュラ紀の三波川変成岩類(凡例Sb、Sm)の分布域を流下する。これらの地層のうち、井戸沢層、福島層、吉井層では、有孔虫化石を産することから海成層である。また、板鼻層は、下部が海成層、上部は陸生層である(日本の地質「関東地方」編集委員会編, 1988)。

神流川沿いの本郷埴輪窯跡は、新第三紀中新世後期の礫岩・砂岩(亜炭を伴う)からなる板鼻層・楊井層・鳩山層など(凡

例Is)、更新世前期の礫・砂及び泥からなる物見山礫層及び相当層(凡例Mo)が分布する庚申山(こうしんやま)丘陵に位置する。神流川は、鮎川と同様、中生代ジュラ紀の三波川変成岩類(凡例Sb、Sm)や主に玄武岩からなる御荷鉢緑色岩類(凡例MK)の分布域を流下する。

駒形神社埴輪窯跡は、太田市北金井町の八王子丘陵南端部に位置し、主に中新世中期の流紋岩-デイサイト軽石凝灰岩(凡例Qy)が分布する地域である。なお、埴輪窯跡の基盤層は、更新世の固結していない礫岩および凝灰岩・砂岩層からなり、この地層の泥層中から海生と考えられる貝化石が採取されている(日本の地質「関東地方」編集委員会編、1988)。この駒形神社埴輪窯跡の埴輪は、地質環境から片岩類は伴わないと考えられる。

群馬県富岡市下高瀬に所在する下高瀬上之原遺跡では、6世紀中～後期の埴輪窯2基が検出されている(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、1994)。中新世中期の砂岩泥岩互層からなる小幡層(凡例Ob)からなり、少なくとも上部は有孔虫化石を含むことから海成層である(日本地質学会、2015)。また、基盤岩としてジュラ紀の三波川変成岩類の影響を受けると考えられる。

3-6. おわりに

今回の埴輪は、薄片の偏光顕微鏡観察により、粘土や砂粒物(岩石片)の特徴が明らかとなった。また、化学組成では、粘土あるいは砂粒の違いが客観的データとして予想された。埴輪の製作地は、窯跡から出土する埴輪の特徴について、同様の方法で網羅的に調べて比較・検討する必要がある。

参考・引用文献

- 安藤一男(1990)淡水産珪藻による環境指標種の設定と古環境復元への応用。東北地理, 42(2), 73-88。
地学団体研究会新版地学事典編集委員会編(2003)新版地学事典, 1443p, 平凡社。
藤根 久・小坂和夫(1997)生駒西麓(東大阪市)産の縄文土器の胎土材料-断層内物質の可能性-。第四紀研究, 36, 55-62。
藤根 久(1988)東海地域(伊勢-三河湾周辺)の弥生および古墳土器の材料。東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会編「土器・墓が語る: 美濃の独自性-弥生から古墳へ」: 108-117, 東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会。
藤根 久・古橋美智子(1998)埴輪の胎土材料。総覧観音山古墳1 墳丘・埴輪編。群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第242集, 409-416。
藤根 久・今村美智子(2001)第3節 土器の胎土材料と粘土探鉱対象地植物の特徴。群馬県埋蔵文化財調査事業団「波江中宿遺跡」: 262-277。
藤根 久・米田・竹原(2009)『群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第476集: 原古墳』。
小杉正人(1988)珪藻の環境指標種の設定と古環境復元への応用。第四紀研究, 27, 1-20。
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(1994)『群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告177: 下高瀬上之原遺跡』。
中島啓治・南雲 保(1999)群馬県安中市野殿に分布する中期更新世野殿層の珪藻。群馬県立自然史博物館研究報告, 3, 25-36。
中野 俊・竹内主史・加藤新一・酒井 彰・浜崎聡志・広高俊男・駒沢正夫(1998)20万分の地質図幅「長野」。地質調査所。
日本の地質「関東地方」編集委員会編(1988)日本の地質3「関東地方」, 335p, 共立出版。
日本地質学会(2015)日本地方地質誌3「関東地方」, 570p, 朝倉書店。
須藤定久・牧本 博・秦 光男・宇野沢 昭・滝沢文教・阪本 亨・駒沢正夫・広島俊男(1991)20万分の地質図幅「宇都宮」。地質調査所。
地質年代(日本地質学会ホームページ: <http://geosociety.jp/name/content0062.htm>)引用

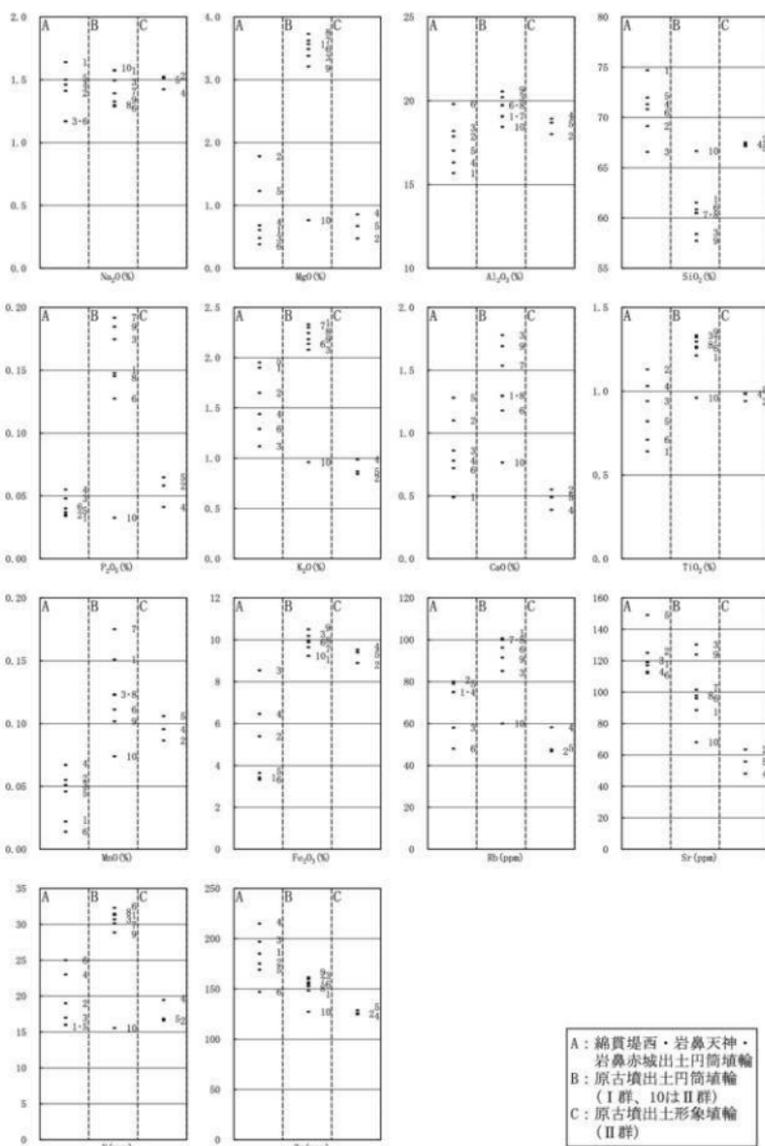


図1 各元素分布図

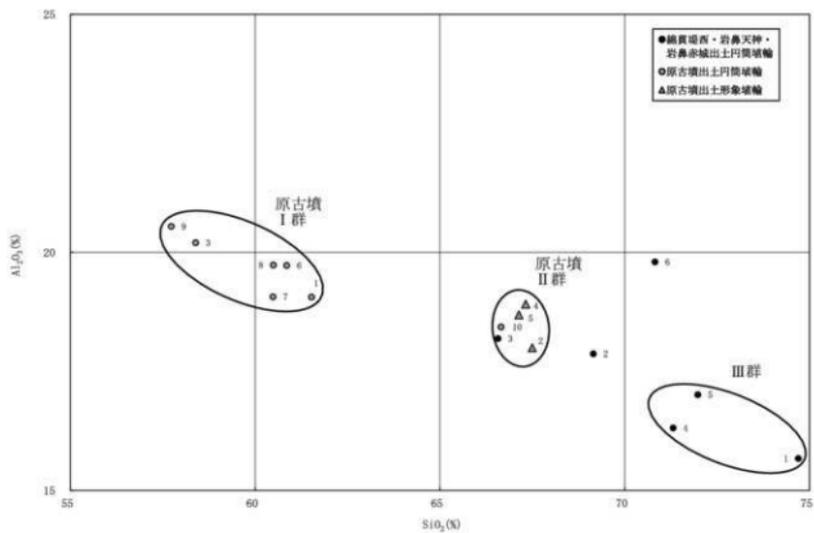
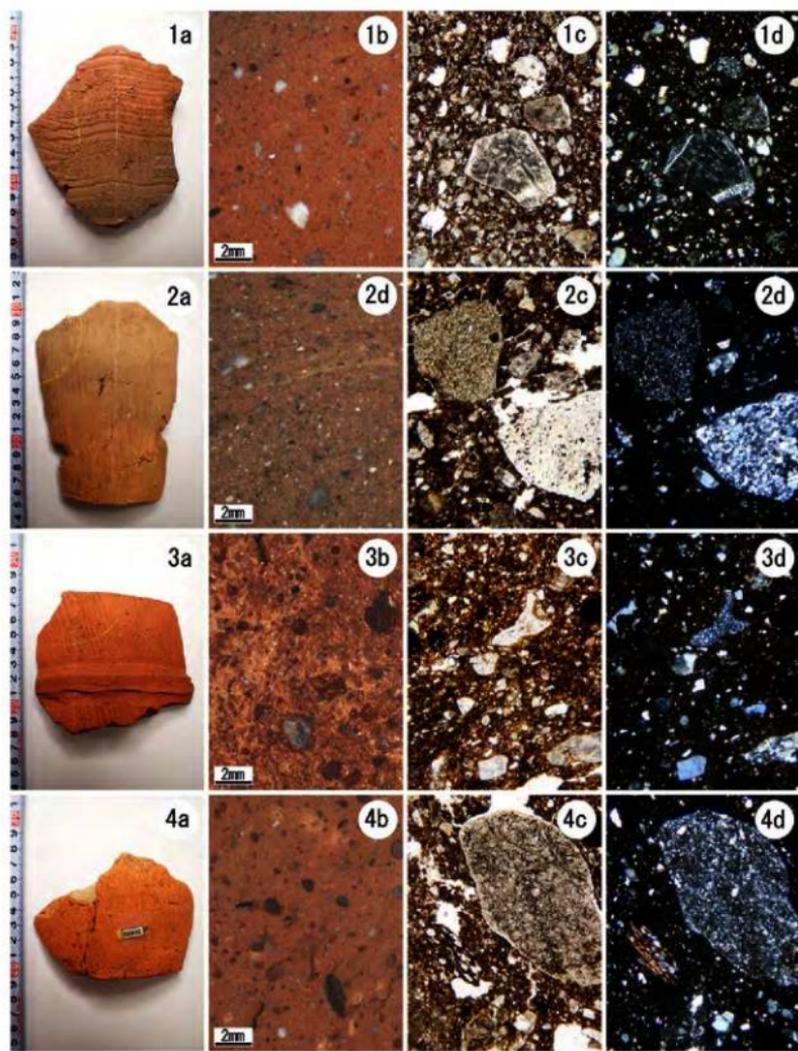


图2 Al_2O_3 - SiO_2 分布图



図版1 分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真 (1)

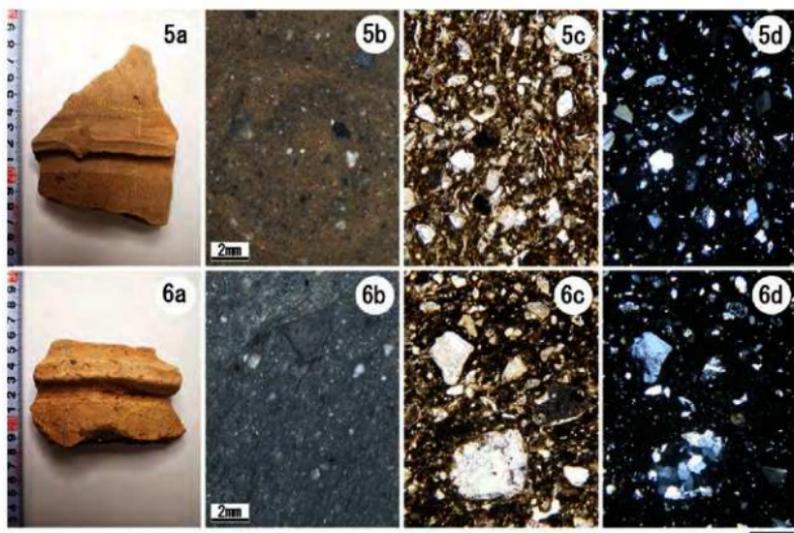
(スケール: 1c, 1d, 2c, 2d, 3c, 3d, 4c, 4d: 500 μ m)

1a. 分析No. 1 1b. 分析No. 1 (断面) 1c. 分析No. 1 (解放ニコル) 1d. 分析No. 1 (直交ニコル)

2a. 分析No. 2 2b. 分析No. 2 (断面) 2c. 分析No. 2 (解放ニコル) 2d. 分析No. 2 (直交ニコル)

3a. 分析No. 3 3b. 分析No. 3 (断面) 3c. 分析No. 3 (解放ニコル) 3d. 分析No. 3 (直交ニコル)

4a. 分析No. 4 4b. 分析No. 4 (断面) 4c. 分析No. 4 (解放ニコル) 4d. 分析No. 4 (直交ニコル)

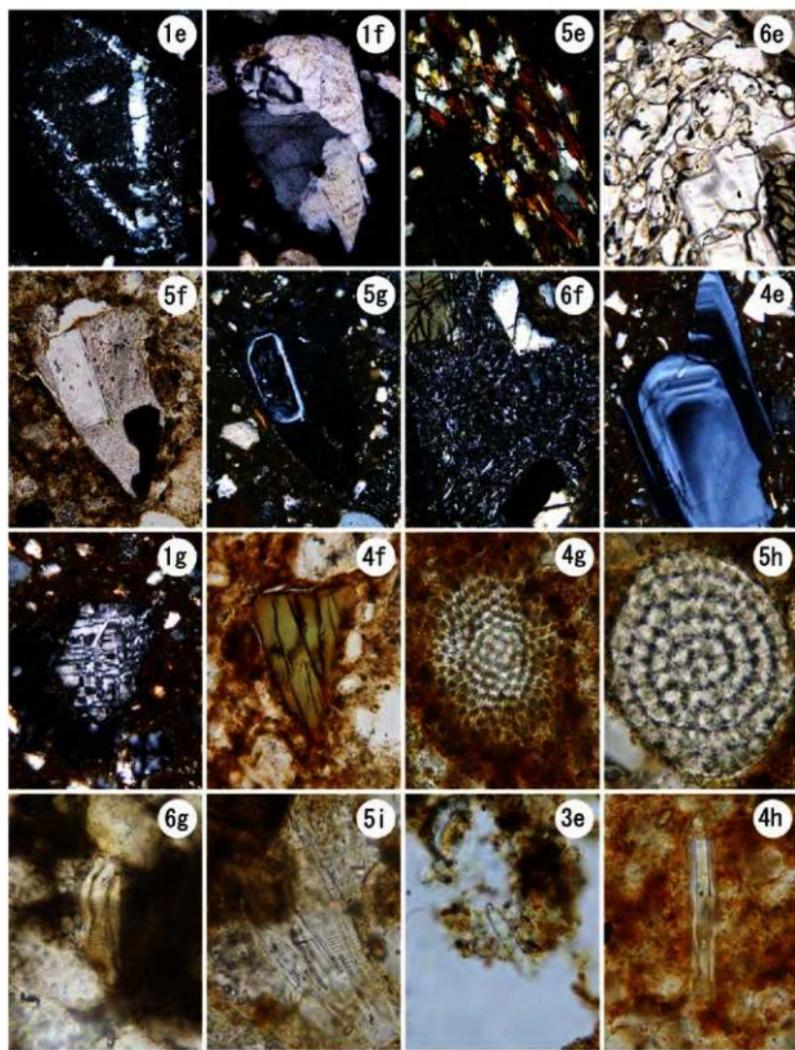


図版2 分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真 (2)

(スケール:5c, 5d, 6c, 6d:500 μ m)

5a. 分析No. 5 5b. 分析No. 5 (断面) 5c. 分析No. 5 (解放ニコル) 5d. 分析No. 5 (直交ニコル)

6a. 分析No. 6 6b. 分析No. 6 (断面) 6c. 分析No. 6 (解放ニコル) 6d. 分析No. 6 (直交ニコル)



図版3 胎土の偏光顕微鏡写真

(スケール:1e, 1f, 5e, 6e, 5f, 5g, 6f, 4e, 1g:100 μ m, 4f:50 μ m, 4g, 5h, 6g, 5i, 3e, 4h:20 μ m)

1e. 複合石英類 (微細) 1f. 複合石英類 (大型) 5e. 片理複合石英類 6e. 火山ガラス (軽石型)

5f. 凝灰岩質 (解放ニコル) 5g. 凝灰岩質 (直交ニコル) 6f. 斑晶質 4e. 斜長石 (黒帯)

1g. カリ長石 (微斜長石構造) 4f. 角閃石類 4g. 放散虫化石 5h. 放散虫化石

6g. 珪藻化石 *Eumotia proerupta* v. *bidens* 5i. 珪藻化石 *Cymbell* 属 3e. 陸生珪藻 4h. 骨針化石

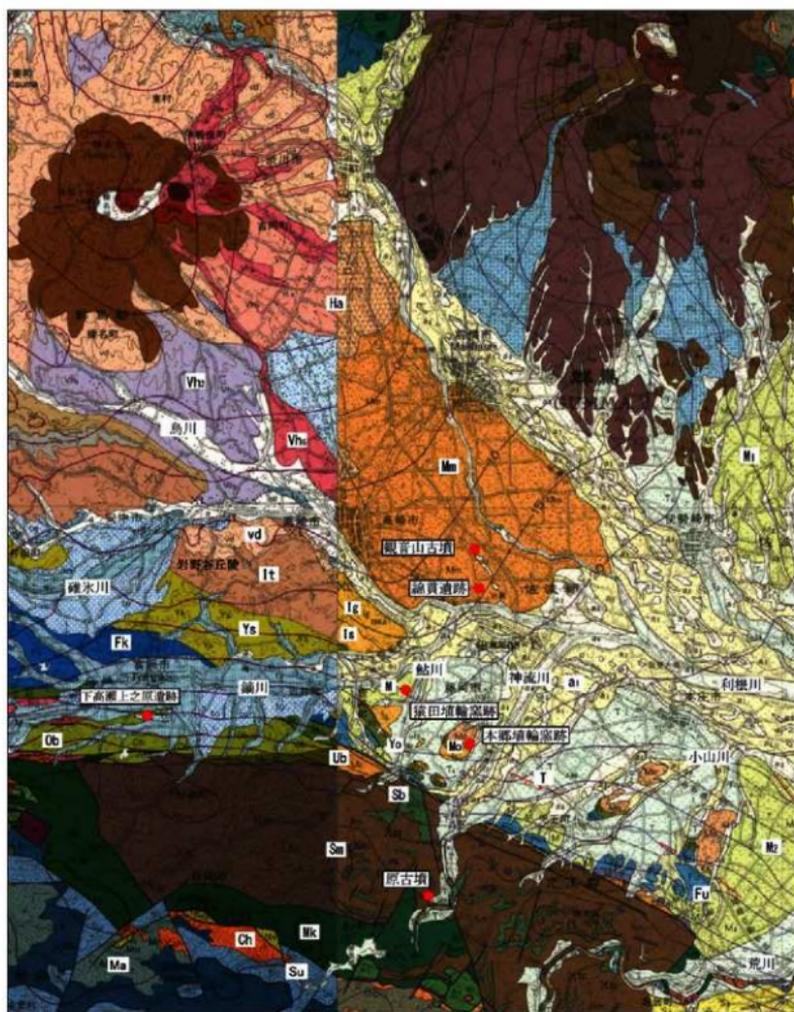


図3 遺跡および周辺地質（須藤ほか（1991）20万分の地質図幅「宇都宮」、中野ほか（1998）20万分の地質図幅「長野」を編集）

〔凡例〕 a1:自然堤防及び扇状地堆積物など、M, M, M₂:大間々扇状地堆積物など、Mn:扇状地堆積物、
 Hs:標名火山噴出物、Mo:物見山礫層及び相当層、vd:火山岩層からなる火山扇状地堆積物、
 Ig, Is, It:板鼻層・揚井層・鳩山層など、Yo, Ys:吉井層・土庫層・將軍沢層など、
 Fu, Fa, Id:福島層・福田層・神戸層・井戸沢層など、Ub, Ob:牛伏層・小幡層・小園層・五反田層など、
 Sb, Sa:三波川変成岩類、Mk:御前峠緑色岩類、Ma, Su:秩父帯

2. 滑石製石製模造品の原産地分析

はじめに

出土物の滑石製という言い方は誤解を招く、なぜならば滑石とはモース硬度1で、ほとんど触れば崩れるという岩石であり、石製品として加工不能に近いものである。滑石の分析という言い方は滑石質緑色岩類あるいは滑石質蛇紋岩というほうがいいのではないかと考えられる。第1図には滑石産地位置図と表題を記載してあるのは考古学の慣例に従ったものである。滑石質岩石は第1図の超塩基性岩分布図の中に記載した、採石した滑石質岩石の位置とよく照合されていることが図から明らかである。ここでは日本全国の滑石質岩石と照合するのではなく、関東地方の滑石質岩石の原産地原石と照合する形で遺物の分類をした。第2図 群馬県大奈良・秋畑周辺地質図には大奈良・秋畑の採石位置が記載してある。大奈良・秋畑の滑石質岩石は御荷鉢緑色岩類と密接な関係にあることがわかる。御荷鉢緑色岩類は低変成度の苦鉄質および超苦鉄質岩類とされるもので、時間の経過とともに蛇紋岩化していった。蛇紋岩化した緑色岩類は表面が滑らかで、硬度も落ちて軟質となり、加工しやすくなっているものと考えられる。SiO₂の高い領域にあるものはデイサイト変質岩系(ろう石系)として分類した。大奈良鉱山は鉄ニッケル鉱山で現在は蛇紋岩の採石場となっている。秋畑地区は露頭と河床堆積物で蛇紋岩質の原石を採取した。これら大奈良・秋畑の滑石質塩基性岩は緑色岩類の組成に近いもので、化学分析値で組成が異なるものとして大きく2タイプに分類されるがそれらの岩石は御荷鉢緑色岩類の範囲にある。

1 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置(日本電子製J SX-1000S)で行なった。この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法(F P法)による自動定量計算システムが採用されており、6 C~92 Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源(最大30kV、4mA)の採用で微量試料~最大290mmφ×80 mm Hまでの大型試料の測定が可能である。分析はバルクF P法でおこなった。F P法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルクF P法(スタンダードレス方式)、分析雰囲気=真空、X線管ターゲット素材=R h、加速電圧=30kV、管電流=自動制御、分析時間=24秒(有効分析時間)である。

分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, K, P, Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は滑石原石の含水量=0と仮定し、酸化物の重量%を100%にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量%は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量%では小数点以下3~4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度(重量%)でSiO₂-Al₂O₃、SiO₂-Fe₂O₃-Fe₂O₃-MgOの各相関図を作成した。第3図SiO₂-Al₂O₃図、第4図SiO₂-Fe₂O₃図、第5図Fe₂O₃-MgO図は、図ごとに関東地方の原石図、遺物図、大奈良・秋畑図を作成し、遺物の組成的特徴を検討した。

2 分析結果

第1表化学分析表には分析結果、第2表Fe₂O₃分類表には分析結果に基づいて滑石質遺物と滑石質原石の原産地が記載してある。

1) 第3-2図SiO₂-Al₂O₃図(遺物)にみられるように遺跡出土物はSiO₂の小さい領域と大きい領域の2領域に分

かれる。 SiO_2 が20~40%小さい領域(SiO_2 -I)は塩基性岩の領域で緑色岩類領域となる。 SiO_2 が45~70%の大きい領域(SiO_2 -II)は中性岩類の領域でデイサイト変質岩領域となる。 $(\text{SiO}_2$ -I)の領域である緑色岩類領域には伝十二天塚古墳の遺物が集中し、甘楽条理遺跡の緑色を呈する遺物が集中する。 $(\text{SiO}_2$ -II)の領域であるデイサイト変質岩領域には白色~灰色の甘楽条理遺跡の遺物と本郷花ノ木B遺跡の遺物が集中する。綿貫遺跡の遺物は(SiO_2 -I)の領域で甘楽条理遺跡の遺物と共存する。

- 2) 第4-2図 SiO_2 -MgO図(遺物)の図も第3-2図の傾向と類似している。MgOの小さい領域の緑色岩類領域には伝十二天塚古墳の遺物が集中し、甘楽条理遺跡の緑色を呈する遺物が集中する。MgOの高い領域には白色~灰色の甘楽条理遺跡の遺物と本郷花ノ木B遺跡の遺物が集中する。綿貫遺跡の遺物MgOの高い領域にあり、甘楽条理遺跡の遺物と共存する。綿貫遺跡8(遺物番号7)は各領域から外れ異質である。伝十二天塚古墳22(刀子型石製品1)は表面に鉄分が付着し、異質な成分として外れる。
- 3) 第5-3図 Fe_2O_3 -MgO図(遺物)では Fe_2O_3 -①~④の4つの領域に分かれる。 Fe_2O_3 -①には伝十二天塚古墳、本郷花ノ木B遺跡、甘楽条理遺跡、綿貫遺跡の遺物が共存する。 Fe_2O_3 -②には甘楽条理遺跡の遺物が集中し、綿貫遺跡の遺物と竹沼遺跡の遺物が共存する。 Fe_2O_3 -③には伝十二天塚古墳の遺物が集中し、甘楽条理遺跡の遺物と竹沼遺跡の遺物が共存する。 Fe_2O_3 -④は甘楽条理遺跡の遺物と綿貫遺跡の遺物が共存する。第5-3図 Fe_2O_3 -MgO図にみられるように Fe_2O_3 分類として Fe_2O_3 -①~ Fe_2O_3 -④の4タイプに分類されており、これらの結果に基づいて各遺跡遺物との関連性を検討したものが第2表 Fe_2O_3 分類表である。
- 4) Fe_2O_3 -①のグループは大奈良Aと秋畑Aが集中し、甘楽遺跡、竹沼遺跡、伝十二天塚古墳、本郷花ノ木遺跡、綿貫遺跡の遺物が集中し、共存する。甘楽遺跡の遺物は99住と109住Dが集中する。
- 5) Fe_2O_3 -②のグループには大奈良Aと秋畑Aが共存し、甘楽遺跡、竹沼遺跡、伝十二天塚古墳、綿貫遺跡の遺物が集中し、共存する。甘楽遺跡の遺物は99ピット、99住、109住Dが集中する。
- 6) Fe_2O_3 -③のグループには大奈良Bと秋畑Bが共存し、甘楽遺跡、竹沼遺跡、伝十二天塚古墳(うす玉)が集中し、共存する。甘楽遺跡の遺物は99住、109住Dが集中する。
- 7) Fe_2O_3 -④のグループには秋畑Aタイプの原石が集中し、甘楽遺跡と綿貫遺跡の遺物が共存する。
- 8) 大奈良・坑口直下1は異質である。伝十二天塚古墳22は刀子型石製品1で表面に鉄分が付着し、分析値は異常を示す。

以上の結果に基づいて第2表 Fe_2O_3 分類表、第3表 SiO_2 分類表、第4表大奈良・秋畑原石分類表、第5表 SiO_2 - Fe_2O_3 分類表を作成した。

第5表 SiO_2 - Fe_2O_3 分類表に基づいて以下のように分類した。

- 1) SiO_2 -I・ Fe_2O_3 -2(緑色岩系)には伝十二天塚古墳の刀子型石製品と綿貫遺跡の遺物が共存する。
- 2) SiO_2 -I・ Fe_2O_3 -2(緑色岩系)には甘楽条理遺跡の青色系のが集中し、伝十二天塚古墳のうす玉と刀子型石製品の遺物が共存する。
- 3) SiO_2 -II・ Fe_2O_3 -1(デイサイト岩系)甘楽条理遺跡の白色系遺物と竹沼遺跡、本郷花ノ木遺跡の白色系遺物と綿貫遺跡の遺物が共存する。
- 4) SiO_2 -II・ Fe_2O_3 -2(デイサイト岩系)には甘楽条理遺跡の白色系遺物が集中する。
- 5) その他として、綿貫遺跡の8、甘楽条理遺跡の76、伝十二天塚古墳の22の3個は異質でどのグループにも属さない。

引用文献

- 井上 廉1999「滑石製品の分析」『京都府遺跡調査報告書』第25冊(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
井上 廉1999「池島・福万寺遺跡出土滑石製品の分析」『池島・福万寺遺跡2』(財)大府文化財センター

第1表 化学分析表(1)

番号	試料名	NaO	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	Fe ₂ O ₃	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	FeO	SiO ₂	Y ₂ O ₃	ZrO ₂	Total	灰分	備考		
5-1	焼酎用原料	1.0870	27.4030	18.1090	35.8300	0.0710	0.1480	0.0660	0.3310	17.0000	0.0010	0.0000	0.0000	0.0000	100.3180	215	0	加工用原料。焼酎。消火用原料	
5-2	焼酎用原料	1.8450	38.1900	14.1500	30.6500	0.0610	0.2140	0.0560	0.3130	17.6500	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	116	0	石炭酸抽出。焼酎。消火用原料	
5-3	焼酎用原料	0.6880	24.3000	0.1470	61.3000	0.0190	0.0460	0.0070	0.1480	8.2500	0.0000	0.0010	0.0000	0.0000	100.0000	100	253	0	J.L.S.定規。消火
5-4	焼酎用原料	0.6880	24.3000	0.1470	66.2000	0.0000	0.0250	0.0020	0.1480	7.2500	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	100	253	0	J.L.S.定規。消火
5-5	焼酎用原料	0.4140	21.9000	0.1470	61.3000	0.0000	0.0250	0.0020	0.1480	7.2500	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	100	253	0	J.L.S.定規。消火
5-6	焼酎用原料	1.1590	24.7100	1.9010	63.5000	0.0000	0.0350	0.0020	0.1480	8.6300	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.9980	0	0	0	J.L.S.定規。消火
5-7	焼酎用原料	0.0000	1.5440	17.1600	60.0000	0.2900	0.6840	0.3030	1.4300	0.6460	11.2000	0.1010	0.0000	0.0000	99.9980	0	0	0	J.L.S.定規。消火
5-8	焼酎用原料	0.0000	32.7400	17.5600	37.8000	0.0240	0.0410	0.4360	0.1400	9.2600	0.0010	0.0020	0.0000	0.0000	99.7370	466	574	0	材料用
5-9	焼酎用原料	0.0000	30.8500	3.0270	58.7100	0.0240	0.0160	0.1070	0.1600	7.0700	0.0000	0.0010	0.0000	0.0000	99.7000	80	203	0	材料用
5-10	焼酎用原料	0.8850	24.8400	19.8500	33.7000	0.1370	0.0600	0.1810	0.0660	8.2800	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.9910	71	0	0	4成製品
5-11	焼酎用原料	0.8850	24.8400	19.8500	33.7000	0.1370	0.0600	0.1810	0.0660	8.2800	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.9910	71	0	0	4成製品
5-12	焼酎用原料	1.5800	23.9300	1.6520	64.6700	0.0410	0.1310	0.0270	0.2720	8.8300	0.0010	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	244	0	0	4成製品
5-13	焼酎用原料	1.5800	23.9300	1.6520	64.6700	0.0410	0.1310	0.0270	0.2720	8.8300	0.0010	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	244	0	0	4成製品
5-14	焼酎用原料	1.0790	24.4100	3.4180	49.1000	0.0090	0.0480	0.2960	0.3000	20.3000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.9900	0	152	0	4成製品
5-15	焼酎用原料	1.1300	23.7100	4.4300	64.7100	0.0240	0.0250	0.1200	0.0210	8.7300	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.9940	125	53	0	4成製品
5-16	焼酎用原料	1.9010	21.0000	8.4500	61.0000	0.0540	0.0780	0.3160	0.0660	9.7100	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.9910	137	0	0	4成製品
5-17	焼酎用原料	1.9010	21.0000	8.4500	61.0000	0.0540	0.0780	0.3160	0.0660	9.7100	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.9910	137	0	0	4成製品
5-18	焼酎用原料	0.0000	27.4030	1.5640	65.1300	0.0000	0.0760	0.0860	0.9590	6.0110	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.8020	285	0	0	4成製品
5-19	焼酎用原料	0.0000	24.6000	1.1920	63.4000	0.0000	0.0800	0.1010	0.0520	6.7470	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.6520	212	0	0	4成製品
5-20	焼酎用原料	1.0010	23.3000	2.4400	63.9000	0.0000	0.0640	0.1300	0.1660	7.6700	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.6000	0	0	0	4成製品
5-21	焼酎用原料	0.0000	31.2000	1.4600	60.9400	0.0000	0.1010	0.1400	0.0000	6.0160	0.0000	0.0010	0.0000	0.0000	99.7100	246	0	0	4成製品
5-22	焼酎用原料	0.0000	0.9990	12.1000	18.1300	0.1220	0.2380	0.4830	0.7530	10.3200	0.0000	0.0030	0.0000	0.0000	99.9130	423	112	0	4成製品
5-23	焼酎用原料	0.0000	0.9990	12.1000	18.1300	0.1220	0.2380	0.4830	0.7530	10.3200	0.0000	0.0030	0.0000	0.0000	99.9130	423	112	0	4成製品
5-24	焼酎用原料	0.0000	22.1300	24.1000	33.1200	0.0810	0.0590	0.1090	0.0930	10.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	0	29	0	4成製品
5-25	焼酎用原料	0.0000	22.1300	24.1000	33.1200	0.0810	0.0590	0.1090	0.0930	10.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	0	29	0	4成製品
5-26	焼酎用原料	0.0000	29.4000	27.3000	34.9000	0.0460	0.0450	0.1840	0.0630	9.8200	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	100.0040	0	56	0	4成製品
5-27	焼酎用原料	0.0000	29.4000	27.3000	34.9000	0.0460	0.0450	0.1840	0.0630	9.8200	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	100.0040	0	56	0	4成製品
5-28	焼酎用原料	1.1880	18.5000	22.4500	34.4000	0.1170	0.2580	0.5660	1.4650	6.5200	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.7030	233	24	0	4成製品
5-29	焼酎用原料	1.1880	18.5000	22.4500	34.4000	0.1170	0.2580	0.5660	1.4650	6.5200	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.7030	233	24	0	4成製品
5-30	焼酎用原料	0.5830	29.6500	25.6900	32.9600	0.1560	0.6900	0.5720	0.9660	6.7380	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.9000	44	138	0	4成製品
5-31	焼酎用原料	0.5830	29.6500	25.6900	32.9600	0.1560	0.6900	0.5720	0.9660	6.7380	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.9000	44	138	0	4成製品
5-32	焼酎用原料	1.1340	11.7500	23.0900	35.4700	0.4620	0.3210	0.7010	0.2510	26.2800	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	146	5	0	4成製品
5-33	焼酎用原料	1.1340	11.7500	23.0900	35.4700	0.4620	0.3210	0.7010	0.2510	26.2800	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	146	5	0	4成製品
5-34	焼酎用原料	0.7250	20.1000	21.1000	31.3300	0.6000	0.2300	0.4360	0.5400	27.6000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	290	509	0	4成製品
5-35	焼酎用原料	0.7250	20.1000	21.1000	31.3300	0.6000	0.2300	0.4360	0.5400	27.6000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	290	509	0	4成製品
5-36	焼酎用原料	0.3700	21.7900	18.1400	27.3300	0.1800	0.0280	2.7380	2.7380	24.9000	0.0000	0.0040	0.0000	0.0000	99.9900	233	445	0	4成製品
5-37	焼酎用原料	0.8590	22.2000	24.1000	27.8000	0.0530	0.0540	1.6570	1.6570	24.3000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.9960	118	790	0	4成製品
5-38	焼酎用原料	0.8590	22.2000	24.1000	27.8000	0.0530	0.0540	1.6570	1.6570	24.3000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.9960	118	790	0	4成製品
5-39	焼酎用原料	0.7750	21.5300	21.9600	28.7900	0.1840	0.0260	1.4600	1.3710	23.5000	0.0000	0.0030	0.0000	0.0000	100.0000	300	325	0	4成製品
5-40	焼酎用原料	0.7750	21.5300	21.9600	28.7900	0.1840	0.0260	1.4600	1.3710	23.5000	0.0000	0.0030	0.0000	0.0000	100.0000	300	325	0	4成製品
5-41	焼酎用原料	1.0210	18.6000	18.2000	27.0000	0.0390	0.0600	1.4290	1.4500	17.4000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.9960	212	210	0	4成製品
5-42	焼酎用原料	1.0210	18.6000	18.2000	27.0000	0.0390	0.0600	1.4290	1.4500	17.4000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.9960	212	210	0	4成製品
5-43	焼酎用原料	0.0000	29.2900	1.3200	64.8000	0.0000	0.0710	0.1110	0.0540	10.4800	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.9980	109	169	0	4成製品
5-44	焼酎用原料	0.0000	29.2900	1.3200	64.8000	0.0000	0.0710	0.1110	0.0540	10.4800	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.9980	109	169	0	4成製品
5-45	焼酎用原料	0.0000	28.3000	1.7400	59.2000	0.0000	0.0340	0.0270	0.0460	9.4500	0.0000	0.0010	0.0000	0.0000	99.8000	0	284	0	4成製品
5-46	焼酎用原料	0.0000	28.3000	1.7400	59.2000	0.0000	0.0340	0.0270	0.0460	9.4500	0.0000	0.0010	0.0000	0.0000	99.8000	0	284	0	4成製品
5-47	焼酎用原料	0.0000	28.9200	1.9590	59.9000	0.0000	0.0270	0.2190	0.0160	9.7600	0.0000	0.0040	0.0000	0.0000	99.8000	174	431	0	4成製品
5-48	焼酎用原料	0.0000	28.9200	1.9590	59.9000	0.0000	0.0270	0.2190	0.0160	9.7600	0.0000	0.0040	0.0000	0.0000	99.7960	157	221	0	4成製品
5-49	焼酎用原料	0.3820	28.3000	3.7900	59.5000	0.0000	0.0330	0.0930	0.0620	9.8400	0.0000	0.0010	0.0000	0.0000	99.9800	0	166	0	4成製品
5-50	焼酎用原料	0.3820	28.3000	3.7900	59.5000	0.0000	0.0330	0.0930	0.0620	9.8400	0.0000	0.0010	0.0000	0.0000	99.9800	0	166	0	4成製品
5-51	焼酎用原料	0.4440	21.9600	2.9600	59.8000	0.0000	0.0220	0.0980	0.0430	11.2400	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	0	0	0	4成製品
5-52	焼酎用原料	0.4440	21.9600	2.9600	59.8000	0.0000	0.0220	0.0980	0.0430	11.2400	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	0	0	0	4成製品
5-53	焼酎用原料	0.0000	22.8000	1.8500	61.7000	0.0000	0.0320	0.0860	0.0210	13.1300	0.0000	0.0030	0.0000	0.0000	99.8000	0	281	0	4成製品
5-54	焼酎用原料	0.0000	22.8000	1.8500	61.7000	0.0000	0.0320	0.0860	0.0210	13.1300	0.0000	0.0030	0.0000	0.0000	99.8000	0	281	0	4成製品
5-55	焼酎用原料	0.0000	19.3700	6.6100	60.0700	0.1600	0.1320	0.5500	0.1620	13.0000	0.0000	0.0010	0.0000	0.0000	99.6290	0	242	0	4成製品
5-56	焼酎用原料	0.0000	19.3700	6.6100	60.0700	0.1600	0.1320	0.5500	0.1620	13.0000	0.0000	0.0010	0.0000	0.0000	99.6290	0	242	0	4成製品
5-57	焼酎用原料	0.0000	11.3180	22.8600	1.3670	62.2800	0.0000	0.0410	0.1160	0.0270	0.0810	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	0	0	0	4成製品

第2表 Fe₂O₃分類表

試料名	Fe ₂ O ₃	MgO	備考	目録・出土位置
Fe ₂ O ₃ ①				
S-21	9,230	24,400	秋畑A・板鼻・杉林の中1	
S-16	10,600	24,600	秋畑A・河床・老人3	
S-28	8,240	28,000	秋畑A・中野さん4	
S-1	9,900	24,200	大奈良A・垣口1	
S-2	9,230	24,000	大奈良A・垣口2	
S-4	9,430	22,800	大奈良A・垣口直下2	
S-11	10,400	24,300	大奈良A・漆の沢・河床4	
S-12	8,800	24,000	大奈良A・漆の沢・筋下流1	
S-13	10,600	23,600	大奈良A・漆の沢・筋下流2	
S-66	9,970	29,080	甘葉菜里遺跡	109付D-1
S-75	8,243	27,580	甘葉菜里遺跡	109付D-10
S-67	6,456	29,540	甘葉菜里遺跡	109付D-2
S-68	9,899	29,150	甘葉菜里遺跡	109付D-3
S-69	10,770	27,540	甘葉菜里遺跡	109付D-4
S-42	8,181	29,250	甘葉菜里遺跡	99付E-1
S-43	9,455	28,300	甘葉菜里遺跡	99付E-2
S-45	9,476	28,920	甘葉菜里遺跡	99付E-4
S-46	9,645	27,410	甘葉菜里遺跡	99付E-5
S-47	9,270	28,530	甘葉菜里遺跡	99付E-7
S-48	8,046	28,390	甘葉菜里遺跡	99付E-8
S-10	7,097	30,850	竹沼遺跡	
S-15	8,753	23,710	竹沼遺跡	
S-12	8,836	23,920	竹沼遺跡	
S-9	9,836	33,740	竹沼遺跡	
S-25	9,625	30,270	伝十二天塚古墳・刀子型石製品4	
S-23	10,280	31,550	伝十二天塚古墳・刀子型石製品2	
S-21	6,075	31,200	本郷花ノ木8遺跡	
S-20	7,427	23,330	本郷花ノ木8遺跡	
S-17	8,496	22,440	本郷花ノ木8遺跡	
S-19	8,744	24,090	本郷花ノ木8遺跡	
S-18	9,029	22,420	本郷花ノ木8遺跡	
S-3	8,928	24,670	網貫遺跡2	
S-4	7,531	24,320	網貫遺跡3	
S-5	7,499	25,580	網貫遺跡4	
S-6	10,580	24,930	網貫遺跡5	
S-7	8,453	24,710	網貫遺跡6	
Fe ₂ O ₃ ②				
S-22	11,700	23,900	秋畑A・板鼻・杉林の中2	
S-23	11,700	23,800	秋畑A・板鼻・杉林の中3	
S-24	12,500	23,200	秋畑A・板鼻・杉林の中4	
S-20	11,700	29,500	秋畑A・那須3	
S-8	12,700	21,300	大奈良A・漆の沢・河床1	
S-6	12,400	21,100	大奈良A・垣口1	
S-71	16,090	26,300	甘葉菜里遺跡	109付D-6
S-72	15,290	22,340	甘葉菜里遺跡	109付D-7
S-73	13,200	22,520	甘葉菜里遺跡	109付D-8
S-74	14,540	25,780	甘葉菜里遺跡	109付D-9
S-49	14,300	21,980	甘葉菜里遺跡	99付I-1
S-50	13,490	22,850	甘葉菜里遺跡	99付I-2
S-51	13,130	22,880	甘葉菜里遺跡	99付I-3
S-40	12,020	22,640	甘葉菜里遺跡	99付I-7
S-41	11,040	21,960	甘葉菜里遺跡	99付I-8
S-52	12,880	22,530	甘葉菜里遺跡	99付I-1
S-61	13,030	22,510	甘葉菜里遺跡	99付I-10
S-62	15,000	18,100	甘葉菜里遺跡	99付I-11
S-63	12,700	22,160	甘葉菜里遺跡	99付I-12

試料名	Fe ₂ O ₃	MgO	備考	目録・出土位置
S-64	12,850	21,000	甘葉菜里遺跡	99付I-13
S-65	11,260	23,330	甘葉菜里遺跡	99付I-14
S-33	13,020	19,370	甘葉菜里遺跡	99付I-2
S-54	14,080	17,240	甘葉菜里遺跡	99付I-3
S-55	11,710	22,860	甘葉菜里遺跡	99付I-4
S-56	12,400	20,510	甘葉菜里遺跡	99付I-5
S-57	11,340	22,900	甘葉菜里遺跡	99付I-6
S-58	11,540	22,350	甘葉菜里遺跡	99付I-7
S-59	12,520	21,910	甘葉菜里遺跡	99付I-8
S-60	12,360	23,680	甘葉菜里遺跡	99付I-9
S-16	11,570	21,040	竹沼遺跡	
S-13	12,110	23,410	竹沼遺跡	
S-27	13,130	20,990	伝十二天塚古墳・刀子型石製品6	
S-26	14,070	29,300	伝十二天塚古墳・刀子型石製品5	
S-1	17,090	27,410	網貫遺跡17	
S-2	17,650	26,500	網貫遺跡18	
Fe ₂ O ₃ ③				
S-14	23,000	25,500	秋畑B・河床・老人1	
S-15	24,300	21,100	秋畑B・河床・老人2	
S-17	25,000	21,300	秋畑B・河床・老人4	
S-27	35,100	13,900	秋畑B・中野さん3	
S-5	25,900	21,900	大奈良B・垣口直下3	
S-9	25,300	21,700	大奈良B・漆の沢・河床2	
S-10	24,000	22,800	大奈良B・漆の沢・河床3	
S-7	23,300	24,100	大奈良B・垣口下2	
S-77	22,570	22,970	甘葉菜里遺跡	109付D-12
S-78	26,000	20,770	甘葉菜里遺跡	109付D-13
S-79	31,590	16,310	甘葉菜里遺跡	109付D-14
S-80	25,440	16,970	甘葉菜里遺跡	109付D-16
S-70	21,230	21,210	甘葉菜里遺跡	109付D-5
S-34	23,570	20,800	甘葉菜里遺跡	99付I-1
S-35	24,950	21,790	甘葉菜里遺跡	99付I-2
S-36	24,520	22,220	甘葉菜里遺跡	99付I-3
S-37	23,560	21,520	甘葉菜里遺跡	99付I-4
S-38	33,230	16,290	甘葉菜里遺跡	99付I-5
S-39	32,430	16,610	甘葉菜里遺跡	99付I-6
S-44	24,590	22,110	甘葉菜里遺跡	99付I-3
S-11	19,850	24,840	竹沼遺跡	
S-14	20,930	24,710	竹沼遺跡	
S-30	20,070	20,650	伝十二天塚古墳・うす玉3	
S-31	20,960	22,550	伝十二天塚古墳・うす玉4	
S-29	21,290	13,980	伝十二天塚古墳・うす玉2	
S-28	21,320	16,070	伝十二天塚古墳・うす玉1	
S-24	23,350	22,130	伝十二天塚古墳・刀子型石製品3	
S-32	26,280	11,750	伝十二天塚古墳・うす玉5	
S-33	27,650	12,890	伝十二天塚古墳・うす玉6	
Fe ₂ O ₃ ④				
S-18	6,760	17,900	秋畑A・那須1	
S-19	8,620	17,700	秋畑A・那須2	
S-25	10,900	3,660	秋畑A・中野さん1	
S-26	13,900	7,460	秋畑A・中野さん2	
S-76	10,620	13,130	甘葉菜里遺跡	109付D-11
S-8	11,290	1,544	網貫遺跡7	
真贋				
S-3	0,000	24,000	大奈良・垣口直下1 付付前(分層不可)	
S-22	67,630	0,596	伝十二天塚古墳・刀子型石製品1	

第3表 SiO₂分類表

試料名	SiO ₂	Al ₂ O ₃
SiO ₂ -I (緑色岩類系)		
S-29 日奈楽半道跡	27,0900	18,2600
S-38 日奈楽半道跡	27,2800	18,4900
S-35 日奈楽半道跡	27,5100	19,1500
S-36 日奈楽半道跡	27,6800	20,6700
S-79 日奈楽半道跡	28,0100	17,6000
S-78 日奈楽半道跡	28,0400	19,9700
S-44 日奈楽半道跡	28,2600	21,7100
S-37 日奈楽半道跡	28,7500	21,9800
S-34 日奈楽半道跡	28,7600	21,4000
S-77 日奈楽半道跡	28,8000	20,0100
S-80 日奈楽半道跡	36,9400	11,3000
S-76 日奈楽半道跡	41,5500	25,3800
S-11 竹沼跡跡	33,7400	19,8500
S-9 竹沼跡跡	37,8900	17,5600
S-22 伝十二天塚古墳	18,3100	12,0000
S-33 伝十二天塚古墳	29,1500	20,0400
S-24 伝十二天塚古墳	29,4500	21,5200
S-30 伝十二天塚古墳	32,9600	23,6900
S-26 伝十二天塚古墳	32,9700	22,1200
S-23 伝十二天塚古墳	33,1200	24,1600
S-28 伝十二天塚古墳	34,4600	22,2300
S-21 伝十二天塚古墳	34,7400	20,1100
S-31 伝十二天塚古墳	34,9400	23,3600
S-32 伝十二天塚古墳	35,4700	23,0800
S-27 伝十二天塚古墳	36,4000	27,6600
S-29 伝十二天塚古墳	39,2000	23,5000
S-1 編貫遺跡跡	35,9000	18,1000
SiO ₂ -II (珪石付変質系)		
S-2 編貫遺跡跡	35,8200	18,1500
S-71 日奈楽半道跡	43,6400	9,2900
S-74 日奈楽半道跡	43,8500	9,1190
S-70 日奈楽半道跡	46,7700	8,9590
S-69 日奈楽半道跡	51,5400	6,6130
S-68 日奈楽半道跡	54,7100	5,3740
S-66 日奈楽半道跡	53,0300	4,0080
S-46 日奈楽半道跡	53,8600	6,0350
S-72 日奈楽半道跡	56,2900	4,7270
S-75 日奈楽半道跡	58,8200	1,2970
S-54 日奈楽半道跡	58,8900	8,3420
S-48 日奈楽半道跡	59,0200	3,2660
S-45 日奈楽半道跡	59,0600	1,9580
S-43 日奈楽半道跡	59,6700	1,7440
S-49 日奈楽半道跡	59,8400	2,9600
S-47 日奈楽半道跡	59,9800	1,6130
S-62 日奈楽半道跡	59,9800	5,8740
S-53 日奈楽半道跡	60,0700	6,0610
S-73 日奈楽半道跡	60,2400	2,2460
S-50 日奈楽半道跡	60,3800	2,9540
S-61 日奈楽半道跡	60,4000	2,8940
S-42 日奈楽半道跡	60,8000	1,3220
S-52 日奈楽半道跡	60,9500	2,6330
S-67 日奈楽半道跡	61,0600	1,0710
S-60 日奈楽半道跡	61,4100	1,7780
S-56 日奈楽半道跡	61,5300	4,1290
SiO ₂ -III (緑色岩類系)		
S-51 日奈楽半道跡	61,7600	1,6350
S-55 日奈楽半道跡	62,2800	1,5670
S-64 日奈楽半道跡	62,4600	2,5430
S-63 日奈楽半道跡	62,6000	1,4840
S-59 日奈楽半道跡	62,7100	2,0440
S-40 日奈楽半道跡	63,0000	1,7500
S-65 日奈楽半道跡	63,1700	1,0670
S-57 日奈楽半道跡	63,5100	1,4430
S-58 日奈楽半道跡	64,0900	1,1980
S-41 日奈楽半道跡	64,4600	1,7320
S-14 竹沼跡跡	49,0100	3,4180
S-10 竹沼跡跡	58,4700	3,0220
S-16 竹沼跡跡	60,0400	5,4950
S-13 竹沼跡跡	61,0300	1,5500
S-12 竹沼跡跡	64,6700	1,6520
S-15 竹沼跡跡	64,7100	1,4300
S-21 本郷花/本郷跡跡	60,9400	1,4680
S-20 本郷花/本郷跡跡	63,9800	2,4400
S-17 本郷花/本郷跡跡	64,8800	2,5320
S-18 本郷花/本郷跡跡	65,1300	1,5940
S-19 本郷花/本郷跡跡	65,4100	1,1950
S-3 編貫遺跡跡	65,3200	0,1470
S-4 編貫遺跡跡	66,5600	0,6910
S-5 編貫遺跡跡	65,1900	0,8860
S-6 編貫遺跡跡	63,2700	0,2480
S-7 編貫遺跡跡	63,5400	1,9810
S-8 編貫遺跡跡	60,6500	17,6100

第4表 大奈良・秋畑 原石分類表

試料番号	SiO ₂	MgO	原石採取位置	試料番号	SiO ₂	MgO	原石採取位置
大奈良A							
G-5	31.8406	26.0951	大奈良・坑L城下3	G-17	29.0630	26.0155	秋畑・河床・老人4
G-9	32.3229	24.2926	大奈良・漆の沢・河床2	G-15	32.4311	27.8795	秋畑・河床・老人2
G-10	32.8576	26.7772	大奈良・漆の沢・河床3	G-27	37.2922	14.6980	秋畑・中野さん3
G-7	35.6525	25.4900	大奈良・坑L下2	G-14	37.6644	26.8649	秋畑・河床・老人1
G-4	40.2734	29.7055	大奈良・坑L城下2	秋畑B			
大奈良B							
G-1	49.0435	24.5300	大奈良・坑L1	G-26	44.6517	9.6372	秋畑・中野さん2
G-6	49.2943	25.7378	大奈良・坑L下1	G-25	47.7741	3.7012	秋畑・中野さん1
G-2	53.3157	26.3358	大奈良・坑L2	G-19	51.4701	22.4343	秋畑・那須2
G-3	57.8583	30.4212	大奈良・坑L城下1	G-18	55.2632	19.3111	秋畑・那須1
G-13	60.7492	30.1033	大奈良・漆の沢・最下流2	G-20	55.4502	33.4431	秋畑・那須3
G-11	60.7644	27.4464	大奈良・漆の沢・河床4	G-28	57.8274	31.6670	秋畑・中野さん4
G-8	61.9705	27.5405	大奈良・漆の沢・河床1	G-21	58.4058	29.2654	秋畑・板敷・杉林の中1
G-12	62.2239	28.6237	大奈良・漆の沢・最下流1	G-22	58.9793	28.3850	秋畑・板敷・杉林の中2
秋畑A							
G-16	61.9963	25.4212	秋畑・河床・老人3	G-24	62.1132	26.9043	秋畑・板敷・杉林の中4
G-23	64.2773	27.5375	秋畑・板敷・杉林の中3				

第5表 SiO₂-Fe₂O₃分類表(1)

分析番号	試料名	SiO ₂	Fe ₂ O ₃	備 考	岩 相	報告書取次
SiO ₂ -I・Fe ₂ O ₃ -2 (緑色岩系)						
S-9	竹沼跡跡	37,8900	9,8300	99E-1 珪石	素材剥片, 黒く油光沢あり。磨面は片岩様にとぎらつく。	第44982
S-23	伝十二天塚古墳	33,1200	10,2800	99E1-1 珪石	刀形石剥片。青と黒の斑模様。	歴史研R28
S-25	伝十二天塚古墳	34,9400	9,6250	99E1-1 珪石	刀形石剥片。	歴史研R48
S-26	伝十二天塚古墳	32,9700	14,0700	99E1-1 珪石	刀形石剥片。	歴史研R57
S-27	伝十二天塚古墳	36,4000	13,1300	99E1-1 珪石	刀形石剥片。	歴史研R58
S-1	編貫遺跡跡	35,9000	17,0900	6号整欠建物	剥片, 新鮮面(切断面)	
S-2	編貫遺跡跡	35,8200	17,6500	6号整欠建物	剥片, 風化面	
SiO ₂ -I・Fe ₂ O ₃ -3 (緑色岩系)						
S-34	日奈楽半道跡	28,7600	23,5700	99E1-1	小形剥片, 青色, ほぼ均質, 鉱物粒の抜け?	
S-35	日奈楽半道跡	27,5100	24,9500	99E1-2	小形剥片, 青色, ほぼ均質, 鉱物粒の抜け?	
S-36	日奈楽半道跡	27,6800	24,5200	99E1-3	小形剥片, 青色, ほぼ均質, 鉱物粒の抜け?	
S-37	日奈楽半道跡	28,7500	23,5600	99E1-4	小形剥片, 青色, ほぼ均質, 鉱物粒の抜け?	
S-38	日奈楽半道跡	27,2800	33,2300	99E1-5	小形剥片, 青色, ほぼ均質, 鉱物粒の抜け?	
S-39	日奈楽半道跡	27,0900	32,4300	99E1-6	小形剥片, 青色, ほぼ均質, 鉱物粒の抜け?	
S-44	日奈楽半道跡	28,2600	24,5900	99E1-3	素材剥片, 青色, ほぼ均質, 鉱物粒の抜け?	
S-77	日奈楽半道跡	28,8000	22,5700	109E1D-12	小形剥片, 青灰色。	
S-78	日奈楽半道跡	28,0400	26,0000	109E1D-13	未成品, 青灰色。	
S-79	日奈楽半道跡	28,0100	31,5900	109E1D-14	未成品, 青灰色。	
S-80	日奈楽半道跡	36,9400	25,4400	109E1D-16	小形剥片, 青灰色。	

第5表 SiO₂-Fe₂O₃分類表(2)

分析番号	試料名	SiO ₂	Fe ₂ O ₃	備 考	岩 相	報告書掲載
S-11	竹沼遺跡	33.7400	19.8500	未成品	未成品。黒く光沢を帯びる。	第40頁P372
S-22	伝十二天塚古墳	18.3100	67.6300	旧個人収蔵	刀子形石製品。青と黒の斑模様。	歴史64026
S-24	伝十二天塚古墳	29.4500	23.3500	旧個人収蔵	刀子形石製品。青と黒の斑模様。先端部は鉄サビ。	歴史64037
S-28	伝十二天塚古墳	34.4600	21.3200	旧個人収蔵	うす玉1	
S-29	伝十二天塚古墳	39.2000	21.2600	旧個人収蔵	うす玉2	
S-30	伝十二天塚古墳	32.9600	20.0700	旧個人収蔵	うす玉3	
S-31	伝十二天塚古墳	34.7400	20.9600	旧個人収蔵	うす玉4	
S-32	伝十二天塚古墳	35.4700	26.2800	旧個人収蔵	うす玉5	
S-33	伝十二天塚古墳	29.1500	27.6500	旧個人収蔵	うす玉6	
SiO ₂ -II・Fe ₂ O ₃ -I (デイサイト岩系)						
S-40	日楽条里遺跡	63.0000	12.0200	99併1-7	素材剥片。白ベースに黒い陥。	
S-41	日楽条里遺跡	64.4600	11.0400	99併1-8	素材剥片。白ベースに黒い陥。	
S-42	日楽条里遺跡	60.8000	8.1810	99併2-1	素材剥片。淡緑色ベース。黒い陥。	
S-43	日楽条里遺跡	59.6700	9.4550	99併2-2	素材剥片。淡緑色ベース。黒い陥。	
S-45	日楽条里遺跡	59.0600	9.4760	99併4	素材剥片。青色。ほぼ均質。鉱物粒の抜け?	
S-46	日楽条里遺跡	55.8600	9.6450	99併5	素材剥片。白ベース。黒い陥。	
S-47	日楽条里遺跡	59.9800	9.2700	99併7	素材剥片。白ベース。黒い陥。	
S-48	日楽条里遺跡	59.0200	8.0460	99併8	素材剥片。白ベース。淡緑色。	
S-55	日楽条里遺跡	62.2800	11.7100	99ビット4	未成品。白ベース。黒い陥。	
S-57	日楽条里遺跡	63.5100	11.3400	99ビット6	未成品。白ベース。黒い陥。	
S-58	日楽条里遺跡	64.0900	11.5400	99ビット7	未成品。白ベース。黒い陥。	
S-65	日楽条里遺跡	63.1700	11.2900	99ビット14	白ベース。黒陥。未成品。	
S-66	日楽条里遺跡	55.0300	9.9710	109併1	未成品。白ベース。黒い陥。	
S-67	日楽条里遺跡	61.0600	6.4560	109併2	素材剥片(石核)。白・青まだら。白ベース。	
S-68	日楽条里遺跡	54.7100	9.8990	109併3	小形剥片。見た目は白く。良質。	
S-69	日楽条里遺跡	51.5400	10.7700	109併4	小形剥片。白・青まだら。	
S-75	日楽条里遺跡	58.8200	8.2420	109併10	小形剥片。白・青まだら。青ベース。	
S-10	竹沼遺跡	58.4700	7.0950	EH-1号住	素材剥片。	第44頁P129
S-12	竹沼遺跡	64.6700	8.8300	未成品	未成品。	第47頁P2
S-13	竹沼遺跡	61.0300	12.1100	未成品	未成品。	第47頁P37
S-15	竹沼遺跡	64.7100	8.7530	未成品	未成品。	未掲載
S-16	竹沼遺跡	60.0400	11.5700	未成品	未成品。	第50頁P381
S-17	本郷花ノ木遺跡	64.8800	8.4860	B-45号住居	灰白色・黒陥。	
S-18	本郷花ノ木遺跡	65.1300	9.0290	B-45号住居	灰白色・黒陥。	
S-19	本郷花ノ木遺跡	65.4100	8.7440	B-45号住居	灰白色・黒の互層	
S-20	本郷花ノ木遺跡	63.9800	7.4270	B-100号住居	灰白色の磨面面が鉄サビで赤い。	
S-21	本郷花ノ木遺跡	60.9400	6.0730	B-100号住居	全体に鉄サビ。分析箇所?輪郭破損(光沢は無い)	
S-3	縄貫遺跡2	65.3200	8.9290	11号壑穴建物	石製模造品。完形	
S-4	縄貫遺跡3	66.5600	7.5310	64号壑穴建物	白玉。完形	
S-5	縄貫遺跡4	65.1900	7.4990	64号壑穴建物	石製模造品	
S-6	縄貫遺跡5	63.2700	10.5800	9号壑穴建物	白玉。完形	
S-7	縄貫遺跡6	63.5400	8.4530	11号壑穴建物	白玉。完形	
SiO ₂ -II・Fe ₂ O ₃ -2 (デイサイト岩系)						
S-49	日楽条里遺跡	59.8400	14.3000	99併11-1	小形剥片。淡緑色ベース。黒陥。	
S-50	日楽条里遺跡	60.3800	13.4900	99併11-2	小形剥片。淡緑色ベース。黒陥。	
S-51	日楽条里遺跡	61.7600	13.1300	99併11-3	小形剥片。白ベース。黒陥。	
S-52	日楽条里遺跡	60.9500	12.8800	99ビット1	小形剥片。白ベース。黒陥。	
S-53	日楽条里遺跡	60.0700	13.0200	99ビット2	小形剥片。白ベース。黒陥。	
S-54	日楽条里遺跡	58.8800	14.0800	99ビット3	小形剥片。白ベース。黒陥。	
S-56	日楽条里遺跡	61.5300	12.4300	99ビット5	小形剥片。赤褐色。	
S-59	日楽条里遺跡	62.7100	12.5200	99ビット8	未成品。白ベース。黒陥。	
S-60	日楽条里遺跡	61.4100	12.3600	99ビット9	小形剥片。白ベース。黒陥。	
S-61	日楽条里遺跡	60.4000	13.0300	99ビット10	小形剥片。白ベース。黒陥。	
S-62	日楽条里遺跡	59.9800	15.0000	99ビット11	小形剥片。白ベース。黒陥。	
S-63	日楽条里遺跡	62.6000	12.7600	99ビット12	未成品。白ベース。黒陥。	
S-64	日楽条里遺跡	62.4600	12.8500	99ビット13	小形剥片。白ベース。黒陥。	
S-70	日楽条里遺跡	46.7700	21.2300	109併D-5	小形剥片。白・青まだら。青ベース。	
S-71	日楽条里遺跡	45.6400	16.0900	109併D-6	小形剥片。白・青まだら。青ベース。	
S-72	日楽条里遺跡	56.2900	15.2900	109併D-7	小形剥片。白・青まだら。青ベース。	
S-73	日楽条里遺跡	60.2400	13.2000	109併D-8	小形剥片。白・青まだら。青ベース。	
S-74	日楽条里遺跡	45.8500	14.5400	109併D-9	未成品。青灰色。タルク?霞の白陥が特徴的。	
S-14	竹沼遺跡	49.0100	20.9300	EH-1号住	未成品。黒ベース(磨面面に石葉?)	
SiO ₂ -II・MgO-小(デイサイト岩系)						
S-8	縄貫遺跡7	60.6500	11.2900	11号壑穴建物	白玉。完形	
SiO ₂ -I・MgO-小(緑色岩系)						
S-76	日楽条里遺跡	41.5500	10.6200	109併D-11	小形剥片。黒色で光沢を帯びる。黒色片岩に近い?	
表面にFe ₂ O ₃ が付着・分類不能						
S-22	伝十二天塚古墳	18.3100	67.6300	旧個人収蔵	刀子形石製品。青と黒の斑模様。	

第2図 群馬県 大奈良・秋畑周辺地質図



(国土地理院シームレス地質図)

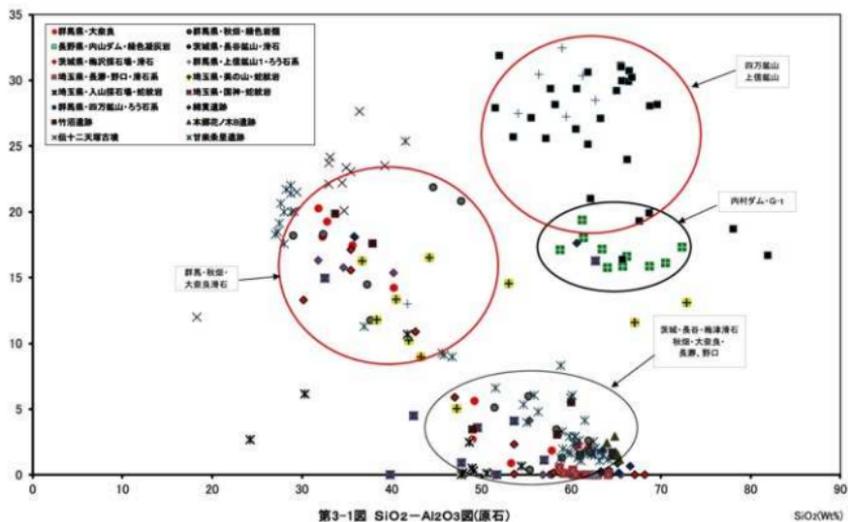
みかぶたい 御荷鉢帯 Mikabu belt 関東山地御荷鉢山(1,286m)周辺をはじめ、西南日本の三波川変成帯と秩父帯との境界付近に分布する低変成度の苦鉄質岩類。関東山地から四国西端の八幡浜まで断続的な分布を示す。これらの苦鉄質岩は蛇紋岩化されたかんらん岩・輝岩・角閃岩などの超苦鉄質岩、斑れい岩・ドレライト岩脈・枕状溶岩・ハイアロクラスタイトなどの苦鉄質岩に加えて、放射虫チャートと細粒泥質岩を伴う。放射虫化石の年代はジュラ紀最末期～白亜紀初期。斑れい岩や角閃岩の角閃石のK-Ar年代はさらに古い約150Maの値を示す。岩石の組合せから、これらはオフィオライトとみなされる。かつては中央海嶺起原とみなされたことがあったが、火山岩に斜長石斑晶を欠き、オーゼイト斑晶が一般的であることや、地球化学的特徴も中央海嶺玄武岩とは異なる。最近ではプリウム起原であろうという考えもある。御荷鉢緑色岩類は、南太平洋スーパープリウム起原と考えると、1.5億年前に南太平洋で形成されたのち北上し、アジア東縁に衝突付加し、白亜紀最初期に日本列島の付加体の一部になったのち、白亜紀中期ころに三波川変成作用を受け、クロス閃石・リーベック閃石・バンベリー石・アクチノ閃石・緑泥石・緑れん石・あられ石・アルバイトなどのらん閃岩作用の変成鉱物を生じたことになる。 [丸山 茂徳]

(平凡社・新版地学辞典)

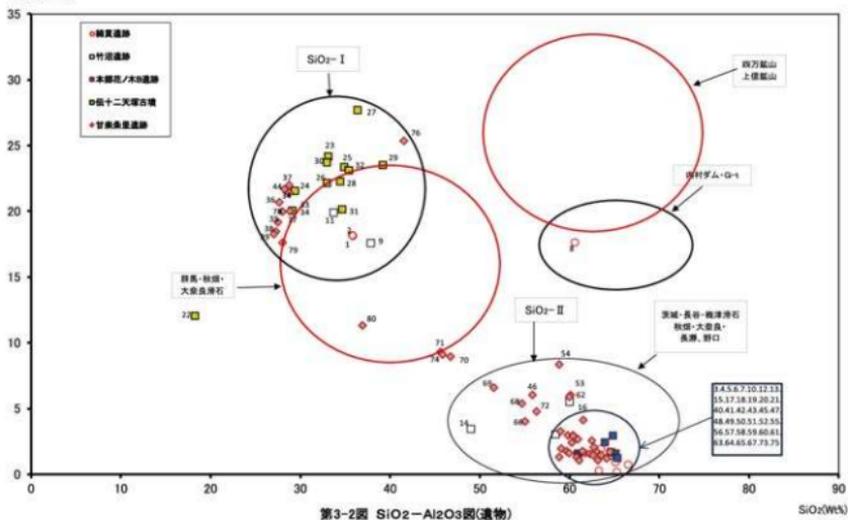
みかぶりよくしよくがんるい 御荷鉢緑色岩類

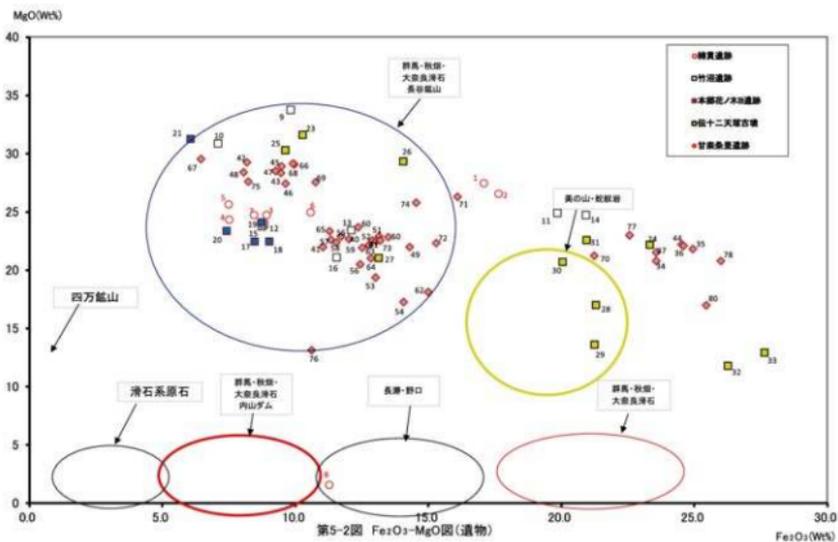
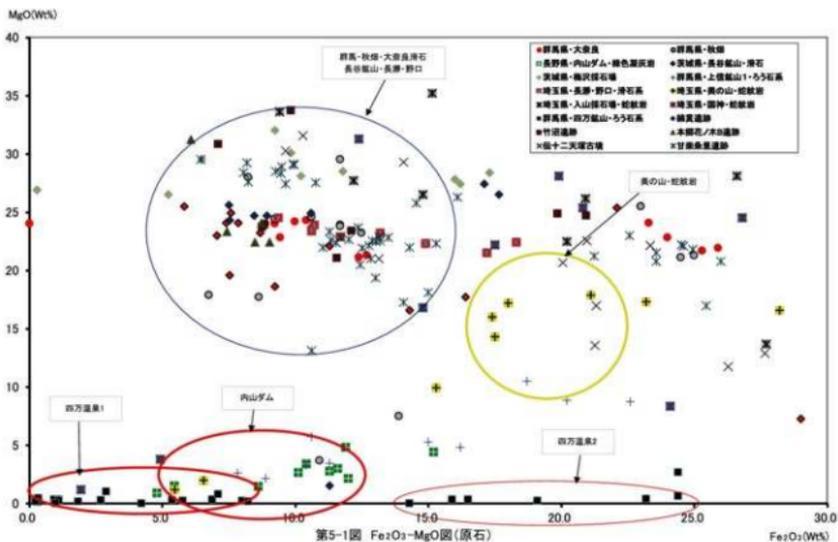
Mikabu greenstones 西南日本外帯の三波川変成帯と秩父帯北帯との境界に帯状に分布する、低変成度の苦鉄質および超苦鉄質岩類。苦鉄質岩の原岩は、斑れい岩・ドレライト・玄武岩・玄武岩質火山性砕屑岩からなり、超苦鉄質岩は蛇紋岩化されたかんらん岩・輝岩・角閃石岩からなる。火山性砕屑岩には、少量のチャートが伴われることが多い。一般に火成岩類は塊状で、片状化しているものは少ない。玄武岩質岩は、化学組成に基づいて、ソレライト質・アルカリ岩質・ピクライト質に分けられる。最近、御荷鉢緑色岩類は、ジュラ紀後期～白亜紀前期の海底火山活動の産物であると考えられている。 [藤原 正幸・岩崎 正夫]

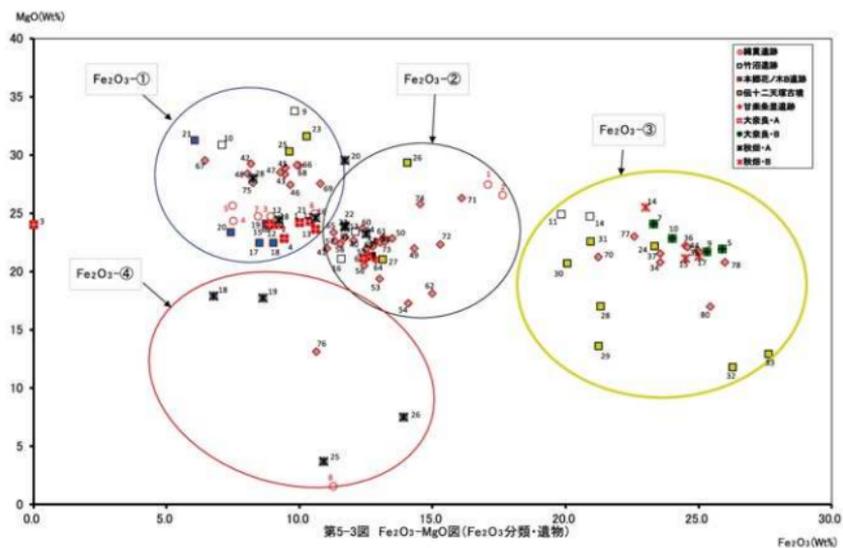
Al₂O₃(Wt%)



Al₂O₃(Wt%)







写真図版



1 道跡周辺の現況(国土地理院航空写真CKT20203.C3-18を使用)



2 道跡遠景(南から)



3 道跡周辺の景観1(倉賀野方面を望む)



4 道跡周辺の景観2(藤岡方面を望む)



5 道跡周辺の景観3(手前:粕川、奥:綿貫千葉西道跡)



1 昭和30年代の遺跡周辺 1 (国土地理院航空写真を使用)



2 昭和30年代の遺跡周辺 2 (国土地理院航空写真を使用)



1 綿貫堤西遺跡遠景(北から)



2 R2-1区北側調査区全景(南から)



3 R2-1区跡先痕の確認状態(東から)



4 R2-1区北側調査区全景(北から)



5 R2-1区跡先痕全景(東から)



1 R2-1区跡先痕近景



2 R2-1区基本土層(No1地点)



3 R1-13区南側調査区全景1(南から)



4 R1-13区南側調査区全景2(8号溝以南)



5 R1-13区基本土層(No2地点)



1 R1-13区1号溝全景



2 R1-13区同土層堆積



3 R1-13区2号溝全景



4 R1-13区2・5号溝全景



5 R1-13区4号溝全景



6 R1-13区7号溝土層堆積



7 R1-13区8号溝全景



8 R1-13区同土層堆積



1 R1-13区1号井戸全景



2 R1-13区地下式土坑全景(南から)



3 R1-13区地下式土坑全景(北から)



4 R1-13区同土厠堆積



5 R1-13区8号土坑全景



6 R1-13区13号土坑全景



7 R1-13区1号土坑全景



8 R1-13区3号土坑全景



1 R2-2区調査区全景(北から)



2 R2-2区黒色粘質土上面の跡先痕1(北から)



3 R2-2区黒色粘質土上面の跡先痕2(南から)



4 R2-2区浅間B軽石層以下の土層堆積



1 R2-3区調査区全景(北から)



2 R3-5区北調査区全景(南から)



3 R3-5区南調査区全景 1



4 R3-5区南調査区全景 2



5 R2-3区基本土層(No4地点)



6 R3-5区基本土層(No6地点)



1 R2-3区25号竪穴建物全景



2 R2-3区同炉の検出状況



3 R2-3区同遺物出土状況 1



4 R2-3区同遺物出土状況 2



5 R2-3区同遺物出土状況 3



6 R2-3区同遺物出土状況 4



7 R2-3区同遺物出土状況 5



8 R2-3区同調査状況



1 R3-5区8号竪穴建物全景



2 R3-5区同穴の検出状態



3 R3-5区同遺物出土状態



4 R3-5区同竪穴内1号土坑全景



5 R2-3区44号土坑全景・遺物出土状態



6 R2-3区59号土坑全景・遺物出土状態



7 R2-3区52号土坑全景



8 R2-3区同遺物出土状態



1 R2-3区1号竪穴建物全景(西から)



2 R2-3区同掘り方全景



3 R2-3区2号竪穴建物全景(西から)



4 R2-3区同掘り方全景



5 R2-3区3号竪穴建物全景・遺物出土状況(西から)



6 R2-3区同遺物出土状況(北から)



7 R2-3区同カマド全景



8 R2-3区同掘り方全景



1 R2-3区4号竪穴建物全景(西から)



2 R2-3区同掘り方全景



3 R2-3区カマド全景・遺物出土状態



4 R2-3区カマド土層



5 R2-3区5号竪穴建物全景



6 R2-3区同土層堆積



7 R2-3区同遺物出土状態



8 R2-3区同掘り方全景



1 R2-3区8号竪穴建物全景



2 R2-3区同カマド遺物出土状態



3 R2-3区9号竪穴建物全景



4 R2-3区同土層堆積状態



5 R2-3区同カマド土層



6 R2-3区同掘り方全景



7 R2-3区10号竪穴建物全景



8 R2-3区同掘り方全景



1 R2-3区12号竪穴建物全景



2 R2-3区同掘り方全景



3 R2-3区同貯蔵穴土層堆積状態



4 R2-3区同遺物出土状態



5 R2-3区13号竪穴建物全景・遺物の出土状態



6 R2-3区同土層堆積



7 R2-3区同カマド全景



8 R2-3区同掘り方全景



1 R2-3区14号竪穴建物全景(東から)



2 R2-3区同掘り方全景



3 R2-3区15号竪穴建物全景(西から)



4 R2-3区同土層堆積



5 R2-3区16号竪穴建物全景(西から)



6 R2-3区同掘り方全景



7 R2-3区同カマド全景



8 R2-3区同貯蔵穴土層堆積状態



1 R2-3区17号竪穴建物全景(西から)



2 R2-3区同土層堆積状態



3 R2-3区同掘り方全景



4 R2-3区同掘り方セクション



5 R2-3区18号竪穴建物全景(北から)



6 R2-3区同掘り方全景



7 R2-3区同遺物出土状態 1



8 R2-3区同遺物出土状態 2



1 R2-3区19号竪穴建物全景(西から)



2 R2-3区同掘り方全景



3 R2-3区同カマド遺物出土状態



4 R2-3区同カマド土層



5 R2-3区20号竪穴建物全景(西から)



6 R2-3区同土層堆積状態



7 R2-3区同掘り方全景



8 R2-3区同掘り方セクション



1 R2-3区21号竪穴建物全景(西から)



2 R2-3区同掘り方全景



3 R2-3区22号竪穴建物全景(西から)



4 R2-3区同掘り方全景



5 R2-3区23号竪穴建物掘り方全景(東から)



6 R2-3区同カマド全景



7 R2-3区24号竪穴建物全景(西から)



8 R2-3区同掘り方全景



1 R2-3区26号竪穴建物全景(西から)



2 R2-3区同掘り方全景(南から)



3 R2-3区27号竪穴建物全景(西から)



4 R2-3区同掘り方全景



5 R2-3区28号竪穴建物、掘り方全景(西から)



6 R2-3区同カマド土層



7 R2-3区29号竪穴建物全景(西から)



8 R2-3区同掘り方全景



1 R2-3i30号竪穴建物全景(西から)



2 R2-3i区同掘り方全景



3 R2-3i区同カマド全景



4 R2-3i区同カマド掘り方セクション



5 R2-3i31号竪穴建物全景(西から)



6 R2-3i区同遺物出土状態



7 R2-3i32号竪穴建物全景(西から)



8 R2-3i区同カマド土層



1 R2-3区33号竪穴建物全景(西から)



2 R2-3区同土層堆積状態



3 R2-3区34号竪穴建物全景(西から)



4 R2-3区同掘り方全景



5 R2-3区35号竪穴建物全景(西から)



6 R2-3区36号竪穴建物掘り方全景(東から)



7 R2-3区37号竪穴建物全景(西から)



8 R2-3区同貯蔵穴遺物出土状態



1 R2-3区38・39号竪穴建物全景(東から)



2 R2-3区同掘り方全景



3 R2-3区40号竪穴建物全景(西から)



4 R2-3区同遺物出土状態



5 R2-3区41号竪穴建物全景(西から)



6 R2-3区42・43号竪穴建物全景(西から)



7 R2-3区同土層堆積状態



8 R2-3区同遺物出土状態



1 R2-3区44号竪穴建物全景(西から)



2 R2-3区同遺物出土状態



3 R2-3区45号竪穴建物全景(カマド煙道、東から)



4 R2-3区46号竪穴建物全景(西から)



5 R2-3区47号竪穴建物全景(西から)



6 R2-3区同カマド土層



7 R2-3区49号竪穴建物全景1(西から)



8 R2-3区同竪穴建物全景2(東から)



1 R2-3区50号竪穴建物全景(西から)



2 R2-3区51号竪穴建物全景(西から)



3 R2-3区53号竪穴建物全景(西から)



4 R2-3区54号竪穴建物全景(西から)



5 R2-3区55号竪穴建物全景(西から)



6 R2-3区同遺物出土状態



7 R2-3区57号竪穴建物全景1(西から)



8 R2-3区同竪穴建物全景2(北から)



1 R3-3区58号竪穴建物全景(西から)



2 R3-3区同カマド土層



3 R3-3区60号竪穴建物全景(西から)



4 R3-3区同遺物出土状態



5 R3-3区62号竪穴建物全景(東から)



6 R3-3区同遺物出土状態



7 R3-3区63号竪穴建物全景(西から)



8 R3-3区同遺物出土状態



1 R3-3区64号竪穴建物全景(西から)



2 R3-3区同遺物出土状態



3 R3-5区9号竪穴建物全景(西から)



4 R3-5区同遺物出土状態



5 R3-5区11号竪穴建物全景(西から)



6 R3-5区同掘り方全景



7 R3-5区同カマド全景



8 R3-5区貯蔵穴遺物出土状態



1 R3-5区13号竪穴建物全景



2 R3-5区同掘り方全景1



3 R3-5区同カマド全景1



4 R3-5区同カマド全景2



5 R2-3区1号溝全景(西から)



6 R2-3区2号溝全景(東から)



7 R2-3区5号土坑全景(東から)



8 R2-3区8号土坑全景(南から)



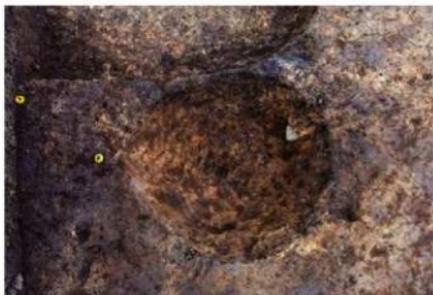
1 R2-3区10号土坑全景(南から)



2 R2-3区14号土坑全景(西から)



3 R2-3区30号土坑全景(南から)



4 R2-3区37号土坑全景(南から)



5 R2-3区39号土坑全景(西から)



6 R2-3区49号土坑全景(南から)



7 R2-3区6号土坑全景(東から)



8 R2-3区11号土坑全景(東から)



1 R2-3区12号土坑全景(南から)



2 R2-3区29号土坑全景(東から)



3 R2-3区33号土坑全景(南から)



4 R2-3区35号土坑全景(西から)



5 R2-3区22号土坑全景(東から)



6 R2-3区25号土坑全景(東から)



7 R2-3区1号土坑全景(西から)



8 R2-3区2号土坑全景(西から)



1 R2-3区3号土坑全景(南から)



2 R2-3区13号土坑全景(東から)



3 R2-3区7号土坑全景(東から)



4 R2-3区7号土坑遺物出土状態1(東から)



5 R2-3区7号土坑遺物出土状態2(東から)



6 R2-3区同土層堆積状態・壁面赤化状況



7 R2-3区調査区全景(南から)



8 R2-3区1号柱穴六列全景(南から)



1 R3-4区道跡周辺の景観1(手前:粕川)



2 R3-4区道跡全景(粕川右岸の低地部)



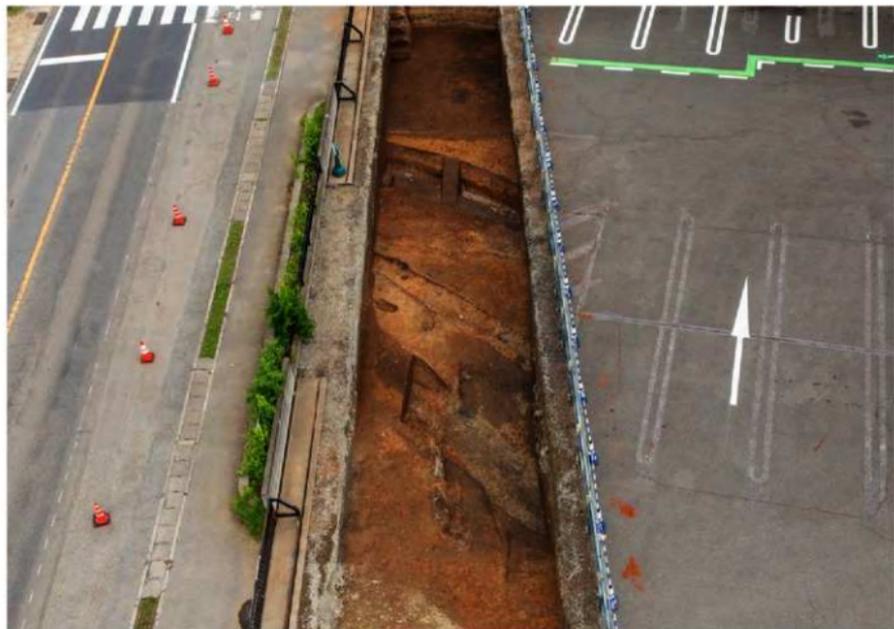
3 R3-4区道跡周辺の景観2(旧塚合集落を望む)



4 R3-4区基本土層(No.7a地点)



5 R3-4区基本土層(No.7b地点)



1 R3-4区調査区全景(奥は水田可耕地)



2 R3-4区23号溝全景(西から)



3 R3-4区22~27号溝全景(西から)



4 R3-4区22・24号溝土層堆積(西から)



5 R3-4区25・27号溝全景(西から)



1 R3-4区21号土坑全景(南から)



2 R3-4区21号土坑土層堆積



3 R3-4区溝北の水田可耕地(南から)



4 R3-4区同As-B下の水田耕土の様子1



5 R3-4区同As-B下の水田耕土の様子2



1 R2-4区調査区全景(北から)



2 R2-4区調査区全景(南から)



3 R2-4区1号竪穴状遺構全景(南から)



4 R2-4区1号竪穴状遺構遺物出土状況(西から)



5 R2-4区調査区南の溝検出状況



6 R2-4区11号溝全景(西から)



7 R2-4区12号溝全景(西から)



8 R2-4区同土層堆積



1 R2-4区13号溝全景(南から)



2 R2-4区同土層堆積



3 R2-4区14号溝全景(北から)



4 R2-4区同全景(南から)



5 R2-4区同土層堆積



6 R2-4区16号溝全景(東から)



7 R2-4区同土層堆積(東から)



1 R1-47-3遺跡 遺跡遠景1(北から)



2 R1-47-3遺跡 遺跡遠景2(北西から)



3 R1-47-3遺跡 遺跡周辺の景観3(岩鼻村4号墳方面を望む)



4 R1-47-3遺跡 遺跡周辺の景観4(岩鼻陣屋を望む)



5 R1-47-3遺跡 遺跡全景(県道東部分)



1 R1-47-3遺跡 調査区全景1 (南側部分)



2 R1-47-3遺跡 調査区全景2 (南側部分)



3 R1-47-3遺跡 調査区全景3 (南側部分)



4 R1-47-3遺跡 調査区全景4 (南側部分)



5 R2-4I区1号竪穴建物全景(西から)



6 R2-4I区同遺物出土状態



7 R1-47-1遺跡1号竪穴建物全景(東から)



8 R1-47-1遺跡2号竪穴建物全景(西から)



1 R1-47-1遺跡2号竪穴建物(歩の断ち割り)調査状況



2 R1-47-1遺跡同掘り方全景(西から)



3 R1-47-3遺跡1号竪穴建物全景(東から)



4 R1-47-3遺跡同掘り方全景



5 R1-47-3遺跡2号竪穴建物全景(西から)



6 R1-47-3遺跡同遺物出土状態



7 R1-47-3遺跡同全景(東から)



8 R1-47-3遺跡同掘り方全景(西から)



1 R1-47-3遺跡4号竪穴建物全景(東から)



2 R1-47-3遺跡同カマド全景



3 R1-47-3遺跡5号竪穴建物全景(南から)



4 R1-47-3遺跡同掘り方全景



5 R1-47-3遺跡6号竪穴建物全景(西から)



6 R1-47-3遺跡同掘り方全景



7 R1-47-3遺跡7号竪穴建物全景(西から)



8 R1-47-3遺跡同掘り方全景



1 R1-47-3遺跡7号竪穴建物(北)の断ち割り調査状況



2 R1-47-3遺跡同遺物出土状況



3 R2-4区9号溝全景(北から)



4 R2-4区同全景(南から)



5 R2-4区同土層堆積



6 R2-4区5号溝全景(北から)



7 R2-4区同土層堆積



1 R2-4区6号溝全景(西から)



2 R2-4区同全景(南から)



3 R2-4区1号溝全景(西から)



4 R2-4区同土層堆積



5 R2-4区4号溝全景(西から)



6 R2-4区同土層堆積



7 R1-47-1遺跡5号溝全景(北西から)



8 R1-47-1遺跡同遺物出土状態



1 R1-47-1遺跡6号溝全景(西から)



2 R1-47-1遺跡4号溝全景(東から)



3 R1-47-3遺跡3号溝全景(南から)



4 R1-47-3遺跡1号溝全景(南から)



5 R1-47-3遺跡2号溝全景(北西から)



6 R1-47-3遺跡同土層堆積



7 R1-47-3遺跡5号溝全景(北から)



8 R1-47-3遺跡同土層堆積



1 R1-47-3遺跡14号溝全景(西から)



2 R1-47-3遺跡同全景(南から)



3 R1-47-3遺跡同遺物出土状態 1



4 R1-47-3遺跡同遺物出土状態 2



5 R1-47-1遺跡2号溝全景(西から)



6 R1-47-1遺跡同遺物出土状態



7 R1-47-1遺跡4号溝全景(北から)



8 R1-47-1遺跡同土層堆積



1 R2-4K7・8号溝全景(北から)



2 R1-47-1遺跡1号溝全景(南西から)



3 R1-47-1遺跡3号溝全景(西から)



4 R1-47-3遺跡8号溝全景



5 R1-47-3遺跡9・10号溝全景(西から)



6 R1-47-3遺跡12・13号溝全景(東から)



7 R1-47-3遺跡13号溝土層堆積



1 R1-47-3遺跡11号溝全景(北から)



2 R1-47-3遺跡同溝全景(南から)



3 R1-47-3遺跡同土層堆積



4 R1-47-3遺跡同木杭の出土状態 1



5 R1-47-3遺跡同木杭の出土状態 2



6 R1-47-3遺跡同木杭の出土状態 3



7 R1-47-3遺跡1号井戸全景(南から)



8 R1-47-3遺跡同土層堆積



1 R2-4区1号土坑全景(東から)



2 R2-4区同厚板出土状況



3 R2-4区2号土坑全景(南から)



4 R2-4区7号土坑全景(南から)



5 R1-47-1遺跡4号土坑全景(西から)



6 R1-47-1遺跡5号溝全景(西から)



7 R1-47-3遺跡1号土坑全景(西から)



8 R1-47-3遺跡11号落ち込み全景



1 R3-6区道跡周辺の景観(岩鼻天神道跡方面)



2 R3-6区調査区全景(東から)



3 R3-6区17号溝全景(東から)



4 R3-6区同遺物出土状態1(東から)



1 R3-6区17号溝遺物出土状態 2 (東から)



2 R3-6区同溝の調査状況



3 R3-6区同遺物出土状態 3 (南から)



4 R3-6区同遺物出土状態 4 (東から)



5 R3-6区18号溝全景 (北から)



6 R3-6区同遺物出土状態 1



7 R3-6区同遺物出土状態 2



1 R3-6区15号溝全景(東から)



2 R3-6区同土層堆積



3 R3-6区同遺物出土状態1(西から)



4 R3-6区同遺物出土状態2(西から)



5 R3-6区16号溝全景(東から)



6 R3-6区同土層堆積



7 R3-6区19号溝全景(東から)



8 R3-6区同土層堆積



1 R3-6区10・11号土坑全景(北から)



2 R3-6区12号土坑全景(東から)



3 R3-6区15号土坑全景(東から)



4 R3-6区16号土坑全景(西から)



5 R3-6区17号土坑全景(東から)



6 R3-6区19号土坑全景(北から)



7 R3-6区22号土坑全景(東から)



8 R3-6区同土層堆積



1 R2-5区南侧調査区全景(北から)



2 R2-5区4号溝全景(西から)



3 R2-5区1号溝全景1(南から)



4 R2-5区同全景2



5 R2-5区5号土坑全景(西から)



6 R2-5区2号土坑全景(南から)



7 R2-5区北侧調査区全景(南から)



8 R2-5区1号石組全景(東から)



1 總貫堤西遺跡西壁、斜め互層堆積 1



2 總貫堤西遺跡東壁、斜め互層堆積 2



3 岩鼻天神遺跡(R1-47-1遺跡1溝)、斜め互層堆積 3



4 岩鼻塚合遺跡東壁(R3-4区21~28溝)、斜め互層堆積 4



5 岩鼻天神遺跡東壁(R1-47-1遺跡11溝付近)、斜め互層堆積 5



6 岩鼻塚合遺跡(R3-4区25~27溝)、斜め互層堆積 6

綿貫堤西遺跡

R1-13区1号溝



R1-13区2号溝



R1-13区5号溝



R1-13区6号土坑



R1-13区13号土坑



R1-13区16号土坑



R1-13区遺構外



R1-13区20号土坑



R3-5区8号竪穴建物



R2-3区25号竪穴建物





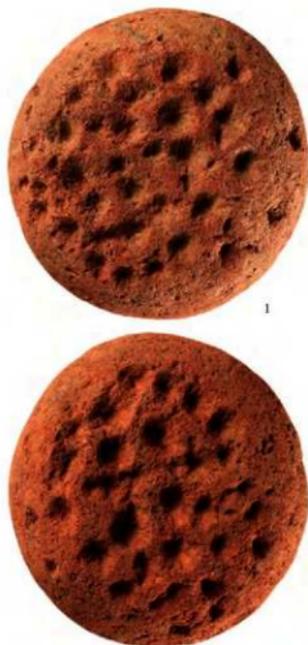




R2-3区44号土坑



R2-3区52号土坑



R2-3区59号土坑



R2-3区2号竪穴建物

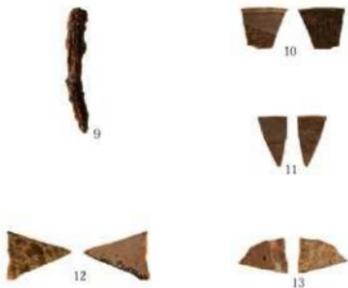


R2-3区3号竪穴建物



R2-3区4号竪穴建物

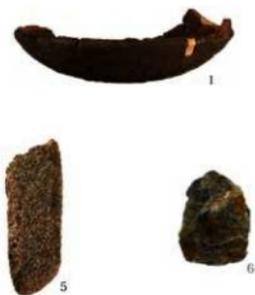




R2-3区5号竪穴建物

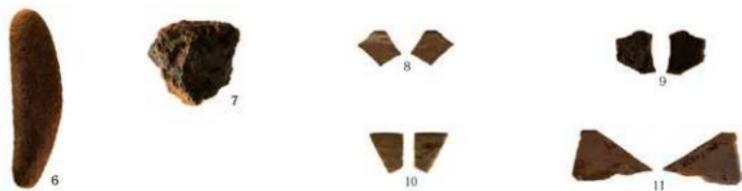


R2-3区6号竪穴建物

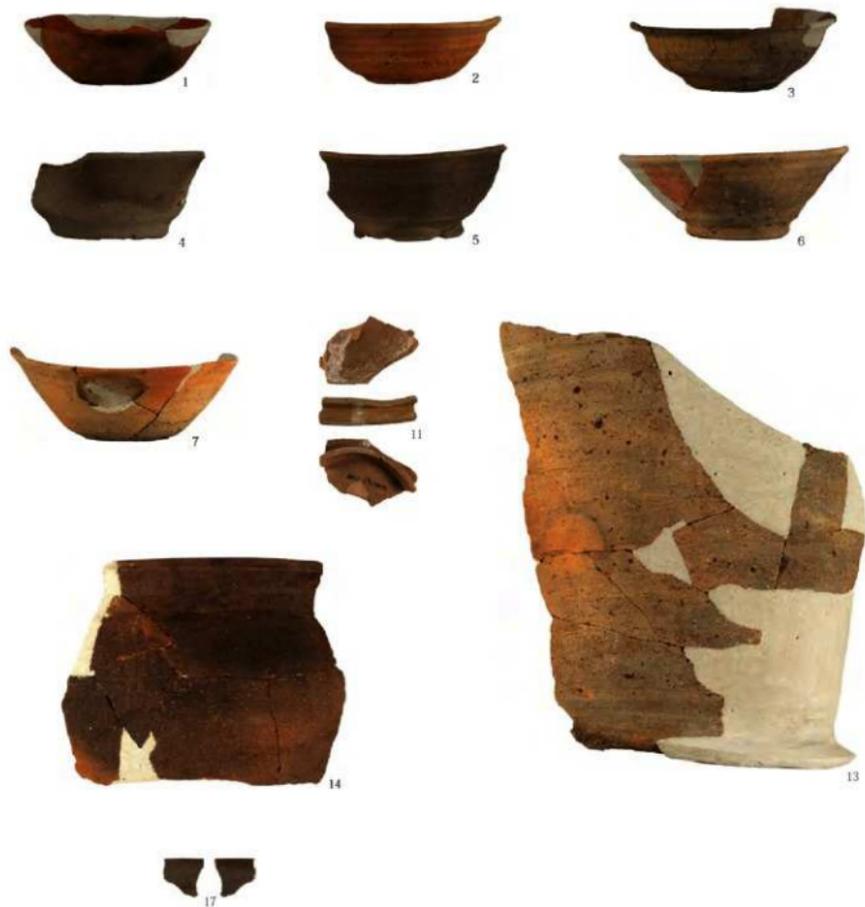


R2-3区8号竪穴建物





R2-3区9号竪穴建物



R2-3区10号竪穴建物



R2-3区11号竪穴建物





4



8



9

R2-3区12号竪穴建物



5



8



9



10



11

R2-3区13号竪穴建物



3



4



7



8



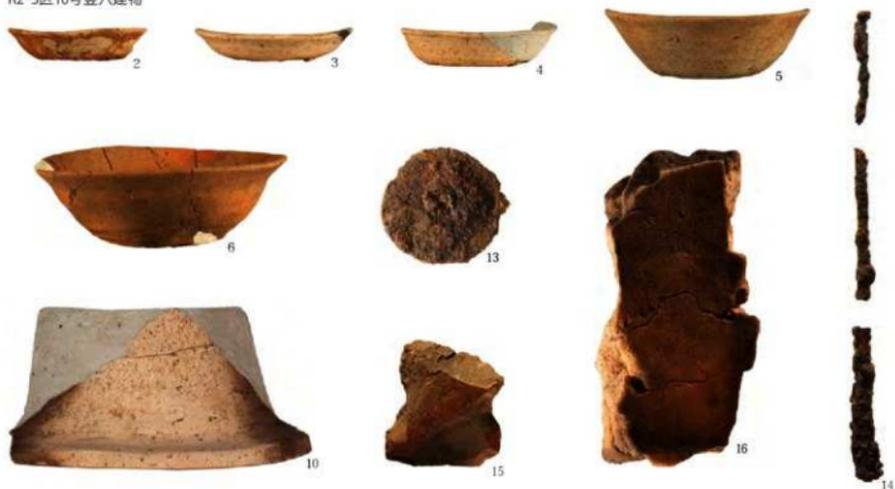
R2-3区14号竪穴建物



R2-3区15号竪穴建物



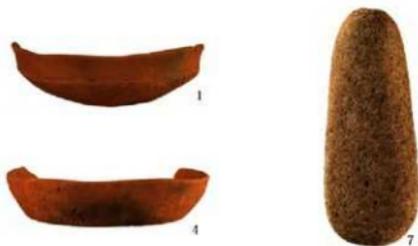
R2-3区16号竪穴建物



R2-3区17号竪穴建物



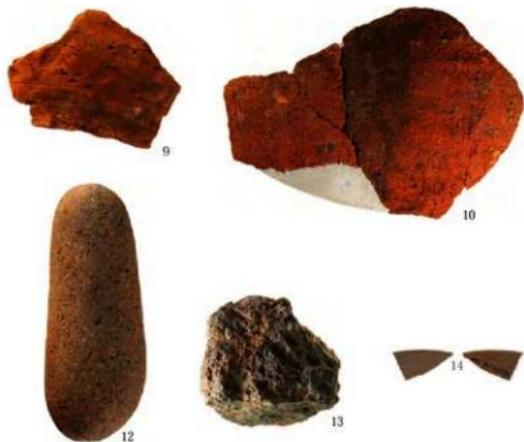
R2-3区18号竪穴建物



R2-3区19号竪穴建物



R2-3区20号竪穴建物



R2-3区21号竪穴建物



R2-3区22号竪穴建物



R2-3区23号竪穴建物



R2-3区24号竪穴建物



R2-3区27号竪穴建物



R2-3区28号竪穴建物



R2-3区30号竪穴建物



R2-3区32号竪穴建物



R2-3区33号竪穴建物



R2-3区34号竪穴建物



R2-3区38号竪穴建物



R2-3区40号竪穴建物



R2-3区43号竪穴建物





R2-3区44号竪穴建物



R2-3区47号竪穴建物





R2-3区48号竪穴建物



R2-3区49号竪穴建物



R2-3区51号竪穴建物



R2-3区52号竪穴建物



R2-3区53号竪穴建物



R2-3区55号竪穴建物



R2-3区56号竪穴建物

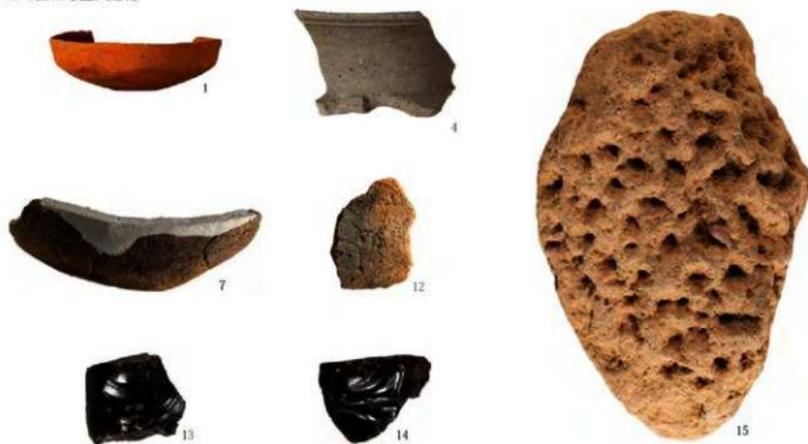


R3-3区58号竪穴建物





R3-3区62号竪穴建物



R3-3区63号竪穴建物





11



14



15



16



17



18



19



23



26



20



24



25



28



29



30



31



32

R3-3区64号竪穴建物



2



6



4



5



12



13



14



15



16

R3-3区65号竪穴建物



4

R3-5区9号竪穴建物



1



2



3



4



6



7



8



9



10



R3-5区10号竪穴建物



R3-5区11号竪穴建物



R3-5区12号竪穴建物



R3-5区13号竪穴建物



R2-3区1号溝



R2-3区2号土坑



R2-3区34号土坑



R2-3区26号土坑



R2-3区27号土坑



R2-3区40号土坑



R2-3区41号土坑





1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41







73



74



75



76



77



78



79



80



81



82



83



84



85



86



87



88



89



90



91



92



93



94



95



96



97



98



99



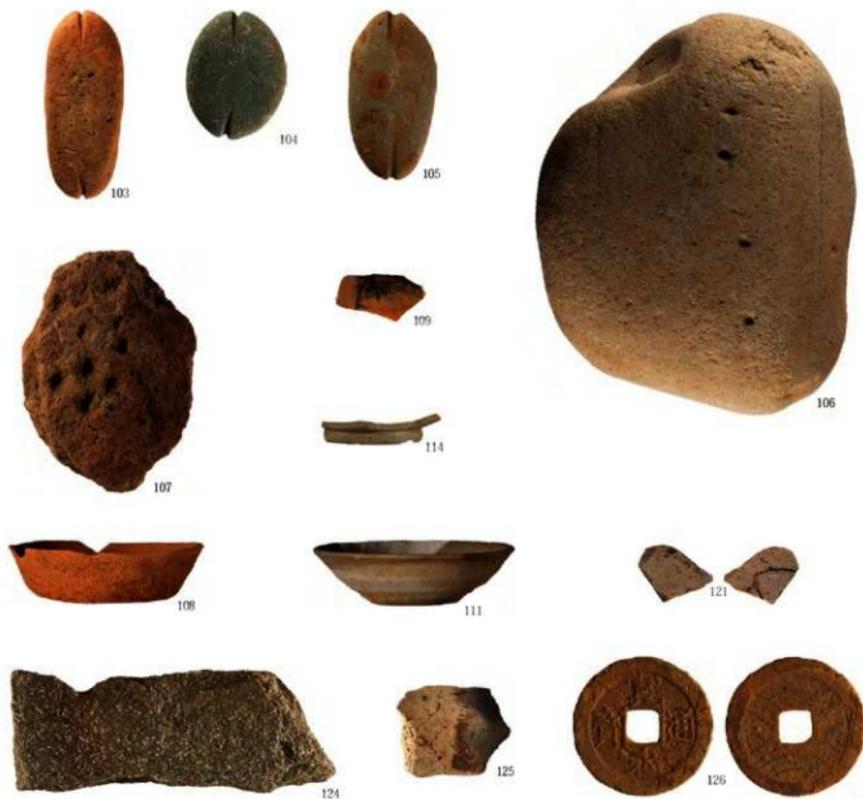
100



101



102



岩鼻塚合遺跡

R3-4区22号溝



R3-4区27号溝



岩鼻天神道跡

R2-4区1号竪穴建物



1

R1-47-3遺跡2号竪穴建物



1



2



3



6

R1-47-3遺跡3号竪穴建物



1



2



3



4



5

R1-47-3遺跡4号竪穴建物



R1-47-3遺跡7号竪穴建物



R1-47-3遺跡5号竪穴建物







R2-4区9号溝

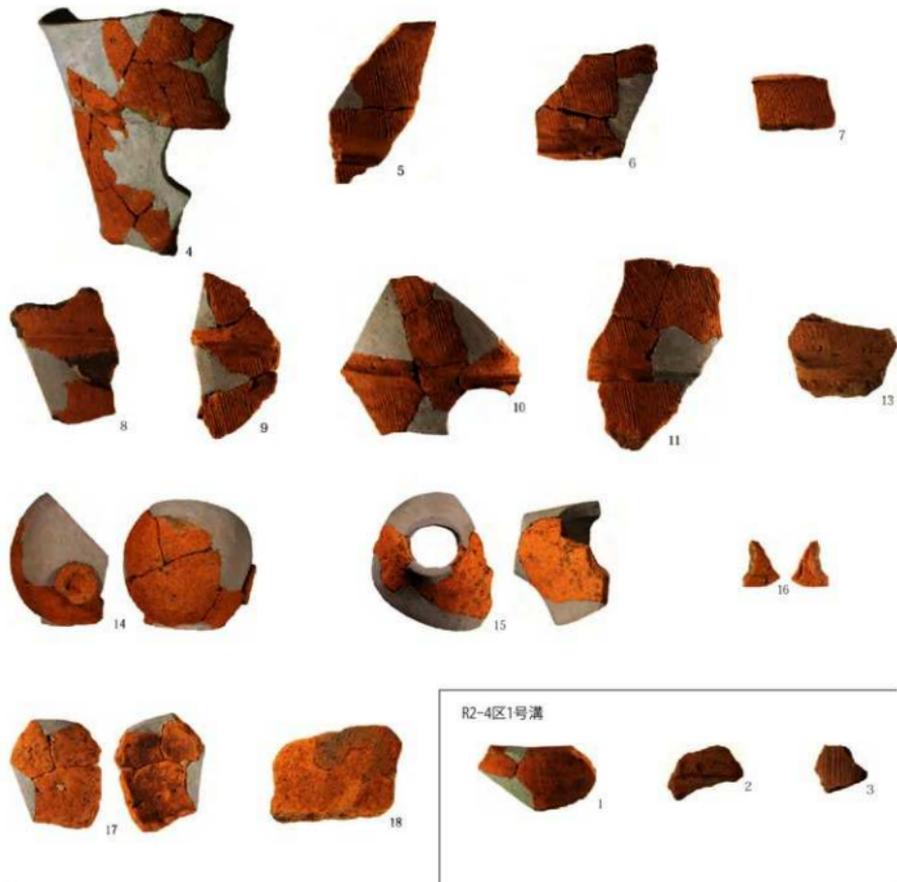


R2-4区5号溝



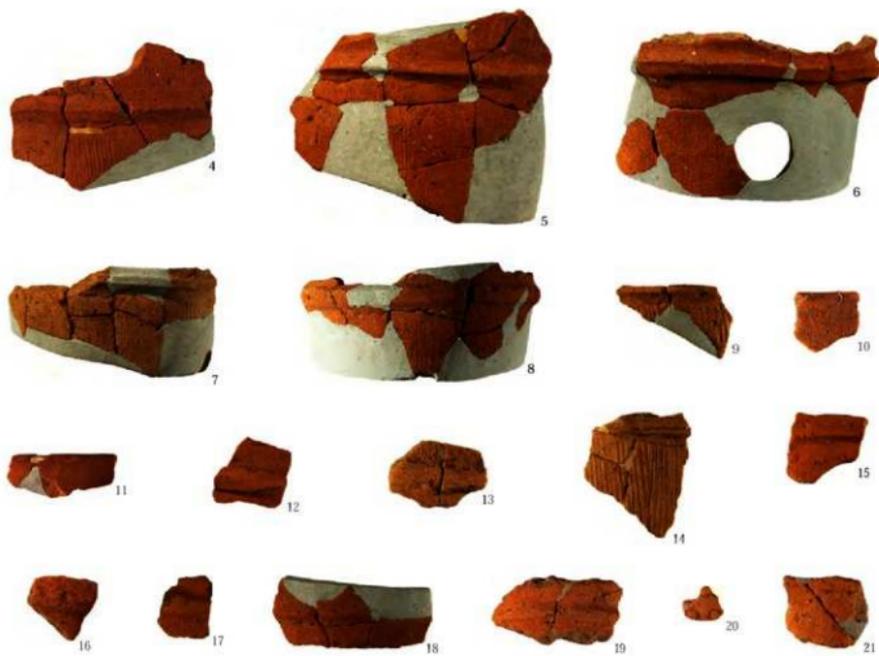
R2-4区6号溝



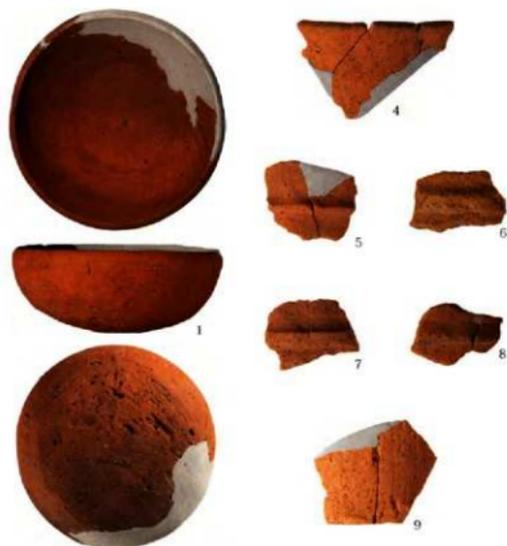


R2-4区4号溝





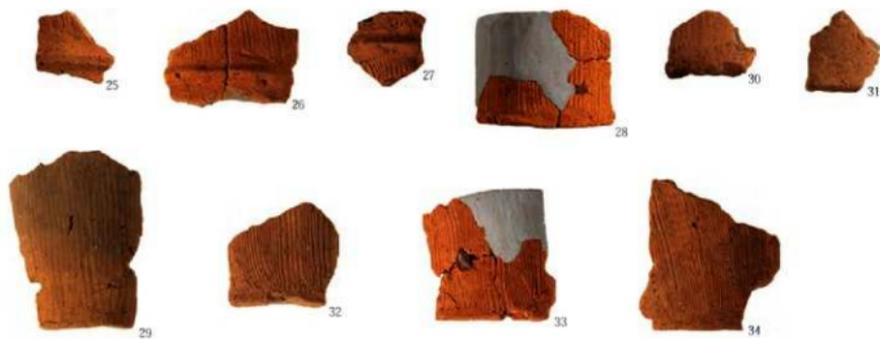
R1-47-1遺跡4号溝



R1-47-3遺跡2号溝







R1-47-3遺跡14号溝





R2-4区8号溝



R1-47-1遺跡2号溝



R2-4区2号溝



R1-47-1遺跡3号溝



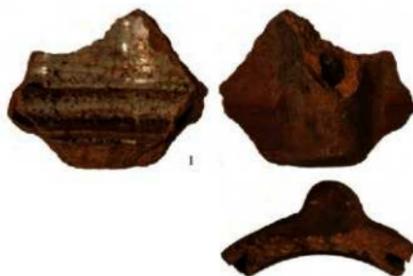
R1-47-3遺跡11号溝



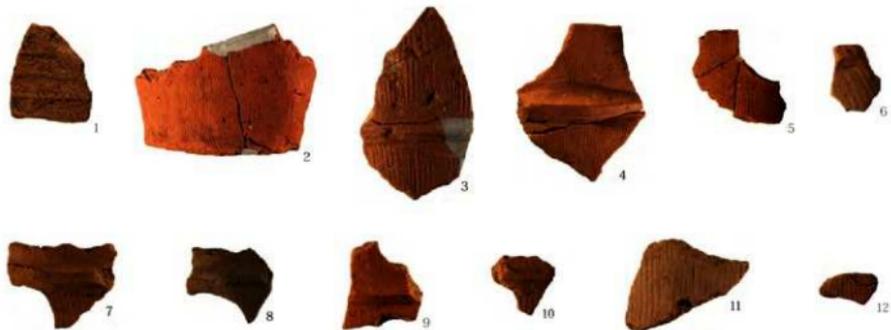




R1-47-1遺跡1号土坑



R2-4区遺構外



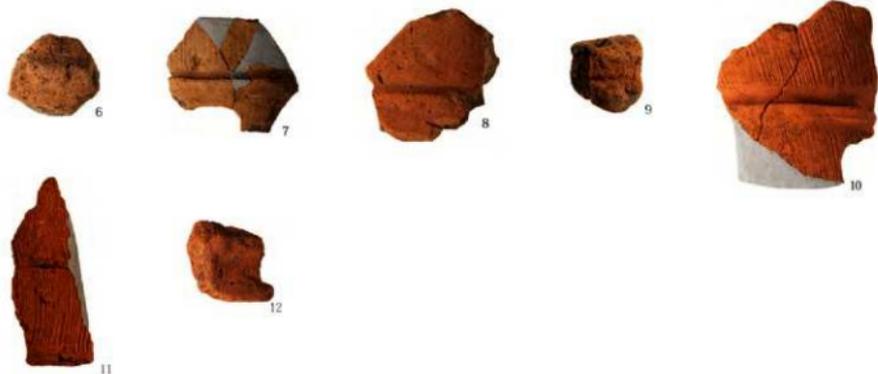
岩鼻天神遺跡

R2-4区遺構外(古墳周辺)

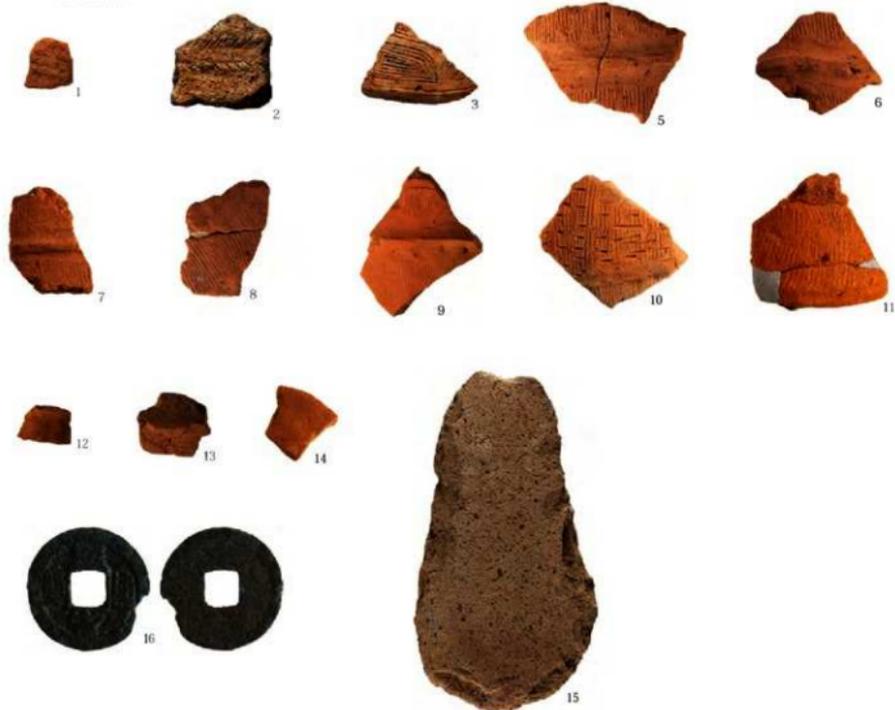


R1-47-1遺跡遺構外

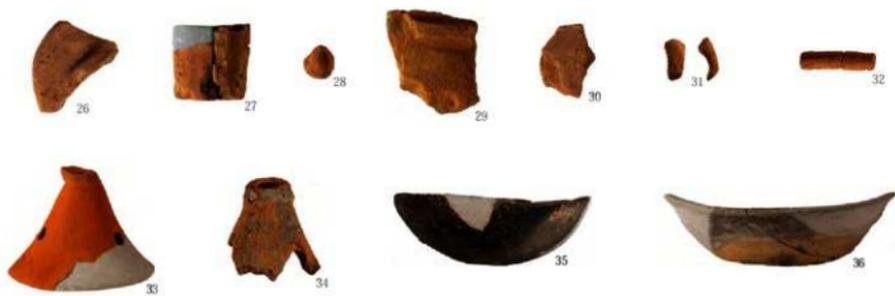




R1-47-3遺跡遺構外







R3-6区1号遺物集中





R3-6区18号溝



R3-6区15号溝

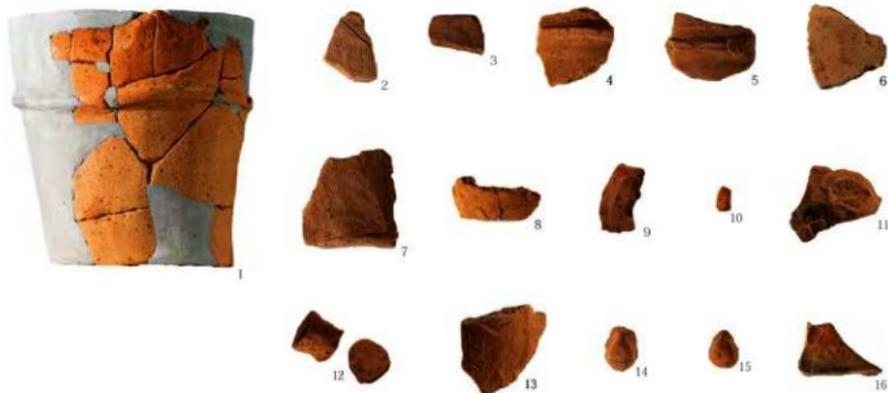




R3-6区19号溝



R3-6区20号溝

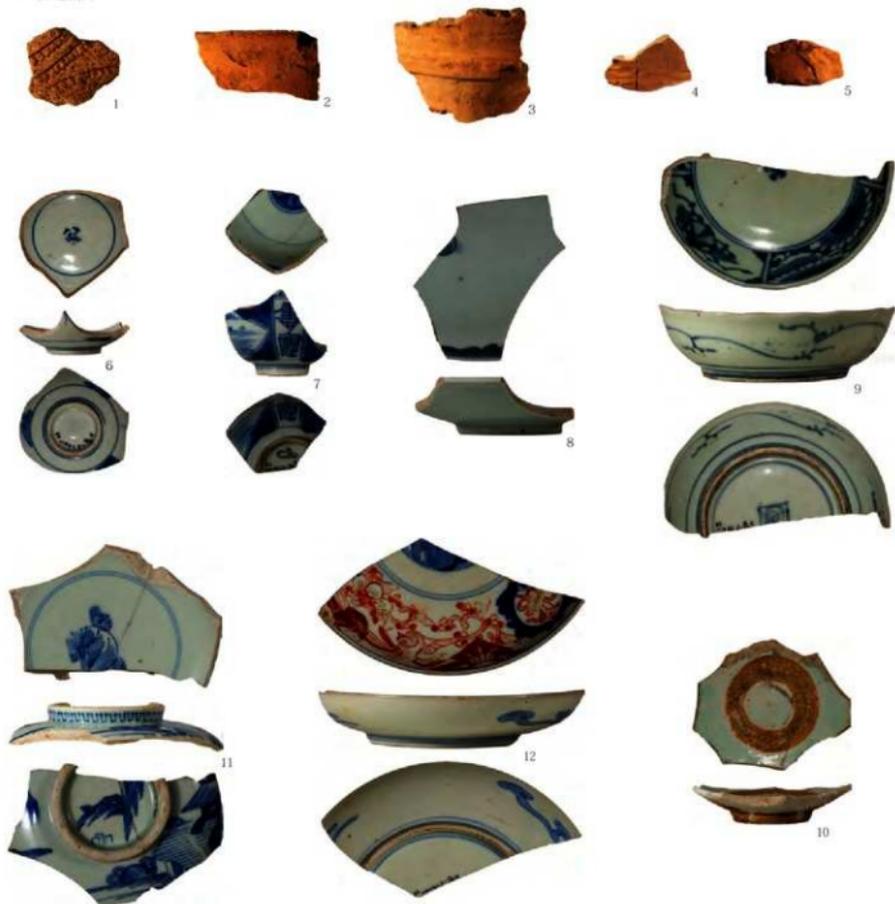




R2-5区1号溝



R2-5区遺構外





13



14



15



16



17



18



20



21



19



22



報告書抄録

書名ふりがな	わたぬきつつみにし・わたぬきつつみ・わたぬきちばにし・いわはなつかあい・いわはなえんようじ・いわはなてんじん・いわはなあかぎ・いわはなさかうえきた
書名	綿貫堤西遺跡・綿貫堤遺跡・綿貫千葉西遺跡・岩鼻塚合遺跡・岩鼻延養寺遺跡・岩鼻天神遺跡・岩鼻赤城遺跡・岩鼻坂上北遺跡
副書名	(都)3.3.7前橋長瀬線外1路線社会資本整備総合交付金(活力基盤)事業
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	737
編著者名	神谷佳明・徳江秀夫・新井仁・平方篤行・岩崎泰一
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20240220
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北碓町下箱田784-2

遺跡名ふりがな	わたぬきつつみにし
遺跡名	綿貫堤西遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしわたぬきまち
遺跡所在地	群馬県高崎市綿貫町
市町村コード	10202
遺跡番号	1462
北緯(世界測地系)	36° 18' 09"
東経(世界測地系)	139° 04' 25"
調査期間	20190401～20190531、20200701～20201031
調査面積	719.74㎡
調査原因	道路建設
種別	集落/生産
主な時代	中・近世
遺跡概要	溝8+井戸1+地下式土坑1+土坑14+柱穴+鋤先痕
特記事項	なし
要約	台地部に地下式土坑や溝などがある。台地北の低地部には、As-Bを鋤き込んだ鋤先痕がAs-B下の水田耕土相当の黒色粘質土上面で確認されている。

遺跡名ふりがな	わたぬきつつみいせき
遺跡名	綿貫堤遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしわたぬきまち
遺跡所在地	群馬県高崎市綿貫町
市町村コード	10202
遺跡番号	1463
北緯(世界測地系)	36° 18' 06"
東経(世界測地系)	139° 04' 26"
調査期間	20200701～20201031
調査面積	199.05㎡
調査原因	道路建設
種別	生産
主な時代	中世
遺跡概要	鋤先痕
特記事項	なし
要約	As-B下の水田耕土相当の黒色粘質土上面で、低地部全面に広がる鋤先痕が確認されている。

遺跡名ふりがな	わたぬきちぼにしいせき
遺跡名	綿貫千葉西遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしわたぬきまち
遺跡所在地	群馬県高崎市綿貫町
市町村コード	10202
遺跡番号	1464
北緯(世界測地系)	36° 17' 55"
東経(世界測地系)	139° 04' 30"
調査期間	20200701～20201031、20210601～20210731
調査面積	2543.21㎡
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	縄文時代、奈良平安時代、中・近世
遺跡概要	竪穴建物70+溝3+土坑52+柱穴1+柱穴
特記事項	緑釉陶器製「托」が竪穴建物覆土から出土している。
要約	縄文時代前期末葉、前期末～中期初頭、後前期末葉の竪穴建物が確認されている。古墳以後の集落は5世紀後半に出現、6世紀後半と9世紀後半にピークがある。遺跡の西側を粕川が流れており、集落西には水田が広がるものと思われる。

遺跡名ふりがな	いわはなつかあいいせき
遺跡名	岩鼻塚合遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしいわはなまち
遺跡所在地	群馬県高崎市岩鼻町
市町村コード	10202
遺跡番号	1485
北緯(世界測地系)	36° 17' 49"
東経(世界測地系)	139° 04' 32"
調査期間	20210601～20210731
調査面積	403.3㎡
調査原因	道路建設
種別	生産
主な時代	中・近世
遺跡概要	溝7+土坑1+鋤先痕
特記事項	なし
要約	溝には東西方向を向く溝と斜向する溝があり、斜向する溝が絵図に描かれた水路になる可能性が高い。東西方向の溝は畦畔脇の溝になるものであろう。

遺跡名ふりがな	いわはなえんようじいせき
遺跡名	岩鼻延養寺遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしいわはなまち
遺跡所在地	群馬県高崎市岩鼻町
市町村コード	10202
遺跡番号	1438
北緯(世界測地系)	36° 17' 50"
東経(世界測地系)	139° 04' 31"
調査期間	20200701～20211031
調査面積	693.81㎡
調査原因	道路建設
種別	集落/生産
主な時代	中・近世
遺跡概要	竪穴状遺構1+溝6+土坑3+柱穴
特記事項	なし
要約	竪穴状遺構周辺には土坑や柱穴が集中する傾向があり、南北両端に斜向する溝がある。溝は岩鼻塚合遺跡の溝に接続した可能性も否定できないが、確証は得られていない。

遺跡名ふりがな	いわはなてんじんいせき
遺跡名	岩鼻天神遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしいわはなまち
遺跡所在地	群馬県高崎市岩鼻町
市町村コード	10202
遺跡番号	1455
北緯(世界測地系)	36° 17' 45"
東経(世界測地系)	139° 04' 33"
調査期間	20190401～20190531
調査面積	2482.18㎡
調査原因	道路建設
種別	集落/墓
主な時代	古墳時代、平安時代
遺跡概要	竪穴建物10+竪穴状遺構1+古墳周堀9+溝2+溝14+井戸2+土坑14+柱穴
特記事項	なし
要約	竪穴建物の大半は4世紀代。主体部は確認されていないが、古墳周堀11を認定した。古墳周堀と同時期の直近の集落は粕川左岸にある。As-Aが覆土中に堆積する溝は木杭が打たれた古い水路で、上面は道として利用、赤城神社方面に延びている。

遺跡名ふりがな	いわはなあかぎいせき
遺跡名	岩鼻赤城遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしいわはなまち
遺跡所在地	群馬県高崎市岩鼻町
市町村コード	10202
遺跡番号	1484
北緯(世界測地系)	36° 17' 42"
東経(世界測地系)	139° 04' 33"
調査期間	20210601～20190731
調査面積	191.76㎡
調査原因	道路建設
種別	墓/生産
主な時代	古墳、中・近世
遺跡概要	古墳周堀2+溝4+土坑10+柱穴
特記事項	なし
要約	南北に長い調査区の間端で古墳周堀2を確認した。溝には埴輪片を出土するものがあるが、周堀認定は難しい。東西方向の溝は近世の区画溝とみているが、板碑片を出土するものがある。

遺跡名ふりがな	いわはなさかうえきたいせき
遺跡名	岩鼻坂上北遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしいわはなまち
遺跡所在地	群馬県高崎市岩鼻町
市町村コード	10202
遺跡番号	1465
北緯(世界測地系)	36° 17' 42"
東経(世界測地系)	139° 04' 33"
調査期間	20200701～20201031
調査面積	443.05㎡
調査原因	道路建設
種別	集落/生産
主な時代	近世
遺跡概要	溝2+土坑2+石垣2+柱穴
特記事項	なし
要約	南北方向の溝は土坑が連結したように見える。石垣を含め、陣屋東の小径に並行する可能性があり、その関連遺構となるかもしれない。土坑の形態は芋穴様に近い。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第737集

綿貫堤西遺跡・綿貫堤遺跡・
綿貫千葉西遺跡・岩鼻塚合遺跡・
岩鼻延養寺遺跡・岩鼻天神遺跡・
岩鼻赤城遺跡・岩鼻坂上北遺跡

(都)3.3.7前橋長瀬線外1路線社会資本整備総合交付金(活力基盤)事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

令和6(2024)年2月16日 印刷

令和6(2024)年2月20日 発行

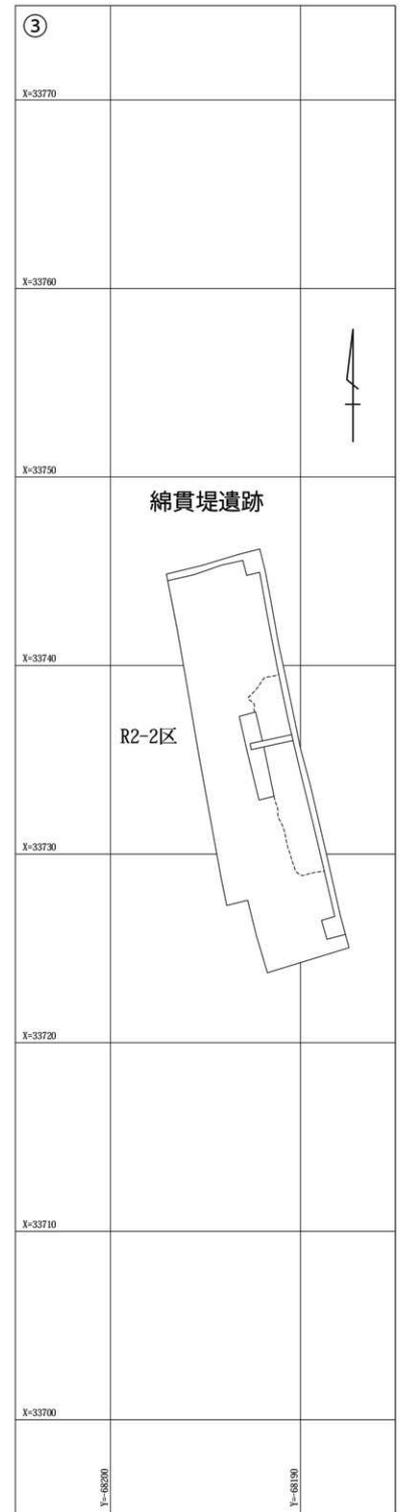
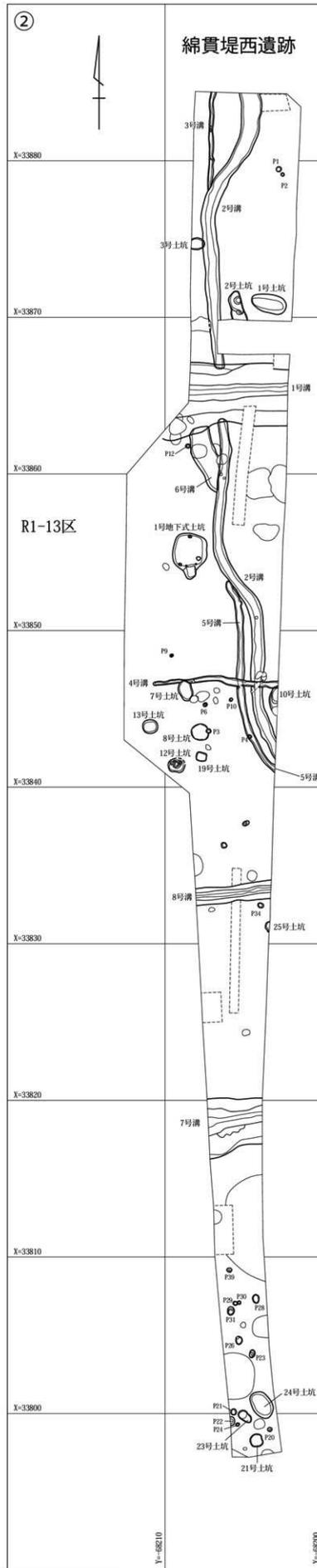
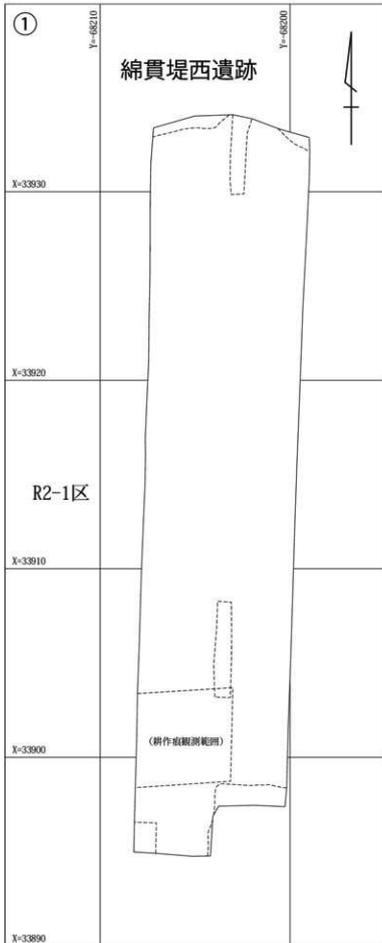
編集・発行/公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

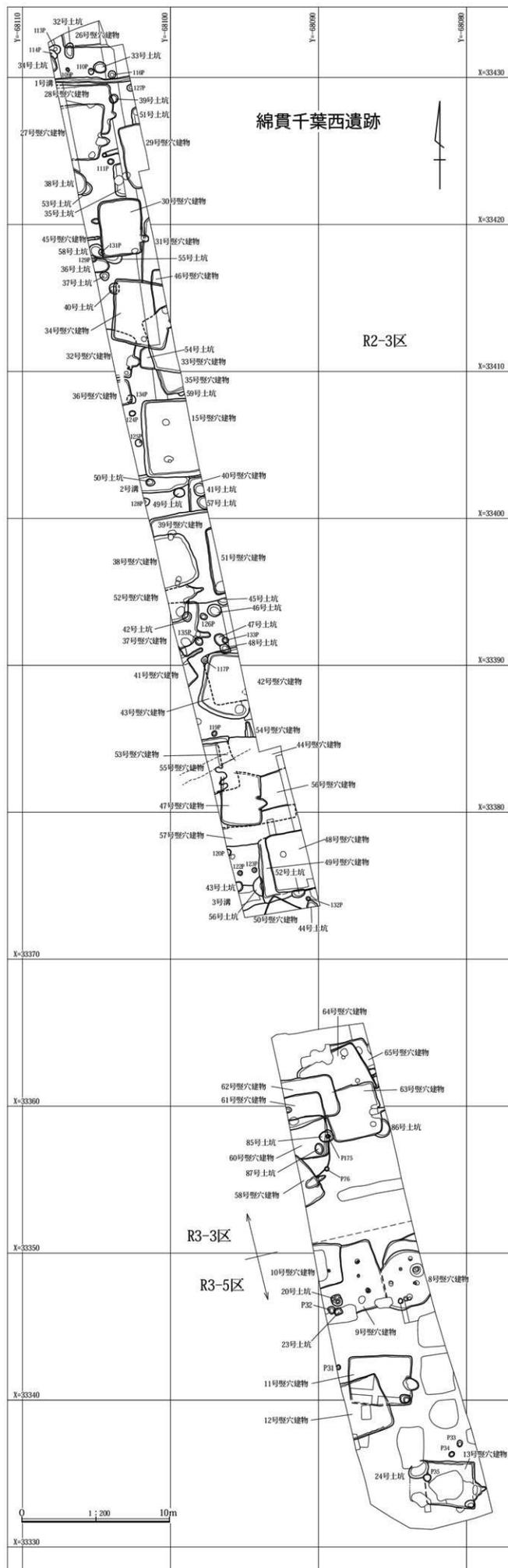
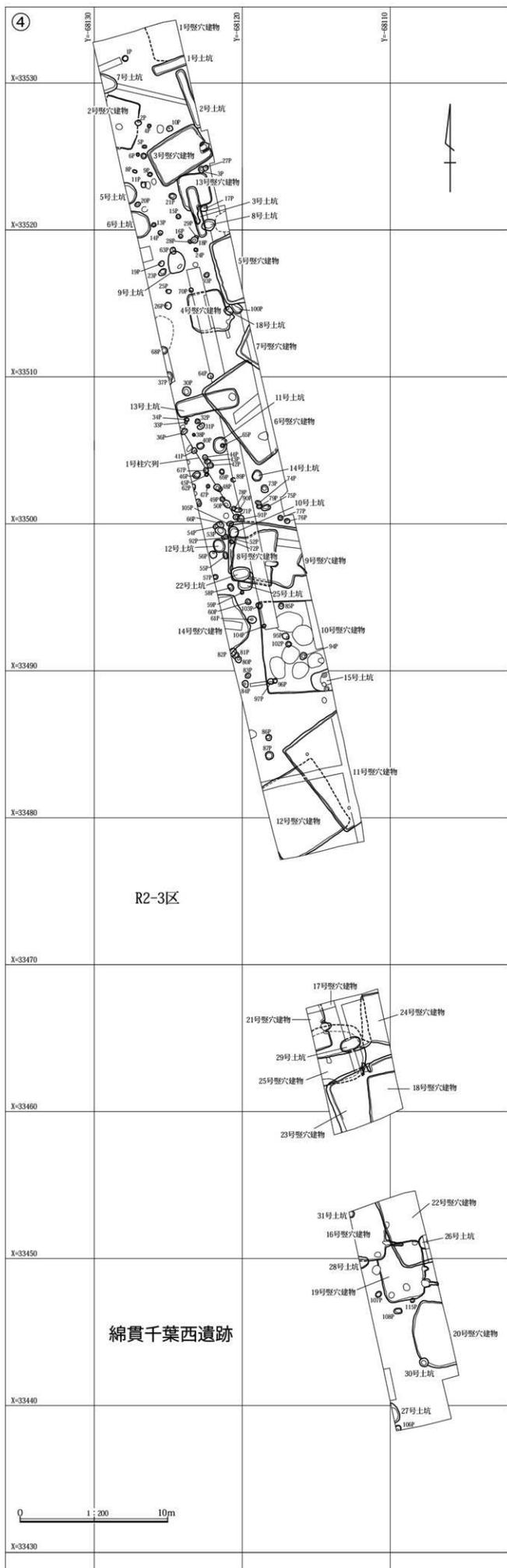
ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷/ジャーナル印刷株式会社



0 1:200 10m

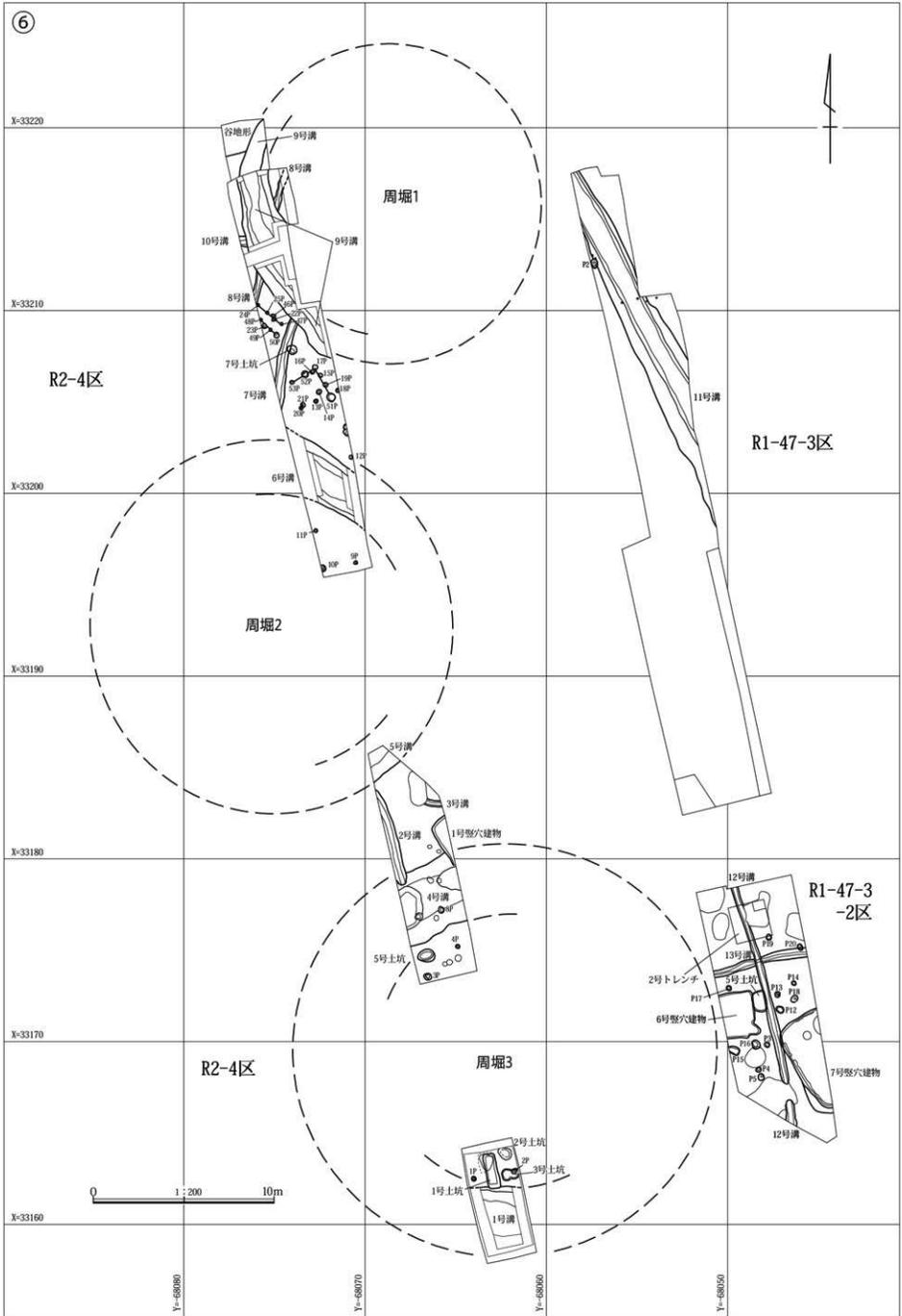
付図1 綿貫堤西遺跡・綿貫堤遺跡 全体図



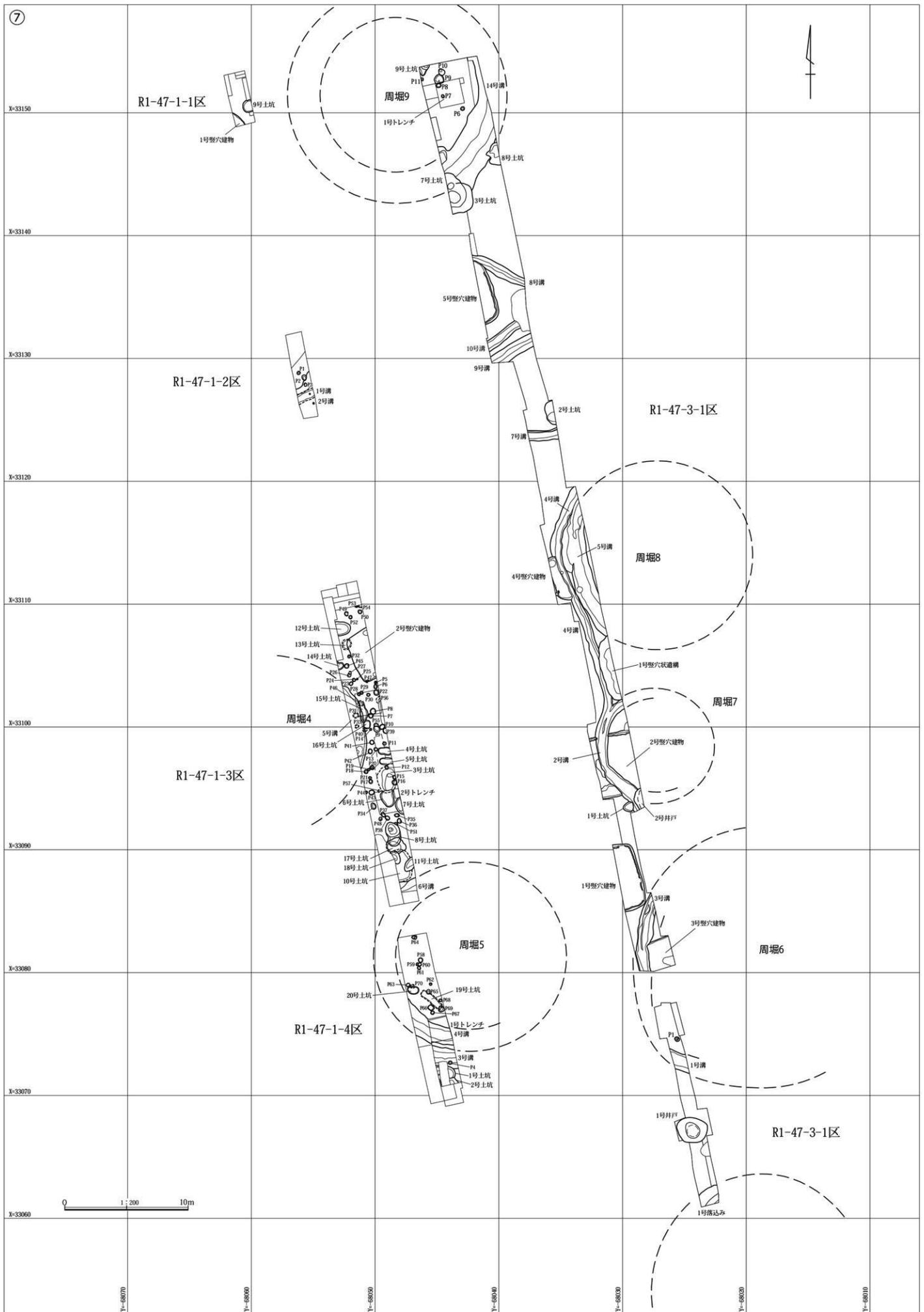
付図2 綿貫千葉西遺跡全体図



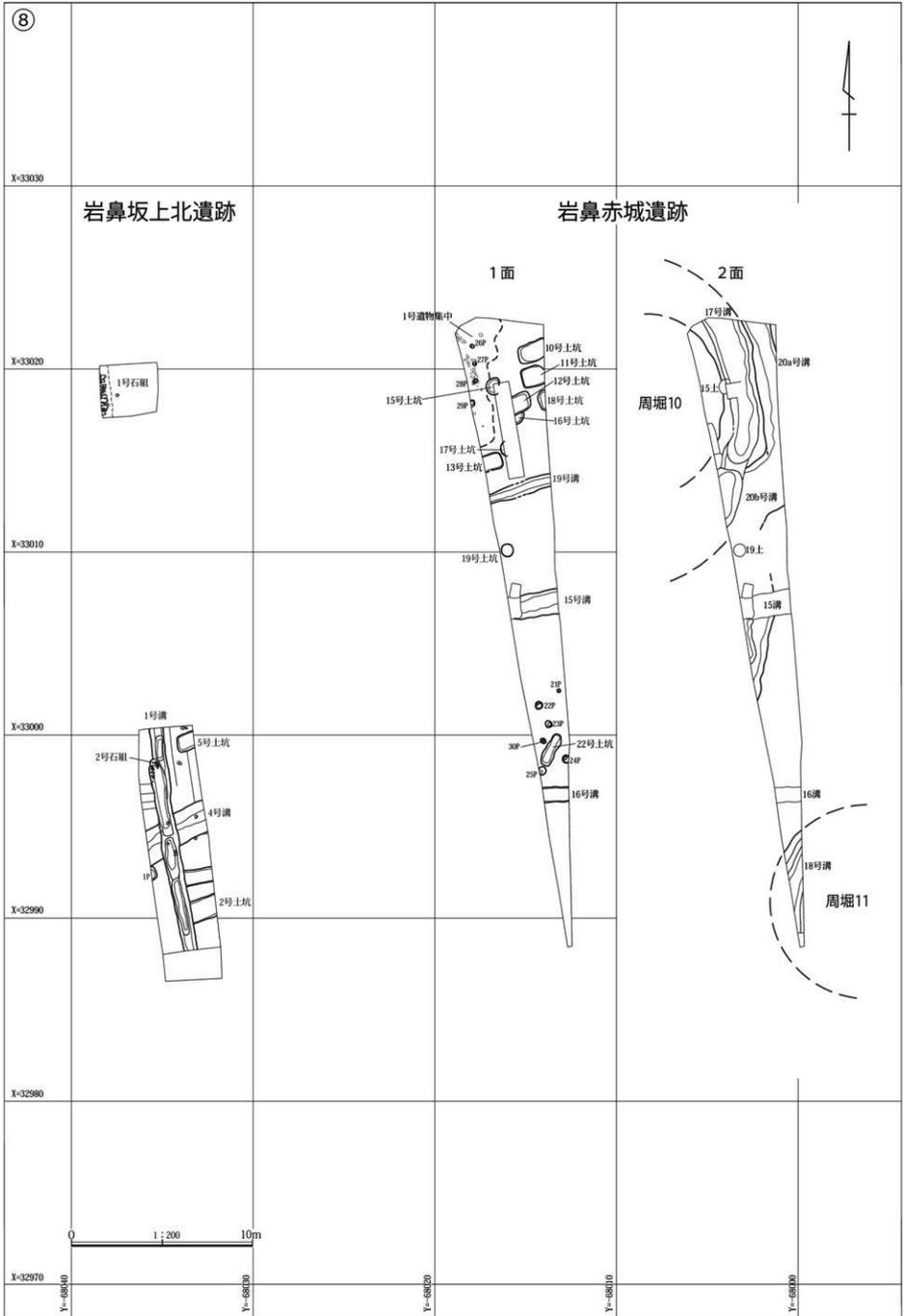
付図3 綿貫千葉西・岩鼻塚合・岩鼻延養寺遺跡全体図



付図4 岩鼻天神遺跡全体図(1)



付図5 岩鼻天神遺跡全体図(2)



付図6 岩鼻赤城・岩鼻坂上北遺跡全体図